フランス語　星の王子様

構文解析

構文解析

2013/01/10 ～

2016/01/23

フォーマット変更

2019/12/29 ～

2020/02/04

ANTOINE DE SAINT-EXUPÉRY
Le Petit Prince
Avec des aquarelles de l'auteur
nrf
GALLIMARD

Je crois qu'il profita, pour son évasion, d'une migration d'oiseaux sauvages.

ANTOINE DE SAINT-EXUPÉRY

Le Petit Prince

avec les dessins de l'auteur

nrf

GALLIMARD

参考書など

フランス語原書 Le Petit Prince 1969 年 8 月 25 日 ガリマール社 出版番号：14453

対訳　フランス語で読もう「星の王子様」

2007 年 6 月 12 日 2 版発行著者 サンテグジュペリ、小島 俊明、㈲第三書房

しっかり学ぶフランス語文法

2011 年 6 月 8 日 第 10 刷発行 著者 佐藤 康、発行 ベレ出版

「星の王子様」で学ぶ フランス語文法

2009 年 9 月 1 日第 3 刷 著者 三野 博司、株式会社大修館書店

カシオ電子辞書 EX-word XD-B7400

ロワイヤル仏和中辞典、プチ・ロワイヤル和仏辞典 第 2 版

クラウン仏和辞典 第 5 版、コンサイス和仏辞典 第 3 版

翻訳と注釈　2013/01/10 ～2014/06/05

構文解析　　2014/07/21 ～2016/01/23 ～ 2016/02/09 誤字・脱字の訂正

フォーマット変更 2019/12/29 ～ 2020/02/04

三浦 高志 Takashi Miura

文の構成要素と構文解析の書式

文法書によると、日・伊・西・仏・独・英などの言語では異なる文法用語が使用されているが、この文書では英語の文法用語を基本として、独自解釈も交えて構文解析を行う。

「文」は「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」及び「形容詞」で構成される。
また「接続詞」や「関係代名詞」などは「文」と「文」を接続してより複雑な文を構成するために使用される。

文の構成要素と単語の品詞についておおまかに説明する。
「名詞」は事物の名称・状態・性質・存在などの概念を表す単語である。
「形容詞」は事物の性質・状態、人間の感覚・感情などを表す語で「名詞」を修飾する。
「副詞」は事物の状態・性質・程度や時刻・場所などを表し、「動詞」を修飾したり、
他の「副詞」や「形容詞」を修飾する。
「句」は 2 つ以上の単語が集まって「名詞」、「形容詞」、「副詞」あるいは「動詞」
の役目をするもの。それぞれ「名詞句」、「形容詞句」... などと表す。例えば、
「名詞句」は「形容詞+名詞」、「名詞+名詞」などによって作られ、
「形容詞句」は「副詞+形容詞」、「前置詞+名詞」などによって作られ、
「副詞句」は「副詞+副詞」、「前置詞+名詞」などによって作られ、
「動詞句」は「動詞+前置詞」、「動詞+副詞」、「助動詞+動詞」によって作られる。
「節」は 2 つ以上の単語が集まって「主語」と「動詞」を含む文を構成して、
全体の中で「名詞」、「形容詞」または「副詞」の役割をする。従属節と呼ばれる。
それぞれ「名詞節」、「形容詞節」および「副詞節」と表す。
2 つの節が対等に結合される場合は等位節と呼ぶ。(英語で and や but で結合)
「主語」は「動詞」の動作・作用の主体を表す「名詞・句・節」または「代名詞・句」。
「動詞」は事物の動作・作用・状態・存在などを表す。
「直接目的語」は動詞の表す動作の対象となる人・物を表す「名詞・句・節」。
「間接目的語」は動詞の表す動作によって動作主または「直接目的語」が移動または状態変化する場所または動作の目的・結果を表す「名詞・句・節」または「副詞・句・節」。
注意：英語の文法書では、「間接目的語」は「直接目的語」と共に用いられることになっているが、この文書では「間接目的語」が単独で用いられる場合がある。すなわち、「主語」「動詞」「直接目的語」と「主語」「動詞」「間接目的語」の構文がある。
「補語」は「主語」または「目的語」の性質・状態を表す「名詞」・「形容詞」・「副詞」。

文の構成要素と構文解析の書式

名詞・性と数

「名詞」は人または事物の名称を表す語であり、文中で「主語」、「直接目的語」、「間接目的語」または「補語」として用いられる。時には、他の「名詞」を修飾する「形容詞」として利用されたり、「時」や「場所」に関する「副詞」として利用されることがある。
「名詞」が「動詞」のように利用されて「前進！」のような命令文が作られることもある。
　さらに、「名詞」として辞書に載っている単語だけでなく、「動詞」や「形容詞」または「副詞」が「名詞」的に利用されることもあるので、「名詞」の出現頻度は高い。

　「代名詞」は「名詞」の代わりをする語である。代名詞を利用することで、文中に同じ単語が何度も現れるのを防いで、文を明確化することができる。
　「名詞句」や「名詞節」も文中で「名詞」と同様の機能として使われる。

　「名詞」は数えられる名詞「可算名詞」と数えられない名詞「不加算名詞」に分けられ、可算名詞は「普通名詞」と「集合名詞」に、不加算名詞は「固有名詞」、「物質名詞」と「抽象名詞」に分けられる。

　「普通名詞」は「本」、「猫」、「机」など同じ種類の個体を多数持っているものに与えられる名称で、単数か複数かという区別を必要とする。単数の場合は「不定冠詞」か「定冠詞」を付けるのが原則である。
　「集合名詞」は「委員会」、「家族」、「警察」のように人・動物・物などの集合体を指す名詞である。

　「固有名詞」は「富士山」、「パリ」、「ニュートン」などのように、人・場所・事物などに固有の名称である。本来一つしかないものなので不定冠詞をつけたり、複数形にすることは原則としてない。定冠詞を付ける場合と付けない場合がある。
　「物質名詞」は「空気」、「水」、「ワイン」のように物質を表す名称で、一定の形を持たず、また特別な容器を用いない限り、個々には独立して存在しない。不加算名詞なので、不定冠詞は付かないし、複数形にもならない。
　「抽象名詞」は「親切」、「愛」、「悲しみ」、「真理」のように、具体的な形を持たない抽象的な概念を示す名称である。抽象名詞も数えられないから、不定冠詞は付かないし、複数形にもならない。

　イタリア語・スペイン語・フランス語・ドイツ語などでは、「名詞」に付属する冠詞・形容詞は名詞と性・数の一致が必要となり、「名詞」に関係する「動詞」は名詞と数の一致が必要になる。

文の構成要素と構文解析の書式

「直接目的語」と「間接目的語」

「僕は君にこの本をあげる」という文は、「主語：僕（は)」、「間接目的語：君に」、「直接目的語：この本（を)」、「動詞：あげる」という構成要素から作られている。そして、「動詞：あげる」の動作において動作の主体が操作・加工する対象となるものが「直接目的語：この本（を)」である。「間接目的語：君に」は「直接目的語」（または「主語」）の移動先（抽象的な概念の場所も含む）を表しており、動作の主体が操作・加工する対象ではない。

「直接目的語」は動作の主体が操作・加工する対象を示すと考えると、「人」や「物」を表す「名詞」類が使用されることが分かる。

「間接目的語」は「直接目的語」または「話者自身」の移動先を示す場所であると考えると、場所を表す「人」や「物」または「場所を表す空間」を表す「名詞」類または「副詞」類が使用されることが分かる。参考：「私は両親に従う。」の「両親」は「両親の希望・意見などの抽象的な概念の場所」を表す「間接目的語」である。「間接目的語」が名詞・代名詞ならこれを「主語」として受動文を作れるが、副詞類なら受動文を作れない。

注意：一般の文法書では、「自動詞+前置詞+名詞」の「名詞」を前置詞の「目的語」と説明しているが、この文書では「前置詞+名詞」または「前置詞+副詞」を「間接目的語」と解釈して構文解析を進める。この方が文章を理解しやすいと判断したからである。

この方法によると、「私は学校へ行く」は自動詞の「行く」と前置詞が付いた「学校へ」が使われており、「学校へ」が「間接目的語」と構文解析されることになる。

しかし、一般の文法書の解説とは異なるので、学校の試験などでは間違いとされる恐れがあることを注意する必要がある。しかし、フランス語の文法はこの解釈に近い。

まとめ：「直接目的語」は「名詞」類が使われる。「～を」

「間接目的語」は「名詞･副詞」類が使われる。「～の所へ、～のために、～にとって」

形容詞

「名詞」、「代名詞」を修飾・限定するものを「形容詞」という。「形容詞」は事物の性質・状態、人間の感覚・感情などを表す語で「名詞」を修飾する。

「形容詞」類の例示：

代名詞：「私の本」、「この本」、「数冊の本」、「どんな本」の下線を付けた語句。

冠詞　：「一冊の本」、「その本」の下線を付けた語句。

分詞　：「眠っている赤ん坊」、「失われた時間」の下線を付けた語句。

名詞　：「空軍」、「石橋」のように「名詞」+「名詞」の語句。

形容詞句：「籠の中の鳥」の下線を付けた語句（前置詞で導かれる)。

形容詞節：「これはパリで買った指輪です」の下線を付けた語句（関係代名詞で導かれる)。

まとめ：「形容詞節」を含む「形容詞」類は「名詞」類の前後に使用される。

文の構成要素と構文解析の書式

不定冠詞

「形容詞」類の一つである。様々な意味に使われる。

１．どれでもよい、不定の人や物の一つを指す。

２．ある具体的な一つの物（人）を指す。

３．一つの～という意味をはっきり示す。

４．～につきの意味を示す。

５．或る～の意味で用いる。

話の中で初めて述べる「名詞」には不定冠詞を付けて内容を説明して、二度目以降では定冠詞を付けて使う。

定冠詞

「形容詞」類の一つである。加算名詞・不加算名詞を問わず、全ての名詞の前に付けることができ、その名詞が何らかの意味で特定されたものであることを示す。

１．先に出た「不定冠詞+名詞」を指す場合。

２．すでに述べられた事柄に関連して特定される場合。

３．周囲の状況からそれと分かる場合。

４．ただ一つしかないものを指す場合。

５．最上級や唯一的な意味で限定された名詞に付ける。

６．修飾語句によって限定される場合。

７．楽器を代表的に指す場合

副詞

「副詞」は事物の状態・性質・程度や時刻・場所などを表し、「動詞」を修飾したり、他の「副詞」や「形容詞」を修飾する。しかし、名詞・代名詞、句や節または文全体を修飾・限定することもある。

まとめ:「副詞」類は修飾する語句の近くに置かれるので、「文頭」、「主語」の前後、「動詞」の前後、「補語」の前後、「文末」のように、文中いたる所に使われる。

比較

「形容詞」や「副詞」は性質・様態・数量などの程度を表すが、他の物との間の程度の違いを比較・表現する場合は語形を変えてそれを示す。この語形変化を比較といい、原級、比較級、最上級の語形と慣用句がある。

文の構成要素と構文解析の書式

補語

「補語」は文中で「主語」や「目的語」の性質・状態・動作を補足説明する語句である。
「彼は親切だ」、「私は学生だ」など「主語+動詞+補語」の形式で表される文では、下線部分の事を「補語」といって、「補語」は「主語」の性質・状態を補足説明している。
また、「私は彼が親切だと分かった」のように「主語+動詞+目的語+補語」の形式で表される文では、下線部分の事を「補語」というが、こちらは「主語」ではなく「目的語」（二重下線部分）を補足説明している。「補語」は主に「名詞」類または「形容詞」類が使われる。

しかし「彼はパリ出身だ」、「この本はカルロスのものだ」、「このテーブルは木製だ」などの文を「～である」を表す「動詞」を使って表現すると、下線部分は「副詞句」となる。この「副詞句」も「主語」の性質・状態を補足説明しているので「補語」である。
参考：「私は彼が全力を尽くすことを期待している。」は「主語」「不完全他動詞」「目的語」「補語」の構文によって「補語」が「目的語」の動作を補足説明している。
「補語」が必要な「動詞」は「～である」、「～になる」、「～と感じる」、「～と思われる」などの意味の「動詞」である。
まとめ：「補語」は「動詞・名詞・形容詞・副詞」が使用され性質・状態・動作を補足する。

動詞

「動詞」は人や様々な事物の動きや状態を述べる語である。
「主語」は「動詞」の動きを実行する主体である。
「動詞」の種類について：
完全自動詞　：「主語」が「動詞」の動作を実行する。
不完全自動詞：「動詞」と「補語」によって「主語」の性質・状態を補足説明する。
完全他動詞　：「主語」が「直接目的語」に対して「動詞」の動作を実行する。
間接他動詞　：「動詞」と「間接目的語」で「主語」の移動先を示す。（フランス語文法）
授与動詞　　：「主語」が「間接目的語」に対して「直接目的語」を与える。
不完全他動詞：「目的語」の性質・状態を「補語」によって「動詞」で表現したり、
　　「補語」で示される動作を「目的語」に対して「動詞」で表現する。

助動詞

「助動詞」は「動詞」と結びついて可能「～する事が出来る」、推量「～するかもしれない」、義務「～しなければならない」など、話し手の判断や心理を表す表現を追加する「法助動詞」とそれ自身は特に意味を持たず現在分詞・過去分詞と結びついて進行形・受動態・完了形などの時制・態を形成する助動詞がある。

文の構成要素と構文解析の書式

疑問詞

「誰」、「何」、「どこ（場所）」、「いつ（時）」、「どっち（選択）」など文を形成する要素の一部分を話し相手に質問する時に、質問の種類を知らせるための語を「疑問詞」という。

「疑問詞」は文の中で、「主語」、「目的語」、「補語」または「副詞」類として機能するが、どの場合でも文頭におかれて、最初に質問の種類を明らかにする役目を果たす。

「疑問代名詞」、「疑問形容詞」および「疑問副詞」の 3 種類がある。

接続詞

「接続詞」は文中の語・句・節を接続する。

「等位接続詞」は文法上の働きが対等の関係にある語・句・節を結び付ける。

「従属接続詞」主節の一部として、全体で一つの名詞または副詞の働きをする節を導く接続詞を従属接続詞と呼ぶ。

「従属接続詞」+「節」→「従属節」となり、「従属節」が「名詞節」または「副詞節」として働くことになる。

まとめ :「語・句・節」+「等位接続詞」+「語・句・節」の形式で使用される。

「主語」+「動詞」+「従属接続詞」+「節」の形式で使用される。

関係詞

文中の「主語」、「目的語」または「補語」に対して説明を加える場合に、それを「先行詞」として、説明に適当な「関係詞」に続いて説明の「節」を置くことで、説明の行き届いた文を作ることができる。「先行詞」は「節」の中で「主語」、「目的語」または「補語」として機能する。

まとめ :「関係代名詞」は「名詞」類を修飾する「形容詞節」を導く。

「関係副詞」は「時」や「場所」を修飾する「副詞節」を導く。

前置詞

「名詞」・「代名詞」の前に置いて、それらと共に全体として一つの品詞の働きをする語。

前置詞と結びついた語句の品詞によって、「形容詞句」または「副詞句」として機能する。

「形容詞句」は「名詞」と結びついて「名詞句」を構成して、文中で「主語」、「目的語」または「補語」として機能する。

「副詞句」は文全体や「動詞」・「形容詞」を修飾したり、「間接目的語」として機能する。

文の構成要素と構文解析の書式

構文解析の書式

構文解析は文を構成要素ごとに区切りを付けて、「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」および「形容詞節」に分類して、文がどのように構成されているかを分かり易く示すことが目的である。
しかし「形容詞節」は「主語」、「目的語」などと一体化されて、「主語」または「目的語」として分類することが多い。(「形容詞節」は名詞句の一部になる)
「目的語」は必要に応じて「間接目的語」と「直接目的語」を明示する。

本文書では、日本語の文を最初に示してから、次の行に外国語の文を示す。そして、外国語の文の後ろまたは次の行に文全体の構成要素を示す。さらに、その次の行からは、各構成要素の語句ごとにその読み、語句の品詞(「動詞」の場合はその活用も表記)、日本語の意味、構成要素名を 1 行から 3 行程度のスペースを使用して表示する。
複数の語が集まって「主語」、「動詞」、「目的語」または「補語」が作られる場合には、それぞれの単語の読み、品詞、意味を表示する場合がある。この場合には、次の書式に従って表示する。

「語句」「読み」「品詞の記号」「意味」(「構成要素名」)

「品詞の記号」

名詞　：男性名詞 n.m、女性名詞 n.f
代名詞：pron、pron.f.のように性別を追加することがある。
形容詞：男性形容詞 adj.m 女性形容詞 adj.f
複数　：pl. (名詞、代名詞と形容詞の品詞記号の前または後ろに置く)
副詞　：adv.、「構成要素名：修飾する語句」の形式で説明を加える。
動詞　：接続法・1 人称単数現在なら接・1 単現のように表記、自動詞 v.i、他動詞 v.t
動詞句：否定詞+動詞、助動詞+動詞、助動詞+過去分詞、動詞+不定詞など複数の動詞関連語句は、動詞としての機能と自動詞／他動詞の区別などを示す

注意：動詞の未来、過去または完了形の場合、< 「原形」の形式で示すときは原形の意味を表示するが、「原形」を示さない場合は未来、過去または完了形の意味を表示する。

接続詞：conj. 接続詞は単語そのものを表示する
前置詞：prep

複数の単語によって名詞句などが作られる場合には、複数の単語の品詞を表示してから、→「複数単語の語句」、品詞記号、意味、構成要素名の形式で表示する。
数字は読みのスペルをカッコ内に表記した。
構成要素には「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」、「形容詞」のように下線を追加した。「補語」、「副詞」および「形容詞」は同じ下線である。また、「間接目的語」と「直接目的語」も同じ下線である。「動詞句」は「動詞」と同じ下線である。

文の構成要素と構文解析の書式

構文解析の例

2 週間の間、風邪のために喉が痛い。

J'ai mal à la gorge par le rhume pendant deux semaines.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

ai ｴ 1 単現 < avoir v.t （痛みなどが）ある 「動詞」

mal à la gorge ﾏﾗ･ﾗ･ｺﾞﾙｼﾞｭ n.m 喉の辺りに痛みを 「目的語」

par le rhume ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ﾘｭｰﾑ adv. 風邪のために

pendant deux semaines ﾎﾟﾝﾄﾞﾝ･ﾄﾞｩ･ｽﾒｰﾇ adv. 2 週間

→ par le rhume pendant deux semaines 風邪で 2 週間 「副詞句：ai」

今日はイタリア語とスペイン語で日記を書くために参考書を 2 冊買った。

Aujourd'hui j'ai acheté 2 (deux) livres à consulter pour tenir un journal en italien et en espagnol.

「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Aujourd'hui ｵｼﾞｭﾙﾄﾞｩｲ adv. 今日 「副詞」

ai acheté ｴ･ｱｼｭﾃ 1 単現・完了形 v.t 買った 「動詞句」

2 livres à consulter ﾄﾞｩ･ﾘｰｳﾞﾙ･ｻﾞ･ｺﾝｼﾙﾃ n.m pl. 2 冊の参考書 「目的語」

pour tenir un journal en italien et en espagnol

ﾌﾟｰﾙ･ﾄｩﾆｰﾙ･ｱﾝ･ｼﾞｭﾙﾅｰﾙ･ｵﾆﾀﾘｱﾝ･ｴ･ｵﾈｽﾊﾟｷﾞｮｰﾙ

adv. イタリア語とスペイン語で日記をつけるために 「副詞句：acheté」

山栗が 430g とナスが 2 本採れた。

Je ramassais 430 (quatre cents trente) gramme de châtaigne sauvage et récoltais 2 (deux) aubergines.

「主語」「動詞」「目的語」et「動詞」「目的語」

ramassais ﾗﾏｾ 1 単半 < ramasser v.t 拾い集める 「動詞」

430 gramme de châtaigne sauvage ｸｧﾄﾙ･ｿﾝ･ﾄﾛﾝﾄ･ｸﾞﾗﾑ･ﾄﾞｩ･ｼｬﾃｰﾆｭ･ｿｳﾞｧｰｼﾞｭ

n.f 山栗を 430g 「目的語」

et ｴ conj. それから

récoltais ﾚｺﾙﾃ 1 単半 < récolter v.t 収穫する 「動詞」

2 aubergines ﾄﾞｩ･ｿﾞﾍﾞﾙｼﾞﾇ n.f pl. 茄子を 2 個 「目的語」

本文開始直後の頁では上記のように詳細な構文解析の表記を基本とするが、次第に、複数の構文要素をまとめて構文解析したり、平易な文などでは構文要素に下線を追加するだけにしたり、文の一部分のみを注釈として解析・説明する表記も混用する。

文の構成要素と構文解析の書式－終わり

目次

参考書など 5
文の構成要素と構文解析の書式 6
名詞・性と数 7
「直接目的語」と「間接目的語」 8
形容詞 8
不定冠詞 9
定冠詞 9
副詞 9
比較 9
補語 10
動詞 10
助動詞 10
疑問詞 11
接続詞 11
関係詞 11
前置詞 11
構文解析の書式 12
構文解析の例 13
目次 14
A LÉON WERTH 16
I 20
II 31
III 51
IV 64
V 85
VI 105
VII 111
VIII 130
IX 149
X 161
XI 194
XII 202
XIII 206

目次

XIV 229
XV 248
XVI 270
XVII (CD 2-1) 276
XVIII 293
XIX 296
XX 302
XXI 309
XXII 346
XXIII 352
XXIV 355
XXV 374
ジェロンディフの用法： 386
注意： 389
XXVI 395
XXVII 438
Fin 452

注意：この文書は構文解析を用いて、外国語の文章を日本語に翻訳する方法を示して、外国語学習者の文法理解を多少なりとも支援するために作成した参考資料です。
翻訳は辞書に載っている単語や熟語などの意味と構文解析に基づいて、文章の意味を日本語に訳したものであり、文学作品の文章として翻訳している訳ではありません。

A LÉON WERTH

A LÉON WERTH

Je demande pardon aux enfants d'avoir dédié ce livre à une grande personne. J'ai une excuse sérieuse : cette grande personne est le meilleur ami que j'ai au monde. J'ai une autre excuse : cette grande personne peut tout comprendre, même les livres pour enfants. J'ai une troisième excuse : cette grande personne habite la France oú elle a faim et froid. Elle a bien besoin d'être consolée. Si toutes ces excuses ne suffisent pas, je veux bien dédier ce livre à l'enfant qu'a été autrefois cette grande personne. Toutes les grandes personnes ont d'abord été des enfants. (Mais peu d'entre elles s'en souviennent.) Je corrige donc ma dédicace :

A LÉON WERTH
QUAND IL ÉTAIT PETIT GARÇON

レオン・ヴェルトに
この本をある大人の人に捧げたことで、私は子供たちに許してもらいたい。私には真面目な訳がある。その大人の人は、私がこの世で持っている最良の友だ。もう一つ訳がある。その人はすべてを理解する事が出来る、子供向けの本でさえも。三つ目の訳がある。その人はフランスに住んでいて、飢えと寒さに苦しんでいる。彼は慰めを必要としている。これらの全ての言い訳でも充分でないなら、昔その人が子供だったその子供に、この本を捧げることにしよう。大人はみんな、はじめは子供だった（しかし、彼らのほとんどはそのことを覚えていない。）だから私の献辞を次のように訂正する。

少年だったときの
レオン・ヴェルトに

A LÉON WERTH

A LÉON WERTH レオン・ヴェルトに (献辞)
A LÉON WERTH ｱ･ﾚｵﾝ･ｳﾞｪﾙﾄ adv. レオン・ヴェルトに 「副詞句」

この本をある大人の人に捧げたことで、私は子供たちに許してもらいたい。
Je demande pardon aux enfants d'avoir dédié ce livre à une grande personne.
「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
demande ﾄﾞｩﾓﾝﾄﾞ 1 単現(demander)
v.t (+qch à qn. de+不定詞) (人に～することで...) を求める 「動詞」
pardon ﾊﾟﾙﾄﾞﾝ n.m 許しを 「直接目的語」
aux enfants ｵ･ｿﾞﾝﾌｫﾝ adv. 子供たちに 「間接目的語」
d'avoir dédié ﾀﾞｳﾞｨｰﾙ･ﾃﾞﾃﾞｨｴ 不定詞･完了形 (理由) 捧げたことで 「副詞句」
ce livre ｽ･ﾘｰｳﾞﾙ n.m この本を 「直接目的語」
à une grande personne ｱ･ﾕﾝﾇ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ
adv. ある大人の人に 「間接目的語」

私には真面目な訳がある：
J'ai une excuse sérieuse : 「主語」「動詞」「目的語」:
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t ～がある 「動詞」
une excuse sérieuse ﾕﾝﾇ･ｴｸｽｷｭｰｽﾞ･ｾﾘｭｰｽﾞ n.f 真面目な言い訳 「目的語」

その大人の人は、私がこの世で持っている最良の友だ。
cette grande personne est le meilleur ami que j'ai au monde.
「主語」「動詞」「補語」
cette grande personne ｾｯﾄ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾘｿﾝﾇ n.f この大人の人は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
le meilleur ami ﾙ･ﾒｲｲｪｰﾙ･ｱﾐ n.m 最良の友 「補語」
que ｸ conj. ～するという 「形容詞節：ami」
j' ｼﾞｭ pron 私が 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t 持っている 「動詞」
au monde ｵ･ﾓﾝﾄﾞ adv. この世で 「副詞句」

もう一つ訳がある：
J'ai une autre excuse : 「主語」「動詞」「目的語」:
une autre excuse ﾕﾝﾇ･ｵｰﾄﾙ･ｴｸｽｷｭｰｽﾞ n.f 他の言い訳 「目的語」

A LÉON WERTH

その人はすべてを理解する事が出来る、子供向けの本でさえも。

cette grande personne peut tout comprendre, même les livres pour enfants.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「目的語」

peut ... comprendre ﾌﾟ...ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞｩﾙ 3 単現・可能(pouvoir+不定詞)

v.t 理解することができる 「動詞句」

tout ...même les livres pour enfants ﾄｩ...ﾒｰﾑ･ﾚ･ﾘｰｳﾞﾙ･ﾌﾟｰﾙ･ｵﾝﾌｫﾝ

pron すべてを... 子供向けの本でさえも 「目的語」

三つ目の訳がある：

J'ai une troisième excuse： 「主語」「動詞」「目的語」：

une troisième excuse ﾕﾝﾇ･ﾄﾛｧｼﾞｪｰﾑ･ｴｸｽｷｭｰｽﾞ n.f 三つ目の言い訳 「目的語」

その人はフランスに住んでいて、飢えと寒さに苦しんでいる。

cette grande personne habite la France oú elle a faim et froid.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」

habite ｱﾋﾞﾄｩ 3 単現(habiter)v.t に住んでいる 「動詞」

la France ﾗ･ﾌﾛﾝｽ n.f フランスに 「目的語」

oú ｳ adv. そこで 「副詞節」

elle ｴﾙ pron その人は 「主語」

a ｱ 3 単現(avoir)v.t 持っている 「動詞」

faim et froid ﾌｧﾑ･ｴ･ﾌﾛｧ n.飢えと寒さを 「目的語」

彼は慰めを必要としている。

Elle a bien besoin d'être consolée. 「主語」「動詞句」

a bien besoin d'+不定詞 ｱ･ﾋﾞｬﾝ･ﾌﾞｽﾞﾜﾝ･ﾄﾞｩ 3 単現・必要(avoir)

～することがとても必要である 「動詞句」

être consolée 不定詞・受動形 慰められること

これらの全ての言い訳でも充分でないなら、昔その人が子供だったその子供に、この本を捧げることにしよう。

Si toutes ces excuses ne suffisent pas, je veux bien dédier ce livre à l'enfant qu'a été autrefois cette grande personne.

「副詞節」,「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」

Si ｼ conj.（仮定）もし～ならば 「副詞節」

toutes ces excuses ﾄｩｯﾄ･ｾ･ｾﾞｸｽｷｭｰｽﾞ pl.n.f これら全ての言い訳 「主語」

ne suffisent pas 3 複現・否定(suffire)v.i 足りない 「動詞句」

A LÉON WERTH

veux bien dédier ヴ゛・ビ゛ヤン・デ゛デ゛ィエ 1 単現・願望(vouloir+不定詞)v.t 捧げたい 「動詞句」
ce livre ス・リーヴ゛ル n.m この本を 「直接目的語」
à l'enfant ア・ロンフォン adv. その子供に 「間接目的語」
qu' ク conj. ～する 「形容詞節：enfant」
a été 3 単現・完了形(être)v.i ～であった 「動詞句」
autrefois オートルフわ adv. 昔、かつて 「副詞」
cette grande personne セット・グ゛ロンド゛・ペ゜ルソンヌ n.f その大人の人が「主語」

大人はみんな、はじめは子供だった。
Toutes les grandes personnes ont d'abord été des enfants.
「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「補語」
Toutes les grandes personnes トット・レ・グ゛ロンド゛・ペ゜ルソンヌ pl.n.f 全ての大人は 「主語」
ont ...été オン・エテ 3 複現・完了形(être)v.i ～だった 「動詞句」
d'abord ダ゛ボ゛ール adv. 初めは 「副詞句」
des enfants デ゛・ゾ゛ンフォン pl.n. 子供 「補語」

（しかし、彼らのほとんどはそのことを覚えていない。）
(Mais peu d'entre elles s'en souviennent.) Mais「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」
Mais メ conj. しかし
peu d'entre elles プ゜・ド゛ントル・エル pron.f 彼らのほとんどは～ない 「主語」
s' .. souviennent サン・スヴ゛ィエンヌ 3 複現(se souvenir)
v.pr ～のことを覚えている 「動詞句」
en オン adv. そのことを（昔は子供だったこと） 「間接目的語」

だから私の献辞を次のように訂正する：
Je corrige donc ma dédicace： 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」：
corrige コリジ゛ュ 1 単現(corriger) v.t 訂正する 「動詞」
donc ド゛ン adv. だから 「副詞」
ma dédicace マ・デ゛デ゛ィカス n.f 私の献辞を 「目的語」

少年だったときのレオン・ヴェルトに (献辞)
A LÉON WERTH QUAND IL ÉTAIT PETIT GARÇON 「副詞句」「副詞節」
A LÉON WERTH ア・レオン・ヴ゛ェルト adv. レオン・ヴェルトに 「副詞句」
QUAND コン conj. ～するときの 「形容詞節：LÉON WERTH」
IL ÉTAIT PETIT GARÇON イ・レテ・プ゜ティ・ガ゛ルソン 彼が少年だった

I

I

六歳だった時、ぼくは「体験した話」という原始林についての本のなかで、素晴らしい挿絵を一度見たことがある。

Lorsque j'avais six ans j'ai vu, une fois, une magnifique image, dans un livre sur la Forêt Vierge qui s'appelait 《Histoires Vêcues》.

「副詞節」,「主語」「動詞句」「副詞句」, 「目的語」「副詞句」

Lorsque ﾛﾙｽｸ conj. ～の時に 「副詞節」

j' ｼﾞｭ pron 私が 「主語」

avais ｱｳﾞｪ 1 単半(avoir)v.t（年齢が～歳で）あった 「動詞」

six ans ｼｻﾞﾝ n.m 6 歳 「目的語」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai vu ｴ･ｳﾞｭ 1 単現･完了形(voir)v.t 見た 「動詞句」

une fois ﾕﾝﾇ･ﾌｫ adv. 一度 「副詞句」

une magnifique image ﾕﾝﾇ･ﾏﾆﾌｨｷ･ｲﾏｰｼﾞｭ n.f 素晴らしい挿絵を 「目的語」

dans un livre sur la Forêt Vierge ﾄﾞﾝ･ｻﾞﾝ･ﾘｰｳﾞﾙ･ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾌｫﾚ･ｳﾞｨｴﾙｼﾞｭ

adv. 原始林についての本の中で 「副詞句」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節：livre」

s'appelait ｻﾌﾟﾚ 3 単半(s'appeler)v.pr ～という名前だった「動詞」

《Histoires Vêcues》ｲｽﾄｫｰﾙ･ｳﾞｪｷｭ n. 「体験した話」 「目的語」

Histoires ｲｽﾄｫｰﾙ n.f 物語 Vêcu ｳﾞｪｷｭ adj. 体験された、実際にあった

それは一匹の獣を飲み込もうとしているボア大蛇を表していた。これがその写し。

Ça représentait un serpent boa qui avalait un fauve. Voilà la copie du dessin.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「副詞」「主語」

Ça ｻ pron その挿絵は 「主語」

représentait ﾙﾌﾟﾚｿﾞﾝﾃ 3 単半(représenter)v.t 表していた 「動詞」

I

un serpent boa ｱﾝ･ｾﾙﾊﾟﾝ･ﾎﾞｱ n.m ボア大蛇 「目的語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
avalait ｱﾊﾞﾚ 3 単半(avaler)v.t 飲み込んでいた 「動詞」
un fauve ｱﾝ･ﾌｫｰｳﾞ n.m 獣を 「目的語」
Voilà ｳﾞｫﾜﾗ adv.v.i ここに～がある 「副詞」
voilà は前置詞･副詞･動詞･指示詞の機能を兼ねる。voici の意味でも使われる。
la copie du dessin ﾗ･ｺﾋﾟｰ･ｼﾞｭ･ﾃﾞｯｻﾝ n.f 絵の写しが 「主語」

その本の中ではこう言われていた：
On disait dans le livre： 「主語」「動詞」「副詞句」：
On ｵﾝ pron 人は 「主語」
disait ﾃﾞｨｾﾞ 3 単半(dire)v.t 云っていた 「動詞」
三人称単数または複数の「主語」を用いて、能動文で受動の意味を表すことがある。
dans le livre ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾘｰｳﾞﾙ adv. その本の中では 「副詞句」

「ボア大蛇たちは、獲物を噛まずにまるごと飲み込む。
《Les serpents boas avalent leur proie tout entière, sans la mâcher.
《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
《Les serpents boas ﾚ･ｾﾙﾊﾟﾝ･ﾎﾞｱ pl.n.m ボア大蛇たちは 「主語」
avalent ｱｳﾞｧﾙ 3 複現(avaler)v.t 飲み込む 「動詞」
leur proie tout entière ﾚｰﾙ･ﾌﾟﾛﾜ･ﾄｩ･ﾄﾝﾁｪｰﾙ n.f 獲物を丸ごと全部 「目的語」
sans la mâcher ｿﾝ･ﾗ･ﾏｼｪ adv. それを噛まずに 「副詞句」
sans +不定詞 ～せずに、la mâcher 不定詞句 v.t(目的語+動詞) それを噛む

すると、もう動くことが出来なくなって、獣を消化する半年間、彼らは眠る」
Ensuite ils ne peuvent plus bouger et ils dorment pendant les six mois de leur digestion.
「副詞」「主語」「動詞句」et「主語」「動詞」「副詞句」》
Ensuite ｵﾝｼｭｲｯﾄ adv. すると 「副詞」
ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」
ne peuvent plus bouger ﾇ･ﾌﾟｰｳﾞ･ﾌﾟﾘｭ･ﾌﾞｼﾞｪ 3 複現･可能･否定(pouvoir+不定詞+plus)
v.i もう動けない 「動詞句」
et ｴ conj. そして
ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」
dorment ﾄﾞﾙﾑ 3 複現(dormir)v.i 眠る 「動詞」
pendant ﾎﾟﾝﾄﾞﾝ prep ～の間 「副詞句」
les six mois ﾚ･ｼ･ﾑﾜ pl.n.m 6 ヶ月 「目的語」

I

de leur digestion ﾄﾞｩ･ﾚｰﾙ･ﾃﾞｨｼﾞｪｽﾁｮﾝ adj. 獣を消化するための「形容詞句」

そこでぼくは、ジャングルのさまざまな冒険について、大いに考えた。そして、今度は、色鉛筆で、初めてのデッサンを描き上げることに成功した。

J'ai alors beaucoup réfléchi sur les aventures de la jungle et, à mon tour, j'ai réussi, avec un crayon de couleur, à tracer mon premier dessin.

「主語」「動詞句」「間接目的語」et「副詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai alors beaucoup réfléchi ｴ･ｱﾛｰ･ﾎﾞｸ･ﾚﾌﾚｼ 1 単現･完了形(réflechir+ alors beaucoup)

v.i そこで熟考した 「動詞句」

sur les aventures de la jungle ｼｭｰﾙ･ﾚ･ｻﾞｳﾞｫﾝﾁｭｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾗ･ｼﾞｭﾝｸﾞﾙ

adv. ジャングルでの様々な冒険について 「間接目的語」

et, ｴ conj. そして

à mon tour, ｱ･ﾓﾝ･ﾄｩｰﾙ adv. 今度は僕が 「副詞句」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

ai réussi ｴ･ﾚｳｼ 1 単現･完了形(réussir à+不定詞)v.i ～することに成功した 「動詞句」

avec un crayon de couleur ｱｳﾞｪｯｷ･ｱﾝ･ｸﾚﾖﾝ･ﾄﾞｩ･ｸﾚｰﾙ adv. 色鉛筆を使って 「副詞句」

à tracer ｱ･ﾄﾗｾ 不定詞 n. 描き上げる事に 「間接目的語」

mon premier dessin ﾓﾝ･ﾌﾟﾙﾐｴ･ﾃﾞｻﾝ n.m 僕の最初のデッサンを 「目的語」

ぼくの最初のデッサン、それはこのようなもの。

Mon dessin numéro 1. Il était comme ça : 「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」:

Mon dessin numéro 1. ﾓﾝ･ﾃﾞｻﾝ･ﾆｭﾒﾛ･ｱﾝ 僕の一番目のデッサン 「主語」

Il ｲﾙ pron それは 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

comme ça. ｺﾑ･ｻ adj. このようなものだ 「補語」

I

僕はその傑作を、大人の人たちに見せて、僕のデッサンが彼らを怖がらせるかどうか、と僕は彼らに尋ねた。

J'ai montré mon chef-d'oeuvre aux grandes personnes et je leur ai demandé si mon dessin leur faisait peur.

「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」
et「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

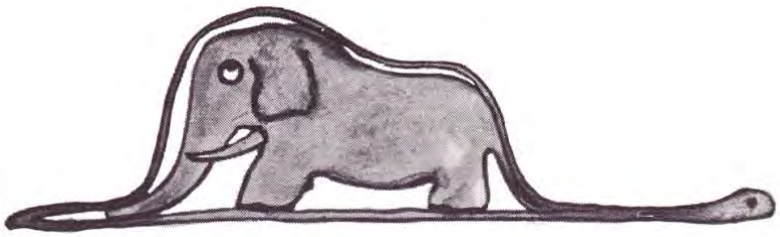
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai montré ｴ･ﾓﾝﾄﾚ 1 単現･完了形(montrer)v.t 見せた 「動詞句」
mon chef-d'oeuvre ﾓﾝ･ｼｪ･ﾄﾞｩｰヴﾞﾙ n.m 自分の傑作を 「直接目的語」
aux grandes personnes ｵ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ adv. 大人の人たちに 「間接目的語」
et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」
ai demandé ｴ･ﾄﾞｩﾓﾝﾃﾞ 1 単現･完了形(demander)v.t 聞いた 「動詞句」
si ｼ conj. ～かどうかということを 「直接目的語」
mon dessin ﾓﾝ･ﾃﾞｻﾝ n.m 僕のデッサンが 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らを 「目的語」
faisait ﾌｾﾞ 3 単半･使役(faire)v.t させた 「動詞」
peur ﾍﾟｰﾙ adj. 怖い 「補語」

彼らは僕に答えた「帽子がどうして怖いの」と。

Elles m'ont répondu：《Pourquoi un chapeau ferait-il peur?》

「主語」「間接目的語」「動詞句」：《「副詞」「主語」「動詞」「補語」》

Elles ｴﾙ pron.pl. 彼らは 「主語」
m' ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
ont répondu：ｵﾝ･ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｭ 3 複現･完了形(répondre)v.i 答えた 「動詞句」
Pourquoi ﾌﾟﾙｸｫ adv. どうして 「副詞」
un chapeau ｱﾝ･ｼｬﾎﾟｰ n.m 帽子が 「主語」
ferait ﾌｰﾚ 条・3 単現(faire)v.i ～のように見えるだろうか 「動詞」
il ｲﾙ pron（疑問文のため）
peur? ﾍﾟｰﾙ n.f 恐怖 「補語」



I

僕のデッサンは、帽子を表していたのではない。象を消化しているボア大蛇を表していた。

Mon dessin ne représentait pas un chapeau. Il représentait un serpent boa qui digérait un éléphant. 「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Mon dessin ﾓﾝ･ﾃﾞｻﾝ n.m 僕のデッサンは 「主語」

ne représentait pas ﾇ･ﾙﾌﾟﾚｿﾞﾝﾃ･ﾊﾟ 3 単半･否定(représenter)

v.t 表していなかった 「動詞句」

un chapeau. ｱﾝ･ｼｬﾎﾟ n.m 帽子を 「目的語」

Il ｲﾙ pron それは 「主語」

représentait ﾙﾌﾟﾚｿﾞﾝﾃ 3 単半(représenter)v.t 表していた 「動詞」

un serpent boa ｱﾝ･ｾﾙﾊﾟﾝ･ﾌﾞｫ n.m ボア大蛇を 「目的語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

digérait ﾃﾞｨｼﾞｪﾚ 3 単半(digérer)v.t を消化している 「動詞」

un éléphant. ｱ･ﾈﾚﾌｫﾝ n.m 象を 「目的語」

そこで大人の人たちが理解できるように、僕は中の見えるボア大蛇を描いた。

J'ai alors dessiné l'intérieur du serpent boa, afin que les grandes personnes puissent comprendre. 「主語」「動詞句」「目的語」,「副詞節」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai alors dessiné ｴ･ｱﾛｰ･ﾃﾞｼﾈ 1 単現･完了形(dessiner+alors)

v.t そこで描いた 「動詞句」

l'intérieur du serpent boa, ﾗﾝﾃﾘｴｰﾙ･ｼﾞｭ･ｾﾙﾊﾟﾝ･ﾌﾞｫ n.m ボア大蛇の内部を 「目的語」

afin que +接続法 ｱﾌｧﾝ･ｸ conj. ～するために 「副詞節」

les grandes personnes ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pl.n.f 大人たちが 「主語」

puissent comprendre. ﾋﾟｭｲｽ･ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ 接・3 単現･可能(pouvoir+不定詞)

v.t 理解できる（だろう） 「動詞句」

彼らは、いつも説明を必要とする。僕の二番目のデッサンはこんなふうなものだった：

Elles ont toujours besoin d'explications. Mon dessin numéro 2 était comme ça：

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」:

Elles ｴﾙ pl.pron 大人たちは 「主語」

ont ｵﾝ 3 複現(avoir)v.t ～がある 「動詞」

toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. いつも 「副詞」

besoin d'explications. ﾌﾞｰｽﾞﾜﾝ･ﾃﾞｸｽﾌﾟﾘｶｼｮﾝ n.m 説明の必要を 「目的語」

avoir besoin de ... 「～が必要だ」

Mon dessin numéro 2 ﾓﾝ･ﾃﾞｻﾝ･ﾆﾒﾛ･ﾄﾞｩ n.m 僕の二番目のデッサンは 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

I

comme ça : ｺﾑ･ｻ adv. このような 「補語」

大人の人たちは、中の見えるボア大蛇だろうと、中の見えないボア大蛇だろうと、ボア大蛇の絵を脇へ放置しておいて、それよりもむしろ地理と歴史と算数と文法に興味を持つようにと僕に勧めた。

Les grandes personnes m'ont conseillé de laisser de côté les dessins de serpents boas ouverts ou fermés, et de m'intéresser plutôt à la géographie, à l'histoire, au calcul et à la grammaire. 「主語」「目的語」「動詞句」「補語」et「補語」

Les grandes personnes ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pl.n.f 大人たちは 「主語」

m' ﾑ pron 私に（私が） 「目的語」

ont conseillé ｵﾝ･ｺﾝｾｲｪ 3 複現･完了形(conseiller) v.t 勧めた 「動詞句」

de laisser ﾄﾞｩ･ﾚｾ 不定詞 v.t 置いておく（ように） 「補語」

de côté ﾄﾞｩ･ｺﾃ adv. 脇に 「副詞句」

les dessins de serpents boas ﾚ･ﾃﾞｻﾝ･･ﾄﾞｩ･ｾﾙﾊﾟﾝ･ﾌﾞｫ

pl.n.m ボア大蛇のデッサンを 「目的語」

ouverts ou fermés ｳｳﾞｪｰﾙ･ｴ･ﾌｪﾙﾒ

adj. 中が見える物でも見えないものでも 「形容詞句：dessins」

et ｴ conj. そして

de m'intéresser ﾄﾞｩ･ﾏﾝﾃﾚｯｾ 不定詞(s'intéresser)v.t 興味を持つ（ように） 「補語」

(m'ont conseillé) de m'intéresser 興味を持つように私に勧めた

再帰動詞(s'intéresser)の不定法では再帰代名詞を動作主に変える

plutôt ﾌﾟﾘｭﾄ adv. それよりは 「副詞」

à la géographie, ｱ･ﾗ･ｼﾞｪｵﾙｶﾞﾌｨｰ adv. 地理に 「間接目的語」

à l'histoire, ｱ･ﾘｽﾄｫｰﾙ adv. 歴史に 「間接目的語」

au calcul ｵ･ｶﾙｷｭﾙ adv. 算数に 「間接目的語」

et ｴ conj. そして

à la grammaire. ｱ･ﾗ･ｸﾞﾗﾒｰﾙ adv. 文法に 「間接目的語」

こうして、僕は六歳の時に、絵描きという素晴らしい職業を諦めた。

C'est ainsi que j'ai abandonné, à l'âge de six ans, une magnifique carrière de peintre.

「副詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

C'est ainsi que ｾ･ﾀﾝｼ･ｸ adv. こうして 「副詞句」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai abandonné, ｴ･ｱﾎﾞﾝﾄﾞﾈ 1 単現･完了形(abandonner)v.t あきらめた 「動詞句」

à l'âge de six ans, ｱ･ﾗｰｼﾞｭ･ﾄﾞｩ･ｼｻﾞﾝ adv. 6 歳の時に 「副詞句」

une magnifique carrière ﾕﾝﾇ･ﾏﾆﾌｨｷ･ｷｬﾘｪｰﾙ n.f 素晴らしい職業を 「目的語」

I

de peintre. ﾄﾞｩ･ﾊﾟﾝﾄﾙ adj. 画家という 「形容詞句」

最初の絵と、二番目の絵の失敗によって、僕は落胆させられたのだった。

J'avais été découragé par l'insuccès de mon dessin numéro 1 et de mon dessin numéro 2.

「主語」「動詞句」「副詞句」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

avais été découragé ｱｳﾞｪ･ｾﾞﾃ･ﾃﾞｸﾗｼﾞｪ 1 単半･完了形･受動(décourager)

v.t 落胆させられた 「動詞句」

par l'insuccès ﾊﾟｰﾙ･ﾗﾝｼｭｾ adv. 失敗によって 「副詞句」

de mon dessin numéro 1 et de mon dessin numéro 2.

ﾄﾞｩ･ﾓﾝ･ﾃﾞｻﾝ･ﾆﾒﾛ･ｱﾝ･ｴ･ﾄﾞｩ･ﾓﾝ･ﾃﾞｻﾝ･ﾆﾒﾛ･ﾄﾞｩ

adj. 僕の最初のデッサンと二番目のデッサンの 「形容詞句」

大人の人たちというのは、たった一人では、決して何も分からない。いつもいつも、彼らに説明をするのは、子供たちにとっては、うんざりである...

Les grandes personnes ne comprennent jamais rien toutes seules, et c'est fatigant, pour les enfants, de toujours et toujours leur donner des explications.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」et「動詞」「補語」「副詞句」「主語」

Les grandes personnes ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pl.n.f 大人たちは 「主語」

ne comprennent jamais ﾈ･ｺﾝﾌﾟﾚﾝﾇ･ｼﾞｬﾒ 3 複現･否定(comprendre)

v.t 決して何も分からない 「動詞句」

rien ﾘｬﾝ pron（否定文で）何も～ない 「目的語」

ne ... jamais rien→「絶対にない ne ... jamais」と「何もない ne ... rien」の組合わせ

toutes seules ﾄｳｯﾄ･ｽﾙ adv. たった一人では 「副詞句」

et ｴ conj. そして

c' ｽ pron 形式主語（真の主語は de toujour 以降）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

fatigant ﾌｧﾃｨｺﾞﾝ adj. うんざりする 「補語」

pour les enfants ﾌﾟｰﾙ･ﾚ･ｿﾞﾝﾌｫﾝ adv. 子供たちにとって 「副詞句」

de +不定詞 ﾄﾞｩ n. ～することは 「主語」

toujours et toujours ﾄｳｼﾞｭｰﾙ･ｴ･ﾄｳｼﾞｭｰﾙ adv. いつもいつも 「副詞句」

leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」

donner ﾄﾞﾈ 不定詞 v.t 与える 「動詞」

des explications ﾃﾞ･ｾﾞｸｽﾌﾟﾘｶｼｮﾝ pl.n.f 説明を 「直接目的語」

I

そこで、僕は別の職業を選ばねばならず、飛行機の操縦の仕方を覚えた。

J'ai donc dû choisir un autre métier et j'ai appris à piloter des avions.

「主語」「動詞句」「目的語」et「主語」「動詞句」「目的語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai donc dû choisir ｴ･ﾄﾞﾝ･ｼﾞｭ･ｼｮﾜｼﾞｰﾙ 1 単現･完了形(devoir+不定詞+donc)

v.t そこで～を選ばなければならなかった 「動詞句」

un autre métier ｱ･ﾉｰﾄﾙ･ﾒﾃｨｴ n.m 別の職業を 「目的語」

et ｴ conj. それで

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai appris à piloter ｴ･ｱﾌﾟﾘ･ｱ･ﾋﾟﾛﾃ 1 単現･完了形(apprendre à+不定詞)

v.t 操縦を覚えた 「動詞句」

des avions. ﾃﾞ･ｻﾞｳﾞｨｮﾝ pl.n.m 飛行機を 「目的語」

そして、ほぼ世界中を飛び回った。なるほど地理学は、大変役に立った。

J'ai volé un peu partout dans le monde. Et la géographie, c'est exact, m'a beaucoup servi.

「主語」「動詞句」「副詞句」 | Et「主語」,「副詞節」,「間接目的語」「動詞句」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai volé ｴ･ｳﾞｫﾚ 1 単現･完了形(voler)v.i 飛び回った 「動詞句」

un peu partout dans le monde. ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾊﾟﾙﾄｩ･ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾓﾝﾄﾞ adv.世界中あちこちを「副詞句」

un peu partout ほとんどいたるところを

Et ｴ conj. そして

la géographie, ﾗ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌｨｰ n.f 地理学は 「主語」

c'est exact, ｾ･ﾃｸﾞｻﾞ adv. なるほど（それは正しい） 「副詞節」

m' ﾑ pron 僕にとって 「間接目的語」

a beaucoup servi ｱ･ﾎﾞｸ･ｾﾙｳﾞｨ 3 単現･完了形(servir+ beaucoup)

v.i とても役に立った 「動詞句」

一目で、中国とアリゾナ州を見分ける事が出来た。夜間、方角が分からなくなったりしたら、地理学は大変役に立つ。

Je savais reconnaître, du premier coup d'oeil, la Chine de l'Arizona. C'est trés utile, si l'on s'est égaré pendant la nuit.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

savais reconnaître, ｻｳﾞｪ･ﾙｺﾈｰﾄﾙ 1 単半･可能(savoir+不定詞)

v.t 見分けることができた 「動詞句」

du premier coup d'oeil, ｼﾞｭ･ﾌﾟﾙﾐｴ･ｸ･ﾄﾞｩｲｭ adv. 一瞥で 「副詞句」

I

最初の一瞥によって

la Chine de l'Arizona. ﾗ･ｼﾇ･ﾄﾞｩ･ﾗﾘｿﾞﾅ n.f アリゾナ州と中国を 「目的語」

C' ｽ pron 地理学は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

trés utile, ﾄﾚ･ｼﾞｭﾃｨﾙ adj. 大変役に立つ 「補語」

si ｼ conj.（仮定）もし～ならば、～する時は 「副詞節」

l'on ﾛﾝ pron 人が（si の後ろでは l'on となる） 「主語」

s'est égaré ｾ･ﾃｶﾞﾚ 3 単現･完了形(s'égarer)v.pr 道に迷った 「動詞句」

pendant la nuit. ﾎﾟﾝﾄﾞﾝ･ﾗ･ﾆｭｲ adv. 夜の間に 「副詞句」

こうして、僕の人生の流れにおいて、僕は沢山の真面目な人たちと、沢山の近づきを得た。

J'ai ainsi eu, au cours de ma vie, des tas de contacts avec des tas de gens sérieux.

「主語」「動詞句」,「副詞句」,「目的語」「副詞句」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai ainsi eu ｴ･ｵﾝｼ･ｭ 1 単現･完了形(avoir+ainsi)v.t このように～を持った 「動詞句」

au cours de ma vie ｵ･ｸｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾏ･ｳﾞｨｰ adv. 僕の人生の流れにおいて 「副詞句」

des tas de contacts ﾃﾞ･ﾀ･ﾄﾞｩ･ｺﾝﾀｸﾄｩ pl.n.m 沢山の交際を 「目的語」

des tas de ﾃﾞ･ﾀ･ﾄﾞｩ adj, 沢山の～ contact ｺﾝﾀｸﾄｩ n.m 交際

avec des tas de gens sérieux ｱｳﾞｪｯｷ･ﾃﾞ･ﾀ･ﾄﾞｩ･ｼﾞｮﾝ･ｾﾘｭ

adv. 沢山の真面目な人々と 「副詞句」

gens ｼﾞｮﾝ pl.n.m 人々 sérieux ｾﾘｭ adj.m まじめな

大人の人たちの所でうんと暮らした、大人の人たちを、ごく近い所から見てきた。

J'ai beaucoup vécu chez les grandes personnes. Je les ai vues de très près.

「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai beaucoup vécu ｴ･ﾎﾞｸ･ｳﾞｪｷｭ 1 単現･完了形(vivre+ beaucoup)

v.i うんと暮らした（副詞は助動詞と過去分詞(p.p)の間に置かれる） 「動詞句」

chez les grandes personnes ｼｪ･ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ adv. 大人の人たちのところで「副詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

les ﾚ pron おとなの人たちを 「目的語」

目的語代名詞は助動詞の前に置かれる（女性複数 → 過去分詞が性･数一致する）

ai vues ｴ･ｳﾞｭ 1 単現･完了形.f.pl(voir)v.t 見てきた(過去分詞が性･数一致) 「動詞句」

de très près ﾄﾞｩ･ﾄﾚ･ﾌﾟﾚ adv. とても近くから 「副詞句」

I

それによって僕の見解が良くなることはあまりなかった。

Ça n'a pas trop amélioré mon opinion. 「主語」「動詞句」「目的語」

Ça ｻ pron そのような経験が 「主語」

n'a pas trop amélioré ﾅ･ﾊﾟ･ﾄﾛ･ｱﾒﾘｵﾚ 3 単現･完了形･部分否定(améliorer)

v.t あまり改善することはなかった 「動詞句」

mon opinion ﾓ･ﾉﾋﾟﾆｵﾝ n.m 僕の見解を 「目的語」

少し聡明そうだと思われるおとなの一人に出会うと、僕はいつも持ち歩いていた最初のデッサンで彼を試したものだった。

Quand j'en rencontrais une qui me paraissait un peu lucide, je faisais l'expérience sur elle de mon dessin numéro 1 que j'ai toujours conservé.

「副詞節」,「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

en ｵﾝ pron それの（grandes personnes）

rencontrais ﾛﾝｺﾝﾄﾚ 1 単半(rencontrer)v.t 出会った 「動詞」

une ﾕﾝﾇ n.f （大人の）一人に 「目的語」

qui ｷ conj. ～する 「形容詞節：une」

me ﾑ pron 私にとって 「間接目的語」

paraissait ﾊﾟﾚｾ 3 単半(paraître)v.i ～と思われる 「動詞」

un peu lucide ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾘｭｼﾄﾞ adj. 少し聡明な 「補語」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

faisais ﾌｾﾞ 1 単半(faire)v.t おこなった 「動詞」

l'expérience sur elle ﾚｸｽﾍﾟﾘｴﾝｽ･ｼｭｰﾙ･ｴﾙ n.f その人に試験を 「目的語」

expérience ｴｸｽﾍﾟﾘｴﾝｽ n.f 実験、試験

de mon dessin numéro 1 ﾄﾞｩ･ﾓﾝ･ﾃﾞｻﾝ･ﾆｭﾒﾛ･ｱﾝ

adv.（手段）僕の最初のデッサンで 「副詞句：faisais」

que ｷ conj. ～する 「形容詞節」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai toujours conservé ｴ･ﾄｩｼﾞｭｰﾙ･ｺﾝｾﾙｳﾞｪ 1 単現･完了形(conserver+ toujours)

v.t いつも持っていた 「動詞句」

本当に物わかりが良いかどうか、知りたかったのだ。

Je voulais savoir si elle était vraiment compréhensive. 「主語」「動詞句」「目的語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

voulais savoir ｳﾞﾚ･ｻｳﾞｫｰﾙ 1 単半･願望(vouloir +不定詞)v.t 知りたかった 「動詞句」

I

si シ conj. ～かどうかということを 「目的語」
elle ｴﾙ pron その大人が 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～である（過去における現在） 「動詞」
vraiment compréhensive ｳﾞﾚﾓﾝ･ｺﾝﾌﾟﾚｱﾝｼｳﾞ adj.f 本当に理解力がある 「補語」

ところが大人はいつもこう答えた。「それは帽子だろ」。
Mais toujours elle me répondait :《C'est un chapeau.》
Mais「副詞」「主語」「間接目的語」「動詞」：《「主語」「動詞」「補語」》
Mais ﾒ conj. しかし
toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. いつも 「副詞」
elle ｴﾙ pron その大人は 「主語」
me ﾑ pron 私に 「間接目的語」
répondait ﾚﾎﾟﾝﾃﾞ 3 単半(répondre) v.t 答えた 「動詞」
C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
un chapeau ｱﾝ･ｼｬﾎﾟｰ n.m 帽子 「補語」

それで僕は、ボア大蛇についても原始林についても星についても話さず、その人に話を合わせ、ブリッジやゴルフや政治やネクタイについて話すのだった。
Alors je ne lui parlais ni de serpents boas, ni de forêts vierges, ni d'étoiles. Je me mettais à sa portée. Je lui parlais de brige, de golf, de politique et de cravates.
「副詞」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」
「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「間接目的語」「動詞」「間接目的語」
Alors ｱﾛｰ adv.（接続詞的）それで 「副詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne lui parlais ﾇ･ﾘｭｲ･ﾊﾟﾙﾚ 3 単半･否定(parler)
v.t ～を彼に話さなかった 「動詞句」「間接目的語」「動詞句」
ni de serpents boas, ni de forêts vierges, ni d'étoiles
ﾆ･ﾄﾞｩ･ｾﾙﾊﾟﾝ･ﾎﾞｱ･ﾆﾄﾞｩ･ﾌｫﾚ･ｳﾞｨｴﾙｼﾞｭ･ﾆ･ﾃﾞﾄｩﾜｰﾙ
n. ボア大蛇のことや原始林のことや星のことも～ない 「直接目的語」
de は否定冠詞 parler+無冠詞名詞 「～の話をする、論じる」この parler は他動詞
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me mettais ﾑ･ﾒﾃ 1 単半(se mettre)v.pr（ある状況に）身を置いた 「動詞句」
à sa portée ｱ･ｻ･ﾎﾟﾙﾃ adv. その人の理解の及ぶ範囲（射程距離）に 「副詞句」
（話を合わせた）porté が la grande personne に性･数一致して portée になった
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

II

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
parlais ﾊﾟﾙﾚ 3 単半 (parler)v.i (de について) 話した 「動詞」
de brige, de golf, de politique et de cravates
ﾄﾞｩ･ﾌﾞﾘｯｼﾞ･ﾄﾞｩ･ｺﾞﾙﾌ･ﾄﾞｩ･ﾎﾟﾘﾃｨｷ･ｴ･ﾄﾞｩ･ｸﾗｳﾞｧｯﾄ
adv. ブリッジやゴルフや政治やネクタイについて 「間接目的語」
de は前置詞で、「～について」を表す「副詞句」・「間接目的語」を作る

すると、その大人は、かくも分別のある男だと知って、大変喜ぶのだった。
Et la grande personne était bien contente de connaître un homme aussi raisonnable.
Et「主語」「動詞」「補語」「副詞句」
Et ｴ conj. すると
la grande personne ﾗ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ n.f その大人は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
bien contente ﾋﾞｬﾝ･ｺﾝﾄﾝﾄ adj.f とても満足した 「補語」
de +不定詞 ﾄﾞｩ adv.（原因）～して 「副詞句」
connaître ｺﾈｰﾄﾙ 不定詞 v.t 知る 「動詞」
un homme ｱ･ﾉﾑ n.m 男が 「目的語」
aussi raisonnable ｵｼ･ﾚｿﾞﾅｰﾌﾞﾙ adj. そんなに分別のある 「補語」

II

こうして、僕は 6 年前、サハラ砂漠での故障まで、本心で話せる人もなく、一人で暮らしていた。僕のエンジンの中で何かが壊れたのだった。
J'ai ainsi vécu seul, sans personne avec qui parler véritablement, jusqu' à une panne dans le désert du Sahara, il y a six ans. Quelque chose s'était cassé dans mon moteur.
「主語」「動詞句」「補語」,「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai ainsi vécu ｴ･ｱﾝｼ･ｳﾞｪｷｭ 1 単現･完了形(vivre)v.i それで暮らしていた 「動詞句」
seul ｽﾙ adj. 一人の（状態で） 「補語」
sans ｿﾝ prep ～のない 「副詞句」
personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ n.f 人 「目的語」
avec qui ｱｳﾞｪｯｷ adj. その人と 「形容詞節」
parler véritablement ﾊﾟﾙﾚ･ｳﾞｪﾘﾀﾌﾞﾙﾓﾝ v.i 本心で話す「動詞句」
→ 本心で話す相手もなく
jusqu'a ｼﾞｭｽｶ prep ～まで(jusque) 「副詞句」
une panne ﾕﾝﾇ･ﾊﾟﾝﾇ n.f 故障 「目的語」

II

dans le désert du Sahara ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ･ｼﾞｭ･ｻｱﾗ adv. サハラ砂漠での 「副詞句」
il y a six ans ｲﾘ･ｱ･ｼ･ｻﾞﾝ adv. 6 年前 「副詞句」
→ 6 年前、サハラ砂漠での故障まで
Quelque chose ｹﾙｸ･ｼｮｰｽﾞ n.f 何かが 「主語」
s'était cassé ｾﾃ･ｶｾ 3 単半･完了形(se casser)v.pr 壊れた 「動詞句」
再帰動詞の完了形では、再帰代名詞が助動詞(être)の前に置かれる
dans mon moteur ﾄﾞﾝ･ﾓﾝ･ﾓﾃｰﾙ adv. 僕のエンジンの中で 「副詞句」

機関士も乗客もいなかったので、僕は難しい修理を一人で成し遂げようと準備した。
Et comme je n'avais avec moi ni mécanicien, ni passagers, je me préparai à essyer de réussir, tout seul, une réparation difficile.
Et「副詞節」,「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」
Et ｴ conj. そして
comme ｺﾑ conj. ～なので 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'avais ﾅｳﾞｪ 1 単半･否定(avoir)v.t なかった 「動詞句」
avec moi ｱｳﾞｪｷ･ﾑわ adv. 僕と一緒に 「副詞句」
ni mécanicien, ni passagers ﾆ･ﾒｶﾆｼｬﾝ･ﾆ･ﾊﾟｻｼﾞｪ
n. 整備士も乗客も～ない 「目的語」
→僕と一緒に整備士も乗客もいなかったので
me préparai à essayer de réussir ﾑ･ﾌﾟﾚﾊﾟﾚ･ｱ･ｴｾｲｪ･ﾄﾞｩ･ﾚｲｼｰﾙ 1 単過･準備(se préparer) v.t うまく成し遂げようと準備した 「動詞句」
essayer de+不定詞 ｴｯｾｲｴ･ﾄﾞｩ ～しようと試みる réussir ﾚｭｼｰﾙ v.i 成功する
tout seul ﾄｩ･ｽﾙ adv. 一人で 「副詞句」
une réparation difficile ｭﾝﾇ･ﾚﾊﾟﾗｼｵﾝ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ n.f 難しい修理を 「目的語」

それはぼくにとっては生か死かの問題であった。一週間分の飲み水が、やっとあった。
C'était pour moi une question de vie ou de mort. J'avais à peine de l'eau à boire pour huit jours.
「主語」「動詞」「副詞句」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」
C' ｽ pron これは 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
pour moi ﾌﾟｰﾙ･ﾑわ adv. 自分にとって 「副詞句」
une question de vie ou de mort ｭﾝﾇ･ｹｽﾁｮﾝ･ﾄﾞｩ･ｳﾞｨｰ･ｳ･ﾄﾞｩ･ﾓｰﾙ
n.f 生きるか死ぬかの問題 「補語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
avais ｱｳﾞｪ 1 単半(avoir)v.t 持っていた 「動詞」

II

à peine de l'eau à boire pour huit jours ｱ･ﾍﾟｰﾇ･ﾄﾞｩ･ﾛ･ｱ･ﾌﾞわｰﾙ･ﾌﾟｰﾙ･ﾕｲｯﾄ･ｼﾞｭｰﾙ
n.f せいぜい一週間分の飲み水しか～ない 「目的語」
à peine de ｱ･ﾍﾟｰﾇ･ﾄﾞｩ adj. せいぜい～の à boire ｱ･ﾌﾞわｰﾙ adj. 飲むための
pour huit jours ﾌﾟｰﾙ･ﾕｲｯﾄ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 一週間の間（数え始めの日から 8 日で一週間）

だから、第一日目の晩、僕は人の住んでいるあらゆる地域から千マイルも離れた砂の上で眠った。

Le premier soir je me suit donc endormi sur le sable à mille milles de toute terre habitée. 「主語」「動詞」「補語」
Le premier soir ﾙ･ﾌﾟﾙﾐｴ･ｽわｰﾙ n.m 第一日目の晩 「副詞句」
me suit donc endormi ﾑ･ｼｭｲ･ﾄﾞﾝ･ｵﾝﾄﾞﾙﾐ 1 単現･完了形(s'endormir+donc)
v.pr だから、僕は眠った 「動詞句」
sur le sable ｼｭｰﾙ･ﾙ･ｻｰﾌﾞﾙ adv. 砂の上で 「副詞句」
à mille milles de toute terre habitée ｱ･ﾐﾙ･ﾐﾙ･ﾄﾞｩ･ﾄｯﾄ･ﾃｰﾙ･ｱﾋﾞﾃ
adv. 人が住む全ての土地から千マイル離れた 「副詞句」
à mille milles ｱ･ﾐﾙ･ﾐﾙ adv. 千マイル離れた
de toute terre ﾄﾞｩ･ﾄｯﾄ･ﾃｰﾙ adv. 全ての土地から
habitée ｱﾋﾞﾃ adj.f 人が住んでいる（terre に性･数一致）

大海をさまよう救命ボートに乗った人よりも、はるかに孤立無援な状態だった。

J'étais bien plus isolé qu'un naufragé sur un radeau au milieu de l'océan.
「副詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
étais ｴﾃ 1 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
bien plus isolé ﾋﾞﾔﾝ･ﾌﾟﾘｭ･ｲｿﾞﾚ adj. もっと孤立した 「補語」
qu'un naufragé ｶﾝ･ﾉﾌﾗｼﾞｪ adv. 遭難者よりも 「副詞句」
sur un radeau ｼｭｰﾙ･ｱﾝ･ﾗﾄﾞ adv. 救命ボート（いかだ）の上にいる 「副詞句」
au milieu de l'océan ｵ･ﾐﾘｭｩ･ﾄﾞｩ･ﾛｾｱﾝ adv. 大海の真ん中の 「副詞句」
milieu ﾐﾘｭ n.m 真ん中 océan ｵｾｱﾝ n.m 大海

だから、夜明けに、おかしな可愛らしい声が僕を目覚めさせた時の僕の驚きを、君達は想像できるよね。

Alors vous imaginez ma surprise, au lever du jour, quand une drôle de petite voix m'a réveillé. 「副詞」「主語」「動詞」「目的語」,「副詞句」「副詞節」
Alors ｱﾛｰ adv.（接続詞的）だから 「副詞」
vous ｳﾞ pron 君たちは 「主語」

II

imaginez ｲﾏｼﾞﾈ 2 複現(imaginer)v.t 想像する（だろう） 「動詞」
ma surprise ﾏ･ｼｭﾙﾌﾟﾘｰｽﾞ n.f 僕の驚きを 「目的語」
au lever du jour ｵ･ﾙｳﾞｪ･ｼﾞｭ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 夜明けに 「副詞句」
quand ｺﾝ conj. ～するとき（～したならば） 「副詞節」
une drôle de petite voix ﾕﾝﾇ･ﾄﾞﾛｰﾙﾄﾞｩ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ･ｳﾞｫ
n.f おかしな可愛らしい声が 「主語」
un(e) drôle de ｱﾝ(ﾕﾝﾇ)･ﾄﾞﾛｰﾙ･ﾄﾞｩ adj. 奇妙な～、おかしな～
petit(e) ﾌﾟﾃｨ(ｯﾄ) adj. 可愛い、いとしい、小さい
m’ ﾑ pron 僕を 「目的語」
a réveillé ｱ･ﾚｳﾞｪｲｪ 3 単現･完了形(réveiller)v.t 起こした 「動詞句」

その声はこう言っていた. . . :
Elle disait : ... 「主語」「動詞」:
Elle ｴﾙ pron その声は(voix) 「主語」
disait ﾃﾞｨｾﾞ 3 単半(dire)v.t 言った 「動詞」

「どうか. . . 僕におとなしい羊の絵を描いて！」
《S’il vous plaît ... dessine-moi un mouton!
《「副詞節」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》
S’ ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il ｲﾙ pron それが（非人称主語） 「主語」
vous ｳﾞ pron あなたに 「間接目的語」
plaît ﾌﾟﾚ 3 単現(plaire)v.i 気に入る 「動詞」
→ もしあなたの気に入れば、済みませんが、どうか
dessine ﾃﾞｼﾇ 命・3 単現(dessiner)v.t 描いてください 「動詞」
moi ﾑｫ adv. 私に 「間接目的語」
un mouton ｱﾝ･ﾑｰﾄﾝ n.m（去勢した）おとなしい羊を 「直接目的語」

「え？」
--- Hein! 《「聞き返し」》
---Hein! ｱﾝ int. ええ？ 《「聞き返し」》

「僕に羊を描いて. . .」
--- Dessine-moi un mouton...》 《「応答」》
Dessine-moi un mouton... 《「応答」》

II

僕は、さながら雷に打たれでもしたみたいに、飛び起きた。

J'ai sauté sur mes pieds comme si j'avais été frappé par la foudre.

「主語」「動詞句」「副詞句」「副詞節」

J' ジュ pron 僕は 「主語」

ai sauté エ・ソテ 1 単現・完了形(sauter)v.i 飛びあがった 「動詞句」

sur mes pieds シュール・メ・ピエ adv. 起きて、立って 「副詞句」

→ 飛び起きた

comme si コム・シ conj. まるで〜かのように 「副詞節」

j' ジュ pron 僕が 「主語」

avais été frappé アヴェ・ゼテ・フラペ 1 単半・完了形・受動(frapper)

v.t 打たれた 「動詞句」

par la foudre パール・ラ・フードゥル adv. 雷に 「副詞句」

目を良くこすった。辺りをよく見た。

J'ai bien frotté mes yeux. J'ai bien regardé.

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」

J' ジュ pron 僕は 「主語」

ai bien frotté エ・ビヤン・フロテ 1 単現・完了形(frotter)v.t よくこすった 「動詞句」

mes yeux メ・ジュー pl.n.m 両目を 「目的語」

J' ジュ pron 僕は 「主語」

ai bien regardé エ・ビヤン・ルギャルデ 1 単現・完了形(regarder)v.t よく見まわした 「動詞句」

すると全く不思議な男の子が、真剣に僕を見つめているのが見えた。

Et j'ai vu un petit bonhomme tout à fait extraordinaire qui me considérait gravement.

Et「主語」「動詞句」「目的語」

Et エ conj. そして

j' ジュ pron 僕は 「主語」

ai vu エ・ヴュ 1 単現・完了形(voir)v.t 見えた 「動詞句」

un petit bonhomme アン・プティ・ボノム n.m 男の子が 「目的語」

tout à fait extraordinaire トゥ・タ・フェ・エクストラオルディネール adj. 全く不思議な「形容詞句」

qui キ conj. それは〜する 「形容詞節」

me ム pron 私を 「目的語」

considérait コンシデレ 3 単半(considérer)v.t 見つめていた 「動詞」

gravement グラーヴモン adv. 真剣に 「副詞」

II

後になって、僕が描いた一番良い肖像画がこれだ。

Voilà le meilleur portrait que, plus tard, j'ai réussi à faire de lui. 「副詞句」「主語」

Voilà ヴ゛わラ adv.（副詞・動詞の機能をかねる）ここに～がある 「副詞句」

le meilleur portrait ル・メイェール・ポ゜ルトレ n.m 最良の肖像画 「主語」

que ク conj. それは～する 「形容詞節」

plus tard プ゜リュ・タール adv. 後になって 「副詞句」

ai réussi à faire エ・レユシ・ア・フェール 1 単現・完了形(réussir à+不定詞)

v.t 上手く描くことができた 「動詞句」

de lui ド゛ゥ・リュイ adv. 彼を 「間接目的語」

しかし、もちろん、僕の絵は実物よりもはるかに魅力に欠けている。

Mais mon dessin, bien sûr, est beaucoup moins ravissant que le modèle.

Mais「主語」「副詞句」「動詞」「補語」

Mais メ conj. しかし

mon dessin モン・デ゛ッサン n.m 僕の絵は 「主語」

bien sûr ビ゛ヤン・シュール adv. もちろん 「副詞句」

est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

beaucoup moins ravissant ボ゛ク・ムわン・ラヴ゛ィソン adj. はるかに魅力に欠ける 「補語」

que le modèle ク・ル・モデ゛ル adv. 実物よりも 「副詞句」

それは僕が悪いのではない。

Ce n'est pas ma faute. 「主語」「動詞」「補語」

Ce ス pron それは 「主語」

n'est pas ネ・パ゜ 3 単現・否定(être)v.i ～ではない 「動詞句」

ma faute マ・フォート n.f 僕の責任 「補語」

六歳の時、大人たちによって絵描きのキャリアをくじかれてしまったので、僕は中の見えるボア大蛇と中の見えないボア大蛇を描く以外には、絵の描き方を何も学んでいなかった。

J'avais été découragé dans ma carrière de peintre par les grandes personnes, à l'âge de six ans, et je n'avais rien appris à dessiner, sauf les boas fermés et les boas ouverts.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」et「主語」「動詞句」「副詞句」

J' ジ゛ュ pron 僕は 「主語」

avais été découragé アヴ゛ェ・ゼ゛テ・デ゛クラジ゛ェ 1 単半・完了形・受動(décourager)

v.t（意気込みを）くじかれた 「動詞句」

dans ma carrière de peintre ド゛ン・マ・キャリエール・ド゛ゥ・パ゜ントル

adv. 僕の絵描きという職業に対して 「間接目的語」

II

par les grandes personnes ﾊﾟｰﾙ･ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ adv. 大人の人たちによって「副詞句」
à l'âge de six ans ｱ･ﾗｰｼﾞｭ･ﾄﾞｩ･ｼ･ｻﾞﾝ adv. 6 歳の年に 「副詞句」
et ｴ conj. それで
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'avais rien appris à dessiner ﾅｳﾞｪ･ﾘﾔ･ﾅﾌﾟﾘ･ｱ･ﾃﾞｼﾈ 1 単半･完了形(apprendre)
v.t 絵の描き方を何も習わなかった 「動詞句」
sauf les boas fermés et les boas ouverts ｿﾌ･ﾚ･ﾎﾞｱ･ﾌｪﾙﾒ･ｴ･ﾚ･ﾎﾞｱ･ｳｳﾞｪｰﾙ
adv. 中の見えないボア大蛇と中の見えるボア大蛇は別として 「副詞句」

そこで僕は、驚きですっかり丸くなった目で、その出現者を見つめた。
Je regardai donc cette apparition avec des yeux tout ronds d'étonnement.
「主語」「動詞」「副詞」「目的語」「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
regardai ﾙｷﾞｬﾙﾃﾞ 1 単過(regarder)v.t 見つめた 「動詞」
donc ﾄﾞﾝ adv. それ故、それで 「副詞」
cette apparition ｾｯﾄ･ｱﾊﾟﾘｼｵﾝ n.f この出現者を 「目的語」
avec des yeux ｱｳﾞｪｯｷ･ﾃﾞ･ｼﾞｭ adv. 両目で 「副詞句」
tout ronds d'étonnement ﾄｩ･ﾛﾝ･ﾃﾞﾄﾝﾇﾓﾝ
adj. 驚きですっかり丸くなった 「形容詞句：yeux」

僕がその時、人の住んでいる地域から千マイルも離れたところにいたということを忘れないで欲しい。
N'oubliez pas que je me trouvais à mille milles de toute région habitée.
「動詞句」「目的語」
N'oubliez pas ﾇﾌﾞﾘｴ･ﾊﾟ 接・2 複現･否定･願望(oublier)
v.t 忘れないで欲しい 「動詞句」
que ｸ conj. ～ということ 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me trouvais ﾑ･ﾄｩﾙｳﾞｪ 1 単半(se trouver)v.pr（場所に）いた 「動詞句」
à mille milles de toute région habitée ｱ･ﾐﾙ･ﾐﾙ･ﾄﾞｩ･ﾄｯﾄ･ﾚｼﾞｮﾝ･ｱﾋﾞﾃ
adv. 僕が人が住むすべての土地から千マイル離れた所に 「副詞句」

II

さて、その男の子は、道に迷っているようには見えないし、疲れ切っているようにも、死ぬほどお腹がすいているようにも、死ぬほど喉が渇いているようにも、死ぬほど怖がっているようにも僕には見えない。

Or mon petit bonhomme ne me semblait ni égare, ni mort de fatigue, ni mort de faim, ni mort de soif, ni mort de peur. Or「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「補語」

Or ｵｰﾙ conj. さて

mon petit bonhomme ﾓﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ n.m その少年は 「主語」

ne ... semblait ﾇ...ｿﾝﾌﾞﾚ 3 単半(sembler)

v.i (à qn 人には) ～のように見えなかった 「動詞句」

me ﾑ pron 私には 「間接目的語」

ni égare, ni mort de fatigue ﾆ･ｴｶﾞﾚ･ﾆ･ﾓｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾌｧﾃｨｸﾞ

adj. 道に迷った風にも、疲れて死にそうな風にも～ない 「補語」

ni mort de faim, ni mort de soif, ni mort de peur

ﾆ･ﾓｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾌｧﾑ･ﾆ･ﾓｰﾙ･ﾄﾞｩ･ｽｫﾌ･ﾆ･ﾓｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾍﾟｰﾙ adj. 死ぬほど空腹な風にも、死ぬほど喉が渇いている風にも、死ぬほど怖がっている風にも 「補語」

ne me semblait 動詞の否定は ne、補語や目的語の連続否定は ni を使用する。

人の住んでいる地域から千マイルも離れている砂漠の真ん中で、途方に暮れている子供、といった様子が少しもなかった。

Il n'avait en rien l'apparence d'un enfant perdu au milieu du désert, à mille milles de toute région habitée. 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

n'avait ﾅｳﾞｪ 3 単半･否定(avoir)v.t なかった 「動詞句」

en rien ｵﾝ･ﾘｬﾝ adv. 少しも～ない 「副詞句」

l'apparence ﾗﾊﾟﾛﾝｽ n.f 様子が 「目的語」

d'un enfant perdu ﾀﾞ･ﾉﾝﾌｫﾝ･ﾍﾟﾙﾃﾞｭ

adj. 途方に暮れた少年の 「形容詞句：apparence」

au milieu du désert, à mille milles de toute région habitée

ｵ･ﾐﾘｭ･ｼﾞｭ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ･ｱ･ﾐﾙ･ﾐﾙ･ﾄﾞｩ･ﾄｯﾄ･ﾚｼﾞｮﾝ･ｱﾋﾞﾃ

adv. 人の住む土地から千マイル離れた砂漠の真ん中で 「副詞句：perdu」

やっと口がきけるようになると、僕は彼に言った：

Quand je réussis enfin à parler, je lui dis: 「副詞節」,「主語」「間接目的語」「動詞」:

Quand ｺﾝ conj. ～する時、～して 「副詞節」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

réussis ... à parler ﾚｭｼ...ｱ･ﾊﾟﾙﾚ 1 単過(reussir à+不定詞)

II

v.i 喋れるようになった 「動詞句」
enfin ｵﾝ･ﾌｧﾝ adv. やっと 「副詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
lui ﾕｲ pron 彼に 「間接目的語」
dis ﾃﾞｨ 1 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

「だけど... こんなところで、何してるの」

《Mais ... qu'est-ce que tu fais là?》 《Mais「目的語」「主語」「動詞」「副詞」》
Mais ﾒ conj. だけど
qu'est-ce que ｹｽ･ｸ n. 何を 「目的語」
fais ﾌｪ 2 単現(faire)v.t している 「動詞」
là ﾗ adv. ここで 「副詞」
là は場所を表す副詞で、「ここ、そこ、ここで、そこで」の意味

すると彼はとても深刻な事のように、実に物静かに繰り返した。

Et il me répéta alors, tout doucement, comme une chose trés sérieuse:
Et 「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞」,「副詞句」
Et ｴ conj. すると
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 私に 「間接目的語」
répéta ﾚﾍﾟﾀ 3 単過(répéter)v.t 繰り返した 「動詞」
alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」
tout doucement ﾄｩ･ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. とても静かに 「副詞句」
comme une chose trés sérieuse ｺﾑ･ﾕﾝﾇ･ｼｮｰｽﾞ･ﾄﾚ･ｾﾘｳｰｽﾞ
adv. とても深刻なことのように 「副詞句」

「どうか... 僕におとなしい羊の絵を描いて...」

《S'il vous plaît ... dessine-moi un mouton ...》
《「嘆願」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》
S'il vous plaît ｼﾙ･ｳﾞ･ﾌﾟﾚ adv. お願いですから 「嘆願」
dessine ﾃﾞｼﾇ 命・2 単現(dessiner)v.t 描いてください 「動詞」
moi ﾑわ pron 私に 「間接目的語」
un mouton ｱﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊を 「直接目的語」

II

神秘というものがあまりにも感銘深い時には、人はあえて従わない訳にはいかない。

Quand le mystère est trop impressionnant, on n'ose pas désobéir.

「副詞節」,「主語」「動詞句」

Quand ｺﾝ conj. 〜の時には 「副詞節」

le mystère ﾙ･ﾐｽﾃｰﾙ n.m 神秘が 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i 〜である 「動詞」

trop impressionnant ﾄﾛ･ｱﾝﾌﾟﾚｼｮﾉﾝ adj. あまりにも感動的な 「補語」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

n'ose pas désobéir ﾉｽﾞ･ﾊﾟ･ﾃﾞｿﾞﾍﾞｲｰﾙ 3 単現･否定(oser +不定詞)

v.t あえて従わない訳にはいかない、自然と従ってしまうものだ 「動詞句」

人が住むすべての地域から、千マイルも離れていて、その上、死の危険にさらされている時、羊の絵を描くなどということが、どんなに馬鹿げているように見えようと、僕はポケットから一枚の紙と万年筆を取り出した。

Aussi absurde que cela me semblât à mille milles de tous les endroits habités et en danger de mort, je sortis de ma poche une feuille de papier et un stylographe.

「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Aussi 形容詞 que + 接続法 どんなに〜であっても 「副詞節」

Aussi ｵｼ adv. どれほど 「副詞」

absurde ｱﾌﾟｼｭﾙﾄﾞｩ adj.馬鹿げた 「補語」

que ｸ conj. 〜ということ 「形容詞節」

cela ｽﾗ pron これが（羊の絵を描く事） 「主語」

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」

semblât ｿﾝﾌﾞﾗ 接・3 単半(sembler)v.i 見えても 「動詞」

à mille milles de tous les endroits habités ｱ･ﾐﾙ･ﾐﾙ･ﾄﾞｩ･ﾄｩ･ﾚ･ｵﾝﾄﾞﾛﾜ･ｱﾋﾞﾃ

adv. 人が住む地域から千マイルも離れて 「副詞句」

et en danger de mort ｴ･ｵﾝ･ﾄﾞﾝｼﾞｪ･ﾄﾞｩ･ﾓｰﾙ

adv そして死の危険にさらされて 「副詞句」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

sortis ｿﾙﾃｨ 1 単過(sortir)v.t 取り出した 「動詞」

de ma poche ﾄﾞｩ･ﾏ･ﾎﾟｯｼｭ adv. ポケットから 「副詞句」

une feuille de papier et un stylographe ﾕﾝﾇ･ﾌｲｭ･ﾄﾞｩ･ﾊﾟﾋﾟｴ･ｴ･ｱﾝ･ｽﾃｨﾛｸﾞﾗﾌ

pl.n. 一枚の紙と万年筆を 「目的語」

II

けれどもその時、地理と歴史と算数と文法をとりわけ勉強したことを思い出し、その坊やに（少し不機嫌に）絵は描けない、と言った。彼はこう答えた。

Mais je me rappelai alors que j'avais surtout étudié la géographie, l'histoire, le calcul et la grammaire et je dis au petit bonhomme (avec un peu de mauvaise humeur) que je ne savais pas dessiner. Il me répondit:

Mais「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」

et「主語」「動詞」「間接目的語」（「副詞句」）「直接目的語」

「主語」「動詞」「間接目的語」

Mais メ conj. しかし

me rappelai ﾑ･ﾗﾌﾟﾚ 1 単過(se rappeler)v.pr 思いだした 「動詞句」

alors ｱﾛｰ adv. その時 「副詞」

que ｸ conj. ～ということ 「目的語」

avais surtout étudié ｱｳﾞｪ･ｼｭﾙﾄｳ･ｴﾃｭﾃﾞｨｴ 1 単半･完了形(étudeier+ surtout)

v.t とりわけ勉強した 「動詞句」

la géographie, l'histoire, le calcul et la grammaire

ﾗ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌｨｰ･ﾘｽﾄﾜｰﾙ･ﾙ･ｶﾙｷｭﾙ･ｴ･ﾗ･ｸﾞﾗﾒｰﾙ

pl.n. 地理と歴史と算数と文法を 「目的語」

et ｴ conj. そして

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

dis ﾃﾞｨ 1 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

au petit bonhomme ｵ･ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ adv. その坊やに 「間接目的語」

(avec un peu de mauvaise humeur) ｱｳﾞｪｯｷ･ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾄﾞｳ･ﾓｳﾞｪｰｽﾞ･ｲﾑｰﾙ

adv. 少し不機嫌に （「副詞句」）

que ｸ conj. ～ということ 「直接目的語」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ne savais pas dessiner ﾇ･ｻｳﾞｪ･ﾊﾟ･ﾃﾞｼﾈ 1 単半･可能･否定 (savoir+不定詞)

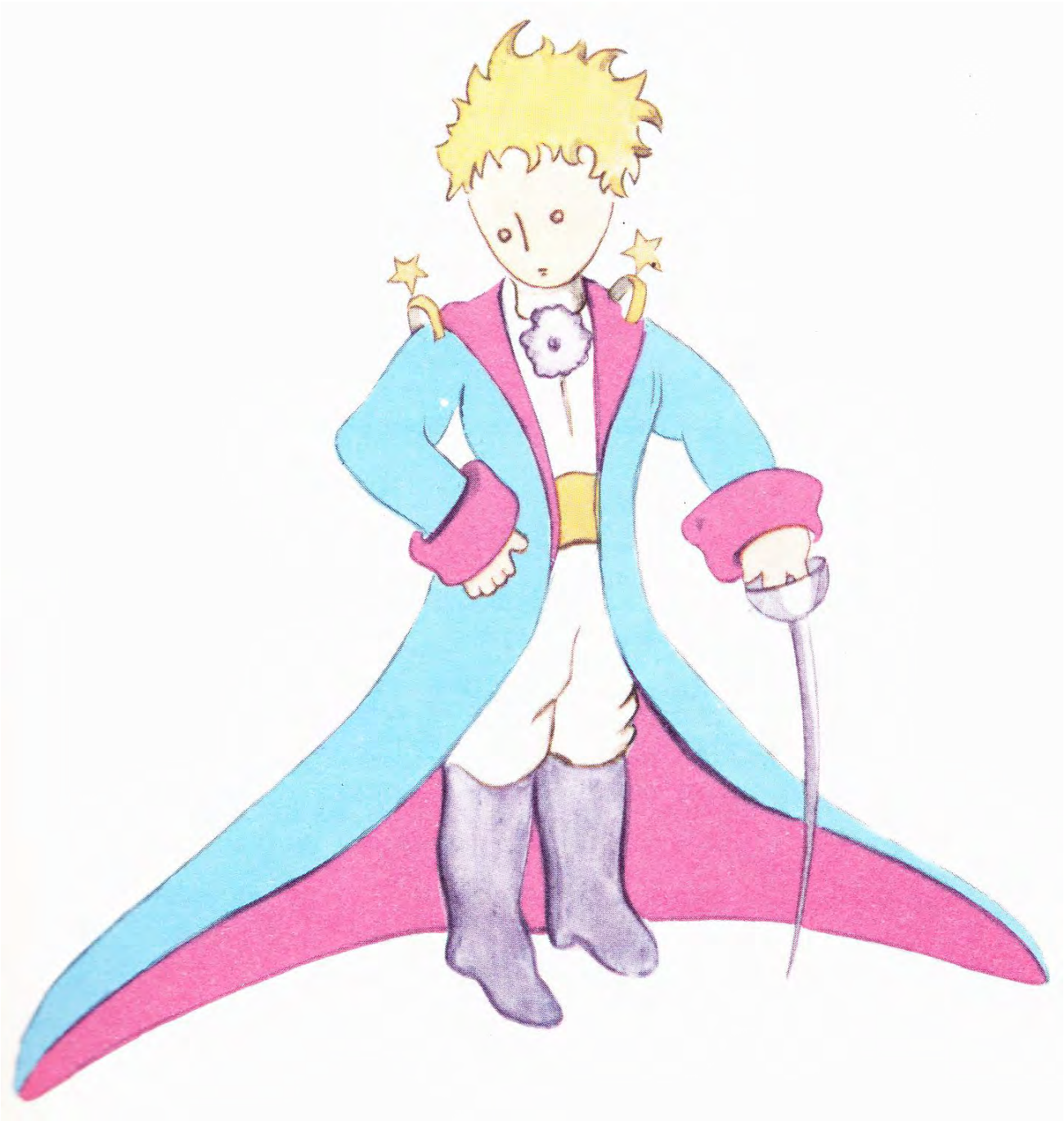
v.t 描くことができない 「動詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

II



II

「なんでもないよ。羊を描いて。」

《Ça ne fait rien. Dessine-moi un mouton.》

《「主語」「動詞句」「目的語」 | 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

Ça サ pron それは 「主語」

ne fait ネ･フェ 3 単現･否定(faire)v.t（結果を）影響を及ぼさない 「動詞句」

rien リャン pron 何も 「目的語」

Dessine デシーヌ 命・2 単現(dessiner)v.t 描いて 「動詞」

moi ムわ pron 僕に 「間接目的語」

un mouton アン･ムトン n.m 羊（の絵を） 「直接目的語」

僕は羊の絵を描いたことが一度も無かったので、僕が描くことのできるたった二つの絵のうちの一つを描いた。

Comme je n'avais jamais dessiné un mouton je refis, pour lui, l'un des deux seul dessins dont j'étais capable. 「副詞節」「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Comme コム conj. ～なので 「副詞節」

je ジュ pron 僕は 「主語」

n'avais jamais dessiné ナヴェ･ジャメ･デシネ 1 単半･完了形･否定(dessiner) v.t これまで一度も描いたことがなかった 「動詞句」

un mouton アン･ムトン n.m 羊（の絵を） 「目的語」

je ジュ pron 僕は 「主語」

refis ルフィ 1 単過(refaire)v.t 再び描いた 「動詞」

pour lui プール･リュイ adv. 彼のために 「副詞句」

l'un des deux seul dessins ラン･デ･ドゥ･スル･デサン n.m たった二つの中の一つを 「目的語」

dont ドン pron ～の中の 「形容詞節：dessins」

j' ジュ ジュ pron 僕が 「主語」

étais エテ 1 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

capable カプル adj. 描くことができる 「補語」

中の見えないボア大蛇を。すると坊やがこう言うのを耳にして、僕は唖然とした。

Celui du boa fermé. Et je fus stupéfait d'entendre le petit bonhomme me répondre:

「目的語」 | Et「主語」「動詞句」「目的語」「補語」

Celui スリュイ pron 絵を(dessins)（描いた） 「目的語」

du boa fermé ジュ･ボア･フェルメ adj. 中の見えないボア大蛇の 「形容詞句」

Et エ conj. そして

je ジュ pron 僕は 「主語」

II

fus stupéfait d'entendre ﾌｭ･ｽﾁｭﾍﾟﾌｪ･ﾄﾞﾝﾄﾝﾄﾞﾙ 1 単過･受動(stupefaire de+不定詞)
v.t ～を聞いて驚いた 「動詞句」
le petit bonhomme ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ n.m 坊やが 「目的語」
me répondre ﾑ･ﾚﾎﾟﾝﾄﾞｩﾙ 不定詞句 v.i 僕に応えた 「補語」

「違う、違う！ボア大蛇に飲まれた象なんか、欲しくないよ。
《Non! Non! Je ne veux pas d'un éléphant dans un boa.
「応答」 | 「主語」「動詞句」「目的語」
Non! Non! ﾉﾝ･ﾉﾝ adv. 違う、違う！ 「応答」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne veux pas ﾇ･ｳﾞ･ﾊﾟ 1 単現･否定(vouloir)v.t 欲しくない 「動詞句」
d'un éléphant ﾀﾞﾝ･ｴﾚﾌｫﾝ n.m 象を（de は否定冠詞） 「目的語」
dans un boa ﾄﾞﾝ･ｻﾞﾝ･ﾎﾞｱ adj. ボア大蛇の中の 「形容詞句」

ボア大蛇。それはすごく危険なんだ。それに象、それはすごく場所ふさぎだよ。
Un boa c'est très dangereux, et un éléphant c'est très encombrant.
「主語」「動詞」「補語」et「主語」「動詞」「補語」
Un boa c' ｱﾝ･ﾌﾞわ･ｽ n.m ボア大蛇、それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
très dangereux ﾄﾚ･ﾄﾞﾝｼﾞｭﾙｰ adj. とても危険な 「補語」
et ｴ conj. そして
un éléphant c' ｴﾝ･ｴﾚﾌｫﾝ･ｽ n.m 象、それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
très encombrant ﾄﾚ･ｵﾝｺﾝﾌﾞﾛﾝ adj. とても場所ふさぎの 「補語」

僕んとこは、とっても狭いんだ。羊が必要なんだよ。僕に羊を描いて」
Chez moi c'est tout petit. J'ai besoin d'un mouton. Dessine-moi un mouton.》
「副詞句」「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」
「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
Chez moi ｼｪ･ﾑわ adv. 僕の所は 「副詞句」
c' ｽ pron それは 「主語」
tout petit ﾄｩ･ﾌﾟﾃｨ adj. とても狭い 「補語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t がある 「動詞」
besoin d'un mouton ﾌﾞｽﾞﾜﾝ･ﾀﾞﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊の必要 「目的語」
Dessine ﾃﾞｼｰﾇ 命・2 単現(dessiner)v.t 描いて 「動詞」

II

moi ﾑわ pron 僕に 「間接目的語」
un mouton ｱﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊（の絵を） 「直接目的語」

そこで僕は描いた。彼はじっと注意深く眺めてから、こう言った：

Alors j'ai dessiné. Il regarda attentivement, puis：

「副詞」「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞」,「副詞」

Alors ｱﾛｰ adv. そこで 「副詞」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai dessiné ｴ･ﾃﾞｼﾈ 1 単現･完了形(dessiner)v.t 描いた 「動詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
regarda ﾙｷﾞｬﾙﾀﾞ 3 単過(regarder)v.t 眺めた 「動詞」
attentivement ｱﾄﾝﾃｨｳﾞﾓﾝ adv. 注意深く 「副詞」
puis ﾋﾟｭｲ adv. それから（次のように言った） 「副詞」

「だめだよ！これはひどい病気にかかっている。別のを描いて」

《Non! Celui-là est déjà très malade. Fais-en un autre.》

《「応答」 | 「主語」「動詞」「副詞」「補語」 | 「動詞」「目的語」》

Non ﾉﾝ adv. 違う 「応答」
Celui-là ｽﾘｭｲ･ﾗ pron これは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
déjà ﾃﾞｼﾞｬ adv. もう 「副詞」
très malade ﾄﾚ･ﾏﾗｯﾄﾞ adj. ひどい病気の 「補語」
Fais ﾌｪ 命・2 単現(faire)v.t 描いて 「動詞」
en un autre ｵﾝ･ｱﾝ･ｵｰﾄﾙ n.m 別の羊を（en は mouton） 「目的語」

僕は描きなおした：

Je dessinai： 「主語」「動詞」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
dessinai ﾃﾞｼﾈ 1 単過(dessiner)v.t 描いた 「動詞」

II

僕の友達は、寛大げに優しくにっこりした：

Mon ami sourit gentiment, avec indulgence： 「主語」「動詞」「副詞句」：

Mon ami モ･ナミ n.m 僕の友人は 「主語」

sourit スリ 3 単過(sourire)v.i 微笑んだ 「動詞」

gentiment ジョンティモン adv. 優しく

avec indulgence アヴェッキ･アンデュルジョンス adv. 寛大げに 「副詞句」

「良く見て... これはおとなしい羊じゃなくて、オスだよ。角がある...」

《Tu vois bien ... ce n'est pas un mouton, c'est un bélier. Il a des cornes ...》

《「呼びかけ」「動詞」「副詞」---

「主語」「動詞句」「補語」,「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語》

Tu チュ pron 君 「呼びかけ」

vois ヴォワ 命・2 単現(voir)v.t 見なさい 「動詞」

bien ビヤン adv. よく 「副詞」

ce ス pron これは 「主語」

n'est pas ネ･パ 3 単現・否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

un mouton アン･ムトン n.m （去勢した）やさしい雄羊 「補語」

c' ス pron これは 「主語」

est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

un bélier アン･ベリエ n.m （去勢していない）雄羊 「補語」

Il イル pron それは 「主語」

a ア 3 単現(avoi)v.t ある 「動詞」

des cornes デ･コルヌ pl.n.f 角 「目的語」

そこで僕は、また描きなおした：でも、それは前作と同じように拒否されてしまった：

Je refis donc encore mon dessin：Mais il fut refusé, comme les précédents：

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」：Mais「主語」「動詞句」「副詞句」：

Je ジュ pron 僕は 「主語」

refis ルフィ 3 単過(refaire)v.t 描き直した 「動詞」

donc encore ドン･オンコール adv. そこでまた 「副詞句」

mon dessin モン･デサン 僕の絵を 「目的語」

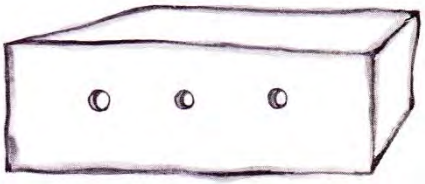
Mais メ conj. ところが、しかし

il イル pron それは（その絵は） 「主語」

II

fut refusé ﾌｭ･ﾙﾌｭｾﾞ 3 単過･受動(refuser)v.t 拒否された 「動詞句」
comme les précédents ｺﾑ･ﾚ･ﾌﾟﾚｾﾄﾞﾝ adv. 前作と同様に 「副詞句」

「これは年寄りだよ。うんと長生きする羊が欲しいんだ」
《Celui-là est trop vieux. Je veux un mouton qui vive longtemps.》
《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」》
Celui-là ｽﾘｭｲ･ﾗ pron.m これは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
trop vieux ﾄﾛ･ｳﾞｭ adj. 年を取り過ぎた 「補語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
veux ｳﾞ 1 単現(vouloir)v.t 欲しい 「動詞」
un mouton ｱﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊を 「目的語」
qui ｷ conj. ～するような 「形容詞節：mouton」
vive ｳﾞｨｳﾞ 接・3 単現(vivre)v.i 生きるような 「動詞」
longtemps ﾛﾝﾄﾝ adv. 長い間 「副詞句」



僕は、エンジンの分解を始めるのを急いでいたので、我慢できなくなって、こんな絵を描きなぐった。そしてこう言い放った。
Alors, faute de patience, comme j'avais hâte de commencer le démontage de mon moteur, je griffonnai ce dessin-ci：Et je lançai：
「副詞句」,「主語」「動詞」「目的語」：Et「主語」「動詞」：
Alors ｱﾛｰ adv.（接続詞的に）それで 「副詞」
faute de patience ﾌｫｯﾄ･ﾄﾞｩ･ﾊﾟｼｮﾝｽ adv.（理由）我慢できなくて 「副詞句」
faute de ... 「～がないので」
comme ｺﾑ conj.（原因･理由）～なので 「副詞節」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
avais hâte de commencer ｱｳﾞｪ･ｱｰﾄｩ･ﾄﾞｩ･ｺﾓﾝｾ 1 単半(avoir hâte de +不定詞)
v.t ～を早く始めたかった 「動詞句」
avoir hâte de +不定詞 「早く～したいと思う」
le démontage de mon moteur ﾙ･ﾃﾞﾓﾝﾀｼﾞｭ･ﾄﾞｩ･ﾓﾝ･ﾓﾄｩｰﾙ
n.m エンジンの分解を 「目的語」
démontage ﾃﾞﾓﾝﾀｼﾞｭ n.m 分解、取り外し
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
griffonnai ｸﾞﾘﾌｫﾈ 1 単過(griffonner)v.t 描きなぐった 「動詞」
ce dessin-ci ｽ･ﾃﾞｻﾝ･ｼ n.m こんな絵を 「目的語」

II

Et je lançai : Et「主語」「動詞」
Et エ conj. そして
je ジュ pron 僕は 「主語」
lançai ロンセ 1 単過(lancer)v.t（言葉を）放った 「動詞」

「これは箱だよ。君の欲しい羊はこの中にいるよ」
《Ça c'est la caisse. Le mouton que tu veux est dedans.》
《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞」》
《Ça c' サ・ス pron これは 「主語」
est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
la caisse ラ・ケース n.f 箱 「補語」
Le mouton ル・ムトン n.m 羊は 「主語」
que ク conj. ～する 「形容詞節：mouton」
tu チュ pron 君が 「主語」
veux ヴ 2 単現(vouloir)v.t 欲しがっている 「動詞」
est エ 3 単現(être)v.i いる 「動詞」
dedans ドゥトン adv. 中に 「副詞」

しかし僕はわが幼い審査員の顔が、パッと明るくなったのを見て、非常に驚いた：
Mais je fus bien surpris de voir s'illumener le visage de mon jeune juge：
Mais「主語」「動詞句」「補語」「目的語」：
Mais メ conj. しかし
je ジュ pron 僕は 「主語」
fus bien surpris de voir フュ・ビヤン・シュルプリ・ドゥ・ヴわ-ル 1 単過・受動
(être surpris de+不定詞)v.t ～を見てとても驚いた 「動詞句」
s'illumener シリュミネ 不定詞句 明るくなるのを 「補語」
le visage ル・ヴィザージュ n.m（不定詞の主語）顔色が 「目的語」
de mon jeune juge ドゥ・モン・ジュンヌ・ジュージュ
adj. 僕の幼い審査員の 「形容詞句：visage」

「僕が欲しかったのは、まったくこんなのだったのさ！この羊には、草がうんと必要だと思う？」
《C'est tout à fait comme ça que je le voulais! Crois-tu qu'il faille beaucoup d'herbe à ce mouton?
《「動詞」「補語」「主語」 | 「動詞」「主語」「目的語」》
《C' ス pron それは（形式主語）
est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

II

tout à fait comme ça ﾄｩ･ﾀﾌｪ･ｺﾑ･ｻ n. 全くこんなの 「補語」
que ｸ conj. ～するものは 「主語」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
le ﾙ pron それを（dessiner） 「目的語」
voulais ｳﾞﾚ 1 単半(vouloir)v.t 望んでいる 「動詞」
Crois ｸﾛわ 2 単現(croire)v.t 思う 「動詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
qu’ ｸ conj. ～ということ 「目的語」
il ｲﾙ pron 非人称主語
faille ﾌｧｲﾕ 接・3 単現(falloir)v.h 必要だと 「動詞」
beaucoup d’herbe ﾎﾞｸ･ﾃﾞﾙﾌﾞ n.f 沢山の草が 「主語」
à ce mouton ｱ･ｽ･ﾑﾄﾝ adv. この羊に 「間接目的語」

「どうして」
--- Pourquoi? 《「副詞」》
--- Pourquoi ﾌﾟﾙｸわ adv. どうして？ 「副詞」

「だって、ぼくんとこはとっても狭いから...」
--- Parce que chez moi c’est tout petit ... 《「副詞節」》
--- Parce que ﾊﾟﾙｽ･ｸ adv. ～だから 「副詞節」
chez moi c’ ｼｪ･ﾑわ･ｽ n. 僕のところは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
tout petit ﾄｩ･ﾌﾟﾃｨ adj. とても小さい 「補語」

「きっと、ちょうどいいよ。実に小さな羊をあげたんだから」
--- Ça suffira sûrement. Je t’ai donné un tout petit mouton.》
《「主語」「動詞」「副詞」 | 「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」》
--- Ça ｻ pron それは 「主語」
suffira ｼﾌｨﾗ 3 単未･推量(suffire)v.i 十分だろう 「動詞」
sûrement ｼｭｰﾙﾓﾝ adv. きっと 「副詞：suffira」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
t’ ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」
ai donné ｴ･ﾄﾞﾈ 1 単現･完了形(donner)v.t あげた 「動詞句」
un tout petit mouton ｱﾝ･ﾄｩ･ﾌﾟﾃｨ･ﾑﾄﾝ n.m 全く小さい羊を 「直接目的語」

II

彼は絵の方へ顔を傾けた。

Il pencha la tête vers le dessin： 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」：

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

pencha ﾎﾟﾝｼｬ 3 単過(pencher)v.t 傾けた 「動詞」

la tête ﾗ･ﾃｯﾄｩ n.f 顔を 「目的語」

vers le dessin ｳﾞｪｰﾙ･ﾙ･ﾃﾞｻﾝ adv. 絵の方へ 「副詞句：pencha」

「それほど小さくもないな... おや！眠っちゃったよ...」

《Pas si petit que ça... Tiens! Il s'est endormi ...》

《「補語」 | 「感嘆」 | 「主語」「動詞句」》

《Pas si petit ﾊﾟ･ｼ･ﾌﾟﾃｨ adj. (部分否定) そんなに小さくない 「補語」

que ça ｸ･ｻ adv. それ程 「副詞」

Tiens ﾃｨｱﾝ int. (驚き) おや 「感嘆」

Il ｲﾙ pron 羊が 「主語」

s'est endormi ｾ･ｵﾝﾄﾞﾙﾐ 3 単現･完了形(s'endormir)v.i 眠った 「動詞句」

こうして、僕はその王子さまと知り合いになった。

Et c'est ainsi que je fis la connaissance du petit prince. Et「動詞」「副詞」「主語」

Et ｴ conj. そして

c' ｽ pron 形式主語

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

ainsi ｵﾝｼ adv. このように 「副詞」

que ｸ conj. ～ということは 「主語」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

fis ﾌｨ 3 単過(faire)v.t ～になった 「動詞」

la connaissance du petit prince ﾗ･ｺﾈｿﾝｽ･ｼﾞｭ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ

n.f 王子様と知り合い 「目的語」

faire la connaissance de qn. 「人と知り合いになる」

C'est ... que 節 「～は... である」という強調構文

III

III

王子様がどこから来たのかを理解するためには、僕には長い時間が必要だった。

Il me fallut longtemps pour comprendre d'où il venait.

「間接目的語」「動詞」「主語」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 非人称主語

me ﾑ pron 私にとって 「間接目的語」

fallut ﾌｧﾘｭ 3 単過(falloir)v.h 必要だった 「動詞」

longtemps ﾛﾝﾄﾝ n.m 長い時間が 「主語」

pour comprendre ﾌﾟｰﾙ･ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞｩﾙ adv. 知るためには 「副詞句：fallut」

d'où ﾄﾞｩ adv. どこから～するということを 「目的語」

il ｲﾙ pron 彼が 「主語」

venait ｳﾞﾈ 3 単半(venir)v.i 来た 「動詞」

王子さまは僕に多くの質問をしたが、僕の質問には決して耳を傾けてくれないように見えた。

Le petit prince, qui me posait beaucoup de questions, ne semblait jamais entendre les miennes.

「主語」「動詞句」「目的語」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

qui ｷ conj. （彼は）～する 「形容詞節：prince」

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」

posait ﾎﾟｾﾞ 3 単半(poser)v.t（質問を）した 「動詞」

beaucoup de questions ﾎﾞｸ･ﾄﾞｩ･ｹｽﾁｮﾝ

n.f 沢山の質問を 「直接目的語」

ne semblait jamais entendre ﾇ･ｿﾝﾌﾞﾚ･ｼﾞｬﾒ･ｵﾝﾄﾝﾄﾞｩﾙ 3 単半･否定(sembler+不定詞)

III

v.t 決して耳を傾けないように見えた 「動詞句」
les miennes ﾚ･ﾐｴﾝﾇ pl.n.f 僕の質問に 「目的語」

少しずつ僕に全容を明かしたのは、たまたま発せられた言葉だった。
Ce sont des mots prononcés par hasard qui, peu à peu, m'ont tout révélé.
「主語」「動詞」「補語」
Ce ｽ pron それは 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
des mots ﾃﾞ･ﾓ pl.n.m 言葉 「補語」
prononcés par hasard ﾌﾟﾛﾉﾝｾ･ﾊﾟｰﾙ･ｱｻﾞｰﾙ
adj. たまたま発せられた 「形容詞句：mots」
qui ｷ pron （その言葉は）～する 「形容詞節：mots」
peu à peu ﾌﾟ･ｱ･ﾌﾟ adv. 少しずつ 「副詞句」
m' ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
ont ...révélé ｵﾝ...ﾚｳﾞｪﾚ 3 複現･完了形(révéler)
v.t（未知の事実を）明かした 「動詞句」
tout ﾄｩ pron すべてを 「直接目的語」

こうして、彼がはじめて僕の飛行機に気づいたとき（僕は、飛行機の絵は描かない。僕には複雑すぎる絵だ）、彼はこう訊いた：
Ainsi, quand il aperçut pour la première fois mon avion (je ne dessinerai pas mon avion, c'est un dessin beaucoup trop compliqué pour moi) il me demanda:
「副詞」,「副詞節」（「主語」「動詞句」「目的語」,「主語」「動詞」「補語」）
「主語」「間接目的語」「動詞」：
Ainsi ｱﾝｼ adv. こうして 「副詞」
quand ｺﾝ conj. ～する時 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
aperçut ｱﾍﾟﾙｼｭ 3 単過(apercevoir)v.t 見た 「動詞」
pour la première fois ﾌﾟｰﾙ･ﾗ･ﾌﾟﾙﾐｪｰﾙ･ﾌｧ adv. 初めて 「副詞句：aperçut」
mon avion ﾓ･ﾅｳﾞｨｮﾝ n.m 僕の飛行機を 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne dessinerai pas ﾇ･ﾃﾞｼﾇﾚ･ﾊﾟ 1 単未･否定(dessiner)v.t 描かない 「動詞句」
mon avion ﾓ･ﾅｳﾞｨｮﾝ n.m 飛行機を 「目的語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
un dessin ｱﾝ･ﾃﾞｯｻﾝ n.m 絵 「補語」

III

beaucoup trop compliqué pour moi ﾎﾞｸ･ﾄﾛ･ｺﾝﾌﾟﾘｹ･ﾌﾟｰﾙ･ﾑﾜ
adj. 僕には難しすぎる 「形容詞句：dessin」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 私に 「間接目的語」
demanda ﾄﾞｩﾓﾝﾀﾞ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」

「このモノは、いったい何なの」
《Qu'est-ce que c'est que cette chose-là? 《「補語」「動詞」「主語」》
Qu'est-ce que c' ｹｽ･ｸ･ｽ n. 何 「補語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
que cette chose-là ｸ･ｾｯﾄ･ｼｮｰｽﾞ･ﾗ n. この物は 「主語」

「これはモノじゃないよ。これは飛ぶんだ。飛行機だよ。僕の飛行機」
--- Ce n'est pas une chose. Ça vole. C'est un avion. C'est mon avion.》
《「主語」「動詞句」「補語」 ┃ 「主語」「動詞」
「主語」「動詞」「補語」 ┃ 「主語」「動詞」「補語」》
Ce ｽ pron それは 「主語」
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～ではない 「動詞句」
une chose ﾕﾝﾇ･ｼｮｰｽﾞ n.f もの 「補語」
Ça ｻ pron それは 「主語」
vole ｳﾞｫﾙ 3 単現(voler)v.i 飛ぶ 「動詞」
C'est ｾ 3 単現(être)v.i ～である 「主語」「動詞」
un avion ｱ･ﾅｳﾞｨｮﾝ n.m 飛行機 「補語」
C'est ｾ 3 単現(être)v.i ～である 「主語」「動詞」
mon avion ﾓ･ﾅｳﾞｨｮﾝ n.m 僕の飛行機 「補語」

僕は、空を飛ぶんだということを教えることができて、誇らしかった。すると、彼は大声で言った。
Et j'étais fier de lui apprendre que je volais. Alors il s'écria:
Et「主語」「動詞」「補語」「副詞句」 ┃ 「副詞」「主語」「動詞句」:
Et ｴ conj. そして
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
étais ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
fier ﾌｨｪｰﾙ adj. (de を) 誇らしい 「補語」
de ﾄﾞｩ prep (+不定詞句) (理由) ～をして 「副詞句」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

III

apprendre ｱﾌﾟﾛﾝﾄﾞｩﾙ 不定詞 v.t 教える 「動詞」
que ｸ conj. ～ということを 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
volais ｳﾞｫﾚ 1 単半(voler)v.i そらを飛ぶ 「動詞」
Alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
s'écria ｾｸﾘｱ 3 単過(s'écrier)v.pr 叫んだ 「動詞句」

「なんだって！じゃあ、君は空から落っこちたんだ！」
《Comment! tu es tombé du ciel! 《「聞き返し」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」》
《Comment! ｺﾓﾝ adv. なんだって！ 「聞き返し」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
es tombé ｴ･ﾄﾝﾍﾞ 2 単現･完了形(tomber)v.i 落ちた 「動詞句」
du ciel ｼﾞｭ･ｼｴﾙ adv. 空から 「副詞句：tombé」

「そうなんだよ」と、僕は謙虚に言った。
--- Oui, fis-je modestement. 《「応答」「動詞」「主語」「副詞句」》
--- Oui ｳｨｰ adv. そうだよ 「応答」
fis ﾌｨ 1 単過(faire)v.t（特に挿入句で）言った、答えた 「動詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
modestement ﾓﾃﾞｽﾄﾓﾝ adv. 謙虚に 「副詞：fis」

「ああ、それはおかしいな！」
--- Ah! ça c'est drôle! ....》 「感嘆」「主語」「動詞」「補語」
Ah ｱｰ int. ああ 「感嘆」
ça c' ｻ･ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
drôle ﾄﾞｩﾛｰﾙ adj. おかしい、奇妙な 「補語」

そう言って、王子さまは可愛らしくけらけらと笑って、僕をひどく苛立たせた。
Et le petit prince eut un très joli éclat de rire qui m'irrita beaucoup.
Et「主語」「動詞」「目的語」「主語」「目的語」「動詞」「副詞」
Et ｴ conj. そして
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
eut ｲ 3 単過(avoir)v.t（行為を）～した 「動詞」
un très joli éclat de rire ｱﾝ･ﾄﾚ･ｼﾞｮﾘ･ｴｸﾗ･ﾄﾞｩ･ﾘｰﾙ

III

n.m けらけらと可愛らしい笑いを 「目的語」
qui ｷ pron それが（連続的に翻訳する） 「主語」
m’ ﾑ pron 僕を 「目的語」
irrita ｲﾘﾀ 3 単過(irriter)v.t 苛々させた 「動詞」
beaucoup ﾎﾞｸ adv. とても、ひどく 「副詞：irrita」

ぼくが出逢った不慮の災難を、僕は人にはまじめに受け取って欲しいんだ。
Je désire que l’on prenne mes malheurs au sérieux. 「主語」「動詞」「目的語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
désire ﾃﾞｼﾞｰﾙ 1 単現(désirer)v.t 希望する 「動詞」
que ｸ pron ～ということを 「目的語」
l’on ﾛﾝ n. 人は（et, ou, que, si の後や文頭では on→l’on と書く） 「主語」
prenne ﾌﾟﾚﾝﾇ 接・3 単現(prendre)v.t 受け止める 「動詞」
mes malheurs ﾒ･ﾏﾙｰﾙ pl.n.m 僕の災難を 「目的語」
au sérieux ｵ･ｾﾘｭ adv. まじめに 「副詞句：prenne」

それから、彼はこう付け加えた：
Puis il ajouta: 「副詞」「主語」「動詞」：
Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
ajouta ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

「それじゃあ、君も空からきたんだ！君はどの惑星の人？」
《Alors, toi aussi tu viens du ciel! De quelle planète es-tu?》
《「副詞」,「主語」「動詞」「副詞句」 | 「補語」「動詞」「主語」》
《Alors ｱﾛｰ adv. それじゃあ、その時 「副詞」
toi aussi tu ﾄｩわ･ｵｼ･ﾄｩ pron 君も 「主語」
viens ｳﾞｨｬﾝ 2 単現(venir)v.i 来た 「動詞」
du ciel ｼﾞｭ･ｼｴﾙ adv. 空から 「副詞句」
De quelle planète ﾄﾞｩ･ｹﾙ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. どの惑星の出身 「補語」
es ｴ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」
tu》 ﾁｭ pron 君は 「主語」

III

すぐさま、王子様が（こんなところに）いるという不思議さのなかに、光のかがよいが垣間見えた。そこで僕は唐突に尋ねた。

J'entrevis aussitôt une lueur, dans le mystère de sa présence, et j'interrogeai brusquement: 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」「副詞句」et「主語」「動詞」「副詞」:

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

entrevis ｵﾝﾄｩﾙｳﾞｨ 1 単過(entrevoir)v.t 垣間見た 「動詞」

aussitôt ｵｼﾄ adv. すぐに、ただちに 「副詞」

une lueur ﾕﾝﾇ･ﾘｭｴｰﾙ n.f ほのかな光 「目的語」

dans le mystère ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾐｽﾃｰﾙ adv. 神秘の中に 「副詞句」

de sa présence ﾄﾞｩ･ｻ･ﾌﾟﾚｿﾞﾝｽ adj. 彼の存在という 「形容詞句：mystère」

et ｴ conj. そして

interrogeai ｱﾝﾃﾛｼﾞｪ 1 単過(interroger)v.t 尋ねた 「動詞」

brusquement ﾌﾞﾘｭｽｸﾓﾝ adv. 唐突に、不意に、急に 「副詞」

「では、君は他の惑星から来たの？」

《Tu viens donc d'une autre planète?》 《「主語」「動詞」「副詞句」》

《Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

viens ｳﾞｨｱﾝ 2 単現(venir)v.i 来た 「動詞」

donc ﾄﾞﾝ adv. それじゃあ、それ故 「副詞」

d'une autre planète》 ﾃﾞｭﾝﾇ･ｵｰﾄﾙ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. ほかの惑星から 「副詞句」

しかしながら、彼は僕に返事をしない。僕の飛行機を見ながら、静かに首を振っていた：

Mais il ne me répondit pas. Il hochait la tête doucement tout en regardant mon avion:

Mais「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」:

Mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ne ...répondit pas ﾇ...ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ･ﾊﾟ 3 単過(répondre)v.i (à に) 答えなかった 「動詞句」

me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

hochait ｵｯｼｪ 3 単半(hocher)v.t（頭を）振っていた 「動詞」

la tête ﾗ･ﾃｯﾄ n.f 頭を 「目的語」

doucement ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. 静かに 「副詞」

tout en regardant ﾄｩ･ﾄﾝ･ﾙｷﾞｬﾙﾄﾞﾝ ジェロンディフ adv. 見ながら 「副詞句」

tout はジェロンディフを強調している

mon avion ﾓ･ﾅｳﾞｨｵﾝ n.m 僕の飛行機を 「目的語」

III

「本当に、これだと、そんなに遠くから来られるはずはない...」

《C'est vrai que, là-dessus, tu ne peux pas venir de bien loin ...》

《C'「動詞」「補語」「主語」》

《C' ス pron 形式主語（真の主語は que 以下の節）

est ェ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

vrai ヴ゛レ adj. 本当の、正しい 「補語」

que ク conj. ～ということ 「主語」

là-dessus ラ･ド゛ゥスュ adv. それに関して（飛行機について） 「副詞」

tu チュ pron 君は 「主語」

ne peux pas venir ヌ･プ゜･パ゜･ヴ゛ニール 2 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)

v.i 来られるはずがない 「動詞句」

de bien loin》 ド゛ゥ･ビ゛ヤン･ルわン adv.（否定文で）それほど遠くから 「副詞句」

そう言って、彼は夢想にふけり、その夢想は長く続いた。

Et il s'enfonça dans une rêverie qui dura longtemps.

Et「主語」「動詞句」「副詞句」「形容詞節」

Et ェ conj. そして

il イル pron 彼は 「主語」

s'enfonça ソンフォンサ 3 単過(s'enfoncer)v.pr 深く入り込んだ 「動詞句」

dans une rêverie ド゛ン･ジ゛ュンヌ･レヴ゛リー adv. 瞑想に 「副詞句」

qui キ pron それは～する（順に翻訳する） 「形容詞節：rêverie」

dura デ゛ュラ 3 単過(durer)v.i 続いた 「動詞」

longtemps ロントン adv. 長い間 「副詞」

それから、僕の描いた羊の絵をポケットから取り出して、彼の宝物の観相にふけった。

Puis, sortant mon mouton de sa poche, il se plongea dans la contemplation de son trésor.

「副詞句」,「主語」「動詞句」「副詞句」

Puis ピ゜ュイ adv. それから 「副詞」

sortant ソルトン 現在分詞(sortir) adv. ～を取り出して 「副詞句」

mon mouton モン･ムトン n.m 僕の描いた羊の絵を 「目的語」

de sa poche ド゛ゥ･サ･ポ゜ッシュ adv. 彼のポケットから 「副詞句」

il イル pron 彼は 「主語」

se plongea ス･プ゜ロンジ゛ャ 3 単過(se plonger)v.pr ひたった 「動詞句」

dans la contemplation ド゛ン･ラ･コントンプ゜ラション adv. 観想に 「副詞句」

de son trésor ド゛ゥ･ソン･トレゾ゛ール adj. 彼の宝物の 「形容詞句：contemplation」

III

王子様が『他の星』から来たらしいという半ば打ち明け話に、僕がどんなに好奇心をそそられたか、君たちには想像がつくだろう。

Vous imaginez combien j'avais pu être intrigué par cette demi-confidence sur 《les autres planètes》. 「主語」「動詞」「目的語」

Vous ヴ pron 君たちは 「主語」

imaginez ｲﾏｼﾞﾈ 2 複現(imaginer)v.t 想像できるだろう 「動詞」

combien ｺﾝﾋﾞﾔﾝ adv. どれほど～ということを 「目的語」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

avais pu **être intrigué** ｱｳﾞｪ･ﾋﾟｭ･ｴｰﾄﾙ･ｱﾝﾄﾘｹﾞ 1 単半･完了形･推測(pouvoir+**受動不定詞**)

v.t 好奇心をそそられただろう 「動詞句」

par ﾊﾟｰﾙ prep ～に対して 「副詞句」

cette demi-confidence ｾｯﾄ･ﾄﾞｩﾐ･ｺﾝﾌｨﾄﾞﾝｽ

n.f この半ば打ち明け話に 「目的語」

sur 《les autres planètes》ｼｭｰﾙ･ﾚ･ｿﾞｰﾄﾙ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ

adv. 他の惑星に関する 「副詞句」

だから、僕はそれについてもっと詳しく知ろうとした：

Je m'efforçai donc d'en savoir plus long: 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「副詞句」：

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

m'efforçai ... d'en savoir ﾒﾌｫﾙｾ...ﾄﾞﾝ･ｻｳﾞｧｰﾙ 1 単過(s'efforcer de+不定詞)

v.t それについて知ろうと努力した 「動詞句」

s'efforcer de+不定詞「～しようと努力する」 en それについて savoir 知る

donc ﾄﾞﾝ adv. だから 「副詞」

plus long: ﾌﾟﾘｭ･ﾛﾝ adv. もっと詳しく、もっとたくさん 「副詞句」

「坊や、どこから来たの。君のとこって、どこなの。僕の羊をどこへ連れて行きたいの？」

《D'où viens-tu, mon petit bonhomme? Où est-ce "chez toi"? Où veux-tu emporter mon mouton?》 《「副詞句」「動詞」「主語」 | 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」》

《D'où ﾄﾞｩ adv. どこから 「副詞句」

viens ｳﾞｨﾔﾝ 2 単現(venir)v.i 来た 「動詞」

tu, mon petit bonhomme ﾁｭ･ﾓﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ pron. 坊や 「主語」

Où ｳ adv. どこ 「副詞」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～にある 「動詞」

ce "chez toi" ｽ･ｼｪ･ﾄｩﾜ n. 君のとこ 「主語」

Où ｳ adv. どこへ 「副詞」

III

veux ...emporter ヴ゛...ｵﾝﾎﾟﾙﾃ 2 単現(vouloir+不定詞)v.t 連れて行きたい 「動詞句」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
mon mouton》 ﾓﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 僕の羊を 「目的語」

黙って考え込んでから、彼はこう答えた：
Il me répondit après un silence méditatif: 「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞句」：
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i (à に) 答えた 「動詞」
après ｱﾌﾟﾚ prep ～の後で 「副詞句：répondit」
un silence méditatif: ｱﾝ･ｼﾛﾝｽ･ﾒﾃﾞｨﾀﾃｨﾌ n.m 瞑想的な沈黙 「目的語」
→ 黙って考え込んでから

「君がくれた箱が良かったのは、夜の間、それが羊の家の役に立つからだよ」
《Ce qui est bien, avec la caisse que tu m'as donnée, c'est que, la nuit, ça lui servira de maison. 《「主語」「副詞句」,「主語」「動詞」「補語」》
《Ce qui est bien ｽ･ｷ･ｴ･ﾋﾞﾔﾝ n. それが良いのは 「主語」
Ce ｽ pron それ 「主語」
qui ｷ pron ～ということ 「形容詞節：Ce」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
bien ﾋﾞﾔﾝ adj. 良い 「補語」
avec la caisse ｱｳﾞｪｯｷ･ﾗ･ｹｽ adv. 箱によって 「副詞句」
que ｸ pron ～する 「形容詞節：caisse」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
m' ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
as donnée ｱ･ﾄﾞﾈ 2 単現･完了形.f(donner)(la caisse に性･数一致)
v.t くれた 「動詞句」
c' ｽ pron それが 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
que ｸ pron ～ということ 「補語」
la nuit ﾗ･ﾆｭｲ n.f 夜の間は 「副詞句」
ça ｻ pron それが 「主語」
lui ﾘｭｲ pron 彼に（羊に） 「間接目的語」
servira ｾﾙｳﾞｨｰﾗ 3 単未(servir)
v.i (à qn de+無冠詞名詞) （人に）～として役立つ 「動詞」
de maison ﾄﾞｩ･ﾒｿﾞﾝ adv. 家として 「副詞句」

III

「—もちろん、そうさ。それに君がいい子なら、綱もあげよう。昼の間羊をつないでおくためさ。それから、棒杭も。」

--- Bien sûr. Et si tu es gentil, je te donnerai aussi une corde pour l'attacher pendant le jour. Et un piquet.》

《「応答」 | Et「副詞節」,「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」「副詞句」Et「目的語」》

---Bien sûr ﾋﾞﾔﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん、その通り 「応答」
Et ｴ conj. そして
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
es ｴ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」
gentil ｼﾞｮﾝﾃｨ adj.（子供が）いい子の 「補語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
te ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」
donnerai ﾄﾞﾝﾇﾚ 1 単未(donner)v.t あげよう 「動詞」
aussi une corde ｵｼ･ﾕﾝﾇ･ｺﾙﾄﾞｩ n.f 綱も 「直接目的語」
pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ prep ～するために 「副詞句」
l' ﾙ pron 羊を 「目的語」
attacher ｱﾀｼｪ 不定詞 v.t つないでおく 「動詞」
pendant le jour ﾎﾟﾝﾄﾞﾝ･ﾙ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 昼の間 「副詞句」
Et ｴ conj. そして
un piquet》 ｱﾝ･ﾋﾟｹ n.m 棒杭 「目的語」

この提案が、王子様にひどくショックを与えたようだった：

La proposition parut choquer le petit prince: 「主語」「動詞」「補語」:
La proposition ﾗ･ﾌﾟﾛﾎﾟｼﾞｼｮﾝ n.f この提案が 「主語」
parut ﾊﾟﾘｭ 3 単過(paraître)v.i (+補語／不定詞) ～のように思われた 「動詞」
choquer ｼｮｹ 不定詞 v.t ショックを与えている 「補語」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様に 「目的語」

「羊をつないでおく？おかしな考えだね！」

《L'attacher? Quelle drôle d'idée!》 《「目的語」「動詞」 | 「感嘆」》

《Mais 「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞句」et「主語」「動詞句」》

《L' ﾙ pron 羊を 「目的語」
attacher ｱﾀｼｪ v.t つないでおく 「動詞」

III

Quelle drôle d'idée ｹﾙ・ﾄﾞｩﾛｰﾙ･ﾃﾞｨﾃﾞ n.f なんておかしな考えだろう 「感嘆」
Quelle は「感嘆形容詞」なんという～

「―でも、つないでおかないと、どことかまわず行っちまうよ。そして迷子になっちまう...」
《--- Mais si tu ne l'attaches pas, il ira n'importe où, et il se perdra.》
《---Mais ﾒ conj. しかし
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
ne l'attaches pas ﾇ･ﾗﾀｯｼｭ･ﾊﾟ 2 単現･否定(attacher)
v.t 羊をつながない 「動詞句」「目的語」「動詞句」
ira ｲﾗ 3 単未(aller)v.i 行ってしまう 「動詞」
n'importe où ﾅﾝﾎﾟﾙﾄ･ｳ adv. どこへでも 「副詞句」
et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron ヒツジは 「主語」
se perdra》 ｽ･ﾍﾟﾙﾄﾞｩﾗ 3 単未(se perdre)v.pr 道に迷うだろう 「動詞句」

すると僕の友達は、またけらけらと笑った：
Et mon ami eut un nouvel éclat de rire: Et 「主語」「動詞」「目的語」:
Et ｴ conj. すると
mon ami ﾓ･ﾅﾐ n.m 僕の友達は 「主語」
eut ｲ 3 単過(avoir)v.t（行為を）した 「動詞」
un nouvel éclat de rire: ｱﾝ･ﾇｳﾞｪﾙ･ｴｸﾗ･ﾄﾞｩ･ﾘｰﾙ n.m またケラケラとした笑いを「目的語」

「羊にどこへ行って欲しいのか！」
《Mais où veux-tu qu'il aille!》 《Mais 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》
《Mais ﾒ conj. しかし
où ｳ adv. どこに 「副詞」
veux ｳﾞ 2 単現(vouloir)v.t 望む 「動詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
qu' ｸ pron ～ということ（先行詞は où） 「目的語」
il ｲﾙ pron 羊が 「主語」
aille》 ｱｲﾕ 接・3 単現(aller)v.i 行けばよいと 「動詞」
→ 羊がどこに行けばよいと（君は望むのか）

III

Le petit prince sur l'astéroïde B 612.

III

「—どこへでも、自分の前をまっすぐ...」

《--- N'importe où. Droit devant lui ...》 《「動詞句」「主語」 | 「副詞句」》

《---N'importe ﾅﾝﾎﾟﾙﾄｩ 3 単現･否定(importer)v.i 重要ではない、構わない 「動詞句」

où ｳ n. どこであるかという場所は 「主語」

→ どこでも構わない

Droit ﾄﾞﾛｫ adv. 真直ぐに 「副詞」

devant lui》 ﾄﾞｩｳﾞｫﾝ･ﾘｭｲ adv. 自分の前を 「副詞句」

すると、王子さまはまじめな顔つきで指摘した：

Alors le petit prince remarqua gravement: 「副詞」「主語」「動詞」「副詞」:

Alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

remarqua ﾙﾏﾙｶ 3 単過(remarquer)v.t 指摘した、言った 「動詞」

gravement ｸﾞﾗｰｳﾞﾓﾝ adv. 真剣な表情で 「副詞」

「大丈夫だよ。僕んとこは、ひどく狭いんだから！」

《Ça ne fait rien, c'est tellement petit, chez moi!》

《「主語」「動詞句」「目的語」, c'「動詞」「補語」「主語」》

《Ça ｻ pron それは（真直ぐ行くこと） 「主語」

ne fait ﾇ･ﾌｪ 3 単現･否定(faire)v.t（結果を）もたらさない 「動詞句」

rien ﾘｬﾝ pron 何も～ない 「目的語」

なんともない、大丈夫だ

c' ｽ pron 形式主語

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

tellement petit ﾃﾙﾓﾝ･ﾌﾟﾃｨ adj. とても小さい 「補語」

chez moi》 ｼｪ･ﾑｫ n. 僕のところは 「主語」

そして、たぶん少し憂鬱な思いで、こう付け加えた：

Et, avec un peu de mélancolie, peut-être, il ajouta: Et「副詞句」「主語」「動詞」:

Et, ｴ conj. そして

avec un peu de mélancolie ｱｳﾞｪｯｷ･ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾄﾞｩ･ﾒﾛﾝｺﾘｰ adv.ちょっと憂鬱そうに「副詞句」

peut-être ﾌﾟﾃｰﾄﾙ adv. 多分 「副詞」

il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」

ajouta ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

IV

「自分の前をまっすぐといっても、そう遠くへ行ける物ではない...」

《Droit devant soi on ne peut pas aller bien loin ... 》

《「副詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」》

《Droit devant soi ﾄﾞｳﾛわ･ﾄﾞｳｳﾞｫﾝ･ｽわ

adv.（譲歩）自分の前を真直ぐといっても 「副詞句」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

ne peut pas aller ﾇ･ﾌﾟ･ﾊﾟ･ｻﾞﾚ 3 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)

v.i 行けるものではない 「動詞句」

bien loin》 ﾋﾞﾔﾝ･ﾙわﾝ adv.（否定文で）それほど遠くへ 「副詞句」

IV

こうして僕は、二つ目の、非常に大事な事を知った：

J'avais ainsi appris une seconde chose très importante: 「主語」「動詞句」「目的語」:

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

avais ainsi appris ｱｳﾞｪ･ｵﾝｼ･ｱﾌﾟﾘ 1 単半･完了形(apprendre+ ainsi)

v.t こうして学んだ 「動詞句」

ainsi ｱﾝｼ adv. こうして

une seconde chose ﾕﾝﾇ･ｽｺﾞﾝﾄﾞｩ･ｼｮｰｽﾞ n.f 二つ目の事を 「目的語」

très importante: ﾄﾚ･ｻﾞﾝﾎﾟﾙﾄﾝﾄ adj. とても大事な 「形容詞句：chose」

つまり、王子様の出身地の惑星が、せいぜい一軒の家より大きいぐらいだということ！

c'est que sa planète d'origine était à peine plus grande qu'une maison!

「主語」「動詞」「補語」

c' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

que ｸ conj. ～ということ 「補語」

sa planète d'origine ｻ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ﾄﾞﾘｼﾞﾇ n.f 彼の出身地の惑星は 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～である 「動詞」

à peine plus grande ｱ･ﾍﾟｰﾇ･ﾌﾟﾘｭ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ

adj. かろうじて少し大きい 「補語」

à peine ほとんどない、せいぜい、かろうじて

qu'une maison ｷｭﾝﾇ･ﾒｿﾞﾝ adv. 一軒の家よりも 「副詞句：grande」

IV

その事は、僕をあまり驚かせはしなかった。

Ça ne pouvait pas m'étonner beaucoup. 「主語」「動詞句」「副詞」

Ça ｻ pron その事は 「主語」

ne pouvait pas m'étonner ﾇ･ﾌﾟｳﾞｪ･ﾊﾟ･ﾒﾄﾈ 3 単半･可能･否定(pouvoir+不定詞+me)

v.t 私を驚かせることは出来なかった 「動詞句」

beaucoup ﾎﾞｸ adv.（否定文で）あまり 「副詞：étonner」

地球とか木星とか火星とか金星とかのように、名前の付いている大きな惑星の他に何百という星があって、それらが、時には小さすぎて望遠鏡でもなかなか見えないということを、良く知っていた。

Je savais bien qu'en dehors des grosses planètes comme la Terre, Jupiter, Mars, Vénus, auxquelles on a donné des noms, il y en a des centaines d'autres qui sont quelquefois si petites qu'on a beaucoup de mal à les apercevoir au télescope.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

savais ｻｳﾞｪ 3 単半(savoir)v.t 知っていた 「動詞」

bien ﾋﾞﾔﾝ adv. よく 「副詞：savais」

qu' ｸ conj. ～と言う事を 「目的語」

「目的語」の内容は、「副詞句」「動詞句」「主語」「形容詞節」という複雑な構成

en dehors des grosses planètes ｺﾝ･ﾄﾞｩｵｰ･ﾃﾞ･ｸﾞﾛｽ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ

adv. 大きな惑星以外に 「副詞句」

en dehors de ～以外の、grosses planètes 大きな惑星

comme ｺﾑ conj. ～のような 「形容詞句」

la Terre, Juppiter, Mars, Vénus ﾗ･ﾃｰﾙ･ｼﾞｭﾋﾟﾃﾙ･ﾏﾙｽ･ｳﾞｪﾆｭｽ

pl.n.f 地球とか木星とか火星とか金星とか 「目的語」

auxquelles ｵｹﾙ adv. (à lesquelles) それらに～する 「形容詞節」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

a donné ｱ･ﾄﾞﾈ 3 単現･完了形(donner)

IV

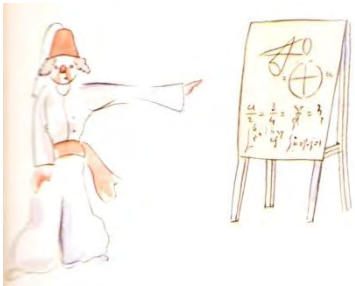
v.t（名前を）与えた、付けた 「動詞句」
des noms ﾃﾞ･ﾉﾝ pl.n.m 名前を 「直接目的語」
il y en a ｲ･ﾘ･ｵ･ﾅ 3 単現(avoir)v.t ある 「動詞句」
des centaines d'autres ﾃﾞ･ｿﾝﾃｰﾇ･ﾄﾞｰﾄﾙ
n. 何百という名前の無い惑星が 「主語」
autres 別の（惑星） → 名前の付けられていない惑星
qui ｷ pron それらは（autres）～する 「形容詞節」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
quelquefois ｹﾙｸﾌｫ adv. 時には 「副詞」
si petites ｼ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ adj. 大変小さいので 「補語」
qu'ｸ conj.（si ... que ～）（大変... なので）～する 「副詞節」
on ｵﾝ pron 人は 「主語」
a ｱ 3 単現(avoir)v.t ある 「動詞」
beaucoup de mal ﾎﾞｸ･ﾄﾞｩ･ﾏﾙ n.m 大変な苦労が 「目的語」
à les apercevoir ｱ･ﾚ･ｻﾞﾍﾟﾙｽｳﾞｫｰﾙ
adv. それらを見るのに 「副詞句」
au télescope ｵ･ﾃﾚｽｺﾌﾟ adv. 望遠鏡で 「副詞句」

それらの（惑星の）一つを発見すると、天文学者はそれに名前代わりに番号をつける。
Quand un astronome découvre l'une d'elles, il lui donne pour nom un numéro.
「副詞節」,「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞句」「直接目的語」
Quand ｺﾝ conj. ～するとき、～すると 「副詞節」
un astronome ｱ･ﾅｽﾄﾛﾉﾑ n.m 天文学者が 「主語」
découvre ﾃﾞｸｰｳﾞﾙ 3 単現(découvrir)v.t 発見する 「動詞」
l'une d'elles ﾘｭﾝﾇ･ﾃﾞﾙ
n.f それらの（名前の付いていない惑星の）一つを 「目的語」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
lui ﾘｭｲ pron それに 「間接目的語」
donne ﾄﾞﾝﾇ 3 単現(donner)v.t（名前を）付ける 「動詞」
pour nom ｯﾌﾟｰﾙ･ﾉﾝ adv. 名前の代わりに 「副詞句」
un numéro ｱﾝ･ﾆｭﾒﾛ n.m 番号を 「直接目的語」

たとえば、それを「小惑星 3251 番」と呼ぶ。
Il l'appelle par exemple: 《l'astéroïde 3251》.
「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」:《「補語」》
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

IV

l' ラ pron その惑星を 「間接目的語」
appelle ｱﾍﾟﾙ 3 単現(appler)v.t . . . を～と呼ぶ、名づける 「動詞」
par exemple ﾊﾟｰ･ﾚｸﾞｿﾞﾝﾌﾟﾙ adv. 例えば 「副詞句」
l'astéroïde 3251 ﾗｽﾃﾛｲﾄﾞ･ﾄﾛｵﾐﾙ･ﾄﾞｩｿﾝ･ｻﾝｺｰﾝﾃ･ｱﾝ
n.m 《小惑星 3251 番》と 「補語」



僕には王子様の出身の惑星が小惑星 B612 番であると信ずるに足る真面目な理由がある。

J'ai de sérieuses raisons de croire que la planète d'où venait le petit prince est l'astéroïde B612. 「主語」「動詞」「目的語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t （僕には～が）ある 「動詞」
de sérieuses raisons ﾄﾞｩ･ｾﾘｭｰｽﾞ･ﾚｿﾞﾝ pl.n.f 真面目な理由が 「目的語」
形容詞+名詞に不定冠詞 des がつく時は de に変わる
de croire ﾄﾞｩ･ｸﾙｵｰﾙ adj. ～と信ずるだけの 「形容詞句」
que ｸ conj. ～ということ 「目的語」
la planète ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f その惑星 「主語」
d'où ﾄﾞｩ adv. そこから 「形容詞節」
venait ｳﾞﾈ 3 単半(venir)v.i 来た 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ
n.m 王子様が 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
l'astéroïde B612 ﾗｽﾃﾛｲﾄﾞ･ﾍﾞ･ｼ･ｿﾝ･ﾄﾞｩｰｽﾞ
n.m 《小惑星 B612 番》 「補語」

その惑星は、1909 年に、トルコのある天文学者によって、一度だけしか望遠鏡で観測されたことが無い。

Cet astéroïde n'a été aperçu qu'une fois au télescope, en 1909, par un astronome turc. 「主語」「動詞句」「副詞句」
Cet astéroïde ｾｯ･ﾀｽﾃﾛｲﾄﾞ n.m この小惑星は 「主語」
n'a été aperçu ﾅ･ｴﾃ･ｱﾍﾟﾙｼｭ 3 単現･完了形･受動･否定(apercevoir)
v.t 観測されたことがない 「動詞句」
qu'une fois ｷｭﾝﾇ･ﾌｫｱ adv.(ne ... que) 一度しか 「副詞句」

IV

au télescope ｵ･ﾃﾚｽｺｰﾌﾟ adv. 望遠鏡で 「副詞句」
en 1909 ｵﾝ･ﾐﾙ･ﾇﾌ･ｿﾝ･ﾇﾌ adv. 1909 年に 「副詞句」
par un astronome turc ﾊﾟｰﾙ･ｱ･ﾅｽﾄﾛﾉﾑ･ﾁｭﾙｸ adv. トルコの天文学者によって 「副詞句」

当時、その天文学者は、国際天文学会でその発見を堂々と発表した。

Il avait fait alors une grande démonstration de sa découverte à un congrès international d'astronomie. 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「副詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
avait fait ｱｳﾞｪ･ﾌｪ 3 単現･完了形(faire)v.t ～をした 「動詞句」
alors ｱﾛｰ adv. 当時 「副詞」
une grande démonstration ﾕﾝﾇ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾗｼｮﾝ n.f 立派な論証を 「目的語」
de sa découverte ﾄﾞｩ･ｻ･ﾃﾞｸｳﾞｪﾙﾄ adj. 彼の発見について 「形容詞句：démonstration」
à un congrès international d'astronomie ｱ･ｱﾝ･ｺﾝｸﾞﾚ･ｱﾝﾃﾙﾅｼｮﾅﾙ･ﾀﾞｽﾄﾛﾉﾐｰ
adv. 国際天文学会で 「副詞句」

ところが着ていた服が理由で、誰も彼を信用しようとしなかった。大人の人というのは、そんなものなのだ。

Mais personne ne l'avait cru à cause de son costume. Les grande personnes sont comme ça. Mais「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」
Mais ﾒ conj. しかし
personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ n.f 誰も 「主語」
ne l'avait cru ﾇ･ﾗｳﾞｪ･ｸﾘｭ 3 単現･完了形･否定(croire +l')
v.t 彼を信用しなかった 「動詞句」「目的語」
à cause de son costume ｱ･ｺｰｽﾞ･ﾄﾞｩ･ｿﾝ･ｺｽﾁｭｰﾑ adv. 彼の服のせいで 「副詞句」
Les grande personnes ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pl.n.f 大人というのは 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
comme ça ｺﾑ･ｻ pron そのようなもの 「補語」

小惑星 B612 番の評判にとって、ちょうど運が良かったことに、トルコの独裁者が国民にヨーロッパ風の服を着るように命令し、それに違反すれば死罪に処することにした。

Heureusement pour la réputation de l'asteroïde B612, un dictateur turc imposa à son peuple, sous peine de mort, de s'habiller à l'européenne.
「副詞句」,「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」
Heureusement ｳﾙｰｽﾞﾓﾝ adv. 幸運にも 「副詞」
pour la réputation de l'asteroïde B612 ﾌﾟｰﾙ･ﾗ･ﾚﾋﾟｭﾀｼｮﾝ･ﾄﾞｩ･ﾗｽﾃﾛｲﾄﾞ･ﾍﾞ･ｼ･ｿﾝ･ﾄﾞｩｰｽﾞ
adv. 小惑星 B612 の評判にとって 「副詞句」

IV

un dictateur turc ｱﾝ･ﾃﾞｨｸﾀﾄｩｰﾙ･ﾁｭﾙｷ n.m トルコの独裁者が 「主語」
imposa ｱﾝﾎﾟｻ 3 単過(imposer)
v.t(～qn de+不定詞)（人に... することを）強制した 「動詞」
à son peuple ｱ･ｿﾝ･ﾌﾟｰﾌﾟﾙ adv. 国民に 「間接目的語」
sous peine de mort ｽ･ﾍﾟｰﾇ･ﾄﾞｩ･ﾓｰﾙ adv. 違反すれば死罪という条件で 「副詞句」
de s'habiller ﾄﾞｩ･ｻﾋﾞｪ 不定詞 v. 着ることを 「直接目的語」
à l'européenne ｱ･ﾙｰﾛﾍﾟｴﾇ adv. ヨーロッパ風に 「副詞句」

1920 年、その天文学者は、大変上品な洋服を着て学会発表をやりなおした。
L'astronome refit sa démonstration en 1920, dans un habit très élégant.
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
L'astronome ﾗｽﾄﾛﾉﾑ n. その天文学者は 「主語」
refit ﾙﾌｨ 3 単過(refaire)v.t やり直した 「動詞」
sa démonstration ｻ･ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾗｼｮﾝ n.f 論証を 「目的語」
en 1920 ｵﾝ･ﾐﾙ･ﾇﾌｿﾝ･ｳﾞｧﾝ adv. 1920 年に 「副詞句」
dans un habit très élégant ﾄﾞﾝ･ｻﾞﾝ･ﾅﾋﾞ･ﾄﾚ･ｾﾞﾚｺﾞﾝ adv. 大変上品な服を着て 「副詞句」

すると今度は、みんなが彼の見解に同意した。
Et cette fois-ci tout le monde fut de son avis. Et「副詞句」「主語」「動詞」「補語」
Et ｴ conj. そして
cette fois-ci ｾｯﾄ･ﾌｫｰ･ｼ adv. 今度という今度は 「副詞句」
-ci は強意
tout le monde ﾄｩ･ﾙ･ﾓﾝﾄﾞ pron すべての人が 「主語」
fut ﾌｭ 3 単過(être)v.i ～だった 「動詞」
de son avis ﾄﾞｩ･ｿﾝ･ﾅｳﾞｨ adv. 彼と同意見の、彼に同意した 「補語」
être de son avis 人の意見に同意する

小惑星 B612 番について、このように些細な事を君たちに語ったのは、またその番号を明かしたのは、大人の人たちが原因。
Si je vous ai raconté ces détails sur l'astéroïde B612 et si je vous ai confié son numéro, c'est à cause des grandes personnes. 「副詞節」et「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」
Si ｼ conj.（事実の提示：主節 c'est ...で理由を説明する）～であるのは 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
vous ｳﾞ pron 君たちに 「間接目的語」
ai raconté ｴ･ﾗｺﾝﾃ 1 単現･完了形(raconter)v.t 語った 「動詞句」
ces détails sur l'astéroïde B612 ｾ･ﾃﾞﾀｲﾕ･ｼｭｰﾙ･ﾗｽﾃﾛｲﾄﾞ･ﾍﾞｰｼ･ｿﾝ･ﾄﾞｩｰｽﾞ

IV

pl.n.m 小惑星 B612 に関する些細なことを 「直接目的語」
et ｴ conj. そして
si ｼ conj.（事実の提示：主節 c'est ...で理由を説明する）～であるのは 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
vous ｳﾞ pron 君たちに 「間接目的語」
ai confié ｴ･ｺﾝﾌｨｴ 1 単現･完了形(confier)v.t 打ち明けた 「動詞句」
son numéro ｿﾝ･ﾆｭﾒﾛ n.m その番号を 「直接目的語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
à cause des grandes personnes ｱ･ｺｰｽﾞ･ﾃﾞ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ
adv. 大人たちのせいで 「補語」

大人の人というのは、数字が好き。
Les grandes personnes aiment les chiffres. 「主語」「動詞」「目的語」
Les grandes personnes ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pl.n.f 大人たちは 「主語」
aiment ｴﾑ 3 複現(aimer)v.t（が）好きである 「動詞」
les chiffres. ﾚ･ｼﾌﾙ pl.n.m 数字が 「目的語」

新しい友達の話をすると、彼らは肝心なことを絶対に訊かない。
Quand vous leur parlez d'un nouvel ami, elles ne vous questionnent jamais sur l'essentiel.
「副詞節」,「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「間接目的語」
Quand ｺﾝ conj. ～すると、～する時 「副詞節」
vous ｳﾞ pron 君たちが 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに、大人たちに 「間接目的語」
parlez ﾊﾟﾙﾚ 2 複現(parler)v.i (de について) 話す 「動詞」
d'un nouvel ami ﾀﾞﾝ･ﾇｳﾞｪ･ﾗﾐ adv. 新しい友達について 「間接目的語」
elles ｴﾙ pron 大人たちは 「主語」
ne ...questionnent jamais ﾇ...ｹｽﾁｮﾝﾇ･ｼﾞｬﾒ 3 複現･否定(questionner)
v.t 決して質問しない 「動詞句」
vous ｳﾞ pron 君たちに 「間接目的語」
sur l'essentiel. ｼｭｰﾙ･ﾚｿﾝｼｪﾙ adv. 肝心なことを 「間接目的語」

こんな風には絶対に言わない：
Elles ne vous disent jamais: 「主語」「動詞句」「間接目的語」:
Elles ｴﾙ pron 彼らは 「主語」
ne ...disent jamais: ﾇ...ﾃﾞｨｰｽﾞ･ｼﾞｬﾒ 3 複現･否定(dire)v.t 決して言わない 「動詞句」

IV

vous ヴ゛ pron 君たちに 「間接目的語」

「その人はどんな声？好きな遊びは何？蝶々のコレクションをしているの？」

《Quel est le son de sa voix? Quels sont les jeux qu'il préfère? Est-ce qu'il collectionne les papillons?》

《「補語」「動詞」「主語」 | 「補語」「動詞」「主語」 | 「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」》

Quel ｹﾙ adj. どんな 「補語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

le son de sa voix? ﾙ･ｿﾝ･ﾄﾞｩ･ｻ･ヴ゛わ n.m その人の声の響きは 「主語」

Quels ｹﾙ pron 何 「補語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

les jeux ﾚ･ｼﾞｭｰ pl.n.m (jeu) 遊び 「主語」

qu' ｸ pron ～すること 「形容詞節：jeux」

il ｲﾙ pron その人が 「主語」

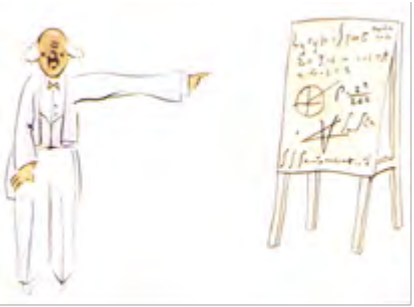
préfère? ﾌﾟﾚﾌｪｰﾙ 3 単現(préférer)v.t 好きである 「動詞」

Est-ce qu'... collectionne ｴｽ･ｸ...ｺﾚｸｼｮﾝﾇ 3 単現･疑問(collectionner)

v.t 集めているの？ 「動詞句」

il ｲﾙ pron その人は 「主語」

les papillons? ﾚ･ﾊﾟﾋﾟｮﾝ pl.n.m 蝶を 「目的語」



彼らはきまってこう訊く：

Elles vous demandent: 「主語」「間接目的語」「動詞」：

Elles ｴﾙ pron pl.n.f 彼らは 「主語」

vous ヴ゛ pron 君たちに 「間接目的語」

demandent ﾄﾞｩｵﾝﾄﾞｩ 3 複現(demander)v.t 訊く 「動詞」

「その人は何歳なの？兄弟は何人いるの？体重は何キロ？お父さんの収入はいくら？」

《Quel âge a-t-il? Combien a-t-il de frères? Combien pèse-t-il? Combien gagne son père?》

《「目的語」「動詞」「主語」 | 「目的語」「動詞」「主語」「目的語」

「副詞」「動詞」「主語」 | 「副詞」「動詞」「主語」》

Quel âge ｹ･ﾗｰｼﾞｭ n.m 何歳 「目的語」

IV

a ｱ 3 単現(avoir)v.t（歳が何歳で）ある 「動詞」
il ｲﾙ pron その人は 「主語」
Combien ...de frères ｺﾝﾋﾞﾔﾝ...ﾄﾞｩ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.m 何人の兄弟が 「目的語」
a ｱ 3 単現(avoir)v.t いる 「動詞」
il ｲﾙ pron その人は 「主語」
Combien ｺﾝﾋﾞﾔﾝ adv. どれだけ 「副詞」
pèse ﾍﾟｰｽﾞ 3 単現(peser)v.i 体重がある 「動詞」
il ｲﾙ pron その人は 「主語」
Combien ｺﾝﾋﾞﾔﾝ adv. いくら 「副詞」
gagne ｶﾞﾆｭ 3 単現(gagner)v.t 収入を得ている 「動詞」
son père ｿﾝ･ﾍﾟｰﾙ n.m その人のお父さんは 「主語」

そこではじめて、彼を見知っていると思う。
Alors seulement elles croient le connaître. 「副詞句」「主語」「動詞句」
Alors seulement ｱﾛｰ･ｽﾙﾓﾝ adv. それでやっと 「副詞句」
elles ｴﾙ pron 彼らは 「主語」
croient le connaître ｸﾙｫ･ﾙ･ｺﾈｰﾄﾙ 3 複現(croire+不定詞+le)
v.t 彼を知っていると思い込む 「動詞句」

大人の人たちに「窓にジェラニウムがあって、屋根には鳩がいる、バラ色のレンガ造りの美しい家を見たよ...」と言ったとしても、彼らはその家をうまく想像することができない。
Si vous dites aux grandes personnes: 《J'ai vu une belle maison en briques roses, avec des géranium aux fenêtres et des colombes sur le toit ... 》, elles ne parviennent pas à s'imaginer cette maison.
Si「主語」「動詞」「間接目的語」:
《「主語」「動詞句」「目的語」,「副詞句」》, 「主語」「動詞句」「目的語」
Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
vous ｳﾞ pron 君たちが 「主語」
dites ﾃﾞｨｯﾄ 2 複現(dire)v.t 言う 「動詞」
aux grandes personnes ｵ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ adv. 大人たちに 「間接目的語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai vu ｴ･ｳﾞｭ 1 単現･完了形(voir)v.t 見た 「動詞句」
une belle maison ﾕﾝﾇ･ﾍﾞﾙ･ﾒｿﾞﾝ n.f 美しい家を 「目的語」
en briques roses ｵﾝ･ﾌﾞﾘｯｷ･ﾛｰｽﾞ adj. バラ色の煉瓦造りの「形容詞句：maison」
avec ｱｳﾞｪｯｷ adv. ～がある 「副詞句」
des géranium aux fenêtres ﾃﾞ･ｼﾞｪﾗﾆｵﾑ･ｵ･ﾌﾈｰﾄﾙ

IV

pl.n.m 窓にはジェラニウム 「目的語」
et ｴ conj. と
des colombes sur le toit ﾃﾞ･ｺﾛﾝﾌﾞ･ｼｭｰﾙ･ﾙ･ﾄｩﾜ pl.n.f 屋根には鳩 「目的語」
elles ｴﾙ pron 大人たちは 「主語」
ne parviennent pas à s'imaginer ﾇ･ﾊﾟﾙｳﾞｨｴﾝﾇ･ﾊﾟ･ｱ･ｼﾏｼﾞﾈ 3 複現･可能･否定
(parvenir à+不定詞 s'imaginer)v.pr うまく思い描くことができない 「動詞句」
cette maison ｾｯﾄ･ﾒｿﾞﾝ n.f この家を 「目的語」

彼らには、こう言わなければいけない。
Il faut leur dire: 「動詞句」「間接目的語」「動詞句」:
Il faut +不定詞 ｲ･ﾌｫ 3 単現･必要(Il falloir +不定詞) ～しなければならない 「動詞句」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」
dire ﾃﾞｨｰﾙ 不定詞 v.t 言う 「動詞句」

「十万フランの家をみたよ」。
《J'ai vu une maison de cent mille francs.》 《「主語」「動詞句」「目的語」》
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai vu ｴ･ｳﾞｭ 1 単現･完了形(voir)v.t 見た 「動詞句」
une maison ﾕﾝﾇ･ﾒｿﾞﾝ n.f 家を 「目的語」
de cent mille francs ﾄﾞｩ･ｿﾝ･ﾐﾙ･ﾌﾛﾝ adj. 10 万フランの 「形容詞句：maison」

すると、彼らは、「なんて素敵なんだろう！」と大声を上げる。
Alors elles s'écrient: 《Comme c'est jolie!》
「副詞」「主語」「動詞句」:《「補語」「主語」「動詞」「補語」》
Alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」
elles ｴﾙ pronpl. 彼らは 「主語」
s'écrient ｾｸﾘ 3 複現(s'écrier)v.pr （このように）大声を上げる 「動詞句」
Comme ...jolie ｺﾑ...ｼﾞｮﾘｰ adj. なんて素晴らしい 「補語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

IV

かくして、もし彼らに、「王子様が存在していたという証拠、それは、王子様が素敵だった、にこにこしていた、羊を欲しがったということだ。

Ainsi, si vous leur dites, 《La preuve que le petit prince a existé c'est qu'il était ravissant, qu'il riait, et qu'il voulait un mouton.

「副詞」, si「主語」「間接目的語」「動詞」, 《「主語」「動詞」「補語」

Ainsi ｱﾝｼ adv. こんなわけで 「副詞」

si ｼ conj. もし～すると 「副詞節」

vous ｳﾞ pron 君が 「主語」

leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」

dites ﾃﾞｨｯﾄ 2 複現(dire)v.t （次のように）言う 「動詞」

La preuve ﾗ･ﾌﾟﾙｰｳﾞ n.f 証拠 「主語」

que ｸ conj. ～ということ 「形容詞節：preuve」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様が 「主語」

a existé ｱ･ｴｸﾞｼﾞｽﾃ 3 単現･完了形(exister)

v.i 存在していた 「動詞句」

c' ｽ pron それ（証拠）は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

qu' ｸ conj. ～ということ 「補語」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

ravissant ﾗｳﾞｨｿﾝ adj. すばらしい 「補語」

qu' ｸ conj. ～ということ 「補語」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

riait ﾘｴ 3 単半(rire)v.i 笑っていた 「動詞」

et ｴ conj. そして

qu' ｸ conj. ～ということ 「補語」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

voulait ｳﾞﾚ 3 単半(vouloir)v.t 欲しがった 「動詞」

un mouton ｱﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊を 「目的語」

人が羊を欲しがれば、その人が存在している証拠になる」などと言えば、彼らは肩をすくめ、君たちを子ども扱いするだろう！

Quand on veut un mouton, c'est la preuve qu'on existe》, elles hausseront les épaules et vous traiteront d'enfant! 「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」》,

「主語」「動詞」「目的語」et「目的語」「動詞」「補語」

Quand ｺﾝ conj. ～すると 「副詞節」

IV

on ｵﾝ pron 人が 「主語」
veut ｳﾞ 3 単現(vouloir)v.t 欲しがる 「動詞」
un mouton ｱﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊を 「目的語」
c’ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
la preuve ﾗ･ﾌﾟﾙｰｳﾞ n.f 証拠 「補語」
qu’ｸ conj.（同格）～という 「形容詞節：preuve」
on ｵﾝ pron その人が 「主語」
existe ｴｸﾞｼﾞｽﾄｩ 3 単現 (exister)v.i 存在している 「動詞」
elles ｴﾙ pron.pl. 彼らは 「主語」
hausseront ｵｾﾛﾝ 3 複未(hausser)v.t すくめるだろう 「動詞」
les épaules ﾚ･ｾﾞﾎﾟｰﾙ pl.n.f 肩を 「目的語」
et ｴ conj. そして
vous ｳﾞ pron 君を 「目的語」
traiteront ﾄﾚﾃﾛﾝ 3 複未(traiter)v.t 扱うだろう 「動詞」
d’enfant ﾄﾞﾝﾌｫﾝ adj. 子供として 「補語」

しかしながら、「王子様の出身である星は、B612 番という小惑星だった」と言えば、大人たちは納得し、そっとしておいてくれるだろう。

Mais si vous leur dites: 《La planète d’où il venait est l’astéroïde B612》, alors elles seront convaincues, et elles vous laisseront tranquille avec leurs questions.

Mais si「主語」「間接目的語」「動詞」:《「主語」「動詞」「補語」》,
「副詞」「主語」「動詞句」et「主語」「目的語」「動詞」「補語」

Mais ﾒ conj. しかし
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
vous ｳﾞ pron 君が 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」
dites ﾃﾞｨｯﾄ 2 複現(dire)v.t 言う 「動詞」
La planète ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f その惑星は 「主語」
d’où ﾄﾞｩ adj. そこから 「形容詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
venait ｳﾞﾈ 3 単半(venir)v.i 来た 「動詞」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
l’astéroïde B612 ﾗｽﾃﾛｲﾄﾞ･ﾍﾞ･ｼ･ﾂﾝ･ﾄﾞｩｰｽﾞ n.m 小惑星 B612 「補語」
alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」
elles ｴﾙ pron.pl.f. 大人たちは 「主語」

IV

seront convaincues ｽﾛﾝ･ｺﾝｳﾞｧﾝｷｭ 3 複未･受動(convaincre)
v.t 納得するだろう（納得させられるだろう） 「動詞句」
et ｴ conj. そして
vous ｳﾞ pron 君を 「目的語」
laisseront ﾚｽﾛﾝ 3 複未(laisser)v.t ～のままにしておくだろう 「動詞」
tranquille ﾄﾛﾝｷﾙ adj. 静かな 「補語」
avec leurs questions ｱｳﾞｪｯｷ･ﾚｰﾙ･ｹｽﾁｮﾝ adv. 彼らの質問から 「副詞句」

大人たちって、そういうもの。彼らを恨んだりしてはいけない。子供は大人たちに対して非常に寛大でなければいけない。

Elles sont comme ça. Il ne faut pas leur en vouloir. Les enfants doivent être très indulgents envers les grandes personnes.
「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」
「主語」「動詞句」「補語」

Elles ｴﾙ pron 大人たちは 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
comme ça ｺﾑ･ｻ pron そのようなもの 「補語」
Il ｲﾙ pron 非人称主語
ne faut pas +不定詞 ﾇ･ﾌｫ･ﾊﾟ 3 単現･否定(falloir+不定詞)v.h ～してはならない「動詞句」
leur en vouloir ﾚｰﾙ･ｵﾝ･ｳﾞﾙわ-ﾙ 不定詞(en vouloir a qn.)
彼らを恨んではいけない 「間接目的語」「動詞句」
en vouloir a qn. （～を）恨む、悪く思う、leur = à + eux 彼らを
Les enfants ﾚ･ｿﾞﾝﾌｫﾝ pl.n. 子供たちは 「主語」
doivent être ﾄﾞｩわ-ｳﾞ･ｴｰﾄﾙ 3 複現･必要(devoir+不定詞)
v.i ～でなければならない 「動詞句」
très indulgents ﾄﾚ･ｱﾝﾃﾞｨﾙｼﾞｮﾝ adj. 非常に寛大な 「補語」
envers les grandes personnes ｵﾝｳﾞｪｰﾙ･ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ
adv. 大人たちに対して 「副詞句」

けれども、もちろん、人生を知っている僕らは、番号をないがしろにする！

Mais, bien sûr, nous qui comprenons la vie, nous nous moquons bien des numéros!
Mais「副詞句」「主語」,「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」

Mais ﾒ conj. しかし
bien sûr ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「副詞句」
nous ﾇ pron 僕らは 「主語」
qui ｷ pron ～する人 「形容詞節：nous」

IV

comprenons ｺﾝﾌﾟﾙﾉﾝ 1 複現(comprendre)v.t 分かっている「動詞」
la vie ﾗ･ｳﾞｨｰ n.f 人生を 「目的語」
nous ﾇ pron 僕らは（もう一度「主語」を示す） 「主語」
nous moquons ﾇ･ﾓｺﾝ 1 複現(se moquer)v.pr 無視する 「動詞句」
bien ﾋﾞｬﾝ adv.（否定文で）まったく 「副詞」
des numéros ﾃﾞ･ﾆｭﾒﾛ pl.n.m 番号を 「目的語」

僕は、できることなら、この話を妖精物語のように始めたかったのだが。
J'aurais aimé commencer cette histoire à la façon des contes de fées.
「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
aurais aimé commencer ｵｰﾚ･ｴﾒ･ｺﾓﾝｾ 条・1 単現･完了形･願望(aimer+不定詞)
v.t（条件法過去）出来ることなら～を始めたかったのだが 「動詞句」
cette histoire ｾｯﾄ･ｲｽﾄｩﾜｰﾙ n.f この話を 「目的語」
à la façon des contes de fées ｱ･ﾗ･ﾌｧｿﾝ･ﾃﾞ･ｺﾝﾄ･ﾄﾞｩ･ﾌｪ
adv. 妖精の物語のような調子で 「副詞句」

僕はこんな風に話したかった：
J'aurais aimé dire: 「主語」「動詞句」：
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
aurais aimé dire ｵｰﾚ･ｴﾒ･ﾃﾞｨｰﾚ 条・1 単現･完了形･願望(aimer+不定詞)
v.t ～と言いたかったのだが 「動詞句」

「昔々、王子様がいました。彼は自分よりほんの少し大きい惑星に住んでいて、友達を欲しがっていました。」
《Il était une fois un petit prince qui habitait une planète à peine plus grande que lui, et qui avait besoin d'un ami ... 》 《「動詞」「副詞句」「主語」》
Il ｲﾙ pron 形式主語
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～がいた 「動詞」
une fois ﾕﾝﾇ･ﾌｫﾜ adv. 昔々 「副詞句」
un petit prince ｱﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様が 「主語」
qui ｷ pron ～するひと 「形容詞節：prince」
habitait ｱﾋﾞﾃ 3 単半(habiter)v.i 住んでいました 「動詞」
une planète ﾕﾝﾇ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f ある惑星に 「副詞句」
à peine plus grande que lui ｱ･ﾍﾟｰﾇ･ﾌﾟﾘｭ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ｸ･ﾘｭｲ
adj. 彼よりほんの少しだけ大きい 「形容詞句：planète」

IV

et ｴ conj.
qui ｷ pron ～するひと 「形容詞節：prince」
avait ｱｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t ～があった 「動詞」
besoin ﾌﾞｰｽﾞﾜﾝ n.m 必要、欲求 「目的語」
d'un ami ﾀﾞﾝ･ｱﾐ adj. 友達への 「形容詞句：besoin」

人生を知っている人たちにとっては、この語り口の方がはるかに本当らしい様子をしていたかもしれない。

Pour ceux qui comprennent la vie, ça aurait eu l'air beaucoup plus vrai.
「副詞句」,「主語」「動詞句」「目的語」
Pour ceux ﾌﾟｰﾙ･ｽｰ adv. ～のような人たちにとって 「副詞句」
qui ｷ pron ～する人 「形容詞節：ceux」
comprennent ｺﾝﾌﾟﾚﾝﾇ 3 複現(comprendre)
v.t 知っている 「動詞」
la vie ﾗ･ｳﾞｨｰ n.f 人生を 「目的語」
ça ｻ pron それは 「主語」
aurait eu ｵｰﾚ･ｲ 条・3 単現･完了形(avoir)v.t （見えた）だろう 「動詞句」
l'air ﾚｰﾙ n.m 様子 「目的語」
avoir l'air +形容詞 ～のように見える
beaucoup plus vrai ﾎﾞｸ･ﾌﾟﾘｭ･ｳﾞﾚ adj. もっと本当らしい 「形容詞句：air」

なぜなら、僕はこの本を軽々しく読んで貰いたくないから。

Car je n'aime pas qu'on lise mon livre à la légère. Car「主語」「動詞句」「目的語」
Car ｶｰﾙ conj. なぜなら
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'aime pas ﾈｰﾑ･ﾊﾟ 1 単現･否定 v.t ～を望まない 「動詞句」
qu' ｸ conj. ～ということ 「目的語」
on ｵﾝ pron 人々が 「主語」
lise ﾘｰｽﾞ 接・3 単現(lire)v.t 読む 「動詞」
mon livre ﾓﾝ･ﾘｰｳﾞﾙ n.m この本を 「目的語」
à la légère ｱ･ﾗ･ﾚｼﾞｪｰﾙ adv. 軽々しく 「副詞句」

僕は王子様のこうした思い出を語るのが、とても悲しい。

J'éprouve tant de chagrin à raconter ces souvenirs.
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

IV

éprouve ｴﾌﾟﾙｰｳﾞ 1 単現(éprouver)v.t 感じる 「動詞」
tant de chagrin ﾄﾝ･ﾄﾞｩ･ｼｬｸﾞﾗﾝ n.m 大きな悲しみを 「目的語」
chagrin à+不定詞 ～するのが悲しい
à raconter ces souvenirs ｱ･ﾗｺﾝﾃ･ｾ･ｽｳﾞﾆｰﾙ
adv.（原因・手段）このような思い出を語るのが 「副詞句」

僕の友達が羊と共に行ってしまってから、もう 6 年にもなる。
Il y a six ans déja que mon ami s'en est allé avec son mouton.
「動詞句」「主語」「副詞節」
Il y a ｲ･ﾘ･ｱ 3 単現(avoir)v.t ～してから... たつ 「動詞句」
Il y a +時間+que+直説法「～してから... たつ」
six ans déja ｼ･ｻﾞﾝ･ﾃﾞｼﾞｬ adv. 6 年 「主語」
que ｸ conj. ～から 「副詞節」
mon ami ﾓ･ﾅﾐ n.m 僕の友達が 「主語」
s'en est allé ｿ･ﾈ･ﾀﾚ 3 単現･完了形(s'en aller)v.pr 立ち去った 「動詞句」
avec son mouton ｱｳﾞｪｯｷ･ｿﾝ･ﾑﾄﾝ adv. 羊とともに 「副詞句」

彼の事をここに書こうとしているのは、彼を忘れない為。友達を忘れるのは、悲しい事だ。
Si j'essaie ici de le décrire, c'est afin de ne pas l'oublier. C'est triste d'oublier un ami.
Si「主語」「動詞句」「副詞」, 「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞」「補語」「主語」
Si ... c'est ～ ｼ...ｾ ～conj.（事実の提示）... であるのは～だからだ
j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
essaie ... de le décrire ｴｾ...ﾄﾞｩ･ﾙ･ﾃﾞｸﾘｰﾙ 1 単現(essayer de+不定詞+le)
v.t 彼のことを書こうとしている 「動詞句」
ici ｲｼ adv. ここに 「副詞」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
afin de+不定詞 ｱﾌｧﾝ･ﾄﾞｩ adv. ～するため 「補語」
ne pas l'oublier ﾇ･ﾊﾟ･ﾙﾌﾞﾘｴ 不定詞句 n. 彼を忘れない 「動詞」
C' ｽ pron 形式主語
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
triste ﾄﾘｽﾄ adj. 悲しい 「補語」
d'oublier un ami ﾄﾞｩﾌﾞﾘｴ･ｱ･ﾅﾐ 不定詞句 n. 友達を忘れること 「主語」

IV

Tout le monde n'a pas eu un ami. Et je puis devenir comme les grandes personnes qui ne s'intéressent plus qu'aux chiffres.

誰もが友達を持ったことがあるわけではないんだ。それに、ぼくも数字にしか興味がない大人たちと同じような人間になるかもしれない。

「主語」「動詞句」「目的語」 | Et「主語」「動詞句」「補語」

Tout le monde ﾄｩ･ﾙ･ﾓﾝﾄﾞ n.m すべての人が、誰もが 「主語」

n'a pas eu ﾅ･ﾊﾟ･ｼﾞｭ 3 単現･完了形･否定(avoir)

v.t （部分否定）持ったことがある訳ではない 「動詞句」

un ami ｱ･ﾅﾐ n.m 友達を 「目的語」

Et ｴ conj.（強調）しかも

je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

puis devenir ﾋﾟｭｲ･ﾄﾞｩｳﾞﾆｰﾙ 1 単現･推量(pouvoir+不定詞)

v.i (puis は peux の文語) ～になるかもしれない 「動詞句」

comme les grandes personnes ｺﾑ･ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ

adv. 大人たちのように 「補語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

ne s'intéressent ﾇ･ｻﾝﾃﾚｽ 3 複現･否定(s'intéresser)

v.pr (à に) 興味がない 「動詞句」

plus qu'aux chiffres ﾌﾟﾘｭ･ｺ･ｼﾌﾙ

adv. 数字にしか 「間接目的語」

だから僕が絵具箱と鉛筆も買ったのは、そのためなんだ。

C'est donc pour ça encore que j'ai acheté une boîte de couleurs et des crayons.

「動詞」「補語」「主語」

C' ｽ pron それは（形式主語）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

donc pour ça encore ﾄﾞﾝ･ﾌﾟｰﾙ･ｻ･ｵﾝｺｰﾙ adv. だからその為でも 「補語」

que ｸ conj. ～ということ 「主語」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

ai acheté ｴ･ｱｼｭﾃ 1 単現･完了形(acheter)v.t 買った 「動詞句」

une boîte de couleurs et des crayons ﾕﾝﾇ･ﾌﾞｫｯﾄ･ﾄﾞｩ･ｸﾚｰﾙ･ｴ･ﾃﾞ･ｸﾚﾖﾝ

pl.n. 絵具箱と鉛筆を 「目的語」

IV

6 歳の時、中の見えないボア大蛇と中の見えるボア大蛇を描いたほかに、これといった絵を描いたことがなかった僕が、この年になってまた絵を描くのは、辛いことなんだ！

C'est dur de se remettre au dessin, à mon âge, quand on n'a jamais fait d'autres tentatives que celle d'un boa fermé et celle d'un boa ouvert, à l'âge de six ans!

「動詞」「補語」「主語」「副詞句」

C' ｽ pron それは（形式主語）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

dur ﾃﾞｭｰﾙ adj. 困難な、辛い 「補語」

de se remettre ﾄﾞｩ･ｽ･ﾙﾒｯﾄﾙ n.(de+不定詞 se remettre)

(à qch) また～し始めることは 「主語」

au dessin ｵ･ﾃﾞｻﾝ adv. 絵を描くことを 「間接目的語」

à mon âge ｱ･ﾓ･ﾅｰｼﾞｭ adv. この年になって 「副詞句」

quand ｺﾝ adj. ～の時 「形容詞節：âge」

on ｵﾝ pron 自分は 「主語」

n'a jamais fait ﾅ･ｼﾞｬﾒ･ﾌｪ 1 単現･完了形･否定(faire)

v.t したことがなかった 「動詞句」

d'autres tentatives ﾄﾞｰﾄﾙ･ﾄﾝﾀﾃｨｳﾞ

pl.n.f 別のことを 「目的語」

que ｸ conj.（否定分で）～以外に 「形容詞句」

celle d'un boa fermé et celle d'un boa ouvert ｾﾙ･ﾀﾞﾝ･ﾎﾞｱ･ﾌｪﾙﾒ･ｴ･ｾﾙ･ﾀﾞﾝ･ﾎﾞｱ･ｳｳﾞｪｰﾙ

pl.n.f 中の見えないボア大蛇と中の見えるボア大蛇

「目的語」

à l'âge de six ans ｱ･ﾗｰｼﾞｭ･ﾄﾞｩ･ｼ･ｻﾞﾝ adv. 6 歳の時に

「副詞句」

もちろん、ぼくは肖像画をかぎりなく本物そっくりに描くようにつとめる。

J'essaierais, bien sûr, de faire des portraits le plus ressemblants possible.

「主語」「動詞句」「目的語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

essaierais, bien sûr, de faire ｴｾﾚ･ﾋﾞﾔﾝ･ｼｭｰﾙ･ﾄﾞｫｳ･ﾌｪｰﾙ 条・1 単現(essayer de+不定詞)

v.t もちろん～しようと努めようと思う 「動詞句」

des portraits ﾃﾞ･ﾎﾟﾙﾄﾚ pl.n.m 肖像画を 「目的語」

le plus ressemblants possible ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ﾙｿﾝﾌﾞﾛﾝ･ﾎﾟｯｼｰﾌﾞﾙ

adj. 可能な限り似ているような 「形容詞句：portraits」

僕は、もちろん、肖像画を描こうと試みる、可能な限り似ているように。

IV

しかし、うまくいくかどうか、まったく自信があるわけではない。

Mais je ne suis pas tout à fait certain de réussir. Mais 「主語」「動詞句」「補語」

Mais ﾒ conj. しかし

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ne suis pas ﾇ･ｼｭｲ･ﾊﾟ 1 単現･否定(être)v.i ～ではない 「動詞句」

tout à fait ﾄｩ･ﾀ･ﾌｪ adv. まったく 「副詞句：certain」

certain de réussir ｾﾙﾀﾝ･ﾄﾞｩ･ﾚｳｼｰﾙ adj. (certain de+不定詞 réussir)

adj. うまくいくと確信した 「補語」

ある絵は上手く描けても、ほかのはもう似ても似つかないもの。

Un dessin va, et l'autre ne ressemble plus. 「主語」「動詞」et「主語」「動詞句」

Un dessin ｱﾝ･ﾃﾞｯｻﾝ n.m ある絵は 「主語」

va ｳﾞｧ 3 単現(aller)v.i 上手く描けている 「動詞」

et ｴ conj. だが

l'autre ﾛｰﾄﾙ n.m 別の絵は 「主語」

ne ressemble plus ﾇ･ﾙｿﾝﾌﾞﾙ･ﾌﾟﾘｭ 3 単現･否定(ressembler)

v.i 全く似ていない 「動詞句」

背丈についても、少し間違っている。こちらの王子さまは大きすぎる。

Je me trompe un peu ausi sur la taille. Ici le petit prince est trop grand.

「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」 | 「副詞」「主語」「動詞」「補語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

me trompe ﾑ･ﾄﾛﾝﾌﾟ 1 単現(se tromper)v.pr (sur ～について) 間違えている 「動詞句」

un peu ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少し 「副詞句」

ausi sur la taille ｵｼ･ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾀｲﾕ adv. 身長についても 「間接目的語」

Ici ｲｼ adv. ここでは 「副詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

trop grand ﾄﾛ･ｸﾞﾛﾝ adj. 大きすぎる 「補語」

あちらでは彼は小さすぎる。彼の服の色についても、ためらいがある。

Là il est trop petit. J'hésite aussi sur la couleur de son costume.

「副詞」「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」

Là ﾗ adv. あちらでは 「副詞」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

IV

trop petit ﾄﾛ･ﾌﾟﾃｨ adj. 小さすぎる 「補語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
hésite ｴｼﾞｯﾄ 1 単現(hésiter)v.i ためらっている 「動詞」
aussi sur la couleur ｵｼ･ｼｭｰﾙ･ﾗ･ｸﾚｰﾙ adv. 色についても 「間接目的語」
de son costume ﾄﾞｩ･ｿﾝ･ｺｽﾁｭｰﾑ adj. 彼の服の 「形容詞句：couleur」

そこでぼくは手探りで、どうにかこうにかこのように描いている。

Alors je tâtonne comme ci et comme ça, tant bien que mal.
「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」
Alors ｱﾛｰ adv. それで 「副詞」
tâtonne ﾀﾄﾇ 1 単現(tatonner)v.i 手さぐりで描いている 「動詞」
comme ci et comme ça ｺﾑ･ｼ･ｴ･ｺﾑ･ｻ adv. これやあれのように 「副詞句」
tant bien que mal ﾄﾝ･ﾋﾞｬﾝ･ｸ･ﾏﾙ adv. どうにかこうにか 「副詞句」

結局、僕はもっと大切な細部を間違えてしまいそうだ。

Je me tromperai enfin sur certains détails plus importans.
「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me tromperai ﾑ･ﾄﾛﾝﾌﾟﾚ 1 単未･推量(se tromper)
v.pr (sur について) 間違えるかもしれない 「動詞句」
enfin ｵﾝﾌｫﾝ adv. 結局 「副詞」
sur certains détails ｼｭｰﾙ･ｾﾙﾀﾝ･ﾃﾞﾀｲﾕ adv. ある細部について 「間接目的語」
plus importans ﾌﾟﾘｭ･ｻﾞﾝﾎﾟﾙﾄﾝ adj. もっと大切な 「形容詞句：détails」

でも、その点は許してもらわないといけない。

Mais ça, il faudra me le pardonner.
Mais「副詞」,「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」
Mais ça, il faudra me le pardonner.
ça ｻ adv. このことについては 「副詞」
il faudra ...pardonner ｲﾙ･ﾌｫﾄﾞﾗ...ﾊﾟﾙﾄﾞﾈ 非人称･3 単未･必要(falloir+不定詞)
v.t 許してもらわなければならない 「動詞句」
me le ﾑ･ﾙ n. そのことでは私を 「直接目的語」「間接目的語」

IV

僕の友達は、一度だって説明してくれなかった。ひょっとして、僕を自分と同じような人間だと思っていたのかもしれない。

Mon ami ne donnait jamais d'explications. Il me croyait peut-être semblable à lui.

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「目的語」「動詞」「副詞」「補語」

Mon ami ﾓ･ﾅﾐ n.m 僕の友達は 「主語」

ne donnait jamais ﾇ･ﾄﾞﾈ･ｼﾞｬﾒ 3 単半･否定(donner)

v.t 決してくれなかった 「動詞句」

d'explications ﾃﾞｸｽﾌﾟﾘｶｼｮﾝ pl.n.f 説明を 「目的語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 私を 「目的語」

croyait ｸﾙﾜｲｴ 3 単半(croire)v.t 思っていた 「動詞」

peut-être ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ adv. 多分 「副詞」

semblable à lui ｿﾝﾌﾞﾗﾌﾞﾙ･ｱ･ﾘｭｲ adj. 彼と同じような人間 「補語」

けれども僕は、不幸にして、箱の中に羊を見ることが出来ない。

Mais moi, malheureusement, je ne sais pas voir les moutons à travers les caisses.

Mais「主語」「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Mais ﾒ conj. しかし

moi ﾒ･ﾑわ n. 私は 「主語」

malheureusement ﾏﾙﾙｰｽﾞﾓﾝ adv. 不幸にも 「副詞」

ne sais pas voir ﾇ･ｾ･ﾊﾟ･ｳﾞわｰﾙ 1 単現･可能･否定(savoir+不定詞)

v.t 見ることができない 「動詞句」

les moutons ﾚ･ﾑﾄﾝ pl.n.m 羊を 「目的語」

à travers les caisses ｱ･tﾗｳﾞｪｰﾙ･ﾚ･ｹｰｽ adv. 箱を透かして 「副詞句」

ぼくも、ちょっとばかり、おとなたちみたいなのかもしれない。年を取ったのに違いない。

Je suis peut-être un peu comme les grandes personnes. J'ai dû vieillir.

「主語」「動詞」「副詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」

suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」

peut-être ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ adv. もしかしたら 「副詞」

un peu comme les grandes personnes ｱﾝ･ﾌﾟ･ｺﾑ･ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ

adj. 少し大人の人たちのような 「補語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai dû vieillir ｴ･ｼﾞｭ･ｳﾞｨｪｲｰﾙ 1 単現･完了形･可能性(devoir+不定詞)

v.i 年を取ったのに違いない 「動詞句」

V

日ごとに、僕は、王子様の惑星について、旅立ちについて、そして旅行について、何かを知るようになった。

Chaque jour j'apprenais quelque chose sur la planète, sur le départ, sur le voyage.
「副詞句」「主語」「動詞」「目的語」

Chaque jour ｼｬｯｷ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 日ごとに、毎日 「副詞句」
apprenais ｱﾌﾟﾙﾈ 1 単半(apprendre)v.t（情報を）知った 「動詞」
quelque chose ｹﾙｸ･ｼｮｰｽﾞ pron 何かを 「目的語」
sur la planète, sur le départ, sur le voyage
ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ｼｭｰﾙ･ﾙ･ﾃﾞﾊﾟｰﾙ･ｼｭｰﾙ･ﾙ･ｳﾞﾜﾔｰｼﾞｭ
adj. 惑星、出発、旅行などに関する 「形容詞句：chose」

（王子様が）たまたま口にする（思いがけない）考え事によって、実にゆっくりと話が分かってきた。

Ça venait tout doucement, au hasard des réflexions. 「主語」「動詞」「副詞句」
Ça ｻ pron それは 「主語」
venait ｳﾞﾈ 3 単半(venir)v.i（考えが）浮かんできた、分った 「動詞」
tout doucement ﾄｩ･ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. 本当にゆっくりと 「副詞句」
au hasard des réflexions ｵ･ｱｻﾞｰﾙ･ﾃﾞ･ﾚﾌﾚｸｼｵﾝ
adv. 偶然聞かされた王子様の考え事を通じて 「副詞句」
au hasard de... 偶然の～を通じて réflexion n.f 考察、意見

このようにして、三日目にバオバブの惨事を知った。

C'est ainsi que, le troisième jour, je connus le drame des baobabs.
「動詞」「副詞句」「主語」

C' ｽ pron 形式主語（真の主語は que 節：強調構文）
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
ainsi ｵﾝｼ adv. このようにして 「副詞句」
que ｸ conj. ～することは 「主語」
le troisième jour ﾙ･ﾄｩﾛﾜｼﾞｴｰﾑ･ｼﾞｭｰﾙ n.m 3 日目に 「副詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
connus ｺﾆｭ 1 単過(connaître)v.t 知った 「動詞」
le drame ﾙ･ﾄﾞﾗﾑ n.m 惨劇を 「目的語」
des baobabs ﾃﾞ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ adj. バオバブの 「形容詞句：drame」

V

今度もまた、あの羊のおかげだった。それというのは、王子様が深刻な疑念にとりつかれでもしたように、唐突に、僕にこう聞いたのだ：

Cette fois-ci encore ce fut grâce au mouton, car brusquement le petit prince m'interrogea, comme pris d'un doute grave:　「副詞句」「主語」「動詞」「補語」,

car「副詞」「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞句」:

Cette fois-ci encore ｾｯﾄ･ﾌｨ･ｼ･ｵﾝｺｰﾙ adv. 今回もまた　「副詞句」

ce ｽ pron それは　「主語」

fut ﾌｭ 3 単過(être)v.i ～だった　「動詞」

grâce au mouton ｸﾞﾗｰｽ･ｵ･ﾑﾄﾝ adv. あの羊のおかげ　「補語」

grâce à... ～のおかげ、au ← à le

car ｶｰﾙ conj. ～というのは　「副詞節」

brusquement ﾌﾞﾘｭｽｸﾓﾝ adv. 不意に、突然　「副詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様が　「主語」

m' ﾑ pron 私に　「間接目的語」

interrogea ｱﾝﾃﾛｼﾞｬ 3 単過(interroger)v.t 尋ねた　「動詞」

comme ｺﾑ adv. ～のように　「副詞句」

pris ﾌﾟﾘ 過去分詞 v.t（疑念に）取りつかれた（受動）　「動詞」

d'un doute grave ﾀﾞﾝ･ﾄﾞｩｯﾄ･ｸﾞﾗｰｳﾞ adv. 深刻な疑念に　「副詞句」

「羊が低木を食べるって、本当なんでしょう？」

《C'est bien vrai, n'est-ce pas, que les moutons mangent les arbustes?

《C'「動詞」「補語」（確認）「主語」》

C' ｽ pron それは（形式主語、真の主語は que 以降）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である　「動詞」

bien vrai ﾌﾞﾔﾝ･ｳﾞﾚ adj. 本当の　「補語」

n'est-ce pas ﾈ･ｽ･ﾊﾟ adv. そうでしょう　（確認）

que ｸ conj. ～ということは　「主語」

les moutons ﾚ･ﾑﾄﾝ pl.n.m 羊が　「主語」

mangent ﾓﾝｼﾞｭ 3 複現(manger)v.t 食べる　「動詞」

les arbustes ﾚ･ｻﾞﾙﾋﾞｭｽﾄ pl.n.m 低木を　「目的語」

「そう、本当だよ」

--- Oui. C'est vrai.　《「主語」「動詞」「補語」》

Oui ｳｨ adv. そうだ　(応答)

C' ｽ pron それは　「主語」

V

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
vrai ｳﾞﾚ adj. 本当の 「補語」

「ああ！それならよかった！」
--- Ah! Je suis content!》
「感嘆」「主語」「動詞」「補語」》
Ah ｱｰ adv. ああ 「感嘆」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
content ｺﾝﾄﾝ adj. 満足である、嬉しい 「補語」

羊が低木を食べることが、なぜそんなに大事なのか、僕にはわからなかった。しかし、王子様は付け加えた：
Je ne compris pas pourquoi il était si important que les moutons mangeassent les arbustes. Mais le petit prince ajouta:
「主語」「動詞句」「目的語」 | Mais「主語」「動詞」:
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne compris pas ﾇ･ｺﾝﾌﾟﾘ･ﾊﾟ 1 単過･否定(comprendre)v.t 分からなかった 「動詞句」
pourquoi ﾌﾟﾙｸｫ n. どうして～であるかということ 「目的語」
il ｲﾙ pron 形式主語（真の主語は que 以降）
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～である 「動詞」
si important ｼ･ｱﾝﾎﾟﾙﾄﾝ adj. そんなに大事な 「補語」
que ｸ conj. ～ということが 「主語」
les moutons ﾚ･ﾑﾄﾝ pl.n.m 羊が 「主語」
mangeassent ﾓﾝｼﾞｬｽ 接・3 複半･推量(manger)
v.t 食べるだろう 「動詞」
les arbustes ﾚ･ｻﾞﾙﾋﾞｭｽﾄ pl.n.m 低木を 「目的語」
Mais ﾒ conj. しかし
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
ajouta: ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

「したがって、羊はバオバブも食べるんだね」
《Par conséquent ils mangent aussi les baobabs?》
《「副詞句」「主語」「動詞」「目的語」》
Par conséquent ils mangent aussi les baobabs?
Par conséquent ﾊﾟｰﾙ･ｺﾝｾｺﾝ adv. 従って 「副詞句」

V

ils ｲﾙ pl.pron 羊は 「主語」
mangent ﾓﾝｼﾞｭ 3 複現(manger)v.t 食べる 「動詞」
aussi les baobabs ｵｼ･ﾚ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m バオバブも 「目的語」

僕は王子様に、バオバブは低木ではなくて、教会のように大きな木であること、王子様が象の群れ全体を連れて行っても、その群れはたった一本のバオバブも食べつくせないだろうということを気づかせた。

Je fis remarquer au petit prince que les baobabs ne sont pas des arbustes, mais des arbres grands comme des églises et que, si même il emportait avec lui tout un troupeau d'éléphants, ce troupeau ne viendrait pas à bout d'un seul baobab.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
fis remarquer ﾌｨ･ﾙﾏﾙｹ 1 単過･使役(faire+不定詞 remarquer +à qn)
v.t（人に～を）気づかせた 「動詞句」
不定詞は au petit prince の動作を表す「補語」の働きをしている
au petit prince ｵ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adv. 王子様に 「間接目的語」
que ｸ conj. ～ということを 「直接目的語」
les baobabs ﾚ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m バオバブは 「主語」
ne sont pas ﾇ･ｿﾝ･ﾊﾟ 3 複現(être)v.i ～ではない 「動詞句」
des arbustes ﾃﾞ･ｻﾞﾙﾋﾞｭｽﾄ pl.n.m 低木 「補語」
mais ﾒ conj. それどころか
des arbres grands ﾃﾞ･ｻﾞﾙﾌﾞﾙ･ｸﾞﾛﾝ pl.n.m 大きな木 「補語」
comme des églises ｺﾑ･ﾃﾞ･ｾﾞｸﾞﾘｰｽﾞ adj. 教会のように「形容詞句：arbres」
et ｴ conj. そして
que ｸ conj. ～ということ 「直接目的語」
si même ｼ･ﾒｰﾑ adv. たとえ～しても 「副詞節」
il ｲﾙ pron 王子様が 「主語」
emportait ｵﾝﾎﾟﾙﾃ 3 単半(emporter)v.t 連れてくる 「動詞」
avec lui ｱｳﾞｪｯｷ･ﾘｭｲ adv. 一緒に 「副詞句」
tout un troupeau d'éléphants ﾄｩ･ﾀﾝ･ﾄﾙﾎﾟ･ﾃﾞﾚﾌｫﾝ
n.m 象の群れ全体を 「目的語」
ce troupeau ｽ･ﾄﾙﾎﾟ n.m その群れは 「主語」
ne viendrait pas à bout d' ﾇ･ｳﾞｨﾔﾝﾄﾞﾚ･ﾊﾟ･ｱ･ﾌﾞ･ﾄﾞｩ 条・3 単半･否定･推量
v.t ～を食べつくせないだろう 「動詞句」
venir à bout de... ～を終える、に打ち勝つ、～を食べつくす

V

un seul baobab ｱﾝ･ｽﾙ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ n.m 一本のバオバブさえも 「目的語」

象の群れという思いつきに、王子様は笑った。「（ぼくんとこは狭いから）象を次々に重ねないといけないだろうな」

L'idée du troupeau d'éléphants fit rire le petit prince:

《Il faudrait les mettre les uns sur les autres ...》

「主語」「動詞句」「目的語」:《「動詞句」「主語」》

L'idée du troupeau d'éléphants ﾘﾃﾞ･ｼﾞｭ･ﾄﾙﾎﾟ･ﾃﾞﾚﾌｫﾝ n.f 象の群れという考えは「主語」

fit rire ﾌｨ･ﾘｰﾙ 3 単過･使役(faire+不定詞 rire +qn)

v.i（人を）笑わせた、（人が）笑った 「動詞句」

不定詞は le petit prince の動作を表す「補語」の働きをしている

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様を 「目的語」

→ 王子を主語、L'idée を原因として翻訳する。

Il faudrait ｲﾙ･ﾌｫﾄﾞﾚ 条･3 単現(falloir+不定詞)v.h ～しなければならないだろう「動詞句」

les mettre les uns ﾚ･ﾒｯﾄﾙ･ﾚ･ｻﾞﾝ 不定詞+les uns n. 象たちを乗せること 「主語」

les は「目的語」で les uns「象たち」の先出。

sur les autres ｼｭｰﾙ･ﾚ･ｿﾞｰﾄﾙ adv. 他の象たちの上に 「副詞句」

しかし、賢明にもこう指摘した：

Mais il remarqua avec sagesse: Mais「主語」「動詞」「副詞句」:

Mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 王子は 「主語」

remarqua ﾙﾏﾙｶ 3 単過(remarquer)v.t 指摘した 「動詞」

avec sagesse ｱｳﾞｪｯｷ･ｻｼﾞｪｽ adv. 賢明なことに 「副詞句」

「バオバブでも、大きくなる前は、小さいんだよね」

《Les baobabs, avant de grandir, ça commence par être petit.

《「主語」「副詞句」「主語」「動詞」「補語」》

Les baobabs ﾚ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m バオバブは 「主語」

avant de grandir ｱｳﾞｫﾝ･ﾄﾞｩ･ｸﾞﾛﾝﾃﾞｨｰﾙ adv.(avnat de+不定詞)

大きくなる前は 「副詞句」

ça ｻ pron それは（バオバブは） 「主語」

V

commence ｺﾓﾝｽ 3 単現(commencer par)v.i ～から始まる 「動詞」
par être petit ﾊﾟｰﾙ･ｴｰﾄﾙ･ﾌﾟﾃｨ adv. 小さい状態から 「副詞句」

「そのとおり！でも、なぜ、小さなバオバブを君の羊たちが食べるのを望むの」
--- C'est exact! Mais pourquoi veux-tu que tes moutons mangent les petits baobabs?》
《「主語」「動詞」「補語」 | Mais「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》
C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
exact ｴｸﾞｻﾞ adj. 正しい、その通りだ 「補語」
pourquoi ﾌﾟﾙｸｫ adv. どうして 「副詞」
veux ｳﾞ 2 単現(vouloir)v.t 望む 「動詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
que ｸ conj. ～ということ 「目的語」
tes moutons ﾃ･ﾑﾄﾝ pl.n.m 君の羊が 「主語」
mangent ﾓﾝｼﾞｭ 接・3 複現(manger)v.t 食べる 「動詞」
les petits baobabs ﾚ･ﾌﾟﾃｨ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m 小さいバオバブを 「目的語」

「あきれたなあ！何言ってるんだ！」と王子様は、あたかもそこでは明証性が問題であったかのように答えた。
Il me répondit: 《Ben! Voyons!》, comme s'il s'agissait là d'une évidence.
「主語」「間接目的語」「動詞」:《「感嘆」》,「副詞節」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.t ～と答えた 「動詞」
Ben ﾊﾞﾝ adv.（感嘆）何だって
Voyons ｳﾞｫﾖﾝ 1 複現(voir)v.t（話し言葉）まあ、ちょっと待てよ
→（感嘆）何だって、ちょっと待てよ！ 《「感嘆」》
comme s' ｺﾑ･ｽ adv. まるで～のように 「副詞節」
il ｲﾙ pron 非人称主語
s'agissait ｻｼﾞｾ 3 単半(s'agir de+qch)v.pr（非人称）～が問題であった「動詞句」
là ﾗ adv. そこでは 「副詞句」
d'une évidence ﾃﾞｭﾝﾇ･ｴｳﾞｨﾄﾞﾝｽ n.f わかり切ったことが 「主語」

それで僕は、自分一人でその問題を解くのに、大きな努力が必要だった。
Et il me fallut un grand effort d'intelligence pour comprendre à moi seul ce problème.
Et「間接目的語」「動詞」「主語」「副詞句」

V

Et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron 非人称主語
me ﾑ pron 私にとって 「間接目的語」
fallut ﾌｧﾘｭ 3 単過(falloir+名詞)v.h ～が必要だった 「動詞」
un grand effort d'intelligence ｱﾝ･ｸﾞﾛﾝﾃﾞﾌｫｰﾙ･ﾀﾞﾝﾃﾘｼﾞｮﾝｽ
n.m 知能の大きな努力が 「主語」
pour comprendre ﾌﾟｰﾙ･ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ adv. ～を理解するために 「副詞句」
à moi seul ｱ･ﾑｧ･ｽﾙ adv. 自分一人で 「副詞句」
ce problème ｽ･ﾌﾟﾛﾌﾞﾚｰﾑ n.m その問題を 「目的語」
それで、必要だった、その問題を一人で理解するために。

実のところ、王子様の惑星には、あらゆる惑星と同じように、良い草と悪い草があった。
Et en effet, sur la planète du petit prince, il y avait, comme sur toutes les planètes, de bonnes herbes et de mauvaises herbes. 「副詞句」「動詞句」「副詞句」「主語」
Et en effet ｴ･ｵ･ﾈﾌｪ adv. そして確かに 「副詞句」
sur la planète du petit prince ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ｼﾞｭ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ
adv. 王子様の惑星には 「副詞句」
il y avait ｲ･ﾘ･ﾔｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t あった 「動詞句」
comme sur toutes les planètes ｺﾑ･ｼｭｰﾙ･ﾄｯﾄ･ﾚ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ
adv. あらゆる惑星と同じように 「副詞句」
de bonnes herbes et de mauvaises herbes ﾄﾞｩ･ﾎﾞﾝﾇ･ｴﾙﾌﾞ･ｴ･ﾄﾞｩ･ﾓｳﾞｪｰｽﾞ･ｴﾙﾌﾞ
pl.n.f 良い草と悪い草が 「主語」

従って、良い草の種と、悪い草の種とがあった。
Par conséquent de bonnes graines de bonnes herbes et de mauvaises graines de mauvaises herbes. 「副詞句」「主語」
Par conséquent ﾊﾟｰﾙ･ｺﾝｾｺﾝ adv. 従って(il y avait が省略されている) 「副詞句」
de bonnes graines de bonnes herbes et de mauvaises graines de mauvaises herbes
ﾄﾞｩ･ﾎﾞﾝﾇ･ｸﾞﾚｰﾇ･ﾄﾞｩ･ﾎﾞﾝﾇ･ｴﾙﾌﾞ･ｴ･ﾄﾞｩ･ﾓｳﾞｪｰｽﾞ･ｸﾞﾚｰﾇ･ﾄﾞｩ･ﾓｳﾞｪｰｽﾞ･ｴﾙﾌﾞ
pl.n.f 良い草の良い種と悪い草の悪い種が 「主語」

でも、種というのは目に見えない。土の中でそのうちのどれか一つの種が芽を覚ます気になるまで、眠っている。
Mais les graines sont invisibles. Elles dorment dans le secret de la terre jusqu'à ce qu'il prenne fantaisie à l'une d'elles de se réveiller.
Mais「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

V

les graines ﾚ･ｸﾞﾚｰﾇ pl.n.f 種は 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現（être）v.i ～である 「動詞」
invisibles ｱﾝｳﾞｨｼﾞｰﾌﾞﾙ adj. 目に見えない 「補語」
Elles ｴﾙ pl.n.f 種たちは 「主語」
dorment ﾄﾞﾙﾑ 3 複現(dormir)v.i 眠る 「動詞」
dans le secret de la terre ﾄﾞﾝ･ﾙ･ｽｸﾚ･ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾃｰﾙ ﾄﾞﾝ･ﾙ･ｽｸﾚ･ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾃｰﾙ
adv. 地面の中で 「副詞句」
jusqu'à ｼﾞｭｽｶ adv. ～するまで 「副詞句」
ce qu' ｽ･ｸ pron ～ということ 「目的語」
il ｲﾙ pron 形式主語
prenne ﾌﾟﾚﾝﾇ 接・3 単現(prendre)v.i 起こる 「動詞」
fantaisie ﾌｫﾝﾃｼﾞｰ n.f 気まぐれが 「主語」
à l'une d'elles ｱ･ﾘｭﾝﾇ･ﾃﾞﾙ adv. 種のどれか一つが 「間接目的語」
de se réveiller ﾄﾞｩ･ｽ･ﾚｳﾞｪｲｪ adj. 目を覚まそうという「形容詞句：fantaisie」

それから背伸びをする。そして、はじめはおずおずと、日光の方へ、魅力的な小さな罪のない小枝を伸ばす。

Alors elle s'étire, et pousse d'abord timidement vers le soleil une ravissante petite brindille inoffensive. 「副詞」「主語」「動詞句」et「動詞」「副詞句」「目的語」
Alors ｱﾛｰ adv. それから 「副詞」
elle ｴﾙ pron それは 「主語」
s'étire ｾﾃｨﾙ 3 単現(s'étirer)v.pr 背伸びをする 「動詞句」
et ｴ conj. そして
pousse ﾌﾟｽ 3 単現(pousser)v.t 伸ばす 「動詞」
d'abord timidement ﾀﾞﾎﾞｰﾙ･ﾁﾐｯﾄﾞﾓﾝ adv. 最初は遠慮がちに 「副詞句」
vers le soleil ｳﾞｪｰﾙ･ﾙ･ｿﾚｲﾕ adv. 日光の方へ 「副詞句」
une ravissante petite brindille inoffensive ﾕﾝﾇ･ﾗｳﾞｨｿﾝﾄ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ･ﾌﾞﾗﾝﾃﾞｨﾕ･ｲﾉﾌｫﾝｼﾌ
n.f うっとりするような、罪のない小枝を 「目的語」

V

赤カブや薔薇の木の小枝なら、それが芽を出すままにさせておけば良い。

S'il s'agit d'une brindille de radis ou de rosier, on peut la laisser pousser comme elle veut.

「副詞節」,「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞節」

S' ｽ conj. もし～である 「副詞節」

il ｲﾙ pron 非人称主語

s'agit ｻｼﾞ 3 単現(s'agir de+qch)v.h ～に関わることである 「動詞句」

d'une brindille ﾃﾞｭﾝﾇ･ﾌﾞﾗﾝﾃﾞｨｭ n.f 小枝 「主語」

de radis ou de rosier ﾄﾞｩ･ﾗﾃﾞｨ･ｳ･ﾄﾞｩ･ﾛｼﾞｪ

adj. 赤カブやバラの木の 「形容詞句：brindille」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

peut ... laisser pousser ﾌﾟ ...ﾚｾ･ﾌﾟｾ 3 単現・可能・放任(pouvoir+不定詞)

v.i 伸びるままにさせて構わない 「動詞句」

la ﾗ pron 小枝が 「目的語」

comme elle veut ｺﾑ･ｴﾙ･ｳﾞ adv. 小枝が望むように 「副詞節」

もしそれが赤カブやバラの小枝なら、枝が伸びたい放題にさせておけば良い。

V

しかし、悪い植物なら、気づくやいなやすぐ抜き取らねばならない。

Mais s'il s'agit d'une mauvaise plante, il faut arracher la plante aussitôt, dès qu'on a su la reconnaître. Mais「副詞節」,「動詞」「主語」「副詞節」

Mais メ conj. しかし

s' ス conj. もし〜である 「副詞節」

il ｲﾙ pron 非人称主語

s'agit ｻｼﾞ 3 単現(s'agir de+qch)v.h 〜に関わることである 「動詞句」

d'une mauvaise plante ｼﾞｭﾝﾇ･ﾓｳﾞｪｰｽﾞ･ﾌﾟﾗﾝﾄ n.f 悪い植物 「主語」

il ｲﾙ pron 非人称主語

faut ﾌｫ 3 単現(falloir+不定詞)v.h 〜しなければならない 「動詞」

arracher ｱﾗｼｪ 不定詞 v.t 引き抜くこと 「主語」

la plante ﾗ･ﾌﾟﾗﾝﾄ n.f その植物を 「目的語」

aussitôt ｵｼﾄ adv. ただちに 「副詞」

dès qu' ﾃﾞ･ｸ adv. 〜するやいなや 「副詞節」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

a su ...reconnaître ｱ･ｽ...ﾙｺﾈｰﾄﾙ 3 単現･完了形(savoir+不定詞)

v.t 見分けることができた 「動詞句」

la ﾗ pron それを 「目的語」

ところで王子様の星には、恐ろしい種があった....。バオバブの種だ。

Or il y avait des graines terribles sur la planète du petit prince ... c'étaient les graines de baobabs. Or「動詞句」「主語」「副詞句」...「主語」「動詞」「補語」

Or ｵｰﾙ conj. ところで

il y avait ｲ･ﾘ･ｱｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t があった 「動詞句」

des graines terribles ﾃﾞ･ｸﾞﾚｰﾇ･ﾃﾘﾌﾞﾙ pl.n.m 恐ろしい種が 「主語」

sur la planète du petit prince ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ｼﾞｭ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ

adv. 王子様の星には 「副詞句」

c' ｽ pron それは 「主語」

étaient ｴﾃ 3 複半(être)v.i 〜だった 「動詞」

les graines de baobabs ﾚ･ｸﾞﾚｰﾇ･ﾄﾞｩ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m バオバブの種 「補語」

V

その惑星の地面には、それがはびこっていた。一本のバオバブでも、とりかかるのが遅すぎると、もう絶対に片づけられなくなる。

Le sol de la planète en était infesté. Or un baobab, si l'on s'y prend trop tard, on ne peut jamais plus s'en débarrasser.

「主語」「副詞」「動詞句」 | Or「目的語」, 「副詞節」,「主語」「動詞句」

Le sol de la planète ﾙ･ｿﾙ･ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.m その惑星の地面は 「主語」

en ｵﾝ pron (de graines de baobabs の代用) それに 「副詞」

était infesté ｴﾃ･ｱﾝﾌｪｽﾃ 3 単半･受動(infester)v.t はびこられていた 「動詞句」

Or ｵｰﾙ conj. ところが

un baobab ｱﾝ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ n.m 一本のバオバブでも 「目的語」

si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

l' ﾙ pron それを 「目的語」

on ｵﾝ pron 人が 「主語」

s'y prend ｼ･ﾌﾟﾛﾝ 3 単現(s'y prendre)v.t 取り掛かる 「動詞句」

trop tard ﾄﾛ･ﾀｰﾙ adv. あまりに遅く 「副詞句」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

ne peut jamais plus s'en débarrasser ﾇ･ﾌﾟ･ｼﾞｬﾒ･ﾌﾟﾘｭ･ｿﾝ･ﾃﾞﾊﾞﾗｯｾ

3 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞 se débarrasser+en)

v.t 絶対にそれを片づけられない 「動詞句」

se débarrasser de ... を処分する、を片づける

それは惑星全体にはびこる。根でもってそれに穴をあける。そして星が小さすぎてバオバブが多すぎると、それらは星を破裂させてしまうのだ。

Il encombre toute la planète. Il la perfore de ses racines. Et si la planète est trop petit, et si les baobabs sont trop nombreux, ils la font éclater.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」

Et「副詞節」, et「副詞節」,「主語」「目的語」「動詞句」

Il ｲﾙ pron それは（バオバブは） 「主語」

encombre ｵﾝｺﾝﾌﾞﾙ 3 単現(encombrer)v.t（場所を）ふさぐ、はびこる 「動詞」

toute la planète ﾄｯﾄ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. 惑星全体に 「副詞句」

Il ｲﾙ pron それは（バオバブは） 「主語」

la ﾗ pron 惑星に 「目的語」

perfore ﾍﾟﾙﾌｫｰ 3 単現(perforer de)v.t ～で穴をあける 「動詞」

de ses racines ﾄﾞｩ･ｾ･ﾗｼｰﾇ adv.（道具）根によって 「副詞句」

Et ｴ conj. そして

si ｼ conj. もし～なら 「副詞節」

V

la planète ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f その惑星が 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
trop petit ﾄﾛ･ﾌﾟﾃｨ adj. 小さすぎる 「補語」
et ｴ conj. そして
si ｼ conj. もし～なら 「副詞節」
les baobabs ﾚ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m バオバブが 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
trop nombreux ﾄﾛ･ﾉﾝﾌﾞﾙ adj. 多すぎる 「補語」
ils ｲﾙ pron.pl バオバブは 「主語」
la ﾗ pron 惑星を 「目的語」
font éclater ﾌｫﾝ･ｴｸﾗﾃ 3 複現･使役(faire+不定詞 éclater)
v.i 破裂させてしまう 「動詞句」

「それは几帳面さの問題でね」。後になって、王子様は僕に言ったものだ。「朝の自分の身支度を済ませたら、星の身支度を丁寧にしなければいけないんだ。」

《C'est une question de discipline, me disait plus tard le petit prince. Qund on a terminé sa toilette du matin, il faut faire soigneusement la toilette de la planète.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「間接目的語」「動詞句」「副詞句」「主語」
《「副詞節」,「動詞」「主語」》

C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
une question ﾕﾝﾇ･ｹｽﾁｮﾝ n.f 問題 「補語」
de discipline ﾄﾞｩ･ﾃﾞｨｼﾌﾟﾘｰﾇ adj. 几帳面さの 「形容詞句：question」
me ﾑ pron 私に 「間接目的語」
disait ﾃﾞｨｾﾞ 3 単半(dire)v.t 言った 「動詞」
plus tard ﾌﾟﾘｭ･ﾀｰﾙ adv. 後になって 「副詞句」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様が 「主語」
「それは規律の問題だ」、後に王子様は私に言った。
Qund ｺﾝ adv. ～するとき、～したら 「副詞節」
on ｵﾝ pron 人は 「主語」
a terminé ｱ･ﾃﾙﾐﾈ 3 単現･完了形(terminer)v.t 済ませた 「動詞句」
sa toilette du matin ｻ･ﾄｫﾚｯﾄ･ｼﾞｭ･ﾏﾀﾝ n.f 朝の身支度 「目的語」
il ｲﾙ pron 非人称主語（真の主語は faire 以降の不定詞句）
faut ﾌｫ 3 単現(falloir)v.h ～が必要である 「動詞」
faire ﾌｪｰﾙ 不定詞 v.t ～すること 「主語」
soigneusement ｽﾜﾆｭｰｽﾞﾓﾝ adv. 入念に 「副詞」

V

la toilette de la planète ﾗ･ﾄｩﾚｯﾄ･ﾄﾞｩﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 惑星の身支度 「目的語」

「ごく小さい時はとてもよく似ている薔薇の木とバオバブを見分けたら、すぐさま引き抜くようにきちんと努めなければいけないんだ。すごく煩わしい仕事だけど、実にやさしいよ」

Il faut s'astreindre régulièrement à arracher les baobabs dès qu'on les distingue d'avec les rosiers auxquels ils ressemblent beaucoup quand ils sont très jeunes. C'est un travail très ennuyeux, mais très facile.》

《「動詞句」「主語」「副詞節」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Il faut ｲ･ﾌｫ 3 単現(falloir+不定詞)v.h ～しなければならない 「動詞句」

s'astreindre régulièrement à arracher ｻｽﾄﾗﾝﾄﾞﾙ･ﾚｷﾞｭﾘｪｰﾙﾓﾝ･ｱ･ｱﾗｼｪ

不定詞(s'astreindre à+不定詞 arracher)v.t 努めてきちんと引き抜くこと 「主語」

régulièrement adv. きちんと、几帳面に、arracher v.t 引き抜く

les baobabs ﾚ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m バオバブを 「目的語」

dès que+直説法 ～するやいなや、～したらすぐに 「副詞節」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

les ﾚ pl.n. それを 「目的語」

distingue ﾃﾞｨｽﾀﾝｸﾞ 3 単現(distinguer)v.t 見分ける 「動詞」

d'avec les rosiers ﾀﾞｳﾞｪｯｷ･ﾚ･ﾛｼﾞｪ adv. バラと 「副詞句」

auxquels ｵｹﾙ pron それは～する 「形容詞節：rosiers」

ils ｲﾙ pron それは（バオバブ） 「主語」

ressemblent ﾙｻﾝﾌﾞﾙ 3 複現(ressembler)

v.i 似ている 「動詞」

beaucoup ﾎﾞｸ adv. 大変 「副詞」

quand ｺﾝ adv. ～するときに 「副詞節」

ils ｲﾙ pron それが 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

très jeunes ﾄﾚ･ｼﾞｭﾇ adj. 若い 「補語」

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

un travail ｱﾝ･ﾄﾗｳﾞｧｲﾕ n.m 仕事 「補語」

très ennuyeux, mais très facile ﾄﾚ･ｵﾝﾆｭｲﾕ･ﾒ･ﾄﾚ･ﾌｧｼﾙ

adj. とても煩わしいけど実に簡単な 「形容詞句：travail」

V

そしてある日、王子様は、僕の所の子供たちの頭によく入るように、美しいデッサンを描き上げることに専念するように勧めた。

Et un jour il me conseilla de m'appliquer à réussir un beau dessin, pour bien faire entrer ça dans la téte des enfants de chez moi.

「副詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」,「副詞句」

Et un jour ｴ･ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ n.m そしてある日 「副詞句」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」

conseilla ｺﾝｾｲﾔ 3 単過(conseiller à qn de+不定詞 m'appliquer)

v. 〜するように勧めた 「動詞句」

de m'appliquer à réussir ﾄﾞｩ･ﾏﾌﾟﾘｹ･ｱ･ﾚｭｼｰﾙ 不定詞(m'appliquer+不定詞)

v.t（絵を）描きあげることに専念する 「直接目的語」

un beau dessin ｱﾝ･ﾎﾞ･ﾃﾞｻﾝ n.m 美しい絵を 「目的語」

pour ﾌﾟｰﾙ adv. 〜するために 「副詞句」

bien faire entrer ﾋﾞﾔﾝ･ﾌｪｰﾙ･ｵﾝﾄﾚ 不定詞 v.t しっかりと入らせる 「動詞句」

ça ｻ pron それを 「目的語」

dans la téte ﾄﾞﾝ･ﾗ･ﾃｰﾄ adv. 頭の中に 「副詞句」

des enfants de chez moi ﾃﾞ･ｿﾞﾝﾌｫﾝ･ﾄﾞｩ･ｼｪ･ﾑわ

adj. 僕のところの子供たちの 「形容詞句：téte」

V

Les baobabs.

V

「彼らがいつか旅行をするような場合、」と、彼は言った。「役に立つかもしれないよ。仕事を後回しにする事は、時には差し障りがないこともある。」

《S'ils voyagent un jour, me disait-il, ça pourra leur servir. Il est quelquefois sans inconvénient de remettre à plus tard son travail.

《「副詞節」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「動詞」「補語」「主語」》

S' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

ils ｲﾙ pron.pl 彼らが 「主語」

voyagent ｳﾞﾜﾔｼﾞｭ 3 複現(voyager)

v.i 旅行する 「動詞」

un jour ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ n.m（未来）いつか 「副詞句」

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」

disait ﾃﾞｨｾﾞ 3 単半(dire)v.t 言った 「動詞」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ça ｻ pron それは 「主語」

pourra ...servir ﾌﾟﾗ...ｾﾙｳﾞｨｰﾙ 3 単未・推量

(pouvoir+不定詞 servir)v.i (à qn)（人の）役に立つかもしれない 「動詞句」

leur ﾚｰﾙ pron 彼らの 「間接目的語」

Il ｲﾙ 形式主語

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

quelquefois sans inconvénient ｹﾙｸﾌｫｱ･ｿﾝ･ｱﾝｺﾝｳﾞｪﾆｬﾝ

adj. 時には支障がない 「補語」

de remettre ﾄﾞｩ･ﾙﾒｯﾄﾙ 不定詞 延期することが 「主語」

à plus tard ｱ･ﾌﾟﾘｭ･ﾀｰﾙ adv. 後回しに 「副詞句」

son travail ｿﾝ･ﾄﾗｳﾞｧｲﾕ n.m 仕事を 「目的語」

「だけど、バオバブに関しては、そんなことをしたらおしまいさ。怠け者が住んでいた星を知っているけど、その人は三本のバオバブを放っておいたんだよ...」

Mais, s'il s'agit des baobabs, c'est toujours une catastrophe. J'ai connu une planète, habitée par un paresseux. Il avait négligé trois arbustes ...》

《Mais「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》

Mais ﾒ conj. しかし

s' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

il ｲﾙ pron 非人称主語

s'agit ｻｼﾞ 3 単現(s'agir de...)v.pr ～に関すること 「動詞句」

V

des baobabs デ・バオバブ pl.n.m バオバブの 「目的語」
c' ス pron それは 「主語」
est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
toujours une catastrophe トゥジュール・ユンヌ・キャタストロフ n.f 悲惨な結果に決まっている 「補語」
J' ジュ pron 僕は 「主語」
ai connu エ・コニュ 1 単現・完了形(connaître)v.t 知っている 「動詞句」
une planète ユンヌ・プラネット n.f ある星を 「目的語」
habitée アビテ p.p.adj.f(habiter) ～が住んでいた 「形容詞句：planète」
他動詞の過去分詞は受動的な意味になる「住まれていた」
par un paresseux パール・アン・パレスー adv. 怠け者が「副詞句」
「怠け者に住まれていた」を能動文に翻訳する
Il イル pron 彼は 「主語」
avait négligé アヴェ・ネグリジェ 3 単半・完了形(négliger)v.t 放っておいた 「動詞句」
trois arbustes. トゥロわ・ザルビュスト pl.n.m 3 本のバオバブを 「目的語」

そこで、僕は王子様の指示に従って、その惑星の絵を描いた。道徳家の口調で言うことはあまり好きではないが、

Et, sur les indications du petit prince, j'ai dessiné cette planète-là. Je n'aime guère prendre le ton d'un moraliste.

Et「副詞句」,「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Et エ conj. そこで
sur シュール adv. ～に合わせて、～に従って 「副詞句」
les indications du petit prince レ・ザンディカション・ジュ・プティ・プランス
pl.n.f 王子様の指示 「目的語」
j' ジュ pron 僕は 「主語」
ai dessiné エ・デシネ 1 単現・完了形(dessiner)v.t（線で）描いた 「動詞句」
cette planète-là セット・プラネット・ラ n.f その惑星を 「目的語」
Je ジュ pron 僕は 「主語」
n'aime guère prendre ネーム・ゲール・プロンドル 1 単現・否定(aimer+不定詞)
v.t ～を採用するのはあまり好きではない 「動詞句」
le ton ル・トン n.m 口調を 「目的語」
d'un moraliste. ダン・モラリスト adj. 道徳家の 「形容詞句：ton」

V

バオバブの危険さはあまり知られていないし、小惑星で道に迷った人が冒す危険というのはあまりにも大きいので、一度だけ、僕の慎みに例外を設けて、こう言いたい。「おーい、子供たちよ、バオバブには注意するんだよ！」

Mais le danger des baobabs est si peu connu, et les risques courus par celui qui s'égarerait dans un astéroïde sont si considérables, que, pour une fois, je fais exception à ma réserve. Je dis: 《Enfants! Faites attention aux baobabs!》

Mais「主語」「動詞」「補語」et「主語」「動詞」「補語」
que「副詞句」「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
「主語」「動詞」：《「呼びかけ」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」》

Mais ﾒ conj. しかし
le danger des baobabs ﾙ･ﾄﾞﾝｼﾞｪ･ﾃﾞ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ n.m バオバブの危険性 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
si peu connu ｼ･ﾌﾟ･ｺﾆｭ adj. ほとんど知られていない 「補語」
et ｴ conj. それに
les risques ﾚ･ﾘｽｷ pl.n.m 危険 「主語」
courus ｸﾘｭ 過去分詞 adj. 冒された 「形容詞句：risques」
par celui ﾊﾟｰﾙ･ｽﾘｭｲ adv. 誰かによって 「副詞句」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節：celui」
s'égarerait ｾｶﾞﾙﾚ 条・3 単現(s'égarer)
v.pr 道に迷う 「動詞句」
dans un astéroïde ﾄﾞﾝ･ｻﾞﾝ･ｱｽﾃﾛｲﾄﾞ
adv. 小惑星で 「副詞句」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
si considérables ｼ･ｺﾝｼﾃﾞﾗｰﾌﾞﾙ adj. とても甚大な 「補語」
que ｸ conj.(si...que) だから
pour une fois ﾌﾟｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾌｫ adv. 一度だけ、例外的に 「副詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
fais ﾌｪ 1 単現(faire)v.t 作る 「動詞」
exception ｴｸｾﾌﾟｼｮﾝ n.f 例外を 「目的語」
à ma réserve ｱ･ﾏ･ﾚｾﾞﾙｳﾞ adv. 僕の控えめな態度に 「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
dis ﾃﾞｨ 1 単現(dire)v.t 言う 「動詞」
Enfants ｵﾝﾌｫﾝ pl.n. 子供たちよ 「呼びかけ」
Faites ﾌｪｯﾄ 命・2 複現(faire)v.t しなさい 「動詞」
attention ｱﾄﾝｼｮﾝ n.f 注意を 「直接目的語」
aux baobabs ｵ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ adv. バオバブに 「間接目的語」

V

このバオバブの絵をこんなに丹精込めて仕上げたのも、僕の友人たちに、僕と同様にずいぶん前からそれと知らずにさらされている危険を、知らせてあげるため。

C'est pour avertir mes amis d'un danger qu'ils frôlaient depuis longtemps, comme moi-même, sans le connaître, que j'ai tant travaillé ce dessin-là.

C'「動詞」「副詞句」「主語」

C' ｽ pron 形式主語（真の主語は que 以降の節）

C'est ... que ～ （強調構文） 「～は...である」

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

pour +不定詞 adv.（目的）～するため 「副詞句」

avertir ｱｳﾞｪﾙﾃｨｰﾙ 不定詞 v.t（人）に（de 何）を知らせる 「動詞」

mes amis ﾒｻﾞﾐ pl.n. 僕の友人たちに 「間接目的語」

d'un danger ﾀﾞﾝ･ﾄﾞﾝｼﾞｪ n.m 危険を 「直接目的語」

qu' ｸ pron ～という 「形容詞節：danger」

ils ｲﾙ pron 彼らが 「主語」

frôlaient ﾌﾛﾚ 3 複半(frôler)v.t 軽く触れてきた 「動詞」

depuis longtemps ﾄﾞｩﾋﾟｭｲ･ﾛﾝﾄﾝ adv. ずっと前から 「副詞句」

comme moi-même ｺﾑ･ﾑｫ･ﾒｰﾑ adv. 僕と同様に 「副詞句」

sans le connaître ｿﾝ･ﾙ･ｺﾈｰﾄﾙ adv. それを知らずに 「副詞句」

que ｸ conj. ～ということ 「主語」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

ai tant travaillé ｴ･ﾄﾝ･ﾄﾗｳﾞｧｲｴ 1 単現･完了形(travailler)

v.t それほど磨きをかけた 「動詞句」

ce dessin-là ｽ･ﾃﾞｯｻﾝ･ﾗ n.m このバオバブの絵に 「目的語」

僕が与えたこの教訓はその苦労に値していた。君たちは、不思議に思うかもしれない：

La leçon que je donnais en valait la peine. Vous vous demanderez peut-être:

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」：

La leçon ﾗ･ﾙｿﾝ n.f 教訓 「主語」

que ｸ pron ～する 「形容詞節：leçon」

je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

donnais ﾄﾞﾈ 1 単半(donner)v.t 与えた 「動詞」

en ｵﾝ adj. そうしたことの(de cela) 「形容詞句：peine」

valait ｳﾞｧﾚ 3 単半(valoir)v.i ～の価値がある 「動詞」

la peine ﾗ･ﾍﾟｰﾇ n.f 苦労、骨折り 「補語」

Vous ｳﾞ pron 君たちは 「主語」

vous demanderez ｳﾞ･ﾄﾞｩﾓﾝﾄﾞｩﾚ 2 複未･推量(se demander)

V

v.pr 不思議に思うかもしれない 「動詞句」
peut-être: ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ adv. もしかしたら 「副詞句」

「なぜ、この本の中には、バオバブの絵と同じくらい立派な絵がないのだろう」と。その答えはきわめて簡単：

Pourquoi n'y a-t-il pas, dans ce livre, d'autres dessins aussi grandioses que le dessin des baobabs? La réponse est bien simple:

「副詞」「動詞句」「副詞句」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」：

Pourquoi ﾌﾟﾙｸｫ adv. どうして 「副詞」
n'y a-t-il pas ﾆ･ｱ･ﾃｨﾙ･ﾊﾟ 3 単現･否定(avoir)v.t 無い 「動詞句」
dans ce livre ﾄﾞﾝ･ｽ･ﾘｰヴﾞﾙ adv. この本には 「副詞句」
d'autres dessins ﾄﾞｰﾄﾙ･ﾃﾞｯｻﾝ pl.n.m 他の絵が 「主語」
aussi grandioses que ｵｼ･ｸﾞﾛﾝﾃﾞｨｮｰｽﾞ･ｸ
adj. ～と同じくらい立派な 「形容詞句：dessins」
le dessin des baobabs ﾙ･ﾃﾞｯｻﾝ･ﾃﾞ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ n.m バオバブの絵「目的語」
La réponse ﾗ･ﾚﾎﾟﾝｽ n.f 答えは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
bien simple ﾋﾞｬﾝ･ｻﾝﾌﾟﾙ adj. とても簡単な 「補語」

試みてはみたけど、うまくいかなかったんだ。バオバブの絵を描いたときは、急を要するという気持ちで僕は活気づいていたんだよ。

J'ai essayé mais je n'ai pas pu réussir. Quand j'ai dessiné les baobabs j'ai été animé par le sentiment de l'urgence.

「主語」「動詞句」mais「主語」「動詞句」 | 「副詞節」「主語」「動詞句」「副詞句」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai essayé ｴ･ｴｾｲｴ 1 単現･完了形(essayer)v.t 試してみた 「動詞句」
mais ﾒ conj. だけど
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'ai pas pu réussir ﾈ･ﾊﾟ･ﾋﾟｭ･ﾚｭｼｰﾙ 1 単現･完了形･可能･否定(pouvoir+不定詞)
v.i うまくいかなかった 「動詞句」
Quand ｺﾝ adv. ～する時 「副詞節」
j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
ai dessiné ｴ･ﾃﾞｼﾈ 1 単現･完了形(dessiner)v.t デッサンした 「動詞句」
les baobabs ﾚ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m バオバブを 「目的語」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai été animé ｴ･ｴﾃ･ｱﾝｲﾒ 1 単現･完了形･受動(animer)

VI

v.t 活気づけられていた 「動詞句」

par le sentiment de l'urgence ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ｿﾝﾃｨﾓﾝ･ﾄﾞｩ･ﾙﾙｼﾞｮﾝｽ

adv. 急を要するという感情に 「副詞句」

VI

ああ、王子様、僕はこうして、君の憂鬱な人生が少しずつ理解できるようになった。

Ah! petit prince, j'ai compris, peu à peu, ainsi, ta petite vie mélancolique.

「感嘆」「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Ah! petit prince ｱｰ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adv. ああ、王子様 「感嘆」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai compris ｴ･ｺﾝﾌﾟﾘ 1 単現･完了形(comprendre)v.t 理解した 「動詞句」

peu à peu, ainsi ﾌﾟ･ｱ･ﾌﾟ･ｱﾝｼ adv. 少しずつこのようにして 「副詞句」

ta petite vie mélancolique ﾀ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ･ｳﾞｨｰ･ﾒﾗﾝｺﾘｷ

n.f 君のいとしい憂鬱な人生を 「目的語」

長い間、穏やかな日の入りしか気晴らしではなかったんだね。

Tu n'avais eu longtemps pour distraction que la douceur des couchers de soleil.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

n'avais eu ...que ﾅｳﾞｪ･ｼﾞｨ...ｸ 3 単半･完了形･否定(avoir)

VI

v.t ～しか持たなかった 「動詞句」
longtemps ﾛﾝﾄﾝ adv. 長い間 「副詞」
pour distraction ﾌﾟｰﾙ･ﾃﾞｨｽﾄﾗｸｼｮﾝ adv.（目的）気晴らしとして 「副詞句」
la douceur des couchers de soleil ﾗ･ﾄﾞｩｾｰﾙ･ﾃﾞ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ
n.f 穏やかな日の入り 「目的語」

四日目の朝、君が次のように言ったとき、僕はこの新しい事実を知った：
J'ai appris ce détail nouveau, le quatrième jour au matin, quand tu m'as dit：
「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」：
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai appris ｴ･ｱﾌﾟﾘ 1 単現･完了形(apprendre)v.t 知った 「動詞句」
ce détail nouveau ｽ･ﾃﾞﾀｲﾕ･ﾇｳﾞｫ n.m この新しい詳細な事実を 「目的語」
le quatrième jour au matin ﾙ･ｶﾄﾘｴｰﾑ･ｼﾞｭｰﾙ･ｵ･ﾏﾀﾝ adv. 4 日目の朝に 「副詞句」
quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
m' ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
as dit ｱ･ﾃﾞｨ 2 単現･完了形(dire)v.t 言った 「動詞句」

「僕、日の入りが大好きなんだ。日の入りを見に行こうよ...」
《J'aime bien les couchers de soleil. Allons voir un coucher de soleil ...
《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「動詞句」「目的語」》
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
aime ｴｰﾑ 1 単現(aimer)v.t 好きだ 「動詞」
bien ﾋﾞｬﾝ adv. とても 「副詞」
les couchers de soleil ﾚ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ pl.n.m 日の入り 「目的語」
Allons voir ｱﾛﾝ･ｳﾞｧｰﾙ 命・1 複現･勧誘(aller+不定詞 voir)
v.t 見に行こうよ 「動詞句」
un coucher de soleil ｱﾝ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ n.m 日の入りを 「目的語」

「でも... 待たなくては...」
---- Mais il faut attendre ... 《Mais「主語」「動詞」》
Mais ﾒ conj. でも
il ｲﾙ pron 非人称主語 「主語」
faut attendre ﾌｫ･ｱﾄﾝﾄﾞﾙ 3 単現(falloir+不定詞)v.h 待たなくてはならない 「動詞」

「待つって、何を」

VI

---- Attendre quoi? 《「動詞」「目的語」》
Attendre ｱﾄﾝﾄﾞﾙ 不定詞 v.t 待つ 「動詞」
quoi ｸｫ pron 何を 「目的語」

「日が沈むのを、待たなくては」
---- Attendre que le soleil se couche.》 《「動詞」「目的語」》
Attendre ｱﾄﾝﾄﾞﾙ 不定詞 v.t 待つ 「動詞」
que ｸ conj. ～すること 「目的語」
le soleil ﾙ･ｿﾚｲﾕ n.m 太陽が 「主語」
se couche ｽ･ｸｼｭ 3 単現(se coucher)v.pr（太陽が）沈む 「動詞句」

最初、君は非常に驚いた様子だった。それから自分自身をあざ笑って、こう言ったね：
Tu as eu l'air très surpris d'abord, et puis tu as ri de toi-même. Et tu m'as dit：
「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」et「副詞」「主語」「動詞句」「間接目的語」
Et「主語」「間接目的語」「動詞句」：
Tu as eu l'air très surpris d'abord, et puis tu as ri de toi-même.
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
as eu ｱ･ｲ 2 単現･完了形(avoir)v.i（様子を）していた 「動詞句」
l'air ﾚｰﾙ n.m 様子、雰囲気 「目的語」
très surpris ﾄﾚ･ｼｭﾙﾌﾟﾘ adj. とても驚いた 「形容詞句」
d'abord ﾀﾞﾎﾞｰﾙ adv. 最初 「副詞句」
et ｴ conj. そして
puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
as ri ｱ･ﾘ 2 単現･完了形(rire)v.t (de を) 嘲笑った 「動詞句」
de toi-même ﾄﾞｩ･ﾄｩﾜ･ﾒｰﾑ adv. 君自身を 「間接目的語」
Et ｴconj. そして
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
m' ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
as dit ｱ･ﾃﾞｨ 2 単現･完了形(dire)v.t 言った 「動詞句」

「僕、あいかわらず自分の星にいるものと思っていたんだ！」
《Je me crois toujours chez moi!》 《「主語」「動詞句」「副詞」「補語」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me crois ﾑ･ｸﾙｫ 3 単現(se croire)v.pr 自分が～だと思う 「動詞句」
toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. 相変わらず 「副詞」

VI

chez moi ｼｪ･ﾑわ adv. 自分の家にいる 「補語」

なるほど、アメリカ合衆国で正午の時、みんなが知っている様に、フランスでは日の入り。

En effet. Quand il est midi aux Étas-Unis, le soleil, tout le monde le sait, se couche sur la France. 「副詞句」 | 「副詞節」,「主語」,「副詞節」,「動詞句」「副詞句」

En effet ｵ･ﾈﾌｪ adv. 確かに、なるほど 「副詞句」

Quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

il ｲﾙ pron（時刻）非人称主語 「主語」

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

midi ﾐﾃﾞｨ n.m 正午 「補語」

aux Étas-Unis ｵ･ｾﾞﾀ･ｼﾞｭﾆ adv. アメリカ合衆国で 「副詞句」

le soleil ﾙ･ｿﾚｲﾕ n.m 太陽は 「主語」

tout le monde ﾄｩ･ﾙ･ﾓﾝﾄﾞ pron 皆が～するように 「副詞節」

le ﾙ pron それを 「目的語」

sait ｾ 3 単現(savoir)v.t 知っている 「動詞」

se couche ｽ･ｸｼｭ 3 単現(se coucher)v.pr 沈む 「動詞句」

sur la France ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾌﾛﾝｽ adv. フランスでは 「副詞句」

だから、日の入りを見物するためには、一分でフランスに行ければ十分であろう。

Il suffirait de pouvoir aller en France en une minute pour assister au coucher du soleil.
「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 非人称主語 「主語」

suffirait de pouvoir aller ｼﾌｨﾚ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟｳﾞわ-ﾙ･ｱﾚ 条・3 単現(suffire de pouvoir+不定詞) v.i 行けたら十分だろう 「動詞句」

en France ｵﾝ･ﾌﾛﾝｽ adv. フランスに 「間接目的語」

en une minute ｵﾝ･ﾕﾝﾇ･ﾐﾆｭｯﾄ adv. 1 分で 「副詞句」

pour assister ﾌﾟｰﾙ･ｱｼｽﾃ adv.（目的･仮定）見物するには 「副詞句」

au coucher du soleil ｵ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ adv. 日の入りを 「間接目的語」

しかしそれには、不幸にしてフランスは遠すぎる。

Malheureusement la France est bien trop éloignée. 「副詞」「主語」「動詞」「補語」

Malheureusement ﾏﾙﾙｰｽﾞﾓﾝ adv. 不幸にも 「副詞」

la France ﾗ･ﾌﾛﾝｽ n.f フランスは 「主語」

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

bien trop éloignée ﾋﾞﾔﾝ･ﾄﾛ･ｴﾙわﾆｪ adj.f 遠すぎる 「補語」

VI

けれども、君の小さな星の上だったら、椅子を二、三歩引っ張るだけで充分だった。

Mais, sur ta si petite planète, il te suffisait de tirer ta chaise de quelques pas.

Mais「副詞句」,「間接目的語」「動詞」「主語」

Mais メ conj. だけど

sur ta si petite planète ｼｭｰﾙ･ﾀ･ｼ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ

adv. とっても小さい君の星の上なら 「副詞句」

il ｲﾙ pron 形式主語（真の主語は de tirer 以降）

te ﾄｩ pron 君にとって、君が 「間接目的語」

suffisait ｼﾌｨｾ 3 単半(suffire de+不定詞)v.i ～するだけで十分だった 「動詞」

de tirer ﾄﾞｩ･ﾃｨﾚ 不定詞句 v.t ～を引くことが 「主語」

ta chaise ﾀ･ｼｪｰｽﾞ n.f 椅子を 「目的語」

de quelques pas ﾄﾞｩ･ｹﾙｸ･ﾊﾟ adv. ほんの二、三歩だけ 「副詞句」

だから君は、見たいと思うたびごとに、たそがれを眺めていたのだよね...

Et tu regardais le crépuscule chaque fois que tu le désirais ...

Et「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Et ｴ conj. それで

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

regardais ﾙｷﾞｬﾙﾃﾞ 2 単半(regarder)v.t 見た 「動詞」

le crépuscule ﾙ･ｸﾚﾌﾟｽｷｭｰﾙ n.m たそがれを 「目的語」

chaque fois ｼｬｯｸ･ﾌｫ n.f 毎回 「副詞句」

que ｸ pron ～する 「形容詞節：fois」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

le ﾙ pron それを 「目的語」

désirais ﾃﾞｼﾞﾚ 2 単半(désirer)v.t 望んだ 「動詞」

「ある日、僕は 44 回も日が沈むのを見たよ」

《Un jour, j'ai vu le soleil se coucher quarante-quatre fois!》

《「副詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「副詞句」》

Un jour ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ n.m ある日 「副詞句」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai vu ｴ･ｳﾞｭ 1 単現･完了形(voir qn[qch]+不定詞)

v.t（人〔物〕）が～するのを見た 「動詞句」

le soleil ﾙ･ｿﾚｲﾕ n.m 太陽が 「目的語」

se coucher ｽ･ｸｼｪ 不定詞 v.pr 沈む 「補語」

quarante-quatre fois ｷｬﾛﾝﾄ･ｷｬﾄﾙ･ﾌｫ n.f 44 回 「副詞句」

VI

そして、少したって、こう付け加えたものだね：

Et un peu plus tard tu ajoutais： Et「副詞句」「主語」「動詞」：

Et ｴ conj. そして

un peu plus tard ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾌﾟﾘｭ･ﾀｰﾙ adv. 少し後で 「副詞句」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

ajoutais ｱｼﾞｭﾃ 2 単半(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

「ねえ... ひどく悲しいときには、日の入りが好きになるものでしょう...」

《Tu sais ... quand on est tellement triste on aime les couchers de soleil ...

《「主語」「動詞」,「副詞節」「主語」「動詞」「目的語」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

sais ｾ 2 単現(savoir)v.t 分かる 「動詞」

→ 「ねえ、君はわかるよね！」と同意を求める感じ

quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

on ｵﾝ pron 人が 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

tellement triste ﾃﾙﾓﾝ･ﾄｩﾘｽﾄ adj. とても悲しい 「補語」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

aime ｴﾑ 3 単現(aimer)v.t 好む 「動詞」

les couchers de soleil ﾚ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ pl.n.m 日の入りを 「目的語」

「それじゃあ、44 回も日の入りを見た日は、よっぽど悲しかったんだね。」

---- Le jour des quarante-quatre fois, tu étais donc tellement triste?》

《「副詞句」,「主語」「動詞」「副詞」「補語」》

Le jour ﾙ･ｼﾞｭｰﾙ n.m その日 「副詞句」

des quarante-quatre fois ﾃﾞ･ｷｬﾛﾝﾄｩ･ｯｷｬﾄﾙ･ﾌｫ adj. 44 回の 「形容詞句：jour」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

étais ｴﾃ 2 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

donc ﾄﾞﾝ adv. それじゃあ 「副詞」

tellement triste ﾃﾙﾓﾝ･ﾄｩﾘｽﾄ adj. とても悲しい 「補語」

けれども、王子様は、返事をしなかった。

Mais le petit prince ne répondit pas. Mais「主語」「動詞句」

Mais ﾒ conj. しかし

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

VII

ne répondit pas ﾇ･ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ･ﾊﾟ 3 単過･否定(répondre)v.i 答えなかった 「動詞句」

VII

五日目に、やはりあの羊のおかげで、王子様の人生のあの秘密が僕に明かされた。

Le cinquième jour, toujours grâce au mouton, ce secret de la vie du petit prince me fut révélé. 「副詞句」,「主語」「間接目的語」「動詞句」

Le cinquième jour ﾙ･ｻﾝｷｪｰﾑ･ｼﾞｭｰﾙ n.m 5 日目 「副詞句」

toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. いつものように、また 「副詞句」

grâce ｸﾞﾗｰｽ n.f (à ～の) お蔭で 「副詞句」

au mouton ｵ･ﾑﾄﾝ adv. 羊の 「副詞句」

ce secret ｽ･ｽｸﾚ n.m あの秘密 「主語」

de la vie du petit prince ﾄﾞｩ･ﾗ･ｳﾞｨｰ･ｼﾞｭ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ

adj. 王子様の人生の 「形容詞句：secret」

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」

fut révélé ﾌｭ･ﾚｳﾞｪﾚ 3 単過･受動(révéler)v.t 明かされた 「動詞句」

黙って長い間ある問題を考えてきた結果のように、王子様は前触れもなく、いきなり僕に訊いた：

Il me demanda avec brusquerie, sans préambule, comme le fruit d'un problème longtemps médité en silence： 「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞句」：

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」

demanda ﾄﾞｩﾓﾝﾀﾞ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」

avec brusquerie ｱｳﾞｪｯｷ･ﾌﾞﾘｽｹﾘｰ adv. ぶっきらぼうに 「副詞句」

sans préambule ｿﾝ･ﾌﾟﾚｵﾝﾋﾞｭﾙ adv. 前ぶれもなく 「副詞句」

comme ｺﾑ adv. ～のように 「副詞句」

le fruit d'un problème ﾙ･ﾌﾘｭｲ･ﾀﾞﾝ･ﾌﾟﾛﾌﾞﾚｰﾑ n.m 問題の結果 「目的語」

longtemps médité ﾛﾝﾄﾝ･ﾒﾃﾞｨﾃ 過去分詞･受動

adj. 長い間考えられてきた 「形容詞句：problème」

en silence ｵﾝ･ｼﾛﾝｽ adv. ひそかに 「副詞句」

「羊は、低木を食べるなら、花も食べるんじゃないの？」

《Un mouton, s'il mange les arbustes, il mange aussi les fleurs?

《「主語」「副詞節」,「主語」「動詞」「目的語」》

Un mouton ｱﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊は 「主語」

VII

s' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il ｲﾙ pron 羊が 「主語」
mange ﾓﾝｼﾞｭ 3 単現(manger)v.t 食べる 「動詞」
les arbustes ﾚ･ｻﾞﾙﾋﾞｭｽﾄ pl.n.m 低木を 「目的語」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
mange ﾓﾝｼﾞｭ 3 単現(manger)v.t 食べる 「動詞」
aussi les fleurs ｵｼ･ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花も 「目的語」

「出会うものなんでも食べるよ」
---- Un mouton mange tout ce qu'il rencontre. 《「主語」「動詞」「目的語」》
Un mouton ｱﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊は 「主語」
mange ﾓﾝｼﾞｭ 3 単現(manger)v.t 食べる 「動詞」
tout ce qu' ﾄｯﾄ･ｽ･ｸ n. ～するもの全てを 「目的語」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
rencontre ﾛﾝｺﾝﾄﾙ v.t 出会う 「動詞」

「棘のある花でも？」
---- Même les fleurs qui ont des épines? 《「目的語」》
Même les fleurs ﾒｰﾑ･ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花も 「目的語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
ont ｵﾝ 3 複現(avoir)v.t ある、持っている 「動詞」
des épines ﾃﾞ･ｾﾞﾋﾟｰﾇ pl.n.f とげ 「目的語」

「そうだよ、棘のある花でも」
---- Oui. Même les fleurs qui ont des épines. 《「応答」「目的語」》
Oui ｳｨ adv. そうだよ 「応答」
Même les fleurs ﾒｰﾑ･ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花も 「目的語」
qui ont des épines ｷ･ｵﾝ･ﾃﾞ･ｾﾞﾋﾟｰﾇ adj. とげのある 「形容詞節」

「それじゃあ、棘は何の役に立つの」
---- Alors les épines, à quoi servent-elles?》
《「副詞」「主語」「間接目的語」「動詞」「主語」》
Alors ｱﾛｰ adv. それじゃあ 「副詞」
les épines ﾚ･ｾﾞﾋﾟｰﾇ pl.n.f とげは 「主語」
à quoi ｱ･ｸｫ adv. 何の 「間接目的語」
servent ｾﾙｳﾞ 3 複現(servir)v.i 役に立つ 「動詞」

VII

elles ｴﾙ pron それら（とげ） 「主語」

僕はそれを知らなかった。その時は、あまりにも固く締まりすぎているエンジンのボルトを外すのに、僕は大わらわだった。

Je ne le savais pas. J'étais alors très occupé à essayer de dévisser un boulon trop serré de mon moteur.「主語」「動詞句」「目的語」 | 「動詞」「主語」「副詞」「補語」「副詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ne ...savais pas ﾇ...ｻｳﾞｪ･ﾊﾟ 1 単半･否定(savoir)v.t 知らなかった 「動詞句」

le ﾙ pron それを 「目的語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

étais ｴﾃ 1 単半 (être)v.i ～であった 「動詞」

alors ｱﾛｰ adv. その時 「副詞」

très occupé ﾄﾚ･ｿﾞｷｭﾍﾟ adj. 大忙し 「補語」

à essayer de dévisser ｱ･ｴｯｾｲｴ･ﾄﾞｩ･ﾃﾞｳﾞｨｯｾ

adv.（目的）取り外そうとするのに 「副詞句」

un boulon ｱﾝ･ﾌﾞﾛﾝ n.m ボルトを 「目的語」

trop serré ﾄﾛ･ｾﾚ adj. きつく締まりすぎた 「形容詞句：boulon」

de mon moteur ﾄﾞｩ･ﾓﾝ･ﾓﾄｩｰﾙ adj. エンジンの 「形容詞句：boulon」

故障が大変深刻だということが分かってきたうえに、飲み水も底を尽きかけていたので、最悪の事態がたいへん心配だった。

J'étais très soucieux car ma panne commençait de m'apparaître comme très grave, et l'eau à boire qui s'épuisait me faisait craindre le pire.

「主語」「動詞」「補語」「副詞節」et「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

étais ｴﾃ 1 単半 (être)v.i ～であった 「動詞」

très soucieux ﾄﾚ･ｽｼｭｰ adj. とても心配そうな 「補語」

car ｶｰﾙ conj. なぜなら 「副詞節」

ma panne ﾏ･ﾊﾟﾝﾇ n.f 故障は 「主語」

commençait de m'apparaître ｺﾓﾝｾ･ﾄﾞｩ･ﾏﾊﾟﾚｰﾄﾙ 3 単半･開始(commencer de+不定詞+me)

v.i 私に分かり始めてきた 「動詞句」

comme très grave ｺﾑ･ﾄﾚ･ｸﾞﾗｰｳﾞ adj. どれほど重大な 「補語」

et ｴ conj. そして

l'eau à boire ﾛ･ｱ･ﾌﾞわｰﾙ n.f 飲み水が 「主語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

s'épuisait ｾﾋﾟｭｲｾﾞ 3 単半(s'épuiser)v.pr 底を尽きかけていた「動詞句」

VII

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」
faisait craindre ﾌｾﾞ･ｸﾗﾝﾄﾞﾙ 3 単半･使役(faire+不定詞)
v.t 恐れさせていた 「動詞句」
le pire ﾙ･ﾋﾟｰﾙ n.m 最悪の事態を 「直接目的語」

「棘は何の役に立つの」
《Les épines, à quoi servent-elles?》 《「主語」「間接目的語」「動詞」「主語」》
Les épines ﾚ･ｾﾞﾋﾟｰﾇ pl.n.f とげは 「主語」
à quoi ｱ･ｸわ adv. 何の 「間接目的語」
servent ｾﾙｳﾞ 3 複現(servir)v.i 役に立つ 「動詞」
elles ｴﾙ pron それら（とげ） 「主語」

王子様は、いったん質問をしだすと決して諦めなかった。
Le petit prince ne renonçait jamais à une question, une fois qu'il l'avait posée.
「主語」「動詞句」「間接目的語」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
ne renonçait jamais ﾇ･ﾙﾉﾝｾ･ｼﾞｬﾒ 3 単半･否定(renoncer)
v.i (à を) 決して諦めなかった 「動詞句」
à une question ｱ･ﾕﾝﾇ･ｹｽﾁｮﾝ adv. 質問を 「間接目的語」
une fois qu' ﾕﾝﾇ･ﾌわ･ｸ adv. 一度～する 「形容詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
l' ﾙ pron それを 「目的語」
avait posée ｱｳﾞｪ･ﾎﾟｾﾞ 3 単半･完了形(poser)
v.t（質問を）した 「動詞句」

僕はボルトに苛立っていたので、いい加減に答えた：
J'étais irrité par mon boulon et je répondis n'importe quoi：
「主語」「動詞」「補語」「副詞句」et「主語」「動詞」「副詞句」：
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
étais ｴﾃ 1 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
irrité ｲﾘﾃ adj. いらだっている 「補語」
par mon boulon ﾊﾟｰﾙ･ﾓﾝ･ﾌﾞﾛﾝ adv. ボルトのせいで 「副詞句」
et ｴ conj. それで
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
répondis ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 1 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
n'importe quoi ﾅﾝﾎﾟﾙﾄ･ｸわ adv. でたらめに、いいかげんに 「副詞句」

VII

「棘は、何の役にも立たないね。それは全く花の意地悪そのものだよ！」「へえ！」

《Les épines, ça ne sert à rien, c'est de la pure méchanceté de la part des fleurs!
---- Oh!》 《「主語」「動詞」「間接目的語」,「主語」「動詞」「補語」》 | 《「感嘆」》

Les épines ﾚ･ｾﾞﾋﾟｰﾇ pl.n.f とげは 「主語」
ça ｻ pron それは（とげは） 「主語」
ne sert ﾇ･ｾｰﾙ 3 単現･否定(servir)v.i (à ～の) 役に立たない 「動詞」
à rien ｱ･ﾘｬﾝ adv. 何の～もない 「間接目的語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
de la pure méchanceté ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾋﾟｭｰﾙ･ﾒｼｮﾝｽﾃ n.f 単なる意地悪 「補語」
de la part des fleurs ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾊﾟｰﾙ･ﾃﾞ･ﾌﾚｰﾙ adj. 花の側の「形容詞句：méchanceté」
---Oh ｵｰ int. へえ！ 「感嘆」

けれども、ちょっと黙ってから、王子様は、一種の恨みを込めて、こう言い放った：

Mais après un silence il me lança, avec une sorte de rancune：
Mais「副詞句」「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞句」：

Mais ﾒ conj. しかし
après un silence ｱﾌﾟﾚ･ｱﾝ･ｼﾛﾝｽ adv. 沈黙の後で 「副詞句」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
lança ﾛﾝｻ 3 単過(lancer)v.t（言葉を）放った 「動詞」
avec une sorte de rancune ｱｳﾞｪｯｷ･ﾕﾝﾇ･ｿﾙﾄ･ﾄﾞｩ･ﾛﾝｷｭﾇ
adv. 一種の恨みを込めて 「副詞句」
une sorte de ...「一種の～、～のようなもの」

「君は信用できないよ！花というのはか弱いんだ。

《Je ne te crois pas! Les fleurs sont faibles.
《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Je ne te crois pas! Les fleurs sont faibles. Elles sont naïves.
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne ...crois pas ﾇ...ｸﾙｫ･ﾊﾟ 1 単現･否定(croire)v.t 信じない 「動詞句」
te ﾄｩ pron 君を 「目的語」
Les fleurs ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花は 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
faibles ﾌｪｰﾌﾞﾙ adj. かよわい 「補語」

VII

Elles ｴﾙ pron.pl. 花は 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
naïves ﾅｲｰｳﾞ adj.f.pl. 無邪気な 「補語」

無邪気なんだ。できるだけ安心しようとしてるんだ。
Elles sont naïves. Elles se rassurent comme elles peuvent.
「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞節」
Elles ｴﾙ pron.f.pl. 花は 「主語」
se rassurent ｽ･ﾗｼｭｰﾙ 3 複現(se rassurer)v.pr 安心している 「動詞句」
comme ｺﾑ adv. ～のように 「副詞節」
elles ｴﾙ pron.f.pl. 彼らが 「主語」
peuvent ﾌﾟｰｳﾞ 3 複現(pouvoir)v.t できる 「動詞」
→ 彼らができる限り、安心しようとしている

棘があると、自分はこわいものだと思い込んでいるんだ。」
Elles se croient terribles avec leurs épines ...》 「主語」「動詞句」「補語」「副詞句」》
Elles ｴﾙ pron.f.pl. 彼らは 「主語」
se croient ｽ･ｸﾙｫ 3 複現(se croire)v.pr 自分たちが～だと思っている 「動詞句」
terribles ﾃﾘｰﾌﾞﾙ adj.pl. 恐ろしい 「補語」
avec leurs épines ｱｳﾞｪｯｷ･ﾚｰﾙ･ｾﾞﾋﾟｰﾇ adv. 棘があれば 「副詞句」

僕は何も答えなかった。その瞬間心の中で思っていた：
Je ne répondis rien. À cet instant-là je me disais：
「主語」「動詞句」「目的語」 | 「副詞句」「主語」「動詞句」：
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne répondis ﾇ･ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 1 単過･否定(répondre)v.t 答えなかった 「動詞句」
rien ﾘｬﾝ pron 何も～ない 「目的語」
À cet instant-là ｱ･ｾｯﾀﾝｽﾄﾝ･ﾗ adv. この瞬間 「副詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me disais ﾑ･ﾃﾞｨｾﾞ 1 単半(se dire)v.pr 思っていた 「動詞句」

「このボルトがまだいうことをきかないなら、カナヅチで叩いて吹っ飛ばしてやろう」
《Si ce boulon résiste encore, je le ferai sauter d'un coup de marteau.》
《「副詞節」,「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」》
Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
ce boulon ｽ･ﾌﾞﾛﾝ n.m このボルトが 「主語」

VII

résiste ﾚｼﾞｽﾄｩ 3 単現(résister)v.i 抵抗する 「動詞」
encore ｵﾝｺｰﾙ adv. まだ 「副詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
le ﾙ pron それを 「目的語」
ferai sauter ﾌﾚ･ｿﾃ 1 単未･使役(faire+不定詞)v.i 飛ばしてやる 「動詞句」
d'un coup de marteau ﾀﾞﾝ･ｸ･ﾄﾞｩ･ﾏﾙﾄｰ adv. 金槌で叩いて 「副詞句」

王子様は、僕の深い思いをまた邪魔した：
Le petit prince dérangea de nouveau mes réflexions：
「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」：
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
dérangea ﾃﾞﾛﾝｼﾞｬ 3 単過(déranger)v.t 邪魔した 「動詞」
de nouveau ﾄﾞｩ･ﾇｳﾞｫ adv. 再び、また 「副詞句」
mes réflexions ﾒ･ﾚﾌﾚｸｼｵﾝ pl.n.f 僕の考察を 「目的語」

「きみ、きみは思っているの？花というものが...」
《Et tu crois, toi, que les fleurs ... 《Et「主語」「動詞」,「呼びかけ」,「目的語」》
Et ｴ conj. それで
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
crois ｸﾙｫ 2 単現(croire)v.t 思っている 「動詞」
toi ﾄｫ pron 君は 「呼びかけ」
que ｸ conj. ～ということ 「目的語」
les fleurs ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花というものが 「主語」

「違う、違う！何とも思っちゃいないよ！いいかげんに答えただけさ。僕はね、真面目なことに関わっているんだよ！」
---- Mais non! Mais non! Je ne crois rien! J'ai répondu n'importe quoi. Je m'occupe, moi, de choses sérieuses!》
《「応答」 | 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」
「主語」「動詞句」「主語」「目的語」》
Mais non! Mais non! ﾒ･ﾉﾝ･ﾒ･ﾉﾝ adv. 違う！違う！ 「応答」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne crois ﾇ･ｸﾙｫ 1 単現･否定(croire)v.t 思っていない 「動詞」
rien ﾘｬﾝ pron 何も～ない 「目的語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai répondu ｴ･ﾚﾎﾟﾝｼﾞｭ 1 単現･完了形(répondre)v.t 答えた 「動詞句」

VII

n'importe quoi ﾅﾝﾎﾟﾙﾄ･ｸｫ n. でたらめを 「目的語」

n'importe quoi は「副詞句」または「名詞句」として使われる

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

m'occupe ﾓｷｭﾌﾟ 1 単現(s'occuper)v.pr 関わっている 「動詞句」

moi ﾑｫ pron（強調）僕は（君と違って） 「主語」

de choses sérieuses ﾄﾞｩ･ｼｮｰｽﾞ･ｾﾘｭｰｽﾞ pl.n.f 真面目なことに 「目的語」

王子様は、唖然として僕を見つめた。

Il me regarda stupéfait. 「主語」「目的語」「動詞」「補語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 僕を 「目的語」

regarda ﾙｷﾞｬﾙﾀﾞ 3 単過(regarder)v.t 見つめた 「動詞」

stupéfait ｽﾁｭﾍﾟﾌｪ adj.（主語の状況説明）唖然とした様子で 「補語」

「真面目なことだって！」

《De choses sérieuses!》 《「感嘆」》

De choses sérieuses ﾄﾞｩ･ｼｮｰｽﾞ･ｾﾘｭｰｽﾞ pl.n.f 真面目なことだって 「感嘆」

彼は僕を見ていた。僕は片手にカナヅチを持ち、手の指は機械油で汚れ、彼には大変醜く見えるものを覗き込んでいた。

Il me voyait, mon marteau à la main, et les doigts noirs de cambouis, penché sur un objet qui lui semblait très laid. 「主語」「目的語」「動詞」,「補語」et「補語」,「補語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 僕を 「目的語」

voyait ﾌﾞｫｲｴ 3 単半(voir)v.t 見ていた 「動詞」

mon marteau ﾓﾝ･ﾏﾙﾄｰ n.m（僕の状況を説明）ハンマーを 「補語」

à la main ｱ･ﾗ･ﾏﾝ adv. 手に持ち 「副詞句」

et ｴ conj. そして

les doigts noirs ﾚ･ﾄﾞｫ･ﾇｫｰﾙ pl.n.m 黒い指 「補語」

de cambouis ﾄﾞｩ･ｺﾝﾋﾞｨ adj. 機械油で汚れた 「形容詞句：doigts」

penché ﾎﾟﾝｼｪ adj. 身をかがめていた 「補語」

sur un objet ｼｭｰﾙ･ｱﾝ･ｵﾌﾞｼﾞｪ adv. 物の上に 「副詞句：penché」

qui ｷ pron それは～する 「形容詞節：objet」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

semblait ｿﾝﾌﾞﾚ 3 単半(sembler)v.i ～に見える 「動詞」

très laid ﾄﾚ･ﾚ adj. とても醜い 「補語」

VII

「大人の人たちみたいな喋り方だ！」

《Tu parles comme les grandes personnes!》 《「主語」「動詞」「副詞句」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

parles ﾊﾟﾙﾙ 2 単現(parler)v.i 話す 「動詞」

comme les grandes personnes ｺﾑ･ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ

adv. 大人みたいに 「副詞句」

それを聞いて、僕はちょっと恥ずかしくなった。しかし情け容赦なく、彼は付け加えた。

Ça me fit un peu honte. Mais, impitoyable, il ajouta：

「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」 ｜Mais「副詞句」「主語」「動詞句」：

Ça ｻ pron それは 「主語」

me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」

fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 作った 「動詞」

un peu honte ｱﾝ･ﾌﾟ･ｵｰﾝﾄ n.m ちょっと恥ずかしさを 「直接目的語」

Mais ﾒ conj. しかし

impitoyable ｱﾝﾋﾟﾄﾜｲﾔｰﾌﾞﾙ adj. 情け容赦もなく 「副詞句」

étant impitoyable 分詞構文「非情にも」の étant が省略された構文

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ajouta ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

「なにもかも、ごっちゃにしてる... なにもかも、ごちゃまぜにしてる！」

《Tu confonds tout ... tu mélanges tout!》

《「主語」「動詞」「目的語」 ｜ 「主語」「動詞」「目的語」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

confonds ｺﾝﾌｫﾝ 2 単現(confondre)v.t 混同している 「動詞」

tout ﾄｩ pron すべてを 「目的語」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

mélanges ﾒﾛﾝｼﾞｭ 2 単現(mélanger)v.t ごたまぜにしている 「動詞」

tout ﾄｩ pron 何もかも 「目的語」

彼は本当にひどく、苛立っていた。すっかり金色に染まった髪を風になびかせて：

Il était vraiment très irrité. Il secouait au vent des cheveux tout dorés：

「主語」「動詞」「補語」 ｜ 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」：

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

VII

vraiment ヴ゛レモン adv. 本当に 「副詞：irrité」
très irrité トレ・ジ゛リテ adj. ひどく苛立った 「補語」
Il イル pron 彼は 「主語」
secouait スクエ 3 単半(secouer)v.t（髪を）なびかせていた 「動詞」
au vent オ・ヴ゛ォン adv. 風に 「副詞句」
des cheveux デ゛・シュヴ゛ pl.n.m 髪の毛を 「目的語」
tout dorés: トゥ・ド゛レ adj. すべて金色の 「形容詞句：cheveux」

「僕、深紅色さんがいる惑星を知っているんだ。
《Je connais une planète où il y a un monsieur cramoisi. 《「主語」「動詞」「目的語」
Je ジ゛ュ pron 僕は 「主語」
connais コネ 1 単現(connaître)v.t 知っている 「動詞」
une planète ユンヌ・プ゜ラネット n.m 惑星を 「目的語」
où ウ adv. そこに～する 「形容詞節：planète」
il y a イ・リ・ヤ 3 単現(avoir)v.t いる 「動詞」
un monsieur cramoisi アン・ムッシュ・クラムわジ゛
n.m 深紅色さんが 「主語」

彼はいかなる花の香も嗅いだことが一度もなければ、どんな星も眺めたことが一度もないんだよ。
Il n'a jamais respiré une fleur. Il n'a jamais regardé une étoile.
「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」
Il イル pron 彼は 「主語」
n'a jamais respiré ナ・ジ゛ャメ・レスピ゜レ 3 単現・完了形・否定
v.t 一度も香を嗅いだことがことがない 「動詞句」
une fleur ユンヌ・フレール n.f 花を 「目的語」
Il イル pron 彼は 「主語」
n'a jamais regardé ナ・ジ゛ャメ・ルギ゛ャルデ゛ 3 単現・完了形・否定
v.t 一度も眺めたことがない 「動詞句」
une étoile ユンヌ・エトわール n.f 星を 「目的語」
Il イル pron 彼は 「主語」
n'a jamais aimé ナ・ジ゛ャメ・ゼ゛メ 3 単現・完了形・否定
v.t 一度も愛したことがない 「動詞句」
personne ペ゜ルソンヌ n.f 人を 「目的語」

VII

誰も愛したことがないのさ。足し算のほかには、何もしたことがない。

Il n'a jamais aimé personne. Il n'a jamais rien fait d'autre que des additions.

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

n'a jamais rien fait ﾅ･ｼﾞｬﾒ･ﾘｬﾝ･ﾌｪ 3 単現･完了形･否定

v.t 何もしたことがない 「動詞句」「目的語」「動詞句」

d'autre que des additions ﾄﾞｰﾄﾙ･ｸ･ﾃﾞ･ｱﾃﾞｨｼｮﾝ

adv. 足し算以外は 「副詞句」

そして、一日中、君のように繰り返しているんだ。」

Et toute la journée il répète comme toi： Et「副詞句」「主語」「動詞」「副詞句」》

Et ｴ conj. そして

toute la journée ﾄｳｯﾄ･ﾗ･ｼﾞｭﾙﾈ adv. 一日中 「副詞句」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

répète ﾚﾍﾟｰﾄｩ 3 単現(répéter)v.t 繰り返している 「動詞」

comme toi ｸﾑ･ﾄｧ adv. 君のように 「副詞句」

「『自分は真面目な男だ！真面目な男だ』って！そして傲慢で膨れ上がっている。だけど、あれは、人間じゃない。キノコだよ！」

"Je suis un homme sérieux! Je suis un homme sérieux!", et ça le fait gonfler d'orgueil. Mais ce n'est pas un homme, c'est un champignon!

《"「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞」「補語」" ,et「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」

Mais「主語」「動詞句」「補語」,「主語」「動詞」「補語」》

Je ｼﾞｭ pron 俺は 「主語」

suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」

un homme sérieux ｱ･ﾉﾑ･ｾﾘｭ n.m 真面目な男 「補語」

Je suis un homme sérieux!" 「主語」「動詞」「補語」

et ｴ conj. そして

ça ｻ pron このことが 「主語」

le ﾙ pron 彼を 「目的語」

VII

fait gonfler ﾌｪ･ｺﾞﾝﾌﾚ 3 単現･使役(faire+不定詞)v.t 膨らましている 「動詞句」
d'orgueil ﾄﾞﾙｸﾞｲﾕ adv. 傲慢によって 「副詞句」
→「俺は真面目な男だ！真面目な男だ！」と、そして傲慢で膨れ上がっている。
「彼」を「主語」として翻訳する
Mais ﾒ conj. しかし
ce ｽ pron あれは 「主語」
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
un homme ｱ･ﾉﾑ n.m 人間 「補語」
c'est ｾ 3 単現(être)v.i あれは～である 「主語」「動詞」
un champignon ｱﾝ･ｼｮﾝﾋﾟﾆｮﾝ n.m キノコ 「補語」

「なに」「キノコだよ！」
--- Un quoi? --- Un champignon!》 《「補語」》 | 《「補語」》
Un quoi ｱﾝ･ｸｫ pron なんだって？ 「補語」
Un champignon ｱﾝ･ｼｮﾝﾋﾟﾆｮﾝ n.m キノコだよ 「補語」

王子様は今では青くなって怒っていた。
Le petit prince était maintenant tout pâle de colère. 「主語」「動詞」「副詞」「補語」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
maintenant ﾏﾝﾄｩﾉﾝ adv. 今では 「副詞」
tout pâle de colère ﾄｩ･ﾊﾟｰﾙ･ﾄﾞｩ･ｺﾚｰﾙ adj. 怒りで真っ青な 「補語」

「何百万年も前から、花はとげを作っているし、何百万年も前から、ヒツジはそれでも花を食べている。」
《Il y a des millions d'années que les fleurs fabriquent des épines. Il y a des millions d'années que les moutons mangent quand même les fleurs.
《「副詞句」「主語」「動詞」「目的語」 | 「副詞句」「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》
Il y a des millions d'années que ｲﾘﾔ･ﾃﾞ･ﾐﾘｮﾝ･ﾀﾞﾈ･ｷ
adv. 何百万年も前から 「副詞句」
Il y a 年数 que 直説法 「～してから年数になる、年数前から～している」
les fleurs ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花たちは 「主語」
fabriquent ﾌｧﾌﾞﾘｷ 3 複現(fabriquer)v.t 作っている 「動詞」
des épines ﾃﾞ･ｾﾞﾋﾟｰﾇ pl.n.f とげを 「目的語」
Il y a des millions d'années que ｲﾘﾔ･ﾃﾞ･ﾐﾘｮﾝ･ﾀﾞﾈ･ｷ
adv. 何百万年も前から 「副詞句」

VII

les moutons ﾚ･ﾑﾄﾝ pl.n.m 羊たちは 「主語」
mangent ﾓﾝｼﾞｭ 3 複現(manger)v.t 食べている 「動詞」
quand même ｺﾝ･ﾒｰﾑ adv. それでも（とげがあろうと） 「副詞句」
les fleurs ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花を 「目的語」

「花がなぜ、まったく役に立たないとげを作るのに、あれほど多くの苦労を自らに与えているのかを理解しようとすることが、まじめじゃないと言うの？」

Et ce n'est pas sérieux de chercher à comprendre pourquoi elles se donnent tant de mal pour se fabriquer des épines qui ne servent jamais à rien?

《Et「動詞句」「補語」「主語」》

Et ｴ conj. そして
ce ｽ pron 形式主語（真の主語は de chercher 以降）
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
sérieux ｾﾘｭ adj. 真面目な 「補語」
de chercher à comprendre ﾄﾞｩ･ｼｪﾙｼｪ･ｱ･ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ 不定詞句(de chercher à+不定詞)
n. ～を理解しようと努めること 「主語」
pourquoi ﾌﾟﾙｸｨ adv. その理由を 「目的語」
elles ｴﾙ pron 花たちが 「主語」
se donnent ｽ･ﾄﾞﾝﾇ 3 複現(se donner)v.pr 自らに与える 「動詞句」
tant de mal ﾄﾝ･ﾄﾞｩ･ﾏﾙ n. たくさんの苦労を 「目的語」
pour+不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」
se fabriquer ｽ･ﾌｧﾌﾞﾘｹ 不定詞 v.pr 作る 「動詞句」
des épines ﾃﾞ･ｾﾞﾋﾟｰﾇ pl.n.f とげを 「目的語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節：épines」
ne servent jamais ﾇ･ｾﾙｳﾞ･ｼﾞｬﾒ 接・3 複現･否定(servir)
v.t 役に立たないと思われる 「動詞句」
à rien ｱ･ﾘｬﾝ adv. 何のためにも 「間接目的語」

「羊と花との戦争なんか、大事じゃないというの？太っちょの深紅色さんの足し算よりも、まじめで大事なことじゃないというの？」

Ce n'est pas important la guerre des moutons et des fleurs? Ce n'est pas plus sérieux et plus important que les additions d'un gros monsieur rouge?

《「動詞句」「補語」「主語」 | 「主語」「動詞句」「補語」「副詞句」》

Ce ｽ pron 形式主語（真の主語は la guerre 以降）
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
important ｱﾝﾎﾟﾙﾄﾝ adj. 重要な 「補語」

VII

la guerre des moutons et des fleurs ﾗ･ｹﾞｰﾙ･ﾃﾞ･ﾑﾄﾝ･ｴ･ﾃﾞ･ﾌﾚｰﾙ
　n.f 羊と花の戦争は 「主語」
Ce ｽ pron それは 「主語」
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
plus sérieux et plus important ﾌﾟﾘｭ･ｾﾘｭ･ｴ･ﾌﾟﾘｭ･ｻﾞﾝﾎﾟﾙﾄﾝ
　adj.（否定文で）あまり真面目でも重要でもない 「補語」
que ｸ adv. ～よりも 「副詞句」
les additions d'un gros monsieur rouge ﾚ･ｻﾞﾃﾞｨｼｵﾝ･ﾀﾞﾝ･ｸﾞﾛ･ﾑｯｼｭｰ･ﾙｰｼﾞｭ
　pl.n. ふとっちょの深紅色さんの足し算 「目的語」

「そして、僕の星以外にはどこにも存在しない、この世でたった一輪の花を僕が知っていて、その花を小さな羊が、ある朝、何をしているのか気づかないまま、このようにただの一撃で消滅させてしまうかもしれないということが、大事じゃないというのか！」

Et si je connais, moi, une fleur unique au monde, qui n'existe nulle part, sauf dans ma planète, et qu'un petit mouton peut anéantir d'un seul coup, comme ça, un matin, sans se rendre compte de ce qu'il fait, ce n'est pas important ça!》

《Et si「主語」「動詞」「主語」「目的語」
「主語」「動詞句」「補語」「主語」》

Et ｴ conj. そして
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
connais ｺﾈ 1 単現(connâitre)v.t 知っている 「動詞」
moi ﾑわ pron（強調）僕が 「主語」
une fleur unique ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ･ｲﾆｷ n.f 一本しかない花を 「目的語」
au monde ｵ･ﾓﾝﾄﾞ adv. この世で 「副詞句：unique」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節：fleur」
n'existe ﾈｸﾞｼﾞｽﾄｩ 接・3 単現･否定(exister)v.i 存在しない「動詞句」
nulle part ﾇﾙ･ﾊﾟｰﾙ adv. どこにも 「副詞句」
sauf dans ma planète ｿﾌ･ﾄﾞﾝ･ﾏ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ
　adv. 僕の星以外は 「副詞句」
→そして僕の星以外にはどこにも存在しない、この世でたった一輪の花を僕が知っていて
et ｴ conj. そして
qu' ｸ pron ～する 「形容詞節：fleur」
un petit mouton ｱﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾑﾄﾝ n.m 小さな羊が 「主語」
peut anéantir ﾌﾟ･ｱﾈｵﾝﾃｨｰﾙ 3 単現・可能性(pouvoir+不定詞)
　v.t 消滅させるかもしれない 「動詞句」

VII

d'un seul coup ﾀﾞﾝ･ｽﾙ･ｸｰ adv.（手段）ただの一撃で「副詞句」
comme ça ｺﾑｻ adv. このように 「副詞句」
un matin ｱﾝ･ﾏﾀﾝ adv. ある朝 「副詞句」
sans se rendre compte de ｿﾝ･ｽ･ﾛﾝﾄﾞﾙ･ｺﾝﾄ･ﾄﾞｩ
adv. ～に気づかずに 「副詞句」
se rendre compte de 「～に気づく」
ce qu'il fait ｽ･ｷﾙ･ﾌｪ
n.m 自分が何をしているかということ 「目的語」
→ そして、ある朝、小さな羊が、自分が何をしているか分からないうちに、ただの一撃で消滅させてしまうかもしれない（そのような花を知っていたとしたら）
ce ｽ pron そのことが 「主語」
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
important ｱﾝﾎﾟﾙﾄﾝ adj. 重要な 「補語」
ça ｻ pron（強調）そのことが 「主語」

王子様は顔をあからめ、続けて言った：
Il rougit, puis reprit： 「主語」「動詞」,「副詞」「動詞」:
Il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」
rougit ﾙｼﾞ 3 単過(rougir)v.i 赤面した 「動詞」
puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
reprit ﾙﾌﾟﾘ 3 単過(reprendre)v.t また続けていった 「動詞」

「もし誰かが、何百万、何千万とある星のうちの一つにしか存在しない一輪の花を愛しているなら、それだけでその星たちを眺めるときに十分幸福になれる。」
《Si quelqu'un aime une fleur qui n'existe qu'à un exemplaire dans les millions et les millions d'étoiles, ça suffit pour qu'il soit heureux quand il les regarde.
《Si「主語」「動詞」「目的語」,「主語」「動詞」「副詞節」》
Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
quelqu'un ｹﾙｶﾝ n.m 誰かが 「主語」
aime ｴｰﾑ 3 単現(aimer)v.t 愛している 「動詞」
une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 一輪の花を 「目的語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節：fleur」
n'existe qu' ﾈｸﾞｼﾞｽﾄ･ｸ 接・3 単現･否定(exister)
v.i しか存在しない 「動詞句」
à un exemplaire dans les millions et les millions d'étoiles
ｱ･ｱﾝ･ｴｸﾞｿﾞﾝﾌﾟﾚｰﾙ･ﾄﾞﾝ･ﾚ･ﾐﾘｮﾝ･ｴ･ﾚ･ﾐﾘｮﾝ･ﾃﾞﾄｩﾜｰﾙ

VII

adv. 何百万、何千万の星の中の一つに 「副詞句」
→ もし誰かが何百万、何千万の星の中の一つにしか存在しない一輪の花を愛しているなら
ça ｻ pron それは 「主語」
suffit ｼﾌｨ 3 単現(suffire)v.i (à pour+que+接続法)
v.i （～するために）十分である 「動詞」
pour qu' ﾌﾟｰﾙ･ｸ adv. ～するために 「副詞節」
il ｲﾙ pron その人が 「主語」
soit ｽｫ 接・3 単現(être)v.i ～になる 「動詞」
heureux ｳﾙｰ adj. 幸せ 「補語」
quand ｺﾝ adv. ～するとき 「副詞節」
il ｲﾙ pron その人が 「主語」
les ﾚ pl.pron その星たちを 「目的語」
regarde ﾙｷﾞｬﾙﾄﾞ 3 単現(regarder)v.t 見る 「動詞」

「その人はこう思う、《僕の花があそこのどこかにある...》と。
Il se dit : "Ma fleur est là quelque part ..."
《「主語」「動詞句」：『「主語」「動詞」「副詞句」』
Il ｲﾙ pron その人は 「主語」
se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単現(se dire)v.pr 思う 「動詞句」
Ma fleur ﾏ･ﾌﾚｰﾙ n.f 僕の花は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～にある 「動詞」
là quelque part ﾗ･ｹﾙｸ･ﾊﾟｰﾙ adv. あそこのどこかに 「副詞句」

でも、羊がもし花を食べてしまえば、その人にとっては、ふいに星という星が消えたみたいになってしまうんだ。
Mais, si le mouton mange la fleur, c'est pour lui comme si, brusquement, toutes les étoiles s'éteignaient!
Mais「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞句」「補語」
Mais ﾒ conj. しかし
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
le mouton ﾙ･ﾑﾄﾝ n.m 羊が 「主語」
mange ﾓﾝｼﾞｭ 3 単現(manger)v.t 食べる 「動詞」
la fleur ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花を 「目的語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ(être)v.i ～である 「動詞」
pour lui ﾌﾟｰﾙ･ﾘｭｲ adv. その人にとって 「副詞句」
comme si ｺﾑ･ｼ adv. このようなもの 「補語」

VII

brusquement ﾌﾞﾘｭｽｸﾓﾝ adv. 不意に 「副詞」
toutes les étoiles ﾄｯﾄ･ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f すべての星が 「主語」
s'éteignaient ｾﾃﾆｪ 3 複半(s'éteindre)v.pr 消えてしまった 「動詞句」

それでも、そんなこと大事じゃないというのか！」
Et ce n'est pas important ça!》 Et「主語」「動詞句」「補語」「主語」》
Et ｴ conj. それでも
ce ｽ pron そのことが 「主語」
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
important ｱﾝﾎﾟﾙﾄﾝ adj. 重要な 「補語」
ça ｻ pron（強調）そのことが 「主語」

彼はもうそれ以上なにも言うことができなかった。いきなりすすり泣いた。日が暮れていた。
Il ne put rien dire de plus. Il éclata brusquement en sanglots. La nuit était tombée.
「主語」「動詞句」「副詞句」 ┃ 「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」 ┃ 「主語」「動詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
ne put rien dire ﾇ･ﾋﾟｭ･ﾘｬﾝ･ﾁﾞｰﾙ 3 単過･可能･否定(pouvoir+不定詞)
v.t なにも言えなかった 「動詞句」
ne ... rien 「何も～ない」
de plus ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾘｭ adv. もうそれ以上 「副詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
éclata ｴｸﾗﾀ 3 単過(éclater)v.i (en+無冠詞名詞) ～を爆発させた 「動詞」
brusquement ﾌﾞﾘｭｽｸﾓﾝ adv. 急に、不意に 「副詞」
en sanglots ｵﾝ･ｿﾝｸﾞﾛ adv. すすり泣きを 「間接目的語」
La nuit ﾗ･ﾆｭｲ n.f 夜は（日が） 「主語」
était tombée ｴﾃ･ﾄﾝﾍﾞ 3 単半･完了形(tomber)v.i（日が）暮れていた 「動詞句」

僕は道具を手放していた。カナヅチも、ボルトも、のどの渇きも、死の恐怖も、もう意に介さなかった。
J'avais lâché mes outils. Je me moquais bien de mon marteau, de mon boulon, de la soif et de la mort. 「主語」「動詞句」「目的語」 ┃ 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
avais lâché ｱｳﾞｪ･ﾗｼｪ 3 単半･完了形(lâcher)v.t 手放していた 「動詞句」
mes outils ﾒ･ｽﾞﾃｨ pl.n.m 道具を 「目的語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me moquais ﾑ･ﾓｹ 3 単半(se moquer)v.pr 意に介さなかった 「動詞句」

VII

bien ﾋﾞﾔﾝ adv.（否定・強調）まったく 「副詞」
de mon marteau, de mon boulon, de la soif et de la mort
ﾄﾞｩ･ﾓ mm･ﾏﾙﾄｰ･ﾄﾞｩ･ﾓﾝ･ﾌﾞﾛﾝ･ﾄﾞｩ･ﾗ･ｽわﾌ･ｴ･ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾓｰﾙ
n. カナヅチも、ボルトも、のどの渇きも、死ぬことさえ 「目的語」

一つの星の上に、惑星の上に、僕の星、この地球の上に、慰めてあげなければならない一人の王子様が存在していた！
Il y avait, sur une étoile, une planète, la mienne, la Terre, un petit prince à consoler!
「動詞句」「副詞句」「主語」「形容詞句」
Il y avait ｲ･ﾘ･ﾔｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t あった 「動詞句」
sur une étoile, une planète, la mienne, la Terre
ｼｭｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ｴﾄわｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ﾗ･ﾐｴﾝﾇ･ﾗ･ﾃｰﾙ
adv. 一つの星の上に、惑星の上に、僕の星、この地球の上に 「副詞句」
un petit prince ｱﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 一人の王子様が 「主語」
à consoler ｱ･ｺﾝｿﾙ adj. 慰めるべき 「形容詞句：prince」
à+不定詞 「～すべき」

僕は彼を両腕に抱き上げ、静かに揺らした。
Je le pris dans les bras. Je le berçai.
「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「目的語」「動詞」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
le ﾙ pron 彼を 「目的語」
pris ﾌﾟﾘ 1 単過(prendre)v.t つかまえた、抱いた 「動詞」
dans les bras ﾄﾞﾝ･ﾚ･ﾌﾞﾗ adv. 両腕に 「副詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
le ﾙ pron 彼を 「目的語」
berçai ﾍﾞﾙｾ 1 単過(bercer)v.t（揺り籠のように）揺らした 「動詞」

そしてこう言った。
Je lui disais： 「主語」「間接目的語」「動詞」：
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
disais ﾃﾞｨｾﾞ 1 単半(dire)v.t 言った 「動詞」

VII

《君が愛している花は、大丈夫だよ... 君の羊に口輪を描いてあげる...

《La fleur que tu aimes n'est pas en danger ... Je lui dessinerai une muselière, à ton mouton ... 《「主語」「動詞句」「補語」

「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」

La fleur ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花は 「主語」

que ｸ pron ～する 「形容詞節：fleur」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

aimes ｴﾑ 2 単現(aimer)v.t 愛している 「動詞」

n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

en danger ｵﾝ･ﾄﾞﾝｼﾞｪ adv. 危険な状態 「補語」

→ 危険ではない → 大丈夫だ

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

lui ﾘｭｲ pron 彼に(à ton mouton の先出) 「間接目的語」

スペイン語でも間接目的語代名詞を動詞の前において、前置詞付きの「間接目的語」を動詞の後ろに置く

dessinerai ﾃﾞｼﾇﾚ 1 単未(desinner)v.t 描いてあげる 「動詞」

une muselière ﾕﾝﾇ･ﾐｭｽﾞﾘｴｰﾙ n.f 口輪を 「直接目的語」

à ton mouton ｱ･ﾄﾝ･ﾑﾄﾝ adv. 君の羊に 「間接目的語」

君の花にはフェンスを描いてあげる... ぼくは...》

Je te dessinerai une armure pour ta fleur ... Je ... 》

「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」「副詞句」 | 「主語」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

te ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」

dessinerai ﾃﾞｼﾇﾚ 1 単未(desinner)v.t 描いてあげる 「動詞」

une armure ﾕﾝﾇ･ｱﾙﾐｭｰﾙ n.f 防護具、フェンスを 「直接目的語」

pour ta fleur ﾌﾟｰﾙ･ﾀ･ﾌﾚｰﾙ adv. 君の花のために 「副詞句」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

その先、何を言えばいいのか、よくわからなかった。自分がとてもぶきっちょに思われた。

Je ne savais pas trop quoi dire. Je me sentais très maladroit.

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「補語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ne savais pas ﾇ･ｻｳﾞｪ･ﾊﾟ 3 単半･否定(savoir)v.t 分からなかった 「動詞句」

trop ﾄﾛ adv.（否定文で）あまり 「副詞」

quoi dire ｸｫ･ﾃﾞｨｰﾙ pron 話すべきもの、何を話すかが 「目的語」

VIII

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me sentais ﾑ･ｿﾝﾃ 1 単半(se sentir)v.pr 自分が～だと感じていた 「動詞句」
très maladroit ﾄﾚ･ﾏﾗﾄﾞﾛﾜ adj. とても不器用な 「補語」

どうすれば王子様の心に届くのか、どこで王子様の心と一つになれるのか分からなかった...

Je ne savais comment l'atteindre, où le rejoindre ...
「主語」「動詞句」「目的語」, 「目的語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne savais ﾇ･ｻｳﾞｪ 3 単半･否定(savoir)v.t 分からなかった 「動詞句」
comment ｺﾓﾝ n.m やり方 「目的語」
l'atteindre ﾗ･ﾀﾝﾄﾞﾙ adj. 彼に届く 「形容詞句：comment」
où ｳ adv. どこで、場所 「目的語」
le rejoindre ﾙ･ﾙｼﾞｭわﾝﾄﾞﾙ adj. 彼と一緒になるべき 「形容詞句：où」

それほど不思議なところ、涙の国というのは！

C'est tellement mystérieux, le pays des larmes! 「動詞」「補語」「主語」
C' ｽ pron 形式主語（真の主語は le pays des larmes）
est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」
tellement mystérieux ﾃﾙﾓﾝ･ﾐｽﾃﾘｭ adj. とても不思議な 「補語」
le pays des larmes ﾙ･ﾍﾟｲ･ﾃﾞ･ﾗﾙﾑ n.m 涙の国というのは 「主語」

VIII

まもなく、僕はその花をもっとよく知るようになった。

J'appris bien vite à mieux connaître cette fleur.
「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「目的語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
appris ...à mieux connaître ｱﾌﾟﾘ...ｱ･ﾐｭ･ｺﾈｰﾄﾙ 1 単過(apprendre à+不定詞)
v.t もっと知ることを学んだ、もっと知るようになった 「動詞句」
bien vite ﾋﾞｬﾝ･ｳﾞｨｯﾄ adv. すぐに、まもなく 「副詞句」
cette fleur ｾｯﾄ･ﾌﾚｰﾙ n.f この花を 「目的語」

VIII

王子様の惑星の上には、花びらが一重の、少しも場所ふさぎにならない、誰の邪魔もしない、きわめて素朴な花があった。

Il y avait toujours eu, sur la planète du petit prince, des fleurs très simples, ornées d'un seul rang de pétales, et qui ne tenaient point de place, et qui ne dérangeaient personne.

「動詞句」「副詞句」「主語」

Il y avait toujours eu ｲﾘ･ｱｳﾞｪ･ﾄｩｼﾞｭｰﾙ･ｲ 3 単半･完了形(avoir)v.t あった 「動詞句」

sur la planète du petit prince ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ｼﾞｭ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ

adv. 王子様の惑星には 「副詞句」

des fleurs très simples ﾃﾞ･ﾌﾚｰﾙ･ﾄﾚ･ｻﾝﾌﾟﾙ pl.n.f とても素朴な花が 「主語」

ornées d' ｵﾙﾈ･ﾄﾞｩ adj. ～で飾られた 「形容詞句：fleurs」

un seul rang de pétales ｱﾝ･ｽﾙ･ﾗﾝｸﾞ･ﾄﾞｩ･ﾍﾟﾀﾙ n.m 一重の花びら「目的語」

et ｴ conj. そして

qui ｷ pron それは 「主語」

ne tenaient point ﾇ･ﾄｩﾈ･ﾌﾟｫﾝ 3 複半･否定(tenir)

v.t（場所を）占めない 「動詞句」

de place ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗｽ n.f 場所を 「目的語」

et ｴ conj. そして

qui ｷ pron それは 「主語」

ne dérangeaient ﾇ･ﾃﾞﾛﾝｼﾞｪ 3 複半･否定(déranger)

v.t 邪魔をしない 「動詞句」

personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ n.f（否定文で）誰も 「目的語」

それらの花は、ある朝、草のあいだから現れ、その晩には消えてしまうのだった。

Elles apparaissaient un matin dans l'herbe, et puis elles s'éteignaient le soir.

「主語」「動詞」「副詞句」et「副詞」「主語」「動詞句」「副詞句」

Elles ｴﾙ pl.n.f 花たちは 「主語」

apparaissaient ｱﾊﾟﾚｾ 3 複半(apparaître)v.i 現れた 「動詞」

un matin ｱﾝ･ﾏﾀﾝ n.m ある朝 「副詞句」

dans l'herbe ﾄﾞﾝ･ﾚﾙﾌﾞ adv. 草の間から 「副詞句」

et puis ｴ･ﾋﾟｭｲ conj. そしてそれから et「副詞」

elles ｴﾙ pl.n.f 花たちは 「主語」

s'éteignaient ｾﾃﾆｪ 3 複半(s'éteindre)v.pr 消えた 「動詞句」

le soir ﾙ･ｽﾜｰﾙ n.m その晩には 「副詞句」

VIII

ところが王子様のその花は、どこからともなく運ばれてきた種から、ある日芽を出したのだった。それで王子様は、ほかの芽とは違うその芽をすぐそばで見張っていた。

Mais celle-là avait germé un jour, d'une graine apportée d'on ne sait où, et le petit prince avait surveillé de très près cette brindille qui ne ressemblait pas aux autres brindilles.

「主語」「動詞句」「副詞句」et「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Mais メ conj. しかし

celle-là セル・ラ n.f その花は 「主語」

avait germé アヴェ・ジェルメ 3 単半・完了形(germer)v.i 芽を出した 「動詞句」

un jour アン・ジュール n.m ある日 「副詞句」

d'une graine apportée デュンヌ・グレーヌ・アポルテ 過去分詞・受動

adv. 運ばれてきた種から 「副詞句：germé」

d' ドゥ adv. ～から 「副詞節」

on オン pron 人は 「主語」

ne sait ヌ・セ 3 単現・否定(savoir)v.t 知らない 「動詞句」

où ウ adv. 何処か 「副詞」

et エ conj. それで

le petit prince ル・プティ・プランス n.m 王子様は 「主語」

avait surveillé アヴェ・シュールヴェイェ 3 単半・完了形(surveiller)v.t 見張っていた 「動詞句」

de très près ドゥ・トレ・プレ adv. すぐそばで 「副詞句」

cette brindille セット・ブランディーユ n.f この小枝を 「目的語」

qui キ pron ～する 「形容詞節：brindille」

ne ressemblait pas ヌ・ルソンブレ・パ 3 単半・否定

v.i (à に)似ていない 「動詞句」

aux autres brindilles オ・ゾートル・ブランディーユ

adv. 他の小枝に 「間接目的語」

これはバオバブの新種であるかもしれないな（、と彼は思った）。

Ça pouvait être un nouveau genre de baobab. 「主語」「動詞句」「補語」

Ça サ pron これは 「主語」

VIII

pouvait être ﾌﾟｳﾞｪ･ｴｰﾄﾙ 3 単半･推測(pouvoir+不定詞)
　v.i 〜であるかもしれなかった 「動詞句」
un nouveau genre de baobab ｱﾝ･ﾇｳﾞｫ･ｼﾞｮﾝﾙ･ﾄﾞｩ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ
　n.m バオバブの新種 「補語」

しかし、その低木はすぐに成長が止まって、一つの花をつけ始めた。
Mais l'arbuste cessa vite de croître, et commença de préparer une fleur.
Mais「主語」「動詞句」et「動詞句」「目的語」
Mais ﾒ conj. しかし
l'arbuste ﾗﾙﾋﾞｭｽﾄｩ n.m その低木は 「主語」
cessa vite de croître ｾｻ･ｳﾞｨｯﾄ･ﾄﾞｩ･ｸﾙｫﾄﾙ 3 単過･停止(cesser de+不定詞)
　v.t すぐに成長が止まった 「動詞句」
et ｴ conj. それから
commença de préparer ｺﾓﾝｻ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾚﾊﾟﾚ 3 単過･開始(commencer de+不定詞)
　v.t 準備を始めた 「動詞句」
une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾙｴｰﾙ n.f 花を 「目的語」

大きな蕾が育っていくのを目撃した王子様は、そこから奇跡が現れてくるのを感じていた。
ところが花は、緑の部屋のかげで美しくなるためのお化粧を止めそうにない。
Le petit prince, qui assistait à l'installation d'un bouton énorme, sentait bien qu'il en sortirait une apparition miraculeuse, mais la fleur n'en finissait pas de se préparer à être belle, à l'abri de sa chambre verte.
「主語」「動詞」「副詞」「目的語」mais「主語」「動詞句」「副詞句」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
qui ｷ pron 〜する 「形容詞節：prince」
assistait ｱｼｽﾃ 3 単半(assister)v.i(à)を目撃していた 「動詞」
à l'installation ｱ･ﾗﾝｽﾀﾗｼｮﾝ adv. 取り付けを 「目的語」
d'un bouton énorme ﾀﾞﾝ･ﾌﾞﾄﾝ･ｴﾉﾙﾑ
　adj. 巨大な蕾の 「形容詞句：l'installation」
sentait ｿﾝﾃ 3 単半(sentir)v.t 感じていた 「動詞」
bien ﾋﾞｬﾝ adv. 十分に 「副詞」
qu' ｸ conj. 〜ということを 「目的語」
il ｲﾙ pron 形式主語
en ｵﾝ adv. そこから 「副詞」
sortirait ｿﾙﾃｨｰﾚ 条・3 単現(sortir)v.i（結果が）生じる 「動詞」
une apparition miraculeuse ﾕﾝﾇ･ｱﾊﾟﾘｼｵﾝ･ﾐﾗｷｭﾙｰｽﾞ n.f 奇跡の出現 「主語」

VIII

mais メ conj. しかし
la fleur ラ･フレール n.f 花は 「主語」
n'en finissait pas de se préparer ノン･フィニセ･パ･ドゥ･ス･プレパレ 3 単半･終了･否定
v.pr その中でずっとお化粧を続けていた 「動詞句」
à être belle ア･エートル･ベル adv. 美しくなるために 「副詞句」
à l'abri de ア･ラブリ･ドゥ adv. ～に守られて 「副詞句」
sa chambre verte サ･ションブル･ヴェルト n.f 緑の部屋 「目的語」

念入りに色彩を選んでいた。ゆっくりと服を着て、花弁を一枚一枚ととのえていた。

Elle choisissait avec soin ses couleurs. Elle s'habillait lentement, elle ajustait un à un ses pétales. 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」
「主語」「動詞句」「副詞」, 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Elle エル pron 花は 「主語」
choisissait シュわジセ 3 単半(choisir)v.t 選んでいた 「動詞」
avec soin アヴェッキ･スわン adv. 入念に、念入りに 「副詞句」
ses couleurs セ･クレール pl.n.f 色彩を 「目的語」
Elle エル pron 花は 「主語」
s'habillait サビィエ 3 単半(s'habiller)v.pr 服を着ていた 「動詞句」
lentement ロントゥモン adv. ゆっくりと 「副詞」
elle エル pron 彼女は 「主語」
ajustait アジュステ 3 単半(ajuster)v.t 整えていた 「動詞」
un à un ア･ナ･アン adv. 一枚一枚 「副詞句」
ses pétales セ･ペタル pl.n.m 花びらを 「目的語」

ヒナゲシの花のような、しわしわの姿を見せたくなかった。

Elle ne voulait pas sortir toute fripée comme les coquelicots.
「主語」「動詞句」「補語」

Elle エル n.f 彼女は 「主語」
ne voulait pas sortir ヌ･ヴレ･パ･ソルティール 3 単半･願望･否定(vouloir+不定詞)
v.i 外に出たくなかった 「動詞句」
toute fripée トットゥ･フリペ adj. 皺だらけの状態で 「補語」
comme les coquelicots コム･レ･コクリコ adv. ヒナゲシのように 「副詞句：fripée」

美しさにいっぱい輝いてでなければ、姿を見せたくなかった。

Elle ne voulait apparaître que dans le plein rayonnement de sa beauté.
「主語」「動詞句」「副詞句」

VIII

Elle ｴﾙ n.f 彼女は 「主語」
ne voulait apparaître que ﾇ･ｳﾞﾚ･ｱﾊﾟﾚｰﾄﾙ･ｸ 3 単半･願望･否定(vouloir+不定詞)
v.i ～でなければ姿を現したくなかった 「動詞句」
dans le plein rayonnement ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾌﾟﾗﾝ･ﾚﾖﾝﾇﾓﾝ adv. いっぱいの輝きで 「副詞句」
de sa beauté ﾄﾞｩ･ｻ･ﾎﾞﾃ adj. 自分の美しさの 「形容詞句：rayonnement」

そうなのだ！彼女は非常におしゃれだったのだ。
Eh! oui. Elle était très coquette! 「感嘆」 | 「主語」「動詞」「補語」
Eh! oui. ｴｰ･ｳｨｰ int. そうなのだ！ 「感嘆」
Elle ｴﾙ n.f 彼女は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
très coquette ﾄﾚ･ｺｹｯﾄｩ adj.f. 非常におしゃれな 「補語」

だから、彼女の神秘的なお化粧は、幾日も幾日も続いた。
Sa toilette mystérieuse avait donc duré des jours et des jours.
「主語」「動詞句」「副詞句」
Sa toilette mystérieuse ｻ･ﾄｩﾜﾚｯﾄ･ﾐｽﾃﾘｭｰｽﾞ n.f 彼女の神秘的なお化粧は 「主語」
avait donc duré ｱｳﾞｪ･ﾄﾞﾝ･ﾃﾞｭﾚ 3 単半･完了形(durer)v.i だから続いた 「動詞句」
des jours et des jours ﾃﾞ･ｼﾞｭｰﾙ･ｴ･ﾃﾞ･ｼﾞｭｰﾙ pl.n.m 何日も何日も 「副詞句」

こうして、ついにある朝、ちょうど日の出の時刻に、彼女は姿を見せた。
Et puis voici qu'un matin, justement à l'heure du lever du soleil, elle s'était montrée.
Et「副詞句」,「主語」「動詞句」
Et ｴ conj. そして
puis voici qu'un matin ｴ･ﾋﾟｭｲ･ｳﾞｧｼ･ｶﾝ･ﾏﾀﾝ adv. そしてついにある朝 「副詞句」
justement à l'heure ｼﾞｭｽﾄｩﾓﾝ･ｱ･ﾚｰﾙ adv. ちょうどの時刻に 「副詞句」
du lever du soleil ｼﾞｭ･ﾙｳﾞｪ･ｼﾞｭ･ｿﾚｲﾕ adj. 日の出の 「形容詞句：heure」
elle ｴﾙ n.f 彼女は 「主語」
s'était montrée ｾﾃ･ﾓﾝﾄﾚ 3 単半･完了形(se montrer)
v.pr 姿を現した 「動詞句」

その彼女は、それほど念入りにお化粧をすませて、あくびをしながら言った：
Et elle, qui avait travaillé avec tant de précision, dit en bâillant：
Et「主語」「動詞」「副詞句」：
Et ｴ conj. そして
elle ｴﾙ n.f 彼女は 「主語」

VIII

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
avait travaillé ｱｳﾞｪ･ﾄﾗｳﾞｧｲｪ 3 単半･完了形(travailler)
v.i 仕事をした、お化粧をした 「動詞句」
avec tant de précision ｱｳﾞｪｯｷ･ﾄﾝ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾚｼｼﾞｮﾝ
adv. とても正確に 「副詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
en bâillant ｵﾝ･ﾊﾞｲｮﾝ ジェロンディフ adv. あくびをしながら 「副詞句」
en+現在分詞 「ジェロンディフ」次のような用法がある。
1. 同時の動作 ～しながら、2. 手段・条件 ～すれば、3. 譲歩 ～ではあるが

「ああ！やっと目があいたわ... ごめんなさいね... まだ髪がすっかり乱れていて...」
《Ah! je me réveille à peine ... Je vous demande pardon ... Je suis encore toute décoiffé ...》
《「感嘆」「主語」「動詞句」「副詞句」
「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」 | 「主語」「動詞」「副詞」「補語」》
Ah! ｱｰ int. アー 「感嘆」
je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
me réveille ﾑ･ﾚｳﾞｪｲﾕ 1 単現(se réveiller)v.pr 目が覚めた 「動詞句」
à peine ｱ･ﾍﾟｰﾇ adv.（肯定的）やっと 「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
vous ｳﾞ pron あなたに 「間接目的語」
demande ﾄﾞｩﾓﾝﾄﾞｩ 1 単現(demander)v.t 求めます 「動詞」
pardon ﾊﾟﾙﾄﾞﾝ n.m 許しを 「直接目的語」
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
encore ｵﾝｺｰﾙ adv. まだ 「副詞」
toute décoiffé ﾄｯﾄｩ･ﾃﾞｸｫﾌｪ adj. すっかり髪が乱れた 「補語」

王子様は、そのとき感嘆の念を禁じえなかった：
Le petit prince, alors, ne put contenir son admiration：
「主語」「副詞」「動詞句」「目的語」：
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
alors ｱﾛｰ adv. その時 「副詞」
ne put contenir ﾇ･ﾋﾟｭ･ｺﾝﾄｩﾆｰﾙ 3 単過･可能･否定(pouvoir+不定詞)
v.t 抑えることができなかった 「動詞句」
son admiration ｿﾝ･ｱﾄﾞﾐﾗｼｮﾝ n.f 感嘆、驚き 「目的語」
sa+女性単数形では、母音または無音の前では、sa が son に代わる。

VIII

「あなたは何と美しい方だろう！」

《Que vous êtes belle! 《「副詞」「主語」「動詞」「補語」》

Que ｸ adv. なんと 「副詞：belle」

vous ｳﾞ pron 君は 「主語」

êtes ｴｯﾄ 2 複現(être)v.i ～である 「動詞」

belle ﾍﾞﾙ adj.f.(beau) 美しい 「補語」

「でしょう？」と花は静かに答えた。「それに。あたくし、太陽と同時に生まれたのよ」

--- N'est-ce pas, répondit doucement la fleur. Et je suis née en même temps que le soleil ...》 《「応答」》,「動詞」「副詞」「主語」《Et「主語」「動詞句」「副詞句」》

N'est-ce pas ﾈ･ｽ･ﾊﾟ 3 単現･否定 v.i そうでしょう？ 「応答」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

doucement ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. 静かに 「副詞」

la fleur ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花が 「主語」

Et ｴ conj. そして

je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

suis née ｼｭｲ･ﾈ 1 単現･完了形.f(naître)v.i 生まれた 「動詞句」

en même temps que ｵﾝ･ﾒｰﾑ･ﾄﾝ･ｸ adv. ～と同時に 「副詞句」

le soleil ﾙ･ｿﾚｲﾕ n.m 太陽 「目的語」

王子様は、彼女があまり謙虚でないことを見抜いた。でも、何てうっとりするほど美しいのだろう！（と、彼は思った）

Le petit prince devina bien qu'elle n'était pas trop modeste, mais elle était si émouvante!

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」, mais「主語」「動詞」「補語」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

devina ﾄﾞｩｳﾞｨﾅ 3 単過(deviner)v.t 見抜いた 「動詞」

bien ﾋﾞﾔﾝ adv. はっきりと、しっかりと 「副詞」

VIII

qu’ｸ conj. ～ということを 「目的語」
elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
n’était pas ﾈﾃ･ﾊﾟ 3 単半･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
trop modeste ﾄﾛ･ﾓﾃﾞｽﾄ adj.（否定文で）あまり謙虚でない 「補語」
mais ﾒ conj. しかし
elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～である 「動詞」
si émouvante ｼ･ｴﾑｳﾞｫﾝﾄｩ adj. なんて感動的な美しさだ 「補語」

「朝食の時間だと思うわ。恐れ入りますがあたくしのことを考えていただけないでしょうか. . .」やがて彼女はそう付け加えた。

《C’est l’heure, je crois, du petit déjeuner, avait-elle bientôt ajouté, auriez-vous la bonté de penser à moi ...》 《「動詞」「補語」,「副詞節」》,「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」,《「動詞」「主語」「目的語」》

C’ｽ pron 形式主語
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
l’heure ﾙｰﾙ n.f 時間 「補語」
je crois ｼﾞｭ･ｸﾙわ adv. 私は思うのだけれど 「副詞節」
du petit déjeuner ｼﾞｭ･ﾌﾟﾃｨ･ﾃﾞｼﾞｭﾈ adj. 朝食の 「形容詞句：heure」
avait ...ajouté ｱｳﾞｪ...ｱｼﾞｭﾃ 3 単半･完了形(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞句」
elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
bientôt ﾋﾞﾔﾝﾄ adv. やがて 「副詞」
auriez ｵﾘｴ 条・2 複現(avoir)v.t 持っていただけないでしょうか 「動詞」
vous ｳﾞ pron あなたは 「主語」
la bonté ﾗ･ﾎﾞﾝﾃ n.f 優しさ 「目的語」
de penser à moi ﾄﾞｩ･ﾎﾟﾝｾ･ｱ･ﾑわ adj. 私のことを考える 「形容詞句：bonté」

そこで王子様はすっかり恐縮して、新鮮な水の入った如雨露を取りに行ってから、花に水をかけてあげた。

Et le petit prince, tout confus, ayant été chercher un arrosoir d’eau fraîche, avait servi la fleur. Et「主語」「副詞句」「動詞句」「目的語」
Et ｴ conj. それで
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
tout confus ﾄｩ･ｺﾝﾌｭ adv. すっかり恐縮して 「副詞句」
ayant été chercher ｴﾖﾝ･ﾃﾃ･ｼｪﾙｼｪ 現在分詞･複合形(avoir été+不定詞 chercher)
adv. 探しに行った後で 「副詞句」

VIII

été は être の過去分詞。複合時制では「行く」の意味。

un arrosoir d'eau fraîche ｱﾝ･ｱﾛｽﾞﾜｰﾙ･ﾄﾞ･ﾌﾚｼｭ

n.m 新鮮な水の入った如雨露 「目的語」

avait servi ｱｳﾞｪ･ｾﾙｳﾞｨ 3 単半･完了形(servir)v.t 提供した 「動詞句」

la fleur ﾗ･ﾌﾙｰﾙ n.f 花に 「目的語」

こうして、彼は早くもやや気難しい彼女の虚栄心に苦しめられ始めたのだった。

Ainsi, l'avait-elle bien vite tourmenté par sa vanité un peu ombrageuse.

「副詞」「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」「副詞句」

Ainsi ｱﾝｼ adv. こうして 「副詞」

l' ﾙ pron 彼を 「目的語」

avait ...tourmenté ｱｳﾞｪ...ﾄｩｰﾙﾓﾝﾃ 3 単半･完了形(tourmenter)v.t 苦しめた 「動詞句」

elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」

bien vite ﾋﾞｬﾝ･ｳﾞｨｯﾄ adv. 早くも 「副詞句」

par sa vanité ﾊﾟｰﾙ･ｻ･ｳﾞｧﾆﾃ adv. 彼女の虚栄心によって 「副詞句」

un peu ombrageuse ｱﾝ･ﾌﾟ･ｵﾝﾌﾞﾗｼﾞｭｰｽﾞ n.m 少し気難しい「形容詞句：vanité」

たとえば、ある日、自分の持っている四つの棘について話しながら、王子様に言った：

Un jour, par exemple, parlant de ses quatre épines, elle avait dit au petit prince：

「副詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」：

Un jour ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ n.m ある日 「副詞句」

par exemple ﾊﾟｰ･ﾚｸﾞｻﾞﾝﾌﾟﾙ adv. 例えば 「副詞句」

parlant ﾊﾟﾙﾛﾝ 現在分詞(parler de)adv. ～について話しながら 「副詞句」

de ses quatre épines ﾄﾞｩ･ｾ･ｸｧﾄﾙ･ｴﾋﾟｰﾇ adv. 4 つの棘について 「間接目的語」

elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」

avait dit ｱｳﾞｪ･ﾃﾞｨ 3 単半･完了形(dire)v.t 言った 「動詞句」

au petit prince ｵ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adv. 王子様に 「間接目的語」

「虎たちが爪をもってやって来たっていいわ！」

《Ils peuvent venir, les tigres, avec leurs griffes! 《「動詞句」「主語」「副詞句」》

Ils ｲﾙ pron 形式主語

peuvent venir ﾌﾟｰｳﾞ･ｳﾞﾆｰﾙ 3 複現･許可(pouvoir+不定詞)

v.i 来ても構わない 「動詞句」

les tigres ﾚ･ﾃｨｰｸﾞﾙ pl.n.m 虎たちが 「主語」

avec leurs griffes ｱｳﾞｪｯｷ･ﾙｰﾙ･ｸﾞﾘﾌ adv. 爪を持って 「副詞句」

VIII

「僕の惑星には、虎はいませんよ」と王子様は反論した。「それに、虎は草を食べない」

--- Il n'y a pas de tigres sur ma planète, avait objecté le petit prince, et puis les tigres ne mangent pas d'herbe. 《「動詞句」「主語」「副詞句」》,「動詞句」「主語」,《et「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」》

Il n'y a pas ｲﾙ･ﾆ･ｱ･ﾊﾟ 3 単現(avoir)v.t いない 「動詞句」
de tigres ﾄﾞｩ･ﾁｨｰｸﾞﾙ pl.n.m 虎は 「主語」
sur ma planète ｼｭｰﾙ･ﾏ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. 僕の惑星には 「副詞句」
avait objecté ｱｳﾞｪ･ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾃ 3 単半･完了形(objecter)v.t 反論した 「動詞句」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
et ｴ conj. そして
puis ﾋﾟｭｲ adv. それに 「副詞」
les tigres ﾚ･ﾃｨｰｸﾞﾙ pl.n.m 虎は 「主語」
ne mangent pas ﾇ･ﾓﾝｼﾞｭ･ﾊﾟ 3 複現･否定(manger)v.t 食べない 「動詞句」
d'herbe ﾃﾞﾙﾌﾞ n.f 草を 「目的語」

「あたくしは、草じゃないのよ」と花は静かに答えた。

--- Je ne suis pas une herbe, avait doucement répondu la fleur.
《「主語」「動詞句」「補語」》,「動詞句」「副詞」「動詞句」「主語」

Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ne suis pas ﾇ･ｼｭｲ･ﾊﾟ 1 単現･否定(être)v.i ～ではない 「動詞句」
une herbe ﾕﾝ･ﾈﾙﾌﾞ n.f 草 「補語」
avait ...répondu ｱｳﾞｪ...ﾚﾎﾟﾝｼﾞｭ 3 単半･完了形(répondre)v.t 答えた 「動詞句」
doucement ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. 静かに 「副詞」
la fleur ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花は 「主語」

「ごめんなさい...」

--- Pardonnez-moi ... 《「動詞」「目的語」》

Pardonnez ﾊﾟﾙﾄﾞﾈ 命・2 複現(pardonner)v.t 許して下さい 「動詞」
moi ﾑわ pron 私を 「目的語」

「虎なんかちっとも怖くないけど、空気の流れが嫌なの。衝立、ひとつもお持ちでなくて？」

--- Je ne crains rien des tigres, mais j'ai horreur des courants d'air. Vous n'auriez pas un paravent?》 《「主語」「動詞句」「目的語」, mais「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」「主語」「動詞句」「目的語」》

Je ジュ pron 私は 「主語」
ne crains rien ﾇ･ｸﾗﾝ･ﾘｬﾝ 1 単現･否定(craindre)v.t 少しも恐れない 「動詞句」

VIII

des tigres ﾃﾞ･ﾃｨｰｸﾞﾙ pl.n.m 虎なんて 「目的語」
mais ﾒ conj. だけど
j' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t 持つ 「動詞」
horreur ﾎﾙｰﾙ n.f 嫌悪を 「目的語」
des courants d'air ﾃﾞ･ｸﾛﾝ･ﾃﾞｰﾙ adv. 空気の流れに 「副詞句」
→ avoir horreur de... 「～をひどく嫌う」
Vous ｳﾞ pron あなたは 「主語」
n'auriez pas ﾉﾘｴ･ﾊﾟ 条・2 複現・否定(avoir)
v.t（疑問文で）もしかしたら持っていませんか 「動詞句」
un paravent ｱﾝ･ﾊﾟﾗｳﾞｫﾝ n.m（風除けの）衝立を 「目的語」

《空気の流れが嫌いだとは、. . . 植物なのに、あいにくだな。この花はずいぶん気難し屋だな》と王子様は思った。

《Horreur des courants d'air ... ce n'est pas de chance, pour une plante, avait remarqué le petit prince. Cette fleur est bien compliquée ...》

《「目的語」 | 「動詞句」「主語」,「副詞句」》,「動詞句」「主語」,
《「主語」「動詞」「補語」》

Horreur des courants d'air ﾎﾙｰﾙ･ﾃﾞ･ｸﾛﾝ･ﾃﾞｰﾙ n.f 空気の流れが嫌い 「目的語」
ce n'est pas ｽ･ﾈ･ﾊﾟ 3 単現・否定(être)v.i ～が無い 「動詞句」
de chance ﾄﾞｩ･ｼｮﾝｽ n.f 運が 「主語」
→ それは困ったな
pour une plante ﾌﾟｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾌﾟﾗﾝﾄｩ adv.（比較）植物だというのに 「副詞句」
avait remarqué ｱｳﾞｪ･ﾙﾏﾙｹ 3 単半・完了形(remarquer)v.t 気づいた 「動詞句」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
Cette fleur ｾｯﾄｩ･ﾌﾚｰﾙ n.f この花は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
bien compliquée ﾋﾞｬﾝ･ｺﾝﾌﾟﾘｹ adj. かなり気難しい 「補語」

VIII

「夕方になったら、覆いをかけてください。あなたのとこって、とても寒いのね。

《Le soir vous me mettrez sous globe. Il fait très froid chez vous.

「副詞句」「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Le soir ル・スわ-ル n.m 夜には 「副詞句」

vous ヴ゛ pron あなたが 「主語」

me ム pron 私を 「目的語」

mettrez メットレ 2 複未(mettre)v.t 入れる 「動詞」

sous globe ス・グ゛ロブ゛ adv. 覆いの下に 「副詞句」

→ 花は動かせないので、「花に覆いをかける」という意味

Il イル pron 天候など 「主語」

fait フェ 3 単現(faire)v.h ～である 「動詞」

très froid トレ・フロわ adj. とても寒い 「補語」

chez vous シェ・ヴ゛ adv. あなたのところは 「副詞句」

居心地が悪いわ。私の出身地のあちらはね...」

C'est mal installé. Là d'où je viens ...》 「主語」「動詞」「補語」 | 「副詞句」

C' ス pron ここは 「主語」

est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

mal installé マル・インスタレ adj. 落ち着かない 「補語」

Là ラ adv. そこ 「副詞句」

d' où ド゛ゥ adv. ～から... する場所 「形容詞節」

je ジ゛ュ pron 私が 「主語」

viens ヴ゛ィヤン 1 単現(venir)v.i 来た 「動詞」

しかし、彼女は言うのを中断してしまった。彼女は種の形で飛んできたのだった。

Mais elle s'était interrompue. Elle était venue sous forme de graine.

Mais「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」

Mais メ conj. しかし

VIII

elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
s'était interrompue ｾﾃ･ｱﾝﾃﾛﾝﾋﾟｭ 3 単半･完了形.f(s'interrompre)v.pr 中断した「動詞句」
Elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
était venue ｴﾃ･ｳﾞﾆｭ 3 単半･完了形(venir)v.i 来た 「動詞句」
sous forme de graine ｽ･ﾌｫﾙﾑ･ﾄﾞｩ･ｸﾞﾚｰﾇ adv. 種の形で 「副詞句」

ほかの世界のことは、何も知ることが出来なかったはずだ。
Elle n'avait rien pu connaître des autres mondes. 「主語」「動詞句」「目的語」
Elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
n'avait rien pu connaître ﾅｳﾞｪ･ﾘｬﾝ･ﾋﾟｭ･ｺﾈｰﾄﾙ 3 単半･完了形･可能･否定
v.t ～を何も知ることはできなかったはずだ 「動詞句」
des autres mondes ﾃﾞ･ｿﾞｰﾄﾙ･ﾓﾝﾄﾞｩ pl.n. 他の世界を 「目的語」

そんな素朴な嘘をつこうとしていたことを見破られ、恥ずかしくなって、彼女は二、三度咳払いをした。その結果、間違っているのは王子様の方だと思わせた。
Humiliée de s'être laissé surprendre à préparer un mensonge aussi naïf, elle avait toussé deux ou trois fois, pour mettre le petit prince dans son tort：
「副詞句」,「主語」「動詞句」「副詞句」, pour「副詞句」:
Humiliée ﾕﾐﾘｴ 過去分詞･受動(humilier)adv. 辱められて 「副詞句」
de s'être laissé+不定詞 ﾄﾞｩ･ｾｰﾄﾙ･ﾚｾ adv. ～されたことで 「副詞句」
s'être laissé：se laisser の完了不定詞（不定詞が v.t なら「されるままになる」）
（不定詞が v.i なら「するがままでいる」）
surprendre à préparer ｼｭﾙﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ･ｱ･ﾌﾟﾚﾊﾟﾚ 不定詞句
v.t 準備しているところを見破る（→見破られる） 「動詞句」
un mensonge ｱﾝ･ﾓﾝｿﾝｼﾞｭ n.m 嘘 「目的語」
aussi naïf ｵｼ･ﾅｲﾌ adj. そんな素朴な「形容詞句：mensonge」
→ そんな素朴な嘘をつこうとしていたことを見破られたことで、恥ずかしくなって
elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
avait toussé ｱｳﾞｪ･ﾄｩｾ 3 単半･完了形(tousser)v.i 咳をした 「動詞句」
deux ou trois fois ﾄﾞｩ･ｳ･ﾄﾙわ･ﾌわ adv. 2～3 度 「副詞句」
pour +不定詞 adv.（継続）そして～する 「副詞句」
mettre ﾒｯﾄﾙ 不定詞 v.t 置いた 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様を 「目的語」
dans son tort ﾄﾞﾝ･ｿﾝ･ﾄｰﾙ adv. 彼の誤りの中に 「副詞句」
→ その結果、間違っているのは王子様のほうだと思わせた

VIII

「あの... 衝立は？」
「それを取りに行こうとしたら、話しかけてきたでしょう！」
《Ce paravent?...
--- J'allais le chercher mais vous me parliez!》
《「問いかけ」》
《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」mais「主語」「間接目的語」「動詞」》
Ce paravent ｽ･ﾊﾟﾗｳﾞｫﾝ n.m あの... 衝立は？ 「問いかけ」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
allais le chercher ｱﾚ･ﾙ･ｼｪﾙｼｪ 3 単半･近接未来(aller+不定詞+le)
v.t それを探しに行くところだった 「動詞句」「目的語」「動詞句」
mais ﾒ conj. でも
vous ｳﾞ pron 君が 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
parliez ﾊﾟﾙﾘｴ 2 複半(parler)v.i 話しかけてきた 「動詞」

すると彼女はわざと咳払いをして、それでも王子様に良心の呵責を課した。
Alors elle avait forcé sa toux pour lui infliger quand même des remords.
「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」pour「副詞句」
Alors ｱﾛｰ adv. それで 「副詞」
elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
avait forcé ｱｳﾞｪ･ﾌｫﾙｾ 3 単半･完了形(forcer)v.t（行為を）強制した 「動詞句」
sa toux ｻ･ﾄｩ n.f 咳を 「目的語」
→ 無理やり咳をした
pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. そして～した 「副詞句」
lui infliger ﾘｭｲ･ｱﾝﾌﾘｼﾞｪ 不定詞句(infliger+lui)
v.t 彼に罪を課した 「間接目的語」「動詞」
quand même ｺﾝ･ﾒｰﾑ adv. それでも 「副詞句」
des remords ﾃﾞ･ﾙﾓｰﾙ n.m 良心の呵責を 「直接目的語」

だから、王子様は、恋心から由来した善意にもかかわらず、早くも彼女を疑ったのだった。
Ainsi le petit prince, malgré la bonne volonté de son amour, avait vite douté d'elle.
「副詞」「主語」,「副詞句」, 「動詞句」「副詞」「動詞句」「間接目的語」
Ainsi ｱﾝｼ adv. だから 「副詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
malgré ﾏﾙｸﾞﾚ prep ～にもかかわらず 「副詞句」
la bonne volonté ﾗ･ﾎﾞﾝﾇ･ｳﾞｫﾛﾝﾃ n.f 善意 「目的語」

VIII

de son amour ﾄﾞｩ･ｿﾝ･ｱﾑｰﾙ adj. 彼の恋心による 「形容詞句：volonté」
avait vite douté ｱｳﾞｪ･ｳﾞｨｯﾄ･ﾄﾞｩﾃ 3 単半･完了形(douter +vite)
v.i (de を) 早くも疑った 「動詞句」「副詞」「動詞句」
d'elle ﾃﾞﾙ adv. 彼女を 「間接目的語」

彼はつまらない言葉をまじめにとって、大変不幸になったのだった。

Il avait pris au sérieux des mots sans importance, et était devenu très malheureux.
「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」et「動詞句」「補語」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
avait pris ｱｳﾞｪ･ﾌﾟﾘ 3 単半･完了形(prendre)v.t 取った 「動詞句」
au sérieux ｵ･ｾﾘｭｰ adv. 真面目に 「副詞句」
des mots ﾃﾞ･ﾓ pl.n.m 言葉を 「目的語」
sans importance ｿﾝ･ｻﾞﾝﾎﾟﾙﾄﾝｽ adj. 大したことではない 「形容詞句：mots」
et ｴ conj. そして
était devenu ｴﾃ･ﾄﾞｩｳﾞﾆｭ 3 単半･完了形(devenir)v.i ～になった 「動詞句」
très malheureux ﾄﾚ･ﾏﾙﾙｰ adj. とても不幸に 「補語」

「彼女に耳を傾けるべきではなかったのだけど」と、ある日、
王子様は、僕に打ち明けた。

《J'aurais dû ne pas l'écouter, me confia-t-il un jour,
《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》,「間接目的語」「動詞」「主語」「副詞句」,
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
aurais dû +不定詞 ｵﾚ･ｼﾞｭ 条・1 単現･完了形(devoir+不定詞)
v.t ～すべきだったが 「動詞句」
ne pas l'écouter ﾇ･ﾊﾟ･ﾚｸﾃ 不定詞･否定(écouter+la)
v.t 彼女のいうことを聞かない 「目的語」「動詞句」
me ﾑ pron 私に 「間接目的語」
confia ｺﾝﾌｨｱ 3 単過(confier)v.t 打ち明けた 「動詞」

VIII

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
un jour ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ adv. ある日 「副詞句」

「花の言うことなんか絶対に聞いちゃいけない。眺めて、香をかぐだけでいいんだ。」
il ne faut jamais écouter les fleurs. Il faut les regarder et les respirer.
《「動詞句」「目的語」 | 「動詞句」「目的語」「動詞句」et「目的語」「動詞句」》
il ne faut jamais écouter ｲﾙ･ﾇ･ﾌｫ･ｼﾞｬﾒ･ｾﾞｸﾃ
3 単現･否定(il faut+不定詞)v.t 聞くべきではない 「動詞句」
les fleurs ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花の言うことを 「目的語」
Il faut +不定詞 ｲﾙ･ﾌｫ 3 単現(il faut+不定詞)v. ～すべきだ 「動詞句」
les regarder ﾚ･ﾙｷﾞｬﾙﾃﾞ 不定詞句(regarder+les)v.t 花を眺める 「動詞句」
et ｴ conj. そして
les respirer ﾚ･ﾚｽﾋﾟﾚ 不定詞句(respirer +les)v.t 花の香りをかぐ 「動詞句」

「僕の花は、僕の惑星をいい香で包んでいたけど、僕はその香を楽しむことができなかった。
La mienne embaumait ma planète, mais je ne savais pas m'en réjouir.
《「主語」「動詞」「目的語」mais「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」
La mienne ﾗ･ﾐｴﾝﾇ pron.f 私の花は 「主語」
embaumait ｵﾝﾎﾞﾒ 3 単半(embaumer)v.t よい香りで満たしていた 「動詞」
ma planète ﾏ･ﾌﾟﾈｰﾄ n.f 僕の惑星を 「目的語」
mais ﾒ conj. だけど
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne savais pas +不定詞 ﾇ･ｻｳﾞｪ･ﾊﾟ 1 単半･否定(savoir+不定詞)
v. ～することができなかった 「動詞句」
m'en réjouir ﾓﾝ･ﾚｼﾞｭｲｰﾙ 不定詞(se réjouir+en)（en は花の香り）
v.pr それを楽しむ 「動詞句」
Il me confia encore：

僕をひどく苛立たせたあの爪の話だって、あるいは僕をほろりとさせるはずだったかもしれない...」
Cette histoire de griffes, qui m'avait tellement agacé, eût dû m'attendrir ...》
「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》
Cette histoire de griffes ｾｯﾄ･ｲｽﾄﾜｰﾙ･ﾄﾞｩ･ｸﾞﾘﾌ n.f あの爪の話 「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節：histoire」
m' ﾑ pron 私を 「目的語」
avait tellement agacé ｱｳﾞｪ･ﾃﾙﾓﾝ･ｱｶﾞｾ 3 単半･完了形(agacer)

VIII

v.t ひどく苛立たせた 「動詞句」
eût dû +不定詞 ｲ･ｼﾞｭ **接・3 単半･完了形（条件法過去第二型）**（devoir+不定詞）
v.t ～するはずだったかもしれない 「動詞句」
m'attendrir ﾏﾄﾝﾄﾞﾘｰﾙ 不定詞(attendrir+me)
v.t 私の心を動かす 「動詞句」

それからなおも打ち明けて、こう言った：
Il me confia encore： 「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞」：
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 私に 「間接目的語」
confia ｺﾝﾌｨｱ 3 単過(confier)v.t 打ち明けた 「動詞」
encore ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

「あのとき、僕は何も理解できなかったんだよ！彼女の言葉ではなく、行為によって彼女を判断するべきだったのに。
《Je n'ai alors rien su comprendre! J'aurais dû la juger sur les actes et non sur les mots.
《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 ┃「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'ai alors rien su +不定詞 ﾈ･ｱﾛｰ･ﾘｬﾝ･ｼ 1 単現･完了形･否定(savoir+不定詞)
v. その時は何も～することができなかった 「動詞句」「目的語」「動詞句」
comprendre ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ 不定詞 v.t 理解する 「動詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
aurais dû +不定詞 ｵｰﾚ･ｼﾞｭ 条・1 単現･完了形(devoir+不定詞)
v. ～すべきだった 「動詞句」
la juger ﾗ･ｼﾞｭｼﾞｪ 不定詞(juger+la)v.t 彼女を判断する 「目的語」「動詞句」
sur les actes ｼｭｰﾙ･ﾚ･ｻﾞｸﾄｩ adv. 行為によって 「副詞句」
et ｴ conj. そして
non sur les mots ﾉﾝ･ｼｭｰﾙ･ﾚ･ﾓ adv. 彼女の言葉ではなくて 「副詞句」

彼女は僕を香で包み、僕を照らしてくれていた。」
Elle m'embaumait et m'éclairait. 「主語」「目的語」「動詞句」et「目的語」「動詞句」》
Elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
m' ﾑ pron 私を 「目的語」
embaumait ｵﾝﾎﾞﾒ 3 単半(embaumer)v.t よい香りで包んでくれていた 「動詞」
et ｴ conj. そして
m' ﾑ pron 私を 「目的語」

VIII

éclairait ｴｸﾚﾚ 3 単半(éclairer)v.t 照らしてくれていた 「動詞」

「決して彼女から逃げ出すべきではなかったんだ！あわれな企みのかげに隠れていた、彼女の優しさを見抜くべきだった。

Je n'aurais jamais dû m'enfuir! J'aurais dû deviner sa tendresse derrière ses pauvres ruses. 《「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

n'aurais jamais dû+不定詞 ﾉｰﾚ･ｼﾞｬﾒ･ｼﾞｭ 条・1 単現・完了形・否定(devoir+不定詞+ jamais)

v. ～すべきでなかった 「動詞句」

m'enfuir ﾓﾝﾌｭｲｰﾙ 不定詞(s'enfuir)v.pr 逃げ去る 「動詞句」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

aurais dû+不定詞 ｵｰﾚ･ｼﾞｭ 条・1 単現・完了形 (devoir+不定詞)

v. ～すべきだった 「動詞句」

deviner ﾄﾞｩｳﾞｨﾈ 不定詞 v.t 見抜く 「動詞句」

sa tendresse ｻ･ﾄﾝﾄﾞﾚｽ n.f 彼女の優しさ 「目的語」

derrière ses pauvres ruses ﾃﾞﾘｪｰﾙ･ｾ･ﾎﾟｰﾌﾞﾙ･ﾘｭｰｽﾞ

adj. 哀れな策略の裏に隠れた 「形容詞句：tendresse」

花って、本当に矛盾しているんだから！けれども、僕は幼すぎて、彼女を愛する術を知らなかったんだ」

Les fleurs sont si contradictoires! Mais j'étais trop jeune pour savoir l'aimer.》

「主語」「動詞」「補語」 | Mais「主語」「動詞」「補語」》

Les fleurs ﾚﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花というのは 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

si contradictoires ｼ･ｺﾝﾄﾗﾃﾞｨｸﾄﾜｰﾙ adj. とても矛盾した 「補語」

Mais ﾒ conj. でも

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

étais ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

trop jeune pour+不定詞 ﾄﾛ･ｼﾞｪﾝﾇ･ﾌﾟｰﾙ adj. あまりにも幼くて～ない 「補語」

savoir l'aimer ｻｳﾞｫｰﾙ･ﾚﾒ 不定詞(savoir +不定詞+la)

v.t 彼女の愛し方を知っている（→ 知らない） 「動詞句」

IX

僕が思うには、王子様は逃げ出すために野生の鳥たちの渡りを利用したのだ。

Je crois qu'il profita, pour son évasion, d'une migration d'oiseaux sauvages.

「主語」「動詞」「目的語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

crois ｸﾙわ 1 単現(croire)v.t 思っている 「動詞」

qu' ｸ conj. ～ということ 「目的語」

il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」

profita ﾌﾟﾛﾌｨﾀ 3 単過(profiter)

v.i(de を) 利用した 「動詞」

pour son évasion ﾌﾟｰﾙ･ｿﾝ･ｴｳﾞｧｼﾞｮﾝ

adv. 脱出のために 「副詞句」

d'une migration ﾃﾞｭﾝﾇ･ﾐｸﾞﾗｼｮﾝ

adv.（鳥の）渡りを 「間接目的語」

d'oiseaux sauvages ﾄﾞｵｳﾜｿﾞ･ｿｳﾞｧｰｼﾞｭ

adj. 野鳥の 「形容詞句：migration」

出発の朝、彼は自分の星をきちんと整えた。念入りに活火山の煤払いをした。

Au matin du départ il mit sa planète bien en ordre. Il ramona soigneusement ses volcans en activité.

「副詞句」「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Au matin du départ ｵ･ﾏﾀﾝ･ｼﾞｭ･ﾃﾞﾊﾟｰﾙ adv. 出発の朝 「副詞句」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

mit ﾐ 3 単過(mettre)v.t (mettre ... en ordre) を整理した 「動詞」

sa planète ｻ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 自分の星を 「目的語」

bien en ordre ﾋﾞｬﾝ･ｵﾝ･ｵﾙﾄﾞｩﾙ adv. よく整理された状態に 「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ramona ﾗﾓﾅ 3 単過(ramoner)v.t 煤払いをした 「動詞」

soigneusement ｽわﾆｭｰｽﾞﾓﾝ adv. 念入りに 「副詞」

ses volcans en activité ｾ･ｳﾞｫﾙｺﾝ･ｵﾝ･ｱｸﾃｨｳﾞｨﾃ pl.n.m 活火山を 「目的語」

王子様は活火山を二つ持っていた。それは朝の食事を温めるのに実に便利だった。

Il possédait deux volcans en activité. Et c'était bien commode pour faire chauffer le petit déjeuner du matin. 「主語」「動詞」「目的語」 | Et「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

IX

possédait ﾎﾟｾﾃﾞ 3 単半(posseder)v.t 持っていた 「動詞」
deux volcans en activité ﾄﾞｩ･ｳﾞｫﾙｺﾝ･ｵﾝ･ｱｸﾃｨｳﾞｨﾃ pl.n.m 活火山を 2 つ 「目的語」
Et ｴ conj. そして
c'ｽ pron それは 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
bien commode ﾋﾞﾔﾝ･ｺﾓｰｯﾄﾞ adj. とても便利な 「補語」
pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」
faire chauffer ﾌｪｰﾙ･ｼｮﾌｪｰﾙ 不定詞･使役(faire+不定詞)
v.t 温める 「動詞句」
chauffer は自動詞で「暖かくなる」→ （使役により）温める
le petit déjeuner du matin ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾃﾞｼﾞｭﾈ･ｼﾞｭ･ﾏﾀﾝ n.m 朝の食事 「目的語」

休火山も一つ持っていた。けれども、王子様が言っていたように、「分かったものじゃない！」
Il possédait aussi un volcan éteint. Mais, comme il disait： 《On ne sait jamais!》
「主語」「動詞」「目的語」 ┃Mais「副詞節」：《「主語」「動詞句」》
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
possédait ﾎﾟｾﾃﾞ 3 単半(posseder)v.t 持っていた 「動詞」
aussi un volcan éteint ｵｼ･ｱﾝ･ｳﾞｫﾙｺﾝ･ｴﾀﾝ n.m 休火山も 「目的語」
Mais ﾒ conj. しかし
comme ｺﾑ conj. ～するように 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
disait ﾃﾞｨｾﾞ 3 単半(dire)v.t 言っていた 「動詞」
On ｵﾝ pron（否定文で）誰も 「主語」
ne sait jamais ﾇ･ｾ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(savoir)v.t 分からない 「動詞句」
誰も何が起こるか分からない

IX

Il ramona soigneusement ses volcans en activité.

IX

だから休火山も同じように、煤払いをした。

Il ramona donc également le volcan éteint. 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ramona ﾗﾓﾅ 3 単過(ramoner)v.t 煤払いをした 「動詞」

donc également ﾄﾞﾝ･ｴｶﾞﾙﾓﾝ adv. だから同様に 「副詞句」

le volcan éteint ﾙ･ｳﾞｫﾙｺﾝ･ｴﾀﾝ n.m 休火山も 「目的語」

煤払いをよくしておけば、火山は静かに、規則正しく煙を吐き、爆発を起こさない。

S'ils sont bien ramonés, les volcans brûlent doucement et régulièrement, sans éruptions.

「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞句」

S' ｼ conj. もし～すれば 「副詞節」

ils ｲﾙ pron それらが 「主語」

sont bien ramonés ｿﾝ･ﾋﾞｬﾝ･ﾗﾓﾈ 3 複現･受動(ramoner)

v.t 十分に煤払いされている 「動詞句」

les volcans ﾚ･ｳﾞｫﾙｺﾝ pl.n.m 火山は 「主語」

brûlent ﾌﾞﾘｭﾙ 3 複現(brûler)v.i 焼ける 「動詞」

doucement et régulièrement ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ･ｴ･ﾚｷﾞｭﾘｴｰﾙﾓﾝ

adv. ゆっくり規則正しく 「副詞句」

sans éruptions ｿﾝ･ｴﾘｭﾌﾟｼｮﾝ adv. 噴火せずに 「副詞句」

結果として、「その結果噴火しない」

火山の爆発は、煙突の火花みたいなもの。

Les éruptions volcaniques sont comme des feux de cheminée. 「主語」「動詞」「補語」

Les éruptions volcaniques ﾚ･ｾﾞﾘｭﾌﾟｼｮﾝ･ｳﾞｫｶﾆｷ pl.n.f 火山の噴火は 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

comme des feux de cheminée ｺﾑ･ﾃﾞ･ﾌ･ﾄﾞｩ･ｼｭﾐﾈ

adv. 煙突の火花のような 「補語」

「火」では du feu と部分冠詞を用いるが、「火花」では複数不定冠詞を用いる

言うまでもなく、この地球上では、僕ら人間は小さすぎて、火山の煤払いをすることはできない。

Évidemment sur notre terre nous sommes beaucoup trop petits pour ramoner nos volcans. 「副詞句」「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Évidemment ｴｳﾞｨﾀﾞﾓﾝ adv. もちろん、明らかに 「副詞」

sur notre terre ｼｭｰﾙ･ﾉﾄﾙ･ﾃｰﾙ adv. この地球上では 「副詞句」

nous ﾇ pron 我々は 「主語」

IX

sommes ｿﾑ 1 複現(être)v.i ～である 「動詞」
beaucoup trop petits ﾎﾞｸ･ﾄﾛ･ﾌﾟﾃｨ adj. あまりに小さすぎる 「補語」
　beaucoup trop+形容詞 「あまりに～すぎる」
pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv.（目的）～するには 「副詞句」
　trop ... pour+不定詞 「あまりに...で、～できない」
ramoner ﾗﾓﾈ 不定詞 v.t 煤払いをする 「動詞」
nos volcans ﾉ･ｳﾞｫﾙｺﾝ pl.n.m 火山を 「目的語」

だから火山は、うんと僕らに厄介ごとを引き起こすのだ。
C'est pourquoi ils nous causent des tas d'ennuis.
「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」
C'est pourquoi ｾ･ﾌﾟﾙｸｫ conj. だから～
ils ｲﾙ pron 火山は 「主語」
nous ﾇ pron 我々に 「間接目的語」
causent ｺｰｽﾞ 3 複現(causer)v.t 起こす 「動詞」
des tas d'ennuis ﾃﾞ･ﾀ･ﾄﾞﾝﾆｭｲ pl.n.m 沢山のやっかいごとを 「直接目的語」
　des tas de +名詞 「沢山の～」

王子様は、ちょっとばかり憂鬱そうに、バオバブの最新の芽を抜くこともした。
Le petit prince arracha aussi, avec un peu de mélancolie, les dernières pousses de baobabs.
「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
arracha ｱﾗｼｬ 3 単過(arracher)v.t 引き抜いた 「動詞」
aussi ｵｼ adv. もまた 「副詞」
avec un peu de mélancolie ｱｳﾞｪｯｷ･ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾄﾞｩ･ﾒﾛﾝｺﾘｰ adv. ちょっと憂鬱そうに 「副詞句」
les dernières pousses de baobabs ﾚ･ﾃﾞﾘﾆｪｰﾙ･ﾌﾟｽ･ﾄﾞｩ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ
　pl.n.f 最新のバオバブの新芽を 「目的語」

もう二度と戻ってくるはずはないと思っていた。
Il croyait ne jamais devoir revenir. 「主語」「動詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
croyait +不定詞 ｸﾙｫｲｴ 3 単半(croire+不定詞)v.t ～であると思っていた 「動詞句」
ne jamais devoir revenir ﾇ･ｼﾞｬﾒ･ﾄﾞｩｳﾞｫｰﾙ･ﾙｳﾞﾆｰﾙ 不定詞･否定(devoir+不定詞)
　v.i 二度と戻るはずはない 「動詞句」

IX

ところがこうしたやりなれた仕事が、その朝は、彼にはこの上もなく甘美なものに思われた。

Mais tous ces travaux familiers lui parurent, ce matin-là, extrêmement doux.

Mais「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞句」「補語」

Mais メ conj. しかし

tous ces travaux familiers ﾄｩ･ｾ･ﾄﾗｳﾞｫ･ﾌｧﾐﾘｪ

pl.n.m この慣れ親しんだ仕事が 「主語」

travaux ﾄﾗｳﾞｫ pl.n.m(travail) 仕事、familier adj. 慣れ親しんだ

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

parurent ﾊﾟﾘｭｰﾙ 3 複過(paraître)v.i ～と思われた 「動詞」

ce matin-là ｽ･ﾏﾀﾝ･ﾗ adv. その朝は 「副詞句」

extrêmement doux ｴｸｽﾄﾚｰﾑﾓﾝ･ﾄﾞｩ adj. とても甘い 「補語」

そして、これを最後に花に水をかけ、覆いをかけようとしていたとき、王子様は自分のうちに泣き出したい欲求を見出した。

Et, quand il arrosa une dernière fois la fleur, et se prépara à la mettre à l'abri sous son globe, il se découvrit l'envie de pleurer. Et「副詞節」,「主語」「動詞句」「目的語」

Et ｴ conj. そして

quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼が 「主語」

arrosa ｱﾛｻﾞ 3 単過(arroser)v.t 水をかけた 「動詞」

une dernière fois ﾕﾝﾇ･ﾃﾞﾙﾆｪｰﾙ･ﾌｧ adv. 最後にもう一度 「副詞句」

la fleur ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花に 「目的語」

et ｴ conj. そして

se prépara + à+不定詞 ｽ･ﾌﾟﾚﾊﾟﾗ 3 単過(se préparer à+不定詞)

v.pr ～を準備していた 「動詞句」

à la mettre ｱ･ﾗ･ﾒｯﾄﾙ à+不定詞 v.t 彼女に置く 「動詞句」

à l'abri ｱ･ﾗﾌﾞﾘ adv. 安全な場所に 「副詞句」

sous son globe ｽ･ｿﾝ･ｸﾞﾛｰﾌﾞ adv. 球形の覆いの下の 「副詞句」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

se découvrit ｽ･ﾃﾞｸｳﾞﾘ 3 単過(se découvrir)v.pr 自分の内に～を発見した 「動詞句」

l'envie de pleurer ﾛﾝｳﾞｨｰ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾙﾚ n.f 泣きたいという欲求を 「目的語」

「さようなら」と王子様は花に言った。しかし、彼女は彼に返事をしなかった。

《Adieu》, dit-il à la fleur. Mais elle ne lui répondit pas.

《「挨拶」》,「動詞」「主語」「間接目的語」

Mais「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

IX

Adieu ｱﾃﾞｨｭ int. さようなら 「挨拶」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
à la fleur ｱ･ﾗ･ﾌﾚｰﾙ adv. 花に 「間接目的語」
Mais ﾒ conj. しかし
elle ｴﾙ pron 花は 「主語」
ne ...répondit pas ﾇ...ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ･ﾊﾟ 3 単過･否定(répondre)v.i 答えなかった 「動詞」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

「さようなら」と王子様は繰り返した。
《Adieu》, répéta-t-il. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Adieu ｱﾃﾞｨｭ int. さようなら 「挨拶」
répéta ﾚﾍﾟﾀ 3 単過(répéter)v.t 繰り返した 「動詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

花は咳をした。けれども、風邪をひいていたからではなかった。
La fleur toussa. Mais ce n'était pas à cause de son rhume.
「主語」「動詞」 | Mais「主語」「動詞句」「補語」
La fleur ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花は 「主語」
toussa ﾄｳｻ 3 単過(tousser)v.i 咳をした 「動詞」
Mais ﾒ conj. しかし
ce ｽ pron これは 「主語」
n'était pas ﾈﾃ･ﾊﾟ 3 単半･否定(être)v.i ～でなかった 「動詞句」
à cause de ｱ･ｺｰｽﾞ･ﾄﾞｩ adv.（原因）～のためで 「補語」
son rhume ｿﾝ･ﾘｭｰﾑ n.m 風邪 「目的語」

「あたくし、馬鹿だったわ」と彼女はついに口をきいた。
《J'ai été sotte, lui dit-elle enfin.
《「主語」「動詞句」「補語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」「副詞」
J' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ai été ｴ･ｴﾃ 1 単現･完了形(être)v.i ～だった 「動詞句」
sotte ｿｯﾄ n.f(sot) ばか 「補語」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
enfin ｵﾝﾌｧﾝ adv. ついに 「副詞」

IX

「ごめんなさいね。お幸せになってね」

Je te demande pardon. Tâche d'être heureux.》

《「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」 | 「動詞句」「補語」》

Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

te ﾄｩ pron あなたに 「間接目的語」

demande ﾄﾞｩﾓﾝﾄﾞ 1 単現(demander)v.t 求める 「動詞」

pardon ﾊﾟﾙﾄﾞﾝ n.m 許しを 「直接目的語」

Tâche +不定詞 ﾀｯｼｭ 命・2 単現(tâcher+不定詞)

v. 〜しようと努めなさい 「動詞句」

d'être ﾃﾞｰﾄﾙ 不定詞 v.i 〜になる 「動詞」

heureux ｳﾙ adj. 幸せな 「補語」

咎めだてる様子が全然ないので、王子様はびっくりした。

Il fut surpris par l'absence de reproches. 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

fut ﾌｭ 3 単過(être)v.i 〜だった 「動詞」

surpris ｼｭﾙﾌﾟﾘ adj. 驚いた 「補語」

par ﾊﾟｰﾙ adv.（原因・理由）〜のために、〜なので 「副詞句」

l'absence ﾗﾌﾟｿﾝｽ n.f 欠如、無いこと 「目的語」

de reproches ﾄﾞｩ･ﾙﾌﾟﾛｼｭ adj. 非難の 「形容詞句：absence」

→ 何も非難する様子がないので

そして覆いガラスを宙に持ったまま、すっかり面喰ってそこにじっとしていた。

Il restait là tout déconcerté, le globe en l'air. 「主語」「動詞」「副詞」「補語」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

restait ﾚｽﾃ 3 単半(rester)v.i じっとしていた 「動詞」

là ﾗｰ adv. そこに 「副詞」

tout déconcerté ﾄｩ･ﾃﾞｺﾝｾﾙﾃ adj. すっかり面喰って 「補語」

le globe en l'air ﾙ･ｸﾞﾛｰﾌﾞ･ｴﾝ･ﾚｰﾙ

adv. 空中に覆いがある → 覆いを持ったままで 「副詞句」

その静かな優しさを彼は理解しなかった。

Il ne comprenait pas cette douceur calme. 「主語」「動詞句」「目的語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ne comprenait pas ﾇ･ｺﾝﾌﾟﾙﾈ･ﾊﾟ 3 単半(comprendre)v.t 理解しなかった 「動詞句」

IX

cette douceur calme ｾｯﾄ･ﾄﾞｩｾｰﾙ･ｶﾙﾑ n.f この静かな優しさを 「目的語」

「そうよ、あたくし、あなたが好きよ」と彼女は言った。

《Mais oui, je t'aime, lui dit la fleur.

《「応答」「主語」「目的語」「動詞」》,「間接目的語」「動詞」「主語」

Mais oui ﾒ･ｳｨｰ adv. いえ、そうよ 「応答」

je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

t' ﾄｩ pron あなたを 「目的語」

aime ｴﾑ 1 単現(aimer)v.t 好きよ 「動詞」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

la fleur ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花が 「主語」

「あたくしのせいで、あなたはそのことを何も知らなかったわね。

Tu n'en as rien su, par ma faute. 《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「副詞句」

Tu ﾁｭ pron あなたは 「主語」

n'en as rien su ﾉﾝ･ｱ･ﾘｬﾝ･ｽ 2 単現･完了形･否定(savoir)

v.t そのことは何も知らなかった 「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

en は前文の内容を受ける

par ma faute ﾊﾟｰﾙ･ﾏ･ﾌｫｰﾄ adv. 私の過ちのせいで 「副詞句」

そんなこと、どうでもいい。あなたもあたくし同様に、お馬鹿さんだったのよ。

Cela n'a aucune importance. Mais tu as été aussi sot que moi.

「主語」「動詞句」「目的語」 | Mais「主語」「動詞句」「補語」

Cela ｽﾗ pron そのことは 「主語」

n'a ﾅ 3 単現･否定(avoir)v.t がない 「動詞句」

aucune importance ｵｰｷｭﾝﾇ･ｱﾝﾎﾟﾙﾄﾝｽ n.f いかなる重要性も～ない 「目的語」

Mais ﾒ conj. しかし

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

as été ｱ･ｴﾃ 3 単現･完了形(être)v.i ～だった 「動詞句」

aussi sot que moi ｵｼ･ｿ･ｸ･ﾑわ adj. 私と同様にばかな 「補語」

お幸せになってね。 . . . その覆いガラスなんか、放っといてちょうだい。もうそんなもの、いらないわ」

Tâche d'être heureux ... Laisse ce globe tranquille. Je n'en veux plus.

「動詞句」「補語」 | 「動詞」「目的語」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞」》

IX

Tâche +de+不定詞 ﾀｯｼｭ 命・2 単現(tâcher)v.i ～しようと努めてください 「動詞句」
d'être ﾃﾞｰﾄﾙ 不定詞 v.i ～になる 「動詞句」
heureux ｳﾙ adj. 幸せな 「補語」
Laisse ﾚｽ 命・2 単現(laisser)v.t（何）を～のままにしておいて頂戴 「動詞」
ce globe ｽ･ｸﾞﾛｰﾌﾞ n.m その覆いを 「目的語」
tranquille ﾄﾛﾝｷﾙ adj. 静かな、放っておく、構わない 「補語」
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
n'en veux ﾉﾝ･ｳﾞ 1 単現･否定(vouloir+en)v.t そんなものはいらない 「動詞句」
en は vouloir **de ce globe** に対応する
plus ﾌﾟﾘｭ adv.（ne ... plus）もう～ない 「副詞」

「だけど、風が...」
--- Mais le vent ... 《Mais「主語」》
Mais ﾒ conj. だけど
le vent ﾙ･ｳﾞｫﾝ n.m 風が 「主語」

「そんなに風邪をひいている訳ではないの... 夜の涼しい風があたくしに元気をもたらすでしょう。あたくし花なんだから」
--- Je ne suis pas si enrhumée que ça ... L'air frais de la nuit me fera du bien. Je suis une fleur. 《「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「目的語」「動詞」「補語」「主語」「動詞」「補語」》
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ne suis pas ﾇ･ｼｭｲ･ﾊﾟ 1 単現(être)v.i ～ではない 「動詞句」
si enrhumée ｼ･ｵﾝﾘｭﾒ adj.f ひどく風邪をひいた 「補語」
que ça ｸ･ｻ adv. それほど 「副詞句」
L'air frais ﾚｰﾙ･ﾌﾚ n.m 冷たい空気が 「主語」
de la nuit ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾆｭｲ adj. 夜の 「形容詞句：air」
me ﾑ pron 私を 「目的語」
fera ﾌﾗ 3 単未(faire)v.t (faire A de B) A を B にするでしょう 「動詞」
du bien ｼﾞｭ･ﾋﾞｬﾝ n.m よいこと、元気 「補語」
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
suis ｼｭｲ (être)v.i ～である 「動詞」
une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花 「補語」

「だけど、けものが...」
--- Mais les bêtes ... 《Mais「主語」》

IX

Mais ﾒ conj. だけど
les bêtes ﾚ･ﾍﾞｰﾄ pl.nf けものが 「主語」

「蝶々と知り合いになりたかったら、二、三匹の毛虫には我慢しなくちゃ。」
--- Il faut bien que je supporte deux ou trois chenilles si je veux connaître les papillons.
《「動詞句」「副詞」「主語」「副詞節」》
Il faut ｲﾙ･ﾌｫ 3 単現(falloir)v.h（非人称）～しなければならない 「動詞句」
bien ﾋﾞｬﾝ adv. よく、しっかり 「副詞」
que +接続法 ｸ conj. ～ということ 「主語」
je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
supporte ｼｭﾎﾟﾙﾄ 接・1 単現(supporter)v.t 我慢する 「動詞」
deux ou trois chenilles ﾄﾞｩ･ｳ･ﾄﾙｫ･ｼｭﾆｰﾕ pl.n.f 2～3 匹の毛虫 「目的語」
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 私が 「主語」
veux connaître ｳﾞ･ｺﾈｰﾄﾙ 1 単現･願望(vouloir+不定詞)
v.t 知り合いになりたい 「動詞句」
les papillons ﾚ･ﾊﾟﾋﾟｮﾝ pl.n.m 蝶々 「目的語」

「蝶々って本当に綺麗に思われる。蝶々でなかったら、だれがあたくしを訪ねてくれるのかしら。」
Il paraît que c'est tellement beau. Sinon qui me rendra visite?
《「動詞」「主語」 ┃ 「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」
Il ｲﾙ pron 形式主語（真の主語は que 節）
paraît ﾊﾟﾚ 3 単現(paraître)v.i ～のように思われる 「動詞」
que ｸ conj. ～ということ 「主語」
c' ｽ pron それ（蝶々）は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
tellement beau ﾃﾙﾓﾝ･ﾎﾞ adj. とても美しい 「補語」
Sinon qui ｼﾉﾝ･ｷ pron（蝶々）以外に誰が 「主語」
me ﾑ pron 私に 「間接目的語」
rendra ﾛﾝﾄﾞﾗ 3 単未(rendre)v.t 与えてくれるだろう 「動詞」
visite ｳﾞｨｼﾞｯﾄ n.f 訪問を 「直接目的語」

あなたは遠いところに行ってしまうのでしょう？大きな獣に関しては、何も怖くない。
Tu seras loin, toi. Quant aux grosses bêtes, je ne crains rien.
「主語」「動詞」「副詞句」「呼びかけ」 ┃ 「副詞句」,「主語」「動詞句」「目的語」

IX

Tu ﾁｭ pron あなたは 「主語」
seras ｽﾗ 2 単未(être)v.i 行くでしょう 「動詞」
loin ﾙわﾝ adv. 遠くへ 「副詞」
toi ﾄｩわ pron あなたは 「呼びかけ」
Quant +à ｺﾝ･ﾀ adv. 〜に関しては 「副詞句」
aux grosses bêtes ｵ･ｸﾞﾛｽ･ﾍﾞｰﾄ adv. 大きなけもの 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ne crains ﾇ･ｸﾗﾝ 1 単現･否定(craindre)v.t 恐れない 「動詞句」
rien ﾘｬﾝ pron 何も〜ない 「目的語」

あたくし棘を持っているんだから」
J'ai mes griffes.》 「主語」「動詞」「目的語」》
J' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t 持っている、ある 「動詞」
mes griffes ﾒ･ｸﾞﾘﾌ pl.n.f 爪、とげ 「目的語」

そう言って、無邪気にも花は四つの棘を見せた。それからこう付け加えた：
Et elle montrait naïvement ses quatre épines. Puis elle ajouta：
Et「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「副詞」「主語」「動詞」：
Et ｴ conj. そして
elle ｴﾙ pron 花は 「主語」
montrait ﾓﾝﾄﾚ 3 単半(montrer)v.t 見せた 「動詞」
naïvement ﾅｲｰｳﾞﾓﾝ adv. 無邪気に 「副詞」
ses quatre épines ｾ･ｸｧﾄﾙ･ｴﾋﾟｰﾇ pl.n.f 4 つの棘を 「目的語」
Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
elle ｴﾙ pron 花は 「主語」
ajouta ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

「そんなにぐずぐずしていないで。いらいらしてくるわ。出発することに決めたんでしょう。行ってしまいなさいよ」
《Ne traîne pas comme ça, c'est agaçant. Tu as décidé de partir. Va-t'en.》
《「動詞句」「副詞句」,「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」 | 「動詞句」》
Ne traîne pas ﾇ･ﾄﾚｰﾇ･ﾊﾟ 命・2 単現･否定(traîner)v.i ぐずぐずしないで！ 「動詞句」
comme ça ｺﾑ･ｻ adv. そんな風に 「副詞句」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i 〜である 「動詞」

X

agaçant ｱｶﾞｿﾝ adj. 苛立たせる 「補語」
Tu ﾁｭ pron あなたは 「主語」
as décidé de partir ｱ･ﾃﾞｼﾃﾞ･ﾄﾞｩ･ﾊﾟﾙﾃｨｰﾙ 2 単現･完了形(decider de+不定詞)
v.t 出発することを決めた 「動詞句」
Va t'en ｳﾞｧ･ﾄﾝ 命・2 単現(s'en aller)v.pr 行ってしまいなさい 「動詞句」
人称によって、Allons-nous-en! または Allez-vous-en! が使われる。

彼女は泣いているところを彼に見られたくなかったからそう言った。それはそんなにも勝気な花だった...

Car elle ne voulait pas qu'il la vît pleurer. C'était une fleur tellement orgueilleuse ...
「副詞節」 | 「主語」「動詞」「補語」

Car ｶｰﾙ conj. なぜなら～なので 「副詞節」
elle ｴﾙ pron 花は 「主語」
ne voulait pas ﾇ･ｳﾞﾚ･ﾊﾟ 3 単半･否定(vouloir)v.t 望まなかった 「動詞句」
qu' ｸ conj. ～ということ 「目的語」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
la ﾗ pron 彼女を 「目的語」
vît ｳﾞｨ 接・3 単半(voir)v.t 見るだろう 「動詞」
pleurer ﾌﾟﾙﾚ 不定詞 v.i（花が）泣く 「補語」
C' ｽ pron それは 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花 「補語」
tellement orgueilleuse ﾃﾙﾓﾝ･ｵﾙｸﾞｲｭｰｽﾞ adj. とても誇り高い 「形容詞句」

X

王子様は、小惑星 325, 326, 327, 328, 329, 330 の圏内にきた。

Il se trouvait dans la région des astéroïdes 325, 326, 327, 328, 329 et 330.
「主語」「動詞句」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
se trouvait ｽ･ﾄｩﾙｳﾞｪ 3 単半(se trouver)v.pr（ある場所に）いた 「動詞句」
dans la région ﾄﾞﾝ･ﾗ･ﾚｼﾞｵﾝ adv. 圏内に 「副詞句」
des astéroïdes 325, 326, 327, 328, 329 et 330
ﾃﾞ･ｱｽﾃﾛｲﾄﾞ･ﾄﾙわ･ｿﾝ･ｳﾞｧﾝ･ｻﾝｷ･ﾄﾙわ･ｿﾝ･ｳﾞｧﾝ･ｼｽ･ﾄﾙわ･ｿﾝ･ｳﾞｧﾝ･ｾｯﾄ・ﾄﾙわ･ｿﾝ･ｳﾞｧﾝ･ﾁｭｲﾄﾙわ･ｿﾝ･ｳﾞｧﾝ･ﾇﾌ･ｴ･ﾄﾙわ･ｿﾝ･ﾄﾛﾝﾄ
adj. 小惑星 325, 326, 327, 328, 329, 330 の 「形容詞句」

X

そこでまず、これらの小惑星を訪ねてみることからはじめた。ここで仕事を見つけて、勉強するために。

Il commença donc par les visiter pour y chercher une occupation et pour s'instruire.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

commença ...par les visiter ｺﾓﾝｻ...ﾊﾟｰﾙ･ﾚ･ｳﾞｨｼﾞﾃ 3 単過(commencer par+不定詞+les)

v.t これらの小惑星を訪問することから始めた 「動詞句」

les は「これらの小惑星」

donc ﾄﾞﾝ adv. それで 「副詞」

pour y chercher ﾌﾟｰﾙ･ｲ･ｼｪﾙｼｪ adv. そこで探すために 「副詞句」

une occupation ﾕﾝﾇ･ｵｷｭﾊﾟｼｮﾝ n.f 仕事 「目的語」

et ｴ conj. そして

pour s'instruire ﾌﾟｰﾙ･ｻﾝｽﾄﾘｭｲｰﾙ adv. 学ぶために 「副詞句」

最初の小惑星には、一人の王様が住んでいた。

Le premier était habité par un roi. 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Le premier ﾙ･ﾌﾟﾙﾐｴ n.m 最初の小惑星は 「主語」

était habité ｴﾃ 3 単半･受動(être)v.i ～住まれていた 「動詞」

par un roi ﾊﾟｰﾙ･ｱﾝ･ﾙわ adv. 王様によって 「副詞句」

その王様は、深紅の服と白貂（しろてん）の毛皮を着て、たいへん簡素だが威厳のある玉座に腰かけていた。

Le roi siégeait, habillé de pourpre et d'hermine, sur un trône très simple et cependant majestueux. 「主語」「動詞」「副詞句」

Le roi ﾙ･ﾙわ n.m その王様は 「主語」

siégeait ｼｪｼﾞｪ 3 単半(siéger)v.i 座っていた 「動詞」

habillé ｱﾋﾞｪ 過去分詞(s'habiller)v.pr （服）を着て 「副詞句」

de pourpre et d'hermine ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾙﾌﾟﾙ･ｴ･ﾃﾞﾙﾐﾇ

adv. 深紅の服と白てんの毛皮を 「目的語」

sur un trône ｼｭｰﾙ･ｱﾝ･ﾄﾛｰﾇ adv. 玉座の上に 「副詞句」

très simple ﾄﾚ･ｻﾝﾌﾟﾙ adj. とても簡素な 「形容詞句」

et ｴ conj. そして

cependant majestueux ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ･ﾏｼﾞｪｽﾃｭｰ

adj. しかしながら威厳のある 「形容詞句」

X

「やあ！家来が来た！」王様は王子様に気付くと、大声で言った。

《Ah! Voilà un sujet!》, s'écria le roi quand il aperçut le petit prince.

《「感嘆」》,「動詞」「主語」「副詞節」

Ah! Voilà un sujet! ｱｰ･ｳﾞｨｳﾗ･ｱﾝ･ｼｭｼﾞｪ int. あー、あそこに家臣が来た！ 「感嘆」

s'écria ｾ･ｸﾘｱ 3 単過(s'écrier)v.pr 叫んだ 「動詞」

le roi ﾙ･ﾙｨ n.m 王様は 「主語」

quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

il ｲﾙ pron 王様が 「主語」

aperçut ｱﾍﾟﾙｼｭ 3 単過(apercevoir)v.t ちらっと見た 「動詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様を 「目的語」

王子様は自問した：

Et le petit prince se demanda： Et「主語」「動詞句」：

Et ｴ conj. そして

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

se demanda ｽ･ﾄﾞｩﾓﾝﾀﾞ 3 単過(se demander)v.pr 自問した 「動詞句」

『僕に一度も会ったことがないのに、どうして、ぼくだとわかったのかな』

《Comment peut-il me reconnaître puisqu'il ne m'a encore jamais vu!》

《「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「副詞節」》

Comment ｺﾓﾝ adv. どうして 「副詞」

peut ...reconnaître ﾌﾟ...ﾚｺﾈｰﾄﾙ 3 単現･可能(pouvoir+不定詞)

v.t 識別できる 「動詞句」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 僕を 「目的語」

puisqu' ﾋﾟｭｲｽｷ conj. ～なので、～なのに 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ne ...a encore jamais vu ﾇ...ｱ･ｵﾝｺｰﾙ･ｼﾞｬﾒ･ｳﾞｭ 3 単現･完了形･否定

v.t まだ一度も会ったことがない 「動詞句」

m' ﾑ pron 僕に 「目的語」

王様たちにとっては、世の中がきわめて単純であるということを、彼は知らなかった。

Il ne savait pas que, pour les rois, le monde est très simplifié.

「主語」「動詞句」「目的語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ne savait pas ﾇ･ｻｳﾞｪ･ﾊﾟ 3 単半･否定(savoir)v.t 知らなかった 「動詞句」

X

que ｸ conj. ～ということを 「目的語」
pour les rois ﾌﾟｰﾙ･ﾚ･ﾙわ adv. 王様たちにとって 「副詞句」
le monde ﾙ･ﾓﾝﾄﾞ n.m 世界は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
très simplifié adj. とても単純化された 「補語」

すべての人間が家来なのである。
Tous les hommes sont des sujets. 「主語」「動詞」「補語」
Tous les hommes ﾄｩ･ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m すべての人間が 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
des sujets ﾃﾞ･ｼｭｼﾞｪ pl.n.m 家来(de les sujets) 「補語」

「もっとよく見えるように、近う寄れ」誰かに対してついに王様になることができて非常に鼻が高くなった王様は、そういった。
《Approche-toi que je te voie mieux》, lui dit le roi qui était tout fier d'être enfin roi pour quelqu'un. 《「動詞」「主語」「副詞節」》, 「間接目的語」「動詞」「主語」
Approche ｱﾌﾟﾛｼｭ 命・2 単現(approcher)v.i 近くに来なさい 「動詞」
toi ﾄわ pron お前は 「主語」
que ｸ conj.（命令の目的を表す）～のために 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron わしが 「主語」
te ﾄｩ pron お前を 「目的語」
voie ｳﾞわ 接・1 単現(voir)v.t 見えるように 「動詞」
mieux ﾐｭ adv. もっとよく 「副詞」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～になった 「動詞」
tout fier ﾄｩ･ﾌｨｴ adj. 誇らしい 「補語」
d' ﾄﾞｩ adv.（原因）～のために 「副詞句」
être ｴｰﾄﾙ 不定詞 v.i なる 「動詞」
enfin ｵﾝﾌｧﾝ adv. ついに、やっと 「副詞」
roi ﾙわ n.m 王様 「補語」
pour quelqu'un ﾌﾟｰﾙ･ｹﾙｶﾝ adj. 誰かに対して 「形容詞句」

X

X

王子様は、腰かける場所を目で探したが、星全体がみごとな白貂のコートですっかりふさがれてしまっていた。

Le petit prince chercha des yeux où s'asseoir, mais la planète était tout encombrée par le magnifique manteau d'hermine.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」mais「主語」「動詞句」「副詞句」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
chercha ｼｪﾙｼｬ 3 単過(chercher)v.t 探した 「動詞」
des yeux ﾃﾞ･ｼﾞｭ adv.（de les yeux）両目で 「副詞句」
où s'asseoir ｳ･ｻｽｵｰﾙ adv. 座るべき場所を 「目的語」
mais ﾒ conj. しかし
la planète ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 星は 「主語」
était tout encombrée ｴﾃ･ﾄｳ･ﾄﾝｺﾝﾌﾞﾚ 3 単半･受動(encombrer)
v.t 全体がふさがれていた 「動詞句」
par le magnifique manteau d'hermine ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ﾏﾆﾌｨｷ･ﾓﾝﾄ･ﾃﾞﾙﾐﾝﾇ
adv.（動作主）白貂の見事なマントによって 「副詞句」

だから立ったままでいた。そして疲れていたので、あくびをしていまった。

Il resta donc debout, et, comme il était fatigué, il bâilla.

「主語」「動詞」「副詞」「補語」et「副詞節」,「主語」「動詞」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
resta ﾚｽﾀ 3 単過(rester)v.i ～のままでいた 「動詞」
donc ﾄﾞﾝ adv. それで 「副詞」
debout ﾃﾞﾌﾞｰ adj. 立った 「補語」
et ｴ conj. そして
comme ｺﾑ conj. ～なので 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
fatigué ﾌｧﾃｨｹﾞ adj. 疲れた 「補語」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
bâilla ﾊﾞｲﾔ 3 単過(bâiller)v.i あくびをした 「動詞」

「王様の面前であくびをするとは、エチケットに反する。

Il est contraire à l'étiquette de bâiller en présence d'un roi, lui dit le monarque.

《「動詞」「補語」「主語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」

Il ｲﾙ pron 形式主語（真の主語は de bâiller 以降）

X

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
contraire à l'étiquette ｺﾝﾄﾚｰﾙ･ｱ･ﾚﾁｹｯﾄ adj. エチケットに反する 「補語」
de bâiller ﾄﾞｩ･ﾊﾞｲｪ 不定詞 v.i あくびをすることは 「主語」
en présence d'un roi ｵﾝ･ﾌﾟﾚｿﾞﾝｽ･ﾀﾞﾝ･ﾙｩ adv. 王の面前で 「副詞句」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le monarque ﾙ･ﾓﾅﾙｷ n.m 君主は 「主語」

君にあくびを禁止する」とその君主は彼に言った。
Je te l'interdis. 《「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞」》
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
te ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」
l' ﾙ pron あくびを 「直接目的語」
interdis 1 単現(interdire)v.t 禁止する 「動詞」

「あくびを我慢できなかったのです」と王子様は、すっかり恐縮して答えた。
--- Je ne peux pas m'en empêcher, répondit le petit prince tout confus.
《「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」「副詞句」,
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ne peux pas m'en empêcher ﾇ･ﾌﾟ･ﾊﾟ ﾓﾝ･ｵﾝﾍﾟｼｪ 1 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)
v.pr あくびを我慢できなかった 「動詞句」
m'empêcher de bâiller「あくびを我慢する」 より de bâiller を en に代えた
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
tout confus ﾄｩ･ｺﾝﾌｭ adv. すっかり恐縮して 「副詞句」

長旅をして、眠っていないのです...」
J'ai fait un long voyage et je n'ai pas dormi ...
《「主語」「動詞句」「目的語」et「主語」「動詞句」》
J' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ai fait ｴ･ﾌｪ 1 単現･完了形(faire)v.t ～した 「動詞句」
un long voyage ｱﾝ･ﾛﾝ･ｳﾞｩﾜｰｼﾞｭ n.m 長い旅を 「目的語」
et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
n'ai pas dormi ﾈ･ﾊﾟ･ﾄﾞﾙﾐ 1 単現･完了形･否定(dormir)v.i 眠っていない 「動詞句」

X

「それなら」と、王様は言った。

--- Alors, lui dit le roi, 《「副詞」,「間接目的語」「動詞」「主語」,

Alors ｱﾛｰ adv. それでは 「副詞」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」

「あくびをするように命令する。ここ数年来、あくびをする人間を一人も見たことがない。

je t'ordonne de bâiller. Je n'ai vu personne bâiller depuis des années.

「主語」「間接目的語」「動詞」「補語」 ┃ 「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「副詞句」

je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

t' ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」

ordonne ｵﾙﾄﾞﾝﾇ 3 単現(ordonner)v.t 命令する 「動詞」

de bâiller ﾄﾞｩ･ﾊﾞｲｪ 不定詞 v. あくびをするように 「補語」

Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

n'ai vu ﾈ･ｳﾞｭ 1 単現･完了形･否定(voir)v.t 見たことがない 「動詞句」

personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ n.f（否定文で）誰も～ない 「目的語」

bâiller ﾊﾞｲｪ 不定詞 v.i あくびをしている 「補語」

depuis des années ﾄﾞｩﾋﾟｭｲ･ﾃﾞ･ｻﾞﾈ adv. 何年も前から 「副詞句」

あくびは、わしにとっては興味津々じゃよ。さあ！もう一度、あくびをしたまえ。これは命令だ」

Les bâillements sont pour moi des curiosités. Allons! bâille encore. C'est un ordre.

「主語」「動詞」「副詞句」「補語」 ┃ 「間投」「動詞」「副詞」 ┃ 「主語」「動詞」「補語」》

Les bâillements ﾚ･ﾊﾞｲｭﾓﾝ pl.n.m あくびは 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

pour moi ﾌﾟｰﾙ･ﾑわ adv. わしにとって 「副詞句」

des curiosités ﾃﾞ･ｷｭﾘｵｼﾞﾃ pl.n.f 好奇心をそそるもの 「補語」

Allons! ｱﾛﾝ int. さあ 「間投」

bâille ﾊﾞｲｭ 命・2 単現(bâiller)v.i あくびをしなさい 「動詞」

encore ｵﾝｺｰﾙ adv. もう一度 「副詞」

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

un ordre ｱ･ﾉﾙﾄﾞｩﾙ n.m 命令 「補語」

X

「その命令ではおじけづいて... もう二度とできませんよ...」王子様はすっかり顔を赤らめて、そう言った。

---Ça m'intimide ... je ne peux plus ..., fit le petit prince tout rougissant.

《「主語」「目的語」「動詞」... 「主語」「動詞句」》 ,「動詞」「主語」「副詞句」

Ça ｻ pron それは 「主語」

m' ﾑ pron 私を 「目的語」

intimide ｱﾝﾃｨﾐﾄﾞｩ 3 単現(intimider)v.t 怖気づかせる 「動詞」

→ 自分を「主語」に替えて翻訳する

je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

ne peux plus ﾇ･ﾌﾟ･ﾌﾟﾘｭ 1 単現･否定(pouvoir)v.i もうできない 「動詞句」

fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 答えた、言った 「動詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

tout rougissant ﾄｩ･ﾙｼﾞｿﾝ adv. すっかり赤面して 「副詞句」

「えへん、えへん！それでは、わしが... 命令する、あるときは、あくびをし、あるときは...」

---Hum! Hum! répondit le roi. Alors je ... je t'ordonne tantôt de bâiller et tantôt de ...》

《「間投」「動詞」「主語」 | 「副詞」「主語」「間接目的語」「動詞」「補語」et「副詞句」》

Hum! Hum! ｳﾑ･ｳﾑ adv. えへん、えへん 「間投」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.t 答えた 「動詞」

le roi ﾙ･ﾙｫﾜ n.m 王様は 「主語」

Alors ｱﾛｰ adv. それじゃあ 「副詞」

je ... je ｼﾞｭ...ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

t' ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」

ordonne ｵﾙﾄﾞﾝﾇ 1 単現(ordonner)v.t 命令する 「動詞」

tantôt de bâiller ﾄﾝﾄ･ﾄﾞｩ･ﾊﾞｲｪ 不定詞 v.i ある時はあくびをする 「補語」

et ｴ conj. そして

tantôt de ﾄﾝﾄ･ﾄﾞｩ adv. ある時は... 「副詞句」

王様はちょっと早口に口ごもり、気に障ったように見えた。

Il bredouillait un peu et paraissait vexé. 「主語」「動詞」「副詞句」et「動詞」「補語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

bredouillait ﾌﾞﾙﾄﾞｩｲｪ 3 単半(bredouiller)v.t 早口で口ごもった 「動詞」

un peu ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少し 「副詞句」

et ｴ conj. そして

paraissait ﾊﾟﾚｾ 3 単半(paraître)v.i ～のように見えた 「動詞」

vexé ｳﾞｪｸｾ adj. 気を悪くした 「補語」

X

なぜなら、自分の権威が尊重されることに何よりも執着していたから。

Car le roi tenait essentiellement à ce que son autorité fût respectée.

Car「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」

Car ｶｰﾙ conj. なぜなら

le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」

tenait ﾄｩﾈ 3 単半(tenir)v.i (à に) 執着していた、こだわっていた 「動詞」

essentiellement ｴｿﾝｼｪﾙﾓﾝ adv. なによりも 「副詞」

à ce que ｱ･ｽ･ｸ adv. ～ということに 「間接目的語」

son autorité ｿﾉﾄﾘﾃ n.f 彼の権威が 「主語」

所有形容詞女性形 sa は、母音又は無音の h で始まる語の前では son となりリエゾンする

fût respectée ﾌｭ･ﾚｽﾍﾟｸﾃ 接・3 単半･受動(respecter)v.t 尊重される「動詞句」

命令に従わないと、容赦しなかった。彼は絶対君主だった。

Il ne tolérait pas la désobéissance. C'était un monarque absolu.

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ne tolérait pas ﾇ･ﾄﾚﾚ･ﾊﾟ 3 単半･否定(tolérer)v.t 我慢できなかった 「動詞句」

la désobéissance ﾗ･ﾃﾞｿﾞﾍﾞｲｿﾝｽ n.f 命令に従わないこと 「目的語」

C' ｽ pron 彼は 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

un monarque absolu ｱﾝ･ﾓﾅﾙｷ･ｱﾌﾟｿﾘｭ n.m 絶対君主 「補語」

しかし、大変お人よしだったので、分別のある命令をくだしていた。王様は、日ごろから、こう言っていたものだ。

Mais, comme il était très bon, il donnait des ordres raisonnables.

Mais「副詞節」,「主語」「動詞」「目的語」

Mais ﾒ conj. しかし

comme ｺﾑ adv. ～なので 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

très bon ﾄﾚ･ﾎﾞﾝ adj. とてもお人好しな 「補語」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

donnait ﾄﾞﾈ 3 単半(donner)v.t（命令）をくだしていた 「動詞」

des ordres ﾃﾞ･ｵﾙﾄﾞｩﾙ pl.n.m 命令を 「目的語」

raisonnables ﾚｿﾞﾅｰﾌﾞﾙ adj. 分別のある 「形容詞」

X

「もしわしが、ある将軍に海鳥に変身しろと命令し、将軍がそれに従わない場合、その将軍が悪いのではあるまい。それはわしの過ちだろう」

《Si j'ordonnais, disait-il couramment, si j'ordonnais à un général de se changer en oiseau de mer, et si le général n'obéissait pas, ce ne serait pas la faute du général. Ce serait ma faute.》

《「副詞節」》,「動詞」「主語」「副詞」,

《si「主語」「動詞」「目的語」「補語」,

et「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Si シ conj. もし〜なら 「副詞節」
j' ジュ pron わしが 「主語」
ordonnais ｵﾙﾄﾞﾈ 1 単半(ordonner)v.t 命令する 「動詞」
disait ﾃﾞｨｾﾞ 3 単半(dire)v.t 言っていた 「動詞」
il ｲﾙ pron 王様は 「主語」
couramment ｸｰﾗﾓﾝ adv. いつも、日ごろから 「副詞」
Si シ conj. もし〜なら 「副詞節」
j' ジュ pron わしが 「主語」
ordonnais ｵﾙﾄﾞﾈ 1 単半(ordonner)v.t 命令する 「動詞」
à un général ｱ･ｱﾝ･ｼﾞｪﾈﾗﾙ adv. ある将軍に 「目的語」
de +不定詞 ﾄﾞｩ v. 〜するように 「補語」
se changer ｽ･ｼｮﾝｼﾞｪ 不定詞 v.pr 変身する 「動詞」
en oiseau de mer ｵﾝ･ﾜｿﾞ･ﾄﾞｩ･ﾒｰﾙ adv. 海鳥に 「補語」
et ｴ conj. そして
si シ conj. もし〜なら 「副詞節」
le général ﾙ･ｼﾞｪﾈﾗﾙ n.m その将軍が 「主語」
n'obéissait pas ﾉﾍﾞｲｾ･ﾊﾟ 3 単半･否定(obéir)v.i 従わなかった 「動詞句」
ce ｽ pron このことは 「主語」
ne serait pas ﾇ･ｾﾚ･ﾊﾟ 条・3 単現･否定(être)v.i 〜でないだろう 「動詞句」
la faute ﾗ･ﾌｫｰﾄ n.f 過ち 「補語」
du général ｼﾞｭ･ｼﾞｪﾈﾗﾙ adj. 将軍の 「形容詞句」
Ce ｽ pron それは 「主語」
serait ｽﾚ 条・3 単現(être)v.i 〜だろう 「動詞」
ma faute ﾏ･ﾌｫｰﾄ n.f わしの過ち 「補語」

X

「腰かけてもいいでしょうか」と王子様はおずおずと訊いた。

《Puis-je m'asseoir? s'enquit timidement le petit prince.

《「動詞句」「主語」「動詞句」》,「動詞句」「副詞」「主語」

Puis...m'asseoir ﾋﾟｭｲ...ﾏｽわ-ﾙ 1 単現・許可(pouvoir+不定詞)

v.pr（疑問文で）座っても良いでしょうか 「動詞句」

je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

s'enquit ｿﾝｷ 3 単過(s'enquérir)v.pr 尋ねた 「動詞句」

timidement ﾃｨﾐｯﾄﾞﾓﾝ adv. 遠慮がちに 「副詞」

le petit prince ﾙ・ﾌﾟﾃｨﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「腰かけるよう命じる」と王様は答えた。

--- Je t'ordonne de t'asseoir》, lui répondit le roi,

《「主語」「目的語」「動詞」「補語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,

Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

t' ﾄｩ pron お前に 「目的語」

ordonne ｵﾙﾄﾞﾝﾇ 1 単現(ordonner)v.t 命ずる 「動詞」

de t'asseoir ﾄﾞｩ・ﾀｽわ-ﾙ 不定詞(de+不定詞)v.pr 座るように 「補語」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

le roi ﾙ・ﾙわ n.m 王様は 「主語」

そして白貂の毛皮のマントの垂れを、もったいぶって引き寄せた。

qui ramena majestuesement un pan de son manteau d'hermine.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

qui ｷ pron（主語）～する、そして～する 「形容詞節」

ramena ﾗﾑﾅ 3 単過(ramener)v.t 引き寄せた 「動詞」

majestuesement ﾏｼﾞｪｽﾁｭｰｽﾞﾓﾝ adv. 厳かに 「副詞」

un pan ｱﾝ・ﾊﾟﾝ n.m すそを 「目的語」

de son manteau ﾄﾞｩ・ｿﾝ・ﾓﾝﾄｰ adj. マントの 「形容詞句」

d'hermine ﾃﾞﾙﾐﾝﾇ adj. 白貂の 「形容詞句」

しかし、王子様は意外に思っていた。その星はきわめて小さかったのだ。

Mais le petit prince s'étonnait. La planète était minuscule.

Mais「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Mais ﾒ conj. しかし

le petit prince ﾙ・ﾌﾟﾃｨ・ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

X

s'étonnait ｾﾄﾈ 3 単半(s'étonner)v.pr 意外に思っていた 「動詞句」
La planète ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f その星は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
minuscule ﾐﾆｭｽｷｭﾙ adj. とても小さい 「補語」

王様はいったい何を支配できているのだろう？（と、彼は思った）
Sur quoi le roi pouvait-il bien régner?「間接目的語」「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」
Sur quoi ｼｭｰﾙ･ｸｫ adv. 何を 「間接目的語」
Sur quoi 「そこで、そうしてから」の意味もある
le roi ﾙ･ﾙｫ n.m 王様は 「主語」
pouvait ...régner ﾌﾟｳﾞｪ...ﾚﾆｪ 3 単半･可能(pouvoir+不定詞)
v.i 支配できている 「動詞句」
il ｲﾙ pron 形式主語
bien ﾋﾞﾔﾝ adv. しっかりと 「副詞」

「陛下... 質問することをお許し願いたいのですが...」
《Sire, lui dit-il ... je vous demande pardon de vous interroger ...
《「呼びかけ」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,
《「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」》
Sire ｼｰﾙ n.m 陛下 「呼びかけ」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」
je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
vous ｳﾞ pron あなたに 「間接目的語」
demande ﾄﾞｩﾓﾝﾄﾞｩ 1 単現(demander)v.t 求める 「動詞」
pardon ﾊﾟﾛﾄﾞﾝ n.m 許しを 「直接目的語」
de +不定詞 ﾄﾞｩ adj. ～する 「形容詞句」
vous ｳﾞ pron あなたに 「間接目的語」
interroger ｱﾝﾃﾛｼﾞｪ 不定詞 v.t 質問する 「動詞」

「質問をするように命じる」と王様は急いで言った。
--- Je t'ordonne de m'interroger, se hâta de dire le roi.
《「主語」「目的語」「動詞」「補語》」,「動詞句」「主語」
Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
t' ﾄｩ pron お前に 「目的語」

X

ordonne ｵﾙﾄﾞﾝﾇ 1 単現(ordonner)v.t 命じる 「動詞」
de +不定詞 ﾄﾞｩ v. ～することを 「補語」
m' ﾑ pron わしに 「間接目的語」
interroger ｱﾝﾃﾛｼﾞｪ 不定詞(interroger)v.t 質問する 「動詞」
se hâta de dire ｽ･ｱﾀ･ﾄﾞｩ･ﾃﾞｨｰﾙ 3 単過･急ぎ(se hâter de+不定詞)
v.t 急いで言った 「動詞句」
le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」

「陛下... 何を支配していらっしゃるのですか」
--- Sire ... sur quoi régnez-vous? 《「呼びかけ」,「間接目的語」「動詞」「主語」》
Sire ｼｰﾙ n.m 陛下 「呼びかけ」
sur quoi ｼｭｰﾙ･ｸわ adv. 何を 「間接目的語」
régnez ﾚﾆｪ 2 複現(régner)v.i 支配している 「動詞」
vous ｳﾞ pron あなたは 「主語」

「いっさいじゃよ」と王様は、きわめて明快に答えた。
--- Sur tout, répondit le roi, avec une grande simplicité.
《「間接目的語」》,「動詞」「主語」「副詞句」
Sur tout ｼｭｰﾙ･ﾄｩ adv. すべてを 「間接目的語」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」
avec une grande simplicité ｱｳﾞｪ･ｷｭﾝﾇ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ｻﾝﾌﾟﾘｼﾃ
adv. きわめて簡明に 「副詞句」

「いっさい？」
--- Sur tout? 》 《「直接目的語」》
Sur tout ｼｭｰﾙ･ﾄｩ adv. すべてを？ 「間接目的語」

王様は、控えめな身振りで自分の惑星とほかの惑星とほかの星たちを指差した。
Le roi d'un geste discret désigna sa planète, les autres planètes et les étoiles.
「主語」「副詞句」「動詞」「目的語」
Le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」
d'un geste discret ﾀﾞﾝ･ｼﾞｪｽﾄ･ﾃﾞｨｽｸﾚ adv. 控えめな身振りで 「副詞句」
désigna ﾃﾞｼﾞﾆｬ 3 単過(désigner)v.t 指差した 「動詞」
sa planète ｻ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 自分の惑星 「目的語」
les autres planètes ﾚ･ｿﾞｰﾄﾙ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ pl.n.f ほかの惑星 「目的語」

X

et ｴ conj. そして
les étoiles ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f ほかの星 「目的語」

「あれらをみんな？」と王子様は言った。
《Sur tout ça? dit le petit prince. 《「間接目的語」》,「動詞」「主語」
Sur tout ça ｼｭｰﾙ･ﾄｩ･ｻ adv. あれらを全部？ 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「あれらをみんなじゃ...」と王様は答えた。
--- Sur tout ça ... 》, répondit le roi. 《「間接目的語」》,「動詞」「主語」
Sur tout ça ｼｭｰﾙ･ﾄｩ･ｻ adv. あれらを全部だ 「間接目的語」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
le roi ﾙ･ﾙｫｱ n.m 王様は 「主語」

それというのも、絶対君主であったばかりか、宇宙の君主でもあったから。
Car non seulement c'était un monarque absolu mais c'était un monarque universel.
Car「副詞句」「主語」「動詞」「補語」 mais「主語」「動詞」「補語」
Car ｶｰﾙ conj. というのは～なので
non seulement A mais B ﾉﾝ･ｽﾙﾓﾝ ｱ ...ﾒ ﾍﾞ adv. 単に A だけでなく B も 「副詞句」
c'ｽ pron この人は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
un monarque absolu ｱﾝ･ﾓﾅﾙｷ･ｱﾌﾟｿﾘｭ n.m 絶対君主 「補語」
un monarque universel ｱﾝ･ﾓﾅﾙｷ･ﾕﾆﾍﾞｪﾙｾﾙ
n.m 宇宙の君主 「補語」

「それで、星たちは陛下に従っているのですか」
《Et les étoiles vous obéissent? 《Et「主語」「間接目的語」「動詞」》
Et ｴ conj. それで
les étoiles ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f 星たちは 「主語」
vous ﾌﾞ pron あなたに 「間接目的語」
obéissent ｵﾍﾞｲｽ 3 複現(obéir)v.i 従っている 「動詞」

「もちろん。」と、王様は彼に言った。
--- Bien sûr, lui dit le roi. 《「応答」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,
Bien sûr ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「応答」

X

lui ﾘｭｲ pron 王子様に 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」

「みんなすぐ従うわしは規則違反を容赦せん」
Elles obéissent aussitôt. Je ne tolére pas l'indiscipline.》
《「主語」「動詞」「副詞」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》
Elles ｴﾙ pron 星たちは 「主語」
obéissent ｵﾍﾞｲｽ 3 複現(obéir)v.i 従う 「動詞」
aussitôt ｵｼﾄ adv. すぐに 「副詞」
Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
ne tolére pas ﾇ･ﾄﾚﾙ･ﾊﾟ 1 単現･否定(tolérer)v.t 許さない 「動詞句」
l'indiscipline ﾗﾝﾃﾞｨｼﾌﾟﾘﾇ n.f 規律の無視を 「目的語」

たいした権力だな、と王子様は驚嘆した。
Un tel pouvoir émerveilla le petit prince. 「主語」「動詞」「目的語」
Un tel pouvoir ｱﾝ･ﾃﾙ･ﾌﾟｳﾞわ-ﾙ n.m それほどのすごい権力は 「主語」
émerveilla ｴﾒﾙｳﾞｪｲﾔ 3 単過(emerveiller)v.t 感嘆させた 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様を 「目的語」
→ 王子様はすごい権力に感嘆した

もし自分がそのような権力を持っていたら、もう一度も椅子を動かさずに、同じ日のうちに、日の入りを 44 回どころか 72 回、いや 100 回も 200 回も眺めることができたのに！
S'il l'avait détenu lui-même, il aurait pu assister, non pas à qurante-quatre, mais à soixante-douze, ou même à cent, ou même à deux cents couchers de soleil dans la même journée, sans avoir jamais à tirer sa chaise!
「副詞節」,「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「副詞句」
S' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
l' ﾙ pron そのような権力を 「目的語」
avait détenu ｱｳﾞｪ･ﾃﾞﾄｳﾆｭ 3 単半･完了形(détenir)
v.t 持っていた 「動詞句」
lui-même ﾘｭｲ･ﾒｰﾑ adv. 彼自身が 「副詞句」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
aurait pu assister ｵﾚ･ﾋﾟｭ･ｱｼｽﾃ 条・3 単過･完了形(pouvoir+不定詞)
v.i 見物することができただろう 「動詞句」

X

non pas à qurante-quatre ﾉﾝ･ﾊﾟ･ｻﾞ･ｷｬﾛﾝﾄ･ｷｬﾄﾙ adv. 44 回ではなく 「副詞句」
mais à soixante-douze ﾒ･ｻﾞ･ｽわｿﾝﾄ･ﾄﾞｩｰｽﾞ adv. 72 回 「副詞句」
non pas ～mais ...「～ではなくて...だ」
ou même à cent ｳ･ﾒｰﾑ･ｱ･ｿﾝ adv. あるいは 100 回さえも 「副詞句」
même adv. ～さえ、～までも
ou même à deux cents ｳ･ﾒｰﾑ･ｱ･ﾄﾞｩ･ｿﾝ adv. あるいは 200 回さえも 「副詞句」
couchers de soleil ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ n.m 日の入りを 「目的語」
dans la même journée ﾄﾞﾝ･ﾗ･ﾒｰﾑ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 同じ日のうちに 「副詞句」
sans +不定詞 ｿﾝ adv. ～しないで 「副詞句」
avoir jamais à tirer ｱｳﾞｨわｰﾙ･ｼﾞｬﾒ･ｱ･ﾃｨﾚ 不定詞･否定(avoir à+不定詞)
v.t 1 度も引く必要がない 「動詞句」
avoir à+不定詞 「～しなければならない」
sa chaise ｻ･ｼｪｰｽﾞ n.f 椅子を 「目的語」

そして、遠くに見放してきた自分の小さな惑星のことを思い出して、少し悲しくなり、思い切って王様に力添えをお願いしてみた。

Et comme il se sentait un peu triste à cause du souvenir de sa petite planète abandonnée, il s'enhardit à solliciter une grâce du roi： Et「副詞節」,「主語」「動詞句」「目的語」
Et ｴ conj. そして
comme ｺﾑ conj. ～なので 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
se sentait ｽ･ｿﾝﾃ 3 単半(se sentir)v.pr 自分を～だと感じた 「動詞句」
un peu triste ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾄﾘｽﾄ adj. 少し悲しい 「補語」
à cause ｱ･ｺｰｽﾞ adv. ～のせいで 「副詞句」
du souvenir ｼﾞｭ･ｽｳﾞﾆｰﾙ n.m 思い出 「目的語」
de sa petite planète abandonnée ﾄﾞｩ･ｻ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ｱﾎﾞﾝﾄﾞﾈ
adj. 彼が見放してきた小さな惑星の 「形容詞句」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
s'enhardit à solliciter ｿﾅﾙﾃﾞｨ･ｱ･ｿﾘｼﾃ 3 単過(s'enhardir à+不定詞)
v.t 思い切って懇願した 「動詞句」
une grâce du roi ﾕﾝﾇ･ｸﾞﾗｰｽ･ｼﾞｭ･ﾙわ n.f 王様の力添えを 「目的語」

「ぼく、日の入りを眺めたいのですが... 喜ばせてください... 太陽に、沈むように命令してください...」

《Je voudrais voir un coucher de soleil ... Faites-moi plaisir ... Ordonnez au soleil de se coucher ... 《「主語」「動詞句」「目的語」 | 「動詞」「目的語」「補語」

X

「動詞」「間接目的語」「補語」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

voudrais voir ｳﾞﾄﾞﾚ･ｳﾞｫｰﾙ 条・1 単現･願望(vouloir+不定詞)

v.t ～を見たいのですが 「動詞句」

un coucher de soleil ｱﾝ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ n.m 日の入りを 「目的語」

Faites ﾌｪｯﾄ 命・2 複現 (faire+人+名詞)

v.t（人）を～にしてください 「動詞」

moi ﾑｫ pron 僕を 「目的語」

plaisir ﾌﾟﾚｼﾞｰﾙ n.m 喜び 「補語」

faire plaisir à qn. （人）を喜ばせる

Ordonnez ｵﾙﾄﾞﾈ 命・2 複現(ordonner)v.t 命令してください 「動詞」

au soleil ｵ･ｿﾚｲﾕ adv. 太陽に 「間接目的語」

de se coucher ﾄﾞｩ･ｽ･ｸｼｪ 不定詞 v.pr 沈むように 「補語」

「間接目的語」の動作を表す「補語」である

「もし将軍に、蝶々のように花から花へ飛ぶよう命じたり、悲劇を書くよう、あるいは海鳥に変身するよう命じたりして、将軍が命令に従わない場合、間違っているのは、将軍とわしのどちらかね？」

--- Si j'ordonnais à un général de voler d'une fleur à l'autre à la façon d'un papillon, ou d'écrire une tragédie, ou de se changer en oiseau de mer, et si le général n'exécutait pas l'ordre reçu, qui, de lui ou de moi, serait dans son tort?

《Si「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」ou「補語」ou「補語」
et si「副詞節」,「主語」「副詞句」「動詞」「補語」》

Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

j' ｼﾞｭ pron わしが 「主語」

ordonnais ｵﾙﾄﾞﾈ 1 単半(ordonner)v.t（仮定法過去）命じた 「動詞」

à un général ｱ･ｱﾝ･ｼﾞｪﾈﾗﾙ adv. 将軍に 「間接目的語」

de voler ﾄﾞｩ･ｳﾞｫﾚ 不定詞 v.i 飛ぶように 「補語」

d'une fleur à l'autre ﾄﾞｩﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ･ｱ･ﾛｰﾄﾙ adv. 花から花へ 「副詞句」

à la façon d'un papillon ｱ･ﾗ･ﾌｧｿﾞﾝ･ﾀﾞﾝ･ﾊﾟﾋﾟｮﾝ adv. 蝶のように 「副詞句」

ou ｳ conj. または

d'écrire ﾃﾞｸﾘｰﾙ 不定詞 v.t 書くように 「補語」

une tragédie ﾕﾝﾇ･ﾄﾗｼﾞｪﾃﾞｨｰ n.f 悲劇を 「目的語」

ou ｳ conj. または

de se changer ﾄﾞｩ･ｽ･ｼｮﾝｼﾞｪ 不定詞 v.pr 変身するように 「補語」

en oiseau de mer ｵﾝ･ﾜｿﾞ･ﾄﾞｩ･ﾒｰﾙ adv. 海鳥に 「間接目的語」

X

et ｴ conj. そして
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
le général ﾙ･ｼﾞｪﾈﾗﾙ n.m その将軍が 「主語」
n'exécutait pas ﾈｸﾞｾﾞｷｭﾃ･ﾊﾟ 3 単半･否定(exécuter)v.t 実行しなかった「動詞句」
l'ordre reçu ﾛﾙﾄﾞｩﾙ･ﾙｼｭ n.m 受けた命令を 「目的語」
qui ｷ pron 誰が 「主語」
de lui ou de moi ﾄﾞｩ･ﾘｭｲ･ｳ･ﾄﾞｩ･ﾑわ adv. 彼とわしのどちらが 「副詞句」
serait ｽﾚ 条・3 単現(être)v.i ～であろうか 「動詞」
dans son tort ﾄﾞﾝ･ｿﾝ･ﾄｰﾙ adj. 間違っている 「補語」

「陛下でしょうね」と王子様は、きっぱりと言った。
--- Ce serait vous, dit fermement le petit prince.
《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「副詞」「主語」
Ce ｽ pron それは 「主語」
serait ｽﾚ 条・3 単現(être)v.i ～でしょうね 「動詞」
vous ｳﾞ pron あなた、陛下 「補語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
fermement ﾌｪﾙﾑﾓﾝ adv. きっぱりと 「副詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「そのとおり。誰であれ、それぞれ自分でできることをするように要請しなければいけない。」と、王様は答えた。「権威というものはまず道理に基づいている。」
--- Exact. Il faut exiger de chacun ce que chacun peut donner, reprit le roi.
L'autorité repose d'abord sur la raison.《「補語」 | 「動詞句」「主語」》,「動詞」「主語」
《「主語」「動詞」「副詞句」》
Exact ｴｸﾞｻﾞ adj. そのとおり(C'est exact.) 「補語」
Il faut +不定詞 ｲﾙ･ﾌｫ 3 単現(falloir+不定詞)v.h ～しなければならない 「動詞句」
exiger ｴｸﾞｼﾞｼﾞｪ 不定詞 n. 求めること 「主語」
de chacun ﾄﾞｩ･ｼｬｶﾝ adv. 誰に対しても 「間接目的語」
ce que ｽ･ｸ n.m ～するものを 「直接目的語」
chacun ｼｬｶﾝ pron 誰もが 「主語」
peut donner ﾌﾟ･ﾄﾞﾈ 3 単現･可能(pouvoir+不定詞)
v.t できる 「動詞句」
reprit ﾙﾌﾟﾘ 3 単過(reprendre)v.t また言った 「動詞」
le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」
L'autorité ﾛﾄﾘﾃ n.f 権威は 「主語」

X

repose ﾙﾎﾟｰｽﾞ 3 単現(reposer)v.i (sur に)立っているものである 「動詞」
d'abord ﾀﾞﾎﾞｰﾙ adv. まず第一に 「副詞句」
sur la raison ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾚｿﾞﾝ adv. 道理の上に 「副詞句」

「もし国民に向かって、海に身投げをするよう命令したりしたら、革命が起こるよ。
Si tu ordonnes à ton peuple d'aller se jeter à la mer, il fera la révolution.
《「副詞節」,「動詞句」「主語」
Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
ordonnes ｵﾙﾄﾞﾝﾇ 2 単現(ordonner)v.t 命じる 「動詞」
à ton peuple ｱ･ﾄﾝ･ﾌﾟｰﾌﾟﾙ adv. 国民に 「間接目的語」
d'aller se jeter à la mer ﾀﾞﾚ･ｽ･ｼﾞｭﾃ･ｱ･ﾗ･ﾒｰﾙ
不定詞 v.i 海に身投げに行くように 「補語」
il fera ｲﾙ･ﾌﾗ 3 単未･非人称(faire)v.h 生じる、起こるだろう 「動詞句」
la révolution ﾗ･ﾚｳﾞｫﾘｭｼｮﾝ n.f 革命が 「主語」

わしは自分の命令が道理にかなっているから、それに従うよう要請する権利があるのじゃ」と王様は言った。
J'ai le droit d'exiger l'obéissance parce que mes ordres sont raisonnables.
「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」》
J' ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t ある 「動詞」
le droit ﾙ･ﾄﾞｩﾛｱ n.m 権利 「目的語」
d'exiger ﾃﾞｸﾞｼﾞｪ adj. 要求する 「形容詞句」
l'obéissance ﾛﾍﾞｲｿﾝｽ n.f 服従を 「目的語」
parce que ﾊﾟﾙｽｷ conj. ～なので 「副詞節」
mes ordres ﾒ･ｿﾞﾙﾄﾞｩﾙ pl.n.m わしの命令は 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
raisonnables ﾚｿﾞﾅｰﾌﾞﾙ adj.pl. 道理にかなった 「補語」

「それじゃあ、僕の日の入りのことは？」と王子様はまた言った。彼は、いったん言い出した質問は、絶対に忘れなかった。
--- Alors mon coucher de soleil? rappela le petit prince qui jamais n'oubliait une question une fois qu'il l'avait posée. 《「副詞」「目的語」》,「動詞」「主語」
Alors ｱﾛｰ adv. それじゃあ 「副詞」
mon coucher de soleil ﾓﾝ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ n.m 僕の日の入りのことは？ 「目的語」

X

rappela ﾗﾌﾟﾗ 3 単過(appeler)v.t 叫んだ 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節：prince」
（形容詞的な翻訳をしないで）王子様の説明を連続的に翻訳する。
jamais n'oubliait ｼﾞｬﾒ･ﾇﾌﾞﾘｴ 3 単半･否定(oublier)
v.t 決して忘れなかった 「動詞句」
une question ﾕﾝﾇ･ｹｽﾁｮﾝ n.f 質問を 「目的語」
une fois qu'+直説法 ﾕﾝﾇ･ﾌｫ･ｸ
adv. いったん～したら 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
l' ｲﾙ pron それを 「目的語」
avait posée ｱｳﾞｪ･ﾎﾟｾﾞ 3 単半･完了形(poser)
v.t（質問を）提起した 「動詞句」

「きみの日の入りは、見させてあげる。そのように要請する。
--- Ton coucher de soleil, tu l'auras. Je l'exigerai.
《「目的語」,「主語」「目的語」「動詞」 | 「主語」「目的語」「動詞」
Ton coucher de soleil ﾄﾝ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ n.m 君の日の入りを 「目的語」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
l' ﾙ pron それを 「目的語」
auras ｵﾗ 2 単未(avoir)v.t 手に入れるだろう、見るだろう 「動詞」
Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
l' ﾙ pron それを 「目的語」
exigerai ｴｸﾞｼﾞｼﾞｭﾚ 1 単未(exiger)v.t 強く要請しよう 「動詞」

だが、統治上、状況が都合よくなるのを待つとしよう」
Mais j'attendrai, dans ma science du gouvernement, que les conditions soient favorables.
Mais「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」》
Mais ﾒ conj. しかし
j' ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
attendrai ｱﾄﾝﾄﾞﾚ 1 単未(attendre)v.t 待つことにする 「動詞」
dans ma science du gouvernement ﾄﾞﾝ･ﾏ･ｼｮﾝｽ･ｼﾞｭ･ｸﾞｰｳﾞｪﾙﾇﾓﾝ
adv. わしの統治術において 「副詞句」
que ｸ conj. ～ということ 「目的語」
les conditions ﾚ･ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝ pl.n.f 状況が 「主語」
soient ｽｫ 接・3 複現(être)v.i ～になる（だろう） 「動詞」

X

favorables ﾌｧｳﾞｫﾗｰﾌﾞﾙ adj. 好都合な 「補語」

「それは、いつになりそうですか」と王子様は訊いた。

--- Quand ça sera-t-il? s'informa le petit prince.

《「副詞」「主語」「動詞句」》,「動詞句」「主語」

Quand ｺﾝ adv. いつに 「副詞」

ça ｻ pron それは 「主語」

sera-t-il? ｽﾗ･ﾃｨﾙ 3 単未･疑問(être)v.i なりますか 「動詞句」

s'informa ｻﾝﾌｫﾙﾏ 3 単過(s'informer)v.pr 問い合わせた 「動詞句」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「さあ、どうかな！」と王様は言い、まず大きなカレンダーに当たった。

--- Hem! hem! lui répondit le roi, qui consulta d'abord un gros calendrier,

《「間投」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Hem! hem! ｴﾑ･ｴﾑ int. さあどうかな 「間投」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(repondre)v.t 答えた 「動詞」

le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」

qui ｷ pron そして～した 「形容詞節」

consulta ｺﾝｼｭﾙﾀ 3 単過(consulter)v.t 調べた、参照した 「動詞」

d'abord ﾀﾞﾎﾞｰﾙ adv. まず 「副詞句」

un gros calendrier ｱﾝ･ｸﾞﾛ･ｶﾛﾝﾄﾞﾘｴ n.m 大きなカレンダーを 「目的語」

「さあ、どうかな！それは... おおよそ... おおよそ今晩 7 時 40 分頃だ！

hem! hem! ce sera, vers ... vers ... ce sera ce soir vers sept heures quarante!

《「間投」「主語」「動詞」「副詞句」,「主語」「動詞」「副詞句」

hem! hem! ｴﾑ･ｴﾑ int. さあどうかな 「間投」

ce ｽ pron それは 「主語」

sera ｽﾗ 3 単未(être)v.i ～になる 「動詞」

vers ... vers ... ｳﾞｪｰﾙ･ｳﾞｪｰﾙ adv. えーと、えーと 「副詞句」

ce ｽ pron それは 「主語」

sera ｽﾗ 3 単未(être)v.i ～になる 「動詞」

ce soir ｽ･ｽわｰﾙ n.m 今晩 「副詞句」

vers sept heures quarante ｳﾞｪｰﾙ･ｾﾄｳｰﾙ･ｷｬﾛﾝﾄ adv. 7 時 40 分ころ 「副詞句」

X

今にわかる、どんなにわしの命令通りになるかということが」

Et tu verras comme je suis bien obéi. .》 Et「主語」「動詞」「目的語」》

Et ｴ conj. そして

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

verras ｳﾞｪﾗ 2 単未(voir)v.t 見るだろう 「動詞」

comme ｺﾑ conj.（間接疑問文） どれほど～するということ 「目的語」

je ｼﾞｭ pron わしが 「主語」

suis bien obéi ｼｭｲ･ﾋﾞﾔﾝ･ｵﾍﾞｲ 1 単現･受動(obéir)

v.t 十分に服従されている 「動詞句」

王子様はあくびをした。見損なった日の入りを悔やんでいた。それに、もうすでにいくらか退屈していた。

Le petit prince bâilla. Il regrettait son coucher de soleil manqué. Et puis il s'ennuyait déjà un peu： 「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Et「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」：

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

bâilla ﾊﾞｲﾔ 3 単過(bâiller)v.i あくびをした 「動詞」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

regrettait ﾙｸﾞﾚﾃ 3 単半(regretter)v.t 後悔していた、悔やんでいた 「動詞」

son coucher de soleil ｿﾝ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ n.m 日の入りを 「目的語」

manqué ﾓﾝｹ adj.（機会を）逸した、見損なった 「形容詞」

Et puis ｴ･ﾋﾟｭｲ conj. その上、おまけに

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

s'ennuyait ｿﾝﾆｭｲｴ 3 単半(s'ennuyer)v.pr 退屈していた 「動詞句」

déjà ﾃﾞｼﾞｬ adv. もうすでに 「副詞」

un peu ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少しばかり 「副詞句」

「ここではもう何もすることがありません。また出発します」と彼は王様に言った。

《Je n'ai plus rien à faire ici, dit-il au roi. Je vais repartir!

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」》,「動詞」「主語」「間接目的語」,

《「主語」「動詞句」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

n'ai plus ﾈ･ﾌﾟﾘｭ 1 単現･否定(avoir)v.t ない 「動詞句」

rien à faire ﾘﾔﾝ･ﾅ･ﾌｪｰﾙ n. するべきことが何も（～ない） 「目的語」

ici ｲｼ adv. ここには 「副詞」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

X

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
au roi ｵ･ﾙわ adv. 王様に 「間接目的語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
vais repartir ｳﾞｪ･ﾚﾊﾟﾙﾃｨｰﾙ 1 単現･近接未来(aller+不定詞)
v.t 再び出発しようと思う 「動詞句」

「発ってはいけない」と王様は言った。家来ができて、たいへん鼻が高かったのだ。「発ってはいけない、きみを大臣にしてあげる！」

--- Ne pars pas, répondit le roi qui était si fier d'avoir un sujet. Ne pars pas, je te fais ministre! 《「動詞句」》,「動詞」「主語」,「主語」「動詞」「補語」「副詞句」
《「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」「補語》」
Ne pars pas ﾇ･ﾊﾟｰﾙ･ﾊﾟ 命・2 単現・否定(partir)v.i 出発してはいけない 「動詞句」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(repondre)v.i 答えた 「動詞」
le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
si fier ｼ･ﾌｨｪｰﾙ adj. とても誇らしい 「補語」
d'avoir ﾀﾞｳﾞわｰﾙ adv. ～を持って 「副詞句」
un sujet ｱﾝ･ｼｭｼﾞｪ n.m 家来を 「目的語」
Ne pars pas ﾇ･ﾊﾟｰﾙ･ﾊﾟ 命・2 単現・否定(partir)v.i 出発してはいけない 「動詞句」
je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
te ﾄｩ pron 君を 「目的語」
fais ﾌｪ 1 単現(faire)v.t してやる 「動詞」
ministre ﾐﾆｽﾄﾙ n. 大臣に 「補語」

「何の大臣に？」

--- Ministre de quoi? 《「補語」》
Ministre ﾐﾆｽﾄﾙ n. 大臣に 「補語」
de quoi ﾄﾞｫｳ･ｸわ adj. 何の 「形容詞句」

「法... 法務大臣に」

--- De ... de la Justice! 《「補語」》
--- De ... de la Justice ﾄﾞｩ...ﾄﾞｩ･ﾗ･ｼﾞｭｽﾃｨｽ adj. 法務大臣に 「補語」

「でも、裁判にかけるような人は一人もいませんよ」

--- Mais il n'y a personne à juger! 《Mais「動詞句」「目的語」》

X

Mais ﾒ conj. しかし
il n'y a ｲﾙ･ﾆ･ﾔ 3 単現(avoir)v.t いない 「動詞句」
personne à juger ﾍﾟﾙｿﾝﾇ･ｱ･ｼﾞｭｼﾞｪ pron 裁くべき人は誰も（～いない） 「目的語」

「それは、わからん」と王様は言った。
--- On ne sait pas, lui dit le roi. 《「主語」「動詞句」》,「間接目的語」「動詞」「主語」
On ｵﾝ pron 人は 「主語」
ne sait pas ﾇ･ｾ･ﾊﾟ 3 単現･否定(savoir)v.i 知らない、知識がない 「動詞句」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le roi. ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」

「まだ、わが国を一巡りしていないのじゃ。
Je n'ai pas fait encore le tour de mon royaume. 《「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」
Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
n'ai pas fait ﾈ･ﾊﾟ･ﾌｪ 1 単現･完了形･否定(faire)v.t していなかった 「動詞句」
encore ｵﾝｺｰﾙ adv. まだ 「副詞」
le tour ﾙ･ﾄｩｰﾙ n.m 一回り 「目的語」
de mon royaume ﾄﾞｩ･ﾓﾝ･ﾛﾜｨﾖｰﾑ adj. わが王国の 「形容詞句」

たいへん年をとったのに、馬車を置く場所がないのじゃ。歩くのは疲れるよ」
Je suis très vieux, je n'ai pas de place pour un carrosse, et ça me fatigue de marcher.
「主語」「動詞」「補語」,「主語」「動詞句」「目的語」
et「主語」「目的語」「動詞」「主語」》
Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
très vieux ﾄﾚ･ｳﾞｨｭ adj. とても年を取った（けれども） 「補語」
je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」
n'ai pas ﾈ･ﾊﾟ 1 単現･否定(avoir)v.t がない 「動詞句」
de place ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗｽ n.f 場所が 「目的語」
pour un carrosse ﾌﾟｰﾙ･ｱﾝ･ｷｬﾛｽ adj. 四輪馬車を置くための 「形容詞句」
et ｴ conj. そして
ça ｻ pron それは 「主語」
me ﾑ pron 私を 「目的語」
fatigue ﾌｧﾃｨｸﾞ 3 単現(fatiguer)v.t 疲れさせる 「動詞」
de marcher ﾄﾞｩ･ﾏﾙｼｪ 不定詞 n. 歩くことは 「主語」

X

ça → de marcher 歩くこと「主語」

「おお！でも、さっきみたんですけど...」

--- Oh! Mais j'ai déjà vu, 《「感嘆」Mais「主語」「動詞句」》,

Oh! ｵｰ int. おお！ 「感嘆」

Mais ﾒ conj. でも

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai déjà vu ｴ･ﾃﾞｼﾞｬ･ｳﾞｭ 1 単現･完了形(voir+ déjà)v.t もう見た 「動詞句」

と王子様は身をかがめて、惑星の向こう側を、もう一度ちらりと見やった。

dit le petit prince qui se pencha pour jeter encore un coup d'oeil sur l'autre côté de la planéte. 「動詞」「主語」,「主語」「動詞句」「副詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

se pencha ｽ･ﾎﾟﾝｼｬ 3 単過(se pencher)v.pr 身をかがめた 「動詞句」

pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. そして～した、～するために 「副詞句」

jeter ｼﾞｭﾃ 不定詞 v.t 投げる 「動詞」

encore ｵﾝｺｰﾙ adv. もう一度 「副詞」

un coup d'oeil ｱﾝ･ｸ･ﾄﾞｩｲﾕ n.m 一目、いちべつ 「目的語」

sur l'autre côté ｼｭｰﾙ･ﾛｰﾄﾙ･ｺﾃ adv. 向こう側に 「副詞句」

de la planéte ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adj. 惑星の 「形容詞句」

「あちらにも、誰もいませんよ...」

Il n'y a personne là-bas non plus ... 《「動詞句」「目的語」「副詞句」》

Il n'y a ｲﾙ･ﾆ･ｱ 3 単現(avoir)v.t いない 「動詞句」

personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron 誰も（～ない） 「目的語」

là-bas non plus ﾗ･ﾊﾞｰ･ﾉﾝ･ﾌﾟﾘｭ adv. あちらにはもう 「副詞句」

「では、自分で自分を裁くがいい」と王様は言った。

---Tu te jugeras donc toi-même, lui répondit le roi.

《「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

te jugeras ﾄｩ･ｼﾞｭｼﾞｭﾗ 2 単未･命令(se juger)v.pr 自分自身を裁くがよい 「動詞句」

donc ﾄﾞﾝ adv. それでは 「副詞」

toi-même ﾄｩわ･ﾒｰﾑ n. 自分自身を 「目的語」

X

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」

「それが一番難しいことだ。他人を裁くよりも、自分自身を裁く方がはるかに難しい。
C'est le plus difficile. Il est bien plus difficile de se juger soi-même que de juger autrui.
《「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞」「補語」「主語」「副詞句」
C' ｽ pron これが 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
le plus difficile ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ n.m 1 番難しいこと 「補語」
Il ｲﾙ pron 形式主語
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
bien plus difficile ﾋﾞﾔﾝ･ﾌﾟﾘｭ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ adj. もっと難しい 「補語」
de se juger ﾄﾞｩ･ｽ･ｼﾞｭｼﾞｪ 不定詞 n. 自分を裁くことは 「主語」
soi-même ｽわ･ﾒｰﾑ n. 自分自身を 「目的語」
que ｸ conj. ～よりも 「副詞句」
de juger ﾄﾞｩ･ｼﾞｭｼﾞｪ 不定詞 n. 裁くこと 「動詞」
autrui ｵｰﾄﾘｭｲ pron 他人を 「目的語」

もし、自分を立派に裁くことができたとしたら、それはお前が本当に賢い人間だからだよ」
Si tu réussis à bien te juger, c'est que tu es un véritable sage.
「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」》
Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
réussis à bien te juger ﾚｳｼ･ｱ･ﾋﾞﾔﾝ･ﾄｩ･ｼﾞｭｼﾞｪ
v.pr うまく自分自身を裁くことができる 「動詞句」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
que ｸ conj. ～ということ 「補語」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
es ｴ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」
un véritable sage ｱﾝ･ｳﾞｪﾘﾀｰﾌﾞﾙ･ｻｰｼﾞｭ n.m 真の賢者 「補語」

「ぼくはね」と王子様は言った。
--- Moi, dit le petit prince, 《「主語」》,「動詞」「主語」,

X

「どこにいたって自分で自分を裁くことができるんです。

je puis me juger moi-même n'importe où. 《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Moi ﾑｫ pron（強調）僕は 「主語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

puis me juger ﾋﾟｭｲ･ﾑ･ｼﾞｭｼﾞｪ 1 単現･可能(pouvoir+不定詞 se juger)

v.pr 自分を裁くことができる 「動詞句」

moi-même ﾑｫ･ﾒｰﾑ pron 自分自身を 「目的語」

n'importe où ﾅﾝﾎﾟﾙﾄ･ｳ adv. どこに居ようとも 「副詞句」

ここに住む必要はありません」

Je n'ai pas besoin d'habiter ici. 「主語」「動詞句」「目的語」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

n'ai pas ﾈ･ﾊﾟ 1 単現･否定(avoir)v.t ない 「動詞句」

besoin ﾌﾞｰｽﾞﾜﾝ n.m 必要 「目的語」

d'habiter ici ﾀﾞﾋﾞﾃ･ｲｼ adj. ここに住むという 「形容詞句：besoin」

「えへん、えへん！」と王様は言った。

--- Hem! hem! dit le roi, 《「間投」》,「動詞」「主語」,

Hem! hem! ｴﾑ･ｴﾑ int. えへん、えへん 「間投」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le roi ﾙ･ﾙｫ n.m 王様は 「主語」

「この星のどこかに、年をとったネズミがいると思う。

je crois bien que sur ma planète il y a quelque part un vieux rat.

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

crois ｸﾙｫ 1 単現(croire)v.t 思う 「動詞」

bien ﾋﾞｬﾝ adv. 確かに 「副詞」

que ｸ conj. ～ということ 「目的語」

sur ma planète ｼｭｰﾙ･ﾏ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. この星の上に 「副詞句」

il y a ｲ･ﾘ･ﾔ 3 単現(avoir)v.t いる 「動詞」

quelque part ｹﾙｸ･ﾊﾟｰﾙ adv. どこかに 「副詞句」

un vieux rat ｱﾝ･ｳﾞｨｭ･ﾗ n.m 年を取ったネズミが 「目的語」

X

夜、ネズミの音が聞こえるんだ。そのネズミの裁判をしてくれないかね。」

Je l'entends la nuit. Tu purras juger ce vieux rat.

「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」》

Je ジュ pron わしは 「主語」

l' ル pron そいつ（ネズミ） 「目的語」

entends ｵﾝﾄﾝ 1 単現(entendre)v.t 聞こえる 「動詞」

la nuit ﾗ･ﾆｭｲ n.f 夜間に 「副詞句」

Tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

purras juger ﾌﾟﾗ･ｼﾞｭｼﾞｪ 2 単未･許可･願望(pouvoir+不定詞)

v.t 裁いてくれないかね 「動詞句」

ce vieux rat ｽ･ｳﾞｨｭ･ﾗ n.m そのネズミを 「目的語」

「ときどき、死刑を宣告してくれないかね。

Tu le condamneras à mort de temps en temps.

《「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」「副詞句」

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

le ル pron 彼に 「間接目的語」

condamneras ｺﾝﾀﾞﾇﾗ 2 単未･願望(condamner)v.t 刑を宣告してほしい 「動詞」

à mort ｱ･ﾓｰﾙ adv. 死刑を 「直接目的語」

de temps en temps ﾄﾞｩ･ﾄﾝ･ｿﾞﾝ･ﾄﾝ adv. 時々 「副詞句」

そうすれば、あのネズミの命は、おまえの判決しだいとなる。

Ainsi, sa vie dépendra de ta justice. 「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」

Ainsi ｱﾝｼ adv. それで 「副詞」

sa vie ｻ･ｳﾞｨｰ n.f ネズミの命は 「主語」

dépendra ﾃﾞﾎﾟﾝﾄﾞﾗ 3 単未(dépendre)v.i(de に) ～次第になる 「動詞」

de ta justice ﾄﾞｩ･ﾀ･ｼﾞｭｽﾃｨｽ adv. 君の裁き 「副詞句」

しかし、裁判するたびに、彼の命を大切にするために、恩赦を与えるのだ。

Mais tu le gracieras chaque fois pour l'économiser.

Mais「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」

Mais ﾒ conj. しかし

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

le ル pron ネズミを 「目的語」

gracieras ｸﾞﾗｼｴﾗ 2 単未(gracier)v.t 恩赦を与えて欲しい 「動詞」

X

chaque fois ｼｬｯｸ･ﾌｧ adv. 毎回 「副詞句」
pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」
l'ﾙ pron 彼の命を 「目的語」
économiser ｴｺﾉﾐｾﾞ 不定詞 v.t 大切にする 「動詞」

ネズミは一匹しかいないのだから」
Il n'y en a qu'un. 「動詞句」「目的語」》
Il n'y en a ｲﾙ･ﾆ･ｵﾝ･ﾅ 3 単現･否定(avoir+en)
v.t ネズミはいない 「動詞句」
en は rat を表す
qu'un ｶﾝ n.m 一匹しか 「目的語」
ne ... que ～ 「～しか. . .」

「ぼくは」と王子様は答えた。
--- Moi, répondit le petit prince, 《「主語」》,「動詞」「主語」,
Moi ﾑｫﾜ pron（強調）僕は 「主語」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.t 答えた 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「死刑を宣告するのはいやです。
je n'aime pas condamner à mort, 《「主語」「動詞句」「間接目的語」,
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'aime pas condamner ﾈｰﾑ･ﾊﾟ･ｺﾝﾀﾞﾈ 1 単現･否定(aimer+不定詞)
v.t 刑を宣告するのはいやだ 「動詞句」
à mort ｱ･ﾓｰﾙ adv. 死刑を 「間接目的語」
condamner qn à mort 「人に死刑を宣告する、死刑を余儀なくさせる」

立ち去ろうと思います」
et je crois bien que je m'en vais. et「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》
et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
crois ｸﾙｫﾜ 1 単現(croire)v.t 思う 「動詞」
bien ﾋﾞﾔﾝ adv. 確かに 「副詞」
que ｸ conj. ～ということ 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
m'en vais ﾓﾝ･ｳﾞｪ 1 単現(s'en aller)v.pr ここを立ち去る 「動詞句」

X

「それは、いかん」と王様は言った。

--- Non》, dit le roi. 《「応答」》,「動詞」「主語」

Non ﾉﾝ adv. いかん 「応答」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le roi ﾙ･ﾙわ n.m 王様は 「主語」

しかし、王子様は、支度をしてしまっていたし、年をとった君主をもう煩わせたくなかった。

Mais le petit prince, ayant achevé ses préparatifs, ne voulut point peiner le vieux monarque： Mais「主語」「副詞句」「動詞句」「目的語」

Mais ﾒ conj. しかし

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

ayant achevé 現在分詞･完了形(achever)v.t 終えてしまっていたので 「副詞句」

ses préparatifs ｾ･ﾌﾟﾚﾊﾟﾗﾃｨﾌ pl.n.m 支度を 「目的語」

ne voulut point peiner ﾇ･ｳﾞﾘｭ･ﾎﾟわﾝ･ﾍﾟﾈ 3 単過･願望･否定(vouloir+不定詞)

v.t 疲れさせたくなかった、煩わせたくなかった 「動詞句」

le vieux monarque ﾙ･ｳﾞｨｭ･ﾓﾅﾙｷ n.m 年老いた君主を 「目的語」

「もし陛下がきちんと命令に従って欲しいとお望みなら、分別のある命令をおくだしになりますように。

Si votre Majesté désirait être obéie ponctuellement, elle pourrait me donner un ordre raisonnable. 《「副詞節」,「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

votre Majesté ｳﾞｫﾄﾙ･ﾏｼﾞｪｽﾃ n.f 陛下が 「主語」

désirait +不定詞 ﾃﾞｼﾞﾚ 3 単半･願望(désirer+不定詞)

v. ～することを望む 「動詞句」

être obéie ｴｰﾄﾙ･ｵﾍﾞｲｴ 不定詞･受動形(obéir)v.t 従われる 「動詞句」

ponctuellement ﾎﾟﾝｸﾁｭｴﾙﾓﾝ adv. きちんと 「副詞句」

elle ｴﾙ pron 陛下は 「主語」

votre Majesté を示す時は文中でも Elle とするが、王子様が敬意を表していない事を暗示?

pourrait +不定詞 ﾌﾟﾚ 条・3 単現･推奨(pouvoir+不定詞)

v. ～するのが良いと思う 「動詞句」

me ﾑ pron 私に 「間接目的語」

donner ﾄﾞﾈ 不定詞 v.t 与える 「動詞句」

un ordre raisonnable ｱﾝ･ｵﾙﾄﾞﾙ･ﾚｿﾞﾅｰﾌﾞﾙ n.m 分別のある命令を 「直接目的語」

X

たとえば、すぐに出発しなさい、とか、ぼくにおっしゃるのです。

Elle pourrait m'ordonner, par exemple, de partir avant une minute.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」「補語」

Elle ｴﾙ pron あなたは 「主語」

pourrait m'ordonner ﾌﾟﾚ･ﾑ･ﾄﾞﾈ条・3 単現･推奨(pouvoir+不定詞+me)

v.t 私に命令するのが良いと思います 「動詞句」「目的語」「動詞句」

par exemple ﾊﾟｰ･ﾚｸﾞｿﾞﾝﾌﾟﾙ adv. 例えば 「副詞句」

de partir ﾄﾞｩ･ﾊﾟﾙﾃｨｰﾙ 不定詞 v.i 出発する 「補語」

avant une minute ｱｳﾞｫﾝ･ﾕﾝﾇ･ﾐﾆｭｯﾄ adv. すぐに 「副詞句」

状況は都合よくなっているように思えますが...」

Il me semble que les conditions sont favorables ... 「間接目的語」「動詞」「主語」》

Il ｲﾙ pron 形式主語（真の主語は que 節）

me ﾑ pron 私には 「間接目的語」

semble ｿﾝﾌﾞﾙ 3 単現(sembler)v.i ～のように見える 「動詞」

que ｸ conj. ～ということ 「主語」

les conditions ﾚ･ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾝ pl.n.f 状況は 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

favorables ﾌｧｳﾞｫﾗｰﾌﾞﾙ adj. 好都合な 「補語」

王様が何も答えないので、王子様は、はじめためらっていたが、やがて溜息をつき、出発した...

Le roi n'ayant rien répondu, le petit prince hésita d'abord, puis, avec un soupir, prit le départ ... 「副詞句」,「主語」「動詞」「副詞句」,「副詞句」「動詞」「目的語」

Le roi ﾙ･ﾙわ pron 王様が（副詞句の主語）～するので 「副詞句」

n'ayant rien répondu ﾈｨﾖﾝ･ﾘﾔﾝ･ﾚﾎﾟﾝｼﾞｭ 現在分詞･完了形･否定(répondre)

v.t 何も答えない 「動詞句」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

hésita ｴｼﾞﾀ 3 単過(hésiter)v.i ためらった 「動詞」

d'abord ﾀﾞﾎﾞｰﾙ adv. 最初は 「副詞句」

puis ﾋﾟｭｲ adv. それから、やがて 「副詞」

avec un soupir ｱｳﾞｪｯｷ･ｱﾝ･ｽﾋﾟｰﾙ adv. ため息をついて 「副詞句」

prit ﾌﾟﾘ 3 単過(prendre)v.t（行動を）行った 「動詞」

le départ ﾙ･ﾃﾞﾊﾟｰﾙ n.m 出発 「目的語」

X

「きみを大使に任命してやるぞ」と王様はいそいで大声で言った。

Je te fais mon ambassadeur》, se hâta alors de crier le roi.

《「主語」「目的語」「動詞」「補語」》,「動詞句」「主語」

Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

te ﾄｩ pron 君を 「目的語」

fais ﾌｪ 1 単現(faire+人+名詞)v.t（人を）～に任命する 「動詞」

mon ambassadeur ﾓﾝ･ｱﾝﾊﾞｻﾃﾞｰﾙ n.m 大使に 「補語」

se hâta alors de crier ｽ･ｱﾀ･ｱﾛｰ･ﾄﾞｩ･ｸﾘｴ 3 単過･急ぎ(se hâter de+不定詞)

v.i 急いで叫んだ 「動詞句」

le roi ﾙ･ﾙﾜ n.m 王様は 「主語」

王様は威厳があるように、もったいぶっていた。

Il avait un grand air d'autorité. 「主語」「動詞」「目的語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

avait ｱｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t あった 「動詞」

un grand air d'autorité ｱﾝ･ｸﾞﾛﾝ･ﾃﾞｰﾙ･ﾄﾞﾄﾘﾃ n.m 権威の雰囲気 「目的語」

《おとなって、とっても変だな》と王子様は、旅のあいだ、心のなかで思った。

《Les grandes personnes sont bien étranges》, se dit le petit prince, en lui-même, durant son voyage. 《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞句」「主語」「副詞句」

Les grandes personnes ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pl.n.f 大人って 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

bien étranges ﾋﾞｬﾝ･ｴﾄﾛﾝｼﾞｭ adj. とても奇妙な、不思議な 「補語」

se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 心の中で思った 「動詞句」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

en lui-même ｵﾝ･ﾘｭｲ･ﾒｰﾑ adv. 彼自身に 「副詞句」

durant son voyage ﾃﾞｭﾛﾝ･ｿﾝ･ｳﾞﾜﾔｰｼﾞｭ adv. 旅の間 「副詞句」

XI

XI

二番目の惑星には、見栄張り男が住んでいた：

La seconde planète était habitée par un vaniteux： 「主語」「動詞句」「副詞句」：

La seconde planète ﾗ･ｽｺﾞﾝﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 2 番目の惑星は 「主語」

était habitée ｴﾃ･ｱﾋﾞﾃ 3 単半･受動(habiter)v.t 住まれていた 「動詞句」

par un vaniteux ﾊﾟｰﾙ･ｱﾝ･ｳﾞｧﾆﾄｩｰ adv. 見栄っ張りによって 「副詞句」

「やあ！やあ！おれのファンの来訪だな！」見栄張り男は、王子様に気づくや、遠くから大声で言った。

《Ah! Ah! Voilà la visite d'un admirateur!》s'écria de loin le vaniteux dès qu'il aperçut le petit prince. 《「間投」「副詞」「動詞」「主語」》,「動詞句」「副詞句」「主語」「副詞節」

Ah! Ah! ｱｰ･ｱｰ int. やあ！やあ！ 「間投」

Voilà ｳﾞｫﾗ adv.v. やって来た 「副詞」「動詞」

la visite ﾗ･ｳﾞｨｼﾞｯﾄ n.f 訪問 「主語」

d'un admirateur ﾀﾞﾝ･ｱﾄﾞﾐﾗﾃｰﾙ adj. ファンの 「形容詞句」

s'écria ｾｸﾘｱ 3 単過(s'écrier)v.pr 叫んだ 「動詞句」

de loin ﾄﾞｩ･ﾙｫﾝ adv. 遠くから 「副詞句」

le vaniteux ﾙ･ｳﾞｧﾆﾄｰ n.m 見栄っ張りは 「主語」

dès qu'+直説法 ﾃﾞ･ｸ conj. ～するやいなや 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

aperçut ｱﾍﾟﾙｼｭ 3 単過(apercevoir)v.t 気が付いた 「動詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様に 「目的語」

XI

それというのも、見栄っ張りたちにとっては、他人は称賛者なのだ。

Car, pour les vaniteux, les autres hommes sont des admirateurs.

Car「主語」「動詞」「補語」

Car ｶｰﾙ conj. なぜなら

pour les vaniteux ﾌﾟｰﾙ･ﾚ･ｳﾞｧﾆﾄｰ adv. 見栄っ張りにとっては 「副詞句」

les autres hommes ﾚ･ｿﾞｰﾄﾙ･ｿﾞﾑ pl.n.m 他人は 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

des admirateurs ﾃﾞ･ｻﾞﾄﾞﾐﾗﾃｰﾙ pl.n. 自分のファン 「補語」

「こんにちは」と王子様は言った。「おかしな帽子をかぶってますね」

《Bonjour, dit le petit prince. Vous avez un drôle de chapeau.

《「挨拶」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「目的語」》

Bonjour ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ n.m おはよう 「挨拶」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

Vous ｳﾞ pron あなたは 「主語」

avez ｱｳﾞｪ 2 複現(avoir)v.t（着用・携行）～している 「動詞」

un drôle de chapeau ｱﾝ･ﾄﾞﾛｰﾙ･ﾄﾞｩ･ｼｬﾎﾟｰ n.m おかしな帽子を 「目的語」

「挨拶するためなんだよ」と見栄張り男は答えた。

--- C'est pour saluer, lui répondit le vaniteux.

《「主語」「動詞」「補語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

pour saluer ﾌﾟｰﾙ･ｻﾙｴ adv. 挨拶するため 「補語」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

le vaniteux ﾙ･ｳﾞｧﾆﾄｰ n.m 見栄っ張りは 「主語」

「拍手喝采を送られたときに、挨拶するためなんだよ。

C'est pour saluer quand on m'acclame.

《「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

pour saluer ﾌﾟｰﾙ･ｻﾙｴ adv. 挨拶するため 「補語」

quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

XI

on ｵﾝ pron 人が（受動文に翻訳する） 「主語」
m’ ﾑ pron 私に 「目的語」
acclame ｱｸﾗﾑ 3 単現(acclamer)v.t 喝采する 「動詞」

あいにく、決して誰もここを通りかからなくてね」

Malheureusement il ne passe jamais personne par ici.
「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」》
Malheureusement ﾏﾙﾙｰｽﾞﾓﾝ adv. あいにく 「副詞」
il ｲﾙ pron 非人称主語
ne passe jamais ﾇ･ﾊﾟｽ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(passer)v.i 通らない 「動詞句」
personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ n.f（否定文で）人は誰も 「主語」
par ici ﾊﾟｰﾙ･ｲｼ adv. このあたりを 「副詞句」

「あ、そう？」と王子様は言ったがよくわからない。

---- Ah oui? dit le petit prince qui ne comprit pas. 《「応答」》,「動詞」「主語」
Ah oui? ｱｰ･ｳｨ int. あ、そう？ 「応答」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様 「主語」
qui ｷ pron ～する（王子様の状態を表している） 「形容詞節」
ne comprit pas ﾇ･ｺﾝﾌﾟﾘ･ﾊﾟ 3 単過･否定(comprendre)
v.t 分かっていなかった 「動詞句」
→ この形容詞節は副詞句的に翻訳する 「あ、そう」とよく分からないまま言った。

「拍手しなさい」と見栄張り男はすすめた。

---- Frappe tes mains l’une contre l’autre》, conseilla donc le vaniteux.
《「動詞」「目的語」副詞句》,「動詞」「副詞」「主語」
Frappe ﾌﾗﾌﾟ 命・2 単現(frapper)v.t 打ちつけなさい 「動詞」
tes mains ﾃ･ﾏﾝ pl.n.f 両手を 「目的語」
l’une contre l’autre ﾘｭﾝﾇ･ｺﾝﾄﾙ･ﾛｰﾄﾙ adv. 一方を他方に対して 「副詞句」
男性名詞に対しては、l’un contre l’autre を使用する
→ 「拍手をしなさい」と翻訳する
conseilla ｺﾝｾｲﾔ 3 単過(conseiller)v.t 勧めた 「動詞」
donc ﾄﾞﾝ adv. すると 「副詞」
le vaniteux ﾙ･ｳﾞｧﾆﾄｩ n.m 見栄っ張りは 「主語」

XI

王子様は手を叩いた。

Le petit prince frappa ses mains l'une contre l'autre. 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

frappa ses mains l'une contre l'autre ﾌﾗｯﾊﾟ･ｾﾏﾝ･ﾘｭﾝﾇ･ｺﾝﾄﾙ･ﾛｰﾄﾙ 3 単過(frapper)

v.t 拍手した 「動詞」「目的語」「副詞句」

見栄張り男は、帽子を持ち上げて、ううやうやしく挨拶した。

Le vaniteux salua modestement en soulevant son chapeau. 「主語」「動詞」「副詞句」

Le vaniteux ﾙ･ｳﾞｧﾆﾄｩ n.m 見栄っ張りは 「主語」

salua ｻﾙｱ 3 単過(saluer)v.t 挨拶した 「動詞」

modestement ﾓﾃﾞｽﾄﾓﾝ adv. 慎み深く 「副詞」

en +現在分詞 ｵﾝ adv. ～しながら、～して 「副詞句」

soulevant ｽﾙｳﾞｫﾝ 現在分詞(soulever)v.t 持ち上げる 「動詞」

son chapeau ｿﾝ･ｼｬﾎﾟ n.m 帽子を 「目的語」

《これは、王様を訪ねるより、面白いや》と王子様は心の中で思った。

《Ça, c'est plus amusant que la visite au roi》, se dit en lui-même le petit prince.

《「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》,「動詞」「副詞句」「主語」

Ça, c' ｻ･ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

plus amusant ﾌﾟﾘｭ･ｱﾐｭｿﾞﾝ adj. もっと面白い 「補語」

que la visite au roi ｸ･ﾗ･ｳﾞｨｼﾞﾄｩ･ｵ･ﾙわ adv. 王様を訪問するより 「副詞句」

la visite au roi 「王様への訪問」 plus ～ que ... 「...より～だ」

se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 心の中で思った 「動詞」

en lui-même ｵﾝ･ﾘｭｲ･ﾒｰﾑ adv. 自分自身で 「副詞句」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

それで、また手を叩きはじめた。

Et il recommença de frapper ses mains l'une contre l'autre.

Et「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Et ｴ conj. それで

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

recommença +de+不定詞 ﾙｺﾓﾝｻ 3 単過･再開(recommencer à+不定詞)

v. ～をまた始めた 「動詞句」

de frapper ﾄﾞｩ･ﾌﾗﾍﾟ 不定詞 v.t 打つ 「動詞句」

recommencer de+不定詞は古い形式で、現在は recommencer à+不定詞が使われる

XI

ses mains ｾ･ﾏﾝ pl.n.f 両手を 「目的語」
l'une contre l'autre ﾘｭﾝﾇ･ｺﾝﾄﾙ･ﾛｰﾄﾙ adv. 一方を他方に対して 「副詞句」

見栄張り男は、また帽子を持ち上げて、挨拶を再開した。
Le vaniteux recommença de saluer en soulevant son chapeau.
「主語」「動詞句」「副詞句」
Le vaniteux ﾙ･ｳﾞｧﾆﾄｩ n.m 見栄っ張りは 「主語」
recommença de saluer ﾙｺﾓﾝｻ･ﾄﾞｩ･ｻﾙｴ 3 単過･再開(recommencer à+不定詞)
v.t また挨拶した 「動詞句」
en soulevant son chapeau ｵﾝ･ｽﾙｳﾞｫﾝ･ｿﾝ･ｼｬﾎﾟ adv. 帽子を持ち上げながら 「副詞句」

五分間の実習の後、王子様は遊びの単調さに疲れてしまった：
Après cinq minutes d'exercice le petit prince se fatigua de la monotonie du jeu：
「副詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」：
Après ｱﾌﾟﾚ adv. ～のあとで 「副詞句」
cinq minutes d'exercice ｻﾝｸ･ﾐﾆｭｯﾄ･ﾃﾞｸﾞｾﾞﾙｼｽ n.m 5 分間の実習 「目的語」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
se fatigua ｽ･ﾌｧﾃｨｶﾞ 3 単過(se fatiguer +de)v.pr ～に飽きてしまった 「動詞句」
de la monotonie du jeu ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾓﾉﾄﾆｰ･ｼﾞｭ･ｼﾞｭｰ adv. 遊びの単調さに 「間接目的語」
monotonie ﾓﾉﾄﾆｰ n.f 単調、退屈

「帽子を下におろしてもらうには、何をしなくてはいけないの」と王子様は訊いた。
《Et, pour que le chapeau tombe, demanda-t-il, que faut-t-il faire?》
《Et「副詞句」》,「動詞」「主語」,《「目的語」「動詞」》
Et ｴ conj. それで
pour ﾌﾟｰﾙ adv. ～のために 「副詞句」
que ｸ conj. ～ということ 「目的語」
le chapeau ﾙ･ｼｬﾎﾟ n.m 帽子が 「主語」
tombe ﾄﾝﾌﾞ 3 単現(tomber)v.i 降りる 「動詞」
demanda ﾄﾞｩﾓﾝﾀﾞ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
que ｸ pron 何を 「目的語」
faut ... faire ﾌｫ...ﾌｪｰﾙ 3 単現(falloir+不定詞)
v.t する必要がある 「動詞」
il ｲﾙ pron 非人称主語

XI

しかし、見栄張り男は彼の話を聞いていなかった。見栄張りたちというのは、ほめ言葉だけにしか耳を貸さないんだ。

Mais le vaniteux ne l'entendit pas. Les vaniteux n'entendent jamais que les louanges.

Mais「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Mais メ conj. しかし

le vaniteux ル・ヴァニトゥ n.m 見栄っ張りは 「主語」

ne l'entendit pas ヌ・ロントンディ・パ 3 単過・否定(entendre+le)

v.t 彼の言うことを聞いていなかった 「動詞句」

Les vaniteux レ・ヴァニトゥ pl.n.m 見栄っ張りというものは 「主語」

n'entendent jamais ノントンドゥ・ジャメ 3 複現・否定(entendre)

v.t 決して聞かない 「動詞句」

que les louanges ク・レ・ルワンジュ pl.n.f 褒め言葉しか 「目的語」

ne ... que〜 「〜しか...しない」

「本当にほめたたえてくれているのかね」と彼は王子様に訊いた。

《Est-ce que tu m'admires vraiment beaucoup? demanda-t-il au petit prince.

《Est-ce que「主語」「目的語」「動詞」「副詞」》,「動詞」「主語」「間接目的語」

Est-ce que エス・ク 疑問文の始まり

tu トゥ pron 君は 「主語」

m' ム pron 私を 「目的語」

admires アドミル 2 単現(admirer)v.t 褒め称えている 「動詞」

vraiment beaucoup ヴレモン・ボク adv. 本当に 「副詞句」

demanda ドゥモンダ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」

il イル pron 彼は 「主語」

au petit prince オ・プティ・プランス adv. 王子様に 「間接目的語」

「ほめたたえるって、どういう意味？」

---- Qu'est-ce que signifie "admirer"? 《「目的語」「動詞」「主語」》

Qu'est-ce que ケス・ク n. 何を 「目的語」

signifie シニフィ 3 単現(signifier)v.t 意味する 「動詞」

admirer アドミレ 不定詞 n. 「ほめたたえる」は 「主語」

「ほめたたえるというのは、おれがこの星でいちばん美しく、一番身なりがよく、一番金持ちで、一番利口だっていうことを認めることさ」

---- "Admirer" signifie reconnaître que je suis l'homme le plus beau, le mieux habillé, le plus riche et le plus intelligent de la planète. 《「主語」「動詞」「目的語」》

XI

Admirer ｱﾄﾞﾐﾚ 不定詞 n.「ほめたたえる」は 「主語」
signifie ｼﾆﾌｨ 3 単現(signifier)v.t 意味する 「動詞」
reconnaître ﾙｺﾈｰﾄﾙ 不定詞 n. 認めること 「目的語」
que ｸ conj. ～ということを 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 私が 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
l'homme ﾛﾑ n.m 男 「補語」
le plus beau ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ﾎﾞ adj. 一番美しい 「形容詞句」
le mieux habillé ﾙ･ﾐｭ･ｱﾋﾞｪ adj. 最高の服を着ている 「形容詞句」
le plus riche ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ﾘｯｼｭ adj. 一番金持ちの 「形容詞句」
et ｴ conj. そして
le plus intelligent ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ｻﾞﾝﾃﾘｼﾞｮﾝ adj. 最も利口な 「形容詞句」
de la planète ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. この星で 「副詞句」

「でも、この星にはあんたひとりしかいないよ！」
---- Mais tu es seul sur ta planète! 《Mais「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》
Mais ﾒ conj. でも
tu ﾄｩ pron 君は 「主語」
es ｴ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」
seul ｽｰﾙ adj. 一人きりの 「補語」
sur ta planète ｼｭｰﾙ･ﾀ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. 君の星には 「副詞句」

「おれを喜ばせておくれよ。それでも、ほめたたえておくれよ！」
---- Fais-moi ce plaisir. Admire-moi quand même!
《「動詞」「間接目的語」「直接目的語」 | 「動詞」「目的語」「副詞句」》
Fais ﾌｪ 命・2 単現(faire)v.t（行為を）してくれ 「動詞」
moi ﾑｫ pron 私に 「間接目的語」
ce plaisir ｽ･ﾌﾟﾚｼﾞｰﾙ n.m この喜びを 「直接目的語」
Admire ｱﾄﾞﾐﾙ 命・2 単現(admirer)v.t 褒め称えてくれ 「動詞」
moi ﾑｫ pron 私を 「目的語」
quand même ｺﾝ･ﾒｰﾑ adv. それでも 「副詞句」

「ほめたたえてあげるよ」と王子様は、ちょっと両肩をすくめて、そう言った。
「でも、そんなこと、君にとっていったいどんないいことがあるの？」
---- Je t'admire, dit le petit prince, en haussant un peu les épaules, mais en quoi cela peut-il bien t'intéresser?》 《「主語」「目的語」「動詞」》,「動詞」「主語」「副詞句」,

XI

《mais「副詞句」「主語」「動詞句」「補語」「間接目的語」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
t' ﾄｩ pron 君を 「目的語」
admire ｱﾄﾞﾐﾙ 1 単現(admirer)v.t 褒め称えてあげる 「動詞」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
en haussant ｵﾝ･ｵｿﾝ 現在分詞(hausser)v.t すくめて 「副詞句」
un peu ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少し 「副詞句」
les épaules ﾚ･ｾﾞﾎﾟｰﾙ pl.n.f 肩を 「目的語」
mais ﾒ conj. しかし
en quoi ｵﾝ･ｸｫ adv. 何に対して 「副詞句」
cela ｽﾗ pron このことは 「主語」
peut +不定詞 ﾌﾟ 3 単現･可能(pouvoir+不定詞)v. ～することができる 「動詞句」
il ｲﾙ pron 形式主語
bien ﾋﾞｬﾝ adj. 良い 「補語」
t' ﾄｩ pron 君にとって 「間接目的語」
intéresser ｱﾝﾃﾚｯｾ 不定詞 v.t 関係している 「動詞句」

そう言って、王子様はそこから立ち去った。

Et le petit prince s'en fut. Et「主語」「動詞句」
Et ｴ conj. そして
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
s'en fut ｿﾝ･ﾌｭ 3 単過(s'en être)v.pr そこを立ち去った 「動詞句」
s'en aller と同じ意味。単純過去で用いるのは文語的

《大人って、本当に、とっても奇妙だな》と王子様は、旅の間、単純にそう思った。

《Les grandes personnes sont décidément bien bizarres》, se dit-il simplement en lui-même durant son voyage.

《「主語」「動詞」「副詞」「補語」》,「動詞句」「主語」「副詞句」

Les grandes personnes ﾚ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pl.n.f 大人って 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
décidément ﾃﾞｼﾃﾞﾓﾝ adv. まったく 「副詞」
bien bizarres ﾋﾞｬﾝ･ﾋﾞｻﾞｰﾙ adj. とても奇妙な 「補語」
se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 心の中で思った 「動詞句」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
simplement ｻﾝﾌﾟﾙﾓﾝ adv. 単純に 「副詞」

XII

en lui-même ｵﾝ･ﾘｭｲ･ﾒｰﾑ adv. 自分自身で 「副詞句」
durant son voyage ﾃﾞｭﾛﾝ･ｿﾝ･ｳﾞｧﾜｰｼﾞｭ adv. 旅の間中 「副詞句」

XII

次の惑星には、呑み助が住んでいた。
La planète suivante était habitée par un buveur. 「主語」「動詞句」「副詞句」
La planète ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 惑星は 「主語」
suivante ｼｭｲｳﾞｫﾝﾄ adj.f 次の 「形容詞」
était habitée ｴﾃ･ﾊﾋﾞﾃ 3 単半･受動.f(habiter)v.t 住まれていた 「動詞句」
par un buveur ﾊﾟｰﾙ･ｱﾝ･ﾋﾞｭｳﾞｪｰﾙ adv. 呑兵衛によって 「副詞句」
buveur が「主語」の能動文に翻訳する→La planète は「副詞句」になる

この訪問はほんの短いものだったが、王子様を大きな憂鬱のなかに陥れた：
Cette visite fut très courte mais elle plongea le petit prince dans une grande mélancolie：
「主語」「動詞」「補語」mais「主語」「動詞」「目的語」「補語」：
Cette visite ｾｯﾄ･ｳﾞｨｼﾞｯﾄ n.f この訪問は 「主語」
fut ﾌｭ 3 単過(être)v.i ～だった 「動詞」
très courte ﾄﾚ･ｸﾙﾄｩ adj.f とても短い 「補語」

XII

mais ﾒ conj. しかし
elle ｴﾙ pron それは（この訪問） 「主語」
plongea ﾌﾟﾛﾝｼﾞｬ 3 単過(plonger)v.t（ある状態に）陥れた 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様を 「目的語」
dans une grande mélancolie ﾄﾞﾝ･ｼﾞｭﾝﾇ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾒﾗﾝｺﾘｰ
adv. 大きな憂鬱の中に 「補語」

「そんなところで、何をしているの？」と王子様は呑み助に言った。
《Que fais-tu là? dit-il au buveur,
《「目的語」「動詞」「主語」「副詞」》,「動詞」「主語」「間接目的語」
Que ｸ pron 何を 「目的語」
fais ﾌｪ 2 単現(faire)v.t している 「動詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
là ﾗ adv. そこで 「副詞」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
au buveur ｵ･ﾋﾞｭｳﾞｪｰﾙ adv. 呑兵衛に 「間接目的語」

その呑み助は、空の瓶と酒のいっぱい入った瓶の寄せ集めの前に、黙ってすわっていた。
qu'il trouva installé en silence devant une collection de bouteilles vides et une collection de bouteilles pleines. 「主語」「動詞」「補語」
qu' ｸ pron（目的語：buveur の代用）～する
「その呑兵衛は～していた」と翻訳する
il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」
trouva ﾄｩﾙｳﾞｧ 3 単過(trouver)v.t（呑兵衛が～の状態だと）分かった 「動詞」
qu' は trouva の「目的語」
installé ｱﾝｽﾀﾚ adj.m 座った（状態） 「補語」
en silence ｵﾝ･ｼﾛﾝｽ adv. 黙って 「副詞句」
devant ﾄﾞｩｳﾞｫﾝ adv. ～の前で 「副詞句」
une collection de bouteilles vides ﾕﾝﾇ･ｺﾚｸｼｮﾝﾄﾞｩ･ﾌﾞﾃｲﾕ･ｳﾞｨｯﾄﾞ
n.f 空き瓶の寄せ集め 「目的語」
et ｴ conj. と
une collection de bouteilles pleines ﾕﾝﾇ･ｺﾚｸｼｮﾝﾄﾞｩ･ﾌﾞﾃｲﾕ･ﾌﾟﾚﾝﾇ
n.f 酒で満杯の瓶の寄せ集め 「目的語」

XII

「飲んでるんだ」と呑み助は陰気な様子で答えた。

---- Je bois, répondit le buveur, d'un air lugubre.

《「主語」「動詞」》,「動詞」「主語」「副詞句」

Je ジュ pron 俺は 「主語」

bois ブゥ 1 単現(boire)v.t 飲んでいる 「動詞」

répondit レポンディ 3 単過(répondre)v.t 答えた 「動詞」

le buveur ル・ビュヴェール n.m 呑兵衛は 「主語」

d'un air lugubre ダ・ネール・リュギューブル adv. 陰鬱な様子で 「副詞句」

「なぜ、飲んでいるの」と王子様は訊いた。

---- Pourquoi bois-tu? lui demanda le petit prince.

《「副詞」「動詞」「主語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」

Pourquoi プルクワ adv. どうして、なぜ 「副詞」

bois ブゥ 2 単現(boire)v.t 飲んでいる 「動詞」

tu チュ pron 君は 「主語」

lui リュイ pron 彼に 「間接目的語」

demanda ドゥモンダ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」

le petit prince ル・プティ・プランス n.m 王子様は 「主語」

「忘れるためだよ」と呑み助は答えた。

---- Pour oublier, répondit le buveur. 《「副詞句」》,「動詞」「主語」

Pour oublier プール・ウブリエ adv. 忘れるためさ 「副詞句」

répondit レポンディ 3 単過(répondre)v.t 答えた 「動詞」

le buveur ル・ビュヴェール n.m 呑兵衛は 「主語」

「何を忘れるためなの」と王子様は訊いた。王子様は、もうすでに彼を憐れんでいた。

---- Pour oublier quoi? s'enquit le petit prince qui déja le plaignait.

《「副詞句」》,「動詞」「主語」,「主語」「副詞」「目的語」「動詞」

Pour oublier プール・ウブリエ adv. 忘れるため？ 「副詞句」

quoi クワ pron 何を 「目的語」

s'enquit ソンキ 3 単過(s'enquérir)v.pr 詳しく聞いた 「動詞」

le petit prince ル・プティ・プランス n.m 王子様は 「主語」

qui キ pron ～する 「形容詞節」

「その王子様は～する」と翻訳する

déja デジャ adv. もう 「副詞」

le ル pron 彼を 「目的語」

XII

plaignait ﾌﾟﾚﾆｪ 3 単半(plaindre)v.t 哀れんでいた 「動詞」

「恥ずかしいということを忘れるためだよ」と呑み助は、うつむいて打ち明けた。

---- Pour oublier que j'ai honte, avoua le buveur en baissant la tête.

《「副詞句」》,「動詞」「主語」「副詞句」

Pour oublier ﾌﾟｰﾙ･ｳﾌﾞﾘｴ adv. 忘れるためだよ 「副詞句」

que ｸ conj. 〜ということ 「目的語」

j' ｼﾞｭ pron 自分が 「主語」

ai ｴ 1 単現(avoir)v.t 持つ、ある 「動詞」

honte ｵﾝﾄ n.f 恥ずかしさ 「目的語」

avoir honte de ... 「〜を恥じる、〜を恥ずかしがる」

avoua ｱｳﾞｱ 3 単過(avouer)v.t 打ち明けた 「動詞」

le buveur ﾙ･ﾋﾞｭｳﾞｪｰﾙ n.m 呑兵衛は 「主語」

en baissant ｵﾝ･ﾍﾞｯｿﾝ (baisser)adv. 下げながら、うなだれて 「副詞句」

la tête ﾗ･ﾃｰﾄ n.f 頭を 「目的語」

「何が恥ずかしいの」と王子様は、彼を助けてあげたいと思って、訊いた。

---- Honte de quoi? s'informa le petit prince qui désirait le secourir.

《「目的語」》,「動詞句」「主語」,「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Honte ｵﾝﾄｩ n.f 恥ずかしさ 「目的語」

de quoi ﾄﾞｩ･ｸｫ adj. 何に対する 「形容詞句」

s'informa ｻﾝﾌｫﾙﾏ 3 単過(s'informer)v.pr 問い合わせた 「動詞句」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

qui ｷ pron (主語) 〜する 「形容詞節」

問い合わせた理由を述べるように翻訳する

désirait +不定詞 3 単半(désirer)v.t 〜したいと思った 「動詞句」

le ﾙ pron 彼を 「目的語」

secourir ｽｸﾘｰﾙ 不定詞 v.t 助ける 「動詞句」

「酒を飲むのが恥ずかしいのさ」。そう言い終わって、呑み助は決定的に沈黙のなかに閉じこもってしまった。

---- Honte de boire!》 acheva le buveur qui s'enferma définitivement dans le silence.

《「目的語」》,「動詞」「主語」

Honte ｵﾝﾄｩ n.f 恥ずかしさ 「目的語」

de boire ﾄﾞｩ･ﾌﾞｫｰﾙ adj. 酒を飲むことに対する 「形容詞句」

acheva ｱｼｭｳﾞｧ 3 単過(achever)v.t 言い終えた 「動詞」

XIII

le buveur ル・ビュヴェール n.m 呑兵衛は 「主語」
qui キ pron（結果の説明）～する 「形容詞節」
s'enferma ソンフェルマ 3 単過(s'enfermer)v.pr 閉じこもった 「動詞句」
définitivement デフィニティヴモン adv. 決定的に 「副詞」
dans le silence ドン・ル・シロンス adv. 沈黙の中に 「副詞句」

そこで、王子様は当惑して、そこから立ち去った。
Et le petit prince s'en fut, perplexe. Et「主語」「動詞句」「補語」
Et エ conj. それから
le petit prince ル・プティ・プランス n.m 王子様は 「主語」
s'en fut ソン・フュ 3 単過(s'en être)v.pr そこを立ち去った 「動詞句」
s'en aller と同じ意味。単純過去で用いるのは文語的
perplexe ペルプレックス adj.（主語の状態）当惑して 「補語」

《おとなって、本当に、実に実に奇妙だなあ》と王子様は、旅の間、心の中で思った。
Les grandes personnes sont décidément très très bizarres》, se disait-il en lui-même durant le voyage. 《「主語」「動詞」「副詞」「補語」》,「動詞句」「主語」「副詞句」
Les grandes personnes レ・グロンドゥ・ペルソンヌ pl.n.f 大人って 「主語」
sont ソン 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
décidément デシデモン adv. まったく 「副詞」
très très bizarres トレ・トレ・ビザール adj. 非常に奇妙な 「補語」
se disait ス・ディゼ 3 単半(se dire) v.pr 心の中で思った 「動詞句」
il イル pron 彼は 「主語」
en lui-même オン・リュイ・メーム adv. 自分自身で 「副詞句」
durant le voyage デュロン・ル・ヴワヤージュ adv. 旅の間 「副詞句」

XIII

四番目の惑星は、事業家の星だった。
La quatrième planète était celle du businessman. 「主語」「動詞」「補語」
La quatrième planète ラ・カトリエム・プラネット n.f 4 番目の惑星は 「主語」
était エテ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
celle セル pron 惑星（planète の代用） 「補語」
du businessman ジュ・ビズネスマン adj. 商売人の 「形容詞句」

XIII

その人はあまりの忙しさに、王子様がやってきても、顔を上げさえしなかった。

Cet homme était si occupé qu'il ne leva même pas la tête à l'arrivée du petit prince.

「主語」「動詞」「補語」

Cet homme セット・オム n.m この男の人は 「主語」

était エテ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

si occupé qu' シ・オキュペ・ク adj. あまり忙しすぎて（～する） 「補語」

il イル pron 彼は（結果の説明） 「副詞節」

ne leva même pas ヌ・ルヴァ・メーム・パ 3 単過・否定(lever)

v.t 上げさえしなかった 「動詞句」

même メーム adv. ～さえ（leva を修飾している）

la tête ラ・テット n.f 頭を 「目的語」

à l'arrivée ア・ラリヴェ adv. 到着に対して 「副詞句」

du petit prince ジュ・プティ・プランス adj. 王子様の 「形容詞句」

XIII

「こんにちは」と王子様は言った。「タバコの火が消えてますよ」

Bonjour, lui dit celui-ci. Votre cigarette est éteinte.

《「挨拶」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」》

Bonjour ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ int. こんにちは 「挨拶」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

celui-ci ｽﾘｭｲ･ｼ pron（後者）王子様は 「主語」

Votre cigarette ｳﾞｫﾄﾙ･ｼｶﾞﾚｯﾄ n.f タバコが 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

éteinte ｴﾀﾝﾄ adj. 消えた 「補語」

「3 足す 2 は 5。5 足す 7 は 12。12 足す 3 は 15。こんにちは。

---- Trois et deux font cinq. Cinq et sept douze. Douze et trois quinze. Bonjour.

《「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「目的語」 | 「主語」「目的語」 | 「挨拶」

Trois et deux ﾄﾙｫ･ｴ･ﾄﾞｩ n. 2 足す 3 は 「主語」

font ﾌｫﾝ 3 複現(faire)v.t（計算が）～になる、作る 「動詞」

cinq ｻﾝｸ n. 5 「目的語」

Cinq et sept ｻﾝｸ･ｴ･ｾｯﾄ n. 5 足す 7 は 「主語」

douze ﾄﾞｩｰｽﾞ n. 12 「目的語」

Douze et trois ﾄﾞｩｰｽﾞ･ｴ･ﾄﾙｫ 12 足す 3 は 「主語」

quinze ｷｬｰﾝｽﾞ n. 15 「目的語」

Bonjour ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ int. こんにちは 「挨拶」

15 足す 7 は 22。22 足す 6 は 28。タバコに火をつけ直しているヒマがない。26 足す 5 は 31。」

Quinze et sept vingt-deux. Vingt-deux et six vingt-huit. Pas le temps de la rallumer. Vingt-six et cinq trente et un.

「主語」「目的語」 | 「主語」「目的語」 | 「動詞句」「目的語」 | 「主語」「目的語」》

Quinze et sept ｷｬﾝｽﾞ･ｴ･ｾｯﾄ n. 15 足す 7 は 「主語」

vingt-deux ｳﾞｧﾝ･ﾄﾞｩ n. 22 「目的語」

Vingt-deux et six ｳﾞｧﾝ･ﾄﾞｩ･ｴ･ｼｽ n. 22 足す 6 は 「主語」

vingt-huit ｳﾞｧﾝ･ﾁｭｲ n. 28 「目的語」

Pas ﾊﾟ 1 単現･否定(Je n'ai pas の省略)v.t ～がない 「動詞句」

le temps ﾙ･ﾄﾝ n.m 時間 「目的語」

de +不定詞 ﾄﾞｩ adj. ～するための 「形容詞句」

la ﾗ pron.f それに（cigarette の代用） 「目的語」

XIII

rallumer ﾗﾘｭﾒ 不定詞 v.t 再び火をつける 「動詞」
Vingt-six et cinq ｳﾞｧﾝ･ｼｽ･ｴ･ｻﾝｸ n. 26 足す 5 は（本当は 28 足す 5） 「主語」
trente et un ﾄﾛﾝﾄ･ｴ･ｱﾝ n. 31 「目的語」

「やれやれ！これで 5 億百六十二万二千七百三十一になった」

Ouf! Ça fait donc cinq cent un millions six cent vingt-deux mille sept cent trente et un.
《「感嘆」「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》
Ouf! ｳﾌ int. やれやれ 「感嘆」
Ça ｻ pron これで 「主語」
fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.t ～になる 「動詞」
donc ﾄﾞﾝ adv. 従って 「副詞」
cinq cent un millions six cent vingt-deux mille sept cent trente et un
ｻﾝｸ･ｿﾝ･ｱﾝ･ﾐﾘｵﾝ･ｼｽ･ｿﾝ･ｳﾞｧﾝ･ﾄﾞｩ･ﾐﾙ･ｾｯﾄ･ｿﾝ･ﾄﾛﾝﾄ･ｴ･ｱﾝ
n. 5 億百六十二万二千七百三十一 「目的語」
cinq cent un millions 5 億百万（cent の後ろに数字が続く時は cents としない）

「何が五億なの？」

---- Cinq cents millions de quoi? 《「主語」》
Cinq cents millions ｻﾝｸ･ｿﾝ･ﾐﾘｵﾝ pl.n.m 5 億 「主語」
de quoi ﾄﾞｩ･ｸﾜ adj. 何の 「形容詞句」

「えっ？相変わらずそこにいるのかい。五億百万... もうわからない...

---- Hein? Tu es toujour là? Cinq cent un millions de ... je ne sais plus ...
《「感嘆」》,「主語」「動詞」「副詞句」, 《「主語」 | 「主語」「動詞句」
Hein? ｱﾝ int. えっ 「感嘆」
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
es ｴ 2 単現(être)v.i いる 「動詞」
toujour là ﾄｩｼﾞｭｰﾙ･ﾗ adv. まだそこに 「副詞句」
Cinq cent un millions de ... ｻﾝｸ･ｻﾝ･ｱﾝ･ﾐﾘｵﾝ･ﾄﾞｩ n. 五億百万の 「主語」
je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ne sais plus ... ﾇ･ｾ･ﾌﾟﾘｭ 1 単現･否定(savoir)v.t もうわからない 「動詞句」

こんなに山ほどの仕事がある！俺は真面目なんだ。

j'ai tellement de travail! Je suis sérieux, moi,
「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」「主語」
j' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

XIII

ai ｴ 1 単現(avoir)v.t ～がある 「動詞」
tellement de travail ﾃﾙﾓﾝ･ﾄﾞｩ･ﾄﾗｳﾞｧｲﾕ n.m たくさんの仕事 「目的語」
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
sérieux ｾﾘｭ adj. 真面目な 「補語」
moi ﾑわ pron おれは 「主語」

おれは無駄話でヒマをつぶしたりなんかしないよ！2 足す 5 は 7. . .」
je ne m'amuse pas à des balivernes! Deux et cinq sept ...
「主語」「動詞句」「副詞句」 ┃ 「主語」「目的語」》
je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
ne m'amuse pas ﾇ･ﾏﾐｭｰｽﾞ･ﾊﾟ 1 単現･否定(s'amuser)
v.pr 暇つぶしはしない 「動詞句」
à des balivernes ｱ･ﾃﾞ･ﾊﾞﾘｳﾞｪﾙﾇ adv.（原因）無駄話で 「副詞句」
Deux et cinq ﾄﾞｩ･ｴ･ｻﾝｸ n. 2 足す 5 は 「主語」
sept ... ｾｯﾄ n. 7 「目的語」

「何が五億百万なの」と王子様は繰り返して言った。
--- Cinq cent un millions de quoi?》, répéta le petit prince 《「主語」》,「動詞」「主語」
Cinq cent un millions de quoi ｻﾝｸ･ｿﾝ･ｱﾝ･ﾐﾘｵﾝ･ﾄﾞｩ･ｸわ n. 5 億百万の何？ 「主語」
répéta ﾚﾍﾟﾀ 3 単過(répéter)v.t 繰り返した 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

彼はいったん質問をしだしたら絶対に諦めなかった。
qui jamais de sa vie n'avait renoncé à une question, une fois qu'il l'avait posée.
「主語」「副詞句」「動詞句」「間接目的語」
qui ｷ pron（王子様を説明する）～する 「主語」
jamais de sa vie ｼﾞｬﾒ･ﾄﾞｩ･ｻ･ｳﾞｨｰ adv. 決して、一度も 「副詞句」
n'avait renoncé ﾅｳﾞｪ･ﾙﾉﾝｾ 3 単半･完了形･否定(renoncer)
v.i 諦めなかった 「動詞句」
à une question ｱ･ﾕﾝﾇ･ｹｽﾁｮﾝ adv. 質問について 「間接目的語」
une fois qu' ﾕﾝﾇ･ﾌわ･ｸ adj. 一度～した 「形容詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
l' ﾗ pron 質問を 「目的語」
avait posée ｱｳﾞｪ･ﾎﾟｾﾞ 3 単半･完了形.f(poser)
v.t（質問を）した 「動詞句」

XIII

事業家は、頭をあげた：

Le businessman leva la tête： 「主語」「動詞」「目的語」：

Le businessman ﾙ･ﾋﾞｽﾞﾈｽﾏﾝ n.m 事業家は 「主語」

leva ﾙｳﾞｧ 3 単過(lever)v.t 上げた 「動詞」

la tête ﾗ･ﾃｯﾄ n.f 頭を 「目的語」

「この惑星に住んで 54 年になるが、ただ 3 回しか邪魔されたことがない。」

《Depuis cinquante-quatre ans que j'habite cette planète-ci, je n'ai été dérangé que trois fois. 《「副詞節」,「主語」「動詞句」「副詞句」》

Depuis ﾄﾞｩﾋﾟｭｲ adv. (que) ～前に（～して以来） 「副詞句」

cinquante-quatre ans ｻﾝｺﾝﾄ･ｷｬﾄﾙ･ｱﾝ n.m 54 年 「目的語」

que ｸ adv. ～する 「副詞節」

j' ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

habite ｱﾋﾞｯﾄ 1 単現(habiter)v.t 住み始めた 「動詞」

cette planète-ci ｾｯﾄ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ｼ n.f この惑星に 「目的語」

je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

n'ai été dérangé ﾈ･ｴﾃ･ﾃﾞﾛﾝｼﾞｪ 1 単現･完了形･否定(déranger)
v.t これまでに邪魔をされたことがない 「動詞句」

que trois fois ｸ･ﾄﾙｫ･ﾌｫ adv.（否定文で）3 回しか 「副詞句」
ne ... que ～ 「～しか. . . ない」

「最初は、22 年前のこと、どこからか黄金虫が落ちてきた。

La première fois ç'a été, il y a vingt-deux ans, par un hanneton qui était tombé dieu sait d'où. 《「主語」「動詞句」「副詞句」

La première fois ﾗ･ﾌﾟﾙﾐｪｰﾙ･ﾌｫ n.f 最初は 「主語」

ç' ｻ pron それは 「主語」

a été ｱ･ｴﾃ 3 単現･完了形(être)v.i ～だった、あった 「動詞句」

il y a vingt-deux ans ｲ･ﾘ･ﾔ･ｳﾞｧﾝ･ﾄﾞｩ･ｻﾞﾝ adv. 22 年前 「副詞句」

par un hanneton ﾊﾟｰﾙ･ｱﾝ･ｱﾇﾄﾝ adv. コガネムシによって 「副詞句」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

était tombé ｴﾃ･ﾄﾝﾍﾞ 3 単現･完了形(tomber)v.i 落ちてきた 「動詞句」

dieu sait d'où ﾃﾞｨｭ･ｾ･ﾄﾞｩ adv. どこからか 「副詞句」
神のみぞ知るところから

XIII

そいつはいやな雑音をたてた。それで、足し算を 4 回も間違えてしまった。」

Il répandait un bruit épouvantable, et j'ai fait quatre erreurs dans une addition.

「主語」「動詞」「目的語」et「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」》

Il ｲﾙ pron そいつは 「主語」

répandait ﾚﾎﾟﾝﾃﾞ 3 単半(répander)v.t まき散らしていた 「動詞」

un bruit épouvantable ｱﾝ･ﾌﾞﾘｭｲ･ｴﾌﾟｳﾞｫﾝﾀﾌﾞﾙ n.m ひどい雑音を 「目的語」

et ｴ conj. それで

j' ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

ai fait ｴ･ﾌｪ 1 単現･完了形(faire)v.t ～してしまった 「動詞句」

quatre erreurs ｸｧﾄﾙ･ｴﾚｰﾙ pl.n.f 間違いを 4 回 「目的語」

dans une addition ﾄﾞﾝ･ｼﾞｭﾝﾇ･ｱﾃﾞｨｼｮﾝ adv. 足し算で 「副詞句」

「2 度目は、11 年前。リューマチの発作だった。

La seconde fois ç'a été, il y a onze ans, par une crise de rhumatisme.

《「主語」「動詞句」「副詞句」

La seconde fois ﾗ･ｽｺﾞﾝﾄﾞ･ﾌｧ n.f 2 回目は 「主語」

ç' ｻ pron それは 「主語」

a été ｱ･ｴﾃ 3 単現･完了形(être)v.i ～だった、あった 「動詞句」

il y a onze ans ｲ･ﾘ･ｱ･ｵｰﾝ･ｻﾞﾝ adv. 11 年前 「副詞句」

par une crise de rhumatisme ﾊﾟｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ｸﾘｰｽﾞ･ﾄﾞｩ･ﾘｭﾏﾃｨｽﾑ

adv. リューマチの発作のために 「副詞句」

運動不足なんだ。ぶらぶら歩きをする時間がないんだ。おれは、真面目なんだ、おれは。

Je manque d'exercice. Je n'ai pas le temps de flâner. Je suis sérieux, moi.

「主語」「動詞」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

「主語」「動詞」「補語」「主語」

Je ｼﾞｭ pron おれは 「主語」

manque ﾓﾝｷ 1 単現(manquer)v.i (de ～が) 不足している 「動詞」

d'exercice ﾃﾞｸﾞｾﾞﾙｼｽ n.m 運動が 「間接目的語」

Je ｼﾞｭ pron おれは 「主語」

n'ai pas ﾈ･ﾊﾟ 1 単現･否定(avoir)v.t がない 「動詞句」

le temps de flâner ﾙ･ﾄﾝ･ﾄﾞｩ･ﾌﾗﾈ n.m 散歩する時間 「目的語」

Je ｼﾞｭ pron おれは 「主語」

suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」

sérieux ｾﾘｭ adj. まじめな 「補語」

moi ﾑｧ pron おれは 「主語」

XIII

3 度目... それが今度だ！たしか、五億百万... と言っていたよな...」

La troisième fois ... la voici ! Je disais donc cinq cent un millions ...

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》

La troisième fois ... ﾗ･ﾄﾙわｼﾞｴｰﾑ･ﾌわ n.f 3 回目は 「主語」

la ﾗ pron それは 「主語」

voici ｳﾞわｼ pron.v これである 「動詞」「補語」

Je ｼﾞｭ pron おれは 「主語」

disais ﾃﾞｨｾﾞ 1 単半(dire)v.t 言っていた 「動詞」

donc ﾄﾞﾝ adv. ところで 「副詞」

cinq cent un millions ｻﾝｷ･ｿﾝ･ｱﾝ･ﾐﾘｵﾝ n. 5 億と 「目的語」

「何が百万なの？」

Millions de quoi ? 《「主語」》

Millions de quoi? ﾐﾘｵﾝ･ﾄﾞｩ･ｸわ n. 何が百万？ 「主語」

事業家は、もう平安の望みがぜんぜん無いことを悟った：

Le businessman comprit qu'il n'était point d'espoir de paix： 「主語」「動詞」「目的語」：

Le businessman ﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ n.m 事業家は 「主語」

comprit ｺﾝﾌﾟﾘ 3 単過(comprendre)v.t を悟った 「動詞」

qu' ｸ conj. ～ということ 「目的語」

il ｲﾙ pron 形式主語

n'était point ﾈﾃ･ﾌﾟわﾝ 3 単半･否定(être)v.i ～がまったくない 「動詞句」

d'espoir de paix ﾃﾞｽﾌﾟわｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾍﾟ n.m 平穏の望みが 「主語」

「ときどき空に見えるあの無数の小さなものだよ」

Millions de ces petites choses que l'on voit quelquefois dans le ciel. 《「主語」》

Millions de ces petites choses ﾐﾘｵﾝ･ﾄﾞｩ･ｾ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ･ｼｮｰｽﾞ

pl.n.f 無数の小さいもの 「主語」

que ｸ pron ～する 「形容詞節」

l'on ﾛﾝ pron 人が 「主語」

voit ｳﾞわ 3 単現(voir)v.t 見る、見える 「動詞」

quelquefois ｹﾙｸﾌわ adv. 時々 「副詞」

dans le ciel ﾄﾞﾝ･ﾙ･ｼｴﾙ adv. 空に 「副詞句」

「ハエ？」

XIII

----Des mouches ? 《「主語」》
Des mouches デ・ムーシュ pl.n.f ハエ 「主語」

「違うよ、きらきらする小さなものだよ」
----Mais non, des petites choses qui brillent. 《「応答」「主語」》
Mais non メ・ノン adv. いや違うよ 「応答」
des petites choses デ・プ ティット・チョーズ pl.n.f 小さなもの 「主語」
qui キ pron ～する 「形容詞節」
brillent ブリル 3 複現(briller)v.i 輝く 「動詞」

「ハチ？」
----Des abeilles ? 《「主語」》
Des abeilles デ・ザベイユ pl.n.f ハチ？ 「主語」

「違うよ、怠け者たちを夢想にふけらせる、あの小さな金色のものだよ。
だけど、おれ、真面目なんだ。夢想にふけっておるヒマがないのだ」
---- Mais non. Des petites choses dorées qui font rêvasser les fainéants.
Mais je suis sérieux, moi! Je n'ai pas le temps de rêvasser.
《「応答」 | 「主語」
Mais 「主語」「動詞」「補語」「主語」 | 「主語」「動詞」「目的語」》
Mais non メ・ノン adv. いや違うよ 「応答」
Des petites choses デ・プ ティット・ショーズ pl.n.f 小さいもの 「主語」
dorées ドレ adj.pl.f. 金色の 「形容詞」
qui キ pron ～する 「形容詞節」
font +不定詞 フォン 3 複現・使役(faire)v.t ～させる 「動詞」
rêvasser レヴァセ 不定詞 v.i 夢想にふける 「補語」
les fainéants レ・フネオン pl.n.m なまけ者たちに 「目的語」
Mais メ conj. しかし
je ジュ pron 俺は 「主語」
suis シュイ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
sérieux セリュ adj. 真面目な 「補語」
moi ムわ pron 俺は 「主語」
Je ジュ pron 俺は 「主語」
n'ai pas ネ・パ 1 単現・否定(avoir)v.t がない 「動詞句」
le temps de rêvasser ル・トン・ドゥ・レヴァセ n.m 夢想にふける時間 「目的語」

XIII

「ああ！星？」

---- Ah! des étoiles ? 《「応答」》

Ah! des étoiles ｱｰ･ﾃﾞ･ｾﾞﾄﾜｰﾙ pl.n.f ああ、星？ 「応答」

「そうなんだ。星だよ」

---- C'est bien ça. Des étoiles. 《「主語」「動詞」「補語」 | 「補語」》

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

bien ça ﾋﾞｬﾝ･ｻ pron 確かにそれ 「補語」

Des étoiles ﾃﾞ･ｾﾞﾄﾜｰﾙ pl.n.f 空の星 「補語」

「それで、五億の星をどうするの？」

---- Et que fais-tu de cinq cents millions d'étoiles ?

《Et「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」》

Et ｴ conj. それで

que ｸ pron 何を 「目的語」

fais ﾌｪ 2 単現(faire)v.t する 「動詞」

tu ﾁｭ pron あなたは 「主語」

de cinq cents millions d'étoiles ﾄﾞｩ･ｻﾝｷ･ｿﾝ･ﾐﾘｵﾝ･ﾃﾞﾄﾜｰﾙ

adv. 五億の星によって、五億の星で 「副詞句」

「五億百六十二万二千七百三十一だ。

---- Cinq cent un millions six cent vingt-deux mille sept cent trente et un.

《「主語」

---- Cinq cent un millions six cent vingt-deux mille sept cent trente et un.

ｻﾝｷ･ｿﾝ･ｱﾝ･ﾐﾘｵﾝ･ｼｽ･ｿﾝ･ｳﾞｧﾝ･ﾄﾞｩ･ﾐﾙ･ｾｯﾄ･ｿﾝ･ﾄﾛﾝ･ﾃ･ｱﾝ

n. 五億百六十二万二千七百三十一 《「主語」》

おれは真面目なんだ。おれは正確なんだ」

Je suis sérieux, moi, je suis précis.

「主語」「動詞」「補語」「補語」,「主語」「動詞」「補語」》

Je ｼﾞｭ pron 俺は 「主語」

suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」

sérieux ｾﾘｭ adj. 真面目な 「補語」

moi ﾑﾜ pron 俺は 「主語」

je ｼﾞｭ pron 俺は 「主語」

XIII

suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
précis ﾌﾟﾚｼ adj. 正確な 「補語」

「で、それらの星をどうするの？」
----Et que fais-tu de ces étoiles ? 《Et「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」》
Et ｴ conj. それで
que ｸ pron 何を 「目的語」
fais ﾌｪ 2 単現(faire)v.t する 「動詞」
tu ﾁｭ pron あなたは 「主語」
de ces étoiles ﾄﾞｩ･ｾ･ｾﾞﾄﾜｰﾙ adv. それらの星で 「副詞句」

「俺がそれらをどうするかって？」
----Ce que j'en fais ? 《「目的語」「主語」「副詞」「動詞」》
Ce que ｽ･ｸ pron 何を 「目的語」
j' ｼﾞｭ pron 俺が 「主語」
en ｵﾝ adv. それで 「副詞」
fais ﾌｪ 1 単現(faire)v.t する 「動詞」
Tu me demande ce que j'en fais? 「俺がそれで何をするかを聞いているのか？」の省略

「そう」
---- Oui. 《「応答」》
Oui ｳｨｰ adv. そう 「応答」

「何にもしやしない。それらを所有している」
---- Rien. Je les possède. 《「目的語」 | 「主語」「目的語」「動詞」》
Rien ﾘｬﾝ pron 何も（しない） 「目的語」
Je ｼﾞｭ pron 俺は 「主語」
les ﾚ pron それらを 「目的語」
possède ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ 1 単現(posséder)v.t 所有している 「動詞」

「星たちを所有しているんだって？」
----Tu possèdes les ètoiles ? 《「主語」「動詞」「目的語」》
Tu ﾄｩ pron あなたが 「主語」
possèdes ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ 2 単現(posséder)v.t 所有している 「動詞」
les ètoiles ﾚ･ｾﾞﾄﾜｰﾙ pl.n.f 星たちを 「目的語」

XIII

「そうだよ」

---- Oui. 《「応答」》

Oui ｳｨｰ adv. そうだよ 「応答」

「だけど、以前に会った王様は...」

----Mais j'ai déjà vu un roi qui ... 《Mais「主語」「動詞句」「目的語」》

Mais ﾒ conj. だけど

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai déjà vu ｴ･ﾃﾞｼﾞｬ･ｳﾞｭ 1 単現･完了形(voir)v.t 以前に会った 「動詞句」

déjà ﾃﾞｼﾞｬ adv. 以前に

un roi ｱﾝ･ﾙわ n.m 王様に 「目的語」

qui ｷ pron その人は～した「形容詞節」

「王様は所有しない。『支配する』んだ。これは、大違いだよ」

----Les rois ne possèdent pas. Ils "règnent" sur. C'est très différent.

《「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Les rois ﾚ･ﾙわ pl.n.m 王様は 「主語」

ne possèdent pas ﾇ･ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ･ﾊﾟ 3 複現･否定(posséder)v.t 所有しない 「動詞句」

Ils ｲﾙ pron.pl. 彼らは 「主語」

"règnent" ﾚｰﾆｭ 3 複現(régner)v.i 支配する 「動詞」

sur ｼｭｰﾙ adv. ～を（人･国などを） 「間接目的語」

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

très différent ﾄﾚ･ﾃﾞｨﾌｪﾛﾝ adj. まったく異なる 「補語」

「では星たちを所有していると、何の役に立つの？」

----Et à quoi cela te sert-il de posséder les étoiles ?

《Et「間接目的語」「主語」「間接目的語」「動詞」「主語」》

Et ｴ conj. それで

à quoi ｱ･ｸわ adv. 何に 「間接目的語」

cela ｽﾗ pron そのこと 「主語」

te ﾄｩ pron 君にとって 「間接目的語」

sert ｾｰﾙ 3 単現(servir)v.i (à に) 役に立つ 「動詞」

il ｲﾙ 形式主語（疑問文を作る）

de posséder les étoiles ﾄﾞｩ･ﾎﾟｾﾃﾞ･ﾚ･ｾﾞﾄﾜｰﾙ 不定詞

n. 星を所有すること 「主語」

XIII

「俺が金持ちになるのに役立つ」

----Ça me sert à être riche. 《「主語」「間接目的語」「動詞」「間接目的語」》

Ça ｻ pron それは 「主語」

me ﾑ pron 私にとって 「間接目的語」

sert ｾｰﾙ 3 単現(servir)v.i (à に) 役に立つ 「動詞」

à être riche ｱ･ｴｰﾄﾛｳ･ﾘｯｼｭ 不定詞 n. 金持ちになることに 「間接目的語」

「ではきみが金持ちになると、何の役に立つの？」

「誰かが他の星を見つけたら、買うことができる」

---- Et à quoi cela te sert-il d'être riche ?

---- À acheter d'autres étoiles, si quelqu'un en trouve.》

《Et「間接目的語」「主語」「間接目的語」「動詞」「主語」》

《「間接目的語」「副詞節」》

Et ｴ conj. それで

à quoi ｱ･ｸｫ adv. 何に 「間接目的語」

cela ｽﾗ pron そのこと 「主語」

te ﾄｩ pron 君にとって 「間接目的語」

sert ｾｰﾙ 3 単現(servir)v.i (à に) 役に立つ 「動詞」

il ｲﾙ 形式主語（疑問文を作る）

d'être riche ﾃﾞｰﾄﾙ･ﾘｯｼｭ 不定詞 n. 金持ちになることは 「主語」

À acheter d'autres étoiles ｱ･ｱｼｭﾃ･ﾄﾞｰﾄﾙ･ｾﾞﾄｫｰﾙ

adv. 他の星を買うことに（役立つ） 「間接目的語」

si ｼ conj. もし～するならば 「副詞節」

quelqu'un ｹﾙｶﾝ pron 誰かが 「主語」

en ｵﾝ pron 星を 「目的語」

trouve ﾄﾙｰｳﾞ 接・3 単現(trouver)v.t 見つけることがある 「動詞」

《この男は、あの酔っ払いさんみたいな理屈を言っているな》と王子様は心の中で思った。

Celui-là, se dit en lui-même le petit prince, il raisonne un peu comme mon ivrogne.

《「主語」》,「動詞句」「副詞句」「主語」,《「主語」「動詞」「副詞句」》

Celui-là ｽﾘｭｲ･ﾗ pron この男は 「主語」

Celui はものを表すのが普通だが、-là を付けて人を指すと軽蔑の意味が含まれる。

この-là には遠近の意味はない。

se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 心の中で思った 「動詞句」

en lui-même ｵﾝ･ﾘｭｲ･ﾒｰﾑ adv. 自分自身で 「副詞句」

XIII

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
raisonne ﾚｿﾞﾇ 3 単現(raisonner)v.i 理屈を言っている 「動詞」
un peu comme mon ivrogne ｱﾝ･ﾌﾟ･ｺﾑ･ﾓﾝ･ｲｳﾞﾛﾆｭ
adv. 少しあの酔っ払いみたいに 「副詞句」

けれども、さらに質問を続けた：
Cependant il posa encore des questions：
Cependant「主語」「動詞」「副詞」「目的語」:
Cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. しかしながら
il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」
posa ﾎﾟｻﾞ 3 単過(poser)v.t（質問を）した 「動詞」
encore ｵﾝｺｰﾙ adv. さらに 「副詞」
des questions ﾃﾞ･ｹｽﾁｮﾝ pl.n.f 質問を 「目的語」

「どうすれば、星を所有することができるの」
Comment peut-on posséder les étoiles ?
《「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」》
Comment ｺﾓﾝ adv. どうやったら 「副詞」
peut ...posséder ﾌﾟ...ﾎﾟｾﾃﾞ 3 単現･可能(pouvoir+不定詞)
v.t 所有することができる 「動詞句」
on ｵﾝ pron 人は 「主語」
les étoiles ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f 星を 「目的語」

「星は、誰のものかね？」と事業家は、気難しげに言い返した。
----À qui sont-elles ? riposta, grincheux, le businessman.
《「補語」「動詞」「主語」》,「動詞」「副詞」「主語」
À qui ｱ･ｷ adv. 誰のもの 「補語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
elles ｴﾙ pron.pl. 星たちは 「主語」
riposta ﾘﾎﾟｽﾀ 3 単過(riposter)v.i 反論した 「動詞」
grincheux ｸﾞﾗﾝｼｭ adv. 気難しげに 「副詞」
le businessman ﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ n.m 事業家は 「主語」

「知らないよ。誰のものでもないさ」
----Je ne sais pas. À personne. 《「主語」「動詞句」 | 「補語」》

XIII

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne sais pas ﾇ･ｾ･ﾊﾟ 1 単現･否定(savoir)v.t 知らない 「動詞句」
À personne ｱ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ adv. 誰のものでもない 「補語」
personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron（否定文で）誰も～ない

「それなら、俺のものだよ。だって、俺が最初に所有することを思いついたんだから」
----Alors elles sont à moi, car j'y ai pensé le premier.
《「副詞」「主語」「動詞」「補語」「副詞節」》
Alors ｱﾛｰ adv. それなら 「副詞」
elles ｴﾙ pron.pl. 星たちは 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
à moi ｱ･ﾑｫ adv. おれの物 「補語」
car ｶｰﾙ conj. なぜなら～なので 「副詞節」
j' ｼﾞｭ pron おれが 「主語」
y ｲ adv. そのことを（星を所有すること） 「間接目的語」
ai pensé ｴ･ﾎﾟﾝｾ 1 単現･完了形(penser)v.i 考えた 「動詞句」
le premier ﾙ･ﾌﾟﾙﾐｴ adv. 最初に 「副詞句」

「それで充分なの？」
----Ça suffit ?
《「主語」「動詞」》
Ça ｻ pron それが 「主語」
suffit ｼｭﾌｨ 3 単現(suffire)v.i 十分である 「動詞」

「もちろんさ。君が誰のものでもないダイヤモンドを見つけたら、それは君のものだよ。
---- Bien sûr. Quand tu trouves un diamant qui n'est à personne, il est à toi.
《「応答」 | 「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」
Bien sûr ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろんだ 「応答」
Quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
trouves ﾄﾙｳﾞ 2 単現(trouver)v.t 見つける 「動詞」
un diamant ｱﾝ･ﾃﾞｨｬﾓﾝ n.m ダイヤモンドを 「目的語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
n'est ﾈ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
à personne ｱ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ adv. 誰かの物（でない） 「補語」
il ｲﾙ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

XIII

à toi ｱ･ﾄｫ adv. 君の物 「補語」

誰のものでもない島を一つ見つけたら、それは君のものだ。」

Quand tu trouves une île qui n'est à personne, elle est à toi.

「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」》

Quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

trouves ﾄﾙｳﾞ 2 単現(trouver)v.t 見つける 「動詞」

une île ﾕﾝﾇ･ｲﾙ n.f 島を 「目的語」

qui n'est à personne ｷ･ﾈ･ﾀ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ adj. 誰のものでもない 「形容詞節」

elle ｴﾙ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

à toi ｱ･ﾄｫ adv. 君の物 「補語」

「最初にあることを考え付いたら、その特許を取る、そうすればその考えは君のものだ。

Quand tu as une idée le premier, tu la fais breveter : elle est à toi.

《「副詞節」,「主語」「目的語」「動詞句」:「主語」「動詞」「補語」

Quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

as ｱ 2 単現(avoir)v.t（考え）を思いつく 「動詞」

une idée ﾕﾝﾇ･ｲﾃﾞ n.f 考えを 「目的語」

le premier ﾙ･ﾌﾟﾙﾐｴ adv. 最初に 「副詞句」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

la ﾗ pron それを 「目的語」

fais breveter ﾌｪ･ﾌﾞﾚｳﾞﾃ 2 単現(faire+不定詞)v.t 特許を取る 「動詞句」

elle ｴﾙ pron その考えは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

à toi ｱ･ﾄｫ adv. 君の物 「補語」

で、おれはどうかというと、おれは星を所有している。なぜなら、誰も俺より早く星を所有することを思いつかなかったからね」

Et moi je possède les ètoiles, puisque jamais personne avant moi n'a songé à les posséder.

「副詞句」「主語」「動詞」「目的語」,「副詞節」》

Et moi ｴ･ﾑｫ conj. それでおれは 「副詞句」

je ｼﾞｭ pron おれは 「主語」

possède ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ 1 単現(posséder)v.t 所有している 「動詞」

XIII

les étoiles ﾚ･ｾﾞﾄｩﾜｰﾙ pl.n.f 星を 「目的語」
puisque ﾋﾟｭｲｽｷ conj. 〜なので 「副詞節」
jamais ｼﾞｬﾒ adv. 決して 「副詞」
personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron（否定文で）誰も〜ない 「主語」
avant moi ｱｳﾞｫﾝ･ﾑわ adv. おれより前に 「副詞句」
n'a songé ﾅ･ｿﾝｼﾞｪ 3 単現･完了形(songer à+不定詞)
v.t 〜することを思い付かなかった 「動詞句」
à ｱ adv. 〜することを 「間接目的語」
les ﾚ pl.pron. 星を 「目的語」
posséder ﾎﾟｾﾃﾞ 不定詞 v.t 所有する 「動詞」

「それはそうだ」と王子様は言った。「で、それをどうするの？」

---- Ça c'est vrai, dit le petit prince. Et qu'en fais-tu ?
《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,《Et「目的語」「副詞」「動詞」「主語」》
Ça c' ｻ･ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i 〜である 「動詞」
vrai ｳﾞﾚ adj. 本当の、正しい 「補語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
Et ｴ conj. それで
qu' ｸ pron 何を 「目的語」
en ｵﾝ adv. それで（星を所有すること） 「副詞」
fais ﾌｪ 2 単現(faire)v.t する 「動詞」
tu ﾁｭ pron あなたは 「主語」

「管理するんだ。星を数え、また数え直すんだ」と事業家は言った。

---- Je les gère. Je les compte et je les recompte, dit le businessman.
《「主語」「目的語」「動詞」 | 「動詞」「目的語」「動詞」et「動詞」「目的語」「動詞」》,
「動詞」「主語」,
Je ｼﾞｭ pron おれは 「主語」
les ﾚ pl.pron 星を 「目的語」
gère ｼﾞｪｰﾙ 1 単現(gérer)v.t 管理する 「動詞」
Je ｼﾞｭ pron おれは 「主語」
les ﾚ pl.pron 星を 「目的語」
compte ｺﾝﾄｩ 1 単現(compter)v.t 数える 「動詞」
et ｴ conj. それから

XIII

je ジュ pron おれは 「主語」
les レ pl.pron 星を 「目的語」
recompte ルコントゥ 1 単現(recompter)v.t また数える 「動詞」
dit ディ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le businessman ル・ビズネスマン n.m 事業家は 「主語」

「これは難しいよ。だけど、俺は真面目な人間なんだ！」
C'est difficile. Mais je suis un homme sérieux !》
《「主語」「動詞」「補語」 | Mais「主語」「動詞」「補語」》
C' ス pron これは 「主語」
est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
difficile ディフィシル adj. 難しい 「補語」
Mais メ conj. だけど
je ジュ pron おれは 「主語」
suis シュイ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
un homme sérieux ア・ノム・セリュ n.m 真面目な人間 「補語」

王子様は、まだ満足しなかった。
Le petit prince n'était pas satisfait encore. 「主語」「動詞句」「補語」「副詞」
Le petit prince ル・プティ・プランス n.m 王子様は 「主語」
n'était pas ネテ・パ 3 単半・否定(être)v.i ～でなかった 「動詞句」
satisfait サティスフェ adj. 満足している 「補語」
encore オンコール adv. まだ 「副詞」

「もし僕がマフラーを持っていたら、それを首にまきつけたり、持ち歩いたりできる。」
《Moi, si je possède un foulard, je puis le mettre autour de mon cou et l'emporter.
《「主語」,「副詞節」,「主語」「動詞句」》
Moi ムわ pron 僕が 「主語」
si シ adv. もし～ならば 「副詞節」
je ジュ pron 僕が 「主語」
possède ポセード 接・3 単現(posséder)v.t 持っているとする 「動詞」
un foulard アン・フラール n.m マフラーを 「目的語」
je ジュ pron 僕は 「主語」
puis +不定詞 ピュイ 1 単現(pouvoir+不定詞)v.t ～することができる 「動詞句」
le mettre ル・メットル 不定詞 v.t それを置く 「目的語」「動詞句」
autour de mon cou オトゥール・ドゥ・モン・ク adv. 首の周りに 「副詞句」

XIII

et ｴ conj. そして
l'emporter ﾛﾝﾎﾟﾙﾃ 不定詞 v.t それを持ち歩く 「目的語」「動詞句」

「僕がもし一輪の花を持っていたら、それを摘んで、持ち歩けるよ。
Moi, si je possède une fleur, je puis cueillir ma fleur et l'emporter.
《「主語」,「副詞節」,「主語」「動詞句」「目的語」et「目的語」「動詞句」
Moi ﾑｫﾜ pron 僕が 「主語」
si ｼ adv. もし～ならば 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
possède ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ 接・3 単現(posséder)v.t 持っているとする 「動詞」
une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 一輪の花を 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
puis +不定詞 ﾋﾟｭｲ 1 単現(pouvoir+不定詞)v.t ～することができる 「動詞句」
cueillir ｸｨｲｰﾙ 不定詞 v.t 摘む 「動詞句」
ma fleur ﾏ･ﾌﾚｰﾙ n.f 僕の花を 「目的語」
et ｴ conj. そして
l'emporter ﾛﾝﾎﾟﾙﾃ 不定詞 v.t それを持ち歩く 「目的語」「動詞句」

だけど君は星を摘むことはできないよ！」
Mais tu ne peux pas cueillir les étoiles ! Mais「主語」「動詞句」「目的語」》
Mais ﾒ conj. だけど
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
ne peux pas cueillir ﾇ･ﾌﾟ･ﾊﾟ･ｸｨｲｰﾙ 2 単現・可能・否定(pouvoir+不定詞)
v.t 摘むことはできない 「動詞句」
les étoiles ﾚ･ｾﾞﾄﾜｰﾙ pl.n.f 星を 「目的語」

「できないね。だけど、それを銀行にあずけることができる」
---- Non, mais je puis les placer en banque.
《「応答」,mais「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》
Non ﾉﾝ adv.（否定の応答）できないね 「応答」
mais ﾒ conj. だけど
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
puis +不定詞 ﾋﾟｭｲ 1 単現(pouvoir+不定詞)v.t することができる 「動詞句」
les placer ﾚ･ﾌﾟﾗｾ 不定詞 v.t それを預ける 「目的語」「動詞句」
en banque ｵﾝ･ﾎﾞﾝｷ adv. 銀行に 「副詞句」

XIII

「それ、どういう意味？」

---- Qu'est-ce que ça veut dire ? 《「目的語」「主語」「動詞句」》

Qu'est-ce que ｹ･ｽ･ｸ n. 何を 「目的語」

ça ｻ pron それは 「主語」

veut dire ｳﾞ･ﾃﾞｨｰﾙ 3 単現･願望(vouloir+不定詞)v.t 言いたい 「動詞句」

それはどういう意味なの？

「小さな紙切れに星の数を記入するってことだよ。

---- Ça veut dire que j'écris sur un petit papier le nombre de mes étoiles.

《「主語」「動詞句」「目的語」

Ça ｻ pron それは 「主語」

veut dire ｳﾞ･ﾃﾞｨｰﾙ 3 単現･願望(vouloir+不定詞)v.t ～を意味する 「動詞句」

que ｸ conj. ～ということ 「目的語」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

écris ｴｸﾘ 1 単現(écrire)v.t 書き記す 「動詞」

sur un petit papier ｼｭｰﾙ･ｱﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾊﾟﾋﾟｴ adv. 小さな紙切れに 「副詞句」

le nombre de mes étoiles ﾙ･ﾉﾝﾌﾞﾙ･ﾄﾞｩ･ﾒ･ｾﾞﾄﾜｰﾙ n.m 星の数を 「目的語」

それから、その紙を引き出しの中に、鍵をかけてしまっておくのさ」

Et puis j'enferme à clef ce papier-là dans un tiroir.

「副詞句」「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」「副詞句」》

Et puis ｴ･ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞句」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

enferme ｵﾝﾌｪﾙﾑ 1 単現(enfermer)v.t しまう 「動詞」

à clef ｱ･ｸﾚ adv. 鍵をかけて 「副詞句」

ce papier-là ｽ･ﾊﾟﾋﾟｴ･ﾗ n.m その紙切れを 「目的語」

dans un tiroir ﾄﾞﾝ･ｻﾞﾝ･ﾃｨﾙわｰﾙ adv. 引き出しの中に 「副詞句」

「それだけ？」

---- Et c'est tout ? 《Et「主語」「動詞」「補語」》

Et ｴ conj. それで

c' ｽ pron これが 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

tout ﾄｩ adj. すべて 「補語」

XIII

「それで充分さ！」

---- Ça suffit ! 《「主語」「動詞」》

Ça ｻ pron それは 「主語」

suffit ｼｭﾌｨ 3 単現(suffire)v.i 十分である 「動詞」

《これは面白い》と王子様は考えた。

C'est amusant, pensa le petit prince. 《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

amusant ｱﾐｭｿﾞﾝ adj. 面白い 「補語」

pensa ﾎﾟﾝｻ 3 単過(penser)v.i 考えた 「動詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

《かなり詩的だけど、あまり真面目な話じゃないな》

C'est assez poétique. Mais ce n'est pas très sérieux.

《「主語」「動詞」「補語」 | Mais「主語」「動詞句」「補語」》

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

assez poétique ｱｾ･ﾎﾟｴﾃｨｷ adj. かなり詩的な 「補語」

Mais ﾒ conj. だけど

ce ｽ pron これは 「主語」

n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

très sérieux ﾄﾚ･ｾﾘｭ adj.（否定文で）あまりまじめで（ない） 「補語」

王子様は真面目ということについて、大人たちとたいへん異なる考えを持っていた。

Le petit prince avait sur les choses sérieuses des idées très différentes des idées des grandes personnes. 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」「副詞句」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

avait ｱｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t 持っていた 「動詞」

sur les choses sérieuses ｼｭｰﾙ･ﾚ･ｼｮｰｽﾞ･ｾﾘｭｰｽﾞ adv. 真面目という事について 「副詞句」

des idées très différentes ﾃﾞ･ｼﾞﾃﾞ･ﾄﾚ･ﾃﾞｨﾌｪﾛﾝﾄ pl.n.f とても異なる考えを 「目的語」

des idées des grandes personnes ﾃﾞ･ｼﾞﾃﾞ･ﾃﾞ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ

adv. 大人の考えとは 「副詞句」

XIII

「僕はね」と王子様はなおも言った。

Moi, dit-il encore, 《「主語」》,「動詞」「主語」「副詞」,

Moi ﾑｫﾜ pron 僕は 「主語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

encore ｵﾝｺｰﾙ adv. さらに 「副詞」

「僕は一輪の花を持っていて、毎日水をやっていたんだ。三つの火山を持っていて、毎週煤払いをしていた。

je possède une fleur que j'arrose tous les jours. Je possède trois volcans que je ramone toutes les semaines. 《「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

possède ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ 3 単現(posséder)v.t 持っている 「動詞」

une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 一輪の花を 「目的語」

que ｸ pron それに～する 「形容詞節」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

arrose ｱﾛｽﾞ 1 単現(arroser)v.t 水をかけてやる 「動詞」

tous les jours ﾄｳ･ﾚ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 毎日 「副詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

possède ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ 3 単現(posséder)v.t 持っている 「動詞」

trois volcans ﾄﾙﾜ･ｳﾞｫﾙｺﾝ pl.n.m 火山を 3 個 「目的語」

que ｸ pron それに～する 「形容詞節」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ramone ﾗﾓｰﾇ 1 単現(ramoner)v.t 煤をはらう 「動詞」

toutes les semaines ﾄｳｯﾄ･ﾚ･ｽﾒｰﾇ adv. 毎週 「副詞句」

休火山の煤払いもしていた。いつ火を噴くか誰にも分からないんだ。」

Car je ramone aussi celui qui est éteint. On ne sait jamais.

「副詞節」 | 「主語」「動詞句」》

Car ｶｰﾙ conj. ～なので

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ramone ﾗﾓｰﾇ 1 単現(ramoner)v.t 煤をはらう 「動詞」

aussi ｵｼ adv. ～もまた 「副詞」

celui qui ｽﾘｭｲ･ｷ pron. ～するものを 「目的語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

éteint ｴﾀﾝ adj. 消えた 「補語」

XIII

On ｵﾝ pron 人は 「主語」
ne sait jamais ﾇ･ｾ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(savoir)v.t 決してわからない 「動詞句」
→ 休火山がいつ噴火するかわからないから

「僕が持っているってことは、火山にとって役に立つし、僕の花にとっても役立つんだ。
C'est utile à mes volcans, et c'est utile à ma fleur, que je les possède.
《「動詞」「補語」et「動詞」「補語」,「主語」
C' ｽ pron 形式主語（真の主語は que 節）
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
utile ﾕﾃｨﾙ adj. 役に立つ 「補語」
à mes volcans ｱ･ﾒ･ｳﾞｫﾙｺﾝ adv. 僕の火山にとって 「副詞句」
et ｴ conj. そして
c' ｽ pron 形式主語（真の主語は que 節）
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
utile ﾕﾃｨﾙ adj. 役に立つ 「補語」
à ma fleur ｱ･ﾏ･ﾌﾚｰﾙ adv. 僕の花にとって 「副詞句」
que ｹ conj. ～という事は 「主語」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
les ﾚ pron.pl. それらを 「目的語」
possède ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ 1 単現(posséder)v.t 持っている 「動詞」

だけど、君は星たちにとって役に立ってないよ...」
Mais tu n'es pas utile aux étoiles ...》 Mais「主語」「動詞」「補語」》
Mais ﾒ conj. だけど
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
n'es pas ﾈ･ﾊﾟ 2 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
utile ﾕﾃｨﾙ adj. 役に立つ 「補語」
aux étoiles ｵ･ｾﾞﾄｩﾜｰﾙ adv. 星たちに対して 「副詞句」

事業家は口をあけたが、答えるべきことが何も見つからなかった。
Le businessman ouvrit la bouche mais ne trouva rien à répondre,
「主語」「動詞」「目的語」mais「動詞句」「目的語」
Le businessman ﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ n.m 事業家は 「主語」
ouvrit ｳｳﾞﾘ 3 単過(ouvrir)v.t 開けた 「動詞」
la bouche ﾗ･ﾌﾞｰｼｭ n.f 口を 「目的語」
mais ﾒ conj. しかし

XIV

ne trouva ヌ･トルヴァ 3 単過･否定(trouver)v.t 見つからなかった 「動詞句」
rien リヤン pron 何も（～ない） 「目的語」
à répondre ア･レポンドル 不定詞 adj. 答えるべき 「形容詞句」

そこで、王子様はそこから立ち去った。
et le petit prince s'en fut. et「主語」「動詞句」
et エ conj. それで
le petit prince ル･プティ･プランス n.m 王子様は 「主語」
s'en fut ソン･フュ 3 単過(s'en être／s'en aller)v.pr そこを立ち去った 「動詞句」

《おとなって、本当に、まったくどうかしているな》と王子様は、旅の間、心の中で単純にそう思った。
Les grandes personnes sont décidément tout à fait extraordinaires》, se disait-il simplement en lui-même durant le voyage.
《「主語」「動詞」「副詞」「補語」》,「動詞」「主語」「副詞句」
Les grandes personnes レ･グロンド･ペルソンヌ pl.n.f 大人って 「主語」
sont ソン 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
décidément デシデモン adv. まったく 「副詞」
tout à fait extraordinaires トゥ･タ･フェ･エクストラオルディネール adj. 完全に異常な 「補語」
se disait ス･ディゼ 3 単半(se dire)v.pr 思った 「動詞」
il イル pron 王子様は 「主語」
simplement サンプルモン adv. 単純に 「副詞」
en lui-même オン･リュイ･メーム adv. 心の中で 「副詞句」
durant le voyage デュロン･ル･ヴわヤージュ adv. 旅の間 「副詞句」

XIV

五番目の惑星は、たいへん興味深いものだった。
La cinquième planète était très curieuse. 「主語」「動詞」「補語」
La cinquième planète ラ･サンキェーム･プラネット n.f 5 番目の惑星は 「主語」
était エテ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
très curieuse トレ･キュリユーズ adj.f. 大変奇妙な、とても好奇心をそそる 「補語」

すべての星のうちで、いちばん小さな星。
C'était la plus petite de toutes. 「主語」「動詞」「補語」
C' ス pron それは 「主語」

XIV

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
la plus petite de toutes ﾗ･ﾌﾟﾘｭ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ･ﾄﾞｩ･ﾄｳｯﾄ
adj.f. すべての星のうちで最も小さい 「補語」

そこにはちょうど一本の街灯と一人の点灯夫が占めるだけの場所があった。
Il y avait là juste assez de place pour loger un réverbère et un allumeur de réverbères.
「動詞句」「目的語」「副詞句」
Il y avait ｲ･ﾘ･ｱｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t そこには～があった 「動詞句」
là juste assez de place ﾗ･ｼﾞｭｽﾄ･ｱｾ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗｽ n.f ちょうど十分な場所 「目的語」
pour loger ﾌﾟｰﾙ･ﾛｼﾞｪ adv. ～を収容するのに 「副詞句」
un réverbère ｱﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ n.m 1 本の街灯 「目的語」
et ｴ conj. そして
un allumeur de réverbères ｱﾝ･ｱﾘｭﾒｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ
n.m 街灯の点灯夫 「目的語」

王子様は、空中のどこかの、家もないし住む人もいない星の上で、街灯と点灯夫とがいったいどんな役に立つのか、なかなかうまく理解できなかった。
Le petit prince ne parvenait pas à s'expliquer à quoi pouvaient servir, quelque part dans le ciel, sur une planète sans maison ni population, un réverbère et un allumeur de réverbères.
「主語」「動詞句」「目的語」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
ne parvenait pas à s'expliquer ﾇ･ﾊﾟｰﾙｳﾞﾈ･ﾊﾟ･ｻﾞ･ｾｸｽﾌﾟﾘｹ 3 単半・可能・否定
(parvenir à+不定詞)v.pr どうしても理解することができなかった 「動詞句」
parvenir à+不定詞 「やっと～できる」
à quoi ｱ･ｸｫ adv. 何に対して～するかということ 「目的語」
pouvaient servir ﾌﾟｳﾞｪ･ｾﾙｳﾞｨｰﾙ 3 複半・可能(pouvoir+不定詞)
v.t ～に役に立つことができる 「動詞句」
quelque part dans le ciel ｹﾙｸ･ﾊﾟｰﾙ･ﾄﾞﾝ･ﾙ･ｼｴﾙ adv. 空中のどこかで 「副詞句」
sur une planète ｼｭｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. 星の上で 「副詞句」
sans maison ni population ｿﾝ･ﾒｿﾞﾝ･ﾆ･ﾎﾟﾋﾟｭﾗｼｵﾝ
adv. 家もないし住民もいない 「形容詞句」
un réverbère et un allumeur de réverbères ｱﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ･ｴ･ﾀﾝ･ｱﾘｭﾒｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ
pl.n. 1 本の街灯と一人の点灯夫が 「主語」

それでも、彼は心の中で思った：
Cependant il se dit en lui-même： Cependant「主語」「動詞句」「副詞句」：

XIV

Cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. しかしながら
il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」
se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 心の中で思った 「動詞句」
en lui-même ｵﾝ･ﾘｭｲ･ﾒｰﾑ adv. 自分自身で 「副詞句」

《この男は理屈にあわないかもしれない。
Peut-être bien que cet homme est absurde. 《「副詞節」
Peut-être bien que +直説法 ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ･ﾋﾞｱﾝ･ｸ adv. ～かもしれない 「副詞節」
cet homme ｾ･ﾄﾑ n.m この男は 「主語」
est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」
absurde ｱﾌﾟｼｭﾙﾄﾞ adj. 非常識な 「補語」

それでも、王様や見栄張り男や事業家や呑み助よりは、理屈にあわない訳ではないな。
Cependant il est moins absurde que le roi, que le vaniteux, que le businessman et que le buveur. Cependant「主語」「動詞」「補語」「副詞句」
Cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. しかしながら
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
moins absurde ﾑわﾝ･ｱﾌﾟｼｭﾙﾄﾞ adj. それほど非常識でもない 「補語」
que le roi ｸ･ﾙ･ﾙわ adv. 王様より 「副詞句」
que le vaniteux ｸ･ﾙ･ｳﾞｧﾆﾄｳｰ adv. うぬぼれやより 「副詞句」
que le businessman ｸ･ﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ adv. 事業家より 「副詞句」
et ｴ conj. そして
que le buveur ｸ･ﾙ･ﾋﾞｭﾍﾞｰﾙ adv. 呑兵衛より 「副詞句」

少なくとも、彼の仕事には意味がある。》
Au moins son travail a-t-il un sens. 「副詞句」「主語」「動詞句」「目的語」》
Au moins ｵ･ﾑわﾝ adv. 少なくとも 「副詞句」
son travail ｿﾝ･ﾄﾗｳﾞｧｲﾕ n.m 彼の仕事は 「主語」
a-t-il ｱ･ﾃｨ･ﾙ 3 単現(avoir)v.t ある 「動詞句」
un sens ｱﾝ･ｿﾝｽ n.m 意味 「目的語」

XIV

《街灯に火をともすとき、あたかも星をさらに一つ、それとも花をさらに一輪、この世にもたらすようなものだ。

Quand il allume son réverbère, c'est comme s'il faisait naître une étoile de plus, ou une fleur. 《「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」

Quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼が 「主語」

allume ｱﾘｭﾑ 3 単現(allumer)v.t（電灯を）点灯する 「動詞」

son réverbère ｿﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ n.m 街灯を 「目的語」

c' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

comme s' ｺﾑ･ｼ conj. あたかも～のようなもの 「補語」

il ｲﾙ pron それが 「主語」

faisait naître ﾌｾﾞ･ﾈｰﾄﾙ 3 単半･使役(faire+不定詞+目的語)

v.i ～を生れさせた 「動詞句」

une étoile de plus ﾕﾝﾇ･ｴﾄﾜｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾘｭ n.f さらに 1 つの星 「目的語」

ou une fleur ｳ･ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f またはさらに花を一輪 「目的語」

街灯の火を消すときは、花や星を眠らせるんだ。》

Quand il éteint son réverbère, ça endort la fleur ou l'étoile.

「副詞節」,「主語」「動詞」「目的語」》

Quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼が 「主語」

éteint ｴﾀﾝ 3 単現(éteindre)v.t 消す 「動詞」

son réverbère ｿﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ n.m 街灯を 「目的語」

ça ｻ pron それは 「主語」

endort ｵﾝﾄﾞｰﾙ 3 単現(endormir)v.t 眠らせる 「動詞」

la fleur ou l'étoile ﾗ･ﾌﾚｰﾙ･ｳ･ﾚﾄﾜｰﾙ n.f 花や星を 「目的語」

《これはたいそうきれいな仕事だ。きれいだから、本当に役に立つ仕事なんだ》

C'est une ocupation très jolie. C'est véritablement utile puisque c'est joli.》

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」「副詞節」》

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

une ocupation ﾕﾝﾇ･ｵｷｭﾊﾟｼｮﾝ n.f 仕事 「補語」

très jolie ﾄﾚ･ｼﾞｮﾘ adj. とてもきれいな 「形容詞句」

C' ｽ pron これは 「主語」

XIV

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
véritablement utile ｳﾞｪﾘﾀﾌﾞﾙﾓﾝ･ﾕﾃｨﾙ adj. 本当に役に立つ 「補語」
puisque ﾋﾟｭｲｽｷ conj. ～なので 「副詞節」
c' ｽ pron これは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
joli ｼﾞｮﾘ adj. きれいな 「補語」

この星に着いたとき、王子様は点灯夫にうやうやしく挨拶をした。

Lorsqu'il aborda la planète, il salua respectueusement l'allumeur：
「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Lorsqu' ﾛﾙｽｸ conj. ～の時に 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
aborda ｱﾎﾞﾙﾀﾞ 3 単過(aborder)v.i 到着した 「動詞」
la planète ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f この星に 「副詞句」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
salua ｻﾙｱ 3 単過(saluer)v.t 挨拶した 「動詞」
respectueusement ﾚｽﾍﾟｸﾁｭｰｽﾞﾓﾝ adv. うやうやしく 「副詞」
l'allumeur ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m この点灯夫に 「目的語」

「おはよう。どうしていま街灯の火を消したの」

《Bonjour. Pourquoi viens-tu d'éteindre ton réverbère?
《「挨拶」「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」》

Bonjour ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ n.m おはよう 「挨拶」
Pourquoi ﾌﾟﾙｸｫ adv. どうして 「副詞」
viens ...d'éteindre ｳﾞｨｬﾝ...ﾃﾞﾀﾝﾄﾞﾙ 2 単現･近接過去(venir de+不定詞)
v.t たった今消した 「動詞句」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
ton réverbère ﾄﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ n.m 街灯を 「目的語」

「指示があったんだよ。おはよう」と点灯夫は答えた。

---- C'est la consigne, répondit l'allumeur. Bonjour.
《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,《「挨拶」》

C' ｽ pron これは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
la consigne ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ n.f 命令、指示 「補語」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

XIV

l'allumeur ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫は 「主語」
Bonjour ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ n.m おはよう 「挨拶」

「指示って、何」
---- Qu'est-ce que la consigne? 《「主語」「動詞」「補語」》
Qu' ｸ pron 何が 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
ce que la consigne ｽ･ｸ･ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ n.f 指示 「補語」

「街灯の火を消すことだよ。こんばんは」
---- C'est d'éteindre mon réverbère. Bonsoir.》 《「主語」「動詞」「補語」 | 「挨拶」》
C' ｽ pron これは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
d'éteindre ﾃﾞﾀﾝﾄﾞﾙ 不定詞 n. ～を消すこと 「補語」
mon réverbère ﾓﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ n.m 街灯を 「目的語」
Bonsoir ﾎﾞﾝｽｫｰﾙ n.m こんばんは 「挨拶」

そう言って、彼はまたそれに火をつけた。
Et il le ralluma. Et「主語」「目的語」「動詞」
Et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
le ﾙ pron それ（街灯） 「目的語」
ralluma ﾗﾘｭﾏ 3 単過(rallumer)v.t 再び点灯した 「動詞」

「でも、なぜ、いままたそれに火をつけたの」
《Mais pourquoi viens-tu de le rallumer? 《Mais「副詞」「動詞句」「主語」》
Mais ﾒ conj. でも
pourquoi ﾌﾟﾙｸｫ adv. どうして 「副詞」
viens...de le rallumer ﾋﾞﾔﾝ...ﾄﾞｩ･ﾙ･ﾗﾘｭﾒ 2 単現･近接過去(venir de+不定詞+le)
v.t たった今またそれを点灯した 「動詞句」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

「指示だよ」
----C'est la consigne, répondit l'allumeur. 《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」
C' ｽ pron これは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

XIV

la consigne ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ n.f 命令、指示 「補語」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
l'allumeur ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫は 「主語」

「理解できないな」と王子様は言った。
----Je ne comprends pas, dit le petit prince. 《「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne comprends pas ﾇ･ｺﾝﾌﾟﾛﾝ･ﾊﾟ 1 単現･否定(comprendre)v.t 分からない 「動詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「理解することなんて何もないさ」と点灯夫は言った。
---- Il n'y a rien à comprendre, dit l'allumeur. 《「動詞句」「主語」》,「動詞」「主語」,
Il n'y a ｲﾙ･ﾆ･ｱ 3 単現･否定(avoir)v.t ない 「動詞句」
rien à comprendre ﾘｬﾝ･ﾅ･ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ n. 理解すべきものは何も（ない） 「主語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
l'allumeur ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫は 「主語」

「指示は指示。おはよう」
La consigne c'est la consigne. Bonjour. 《「主語」「動詞」「補語」 | 「挨拶」》
La consigne ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ n.f 指示は 「主語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
la consigne ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ n.f 指示 「補語」
Bonjour ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. こんにちは 「挨拶」

そう言って、彼は街灯の火を消した。
Et il éteignit son réverbère. Et「主語」「動詞」「目的語」
Et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
éteignit ｴﾃﾆ 3 単過(éteindre)v.t 消した 「動詞」
son réverbère ｿﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ n.m 街灯を 「目的語」

それから、赤いチェックのハンケチで自分の額を拭いた。
Puis il s'épongea le front avec un mouchoir à carreaux rouges.
「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

XIV

Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
s'épongea ｾﾎﾟﾝｼﾞｬ 3 単過(s'éponger)v.pr 自分の～をぬぐった 「動詞句」
le front ﾙ･ﾌﾛﾝ n.m 額を 「目的語」
avec un mouchoir ｱｳﾞｪｯｷ･ｱﾝ･ﾑｼｭﾜｰﾙ adv. ハンカチで 「副詞句」
à carreaux rouges ｱ･ｷｬﾛ･ﾙｰｼﾞｭ adj. 赤いチェックの 「形容詞句」

「こんなところでおそるべき仕事をしてるのさ。昔は理に適っていた。
Je fais là un métier terrible. C'était raisonnable autrefois.
《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」「副詞」
Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
fais ﾌｪ 1 単現(faire)v.t ～をしている 「動詞」
là ﾗ adv. ここで 「副詞」
un métier ｱﾝ･ﾒﾃｨｴ n.m 仕事を 「目的語」
terrible ﾃﾘｰﾌﾞﾙ adj. 恐ろしい 「形容詞」
C' ｽ pron この仕事は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
raisonnable ﾚｿﾞﾅｰﾌﾞﾙ adj. 理にかなった 「補語」
autrefois ｵｰﾄﾙﾌｫﾜ adv. かつては、昔は 「副詞」

朝、火を消して、夕方、火をつける。
J'éteignais le matin et j'allumais le soir.
「主語」「動詞」「副詞句」 et 「主語」「動詞」「副詞句」
J' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
éteignais ｴﾃﾆｪ 3 単半(éteindre)v.t 消した 「動詞」
le matin ﾙ･ﾏﾀﾝ n.m 朝には 「副詞句」
et ｴ conj. そして
j' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
allumais ｱﾘｭﾒ 3 単半(allumer)v.t（電気）をつけた 「動詞」
le soir ﾙ･ｽﾜｰﾙ n.m 夕方には 「副詞句」

残りの昼間は休み、残りの夜間は眠ったものだよ...」
J'avais le reste du jour pour me reposer, et le reste de la nuit pour dormir ...
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 et 「目的語」「副詞句」》
J' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
avais ｱｳﾞｪ 1 単半(avoir)v.t あった 「動詞」

XIV

le reste ﾙ･ﾚｽﾄ n.m 残り 「目的語」
du jour ｼﾞｭ･ｼﾞｭｰﾙ adj. 昼の 「形容詞句」
pour me reposer ﾌﾟｰﾙ･ﾑ･ﾙﾎﾟｾﾞ adv. 休むために 「副詞句」
pour+不定詞(se reposer) ～するために
et ｴ conj. そして
le reste ﾙ･ﾚｽﾄ n.m 残り 「目的語」
de la nuit ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾆｭｲ adj. 夜の 「形容詞句」
pour dormir ﾌﾟｰﾙ･ﾄﾞﾙﾐｰﾙ adv. 眠るために 「副詞句」

「では、それ以来、指示が変わったの？」
Et, depuis cette époque, la consigne a changé? 《Et「副詞句」,「主語」「動詞句」》
Et ｴ conj. それでは
depuis cette époque ﾄﾞｩﾋﾟｭｲ･ｾｯﾄ･ｴﾎﾟｯｷ adv. それ以来 「副詞句」
la consigne ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ n.f 指示は 「主語」
a changé ｱ･ｼｮﾝｼﾞｪ 3 単現･完了形(changer)v.i 変わった 「動詞句」

「指示は変わっちゃいないさ」と点灯夫は言った。
----La consigne n'a pas changé, dit l'allumeur. 《「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」,
La consigne ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ n.f 指示は 「主語」
n'a pas changé ﾅ･ﾊﾟ･ｼｮﾝｼﾞｪ 3 単現･完了形･否定(changer)v.i 変わらなかった 「動詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
l'allumeur ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫は 「主語」

「そこに悲劇があるんだ！
C'est bien là le drame! 《「動詞」「副詞句」「主語」
C' ｽ pron 形式主語
est ｴ 3 単現(être)v.i（存在）ある 「動詞」
bien là ﾋﾞｬﾝ･ﾗ adv. まさにそこに 「副詞句」
le drame ﾙ･ﾄﾞﾗﾑ n.m 悲劇が 「主語」

星は年々少しずつ早く回転するようになっているのに、指示は変わっていないんだよ！」
La planète d'année en année a tourné de plus en plus vite, et la consigne n'a pas changé !
「主語」「副詞句」「動詞句」「副詞句」et「主語」「動詞句」》
La planète ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 星は 「主語」
d'année en année ﾀﾞﾈ･ｵ･ﾅﾈ adv. 年々 「副詞句」
a tourné ｱ･ﾄｩﾙﾈ 3 単現･完了形(tourner)v.i 回転するようになった 「動詞句」

XIV

de plus en plus vite ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾘｭ･ｵﾝ･ﾌﾟﾘｭ･ｳﾞｨｯﾄ adv. 次第に速く 「副詞句」
et ｴ conj. それなのに
la consigne ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ n.f 指示は 「主語」
n'a pas changé ﾅ･ﾊﾟ･ｼｮﾝｼﾞｪ 3 単現･完了形･否定(changer)v.i 変わらなかった 「動詞句」

「それで？」と王子様は言った。
---- Alors? dit le petit prince. 《「応答」》,「動詞」「主語」
Alors? ｱﾛｰ adv. それで？ 「応答」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「それで、いまでは 1 分につき 1 回転するので、もう 1 秒も休めない。
---- Alors maintenant qu'elle fait un tour par minute, je n'ai plus une seconde de repos.
《「副詞」,「副詞節」,「主語」「動詞句」「目的語」
Alors ｱﾛｰ adv. それで 「副詞」
maintenant qu' ﾏﾝﾄｩﾉﾝ･ｸ adv. 今では～なので 「副詞節」
elle ｴﾙ pron 星は(La planète) 「主語」
fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.t する 「動詞」
un tour ｱﾝ･ﾄｩｰﾙ n.m 1 回転 「目的語」
par minute, ﾊﾟｰﾙ･ﾐﾆｭｯﾄ adv. 1 分間に 「副詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'ai plus ﾈ･ﾌﾟﾘｭ 1 単現･否定(avoir)v.t もうない 「動詞句」
une seconde de repos ﾕﾝﾇ･ｽｺﾞﾝﾄﾞｩ･ﾄﾞｩ･ﾙﾎﾟ n.f 1 秒の休み 「目的語」

1 分おきに、火をつけたり消したりしてるってわけだよ！」
J'allume et j'éteins une fois par minute!
「主語」「動詞」et「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
allume ｱﾘｭﾑ 1 単現(allumer)v.t つける 「動詞」
et ｴ conj. そして
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
éteins ｴﾀﾝ 1 単現(éteindre)v.t 消す 「動詞」
une fois ﾕﾝﾇ･ﾌｧ n.f 一回（街灯を） 「目的語」
par minute ﾊﾟｰﾙ･ﾐﾆｭｯﾄ adv. 1 分ごとに 「副詞句」

XIV

「それは、おかしい！この星では、1 日が 1 分間だなんて！」

----Ça c'est drôle! Les jours chez toi durent une minute!

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「副詞句」「動詞」「副詞句」》

Ça c' ｻ･ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

drôle! ﾄﾞｩﾛｰﾙ adj. おかしい、異常な 「補語」

Les jours ﾚ･ｼﾞｭｰﾙ pl.n.m 1 日の長さが 「主語」

chez toi ｼｪ･ﾄｩﾜ adv. 君のところでは 「副詞句」

durent ﾃﾞｭｰﾙ 3 複現(durer)v.i 続く 「動詞」

une minute! ﾕﾝﾇ･ﾐﾆｭｯﾄ n.f 1 分間 「副詞句」

「ちっともおかしいことなんかない」と、点灯夫が言った。

----Ce n'est pas drôle du tout, dit l'allumeur.

《「主語」「動詞句」「補語」》,「動詞」「主語」,

Ce ｽ pron それは 「主語」

n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

drôle du tout, ﾄﾞﾛｰﾙ･ｼﾞｭ･ﾄｩ adj.（否定文で）ちっともおかしく（～ない） 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

l'allumeur. ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫は 「主語」

「僕たちが話を始めてから、もう 1 か月にもなる」

Ça fait déja un mois que nous parlons ensemble. 《「動詞」「副詞」「補語」「副詞節」》

Ça ｻ pron 形式主語

fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.h ～になる 「動詞」

déja ﾃﾞｼﾞｬ adv. もう 「副詞」

un mois ｱﾝ･ﾑわ n.m 1 か月 「補語」

que ｸ conj. ～して以来 「副詞節」

nous ﾇ pron 僕らが 「主語」

parlons ﾊﾟﾙﾛﾝ 1 複現(parler)v.i 話をする 「動詞」

ensemble. ｵﾝｿﾝﾌﾞﾙ adv. 一緒に 「副詞」

XIV

Je fais là un métier terrible.

XIV

「一か月？」

---- Un mois? 《「副詞句」》

Un mois? ｱﾝ･ﾑｫ n.m 1 ヶ月？ 「副詞句」

「そう。30 分。つまり、30 日！こんばんは」

---- Oui. Trente minutes. Trente jours! Bonsoir. 《「副詞句」「応答」「副詞句」「挨拶」》

Oui. ｳｨ adv. そう 「応答」

Trente minutes. ﾄﾛﾝﾄ･ﾐﾆｭｯﾄ pl.n.f 30 分 「副詞句」

Trente jours! ﾄﾛﾝﾄ･ｼﾞｭｰﾙ pl.n.m 30 日 「副詞句」

Bonsoir. ﾎﾞﾝｽｫｰﾙ adv. こんばんは 「挨拶」

そう言って、点灯夫はまた街灯に火をつけた。

Et il ralluma son réverbère. Et「主語」「動詞」「目的語」

Et ｴ conj. そして

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ralluma ﾗﾘｭﾏ 3 単過(rallumer)v.t 再び点灯した 「動詞」

son réverbère. ｿﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ n.m 街灯を 「目的語」

王子様は彼をじっと見た。そして、こんなにも指示に忠実なその点灯夫を好きになった。

Le petit prince le regarda et il aima cet allumeur qui était tellement fidèle à la consigne.

「主語」「目的語」「動詞」et「主語」「動詞」「目的語」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

le ﾙ pron 彼を 「目的語」

regarda ﾙｷﾞｬﾙﾀﾞ 3 単過(regarder)v.t じっと見た 「動詞」

et ｴ conj. そして

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

aima ｴﾏ 3 単過(aimer)v.t 好きになった 「動詞」

cet allumeur ｾｯﾄ･ｱﾘｭﾒｰﾙ n.m この点灯夫を 「目的語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～である 「動詞」

tellement fidèle ﾃﾙﾓﾝ･ﾌｨﾃﾞｰﾙ adj. とても忠実な 「補語」

à la consigne. ｱ･ﾗ･ｺﾝｼｰﾆｭ adv. 指示に 「副詞句」

昔、自分で椅子を移動させて、日の入りを何度も見ようとしていたことを思い出した。

Il se souvint des couchers de soleil que lui-même allait autrefois chercher, en tirant sa chaise. 「主語」「動詞句」「目的語」

XIV

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
se souvint ｽ･ｽｳﾞｧﾝ 3 単過(se souvenir)v.pr (de) を思い出した 「動詞句」
des couchers de soleil ﾃﾞ･ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ pl.n.m 日の入り 「目的語」
que ｸ pron ～する 「形容詞節」
lui-même ﾘｭｲ･ﾒｰﾑ pron 彼自身が 「主語」
allait autrefois chercher, ｱﾚ･ｵｰﾄﾙﾌｧ･ｼｪﾙｼｪ 3 単半･習慣(aller+不定詞)
v.t 昔、探し求めていた 「動詞句」
en tirant sa chaise. ｵﾝ･ﾃｨﾛﾝ･ｻ･ｼｪｰｽﾞ adv. 椅子を引いて 「副詞句」

そして、友達を助けたいと思った：
Il voulut aider son ami： 「主語」「動詞句」「目的語」：
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
voulut aider ｳﾞﾘｭ･ｴﾃﾞ 3 単過･願望(vouloir+不定詞) v.t 助けたかった 「動詞句」
son ami：ｿﾝ･ﾅﾐ n.m 彼の友人を 「目的語」

「ね... 君が休みたいときに休める方法を知ってるよ...」
《Tu sais ... je connais un moyen de te reposer quand tu voudras ...
《「呼びかけ」,「主語」「動詞」「目的語」》
Tu sais ﾁｭ･ｾ adv. ね... 「呼びかけ」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
connais ｺﾈ 1 単現(connaître)v.t 知っている 「動詞」
un moyen de +不定詞 ｱﾝ･ﾑﾜｨﾔﾝ･ﾄﾞｩ n.m ～する方法を 「目的語」
te reposer ﾄｩ･ﾙﾎﾟｾﾞ 不定詞(se reposer)v.pr 休む 「動詞句」
quand ｺﾝ conj. ～するときに 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
voudras ｳﾞﾄﾞﾗ 2 単未(vouloir)v.t 望む、希望する 「動詞」

「いつだって休みたいよ」と点灯夫は言った。
---- Je veux toujours, dit l'allumeur. 《「主語」「動詞句」「副詞」》,「動詞」「主語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
veux ｳﾞ 1 単現(vouloir)v.t 休みたい 「動詞句」
veux me poser の不定詞を省略
toujours, ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. いつも 「副詞」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
l'allumeur. ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫は 「主語」

XIV

それというのも、人は誰でも、仕事熱心であると同時に怠け者でもあるから。

Car on peut être, à la fois, fidèle et paresseux. Car「主語」「動詞句」「補語」

Car ｶｰﾙ conj. というのは、なぜならば

on ｵﾝ pron 人間というのは 「主語」

peut être, ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ 3 単現･可能性(pouvoir+不定詞)v.i ～でありうる 「動詞句」

à la fois, ｱ･ﾗ･ﾌｫ adv. 同時に 「副詞句：補語」

fidèle ﾌｨﾃﾞﾙ adj.（指示に）忠実な 「補語」

et ｴ conj. そして

paresseux. ﾊﾟﾚｽ adj. 怠けた 「補語」

王子様は、続けて言った：

Le petit prince poursuivit： 「主語」「動詞」：

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

poursuivit：ﾌﾟｰﾙｼｭｲｰｳﾞｨ 3 単過(poursuivre)v.t 続けて言った 「動詞」

「君の星はこんなに小さいので、三またぎすれば一周できちゃうね。

《Ta planète est tellement petite que tu en fais le tour en trois enjambées.

《「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

Ta planète ﾀ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 君の星は 「主語」

ta ﾀ adj(ton).f 君の

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

tellement petite ﾃﾙﾓﾝ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ adj.f. とても小さい（ので） 「補語」

que ｸ conj.（結果）（～ので）～する 「副詞節」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

en ｵﾝ adv. そこを 「副詞」

fais ﾌｪ 2 単現(faire)v.t する 「動詞」

le tour ﾙ･ﾄｩｰﾙ n.m 一回り 「目的語」

en trois enjambées. ｵﾝ･ﾄｩﾙｫ･ｵﾝｼﾞｮﾝﾍﾞ adv.（手段）三またぎで 「副詞句」

非常にゆっくり歩いても、いつも太陽を眺められるよね。」

Tu n'as qu'à marcher assez lentement pour rester toujours au soleil.

「主語」「動詞句」「副詞句」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

n'as qu'à +不定詞 ﾅ･ｸｫ 2 単現･否定(avoir à+不定詞)v. ～しさえすればいい 「動詞句」

avoir à+不定詞「～しなければならない」 ne ... que ～「～するしかない」

marcher ﾏﾙｼｪ 不定詞 v.i 歩く 「動詞」

XIV

assez lentement ｱｾ･ﾛﾝﾄｩﾓﾝ adv. 非常にゆっくり 「副詞句」
pour rester ﾌﾟｰﾙ･ﾚｽﾃ adv. とどまるために 「副詞句」
toujours au soleil. ﾄｩｼﾞｭｰﾙ･ｵ･ｿﾚｲﾕ adv. ずっと太陽のところに 「副詞句」

「休みたいときには、歩きさえすればいい... そうすれば、昼間が自分の好きなだけ、続くことになるよ」

Quand tu voudras te reposer tu marcheras ... et le jour durera aussi longtemps que tu voudras. 《「副詞節」「主語」「動詞」,et「主語」「動詞」「副詞句」》
Quand ｺﾝ conj. ～するときは 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
voudras te reposer ｳﾞﾄﾞﾗ･ﾄｩ･ﾙﾎﾟｾﾞ 2 単未･願望(vouloir+不定詞)
v.pr 休みたい 「動詞句」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
marcheras ﾏﾙｼｭﾗ 2 単未･助言(marcher)v.i 歩けばよい 「動詞」
et ｴ conj. そうすれば
le jour ﾙ･ｼﾞｭｰﾙ n.m 昼が 「主語」
durera ｼﾞｭﾙﾗ 3 単未(durer)v.i 続くだろう 「動詞」
aussi longtemps ｵｯｼ･ﾛﾝﾄﾝ adv. それだけ長く 「副詞句」
que tu voudras. ｸ･ﾁｭ･ｳﾞﾄﾞﾗ adj. 君が望むだけ 「形容詞節」

「そんなことしてもたいして役に立たないね」と点灯夫は言った。「この世で好きなこと、それは眠ることなんだよ」

---- Ça ne m'avance pas à grand-chose, dit l'allumeur. Ce que j'aime dans la vie, c'est dormir. 《「主語」「動詞句」「副詞句」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」》
Ça ｻ pron それは 「主語」
ne m'avance pas ﾇ･ﾏｳﾞｫﾝｽ･ﾊﾟ 3 単現･否定(avancer)
v.t 私にとって（仕事を）はかどらせない 「動詞句」
à grand-chose, ｱ･ｸﾞﾛﾝ･ｼｮｰｽﾞ adv.（否定文で）たいして 「副詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
l'allumeur. ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫は 「主語」
Ce que ｽ･ｸ pron ～することは 「主語」
j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
aime ｴｰﾑ 1 単現 v.t 好きだ 「動詞」
dans la vie, ﾄﾞﾝ･ﾗ･ｳﾞｨｰ adv. この世で 「副詞句」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

XIV

dormir. ﾄﾞﾙﾐｰﾙ 不定詞 n. 眠ること 「補語」

「それはあいにくだね」と王子様は言った。

----Ce n'est pas de chance, dit le petit prince. 《「動詞句」「主語」》,「動詞」「主語」

Ce n'est pas ｽ･ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i(存在)ない 「動詞句」

de chance, ﾄﾞｩ･ｼｮﾝｽ n.f 運 「主語」

運がない → あいにくだ、困った、残念だ

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「あいにくだよ」と点灯夫は言った。「おはよう」

----Ce n'est pas de chance, dit l'allumeur. Bonjour.

《「動詞句」「主語」》, 「動詞」「主語」,《「挨拶」》

Ce n'est pas ｽ･ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i(存在)ない 「動詞句」

de chance, ﾄﾞｩ･ｼｮﾝｽ n.f 運 「主語」

運がない → あいにくだ、困った

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

l'allumeur. ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫は 「主語」

Bonjour. ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. おはよう 「挨拶」

そして、街灯を消した。

Et il éteignit son réverbère. Et「主語」「動詞」「目的語」

Et ｴ conj. それから

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

éteignit ｴﾃﾆ 3 単過(éteindre)v.t 消した 「動詞」

son réverbère. ｿﾝ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ n.m 街灯を 「目的語」

《あの人は》、と王子様は、さらに遠くへ旅を続けながら思った。

Celui-là, se dit le petit prince, tandis qu'il poursuivait plus loin son voyage,

《「主語」》,「動詞句」「主語」「副詞節」,

Celui-là, ｽﾘｭｲ･ﾗ pron あの人は 「主語」

se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 心の中で思った 「動詞句」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

tandis qu' ﾄﾝﾃﾞｨ･ｸ conj. ～している間に 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼が 「主語」

poursuivait ﾌﾟｰﾙｼｭｲｰｳﾞｪ 3 単半(poursuivre)v.t 続けていた 「動詞」

XIV

plus loin son voyage, ﾌﾟﾘｭ･ﾙわﾝ･ｿﾝ･ｳﾞわﾔｰｼﾞｭ n.m さらに遠くへ旅を「目的語」

《ほかの人たちみんなから軽蔑されるだろうな、王様からも、見栄張り男からも、呑み助からも、事業家からも》

celui-là serait méprisé par tous les autres, par le roi, par le vaniteux, par le buveur, par le businessman. 《「主語」「動詞句」「副詞句」》

celui-là ｽﾘｭｲ･ﾗ pron あの人は 「主語」

serait méprisé ｽﾚ･ﾒﾌﾟﾘｾﾞ 条・3 単現･受動(mépriser)v.t 軽蔑されるだろう 「動詞句」

par tous les autres, ﾊﾟｰﾙ･ﾄｳ･ﾚ･ｿﾞｰﾄﾙ adv. ほかの皆から 「副詞句」

par le roi, ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ﾙわ adv. 王様から 「副詞句」

par le vaniteux, ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ｳﾞｧﾆﾄｳ adv. 見栄っ張りから 「副詞句」

par le buveur, ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ﾋﾞｭﾍﾞｰﾙ adv. 呑兵衛から 「副詞句」

par le businessman. ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ adv. 事業家から 「副詞句」

《でも、滑稽に見えない唯一の人だな。

Cependant c'est le seul qui ne me paraisse pas ridicule.

《Cependant「主語」「動詞」「補語」

Cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. しかしながら

c' ｽ pron この人は 「主語」

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

le seul ﾙ･ｽﾙ n.m 唯一の人 「補語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

ne me paraisse pas ﾇ･ﾑ･ﾊﾟﾚｽ･ﾊﾟ 接・3 単現･否定(paraître+me)

v.i 私にとって～に見えない 「動詞句」

ridicule. ﾘﾃﾞｨｷｭﾙ adj. 滑稽な 「補語」

たぶんそれは、自分以外のことに従事しているからだろう》

C'est, peut-être, parce qu'il s'occupe d'autre chose que de soi-même.》

「主語」「動詞」「副詞句」「補語」》

C' ｽ pron それは 「主語」

est, ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

peut-être, ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ adv. たぶん 「副詞句」

parce qu' ﾊﾟﾙｽ･ｸ adv. ～ということだから 「補語」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

s'occupe ｿｷｭﾌﾟ 3 単現(s'occuper)v.pr (de) に従事している 「動詞」

d'autre chose ﾄﾞｰﾄﾙ･ｼｮｰｽﾞ adv. 別の事に 「間接目的語」

XIV

que de soi-même. ｸ･ﾄﾞｩ･ｽわ･ﾒｰﾑ adv. 彼自身のことよりも 「副詞句」

王子様は哀惜の溜息をつき、さらにこう思った：

Il eut un soupir de regret et se dit encore：

「主語」「動詞」「目的語」et「動詞句」「副詞」：

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

eut ｲ 3 単過(avoir)v.t 持った、した 「動詞」

un soupir ｱﾝ･ｽﾋﾟｰﾙ n.m ため息を 「目的語」

de regret ﾄﾞｩ･ﾙｸﾞﾚ adj. 後悔の 「形容詞句」

et ｴ conj. そして

se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.t 思った 「動詞句」

encore ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

《あの人だけは、ぼくの友達にできたかもしれないな。

Celui-là est le seul dont j'eusse pu faire mon ami. 《「主語」「動詞」「補語」

Celui-là ｽﾘｭｲ･ﾗ pron あの人は 「主語」

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

le seul ﾙ･ｽﾙ n.m 唯一の人 「補語」

dont ﾄﾞﾝ pron それと～する 「形容詞節」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

eusse pu faire ｲｽ･ﾋﾟｭ･ﾌｪｰﾙ 接・1 単半･完了形(pouvoir+不定詞)

v.t ～することができたかもしれない 「動詞句」

faire de （人）son ami 「人を友達にする」→ dont が使用される

mon ami. ﾓ･ﾅﾐ n.m 友達 「目的語」

だけど、あの星は、本当に小さすぎる。二人分のスペースがないんだもの...》

Mais sa planète est vraiment trop petite. Il n'y a pas de place pour deux.

Mais「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「主語」》

Mais ﾒ conj. しかし

sa planète ｻ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 彼の星は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

vraiment trop petite. ｳﾞﾚﾓﾝ･ﾄﾛ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ adj. 本当に小さすぎる 「補語」

Il n'y a pas ｲﾙ･ﾆ･ｱ･ﾊﾟ 3 単現･否定(avoir)v.t ない 「動詞句」

de place ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗｽ n.f 場所が 「主語」

pour deux ﾌﾟｰﾙ･ﾄﾞｩ adv. 2 人分の 「形容詞句」

XV

王子様があえて自分に認めたくなかったこと、それは、とりわけ 24 時間に 1440 回も日の入りを眺められるがゆえに祝福されたその星に、未練を感じていた、ということだった！

Ce que le petit prince n'osait pas s'avouer, c'est qu'il regrettait cette planète bénie à cause, surtout, des mille quatre cent quarante couchers de soleil par vingt-quatre heures!

「主語」,「主語」「動詞」「補語」

Ce ｽ pron それ 「主語」

que ｸ pron ～する 「形容詞節」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様が 「主語」

n'osait pas s'avouer, ﾉｾﾞ･ﾊﾟ･ｻｳﾞｪ 3 単半･意志･否定(oser+不定詞 s'avouer)

v.pr あえて自分に認めたくなかった 「動詞句」

c' ｽ pron それは 「主語」

est ｪ (être)v.i ～である 「動詞」

qu' ｸ cpnj. ～ということ 「補語」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

regrettait ﾙｸﾞﾚﾃ 3 単半(regretter)v.t 惜しんでいた 「動詞」

cette planète ｾｯﾄ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f この星 「目的語」

bénie ﾍﾞﾝｲｰ 過去分詞(benir)adj. 祝福された 「形容詞句」

à cause, ｱ･ｺｰｽﾞ adv. ～のために 「副詞句」

surtout, ｼｭﾙﾄ adv. 何よりも 「副詞」

des mille quatre cent quarante ﾃﾞ･ﾐﾙ･ｷｬﾄﾙ･ｿﾝ･ｷｬﾛﾝﾄ

adj. 1440 の 「形容詞句」

couchers de soleil ｸｼｪ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ pl.n.m 日の入り 「目的語」

par vingt-quatre heures! ﾊﾟｰﾙ･ｳﾞｧﾝ･ｷｬﾄ･ﾚｰﾙ

adv. 24 時間に 「副詞句」

XV

六番目の惑星は、十倍も大きな星。

La sixième planète était une dix fois plus vaste. 「主語」「動詞」「補語」

La sixième planète ﾗ･ｼｼﾞｴﾑ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 6 番目の惑星は 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

une dix fois plus vaste. ﾕﾝﾇ･ﾃﾞｨ･ﾌｫｱ･ﾌﾟﾘｭ･ｳﾞｧｽﾄｩ adj. 10 倍大きい 「補語」

そこには、老紳士が住んでいて、並はずれて大きな書物を書いていた。

Elle était habitée par un vieux monsieur qui écrivait d'énormes livres.

「主語」「動詞句」「目的語」

XV

Elle ｴﾙ pron その惑星は 「主語」
était habitée ｴﾃ･ｱﾋﾞﾃ 3 単半･受動(habiter)v.t 住まれていた 「動詞句」
par un vieux monsieur ﾊﾟｰﾙ･ｱﾝ･ｳﾞｨｭ･ﾑｼｭｰ adv. 一人の老人に 「副詞句」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
écrivait ｴｸﾘｳﾞｪ 3 単半(écrire)v.t 書いていた 「動詞」
d'énormes livres. ﾃﾞﾉﾙﾑ･ﾘｰｳﾞﾙ pl.n.m 並はずれて大きな本を 「目的語」
能動態に翻訳する

「おや！探検家が現れたな！」と、彼は王子様に気付くと、大声で言った。
《Tiens! voilà un explorateur!》 s'écria-t-il, quand il aperçut le petit prince.
《「間投」「感嘆」》,「動詞句」「主語」「副詞節」
Tiens! ﾃｨｬﾝ int. おや 「間投」
voilà un explorateur! ｳﾞｧﾗ･ｱﾝ･ｴｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ adv. 探検家がやってきたぞ 「感嘆」
s'écria ｾｸﾘｱ 3 単過(s'écrier)v.pr 叫んだ 「動詞句」
il ｲﾙ pron 老人は 「主語」
quand ｺﾝ conj. ～するとき、～すると 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
aperçut ｱﾍﾟﾙｼｭ 3 単過(apercevoir)v.t 気づいた 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様に 「目的語」

王子様は、息を切らして机の上に腰掛けた。
Le petit prince s'assit sur la table et souffla un peu.
「主語」「動詞句」「副詞句」et「動詞」「副詞句」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
s'assit ｻｼ 3 単過(s'asseoir)v.pr 座った 「動詞句」
sur la table ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾀｰｳﾞﾙ adv. テーブルの上に 「副詞句」
et ｴ conj. そして
souffla ｽﾌﾗ 3 単過(souffler)v.i 一息ついた、息を切らした 「動詞」
un peu. ｱﾝ･ﾌﾟ adv. ちょっと 「副詞句」

もうすでに、それほど大きな旅行をしてきたのだった！
Il avait déja tant voyagé! 「主語」「動詞句」「副詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
avait ...voyagé! ｱｳﾞｪ...ｳﾞｧﾔｼﾞｪ 3 単半･完了形(voyager)v.i 旅行をしてきた 「動詞句」
déja tant ﾃﾞｼﾞｬ･ﾄﾝ adv. もうそれほどたくさん 「副詞句」

XV

「どこから来たのかね」と老紳士が言った。

D'où viens-tu? lui dit le vieux monsieur.

《「副詞句」「動詞」「主語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」

D'où ﾄﾞｩ adv. どこから 「副詞句」

viens ｳﾞｨﾔﾝ 2 単現(venir)v.i 来た 「動詞」

tu? ﾁｭ pron 君は 「主語」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le vieux monsieur. ﾙ･ｳﾞｨｭ･ﾑｼｭｰ n.m 老人は 「主語」

「その分厚い本はなんですか」と王子様は言った。「ここで、何をしているのですか」

----Quel est ce gros livre? dit le petit prince. Que faites-vous ici?

《「補語」「動詞」「主語」》,「動詞」「主語」,《「目的語」「動詞」「主語」「副詞」》

Quel ｹﾙ pron 何 「補語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

ce gros livre? ｽ･ｸﾞﾛ･ﾘｰｳﾞﾙ n.m この厚い本は 「主語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

Que ｸ pron 何を 「目的語」

faites ﾌｪｯﾄ 2 複現(faire)v.t している 「動詞」

vous ｳﾞ pron あなたは 「主語」

ici? ｲｼ adv. ここで 「副詞」

「わしは地理学者じゃよ」と、老紳士が言った。

----Je suis géographe, dit le vieux monsieur. 《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」

Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

suis ｼｭｲ (être)v.i ～である 「動詞」

géographe, ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.f 地理学者 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le vieux monsieur. ﾙ･ｳﾞｨｭ･ﾑｼｭｰ n.m 老人は 「主語」

「地理学者って何ですか？」

---- Qu'est-ce qu'un géographe? 《「補語」「動詞」「主語」》

Qu' ｹ pron 何 「補語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

ce qu'un géographe? ｽ･ｺﾝ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ pron 地理学者とは 「主語」

XV

「海や河や街や山や砂漠がどこにあるかを知っている学者のことじゃよ」

---- C'est un savant qui connaît où se trouvent les mers, les fleuves, les villes, les montagnes et les déserts. 《「主語」「動詞」「補語」》

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

un savant ｱﾝ･ｻｳﾞｫﾝ n. 学者 「補語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

connaît ｺﾈ 3 単現(connaître)v.t 知っている 「動詞」

où ｳ adv. どこに～するかということ 「目的語」

se trouvent ｽ･ﾄﾙｰｳﾞ 3 複現(se trouver)v.pr ある 「動詞句」

les mers, ﾚ･ﾒｰﾙ pl.n.f 海が 「主語」

les fleuves, ﾚ･ﾌﾙｰｳﾞ pl.n.m 大きな川が 「主語」

les villes, ﾚ･ｳﾞｨﾙ pl.n.f 町が 「主語」

les montagnes ﾚ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ pl.n.f 山が 「主語」

et ｴ conj. そして

les déserts. ﾚ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ pl.n.m 砂漠が 「主語」

「それはとても興味深いですね」と王子様は言った。「それこそ、本当の仕事だ！」

---- Ça c'est bien intéressant, dit le petit prince. Ça c'est enfin un véritable métier!

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」》

Ça c' ｻ･ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

bien intéressant, ﾋﾞｬﾝ･ｱﾝﾃﾚｿﾝ adj. とても興味深い 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

Ça c' ｻ･ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

enfin ｵﾝﾌｧﾝ adv. ついに、それこそ 「副詞」

un véritable métier! ｱﾝ･ｳﾞｪﾘﾀｰﾌﾞﾙ･ﾒﾁｴ n.m 本当の仕事 「補語」

そう言って、王子様は、地理学者の惑星の上をちらっと見まわした。

Et il jeta un coup d'oeil autour de lui sur la planète du géographe.

Et「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Et ｴ conj. そして

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

XV

jeta ｼﾞｭﾀ 3 単過(jeter)v.t 投げた 「動詞」
un coup d'oeil ｱﾝ･ｸ・ﾄﾞｩｲﾕ n.m 一瞥を 「目的語」
autour de lui ｵﾄｩｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾘｭｲ adv. 彼の周りを 「副詞句」
sur la planète du géographe. ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ｼﾞｭ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗｰﾌ
adv. 地理学者の惑星の上を 「副詞句」

彼はこんなにも威厳のある惑星を、それまでに一度も見たことがなかった。
Il n'avait jamais vu encore une planète aussi majestueuse.
「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
n'avait jamais vu ﾅｳﾞｪ･ｼﾞｬﾒ･ｳﾞｭ 3 単半･完了形･否定(voir)
v.t 見たことがなかった 「動詞句」
encore ｵﾝｺｰﾙ adv. まだ 「副詞」
une planète ﾕﾝﾇ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 惑星を 「目的語」
aussi majestueuse. ｵｼ･ﾏｼﾞｪｽﾁｭｰｽﾞ adj. これほど威厳のある 「形容詞句」

XV

「とても美しいですね、あなたの惑星は。大洋がありますか？」

Elle est bien belle, votre planète . Est-ce qu'il y a des océans?

《「主語」「動詞」「補語」,「主語」 | 「動詞句」「目的語」》

Elle ｴﾙ pron それは（実の主語は votre planète） 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

bien belle, ﾋﾞｬﾝ･ﾍﾞﾙ adj.f. とても美しい 「補語」

votre planète. ｳﾞｫﾄﾙ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f あなたの惑星は 「主語」

Est-ce qu'il y a ｴｽ･ｷ･ﾘ･ｱ 3 単現･疑問(avoir)v.t ありますか 「動詞句」

des océans? ﾃﾞ･ｿﾞｾｵﾝ pl.n.m 大洋が 「目的語」

「それを知ることができないのじゃ」と地理学者は言った。

----Je ne puis pas le savoir, dit le géographe. 《「主語」「動詞句」,「動詞」「主語」》

Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

ne puis pas +不定詞 ﾇ･ﾋﾟｭｲ･ﾊﾟ 1 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)

v. ～することができない 「動詞句」

le savoir, ﾙ･ｻｳﾞｧｰﾙ 不定詞(savoir+le)v.t それを知る 「動詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

「へええ！（王子様はがっかりした。）じゃあ、山は？」

----Ah! (Le petit prince était déçu.) Et des montagnes?

《「間投」（「主語」「動詞句」）,Et「目的語」》

Ah! ｱ int. ああ 「間投」

(Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

était déçu.) ｴﾃ･ﾃﾞｼｭ 3 単半･受動(décevoir)v.t 失望した 「動詞句」

Et ｴ conj. それじゃあ

des montagnes? ﾃﾞ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ pl.n.f 山は？ 「目的語」

「それを知ることができないのじゃ」と地理学者は言った。

----Je ne puis pas le savoir, dit le géographe.

《「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」

Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

ne puis pas +不定詞 ﾇ･ﾋﾟｭｲ･ﾊﾟ 1 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)

v. ～することができない 「動詞句」

le savoir, ﾙ･ｻｳﾞｧｰﾙ 不定詞(savoir+le)v.t それを知る 「動詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

XV

le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

「じゃあ、街や河や砂漠は？」

----Et des villes et des fleuves et des déserts?

《Et「目的語」et「目的語」et「目的語」》

Et ｴ conj. それじゃあ

des villes ﾃﾞ･ｳﾞｨﾙ pl.n.f 街 「目的語」

et ｴ conj. それに

des fleuves ﾃﾞ･ﾌﾙｰｳﾞ pl.n.m 大きな川 「目的語」

et ｴ conj. それに

des déserts? ﾃﾞ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ pl.n.m 砂漠 「目的語」

「それも知ることができない」と地理学者は言った。

----Je ne puis pas le savoir non plus, dit le géographe.

《「主語」「動詞句」「副詞句」》,「動詞」「主語」

Je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

ne puis pas +不定詞 ﾇ･ﾋﾟｭｲ･ﾊﾟ 1 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)

v. ～することができない 「動詞句」

le savoir, ﾙ･ｻｳﾞｧｰﾙ 不定詞(savoir+le)v.t それを知る 「動詞句」

non plus ﾉﾝ･ﾌﾟﾘｭ adv. もまた～でない 「副詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

「だって、あなたは地理学者でしょう！」

----Mais vous êtes géographe! 《Mais「主語」「動詞」「補語」》

Mais ﾒ conj. だけど

vous ｳﾞ pron あなたは 「主語」

êtes ｴｯﾄ 2 複現(être)v.i ～である 「動詞」

géographe! ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者 「補語」

「そのとおり」と地理学者は言った。

----C'est exact, dit le géographe, 《「主語」「動詞」「補語》」,「動詞」「主語」,

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

exact, ｴｸﾞｻﾞ adj. 正しい、その通り 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

XV

le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

「だが、わしは探検家ではない。探検家がいなくて、本当に困っていたのじゃ」

mais je ne suis pas explorateur. Je manque absolument d'explorateurs.

《mais「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」》

mais ﾒ conj. しかし

je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

ne suis pas ﾇ･ｼｭｲ･ﾊﾟ 1 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

explorateur. ｴｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ n.m 探検家 「補語」

Je ｼﾞｭ pron わしは 「主語」

manque ﾓﾝｷ 1 単現(manquer)v.i (de が) 不足している 「動詞」

absolument ｱﾌﾟｿﾘｭﾓﾝ adv. まったく、絶対的に 「副詞」

d'explorateurs. ﾃﾞｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ adv. 探検家が 「間接目的語」

「街や河や山や海や大洋や砂漠を数えに行くのは、地理学者ではない。

Ce n'est pas le géographe qui va faire le compte des villes, des fleuves, des montagnes, des mers, des océans et des déserts. 《「動詞句」「補語」「主語」

Ce ｽ pron それは（形式主語：真の主語は qui 節）

n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「補語」

qui ｷ conj. ～する人は 「主語」

va faire ｳﾞｧ･ﾌｪｰﾙ 3 単現(aller+不定詞)v.t ～しに行く 「動詞句」

le compte ﾙ･ｺﾝﾄ n.m 計算、数えること 「目的語」

des villes, ﾃﾞ･ｳﾞｨﾙ adj. 街の 「形容詞句」

des fleuves, ﾃﾞ･ﾌﾚｰｳﾞ adj. 大きな川の 「形容詞句」

des montagnes, ﾃﾞ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ adj. 山の 「形容詞句」

des mers, ﾃﾞ･ﾒｰﾙ adj. 海の 「形容詞句」

des océans ﾃﾞ･ｿﾞｾｵﾝ adj. 大洋の 「形容詞句」

et ｴ conj. そして

des déserts. ﾃﾞ･ｾｾﾞｰﾙ adj. 砂漠の 「形容詞句」

地理学者はとても大事な仕事をしているので、ぶらぶら歩いたりできんのだ。」

Le géographe est trop important pour flâner. 「主語」「動詞」「補語」》

Le géographe ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

trop important pour +不定詞 ﾄﾛ･ｱﾝﾎﾟﾙﾄﾝ･ﾌﾟｰﾙ

XV

adj. あまりに重要な仕事すぎて～できない 「補語」
flâner. ﾌﾗﾈ 不定詞 v.i 散歩する 「動詞」

「仕事部屋を離れたりしない。
Il ne quitte pas son bureau. 《「主語」「動詞句」「目的語」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
ne quitte pas ﾇ･ｷｯﾄ･ﾊﾟ 3 単現･否定(quitter)v.t 離れない 「動詞句」
son bureau. ｿﾝ･ﾋﾞｭﾛｰ n.m 仕事部屋を 「目的語」

だけど、探検家たちを部屋に入れて、いろいろ尋ねて、その見聞をノートにとったりする」
Mais il y reçoit les explorateurs. Il les interroge, et il prend en note leurs souvenirs.
Mais「主語」「副詞」「動詞」「目的語」
「主語」「間接目的語」「動詞」et「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」》
Mais ﾒ conj. しかし
y ｲ adv. そこに 「副詞」
reçoit ﾙｽわ 3 単現(recevoir)v.t 招き入れる 「動詞」
les explorateurs. ﾚ･ｾﾞｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ pl.n.m 探検家たちを 「目的語」
les ﾚ pron.pl. 彼らに 「間接目的語」
interroge, ｱﾝﾃﾛｼﾞｭ 3 単現(interroger)v.t 尋ねる 「動詞」
et ｴ conj. そして
prend ﾌﾟﾛﾝ 3 単現(prendre)v.t とる 「動詞」
en note ｵﾝ･ﾉﾄ adv. ノートに 「副詞句」
leurs souvenirs. ﾚｰﾙ･ｽｳﾞﾆｰﾙ pl.n.m 彼らの見聞を 「目的語」

「そして、そのうちの一人の見聞が興味深いと思われたら、地理学者はその探検家の品行を調査させる」
Et si les souvenirs de l'un d'entre eux lui paraissent intéressants, le géographe fait faire une enquête sur la moralité de l'explorateur.
《Et「副詞節」,「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」》
Et ｴ conj. そして
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
les souvenirs ﾚ･ｽｳﾞﾆｰﾙ pl.n.m 見聞が 「主語」
de l'un d'entre eux ﾄﾞｩ･ﾗﾝ･ﾄﾞﾝﾄﾙ･ｳｰ adj. それらの内の 1 人の「形容詞句」
lui ﾘｭｲ pron 彼にとって 「間接目的語」
paraissent ﾊﾟﾚｽ 3 複現(paraître)v.i ～に思われる 「動詞」
intéressants, ｱﾝﾃﾚｿﾝ adj. 興味深い 「補語」

XV

le géographe ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」
fait faire ﾌｪ･ﾌｪｰﾙ 3 単現･使役(faire+不定詞)v.t ～させる 「動詞句」
une enquête ﾕﾝﾇ･ｵﾝｹｰﾄ n.f 調査を 「目的語」
sur la moralité ｼｭﾙ･ﾗ･ﾓﾗﾘﾃ adv. 品行について 「副詞句」
de l'explorateur. ﾄﾞｩ･ﾚｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ adj. その探検家の 「形容詞句」

「なぜ、そんなことを？」
----Pourquoi ça? 《「副詞」「目的語」》
Pourquoi ﾌﾟﾙｸｨ adv. どうして 「副詞」
ça? ｻ pron そんなことを 「目的語」

「嘘をつくような探検家は、地理学の本を台なしにしてしまう。
----Parce qu'un explorateur qui mentirait entraînerait des catastrophes dans les livres de géographie. 《Parce qu'「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Parce qu' ﾊﾟﾙｽｸ conj. ～だから
un explorateur ｱ･ﾈｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ n.m 探検家は 「主語」
qui mentirait ｷ･ﾓﾝﾃｨﾚ adj.条・3 単現 嘘をつくかもしれない 「形容詞節」
entraînerait ｵﾝﾄﾚﾇﾚ 条・3 単現(entraîner)v.t（結果を）もたらすかもしれない 「動詞」
des catastrophes ﾃﾞ･ｷｬﾀｽﾄﾛﾌ pl.n.f 破局を 「目的語」
dans les livres de géographie. ﾄﾞﾝ･ﾚ･ﾘｰｳﾞﾙ･ﾄﾞｩ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌｨ
adv. 地理学の本の内容に 「副詞句」

また、大酒を飲むような探検家も、同じことじゃ」
Et aussi un explorateur qui boirait trop. Et「主語」》
Et ｴ conj. そして
aussi un explorateur ｵｼ･ｱ･ﾈｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ n.m 探検家も 「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
boirait ﾌﾞｨﾚ 条・3 単現(boire)v.t 酒をのむような 「動詞」
trop. ﾄﾛ adv. あまりにもたくさん 「副詞」

「なぜ、そんなことに？」と王子様は言った。
----Pourquoi ça? fit le petit prince. 《「副詞」「主語」》,「動詞」「主語」
Pourquoi ﾌﾟﾙｸｨ adv. どうして 「副詞」
ça? ｻ pron 酔っ払いが 「主語」
fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

XV

「なぜかっていうと、酔っぱらいは物が二重に見えるからじゃよ。

----Parce que les ivrognes voient double. 《Parce que「主語」「動詞」「副詞」

Parce que ﾊﾟﾙｽ･ｸ conj. ～だから

les ivrognes ﾚ･ｼﾞｳﾞﾛﾆｭ pl.n. 酔っ払いは 「主語」

voient ｳﾞｫ 3 複現(voir)v.t 見える 「動詞」

double. ﾄﾞｩｰﾌﾞﾙ adv. 2 重に 「副詞」

そうすると、地理学者は、山が一つしかないところに、二つも記入してしまう」

Alors le géographe noterait deux montagnes, là où il n'y en a qu'une seule.

「副詞」「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

Alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」

le géographe ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

noterait ﾉﾄｩﾚ 条・3 単現(noter)v.t 記入するかもしれない 「動詞」

deux montagnes, ﾄﾞｩ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ pl.n.f 山を 2 つ 「目的語」

là ﾗ adv. そこに 「副詞」

où ｳ adv. ～する 「副詞節」

il n'y en a ｲﾙ･ﾆ･ｵ･ﾅ 3 単現･否定(avoit)v.t ない 「動詞句」

qu'une seule. ｷｭﾝﾇ･ｽｰﾙ n.f 1 つしか 「目的語」

「ある人をしってるけど、その人は悪い探検家かもしれない」

----Je connais quelqu'un, dit le petit prince, qui serait mauvais explorateur.

《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「補語」》

Je ｼﾞｭ pron ぼくは 「主語」

connais ｺﾈ 1 単現(connaître)v.t 知っている 「動詞」

quelqu'un, ｹﾙｶﾝ pron ある人を 「目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

qui ｷ pron その人は 「主語」

serait ｽﾚ 条・3 単現(être)v.i ～かもしれない 「動詞」

mauvais explorateur. ﾓｳﾞｪ･ｴｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ n.m 悪い探検家 「補語」

「そうかもしれない。

----C'est possible. 《「主語」「動詞」「補語」

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

XV

possible. ﾎﾟｯｼｰﾌﾞﾙ adj. ありうる 「補語」

だから、探検家の品性がよいように見えるときには、彼の発見したことを調査するのじゃ」

Donc, quand la moralité de l'explorateur paraît bonne, on fait une enquête sur sa découverte. 「副詞句」,「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

Donc, ﾄﾞﾝ adv. だから 「副詞」

quand ｺﾝ conj. ～するときは 「副詞節」

la moralité de l'explorateur ﾗ･ﾓﾗﾘﾃ･ﾄﾞｩ･ﾚｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ

n.f 探検家の品行が 「主語」

paraît ﾊﾟﾚ 3 単現(praître)v.i ～のように見える 「動詞」

bonne, ﾎﾞﾝﾇ adj.f. よい 「補語」

on ｵﾝ pron 私たち地理学者は 「主語」

fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.t する、行う 「動詞」

une enquête ﾕﾝﾇ･ｵﾝｹｯﾄ n.f 調査を 「目的語」

sur sa découverte. ｼｭｰﾙ･ｻ･ﾃﾞｸｳﾞｪﾙﾄ adv. 彼の発見について 「副詞句」

「見に行くんですか？」

----On va voir? 《「主語」「動詞句」》

On ｵﾝ pron あなたが 「主語」

va voir? ｳﾞｧ･ｳﾞｫｰﾙ 3 単現(aller+不定詞)v.t 見に行く 「動詞句」

「いや、行かない。それはあまりに複雑だからね。

----Non. C'est trop compliqué. 《「応答」 | 「主語」「動詞」「補語」

Non. ﾉﾝ adv. いや 「応答」

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

trop compliqué. ﾄﾛ･ｺﾝﾌﾟﾘｹ adj. 複雑すぎる 「補語」

だけど、探検家に証拠の提出を求める」

Mais on exige de l'explorateur qu'il fournisse des preuves.

Mais「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

Mais ﾒ conj. しかし

on ｵﾝ pron（動詞はは人称単数）わしは 「主語」

exige ｴｸﾞｼﾞｼﾞｭ 3 単現(exiger)v.t 強く求める 「動詞」

de l'explorateur ﾄﾞｩ･ﾚｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ adv. その探検家に 「間接目的語」

qu' ｸ conj. ～することを 「直接目的語」

XV

il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
fournisse ﾌﾙﾆｽ 接・3 単現(fournir)v.t 提出する 「動詞」
des preuves. ﾃﾞ・ﾌﾟﾙｰｳﾞ pl.n.f 証拠を 「目的語」

「例えば大きな山が見つかったような場合、その山の大きな岩を持ってきてもらうよう要求する」
S'il s'agit par exemple de la découverte d'une grosse montagne, on exige qu'il en rapporte de grosses pierres. 》
《「副詞節」,「主語」「動詞」「目的語」》
S' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il s'agit ｲﾙ･ｻｼﾞ 3 単現(s'agir de+qch)v.h ～が問題である 「動詞句」
par exemple ﾊﾟｰ･ﾚｸﾞｿﾞﾝﾌﾟﾙ adv. 例えば 「副詞句」
de la découverte ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾃﾞｸｳﾞｪﾙﾄ adv. 発見が 「間接目的語」
d'une grosse montagne, ﾃﾞｭﾝﾇ･ｸﾞﾛｽ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ adj. 大きい山の「形容詞句」
on ｵﾝ pron わしは 「主語」
exige ｴｸﾞｼﾞｼﾞｭ 1 単現(exiger)v.t 強く求める 「動詞」
qu' ｸ conj. ～ということを 「目的語」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
en ｵﾝ adv. その山から 「副詞」
rapporte ﾗﾎﾟﾙﾄ 3 単現(raporter)v.t 持ち帰る 「動詞」
de grosses pierres. ﾄﾞｩ･ｸﾞﾛｽ･ﾋﾟｴｰﾙ pl.n.f 大きな石を 「目的語」

地理学者は、急に、興奮して言った。
Le géographe soudain s'émut. 「主語」「副詞」「動詞句」
Le géographe ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」
soudain ｽﾀﾞﾝ adv. 突然、急に 「副詞」
s'émut. ｾﾐｭ 3 単過(s'émouvoir)v.pr 興奮した 「動詞句」

「だけどきみ、きみは遠くから来たんだ。
《Mais toi, tu viens de loin! 《「呼びかけ」「主語」「動詞」「副詞句」
Mais toi, ﾒ･ﾄｫ adv. しかし君 「呼びかけ」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
viens ｳﾞｨｬﾝ 2 単現(venir)v.i 来た 「動詞」
de loin! ﾄﾞｩ･ﾙｫﾝ adv. 遠くから 「副詞句」

探検家だろう！君の星の様子を話してくれ！」

XV

Tu es explorateur! Tu vas me décrire ta planète! 》

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」》

Tu チュ pron 君は 「主語」

es エ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」

explorateur! ｴｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ n.m 探検家 「補語」

Tu チュ pron 君は 「主語」

vas +不定詞 ｳﾞｧ 2 単現･命令(tu va+不定詞)v.t ～してくれ 「動詞句」

me ﾒ pron わしに 「間接目的語」

décrire ﾃﾞｸﾘｰﾙ 不定 v.t 話して聞かせる 「動詞」

ta planète! ﾀ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 君の星のことを 「直接目的語」

そう言って、地理学者は登録簿をひらいて、鉛筆を削った。

Et le géographe, ayant ouvert son registre, tailla son crayon.

Et「主語」,「副詞句」,「動詞」「目的語」

Et ｴ conj. そして

le géographe, ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

ayant ouvert ｴﾖﾝ･ｳｳﾞｪｰﾙ 現在分詞・完了形(ouvrir)adv. ～を開いて 「副詞句」

son registre, ｿﾝ･ﾚｼﾞｽﾄﾙ n.m 登録簿を 「目的語」

tailla ﾀｲﾔ 3 単過(tailler)v.t 削った 「動詞」

son crayon. ｿﾝ･ｸﾚﾖﾝ n.m 鉛筆を 「目的語」

まず鉛筆で探検家たちの話をノートし、

On note d'abord au crayon les récits des explorateur.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

On ｵﾝ pron 地理学者は 「主語」

note ﾉﾄｩ 3 単現(noter)v.t 書き留める 「動詞」

d'abord ﾀﾞﾎﾞｰﾙ adv. まず、最初は 「副詞句」

au crayon ｵ･ｸﾚﾖﾝ adv. 鉛筆で 「副詞句」

les récits ﾚ･ﾚｼ pl.n.m 話を 「目的語」

des explorateur. ﾃﾞ･ｾﾞｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ adj. 探検家の 「形容詞句」

探検家が証拠を提出してくるのを待って、それを清書するのだ。

On attend, pour noter à l'encre, que l'explorateur ait fourni des preuves.

「主語」「動詞」,「副詞句」,「目的語」

On ｵﾝ pron 地理学者は 「主語」

attend, ｱﾄﾝ 3 単現(attendre)v.t ～を待つ 「動詞」

XV

pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」
noter ﾉﾃ 不定詞 v.t 記録する 「動詞」
à l'encre, ｱ･ﾛﾝｸﾙ adv.（手段）インクで 「副詞句」
que ｸ conj. ～ということを 「目的語」
l'explorateur ﾚｸｽﾌﾟﾛﾗﾃｰﾙ n.m 探検家が 「主語」
ait fourni ｴ･ﾌﾙﾆ 接・3 単現･完了形(fournir)v.t 提出してくれる 「動詞句」
des preuves. ﾃﾞ･ﾌﾟﾙｰｳﾞ pl.n.f 証拠の品を 「目的語」

「では？」と地理学者はうながした。
《Alors? interrogea le géographe. 《「呼びかけ」》,「動詞」「主語」
Alors? ｱﾛｰ adv. それでは 「呼びかけ」
interrogea ｱﾝﾃﾛｼﾞｬ 3 単過(interroger)v.t 尋ねた 「動詞」
le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

「そうですね、ぼくのところは」と、王子さまは言った。「あまり面白くありませんよ。
----Oh! chez moi, dit le petit prince, ce n'est pas très intéressant,
《「応答」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞句」「補語」,
Oh! chez moi, ｵｰ･ｼｪ･ﾑｫ adv. えーと、僕のところは 「応答」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
ce ｽ pron それは 「主語」
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
très intéressant, ﾄﾚ･ｻﾞﾝﾃﾚｿﾝ adj.（否定文で）あまり面白くない 「補語」

ちっぽけなんです。火山が三つあって、そのうちの二つは活火山で、一つは休火山です。
c'est tout petit. J'ai trois volcans. Deux volcans en activité, et un volcan éteint.
「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「補語」et「主語」「補語」
c' ｽ pron 星は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
tout petit. ﾄｽ･ﾌﾟﾃｨ adj. まったく小さい 「補語」
J' ｼﾞｭ pron ぼくは 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t 持っている 「動詞」
trois volcans. ﾄﾙｫ･ｳﾞｫﾙｺﾝ pl.n.m 火山を 3 つ 「目的語」
Deux volcans ﾄﾞｩ･ｳﾞｫﾙｺﾝ 2 つの火山は 「主語」
en activité, ｵﾝ･ｱｸﾃｨｳﾞｨﾃ adv. 活動中 「補語」
et ｴ conj. そして

XV

un volcan ｱﾝ･ｳﾞｫﾙｺﾝ n.m 一つは 「主語」
éteint. ｴﾀﾝ adj. 活気のない、休んでいる 「補語」

でも、いつ火を噴くかは絶対にわかりません」
Mais on ne sait jamais. Mais「主語」「動詞句」》
Mais ﾒ conj. しかし
on ｵﾝ pron 誰も 「主語」
ne sait jamais. ﾇ･ｾ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(savoir)
v.t（何が起こるかなんて）わからない 「動詞句」

「絶対にわからないさ」と地理学者は言った。
----On ne sait jamais, dit le géographe. 《「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」
On ｵﾝ pron 誰も 「主語」
ne sait jamais. ﾇ･ｾ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(savoir)
v.t（何が起こるかなんて）わからない 「動詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

「花も一輪あります」
----J'ai aussi une fleur. 《「主語」「動詞」「目的語」》
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t 持っている 「動詞」
aussi une fleur. ｵｼ･ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花も一輪 「目的語」

「花は記録しないよ」と地理学者は言った。
----Nous ne notons pas les fleurs, dit le géographe.
《「主語」「動詞句」「目的語」》,「動詞」「主語」
Nous ﾇ pron 地理学者は 「主語」
ne notons pas ﾇ･ﾉﾄﾝ･ﾊﾟ 1 複現･否定(noter)v.t 記録しない 「動詞句」
les fleurs, ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花は 「目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

「なぜ！それはいちばんきれいなのに！」
----Pourquoi ça! c'est le plus joli! 《「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》
Pourquoi ﾌﾟﾙｸｨ adv. どうして 「副詞句」

XV

ça! ｻ pron そう 「目的語」
c' ｽ pron 花は 「主語」
est ｪ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
le plus joli! ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ｼﾞｮﾘ adj. いちばんきれいな 「補語」

「なぜって、花ははかないからね」
----Parce que les fleurs sont éphémères. 《Parce que「主語」「動詞」「補語」》
Parce que ﾊﾟﾙｽ･ｸ conj. なぜなら～だから
les fleurs ﾚ･ﾌﾚｰﾙ pl.n.f 花は 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
éphémères. ｴﾌｪﾒｰﾙ adj.pl. はかない 「補語」

「『はかない』って、どういう意味ですか？」
----Qu'est-ce que signifie : "éphémère"? 《「目的語」「動詞」「主語」》
Qu'est-ce que ｹｽ･ｸ pron 何を 「目的語」
signifie ｼﾆｼ 3 単現(signifier)v.t 意味する 「動詞」
éphémère ｴﾌｪﾒｰﾙ adj. 「はかない」という言葉は 「主語」

「地理学書というのは、あらゆる書物の中でいちばん信用がおけるものなんだ。
----Les géographies, dit le géographe, sont les livres les plus sérieux de tous les livres.
《「主語」》,「動詞」「主語」,《「動詞」「補語」
Les géographies, ﾚ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌｨ pl.n.f 地理学書は 「主語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le géographe, ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者が 「主語」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
les livres ﾚ･ﾘｰヴﾞﾙ pl.n.m 本 「補語」
les plus sérieux ﾚ･ﾌﾟﾘｭ･ｾﾘｭ adj.pl. 最も信頼のできる 「形容詞句」
de tous les livres. ﾄﾞｩ･ﾄｩ･ﾚ･ﾘｰヴﾞﾙ adv. あゆる本の中で 「副詞句」

流行おくれには絶対ならない」
Elles ne se démodent jamais. 「主語」「動詞句」》
Elles ｴﾙ pron.f.pl. 地理学書は 「主語」
ne se démodent jamais. ﾇ･ｽ･ﾃﾞﾓｯﾄﾞ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(se démoder)
v.pr 時代遅れにならない 「動詞句」

XV

「山の位置が移動するってことはめったにない。

Il est très rare qu'une montagne change de place. 《「動詞」「補語」「主語」

Il ｲﾙ pron 仮の主語（真の主語は qu'以降の節）

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

très rare ﾄﾚ･ﾗｰﾙ adj. 滅多にない 「補語」

qu' ｸ conj. ～ということは 「主語」

une montagne ﾕﾝﾇ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ n.f 山が 「主語」

change ｼｮﾝｼﾞｭ 3 単現(changer)v.i (de が) 変わる 「動詞」

de place. ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗｽ adv. 位置が 「間接目的語」

大洋の水が空になることもめったにない。

Il est très rare qu'un océan se vide son eau. 「動詞」「補語」「主語」

Il ｲﾙ pron 仮の主語（真の主語は qu'以降の節）

est ｴ (être)v.i ～である 「動詞」

très rare ﾄﾚ･ﾗｰﾙ adj. 滅多にない 「補語」

qu' ｸ conj. ～ということは 「主語」

un océan ｱﾝ･ｵｾｱﾝ n.m 大洋が 「主語」

se vide ｽ･ｳﾞｨﾄﾞｩ 3 単現(se vider)v.pr (de が) なくなる 「動詞」

son eau. ｿﾝ･ﾉ n.f 水が 「間接目的語」

われわれは永遠のものを記入しているんだよ」

Nous écrivons des choses éternelles. 「主語」「動詞」「目的語」》

Nous ﾇ pron 我々は 「主語」

écrivons ｴｸﾘｳﾞｫﾝ 1 複現(écrire)v.t 書き記している 「動詞」

des choses éternelles. ﾃﾞ･ｼｮｰｽﾞ･ｴﾃﾙﾈﾙ pl.n.f 永遠のものを 「目的語」

「でも、休火山は目を覚ますこともありますよ」と、王子様は口をはさんだ。

----Mais les volcans éteints peuvent se réveiller, interrompit le petit prince.

《Mais「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」,

Mais ﾒ conj. でも

les volcans éteints ﾚ･ｳﾞｫﾙｺﾝ･ｴﾀﾝ pl.n.m 休火山は 「主語」

peuvent se réveiller, ﾌﾟｰｳﾞ･ｽ･ﾚｳﾞｪｲｪ 3 複現･可能性(pouvoir+不定詞 se réveiller)

v.pr 目を覚ますかもしれない 「動詞句」

interrompit ｱﾝﾃﾛﾝﾋﾟ 3 単過(interrompre)v.t 話をさえぎった 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

XV

「『はかない』って、どういう意味なんですか？」

Qu'est-ce que signifie : "éphémère"? 《「目的語」「動詞」「主語」》

Qu'est-ce que ｹｽ･ｸ pron 何を 「目的語」

signifie ｼﾆｼ 3 単現(signifier)v.t 意味する 「動詞」

éphémère ｴﾌｪﾒｰﾙ adj. 「はかない」という言葉は 「主語」

「火山が休んでいようが目を覚ましていようが、我々にとっては同じことだよ」と地理学者は言った。

----Que les volcans soient éteints ou soient éveillés, ça revient au même pour nous autres, dit le géographe. 《「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》,「動詞」「主語」

Que ｸ conj. ～ということ 「主語」

les volcans ﾚ･ｳﾞｫﾙｺﾝ pl.n.m 火山が 「主語」

soient ｽわ 接・3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

éteints ｴﾀﾝ adj. 休んでいる「補語」

ou ｳ conj. または

soient ｽわ 接・3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

éveillés, ｴｳﾞｪｲｪ adj. 目を覚ましている 「補語」

ça ｻ pron それは 「主語」

revient ﾙｳﾞｨﾔﾝ 3 単現(revenir)v.i (à に) 結果になる 「動詞」

au même ｵ･ﾒｰﾑ adv. 同じに 「補語」

pour nous autres, ﾌﾟｰﾙ･ﾇ･ｿﾞｰﾄﾙ adv. 我々にとって 「副詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

「われわれにとって大切なのは、山なんだ。山は変化しないよ」

Ce qui compte pour nous, c'est la montagne. Elle ne change pas.

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」》

Ce qui ｽ･ｷ conj. ～するものは 「主語」

compte ｺﾝﾄｳ 3 単現(compter)v.i 重要である、価値がある 「動詞」

pour nous, ﾌﾟｰﾙ･ﾇ adv. 我々にとって 「副詞句」

c' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

la montagne. ﾗ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ n.f 山 「補語」

Elle ｴﾙ pron 山は 「主語」

ne change pas. ﾇ･ｼｮﾝｼﾞｭ･ﾊﾟ 3 単現･否定(changer)v.i 変化しない 「動詞句」

XV

「だけど、『はかない』って、どういう意味なんですか？」と王子様は繰り返した。

Mais qu'est-ce que signifie "éphémère"? répéta le petit prince

《「目的語」》,「動詞」「主語」

Mais qu'est-ce que signifie "éphémère"? メ・ケスク・シニフィエ・エフェメール

n. 「でも、はかないってどういう意味なの？」 「目的語」

répéta レペタ 3 単過(répéter)v.t 繰り返した 「動詞」

le petit prince ル・プティ・プランス n.m 王子様は 「主語」

彼はこれまで、いったん質問しだしたら決して諦めたことがなかった。

qui, de sa vie, n'avait renoncé à une question, une fois qu'il l'avait posée.

「主語」「副詞句」「動詞句」「間接目的語」

qui, キ pron 彼は 「形容詞節」

de sa vie, ドゥ・サ・ヴィー adv. 決して 「副詞句」

n'avait renoncé ナヴェ・ルノンセ 3 単半・完了形・否定(renoncer)

v.i (à を) 諦めたことがなかった 「動詞句」

à une question, ア・ユンヌ・ケスチョン adv. 質問を 「間接目的語」

une fois ユンヌ・フわ adv. 一度 「副詞句」

qu' ク pron ～する 「形容詞節」

il イル pron 彼が 「主語」

l' ル pron 質問を 「目的語」

avait posée. アヴェ・ポゼ 3 単半・完了形(poser)

v.t（質問を）した 「動詞句」

「それは、『近く消滅する危機におびやかされている』という意味だ」

----Ça signifie "qui est menacé de disparition prochaine.".

《「主語」「動詞」「目的語」》

Ça サ pron それは 「主語」

signifie シニフィ 3 単現(signifier)v.t ～を意味する 「動詞」

n. ～ということを 「目的語」

qui キ pron それが 「主語」

est menacé エ・ムナセ 3 単現・受動.m(menacer de+名詞)

v.t ～すると言って脅かされている 「動詞句」

menacer qn. de+名詞（de+不定詞）（人を）～するぞと言って脅かす

de disparition prochaine. ドゥ・ディスパリション・プロシェンヌ adv. 間近の消滅 「副詞句」

XV

「僕の花は、近く消滅する危機に脅かされているんですか？」

----Ma fleur est menacée de disparition prochaine? 《「主語」「動詞句」「副詞句」》

「もちろんさ」

----Bien sûr. 》 《「応答」》

Ma fleur マ・フレール n.f 僕の花は 「主語」

est menacée エ・ムナセ 3 単現・受動.f(menacer de+名詞)

v.t ～すると言って脅かされている 「動詞句」

de disparition prochaine. ドゥ・ディスパリション・プロシェンヌ adv. 間近の消滅 「副詞句」

「僕の花は、近く消滅する危機に脅かされているんですか？」

----Ma fleur est menacée de disparition prochaine? 《「主語」「動詞句」「副詞句」》

「もちろんさ」

----Bien sûr. 》 《「応答」》

Bien sûr. ビヤン・シュール adv. その通りだ、もちろん 「応答」

《僕の花ははかないんだ》と王子様は思った。

《Ma fleur est éphémère, se dit le petit prince,

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,

Ma fleur マ・フレール n.f 僕の花は 「主語」

est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

éphémère, エフェメール adj. はかない、束の間の 「補語」

se dit ス・ディ 3 単過(se dire)v.pr 思った 「動詞」

le petit prince, ル・プティ・プランス n.m 王子様は 「主語」

《それなのに、世間から身を守るのに四つの棘しかもっていないなんて！

et elle n'a que quatres épines pour se défendre contre le monde!

《et「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

et エ conj. そして、それでも、しかし

elle エル pron それは 「主語」

n'a que ナ・ク 3 単現・否定(avoir)v.t ～しか持っていない 「動詞句」

quatres épines クわトル・ゼピーヌ pl.n.f 4 本のとげ 「目的語」

pour +不定詞 プール adv.（目的）～するために 「副詞句」

se défendre ス・デフォンドル 不定詞 v.pr 身を守る 「動詞句」

contre le monde! コントル・ル・モンド adv. 世間から 「副詞句」

それなのに、ぼくは彼女を僕の星に、たったひとりに置き去りにしたんだ！》

XV

Et je l'ai laissée toute seule chez moi! 》

Et「主語」「目的語」「動詞句」「補語」「副詞句」》

Et ｴ conj. それなのに

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

l' ﾗ pron あの花を 「目的語」

ai laissée ｴ･ﾚｯｾ 1 単現･完了形(laisser)v.t 置いてきた 「動詞句」

toute seule ﾄｳｯﾄ･ｽﾙ adj.f たった一人ぼっちの 「補語」

chez moi! ｼｪ･ﾑわ adv. 僕の星に 「副詞句」

それは、彼の最初の後悔の念の発動だった。でも、また気を取り直した：

Ce fut là son premier mouvement de regret. Mais il reprit courage：

「主語」「動詞」「副詞」「補語」 | Mais「主語」「動詞」「目的語」：

Ce ｽ pron それは 「主語」

fut ﾌｭ 3 単過(être)v.i ～だった 「動詞」

là ﾗ adv. まさに 「副詞」

son premier mouvement ｿﾝ･ﾌﾟﾙﾐｴ･ﾑｰｳﾞﾓﾝ n.m 最初の衝動 「補語」

de regret. ﾄﾞｩ･ﾙｸﾞﾚ adj. 後悔に対する 「形容詞句」

Mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

reprit ﾙﾌﾟﾘ 3 単過(reprendre)v.t 取り戻した 「動詞」

courage ｸﾗｰｼﾞｭ n.m 勇気を 「目的語」

「今度は、何を訪ねたらいいでしょうか？」と王子様は訊いた。

《Que me conseillez-vous d'aller visiter? demanda-t-il.

《「補語」「間接目的語」「動詞」「主語」「補語」》,「動詞」「主語」

Que ｸ pron どこを（visiter の目的語） 「補語」

Vous me conseillez d'aller visiter **que**?

あなたは私に何処を訪問するように勧めますか？

me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」

conseillez ｺﾝｾｲｪ 2 単現(conseiller)v.t 勧める 「動詞」

conseiller à qn. de+不定詞 （人）に～するように勧める(VOC)

vous ｳﾞ pron あなたは 「主語」

d'aller visiter? ﾀﾞﾚ･ｳﾞｨｼﾞﾃ 不定詞 v.i 訪問することを 「補語」

demanda ﾄﾞｩﾓﾝﾀﾞ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」

il. ｲﾙ pron 王子様は 「主語」

XVI

「地球という惑星がいいよ」と地理学者は答えた。「地球は評判がいいし...」

---La planète Terre, lui répondit le géographe. Elle a une bonne réputation 》

《「直接目的語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「目的語」》

La planète Terre, ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ﾃｰﾙ n.f 地球を 「直接目的語」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.t と答えた 「動詞」

le géographe. ﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ n.m 地理学者は 「主語」

Elle ｴﾗ pron それは 「主語」

a ｱ 3 単現(avoir)v.t ある 「動詞」

une bonne réputation ﾕﾝﾇ･ﾎﾞﾝﾇ･ﾚﾋﾟｭﾀｼｮﾝ n.f よい評判 「目的語」

そこで王子様は、自分の花のことを思いながら、そこから立ち去った。

Et le petit prince s'en fut, songeant à sa fleur. Et「主語」「動詞句」「副詞句」

Et ｴ conj. それで

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

s'en fut ｿﾝ･ﾌｭ 3 単過(s'en être)v.pr そこを立ち去った 「動詞句」

s'en aller と同じ意味。単純過去で用いるのは文語的

songeant ｿﾝｼﾞｮﾝ 現在分詞(songer à)adv.（～を）考えながら 「副詞句」

à sa fleur. ｱ･ｻ･ﾌﾚｰﾙ adv. 自分の花のことを 「間接目的語」

XVI

七番目の惑星は、だから、地球だった。地球はありふれた惑星ではない！

La septième planète fut donc la Terre. La Terre n'est pas une planète quelconque!

「主語」「動詞」「副詞句」「補語」 | 「主語」「動詞句」「補語」

La septième planète ﾗ･ｾｯﾁｪﾑ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 7 番目の惑星は 「主語」

fut ﾌｭ 3 単過(être)v.i ～だった 「動詞」

donc ﾄﾞﾝ adv. だから 「副詞句」

la Terre. ﾗ･ﾃｰﾙ n.f 地球 「補語」

La Terre ﾗ･ﾃｰﾙ n.f 地球は 「主語」

n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～ではない 「動詞句」

une planète ﾕﾝﾇ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 惑星 「補語」

quelconque! ｹﾙｺﾝｸ adj. ありふれた 「形容詞」

XVI

そこには、百十一人の王様（もちろん、それには黒人の王様も入る）、七千人の地理学者、九十万人の事業家、七百五十万人の酔っぱらい、三億一千百万人の見栄っ張りたち、つまり約二十億人の大人たちが住んでいる。

On y compte cent onze rois (en n'oubliant pas, bien sûr, les rois nègres), sept mille géographes, neuf cent mille businessmen, sept millions et demi d'ivrognes, trois cent onze millions de vaniteux, c'est-à-dire environ deux milliards de grandes personnes.

「動詞句」「目的語」（「副詞句」）,...,「目的語」

On ｵﾝ pron 人は 「主語」

y ｲ pron そこに（地上に） 「副詞」

compte ｺﾝﾄ 3 単現(compter)v.t 数え上げる「動詞」

→ On y compte そこに～がある、いる、住んでいる 「動詞句」

cent onze rois ｿﾝ･ｵｰﾝｽﾞ･ﾙわ pl.n.m 111 人の王様 「目的語」

(en n'oubliant pas, ｵﾝ･ﾇﾌﾞﾘｵﾝ･ﾊﾟ 現在分詞 adv. 忘れずに

en n'oubliant pas ～も含めて 「副詞句」

bien sûr, ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. 確かに、もちろん 「副詞句」

les rois nègres ﾚ･ﾙわ･ﾈｰｸﾞﾙ pl.n.m 黒人の王様 「目的語」),

sept mille géographes, ｾｯﾄ･ﾐﾙ･ｼﾞｪｵｸﾞﾗﾌ pl.n.m 7 千人の地理学者 「目的語」

neuf cent mille businessmen, ﾇﾌ･ｿﾝ･ﾐﾙ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ pl.n.m 90 万人の事業家 「目的語」

sept millions et demi d'ivrognes, ｾｯﾄ･ﾐﾘｵﾝ･ｴ･ﾄﾞｩﾐ･ﾃﾞｨｳﾞﾛﾆｭ

pl.n.m 700 万人の酔っ払い 「目的語」

trois cent onze millions de vaniteux, ﾄﾙわ･ｿﾝ･ｵｰﾝｽﾞ･ﾐﾘｵﾝ･ﾄﾞｩ･ｳﾞｧﾆﾄ

pl.n.m 3 億 1100 万人の見栄っ張り 「目的語」

c'est-à-dire ｾ･ﾀ･ﾃﾞｨｰﾙ adv. すなわち、つまり 「副詞句」

environ deux milliards de grandes personnes. ｵﾝｳﾞｨﾛﾝ･ﾄﾞｩ･ﾐﾘﾔｰﾙ･ﾄﾞｩ･ｸﾞﾛﾝﾄﾞ･ﾍﾟﾙｿﾝﾇ

pl.n. 約 20 億人の大人 「目的語」

地球の広さについておよその見当を君たちに与えるために、ぼくは次のように言いたい。それは、電気が発見される以前には、六大陸あわせて、一つの本物の軍隊ほどの四十六万二千五百十一人の点灯夫を保持する必要があったということだ。

Pour vous donner une idée des dimensions de la Terre je vous dirai qu'avant l'invention de l'électricité on y devait entretenir, sur l'ensemble des six continents, une véritable armée de quatre cent soixante-deux mille cinq cent onze allumeurs de réverbères.

「副詞句」,「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」

Pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」

vous ｳﾞ pron 君たちに 「間接目的語」

donner ﾄﾞﾈ 不定詞 v.t 与える 「動詞」

XVI

une idée ﾕﾝﾇ･ｲﾃﾞ n.f およその理解、概略 「直接目的語」
des dimensions de la Terre ﾃﾞ･ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ･ﾃﾞ･ﾗ･ﾃｰﾙ
adj. 地球の大きさについての 「形容詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
vous ｳﾞ pron 君たちに 「間接目的語」
dirai ﾃﾞｨﾚ 1 単未･意志(dire)v.t 言いたい 「動詞」
qu’ｸ conj. ～ということを 「直接目的語」
avant l’invention ｱｳﾞｫﾝ･ﾗﾝｳﾞｫﾝｼｮﾝ adv. 発明の前には 「副詞句」
de l’électricité ﾄﾞｩ･ﾚﾚｸﾄﾘｼﾃ adj. 電気の 「形容詞句」
on ｵﾝ pron 人は 「主語」
y ｲ pron そこに 「副詞」
devait entretenir, ﾄﾞｩｳﾞｪ･ｵﾝﾄﾙﾄｩﾆｰﾙ 3 単半･義務(devoir+不定詞)
v.t 保持しなければならなかった 「動詞句」
sur l’ensemble des six continents, ｼｭｰﾙ･ﾛﾝｿﾝﾌﾞﾙ･ﾃﾞ･ｼｽ･ｺﾝﾁﾉﾝ
adv. 6 大陸の合計で 「副詞句」
une véritable armée ﾕﾝﾇ･ｳﾞｪﾘﾀｰﾌﾞﾙ･ｱﾙﾒ n.f 本物の軍隊 「目的語」
de quatre cent soixante-deux mille cinq cent onze allumeurs
ﾄﾞｩ･ｸｧﾄﾙ･ｿﾝ･ｽｧｿﾝﾄ･ﾄﾞｩ･ﾐﾙ･ｻﾝｷ･ｿﾝ･ｵｰﾝｽﾞ･ｱﾘｭﾒｰﾙ
adj. 46 万 2511 人の点灯夫の 「形容詞句」
de réverbères. ﾄﾞｩ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ adj. 街灯の 「形容詞句」

少し離れて見ると、それはすばらいい効果をあげていた。
Vu d’un peu loin ça faisait un effet splendide. 「副詞句」,「主語」「動詞」「目的語」
Vu ｳﾞｭ 過去分詞(voir)v.t 見ると 「副詞句」
d’un peu loin ﾀﾞﾝ･ﾌﾟ･ﾙｧﾝ adv. 少し遠くから、少し離れて 「副詞句」
ça ｻ pron それは 「主語」
faisait ﾌｾﾞ 3 単半(faire)v.t 生み出していた 「動詞」
un effet ｱ･ﾈﾌｪ n.m 効果 「目的語」
splendide. ｽﾌﾟﾚﾝﾃﾞｨﾄﾞ adj. 素晴らしい 「形容詞」

この一軍の点灯夫たちの動きは、オペラのバレエ団の動きのように、規律が保たれていた。
Les mouvements de cette armée étaient réglés comme ceux d’un ballet d’opéra.
「主語」「動詞」「補語」「副詞句」
Les mouvements ﾚ･ﾑｳﾞﾓﾝ pl.n.m 動きは 「主語」
de cette armée ﾄﾞｩ･ｾｯﾄ･ｱﾙﾒ adj. この軍隊の 「形容詞句」
étaient ｴﾃ 3 複半(être)v.i ～だった 「動詞」

XVI

réglés ﾚｸﾞﾚ adj.pl 規律のある 「補語」
comme ｺﾑ adv. ～のように 「副詞句」
ceux d'un ballet d'opéra. ｿｰﾀﾞﾝ･ﾊﾞﾚ･ﾄﾞﾍﾟﾗ
pron.pl. オペラのバレー団の動き 「目的語」
ceux は Les mouvements に対応する

まず最初が、ニュージーランドとオーストラリアの点灯夫たちの番。

D'abord venait le tour des allumeurs de réverbères de Nouvelle-Zélande et d'Australie.
「副詞句」,「動詞」「主語」
D'abord ﾀﾞﾎﾞｰﾙ adv. 最初に 「副詞句」
venait ｳﾞﾈ 3 単半(venir)v.i 来た 「動詞」
le tour ﾙ･ﾄｩｰﾙ n.m 順番が 「主語」
des allumeurs de réverbères ﾃﾞ･ｻﾞﾘｭﾒｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ
adj. 街灯の点灯夫の 「形容詞句」
de Nouvelle-Zélande et d'Australie. ﾄﾞｳ･ﾇｳﾞｪﾙ･ｾﾞﾗﾝﾄﾞ･ｴ･ﾄﾞｽﾄﾗﾘ
adj. ニュージーランドとオーストラリアの 「形容詞句」

彼らは、登場して街灯に火をつけると、寝に行った。

Puis ceux-ci, ayant allumé leurs lampions, s'en allaient dormir.
「副詞」「主語」「副詞句」「動詞句」
Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
ceux-ci, ｽ･ｼ pron.pl 点灯夫たちは 「主語」
ayant allumé ｴﾖﾝ･ｱﾘｭﾒ 現在分詞･完了形(allumer)
adv. 点灯してから 「副詞句」
leurs lampions, ﾚｰﾙ･ﾛﾝﾋﾟｵﾝ pl.n.m 街灯を 「目的語」
s'en allaient dormir. ｿﾝ･ﾅﾚ･ﾄﾞﾙﾐｰﾙ 3 単半(s'en aller+ 不定詞 dormir)
v.pr 寝に行ってしまった 「動詞句」

すると今度は、中国とシベリアの点灯夫たちの番で、彼らが（起きあがって）踊りはじめた。

Alors entraient à leur tour dans la danse les allumeurs de réverbères de Chine et de Sibérie.
「副詞」「動詞」「副詞句」「主語」
Alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」
entraient ｴﾝﾄﾚ 3 複半(entrer)v.i 加わってきた 「動詞」
à leur tour ｱ･ﾚｰﾙ･ﾄｩｰﾙ adv. かれらの番になって 「副詞句」
dans la danse ﾄﾞﾝ･ﾗ･･ﾄﾞﾝｽ adv. 踊りの中に 「副詞句」
les allumeurs de réverbères ﾚ･ｱﾘｭﾒｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ

XVI

pl.n.m 街灯の点灯夫たちが 「主語」
de Chine et de Sibérie. ﾄﾞｩ･ｼﾇ･ｴ･ﾄﾞｩ･ｼﾍﾞﾘ adj. 中国とシベリアの 「形容詞句」

それから、彼らも舞台裏へ姿を消した。
Puis eux aussi s'escamotaient dans les coulisses. 「副詞」「主語」「動詞句」「副詞句」
Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
eux aussi ｲ･ｿﾞｼ pron.pl. 彼らもまた 「主語」
s'escamotaient ｾｽｶﾓﾃ 3 複半(s'escamoter)v.pr 姿を消した、隠れた 「動詞句」
dans les coulisses. ﾄﾞﾝ･ﾚ･ｸﾘｽ adv. 舞台裏に 「副詞句」

すると今度は、ロシアとインドの点灯夫たちの番。
Alors venait le tour des allumeurs de réverbère de Russie et des Indes.
「副詞」「動詞」「主語」
Alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」
venait ｳﾞﾈ 3 単半(venir)v.i 来た 「動詞」
le tour ﾙ･ﾄｩｰﾙ n.m 番が 「主語」
des allumeurs de réverbères ﾃﾞ･ｱﾘｭﾒｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ
adj.pl. 街灯の点灯夫たちの 「形容詞句」
de Russie et des Indes. ﾄﾞｩ･ﾘｭｼ･ｴ･ﾃﾞ･ｱﾝﾄﾞｩ
adj. ロシアとインドの 「形容詞句」

それから、アフリカとヨーロッパの点灯夫たちの番。
Puis de ceux d'Afrique et d'Europe. 「副詞」(「動詞」「主語」)
Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
de ceux ﾄﾞｩ･ｽｰ adj. 点灯夫たちの番が来た (「動詞」「主語」)「形容詞句」
venait le tour de ceux を省略したもの
d'Afrique et d'Europe. ﾀﾞﾌﾘｷ･ｴ･ﾄﾞｩﾛｯﾌﾟ adj. アフリカとヨーロッパの「形容詞句」

それから北アメリカの点灯夫たちの番。
Puis de ceux d'Amérique du Nord. 「副詞」
Puis de ceux ﾋﾟｭｲ･ﾄﾞｩ･ｽｰ それから～の番が来た「副詞」(「動詞」「主語」)「形容詞句」
d'Amérique du Nord. ﾀﾞﾒﾘｷ･ｼﾞｭ･ﾉｰﾙ adj. 北アメリカの 「形容詞句」

しかも彼らは、登場の順番を絶対に間違えないのだった。それは、壮大な眺めだった。
Et jamais ils ne se trompaient dans leur ordre d'entrée en scène. C'était grandiose.
Et「副詞」「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」

XVI

Et ｴ conj. しかも
jamais ｼﾞｬﾒ adv. 決して～ない 「副詞」
ils ｲﾙ pron.pl. 彼らは 「主語」
ne se trompaient ﾇ･ｽﾄﾛﾝﾍﾟ 3 複半･否定(se tromper)v.pr 間違えなかった 「動詞句」
dans leur ordre ﾄﾞﾝﾚｰﾙ･ｵﾙﾄﾞﾙ adv. 順番を 「間接目的語」
d'entrée ﾄﾞﾝﾄﾚ 不定詞 adj. 登場すべき 「形容詞句」
en scène. ｵﾝ･ｾｰﾇ adv. 舞台に 「副詞句」
C' ｽ pron それは 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
grandiose. ｸﾞﾛﾝﾃﾞｨｮｰｽﾞ adj. 荘厳な 「補語」

北極のただ一つの街灯の点灯夫と、南極のただ一つの街灯の点灯夫だけは、ひまでのんきな生活を送っていた：
Seuls, l'allumeur de l'unique réverbère du pôle Nord, et son confrère de l'unique rèverbère du pôle Sud, menaient des vies d'oisiveté et de nonchalance：
「主語」「動詞」「目的語」：
Seuls, ｽﾙ adv.pl. ～だけは 「副詞」
l'allumeur ﾗﾘｭﾒｰﾙ n.m 点灯夫 「主語」
de l'unique réverbère du pôle Nord, ﾄﾞｩ･ﾘｭﾆｷ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ･ｼﾞｭ･ﾎﾟｰﾙ･ﾉｰﾙ
adj. 北極のただ一つの街灯の 「形容詞句」
et ｴ conj. そして
son confrère ｿﾝ･ｺﾝﾌﾚｰﾙ n.m 彼の同業者、点灯夫 「主語」
de l'unique rèverbère du pôle Sud, ﾄﾞｩ･ﾘｭﾆｷ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ･ｼﾞｭ･ﾎﾟｰﾙ･ｼｭｯﾄﾞ
adj. 南極のただ一つの街灯の 「形容詞句」
menaient ﾑﾈ 3 複半(mener)v.t（生活を）送っていた 「動詞」
des vies ﾃﾞ･ｳﾞｨｰ pl.n.f 生活を 「目的語」
d'oisiveté ﾄﾞｩﾜｼﾞｳﾞﾃ adj 暇な 「形容詞句」
et ｴ conj. そして
de nonchalance：ﾄﾞｩ･ﾉﾝｼｬﾛﾝｽ adj. 怠けた 「形容詞句」

彼らは一年に二度、仕事をしていた。
ils travaillaient deux fois par an. 「主語」「動詞」「副詞句」
ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」
travaillaient ﾄﾗｳﾞｧｲｪ 3 複半(travailler)v.i 仕事をした 「動詞」
deux fois ﾄﾞｩ･ﾌｧ pl.n.f 2 回 「副詞句」
par an. ﾊﾟｰﾙ･ｵﾝ adv. 1 年に 「副詞句」

XVII (CD 2-1)

才気をひけらかそうとすると、人はちょっとばかし嘘をつくことがある。

Quand on veut faire de l'esprit, il arrive que l'on mente un peu.

「副詞節」,「動詞句」「主語」

Quand ｺﾝ conj. ～するとき 「副詞節」

on ｵﾝ pron 人が 「主語」

veut +不定詞 ｳﾞ 3 単現･願望 v. ～しようとする 「動詞句」

faire de l'esprit, ﾌｪｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾚｽﾌﾟﾘ 不定詞 v.t 才気をひけらかす「動詞句」

il arrive ｲ･ﾗﾘｳﾞ 3 単現(arriver que)v.t ～がある 「動詞句」

que ｸ conj. ～ということが 「主語」

l'on ﾛﾝ pron 人は 「主語」

mente ﾓﾝﾄ 接・3 単現(mentir)v.i 嘘をつく（だろう） 「動詞」

un peu. ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少し 「副詞句」

街灯の点灯夫について君たちに話しながら、ぼくはあまり正直ではなかった。

Je n'ai pas été très honnête en vous parlant des allumeurs de réverbères.

「主語」「動詞句」「補語」「副詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

n'ai pas été ﾈ･ﾊﾟ･ｾﾞﾃ 1 単現･完了形・否定(être)v.i ～ではなかった 「動詞句」

très honnête ﾄﾚ･ｵﾈｯﾄ adj.（否定文）あまり正直な 「補語」

en vous ｵﾝ･ｳﾞ adv. 君たちに対して 「副詞句」

parlant ﾊﾟﾙﾛﾝ 現在分詞 adv. 話しながら 「副詞句」

des allumeurs de réverbères. ﾃﾞ･ｻﾞﾘｭﾒｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾚｳﾞｪﾙﾍﾞｰﾙ

adv. 街灯の点灯夫について 「副詞句」

僕たちの惑星を知らない人に、間違ったイメージを与える危険がある。

Je risque de donner une fausse idée de notre planète à ceux qui ne la connaissent pas.

「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

risque de donner ﾘｽｷ･ﾄﾞｩ･ﾄﾞﾈ 1 単現(risquer de+不定詞)

v.t ～を与える危険がある 「動詞句」

une fausse idée ﾕﾝﾇ･ﾌｫｽ･ｲﾃﾞ n.f 間違った考えを 「直接目的語」

fausse adj.f < faux ﾌｫ adj. 間違った、誤った idée ｲﾃﾞ n.f アイデア、考え、概念

de notre planète ﾄﾞｩ･ﾉﾄﾙ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adj. 僕たちの惑星の 「形容詞句」

XVII (CD 2-1)

à ceux ｱ･ｽｰ adv. 人たちに 「間接目的語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
ne la connaissent pas. ﾇ･ﾗ･ｺﾈｽ･ﾊﾟ 3 複現･否定(connaître+la)
v.t それを知らない 「動詞句」

人間たちは、地球上でほんのわずかなスペースを占めているにすぎない。
Les hommes occupent très peu de place sur la Terre.
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Les hommes ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間たちは 「主語」
occupent ｵｷｭﾌﾟ 3 複現(occuper)v.t（場所を）占めている 「動詞」
très peu de place ﾄﾚ･ﾌﾟ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗｽ n.f ほんの少しの場所を 「目的語」
sur la Terre. ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾃｰﾙ adv. 地球上で 「副詞句」

地球に住んでいる 20 億の人々が、集会をする時のように少々つめあって立った状態のままでいたら、長さ 20 マイルに対して、幅 20 マイルの公共広場に、たやすく収まってしまう。
Si les deux milliards d'habitants qui peuplent la Terre se tenaient debout et un peu serrés, comme pour un meeting, ils logeraient aisément sur une place publique de vingt milles de long sur vingt milles de large. 「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞句」
Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
les deux milliards d'habitants ﾚ･ﾄﾞｩ･ﾐﾘﾔｰﾙ･ﾀﾞﾋﾞﾄﾝ pl.n. 20 億人の住人が「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
peuplent ﾌﾟｰﾌﾟﾙ 3 複現(peupler)v.t 住みついている 「動詞」
la Terre ﾗ･ﾃｰﾙ n.f 地球に 「目的語」
se tenaient ｽ･ﾄｩﾈ 3 複半(se tenir)v.pr とどまる 「動詞句」
debout ﾄﾞｩﾌﾞｰ adj. 立った 「補語」
et ｴ conj. そして
un peu serrés, ｱﾝ･ﾌﾟ･ｾﾚ adj. 少し体を寄せた 「補語」
comme pour un meeting, ｺﾑ･ﾌﾟｰﾙ･ｱﾝ･ﾐﾁﾝｸﾞ
adv. 集会を開くときのように 「副詞句」
ils ｲﾙ pron 人々は 「主語」
logeraient ﾛｼﾞｭﾚ 条・3 複現(loger)v.i 泊まる、入る 「動詞」
aisément ｴｾﾞﾓﾝ adv. たやすく 「副詞」
sur une place publique ｼｭｰﾙ･ﾕﾝﾇﾝ･ﾌﾟﾗｰｽ･ﾋﾟｭﾌﾞﾘｷ adv. 公共広場に 「副詞句」
de ﾄﾞｩ adj. ～の 「形容詞句」
vingt milles de long ｳﾞｧﾝ･ﾐﾙ･ﾄﾞｩ･ﾛﾝ n.m 長さ 20 マイル 「目的語」
sur ｼｭｰﾙ adv. ～に対して 「副詞句」

XVII (CD 2-1)

vingt milles de large. ヴァン・ミル・ドゥ・ラルジュ n.m 幅 20 マイル「目的語」

太平洋のごくごく小さな小島に、人類を詰め込むこともできるだろう。

On pourrait entasser l'humanité sur le moindre petit îlot du Pacifique.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

On オン pron 人は 「主語」

pourrait entasser プレ・オンタセ 条・3 単現・可能(pouvoir+不定詞)

v.t 詰め込むことができるだろう 「動詞句」

l'humanité リュマニテ n.f 人類を 「目的語」

sur le moindre petit îlot シュール・ル・ムわンドル・プティ・イロ adv. ごく小さい島に 「副詞句」

du Pacifique. ジュ・パシフィキ adj. 太平洋の 「形容詞句」

大人たちはもちろん、君たちを信用しないだろう。

Les grandes personnes, bien sûr, ne vous croiront pas. 「主語」「副詞句」「動詞句」

Les grandes personnes, レ・グロンド・ペルソンヌ pl.n.f 大人たちは 「主語」

bien sûr, ビヤン・シュール adv. もちろん 「副詞句」

ne vous croiront pas. ヌ・ヴ・クロわロン・パ 3 複未・否定(croire+vous)

v.t 君たちを信じないだろう 「動詞句」

彼らは、自分たちがたくさんの場所を占めていると思い込んでいる。

Elles s'imaginent tenir beaucoup de place. 「主語」「動詞句」「補語」

Elles エル pl.n.f 彼らは 「主語」

s'imaginent シマジヌ 3 複現(s'imaginer)v.pr 自分が～だと思い込んでいる 「動詞句」

tenir トゥニール 不定詞 v.t 取っている、(場所を) 占めている 「補語」

beaucoup de place. ボク・ドゥ・プラス n.f たくさんの場所を 「目的語」

彼らは、自分たちがバオバブのようにたいそうなものだと思っているのだ。

Elles se voient importantes comme des baobabs. 「主語」「動詞」「補語」

Elles エル pron 彼らは 「主語」

se voient ス・ヴわ 3 複現(se voir)v.pr (～の状態の自分の姿を) 思い描いている「動詞句」

importantes アンポルトント adj. 巨大な場所ふさぎな 「補語」

comme des baobabs. コム・デ・バオバブ adv. バオバブのように 「副詞句」

だから彼らに、計算をするよう助言してみてごらんなさい。

Vous leur conseillerez donc de faire le calcul.

「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞」「補語」

XVII (CD 2-1)

Vous ヴ pron 君たちは 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」
conseillerez ｺﾝｾｲﾕﾚ 2 複未・推奨(conseiller)v.t 助言するといい 「動詞」
donc ﾄﾞﾝ adv. だから 「副詞」
de faire ﾄﾞｽ・ﾌｪｰﾙ 不定詞 v.t するように 「補語」
le calcul. ﾙ・ｶﾙｷｭﾙ n.m 計算を 「目的語」

彼らは数字が大好きだから、その助言はきっと彼らの気に入るだろう。
Elles adorent les chiffres：ça leur plaira.
「主語」「動詞」「目的語」:「主語」「間接目的語」「動詞」
Elles ｴﾙ pron 彼らは 「主語」
adorent ｱﾄﾞｰﾙ 3 複現(adorer)v.t 大好きである 「動詞」
les chiffres：ﾚ・ｼｯﾌﾙ pl.n.m 数字を 「目的語」
ça ｻ pron それ（その助言） 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」
plaira. ﾌﾟﾚﾗ 3 単未(plaire)v.i 気に入るだろう 「動詞」

でも、そんなうんざりすることで貴重な時間を費やしてはいけない。
Mais ne perdez pas votre temps à ce pensum.
Mais「動詞句」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」
Mais ﾒ conj. しかし
ne perdez pas ﾇ・ﾍﾟﾙﾃﾞ・ﾊﾟ 命・2 複現・否定(perdre)v.t 無駄にするな 「動詞句」
votre temps ｳﾞｫﾄﾙ・ﾄﾝ nm 時間を 「目的語」
à ce pensum. ｱ・ｽ・ﾊﾟﾝｿﾑ adv. そんなくだらないことに 「副詞句」

それは無駄なこと。きみたちはぼくの言うことを信用してくれるよね。
C'est inutile. Vous avez confiance en moi. 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
inutile. ｲﾇｰﾃｨﾙ adj. 無駄な 「補語」
Vous ｳﾞ porn 君は 「主語」
avez ｱｳﾞｪ 2 複現・依頼(avoir)v.t 持ってくれ 「動詞」
confiance ｺﾝﾌｨｵﾝｽ n.f 信用、信頼 「目的語」
en moi. ｵﾝ・ﾑｫ adv. 僕の言うことに 「副詞句」

XVII (CD 2-1)

王子様は、いったん地球に着いてみると、誰にも会わないので、たいへんびっくりした。

Le petit prince, une fois sur Terre, fut donc bien surpris de ne voir personne.

「主語」「副詞句」「動詞」「副詞」「補語」「副詞句」

Le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

une fois sur Terre, ﾕﾝﾇ･ﾌｫｱ･ｼｭｰﾙ･ﾃｰﾙ adv. 一旦地球に着いて見ると 「副詞句」

fut ﾌｭ 3 単遠(être)v.i ～だった 「動詞」

donc ﾄﾞﾝ adv. それで 「副詞」

bien surpris ﾋﾞｬﾝ･ｼｭﾙﾌﾟﾘ adj. とても驚いた 「補語」

de +不定詞 ﾄﾞｩ adv.（原因）～するので 「副詞句」

ne voir ﾇ･ｳﾞｫｱｰﾙ 不定詞･否定 v.t 会わない 「動詞句」

personne. ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron 誰にも～ない 「目的語」

星を間違えたのではないかともう心配していた。

Il avait déjà peur de s'être trompé de planète, 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」,

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

avait ﾗｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t あった 「動詞」

déjà ﾃﾞｼﾞｬ adv. もう 「副詞」

peur ﾍﾟｰﾙ n.f 心配 「目的語」

de +不定詞 ﾄﾞｩ adj. ～するという 「形容詞句」

s'être trompé ｾｰﾄﾙ･ﾄﾛﾝﾍﾟ 不定詞･完了形(se tromper)

v.pr (de を) 間違えた 「動詞句」

de planète, ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. 星を 「間接目的語」

するとそのとき、月色のリングが一つ、砂の中で動いた。

quand un anneau couleur de lune remua dans le sable.

「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」

quand ｺﾝ adv. するとその時 「副詞」

un anneau ｱﾝ･ｱﾉ n.m 輪が 「主語」

couleur de lune ｸﾚｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾘｭﾝﾇ adj. 月の色をした 「形容詞句」

remua ﾙﾐｭｱ 3 単過(remuer)v.i 動いた 「動詞」

dans le sable. ﾄﾞﾝ･ﾙ･ｻｰﾌﾞﾙ adv. 砂の中で 「副詞句」

「こんばんは」と王子様はもしかしたら（誰かいる）と思って言った。

《Bonne nuit, fit le prince à tout hasard. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」「副詞句」

Bonne nuit, ﾎﾞﾝﾇ･ﾆｭｲ adv. こんばんは 「挨拶」

fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」

XVII (CD 2-1)

le prince ル・プ ランス n.m 王子様は 「主語」
à tout hasard. ア・トゥ・アザ ール adv. 念のため 「副詞句」

「こんばんは」と蛇がいった。
----Bonne nuit, fit le serpent. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Bonne nuit, ボ ンヌ・ニュイ adv. こんばんは 「挨拶」
fit フィ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」
le serpent. ル・セルポ ン n.m 蛇が 「主語」

「どの惑星に、ぼくは降り立ったんだろう？」と王子様は訊いた。
----Sur quelle planète suis-je tombé? demanda le petit prince.
《「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」
Sur quelle planète シュール・ケル・プ ラネット adv. どの惑星の上に 「副詞句」
suis-je tombé? シュイ・ジ ュ・トンブ 1 単現・完了形(tomber)v.i 僕は降りた 「動詞句」「主語」
demanda ド ゥモンダ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」
le petit prince. ル・プ ティ・プ ランス n.m 王子さまは 「主語」

「地球だよ、アフリカだよ」と蛇が答えた。
----Sur la Terre, en Afrique, répondit le serpent. 《「副詞句」》,「動詞」「主語」
Sur la Terre, シュール・ラ・テール adv. 地球の上 「副詞句」
en Afrique, オン・アフリキ adv. アフリカに 「副詞句」
répondit レポ ンデ ィ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
le serpent. ル・セルポ ン n.m 蛇が 「主語」

「えっ！... じゃあ、地球には誰もいないの？」
----Ah! ... Il n'y a donc personne sur la Terre?
《「感嘆」 | 「動詞句」「副詞」「目的語」「副詞句」》
Ah! アー int. えっ！ 「感嘆」
Il n'y a イル・ニ・ア 3 単現・否定(avoir)v.t いない 「動詞句」
donc ド ン adv. それじゃあ 「副詞」
personne ペ ルソンヌ pron 誰も～ない 「目的語」
sur la Terre? シュール・ラ・テール adv. 地球には 「副詞句」

XVII (CD 2-1)

「ここは、砂漠だよ。砂漠には誰もいないよ。地球は広いのさ」と蛇は言った。

----Ici c'est le désert. Il n'y a personne dans les déserts. La Terre est grande》, dit le serpent. 《「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

Ici c' ｲｼ･ｽ pron ここ、それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
le désert. ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ n.m 砂漠 「補語」
Il n'y a ｲﾙ･ﾆ･ｱ 3 単現･否定(avoir)v.t いない 「動詞句」
personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron 誰も～ない 「目的語」
dans les déserts. ﾄﾞﾝ･ﾚ･ｾｾﾞｰﾙ adv. 砂漠には 「副詞句」
La Terre ﾗ･ﾃｰﾙ n.f 地球は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
grande ｸﾞﾛﾝﾄﾞｩ adj.f. 広い 「補語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le serpent. ﾙ･ｾﾙﾎﾟﾝ n.m 蛇が 「主語」

XVII (CD 2-1)

王子様は、石に腰を掛け、空の方を見上げた：

Le petit prince s'assit sur une pierre et leva les yeux vers le ciel：

「主語」「動詞句」「副詞句」et「動詞」「目的語」「副詞句」：

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

s'assit ｻｼ 3 単過(s'asseoir)v.pr 座った 「動詞句」

sur une pierre ｼｭｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾋﾟｴｰﾙ adv. 石の上に 「副詞句」

et ｴ conj. そして

leva ﾙｳﾞｧ 3 単過(lever)v.t 上げた 「動詞」

les yeux ﾚ･ｼﾞｭ pl.n.m 両目を、視線を 「目的語」

vers le ciel：ｳﾞｪｰﾙ･ﾙ･ｼｪﾙ adv. 空のほうへ 「副詞句」

XVII (CD 2-1)

「誰もが、いつかは自分の星に戻ることができるように、星たちはきらめいているのかな、と思うことがある。」

《Je me demande, dit-il, si les étoiles sont éclairées afin que chacun puisse un jour retrouver la sienne. 《「主語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」》

Je ジュ pron 僕は 「主語」

me demande, ム・ドゥモンド 1 単現(se demander)v.pr 自問する 「動詞句」

dit-il, ディ・ティル 3 単過(dire)v.t 彼は言った 「動詞」「主語」

si シ conj. 〜かどうかということを 「目的語」

les étoiles レ・ゼトワール pl.n.f 星たちは 「主語」

sont ソン 3 複現(être)v.i 〜である 「動詞」

éclairées エクレレ adj.pl.f. 輝いた 「補語」

afin que アファン・ク conj. 〜するために 「副詞節」

chacun シャクン pron 誰もが 「主語」

puisse un jour retrouver ピュイス・アン・ジュール・ルトルヴェ 接・3 単現・可能 (pouvoir+不定詞+ un jour)v.i いつかは戻ることができる「動詞句」

la sienne. ラ・シエンヌ pron.f 自分の星に 「目的語」

「僕は自問する、誰もが自分の星に戻れるように、星たちは輝いているのだろうかと」

「見てごらん、僕の星を。ちょうど僕たちの真上にある... でも、何て遠いんだろう！」

Regarde ma planète. Elle est juste au-dessus de nous ... Mais comme elle est loin!

《「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」 | Mais「副詞」「主語」「動詞」「副詞」》

Regarde ルギャルド 命・2 単現(regarder)v.t 見てごらん 「動詞」

ma planète. マ・プラネット n.f 僕の星を 「目的語」

Elle エル pron 僕の星は 「主語」

est エ 3 単現(être)v.i（存在）にある 「動詞」

juste au-dessus de nous ジュスト・オ・ドゥシュ・ドゥ・ヌ adv. ちょうど僕たちの真上に 「副詞句」

juste ジュスト adv. ちょうど au-dessus オ・ドゥシュ adv. 上に

Mais メ conj. でも

comme コム adv. なんて 「副詞」

elle エル pron 僕の星は 「主語」

est エ 3 単現(être)v.i（存在）にある 「動詞」

loin! ルわン adv. 遠くに 「副詞」

XVII (CD 2-1)

「あの星は美しいね」と蛇は言った。「ここへ何しに来たの」

---- Elle est belle, dit le serpent. Que viens-tu faire ici?

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」, 《「目的語」「動詞句」「主語」「副詞」》

Elle ｴﾙ pron あの星は（君の星は） 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

belle, ﾍﾞﾙ adj. 美しい 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le serpent. ﾙ･ｾﾙﾊﾟﾝ n.m ヘビが 「主語」

Que ｸ pron 何を 「目的語」

viens... faire ﾋﾞｬﾝ...ﾌｪｰﾙ 2 単現(venir+不定詞)v.t ～しに来た 「動詞句」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

ici? ｲｼ adv. ここに 「副詞」

「ある花と困ったことがあってね」と王子様は言った。

J'ai des difficultés avec une fleur, dit le petit prince.

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》, 「動詞」「主語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai ｴ 1 単現(avoir)v.t ある 「動詞」

des difficultés ﾃﾞ･ﾃﾞｨﾌｨｷｭﾙﾃ pl.n.f 困ったこと、もめ事 「目的語」

avec une fleur, ｱｳﾞｪ･ｯｷｭﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ adv. ある花と 「副詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「あ、そう」と蛇は言った。

----Ah!》 fit le serpent. 《「感嘆」》, 「動詞」「主語」

Ah! ｱｰ int. ああ、そう 「感嘆」

fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」

le serpent. ﾙ･ｾﾙﾊﾟﾝ n.m ヘビが 「主語」

そして、彼らは口をつぐんだ。

Et ils se turent. 「主語」「動詞句」

Et ｴ conj. そして

ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

se turent. ｽ･ﾁｭｰﾙ 3 複過(se taire)v.pr 黙り込んだ 「動詞句」

XVII (CD 2-1)

「人間たちは、どこにいるの」と王子様がとうとうまた言った。「砂漠では、人はちょっと独りぼっちだね...」

Où sont les hommes? reprit enfin le petit prince. On est un peu seul dans le désert ...

《「副詞」「動詞」「主語」》,「動詞」「副詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》

Où ｳ adv. どこに 「副詞」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i（存在）いる 「動詞」

les hommes? ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間たちは 「主語」

reprit ﾙﾌﾟﾘ 3 単過(reprendre)v.t 繰り返した 「動詞」

enfin ｵﾝﾌｧﾝ adv. ついに 「副詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「人間たちと交わっていても、独りぼっちだよ」と蛇が言った。

---- On est seul aussi chez les hommes》, dit le serpent.

《「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》,「動詞」「主語」

On ｵﾝ pron 人は 「主語」

est ｴ （être）v.i ～である 「動詞」

un peu seul ｱﾝ･ﾌﾟ･ｽﾙ adj. ちょっと孤独な 「補語」

dans le désert ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ adv. 砂漠では 「副詞句」

On ｵﾝ pron 人は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

seul ｽﾙ adj. 孤独な 「補語」

aussi chez les hommes, ｵｼ･ｼｪ･ﾚ･ｿﾞﾑ adv. 人間たちと一緒でも 「副詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le serpent. ﾙ･ｾﾙﾊﾟﾝ n.m ヘビが 「主語」

王子様は、蛇を長いこと見つめていた。

Le petit prince le regarda longtemps： 「主語」「目的語」「動詞」「副詞」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

le ﾙ pron.m 蛇を 「目的語」

regarda ﾘｷﾞｬﾙﾀﾞ 3 単過(regarder)v.t 見ていた 「動詞」

longtemps：ﾛﾝﾄﾝ adv. 長い間 「副詞」

XVII (CD 2-1)

「きみは、おかしな動物だなあ」王子様はついに言った。「指みたいに細くて...」

Tu es une drôle de béte, lui dit-il enfin, mince comme un doigt ...

《「主語」「動詞」「補語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」「副詞」,《「補語」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

es ｴ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」

une drôle de béte, ﾕﾝﾇ･ﾄﾞﾛｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾍﾞｯﾄ n.f 奇妙な動物、おかしな動物 「補語」

un drôle de ｱﾝ･ﾄﾞﾛｰﾙ･ﾄﾞｩ adj. 奇妙な～

lui ﾘｭｲ pron 蛇に 「間接目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」

enfin, ｵﾝﾌｧﾝ adv. ついに 「副詞」

mince ﾏﾝｽ adj. 細い 「補語」

comme un doigt ... ｺﾑ･ｱﾝ･ﾄﾞｩﾜ adv. 指みたいに 「副詞句」

「でも、王様の指より強いぜ」と、蛇が言った。

---- Mais je suis plus puissant que le doigt d'un roi》, dit le serpent.

《Mais「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》,「動詞」「主語」

Mais ﾒ conj. でも

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」

plus puissant ﾌﾟﾘｭ･ﾋﾟｭｲｿﾝ adj. より強い 「補語」

que ｸ conj. ～よりも 「副詞句」

le doigt d'un roi, ﾙ･ﾄﾞｩﾜ･ﾀﾞﾝ･ﾙわ n.m 王様の指 「目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le serpent. ﾙ･ｾﾙﾊﾟﾝ n.m ヘビが 「主語」

王子様は、にっこりした：

Le petit prince eut un sourire： 「主語」「動詞」「目的語」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

eut ｭ 3 単過(avoir)v.t ～をした 「動詞」

un sourire：ｱﾝ･ｽﾘｰﾙ n.m 微笑みを 「目的語」

XVII (CD 2-1)

「そんなに強くないよ... 手足さえ持ってないじゃないか... 旅行だって、できやしない」

《Tu n'es pas bien puissant ... tu n'as même pas de pattes ... tu ne peux même pas voyager ...

《「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

n'es pas ﾈ･ﾊﾟ 2 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

bien puissant ... ﾋﾞｬﾝ･ﾋﾟｭｲｿﾝ adj.（否定文で）それほど強い 「補語」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

n'as même pas ﾅ･ﾒｰﾑ･ﾊﾟ 2 単現･否定(avoir)v.t ～さえない 「動詞句」

de pattes ... ﾄﾞｩ･ﾊﾟｯﾄ n.f 手足 「目的語」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

ne peux même pas voyager ﾇ･ﾌﾟ･ﾒｰﾑ･ﾊﾟ･ｳﾞｧﾔｰｼﾞｭ 2 単現･可能･否定

v.i 旅行することさえできない 「動詞句」

「船よりも、遠くへあんたを運ぶことができるぜ」と蛇は言った。

----Je puis t'emporter plus loin qu'un navire》, dit le serpent.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」》,「動詞」「主語」

Je ｼﾞｭ pron 俺は 「主語」

puis t'emporter ﾋﾟｭｲ･ﾄﾝﾎﾟﾙﾃ 1 単現･可能(pouvoir+不定詞+te)

v.t 君を運ぶことができる 「動詞句」「目的語」「動詞句」

plus loin ﾌﾟﾘｭ･ﾙﾜﾝ adv. もっと遠くへ 「副詞句」

qu'un navire, ｶﾝ･ﾅｳﾞｨｰﾙ adv. 船よりも 「副詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le serpent. ﾙ･ｾﾙﾊﾟﾝ n.m ヘビが 「主語」

XVII (CD 2-1)

— Tu es une drôle de bête, lui dit-il enfin, mince comme un doigt...

XVII (CD 2-1)

蛇は、金の腕輪のように、王子様の足首のまわりに巻きついた：

Il s'enroula autour de la cheville du petit prince, comme un bracelet d'or：

「主語」「動詞句」「副詞句」：

Il ｲﾙ pron 蛇は 「主語」

s'enroula ｿﾝﾙﾗ 3 単過(s'enrouler)v.pr 巻き付いた 「動詞句」

autour de la cheville ｵﾄｩｰﾙ･ﾄﾞ･ﾗ･ｼｭｳﾞｨｰﾕ adv. 足首の周りに 「副詞句」

du petit prince, ｼﾞｭ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adj. 王子様の 「形容詞句」

comme un bracelet d'or：ｺﾑ･ｱﾝ･ﾌﾞﾗｽﾚ･ﾄﾞｰﾙ

adv. 金の腕輪のように 「副詞句」

「おれは俺が触った者を、彼が出てきた土の中へ戻らせるんだよ」と蛇はなおも言った。

《Celui que je touche, je le rends à la terre dont il est sorti, dit-il encore.

《「目的語」,「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」》,「動詞」「主語」「副詞」,

Celui ｽﾘｭｲ pron そのものを 「目的語」

que ｸ pron ～する 「形容詞節」

je ｼﾞｭ pron 俺が 「主語」

touche, ﾄｩｼｭ 1 単現(toucher)v.t 触る 「動詞」

je ｼﾞｭ pron おれは 「主語」

le ﾙ pron それを 「目的語」

rends ﾛﾝ 1 単現(rendre)v.t 戻す 「動詞」

à la terre ｱ･ﾗ･ﾃｰﾙ adv. 地面に 「副詞句」

dont ﾄﾞﾝ conj. そこから～する 「形容詞節」

il ｲﾙ pron それが 「主語」

est sorti, ｴ･ｿﾙﾃｨ 3 単現･完了形(sortir)v.i 出てきた 「動詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

il ｲﾙ pron 蛇は 「主語」

encore. ｵﾝｯｺｰﾙ adv. さらに 「副詞」

「だけど、あんたは純粋で、星から来たんだし...」

Mais tu es pur et tu viens d'une étoile ...》

《Mais「主語」「動詞」「補語」et「主語」「動詞」「副詞句」》

Mais ﾒ conj. しかし

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

es ｴ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」

pur ﾋﾟｭｰﾙ adj. 純粋な 「補語」

et ｴ conj. そして

XVII (CD 2-1)

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
viens ｳﾞｨﾔﾝ 2 単現(venir)v.i 来た 「動詞」
d'une étoile . ﾃﾞｭﾝﾇ･ｴﾄｫｰﾙ adv. 星から 「副詞句」

王子様は、何も答えなかった。
Le petit prince ne répondit rien. 「主語」「動詞句」「目的語」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
ne répondit ﾇ･ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.t 答えなかった 「動詞句」
rien. ﾘﾔﾝ pron 何も～ない 「目的語」

「あんたのように、そんなにかよわい者が、花崗岩のこの地球にいるんじゃ、哀れを催すよ。
《Tu me fais pitié, toi si faible, sur cette Terre de granit.
《「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」,「感嘆」
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
fais ﾌｪ 2 単現(faire)v.t 生じさせる、催させる 「動詞」
pitié, ﾋﾟﾁｴ n.f 哀れみを 「直接目的語」
toi si faible, ﾄｫ･ｼ･ﾌｪｰﾌﾞﾙ adj. 君はとてもか弱い 「感嘆」
sur cette Terre de granit. ｼｭｰﾙ･ｾｯﾄ･ﾃｰﾙ･ﾄﾞｩ･ｸﾞﾗﾆ
adv. 花崗岩の地球上では 「副詞句」

いつの日か、もし自分の星がなつかしくてたまらなくなったら、おれ、あんたを助けてやれる。おれ、できるんだ...」
Je puis t'aider un jour si tu regrettes trop ta planète. Je puis ...
「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
puis t'aider ﾋﾟｭｲ･ﾃﾃﾞ 1 単現･可能(pouvoir+不定詞+te)v.t 君を助けられる 「動詞句」
un jour ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ adv. いつか 「副詞句」
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
regrettes ﾙｸﾞﾚｯﾄ 2 単現(regretter)v.t なつかしい 「動詞」
trop ﾄﾛ adv. とても 「副詞」
ta planète. ﾀ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 自分の星を 「目的語」
Je puis ... ｼﾞｭ･ﾋﾟｭｲ 2 単現(pouvoir)v. 僕はできるんだ 「主語」「動詞」

XVII (CD 2-1)

「ああ、よくわかったよ」と王子様は言った。「だけどどうしてずっと謎をかけるの」

---- Oh! J'ai très bien compris, fit le petit prince, mais pourquoi parles-tu toujours par énigmes? 《「感嘆」「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」,
《mais「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」》

Oh! ｵｰ int. ああ 「感嘆」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai très bien compris, ｴ･ﾄﾚ･ﾋﾞﾔﾝ･ｺﾝﾌﾟﾘ 1 単現･完了形(comprendre+ très bien)
v.t よくわかった 「動詞句」
fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
mais ﾒ conj. しかし
pourquoi ﾌﾟﾙｸｫ adv. どうして 「副詞」
parles ﾊﾟﾙﾙ 2 単現(parler)v.i 話す 「動詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. いつも 「副詞」
par énigmes? ﾊﾟｰﾙ･ｴﾆｸﾞﾑ adv. 謎を使って 「副詞句」

「謎はぜんぶおれが解く」と蛇は言った。

---- Je les résous toutes, dit le serpent. 《「主語」「目的語」「動詞」》,「動詞」「主語」
Je ｼﾞｭ pron 俺が 「主語」
les ﾚ pl.pron 謎を 「目的語」
résous ﾚｽﾞ 1 単現(résoudre)v.t 解く 「動詞」
toutes, ﾄｩｯﾄ adj.pl.f すべての（les= énigmes を修飾） 「形容詞」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le serpent. ﾙ･ｾﾙﾊﾟﾝ n.m 蛇は 「主語」

そして彼らは口をつぐんだ。

Et ils se turent. Et「主語」「動詞句」
Et ｴ conj. そして
ils ｲﾙ pron.pl. 彼らは 「主語」
se turent. ｽ･ﾁｭｰﾙ 3 複過(se taire)v.pr 黙り込んだ 「動詞句」

XVIII

王子様は砂漠を横断した。それでも、一輪の花にしか出会わなかった。

Le petit prince traversa le désert et ne rencontra qu'une fleur.

「主語」「動詞句」「目的語」et「動詞句」「目的語」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

traversa ﾄﾗｳﾞｪﾙｻ 3 単過(traverser)v.t 横断した 「動詞」

le désert ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ n.m 砂漠を 「目的語」

et ｴ conj. そして、しかし、それでも

ne rencontra ﾇ･ﾛﾝｺﾝﾄﾗ 3 単過･否定(rencontrer)v.t 出会わなかった 「動詞句」

qu'une fleur. ｷｭﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 1 本の花としか 「目的語」

ne...que ～「～としか... しない」

花びらが三片の花。まったく、つまらない花...

Une fleur à trois pétales, une fleur de rien du tout ... 「目的語」, 「目的語」

Une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 一輪の花 「目的語」

XVIII

à trois pétales, ｱ･ﾄﾙｫ･ﾍﾟﾀﾙ adj. 花弁が 3 枚の「形容詞句」
une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 一輪の花 「目的語」
de rien du tout ... ﾄﾞｩ･ﾘﾔﾝ･ｼﾞｭ･ﾄｩ
adj. まったく取るに足らない、つまらない 「形容詞句」
de rien adj. つまらない、取るに足らない du tout adv. まったく

「こんにちは」と王子様は言った。
《Bonjour, dit le petit prince. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. こんにちは 「挨拶」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「こんにちは」と花が言った。
---- Bonjour, dit la fleur. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. こんにちは 「挨拶」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
la fleur. ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花が 「主語」

「人間たちはどこにいますか」と王子様はていねいに訊いた。
---- Où sont les hommes?》demanda poliment le petit prince.
《「副詞」「動詞」「主語」》,「動詞」「副詞」「主語」
Où ｳ adv. どこに 「副詞」
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i(存在)いる 「動詞」
les hommes? ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間たちは 「主語」
demanda ﾄﾞｩﾓﾝﾀﾞ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」
poliment ﾎﾟﾘﾓﾝ adv. 丁寧に 「副詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

花はある日、一つのキャラバンが通り過ぎるのを見たことがあった：
La fleur, un jour, avait vu passer une caravane：
「主語」「副詞句」「動詞句」「補語」「目的語」：
La fleur, ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花は 「主語」
un jour, ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ adv. ある日 「副詞句」
avait vu ｱｳﾞｪ･ｳﾞｭ 3 単半･完了形(voir)v.t 見たことがあった 「動詞句」
passer ﾊﾟｾ 不定詞 v.i 通り過ぎる 「補語」
une caravane の動作を表す「補語」

XVIII

une caravane：ﾕﾝﾇ･ｷｬﾗｳﾞｧﾇ n.f キャラヴァン（隊商）が 「目的語」

「人間たち？六人か七人はいると思います。何年も前に、彼らを見かけました。

《Les hommes? Il en existe, je crois, six ou sept. Je les ai aperçus il y a des années.

《「応答」 | 「主語」「副詞」「動詞」,「主語」「動詞」「目的語」

「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」

Les hommes? ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間たちですか？ 「応答」

Il ｲﾙ pron それは 「主語」

en ｵﾝ adv. どこかに 「副詞」

existe, ｴｸﾞｼﾞｽﾄｩ 3 単現(exister)v.i いる 「動詞」

je ｼﾞｭ pron 私は 「主語」

crois, ｸﾙｫ 1 単現(croire)v.t 思う 「動詞」

six ou sept. ｼｽ･ｳ･ｾｯﾄ n.m 6 人か 7 人 「目的語」

Je ｼﾞｭ 私は 「主語」

les ﾚ pl.pron 彼らを 「目的語」

ai aperçus ｴ･ｱﾍﾟﾙｼｭ 1 単現･完了形(apercevoir)v.t 見かけた 「動詞句」

il y a des années. ｲ･ﾘ･ﾔ･ﾃﾞ･ｻﾞﾈ adv. 何年も前に 「副詞句」

でも、彼らをどこで見つけられるか、まったくわかりません」

Mais on ne sait jamais où les trouver. Mais「主語」「動詞句」「目的語」》

Mais ﾒ conj. しかし

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

ne sait jamais ﾇ･ｾ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(savoir)v.t 分からない 「動詞句」

où +不定詞 n. どこで～するかということを 「目的語」

les ﾚ pl.pron 彼らを 「目的語」

trouver. ﾄｩﾙｳﾞｪ 不定詞 v.t 見つけられる 「動詞」

「かれらは風向き次第に歩くのです。根がないのです。そのために彼らはたいへん困っているのです」

Le vent les promène. Ils manquent de racines, ça les gêne beaucoup.

《「主語」「目的語」「動詞」

「主語」「動詞」「間接目的語」,「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」》

Le vent ﾙ･ｳﾞｫﾝ n.m 風が 「主語」

les ﾚ pl.pron 彼らを 「目的語」

promène. ﾌﾟﾛﾒｰﾇ 3 単現(promener)v.t 移動させる 「動詞」

Ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

XIX

manquent ﾓﾝｸ 3 複現(manquer)v.i (de ～が) ない、欠けている 「動詞」
de racines, ﾄﾞｩ･ﾗｼｰﾇ adv. 根が 「間接目的語」
ça ｻ pron それが 「主語」
les ﾚ pl.pron 彼らを 「目的語」
gêne ｼﾞｪﾇ 3 単現(gêner)v.t 困らせている 「動詞」
beaucoup. ﾎﾞｸ adv. とても 「副詞」

「さようなら」と王子様は言った。
----Adieu, fit le petit prince. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Adieu, ｱﾃﾞｨｭ int. さようなら 「挨拶」
fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「さようなら」と花が言った。
----Adieu》, dit la fleur. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Adieu, ｱﾃﾞｨｭ int. さようなら 「挨拶」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
la fleur. ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f 花が 「主語」

XIX

王子様は、一つの高い山に登った。
Le petit prince fit l'ascension d'une haute montagne. 「主語」「動詞」「目的語」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 行った 「動詞」
l'ascension ﾗｿﾝｼｨｮﾝ n.f 登山を 「目的語」
d'une haute montagne. ﾃﾞｭﾝﾇ･ｵｰﾄｩ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ adj. 1 つの高い山の 「形容詞句」

彼が知っていた山は、彼の膝に達する三つの火山だけ。
Les seules montagnes qu'il eût jamais connues étaient les trois volcans qui lui arrivaient au genou. 「主語」「動詞」「補語」
Les seules montagnes ﾚ･ｽﾙ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ pl.n.f 山は～だけ 「主語」
qu' ｸ pron ～する 「形容詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
eût jamais connues ｲ･ｼﾞｬﾒ･ｺﾆｭ 接・3 単半･完了形(connaître)
v.t それまでに知っていた 「動詞句」

XIX

jamais ｼﾞｬﾒ adv. かつて、今までに
étaient ｴﾃ 3 複半(être)v.i ～だった 「動詞」
les trois volcans ﾚ･ﾄﾙｫ･ｳﾞｫﾙｺﾝ pl.n.m 3 の火山 「補語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
lui ﾘｭｲ pron 彼の 「間接目的語」
arrivaient ｱﾘｳﾞｪ 3 複半(arriver)v.i 達する 「動詞」
au genou. ｵ･ｼﾞｭﾇ adv. 膝に 「間接目的語」

そして、休火山を腰掛として使っていた。
Et il se servait du volcan éteint comme d'un tabouret.
Et「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」
Et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
se servait ｽ･ｾﾙｳﾞｪ 3 単半(se servir)v.pr (de を) 使っていた 「動詞句」
du volcan éteint ｼﾞｭ･ｳﾞｫﾙｺﾝ･ｴﾀﾝ n.m 休火山を 「目的語」
comme d'un tabouret. ｺﾑ･ﾀﾞﾝ･ﾀﾌﾞﾚ adv. 足載せとして 「副詞句」

《この山のように高い山からなら》と、だから、王子様は思った。
《D'une montagne haute comme celle-ci, se dit-il donc,
《「副詞句」》,「動詞句」「主語」「副詞」,
D'une montagne haute ﾃﾞｭﾝﾇ･ﾓﾝﾀｰﾆｭ･ｵｰﾄｩ adv. 高い山からならば 「副詞句」
comme celle-ci, ｺﾑ･ｾﾙ･ｼ adv. この山のように 「副詞句」
se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 思った 「動詞句」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
donc, ﾄﾞﾝ adv. だから 「副詞」

《地球全体とあらゆる人たちが一挙に見えるだろう...》
j'apercevrai d'un coup toute la planète et tous les hommes ... 》
《「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》
j' ｼﾞｭ pron 私は 「主語」
apercevrai ｱﾍﾟﾙｽｳﾞｪﾚ 1 単未･推量(apercevoir)v.t 見える 「動詞」
d'un coup ﾀﾞﾝ･ｸ adv. 一度に、一挙に 「副詞句」
toute la planète et tous les hommes ... ﾄｯﾄ･ﾗ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ｴ･ﾄ･ﾚ･ｿﾞﾑ
pl.n. 地球全体とすべての人々が 「目的語」

XIX

けれども、よく尖った岩の針のほかには、何も、見えなかった。

Mais il n'aperçut rien que des aiguilles de roc bien aiguisées.

Mais「主語」「動詞句」「目的語」

Mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

n'aperçut ﾅﾍﾟﾙｼｭ 3 単過・否定(apercevoir)v.t 見えなかった 「動詞句」

rien ﾘﾔﾝ pron 何も～ない 「目的語」

que des aiguilles ｸ･ﾃﾞ･ｾﾞｷﾞｰﾕ pl.n.f 針だけしか 「目的語」

de roc bien aiguisées. ﾄﾞｩ･ﾛｯｸ･ﾋﾞﾔﾝ･ｴｷﾞｾﾞ adj. 良く尖った岩の 「形容詞句」

「こんにちは」と王子様はもしかしたらと思って言った。

《Bonjour, dit-il à tout hasard.

《「挨拶」》,「動詞」「主語」「副詞句」

Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. こんにちは 「挨拶」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

à tout hasard. ｱ･ﾄｩ･ｱｻﾞｰﾙ adv. 念のために 「副詞句」

「こんにちは... こんにちは... こんにちは...」とこだまが応えた。

---- Bonjour ... Bonjour ... Bonjour ..., répondit l'écho. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」

Bonjour ... Bonjour ... Bonjour ..., ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ･ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ･ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ

adv. こんにちは、こんにちは、こんにちは 「挨拶」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

l'écho. ﾚｺｰ n.m こだまが 「主語」

「きみたちは誰なの」と王子様は訊いた。

----Qui êtes-vous? dit le petit prince. 《「補語」「動詞」「主語」》,「動詞」「主語」

Qui ｷ pron 誰 「補語」

êtes ｴｯﾄｩ 2 複現(être)v.i ～である 「動詞」

vous? ｳﾞ pron 君たちは 「主語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「誰なの... 誰なの... 誰なの...」とこだまが応えた。

----Qui êtes-vous ... qui êtes-vous ... qui êtes-vous ..., répondit l'écho.

《「応答」》,「動詞」「主語」

XIX

Qui êtes-vous ｷ･ｴｯﾄｩ･ｳﾞ 「君たちは誰？」 「応答」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
l'écho. ﾚｺｰ n.m こだまが 「主語」

「ぼくの友達になってよ。ぼくは独りぼっちなんだよ」と王子様は言った。
----Soyez mes amis, je suis seul, dit-il.
《「動詞」「補語」,「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」
Soyez ｽわｲｴ 命・2 複現(être)v.i ～になっておくれよ 「動詞」
mes amis, ﾒ･ｻﾞﾐ pl.n. 友達 「補語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
seul, ｽﾙ adj. 独りぼっち 「補語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il. ｲﾙ pron 彼は 「主語」

「独りぼっち... 独りぼっち... 独りぼっち...」とこだまが応えた。
----Je suis seul ... je suis seul ... je suis seul》, répondit l'écho..
《「応答」》,「動詞」「主語」
Je suis seul ... ｼﾞｭ･ｼｭｲ･ｽﾙ 「独りぼっち」 「応答」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
l'écho. ﾚｺｰ n.m こだまが 「主語」

《おかしな惑星だなあ！》と彼は考えた。
《Quelle drôle de planète! pensa-t-il alors. 《「感嘆」》,「動詞」「主語」「副詞」
Quelle drôle de ｹﾙ･ﾄﾞﾛｰﾙ･ﾄﾞｩ adj. なんておかしな～だろう 「形容詞句」
planète! ﾌﾟﾗﾈｯﾄ n.f 惑星 「感嘆」
pensa ﾎﾟﾝｻ 3 単過(penser)v.i 考えた 「動詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
alors. ｱﾛｰ adv. それで 「副詞」

《すっかり干からびて、とんがっていて、塩っ辛そうだ。
Elle est toute sèche, et toute pointue et toute salée.
《「主語」「動詞」「補語」et「補語」et「補語」
Elle ｴﾙ pron この惑星は 「主語」
est ｴ 3 単過(être)v.i ～である 「動詞」
toute sèche, ﾄｩｯﾄ･ｾｰｼｭ adj. すっかり乾いた 「補語」

XIX

et ｴ conj. そして
toute pointue ﾄｳｯﾄ･ﾌﾟ ｗﾝﾁｭ adj. 鋭く尖った 「補語」
et ｴ conj. そして
toute salée. ﾄｳｯﾄ･ｻﾚ adj. すごく塩辛い 「補語」

それに、人間たちには想像力が欠けている。彼らは、言われたことをおうむ返しに言うだけだ...

Et les hommes manquent d'imagination. Ils répètent ce qu'on leur dit ...
Et「主語」「動詞」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Et ｴ conj. そして
les hommes ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間たちは 「主語」
manquent ﾓﾝｸ 3 複現(manquer)v.i (de ～が) 足りない 「動詞」
d'imagination. ﾃﾞｨﾏｼﾞﾅｼｮﾝ adv. 想像力が 「間接目的語」
Ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」
répètent ﾚﾍﾟｰﾄ 3 複過(répéter)v.t 繰り返した 「動詞」
ce ｽ pron それを 「目的語」
qu' ｸ pron ～する 「形容詞節」
on ｵﾝ pron 人が 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」
dit ... ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

僕の星では、ぼくは一輪の花を持っていた。彼女は、いつも先に話しかけてきたものだった...》

Chez moi j'avais une fleur : elle parlait toujours la première ... 》
「副詞句」「主語」「動詞」「目的語」:「主語」「動詞」「副詞句」》

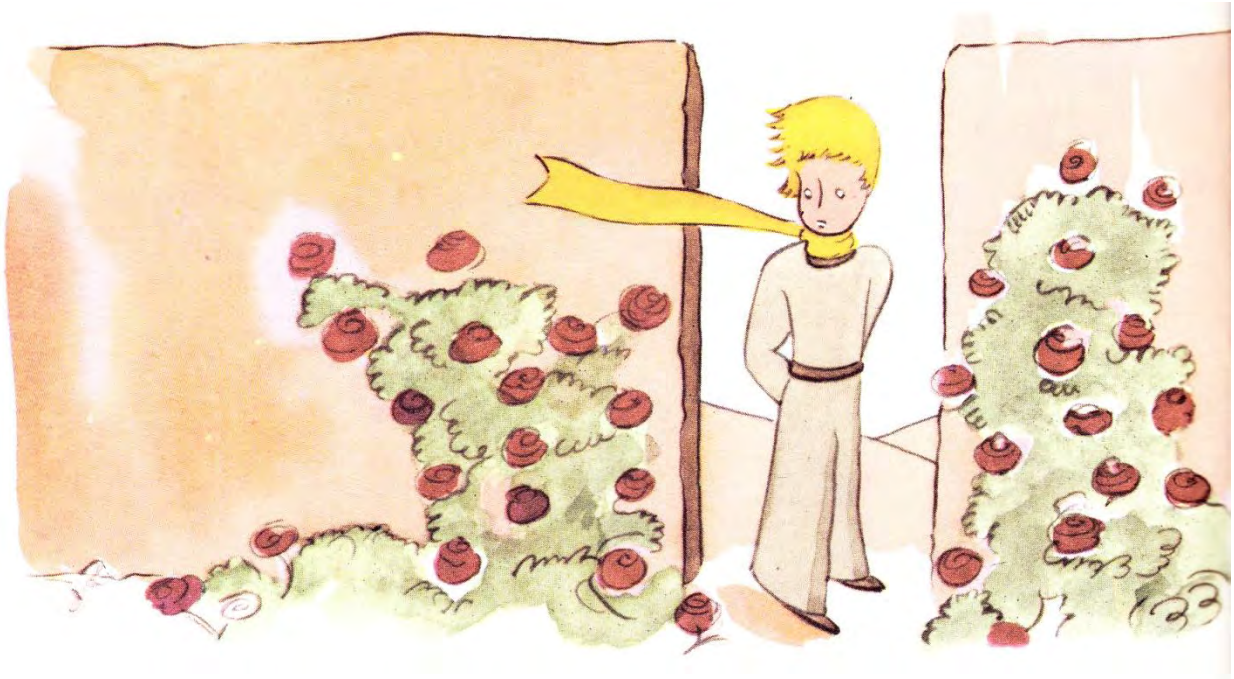
Chez moi ｼｪ･ﾑｗ adv. 僕の星では 「副詞句」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
avais ｱｳﾞｪ 1 単半(avoir)v.t 持っていた 「動詞」
une fleur : ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 一輪の花を 「目的語」
elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
parlait ﾊﾟﾙﾚ 3 単半(parler)v.i 話していた 「動詞」
toujours ﾄｳｼﾞｭｰﾙ adv. いつも 「副詞」
la première ... ﾗ･ﾌﾟﾙﾐｪｰﾙ n.f 最初に 「副詞句」

XIX

Cette planète est toute sèche, et toute pointue et toute salée.

XX

XX



けれども、たまたまある日、砂と岩と雪の上を長時間歩いたあと、ついに王子様は一本の道を見つけることになった。

Mais il arriva que le petit prince, ayant longtemps marché à travers les sables, les rocs et les neiges, découvrit enfin une route. Mais 「動詞」「主語」

Mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 仮の主語

arriva ｱﾘｳﾞｧ 3 単過(arriver)v.i ～ということが起こった 「動詞」

que ｸ conj. ～ということが 「主語」

il arriva que +直説法「～ということになった」

il arriva que +接続法「たまたま～が起こった」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

ayant longtemps marché ｴﾖﾝ･ﾛﾝﾄﾝ･ﾏﾙｼｪ 現在分詞･完了形

adv. 長い間歩いた後で 「副詞句」

à travers ｱ･ﾄﾗｳﾞｪｰﾙ adv. ～を通って 「副詞句」

les sables, ﾚ･ｻｰﾌﾞﾙ pl.n.m 砂 「目的語」

les rocs ﾚ･ﾛｯｸ pl.n.m 岩 「目的語」

et ｴ conj. そして

les neiges, ﾚ･ﾈｰｼﾞｭ pl.n.f 雪 「目的語」

découvrit ﾃﾞｸｳﾞﾘ 3 単過(découvrir)v.t 発見した 「動詞」

XX

enfin ｵﾝﾌｧﾝ adv. ついに 「副詞」
une route. ﾕﾝﾇ･ﾙｰﾄｩ n.f 1 本の道を 「目的語」

そして、道というものはすべて人間たちのところに通じているもの。
Et les routes vont toutes chez les hommes. Et「主語」「動詞」「主語」「間接目的語」
Et ｴ conj. そして
les routes ﾚ･ﾙｰﾄｩ pl.n.f 道は 「主語」
vont ｳﾞｫﾝ 3 複現(aller)v.i（道が）至る、達する 「動詞」
toutes ﾄｩｯﾄ pron.pl.f すべてが 「主語」
chez les hommes. ｼｪ･ﾚ･ｿﾞﾑ adv. 人間たちのところへ 「間接目的語」

「こんにちは」と王子様は言った。
《Bonjour》, dit-il. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Bonjour ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. こんにちは 「挨拶」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il. ｲﾙ rpon 彼は 「主語」

そこは、花ざかりの薔薇園だった。
C'était un jardin fleuri de roses. 「主語」「動詞」「補語」
C' ｽ pron それは 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
un jardin fleuri ｱﾝ･ｼﾞｬﾙﾀﾞﾝ･ﾌﾙﾘ n.m 花ざかりの庭 「補語」
de roses. ﾄﾞｩ･ﾛｰｽﾞ adj. バラの 「形容詞句」

「こんにちは」と薔薇の花たちが言った。
《Bonjour》, dirent les roses. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Bonjour ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. こんにちは 「挨拶」
dirent ﾃﾞｨｰﾙ 3 複過(dire)v.t 言った 「動詞」
les roses. ﾚ･ﾛｰｽﾞ pl.n.f バラたちが 「主語」

王子様は、バラの花たちをじっと見た。それらの花はみんな王子様の花によく似ていた。
Le petit prince les regarda. Elles ressemblaient toutes à sa fleur.
「主語」「目的語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「主語」「間接目的語」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
les ﾚ pron 花たちを 「目的語」
regarda. ﾙｷﾞｬﾙﾀﾞ 3 単過(regarder)v.t じっと見た 「動詞」

XX

Elles ｴﾙ pron.pl. 花たちは 「主語」
ressemblaient ﾙｿﾝﾌﾞﾚ 3 複半(ressembler)v.i 似ていた 「動詞」
toutes ﾄｳｯﾄ pl.pron 皆 「主語」
à sa fleur. ｱ･ｻ･ﾌﾚｰﾙ adv. 彼の花に 「間接目的語」

「きみたちは誰なの？」と王子様は愕然として訊いた。
《Qui êtes-vous? leur demanda-t-il, stupéfait.
《「補語」「動詞」「主語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」「副詞」
Qui ｷ pron 誰 「補語」
êtes ｴｯﾄ 2 複現(être)v.i ～である 「動詞」
vous? ｳﾞ pron.pl. 君たちは 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」
demanda ﾄﾞｳﾓﾝﾀﾞ 3 単過(demander)v.t 訊いた 「動詞」
il, ｲﾙ pron 王子様は 「主語」
stupéfait. ｽﾁｭﾍﾟﾌｪ adv. 愕然として 「副詞」

「わたしたちはバラの花よ」と薔薇たちは言った。
---- Nous sommes des roses, dirent les roses.
《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」
Nous ﾇ pron 私たちは 「主語」
sommes ｿﾑ 1 複現 (être)v.i ～である 「動詞」
des roses, ﾃﾞ･ﾛｰｽﾞ pl.n.f バラの花 「補語」
dirent ﾃﾞｨｰﾙ 3 複過(dire)v.t 言った 「動詞」
les roses. ﾚ･ﾛｰｽﾞ pl.n.f 花たちは 「主語」

「ああ！」と王子様は言った。
---- Ah!》fit le petit prince... 《「感嘆」》,「動詞」「主語」
Ah! ｱｰ int. ああ 「感嘆」
fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

そして彼は、たいへん惨めな思いをした。
Et il se sentit très malheureux. Et「主語」「動詞句」「補語」
Et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
se sentit ｽ･ｿﾝﾃｨ 3 単過(se sentir)v.pr 自分を～だと感じた 「動詞句」

XX

très malheureux. ﾄﾚ･ﾏﾙﾙｰ adj. とても悲しい 「補語」

王子様の花は、自分がこの宇宙でその種の唯一の花だと、王子様に語っていた。

Sa fleur lui avait raconté qu'elle était seule de son espèce dans l'univers.

「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Sa fleur ｻ･ﾌﾚｰﾙ n.f 彼の花は 「主語」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

avait raconté ｱｳﾞｪ･ﾗｺﾝﾃ 3 単半･完了形(raconter)v.t 語っていた 「動詞句」

qu' ｸ conj. ～ということを 「直接目的語」

elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i（時制の一致）～である 「動詞」

seule ｽﾙ adj. 唯一の花 「補語」

de son espèce ﾄﾞｩ･ｿﾝ･ｴｽﾍﾟｰｽ adj. その種類の 「形容詞句」

dans l'univers. ﾄﾞﾝ･ﾘｭﾆｳﾞｪｰﾙ adv. 宇宙で 「副詞句」

しかし、ほら、たった一つの庭に、まったくよく似た薔薇の花が五千本もあるじゃないか！

Et voici qu'il en était cinq mille, toutes semblables, dans un seul jardin!

Et「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」

Et ｴ conj. そして、それなのに

voici qu' ｳﾞｨｼ･ｸ adv. ここにはほら 「副詞句」

il en était ｲ･ﾛ･ﾈﾃ 3 単半(être)v.i（時制の一致）～がある 「動詞句」

cinq mille, ｻﾝｷ･ﾐﾙ pl.n.f 5000 本の薔薇が 「主語」

toutes semblables, ﾄｯﾄ･ｿﾝﾌﾞﾗﾌﾞﾙ adj. とてもよく似た 「形容詞句」

dans un seul jardin! ﾄﾞﾝ･ｻﾞﾝ･ｽﾙ･ｼﾞｬﾙﾀﾞﾝ adv. たった 1 つの庭に 「副詞句」

《彼女はひどく傷つくだろうな》と、王子様は思った。《もしこれを見たら...》

《Elle serait bien vexée, se dit-il, si elle voyait ça ...

《「主語」「動詞句」》,「動詞句」「主語」,《「副詞節」》

Elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」

serait bien vexée, ｽﾚ･ﾋﾞﾔﾝ･ｳﾞｪｸｾ 条・3 単現･受動.f(vexer+ bien)

v.t とても傷つけられるだろう 「動詞句」

se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 思った 「動詞句」

il, ｲﾙ pron 彼は 「主語」

si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

elle ｴﾙ pron 彼女が 「主語」

voyait ｳﾞｫｲｴ 3 単半(voir)v.t 見た 「動詞」

XX

ça ... ｻ pron それを 「目的語」

《彼女は大きな咳をして、笑いものになるのを避けるために、死んだふりをする羽目になるだろう。》

elle tousserait énormément et ferait semblant de mourir pour échapper au ridicule.

《「主語」「動詞」「副詞」et「動詞」「目的語」「副詞句」》

elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」

tousserait ﾄｵｳｽﾚ 条・3 単現(tousser)v.i 咳をするだろう 「動詞」

énormément ｴﾉﾙﾒﾓﾝ adv. 大きく 「副詞」

et ｴ conj. そして

ferait ﾌﾚ 条・3 単現(faire)v.t ～するだろう 「動詞」

semblant de mourir ｿﾝﾌﾞﾛﾝ･ﾄﾞｩ･ﾑﾘｰﾙ n.m 死んだふりを 「目的語」

pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」

échapper ｴｼｬﾍﾟ 不定詞 v.t (à から) 逃れる 「動詞」

au ridicule. ｵ･ﾘﾃﾞｨｷｭｰﾙ adv. 物笑いから 「副詞句」

《そして、ぼくは、彼女を介抱するふりをするはめになるだろう。

Et je serais bien obligé de faire semblant de la soigner,

《Et「主語」「動詞句」「目的語」

Et ｴ conj. そして

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

serais bien obligé de+不定詞 ｽﾚ･ﾋﾞﾔﾝ･ｵﾌﾞﾘｼﾞｪ･ﾄﾞｩ 条・1 単未･成り行き

(être obligé de+不定詞)v. ～せざるをえなくなるだろう 「動詞句」

faire ﾌｪｰﾙ 不定詞 v.t する 「動詞句」

semblant de la soigner, ｿﾝﾌﾞﾛﾝ･ﾄﾞｩ･ｽわﾆｪ n.m 介抱のふり 「目的語」

だって、もしそうしなかったら、ぼくをも辱めるために、本当に死んでしまうだろうから...》

car, sinon, pour m'humilier moi aussi, elle se laisserait vraiment mourir ...》

car, sinon「副詞句」「主語」「動詞句」「副詞」「補語」》

car, ｶｰﾙ conj. なぜなら

sinon, ｼﾉﾝ conj. そうしなければ

pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」

m' ﾑ pron ぼくを 「目的語」

humilier ﾕﾐﾘｪ 不定詞 v.t 辱める 「動詞」

moi aussi, ﾑわ･ｵｼ pron 僕までも 「目的語」

XX

elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」
se laisserait ｽ･ﾚｽﾚ 条・3 単現･放任(se lasser)v.t 自分に～させておくだろう 「動詞句」
vraiment ｳﾞﾚﾓﾝ adv. 本当に 「副詞」
mourir ﾑﾘｰﾙ 不定詞 v.i 死ぬ 「補語」
「本当に死んでしまうだろう」

それから、王子様はさらにこう思った：
Puis il se dit encore： 「副詞」「主語」「動詞句」「副詞」：
Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 思った 「動詞句」
encore ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

《この世でたった一本の花を持っているので、自分は豊かだと思っていたのに、普通の薔薇の花を一本持っているにすぎなかったとは！》
《Je me croyais riche d'une fleur unique, et je ne possède qu'une rose ordinaire.
《「主語」「目的語」「動詞」「補語」「副詞句」et「主語」「動詞句」「目的語」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me ﾑ pron 自分を 「目的語」
croyais ｸﾙｫｲｴ 1 単半(croire)v.t 思っていた 「動詞」
riche ﾘｯｼｭ adj. 豊かな 「補語」
d'une fleur unique, ﾄﾞｭﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ･ﾕﾆｷ adv. たった 1 本しかない花のおかげで 「副詞句」
et ｴ conj. ところが
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne possède qu' ﾇ･ﾎﾟｾｰﾄﾞｩ･ｸ 1 単現･否定(posséder)
v.t ～しか持っていなかった、～を持っているに過ぎなかった 「動詞句」
une rose ordinaire. ﾕﾝﾇ･ﾛｰｽﾞ･ｵﾙﾃﾞｨﾈｰﾙ n.f 普通の薔薇を 1 本 「目的語」

《あの花と膝までの高さの三つの火山（そのうちの一つは永久に休火山かもしれない）、
Ça et mes trois volcans qui m'arrivent au genou, et dont l'un, peut-être, est éteint pour toujours, 「主語」et「主語」「副詞句」「動詞」「補語」「副詞句」
Ça ｻ pron あの花 「主語」
et ｴ conj. そして
mes trois volcans ﾒ･ﾄﾙｫ･ｳﾞｫﾙｺﾝ pl.n.m 僕の 3 つの火山 「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
m' ﾑ pron 僕の 「間接目的語」

XX

arrivent ｱﾘｳﾞ 3 複現(arriver)v.i 届く、達する 「動詞」
au genou, ｵ･ｼﾞｭﾇ adv. 膝まで 「間接目的語」
et ｴ conj. そして
dont l'un, ﾄﾞﾝ･ﾗﾝ n.m その中の 1 つは 「主語」
peut-être, ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ adv. 恐らく、多分 「副詞句」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
éteint ｴﾀﾝ adj. 消えた、休火山 「補語」
pour toujours, ﾌﾟｰﾙ･ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. 永遠に 「副詞句」

これでは、ぼくを立派な王子にすることはできない...》

ça ne fait pas de moi un bien grand prince ...》 「主語」「動詞句」「目的語」「補語」》
ça ｻ pron そんなものでは 「主語」
ne fait pas ﾇ･ﾌｪ･ﾊﾟ 3 単現･否定(faire)v.t ～にしない 「動詞句」
de moi ﾄﾞｩ･ﾑわ adv. 私を 「目的語」
un bien grand prince ｱﾝ･ﾋﾞﾔﾝ･ｸﾞﾛﾝ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 立派な王子に 「補語」

そして、草の上に伏せって、王子様は泣いた。

Et, couché dans l'herbe, il pleura. Et「副詞句」「主語」「動詞」
Et, ｴ conj. そして
couché ｸｼｪ 過去分詞(coucher)v.i 横になって 「副詞句」
dans l'herbe, ﾄﾞﾝ･ﾚﾙﾌﾞ adv. 草の上に 「副詞句」
il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」
pleura. ﾌﾟﾙﾗ 3 単過(pleurer)v.i 泣いた 「動詞」

XXI

XXI

狐が現れたのは、そのとき：

C'est alors qu'apparut le renard： 「動詞」「副詞」「主語」:

C' ｽ pron（強調構文：真の主語 qu'以降を強調する）仮の主語

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

alors ｱﾛｰ adv. その時 「副詞」

qu' ｸ conj. ～することは 「主語」

apparut ｱﾊﾟﾘｭ 3 単過(appraître)v.i 現れた 「動詞」

le renard：ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」

「こんにちは」と狐が言った。

《Bonjour, dit le renard. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」

Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. こんにちは 「挨拶」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le renard：ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」

「こんにちは」と王子様はていねいに答え、振り返ったが、何も見えない。

---- Bonjour, répondit poliment le petit prince, qui se retourna mais ne vit rien.

《「挨拶」》,「動詞」「副詞」「主語」,「主語」「動詞句」mais「動詞句」「目的語」

Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ adv. こんにちは 「挨拶」

XXI

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
poliment ﾎﾟﾘﾓﾝ adv. 丁寧に 「副詞」
le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
qui ｷ pron 彼は 「主語」
se retourna ｽ･ﾙﾄｩﾙﾅ 3 単過(se retourner)v.pr 振り返った 「動詞句」
mais ﾒ conj. しかし
ne vit ﾇ･ｳﾞｨ 3 単過･否定(voir)v.t 見えなかった 「動詞句」
rien. ﾘﾔﾝ pron 何も～ない 「目的語」

「ここだよ」と声がした。「リンゴの木の下だよ...」
----Je suis là, dit la voix, sous le pommier
《「主語」「動詞」「副詞」》,「動詞」「主語」,《「副詞句」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i（存在）いる 「動詞」
là, ﾗｰ adv. ここに 「副詞」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
la voix, ﾗ･ｳﾞｧ n.f 声が 「主語」
sous ｽ prep ～の下 「副詞句」
le pommier ... ﾙ･ﾎﾟﾐｴ n.m リンゴの木 「目的語」

XXI

「誰なの」と王子様は言った。「きみは可愛いね...」

----Qui es-tu? dit le petit prince. Tu es bien joli

《「補語」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」》

Qui ｷ pron 誰 「補語」

es ｴ 2 単現（être）v.i ～である 「動詞」

tu? ﾁｭ pron 君は 「主語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

es ｴ 2 単現（être）v.i ～である 「動詞」

bien joli ... ﾋﾞｬﾝ･ｼﾞｮﾘｰ adj. とても可愛い 「補語」

「ぼくは狐だよ」と狐が言った。

----Je suis un renard, dit le renard. 《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」

un renard, ｱﾝ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネ 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」

「ぼくと遊ぼうよ」と王子様は提案した。「ぼくはこんなにも悲しいんだよ...」

---- Viens jouer avec moi, lui proposa le petit prince. Je suis tellement triste ...

《「動詞句」「副詞句」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」》

Viens jouer ﾋﾞｬﾝ･ｼﾞｭｴ 命・2 単現(venir+不定詞)v.i 遊びに来ておくれよ 「動詞句」

avec moi, ｱｳﾞｪｯｷ･ﾑわ adv. 僕と一緒に 「副詞句」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

proposa ﾌﾟﾛﾎﾟｻﾞ 3 単過(proposer)v.t 提案した 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」

tellement triste ﾃﾙﾓﾝ･ﾄｩﾘｽﾄ adj. とても悲しい 「補語」

「きみと一緒に遊ぶことはできないよ」と狐は言った。「飼いならされていないから」

Je ne puis pas jouer avec toi, dit le renard. Je ne suis pas apprivoisé.

《「主語」「動詞句」「副詞句」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞句」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

XXI

ne puis pas jouer ヌ･ピュイ･パ･ジュエ 1 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)
v.i 遊ぶことはできない 「動詞句」
avec toi, アヴェッキ･トわ adv. 君と一緒に 「副詞句」
dit ディ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le renard. ル･ルナール n.m キツネが 「主語」
Je ジュ pron 僕は 「主語」
ne suis pas apprivoisé. ヌ･シュイ･パ･アプリヴォゼ 1 単現･受動･否定(apprivoiser)
v.t 飼いならされていない 「動詞句」

「ふうん、ごめんね」と王子様は言った。
---- Ah! Pardon》, fit le petit prince. 《「応答」》,「動詞」「主語」
Ah! Pardon》, アー･パルドン int. ああ、ごめんね 「応答」
fit フィ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ル･プティ･プランス n.m 王子様は 「主語」

けれども、じっと考えてから、こう付け加えた：
Mais, après réflexion, il ajouta： Mais「副詞句」,「主語」「動詞」
Mais, メ conj. しかし
après アプレ prep ～の後で 「副詞句」
réflexion, レフレクシオン n.f 熟慮 「目的語」
il イル pron 王子様は 「主語」
ajouta：アジュタ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

「『飼いならす』って、どういう意味なの」
《Qu'est-ce que signifie "apprivoiser"? 《「目的語」「動詞」「主語」》
Qu'est-ce que ケスク pron 何を 「目的語」
signifie シニフィ 3 単現(signifier)v.t 意味する 「動詞」
apprivoiser"? アプリヴォゼ 不定詞 n. 「飼いならす」という言葉は 「主語」

「きみはここの人じゃないね」と狐が言った。「なに探してるの」
---- Tu n'es pas d'ici, dit le renard, que cherches-tu?
《「主語」「動詞句」「補語」》,「動詞」「主語」,《「目的語」「動詞」「主語」》
Tu チュ pron 君は 「主語」
n'es pas ネ･パ 2 単現･否定（être）v.i ～でない 「動詞句」
d'ici, ディシ adv. ここの出身 「補語」
dit ディ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

XXI

le renard, ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」
que ｸ pron 何を 「目的語」
cherches ｼｪﾙｼｭ 2 単現(chercher)v.t 探している 「動詞」
tu? ﾁｭ pron 君は 「主語」

「人間たちを探してるんだ」と王子様は言った。「『飼いならす』って、どういう意味なの」

---- Je cherche les hommes, dit le petit prince. Qu'est-ce que signifie "apprivoiser"?
《「主語」「動詞」「目的語」》,「動詞」「主語」,《「目的語」「動詞」「主語」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
cherche ｼｪﾙｼｭ 1 単現(chercher)v.t 探している 「動詞」
les hommes, ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間を 「目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
Qu'est-ce que ｹｽｸ pron 何を 「目的語」
signifie ｼﾆﾌｨ 3 単現(signifier)v.t 意味する 「動詞」
apprivoiser"? ｱﾌﾟﾘｳﾞｧｾﾞ 不定詞 n. 「飼いならす」という言葉は 「主語」

「人間たちか」と狐が言った。「彼らは鉄砲を持っていて、狩りをするんだよね。あれは全く困りものだよ！

----Les hommes, dit le renard, ils ont des fusils et ils chassent. C'est bien gênant!
《「主語」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「目的語」
et「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「補語」

Les hommes, ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間たちは 「主語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le renard, ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」
ils ｲﾙ pron.pl 彼らは 「主語」
ont ｵﾝ 3 複現(avoir)v.t 持っている 「動詞」
des fusils ﾃﾞ･ﾌｭｼﾞ pl.n.m 銃を 「目的語」
et ｴ conj. そして
ils ｲﾙ pron.pl 彼らは 「主語」
chassent. ｼｬｽ 3 複現(chasser)v.i 狩りをする 「動詞」
C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」
bien gênant! ﾋﾞｬﾝ･ｼﾞｪﾉﾝ adj. 困った 「補語」

XXI

彼らは雌鶏も飼ってる。（ぼくにとっては）それが彼らの唯一いいところなんだ。きみは雌鶏を探さないの？」

Ils élèvent aussi des poules. C'est leur seul intérêt. Tu cherches des poules?

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」》

Ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

élèvent ｴﾚｰｳﾞ 3 複現(élever)v.t 飼育している 「動詞」

aussi des poules. ｵｼ･ﾃﾞ･ﾌﾟｯﾙ pl.n.f 雌鶏も 「目的語」

C' ｽ pron これが 「主語」

est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」

leur seul intérêt. ﾚｰﾙ･ｽﾙ･ｱﾝﾃﾚ n.m 彼らの唯一のいいところ 「補語」

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

cherches ｼｪﾙｼｭ 2 単現(chercher)v.t 探している 「動詞」

des poules? ﾃﾞ･ﾌﾟﾙ pl.n.f 雌鶏を 「目的語」

「探さないね」と王子様は言った。「ぼくは友達を探してるんだ。『飼いならす』って、どういう意味なの」

----Non, dit le petit prince. Je cherche des amis. Qu'est-ce que signifie "apprivoiser"?

《「応答」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「目的語」 | 「目的語」「動詞」「主語」》

Non, ﾉﾝ adv. いいや 「応答」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

cherche ｼｪﾙｼｭ 1 単現(chercher)v.t 探している 「動詞」

des amis. ﾃﾞ･ｻﾞﾐ pl.n.m 友達を 「目的語」

Qu'est-ce que ｹｽｸ pron 何を 「目的語」

signifie ｼﾆﾌｨ 3 単現(signifier)v.t 意味する 「動詞」

apprivoiser"? ｱﾌﾟﾘｳﾞｫｾﾞ 不定詞 n. 「飼いならす」という言葉は 「主語」

「それはみんなが忘れすぎていることだよ」と狐が言った。「それは『絆を創る...』っていう意味だよ」と狐が言った。

----C'est une chose trop oubliée, dit le renard. Ça signifie "créer de liens ...".

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「目的語」》

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」

une chose ﾕﾝﾇ･ｼｮｰｽﾞ n.f 事、物 「補語」

trop oubliée, ﾄﾛ･ｳﾌﾞﾘｴ adj.f 余りにも忘れられた、忘れられ過ぎた 「形容詞句」

XXI

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」
Ça ｻ pron それは 「主語」
signifie ｼﾆﾌｨ 3 単現(signifier)v.t ～を意味する 「動詞」
n. ～ということを 「目的語」
créer ｸﾚｴﾙ 不定詞 v.t 作る 「動詞」
de liens ﾄﾞｩ･ﾘｬﾝ n.m 絆を 「目的語」

「絆を創る？」
----Créer de liens? 《「動詞」「目的語」》
Créer ｸﾚｴﾙ 不定詞 v.t 作る 「動詞」
de liens? ﾄﾞｩ･ﾘｬﾝ n.m 絆を 「目的語」

「そうさ」と狐は言った。「きみはまだぼくにとっては、十万人の少年と変わらない一人の少年にすぎない。」
----Bien sûr, dit le renard. Tu n'es encore pour moi qu'un petit garçon tout semblable à cent mille petits garçons.
《「応答」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞句」「副詞句」「補語」》
Bien sûr, ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. その通り、そうだ 「応答」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
n'es encore... qu' ﾈ･ｵﾝｺｰﾙ...ｸ 2 単現･限定否定（être）v.i まだ～でしかない 「動詞句」
pour moi ﾌﾟｰﾙ･ﾑわ adv. 僕にとって 「副詞句」
un petit garçon ｱﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ｷﾞｬﾙｿﾝ n.m 1 人の少年 「補語」
tout semblable ﾄｩ･ｿﾝﾌﾞﾗﾌﾞﾙ adj. とてもよく似た 「形容詞句」
à cent mille petits garçons. ｱ･ｿﾝ･ﾐﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ｷﾞｬﾙｿﾝ
adv. 10 万人の少年に 「副詞句」
「君は、僕にとっては、まだ十万人のよく似た少年の中の一人の少年にすぎない。」

「だから、ぼくは君を必要としていない。それにきみだって、ぼくを必要としていない。
Et je n'ai pas besoin de toi. Et tu n'as pas besoin de moi non plus.
《Et「主語」「動詞句」「目的語」 | Et「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」
Et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'ai pas ﾈ･ﾊﾟ 1 単現･否定(avoir)v.t がない 「動詞句」

XXI

besoin ﾌﾞｰｽﾞﾜﾝ n.m 必要 「目的語」
de toi. ﾄﾞｩ･ﾄわ adj. 君の 「形容詞句」
Et ｴ conj. そして
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
n'as pas ﾅ･ﾊﾟ 2 単現･否定(avoir)v.t がない 「動詞句」
besoin de moi ﾌﾞｰｽﾞﾜﾝ･ﾄﾞｩ･ﾑわ n.m 僕の必要 「目的語」
non plus. ﾉﾝ･ﾌﾟﾘｭ adv. もまた～でない 「副詞句」

ぼくはきみにとって、十万匹の狐と変わらない一匹の狐にすぎない。
Je ne suis pour toi qu'un renard semblable à cent mille renards.
「主語」「動詞句」「副詞句」「補語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne suis ... qu' ﾇ･ｼｭｲ...ｸ 1 単現･限定否定（être）v.i ～でしかない 「動詞句」
pour toi ﾌﾟｰﾙ･ﾄわ adv. 君にとって 「副詞句」
un renard ｱﾝ･ﾙﾅｰﾙ n.m 1 匹のキツネ 「補語」
semblable à cent mille renards. ｿﾝﾌﾞﾗｰﾌﾞﾙ･ｱ･ｿﾝ･ﾐﾙ･ﾙﾅｰﾙ
adj. 10 万匹のキツネによく似た 「形容詞句」
「僕だって、きみにとっては、十万匹のよく似たキツネの中の一匹のキツネにすぎない。」

しかし、きみがぼくを飼いならせば、ぼくたちはお互いに相手が必要になる。
Mais, si tu m'apprivoises, nous aurons besoin l'un de l'autre.
Mais「副詞節」,「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Mais, ﾒ conj. しかし
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
m' ﾑ pron 僕を 「目的語」
apprivoises, ｱﾌﾟﾘｳﾞわｽﾞ 接・2 単現(apprivoiser)v.t 飼いならす 「動詞」
nous ﾇ pron 僕らは 「主語」
aurons ｵﾛﾝ 1 複未(avoir)v.t ～があるようになるだろう 「動詞」
besoin ﾌﾞｰｽﾞﾜﾝ n.m 必要 「目的語」
l'un de l'autre. ﾗﾝ･ﾄﾞｩ･ﾛｰﾄﾙ adv. お互いに 「副詞句」

きみはぼくにとって、この世で唯一の存在になるだろう。ぼくもきみにとって、この世で唯一の存在になるだろう...」
Tu seras pour moi unique au monde. Je serai pour toi unique au monde ...
「主語」「動詞」「副詞句」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」》

XXI

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
seras ｽﾗ 2 単未（être）v.i ～になるだろう 「動詞」
pour moi ﾌﾟｰﾙ･ﾑわ adv. 僕にとっては 「副詞句」
unique au monde. ﾕﾆｷ･ｵ･ﾓﾝﾄﾞ adj. この世で唯一の 「補語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
serai ｽﾚ 1 単未（être）v.i ～になるだろう 「動詞」
pour toi ﾌﾟｰﾙ･ﾄｩﾜ adv. 君にとっては 「副詞句」
unique au monde. ﾕﾆｷ･ｵ･ﾓﾝﾄﾞ adj. この世で唯一の 「補語」

「話がわかってきたよ」と王子様は言った。「一輪の花があってね... その花がぼくを飼いならした...」

---- Je commence à comprendre, dit le petit prince. Il y a une fleur ... je crois qu'elle m'a apprivoisé ... 《「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」,
《「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
commence à comprendre, ｺﾓﾝｽ･ｱ･ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ 1 単現・開始(commencer à+不定詞)
v.t 分かり始めてきた 「動詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
Il y a ｲ･ﾘ･ﾔ 3 単現(avoir)v.t ～がある 「動詞句」
une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f 一輪の花 「目的語」
je ｼﾞｭ porn 僕は 「主語」
crois ｸﾙわ 1 単現(croire)v.t (que +直説法) ～だと思う 「動詞」
qu' ｸ conj. ～ということを 「目的語」
elle ｴﾙ pron その花が 「主語」
m' ﾑ pron 僕を 「目的語」
a apprivoisé ｱ･ｱﾌﾟﾘｳﾞﾜｾﾞ 3 単現・完了形(apprivoiser)v.t 飼いならした「動詞句」

「ありうることだ」と狐は言った。「地球の上では、あらゆることが見られるんだ...」

---- C'est possible, dit le renard. On voit sur la Terre toutes sortes de choses ...
《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」》

C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」
possible, ﾎﾟｼｰﾌﾞﾙ adj. ありうる 「補語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」

XXI

On ｵﾝ pron 人は 「主語」
voit ｳﾞｫﾜ 3 単現(voir)v.t 見る 「動詞」
sur la Terre ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾃｰﾙ adv. 地上では、地球の上では 「副詞句」
toutes sortes de choses ﾄｳｯﾄ･ｿﾙﾄ･ﾄﾞｩ･ｼｮｰｽﾞ pl.n.f すべての種類のものを 「目的語」

「ああ、それ、地球の上での話じゃないんだ」と王子様は言った。
---- Oh! ce n'est pas sur la Terre》, dit le petit prince.
《「感嘆」「主語」「動詞句」「副詞句」》,「動詞」「主語」
Oh! ｵｰ int. ああ 「感嘆」
ce ｽ pron それは 「主語」
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定（être）v.i ～ではない 「動詞句」
sur la Terre ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾃｰﾙ adv. 地球上の 「副詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

狐はたいへん好奇心をそそられたようだった：
Le renard parut très intrigué： 「主語」「動詞」「補語」：
Le renard ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」
parut ﾊﾟﾘｭ 3 単過(paraître)v.i ～のように見えた 「動詞」
très intrigué：ﾄﾚ･ｱﾝﾄﾘｹﾞ 過去分詞(intriguer)adj. とても好奇心をそそられた 「補語」

「ほかの惑星でのこと？」
《Sur une autre planète? 《「応答」》
Sur une autre planète? ｼｭｰﾙ･ｳﾝﾇ･ｵｰﾄﾙ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. 別の惑星でだって？ 「応答」

「そうなんだ」
---- Oui. 《「応答」》
Oui. ｳｨｰ adv. そうだよ 「応答」

「その惑星にも、狩人がいるの？」
---- Il y a des chasseurs, sur cette planète-la? 《「動詞句」「目的語」「副詞句」》
Il y a ｲ･ﾘ･ﾔ 3 単現(avoir)v.t がいる 「動詞句」
des chasseurs, ﾃﾞ･ｼｬｽｰﾙ pl.n.m 猟師 「目的語」
sur cette planète-la? ｼｭｰﾙ･ｾｯﾄ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ･ﾗ adv. その惑星に 「副詞句」

XXI

「いないね」

---- Non. 《「応答」》

Non. ﾉﾝ adv. いや、いないよ 「応答」

「ああ、それはいいな！雌鶏はいるの？」

----Ça, c'est intéressant! Et des poules? 《「主語」「動詞」「補語」 | Et「目的語」》

Ça, c' ｻ･ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」

intéressant! ｱﾝﾃﾚｯｿﾝ adj. 面白い、興味深い 「補語」

Et ｴ conj. そして

des poules? ﾃﾞ･ﾌﾟｰﾙ pl.n.f 雌鶏はいるの？ 「目的語」

「いないね」

----Non. 《「応答」》

Non. ﾉﾝ adv. いないよ 「応答」

「何事も完ぺきではないね」と狐は溜め息をついた。

----Rien n'est parfait》, soupira le renard. 《「主語」「動詞句」「補語」》,「動詞」「主語」

Rien ﾘｬﾝ pron 何事も（～ない） 「主語」

n'est ﾈ 3 単現･否定（être）v.i ～でない 「動詞句」

parfait》, ﾊﾟﾙﾌｪ adj. 完璧な 「補語」

soupira ｽﾋﾟﾗ 3 単過(soupirer)v.i ため息をついた 「動詞」

le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

けれども、狐はまた自分の考えに戻った：

Mais le renard revint à son idée： Mais「主語」「動詞」「間接目的語」：

Mais ﾒ conj. しかし

le renard ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

revint ﾙｳﾞｧﾝ 3 単過(revenir)v.i 戻った 「動詞」

à son idée：ｱ･ｿﾝ･ｲﾃﾞ adv. 自分の考えに 「間接目的語」

「僕の生活は単調なんだ。ぼくが雌鶏を追いかけると、人間たちがぼくを追いかける。

《Ma vie est monotone. Je chasse les poules, les hommes me chassent.

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「目的語」「動詞」

Ma vie ﾏ･ｳﾞｨｰ n.f 僕の生活は 「主語」

est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」

XXI

monotone. ﾓﾉﾄﾇ adj. 単調な 「補語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
chasse ｼｬｽ 1 単現(chasser)v.t 追いまわす 「動詞」
les poules, ﾚ･ﾌﾟﾙ pl.n.f 雌鶏を 「目的語」
les hommes ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間たちは 「主語」
me ﾑ pron 僕を 「目的語」
chassent. ｼｬｽ 3 複現(chasser)v.t 追いまわす 「動詞」

すべての雌鶏はよく似ているし、すべての人間たちもよく似ている。
Toutes les poules se ressemblent, et tous les hommes se ressemblent.
「主語」「動詞句」et「主語」「動詞句」
Toutes les poules ﾄｯﾄｩ･ﾚ･ﾌﾟﾙ pl.n.f すべての雌鶏は 「主語」
se ressemblent, ｽ･ﾙｿﾝﾌﾞﾙ 3 複現(se ressembler)v.pr 互いに似ている 「動詞句」
et ｴ conj. そして
tous les hommes ﾄｩ･ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m すべての人間は 「主語」
se ressemblent. ｽ･ﾙｿﾝﾌﾞﾙ 3 複現(se ressembler)v.pr 互いに似ている 「動詞句」

だから、いささかうんざりしているんだ。けれども、きみがぼくを飼いならしてくれたら、僕の生活は陽が当たったみたいになるだろう。」
Je m'ennuie donc un peu. Mais, si tu m'apprivoises, ma vie sera comme ensoleillée.
「主語」「動詞句」「副詞句」 | Mais「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
m'ennuie ﾓﾝﾆｭ 1 単現(s'ennuyer)v.pr うんざりしている 「動詞句」
donc ﾄﾞﾝ adv. だから 「副詞」
un peu. ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少し 「副詞句」
Mais, ﾒ conj. だけど
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
m' ﾑ pron 僕を 「目的語」
apprivoises, ｱﾌﾟﾘｳﾞｫｽﾞ 接・2 単現(apprivoiser)v.t 飼いならす 「動詞」
ma vie ﾏ･ｳﾞｨｰ n.f 僕の生活は 「主語」
sera ｽﾗ 3 単未（être）v.i ～になるだろう 「動詞」
comme ｺﾑ conj. ～のように 「補語」
ensoleillée. ｵﾝｿﾚｲｲｪ adj. 日が当たっている 「形容詞」

XXI

「ほかの足音とは違う足音にぼくは気づくようになるだろう。

Je connaîtrai un bruit de pas qui sera différent de tous les autres.

《「主語」「動詞」「目的語」

Je ジュ pron 僕は 「主語」

connaîtrai ｺﾈｰﾄﾚ 1 単未(connaître)v.t 分かるようになるだろう 「動詞」

un bruit de pas ｱﾝ･ﾌﾞﾘｭｲ･ﾄﾞｩ･ﾊﾟ n.m ある足音が 「目的語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

sera ｽﾗ 3 単未（être）v.i ～になるだろう 「動詞」

différent ﾃﾞｨﾌｪﾛﾝ adj. 異なる 「補語」

de tous les autres. ﾄﾞｩ･ﾄｩ･ﾚ･ｿﾞｰﾄﾙ adv. 他の足音とは 「副詞句」

ほかの足音はぼくを穴の中へ戻らせてしまう。

Les autres pas me font rentrer sous terre. 「主語」「目的語」「動詞」「補語」

Les autres pas ﾚ･ｿﾞｰﾄﾙ･ﾊﾟ pl.n.m 他の足音は 「主語」

me ﾑ pron 僕を 「目的語」

font ﾌｫﾝ 3 複現･使役(faire+人+不定詞)v.t（人に）～させる 「動詞」

rentrer ﾛﾝﾄﾚ 不定詞 v.i 戻る 「補語」

sous terre. ｽ･ﾃｰﾙ adv. 地面の下に 「間接目的語」

君の足音はまるで音楽のように、ぼくを土の中から呼び出すだろう。

Le tien m'appellera hors du terrier, comme une musique.

「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」

Le tien ﾙ･ﾁｱﾝ pron.m 君の足音は 「主語」

m' ﾑ pron 僕を 「目的語」

appellera ｱﾍﾟﾙﾗ 3 単未(appeler)v.t 呼ぶようになるだろう 「動詞」

hors du terrier, ｵｰﾙ･ｼﾞｭ･ﾃﾘｪ adv. 穴の外へ 「副詞句」

comme une musique. ｺﾑ･ﾕﾝﾇ･ﾐｼﾞｷ adv. まるで音楽のように 「副詞句」

そしてそれから、ほら見てごらん！あそこに、麦畑が見えるね？

Et puis regarde! Tu vois, là-bas, les champs de blé?

Et「副詞」「動詞」 | 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Et ｴ conj. そして

puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」

regarde! ﾙｷﾞｬﾙﾄﾞ 命・2 単現(regarder)v.t 見てごらん 「動詞」

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

vois, ｳﾞｫ 2 単現 (voir)v.t（疑問文で）見えるだろう？ 「動詞」

XXI

là-bas, ﾗ･ﾊﾞｰ adv. あそこに 「副詞」
les champs de blé? ﾚ･ｼｮﾝ･ﾄﾞｩ･ﾌﾞﾚ pl.n.m 小麦畑 「目的語」

僕はパンを食べないから、麦はぼくにとって役に立たない。
Je ne mange pas de pain. Le blé pour moi est inutile.
「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「副詞句」「動詞」「補語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne mange pas ﾇ･ﾓﾝｼﾞｭ･ﾊﾟ 1 単現･否定(manger)v.t 食べない 「動詞句」
de pain. ﾄﾞｩ･ﾊﾟﾝ n.m パンを 「目的語」

麦畑はぼくに何も思い出させてはくれない。」
Les champs de blé ne me rappellent rien.
「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」》
Le blé ﾙ･ﾌﾞﾚ n.m 小麦は 「主語」
pour moi ﾌﾟｰﾙ･ﾑわ adv. 僕にとっては 「副詞句」
est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」
inutile. ｲﾇｰﾃｨﾙ adj. 役に立たない 「補語」
Les champs de blé ﾚ･ｼｮﾝ･ﾄﾞｩ･ﾌﾞﾚ pl.n.m 小麦畑は 「主語」
ne ...rappellent ﾇ...ﾗﾍﾟﾙ 3 複現･否定(rappeler)v.t 思い出させない 「動詞句」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
rien. ﾘｬﾝ pron 何も 「直接目的語」

「そのこと、それは悲しいことさ！けれども、君は金色の髪をしている。
Et ça, c'est triste! Mais tu a des cheveux couleur d'or.
《Et「主語」「動詞」「補語」 | Mais「主語」「動詞」「目的語」
Et ｴ conj. そして
ça, c' ｻ･ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
triste! ﾄﾘｽﾄ adj. 悲しい 「補語」
Mais ﾒ conj. しかし
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
a ｱ 3 単現(avoir)v.t（身体的特徴が）～である、～をしている 「動詞」
des cheveux ﾃﾞ･ｼｭｳﾞ pl.n.m 髪 「目的語」
couleur d'or. ｸﾚｰﾙ･ﾄﾞｰﾙ adj. 金色の 「形容詞句」

XXI

そこで、きみがぼくを飼いならせば、すてきなことになるよ！

Alors ce sera merveilleux quand tu m'auras apprivoisé!

「副詞」「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

Alors ｱﾛｰ adv. それで、だから 「副詞」

ce ｽ pron それが（金髪であること） 「主語」

sera ｽﾗ 3 単未(être)v.i ～になるだろう 「動詞」

merveilleux ﾒﾙｳﾞｪｲﾕ adj. 素晴らしい 「補語」

quand ｺﾝ conj. ～すると 「副詞節」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

m' ﾑ pron 僕を 「目的語」

auras apprivoisé! ｵﾗ･ｱﾌﾟﾘｳﾞｫｾﾞ 2 単未･完了形(apprivoiser)

v.t 飼いならした（とする） 「動詞句」

黄金色の麦は、ぼくに君のことを思い出させてくれるだろう。

Le blé, qui est doré, me fera souvenir de toi. 「主語」「副詞句」「動詞」「目的語」

Le blé, ﾙ･ﾌﾞﾚ n.m 麦は 「主語」

qui est doré, ｷ･ｴ･ﾄﾞﾚ adj. 金色である 「形容詞節」

me ﾑ pron 僕にとって 「副詞句」

fera ﾌﾗ 3 単未(faire)v.t ～になるだろう 「動詞」

souvenir de toi. ｽｳﾞﾆｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾄｩｫ n.m 君との思い出 「目的語」

そのうえぼくは麦の中の風の音が好きになるだろう...」

Et j'aimerai le bruit du vent dans le blé ...》 Et「主語」「動詞句」「目的語」》

Et ｴ conj. そして

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

aimerai ｴﾑﾚ 1 単未(aimer)v.t を好きになるだろう 「動詞」

le bruit ﾙ･ﾌﾞﾘｭｲ n.m ざわめき 「目的語」

du vent ｼﾞｭ･ｳﾞｫﾝ adj. 風の 「形容詞句」

dans le blé ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾌﾞﾚ adj. 麦の間を吹き抜ける 「形容詞句」

狐は黙った。そして王子様を長いこと見つめた：

Le renard se tut et regarda longtemps le petit prince：

「主語」「動詞句」et「動詞」「副詞」「目的語」：

Le renard ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

se tut ｽ･ﾄｩ 3 単過(se taire)v.pr 黙った 「動詞句」

et ｴ conj. そして

XXI

regarda ﾙｷﾞｬﾙﾀﾞ 3 単過(regarder)v.t 見つめた 「動詞」
longtemps ﾛﾝﾄﾝ adv. 長い事 「副詞」
le petit prince：ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様を 「目的語」

「頼むから... ぼくを飼いならしてよ!」と狐は言った。
《S'il te plaît ... apprivoise-moi! dit-il.
《「副詞節」,「動詞」「目的語」》,「動詞」「主語」
S' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il ｲﾙ pron それが 「主語」
te ﾄｩ pron 君にとって 「間接目的語」
plaît ﾌﾟﾚ 3 単現(plaire)v.i 気に入る 「動詞」
（お願い）もし出来るなら～して下さい、お願いだから～して下さい
apprivoise ｱﾌﾟﾘｳﾞｧｽﾞ 命・2 単現(apprivoiser)v.t 飼いならしてちょうだい 「動詞」
moi! ﾑｧ pron 僕を 「目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il. ｲﾙ pron 彼は 「主語」

「そうしたいよ」と王子様は答えた。「だけど、あまり時間がない。
---- Je veux bien, répondit le petit prince, mais je n'ai pas beaucoup de temps.
《「主語」「動詞」》,「動詞」「主語」,《mais「主語」「動詞句」「目的語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
veux ｳﾞ 1 単現(vouloir)v.t ～したい 「動詞」
bien, ﾋﾞｬﾝ adv. 「副詞」
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
mais ﾒ conj. しかし
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'ai pas ﾈ･ﾊﾟ 1 単現･否定(avoir)v.t ～がない 「動詞句」
beaucoup de temps. ﾎﾞｸ･ﾄﾞｩ･ﾄﾝ n.m（否定文で）あまり時間が 「目的語」

友達を見つけたり、多くのことを知らなければならないんだ」
J'ai des amis à découvrir et beaucoup de choses à connaître.
「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」et「目的語」「動詞句」》
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir à+不定詞)v.t ～しなければならない 「動詞句」
des amis ﾃﾞ･ｻﾞﾐ pl.n.m 友達を 「目的語」

XXI

à découvrir ｱ･ﾃﾞｸｳﾞﾘｰﾙ 不定詞 v.t 見つける 「動詞句」
et ｴ conj. そして
beaucoup de choses ﾎﾞｸ･ﾄﾞｩ･ｼｮｰｽﾞ pl.n.f たくさんの事を 「目的語」
à connaître. ｱ･ｺﾈｰﾄﾙ 不定詞 v.t 知る 「動詞句」

「ものごとは、飼いならして初めて知ることができるんだよ」と狐が言った。
----On ne connaît que les choses que l'on apprivoise, dit le renard.
《「主語」「動詞句」「目的語」》,「動詞」「主語」
On ｵﾝ pron 人は 「主語」
ne connaît ﾇ･ｺﾈ 3 単現･否定(connaître)v.t 知らない 「動詞句」
que les choses ｸ･ﾚ･ｼｮｰｽﾞ pl.n.f 物事しか 「目的語」
que ｸ pron ～する 「形容詞節」
l' ﾙ pron それを 「目的語」
on ｵﾝ pron 人が 「主語」
apprivoise, ｱﾌﾟﾘｳﾞｫｽﾞ 3 単現(apprivoiser)v.t 飼いならす 「動詞」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」
「人は飼いならしたものしか知らない」→「飼いならして初めてものごとを知る」

「人間たちは、もういちいちものを識別しているヒマがない。
Les hommes n'ont plus le temps de rien connaître. 《「主語」「動詞句」「目的語」
Les hommes ﾛﾑ pl.n.m 人間は 「主語」
n'ont plus ﾉﾝ･ﾌﾟﾘｭ 3 複現･否定(avoir)v.t もうない 「動詞句」
le temps ﾙ･ﾄﾝ n.m 時間 「目的語」
de +不定詞 ﾄﾞｩ adj. ～するための 「形容詞句」
rien ﾘｬﾝ pron 何も（～ない） 「目的語」
connaître. ｺﾈｰﾄﾙ 不定詞 v.t 良く知る 「動詞」

商人のところで、すっかりできたものを買ってくるだけだ。
Ils achètent des choses toutes faites chez les marchands.
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」
achètent ｱｼｪｰﾄｩ 3 複現(acheter)v.t 買う 「動詞」
des choses ﾃﾞ･ｼｮｰｽﾞ pl.n.f 物を 「目的語」
toutes faites ﾄｩｯﾄ･ﾌｪｯﾄ adj. すっかり出来上がった 「形容詞句」
chez les marchands. ｼｪ･ﾚ･ﾏﾙｼｮﾝ adv. 商人のところで 「副詞句」

XXI

だけど、友達を売る商人というのはいないから、人間たちはもう友達をもっちゃいない。

Mais comme il n'existe point de marchands d'amis, les hommes n'ont plus d'amis.

Mais「副詞節」,「主語」「動詞句」「目的語」

Mais ﾒ conj. しかし

comme ｺﾑ conj. ～だから、～なので、～のように 「副詞節」

il n'existe point ｲﾙ･ﾈｸﾞｼﾞｽﾄｩ･ﾌﾟ ｱﾝ 3 単現･否定･非人称(exister)

v.i いない 「動詞句」

de marchands ﾄﾞｩ･ﾏﾙｼｮﾝ 否定 pl.n.m 商人は 「主語」

d'amis, ﾀﾞﾐ adj. 友達を売る 「形容詞句」

les hommes ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間は 「主語」

n'ont plus ﾉﾝ･ﾌﾟﾘｭ 3 複現･否定(avoir)v.t もう持っていない 「動詞句」

d'amis. ﾀﾞﾐ 否定 pl.n.m 友達を 「目的語」

友達がほしかったら、僕を飼いならしてよ!」

Si tu veux un ami, apprivoise-moi! 《「副詞節」,「動詞」「目的語」

Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

veux ｳﾞ 2 単現(vouloir)v.t 欲しい 「動詞」

un ami, ｱ･ﾅﾐ n.m 友達を 「目的語」

apprivoise ｱﾌﾟﾘｳﾞｧｽﾞ 命・2 単現(apprivoiser)v.t 飼いならして頂戴 「動詞」

moi! ﾑｧ pron 僕を 「目的語」

「それには、何をしなければいけないの？」と王子様は訊いた。

----Que faut-il faire? dit le petit prince. 《「目的語」「動詞句」》,「動詞」「主語」

Que ｸ pron 何を 「目的語」

faut-il faire? ﾌｫ･ﾃｨﾙ･ﾌｪｰﾙ 3 単現･非人称･必要･疑問(falloir+不定詞)

v.t しなければならないの？ 「動詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「非常に忍耐強くなければいけないね」と狐が答えた。

----Il faut être très patient, répondit le renard. 《「動詞句」「補語」》,「動詞」「主語」,

Il faut être ｲﾌｫ･ｴｰﾄﾙ 3 単現･必要･非人称(falloir+不定詞)

v.i ～にならなければならない 「動詞句」

très patient, ﾄﾚ･ﾊﾟｼｮﾝ adj. とても忍耐強い 「補語」

XXI

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.t 答えた 「動詞」
le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

「初めは、ぼくからちょっと離れて、こんなふうに、草の中に腰を下ろすんだ。
Tu t'assoiras d'abord un peu loin de moi, comme ça, dans l'herbe.
「主語」「動詞句」「副詞句」
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
t'assoiras ﾀｽわﾗ 2 単未･推奨(s'asseoir)v.pr 座るのが良いだろう 「動詞句」
d'abord ﾀﾞﾎﾞｰﾙ adv. 最初は 「副詞句」
un peu loin ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾙわﾝ adv. 少し遠くに 「副詞句」
de moi, ﾄﾞｩ･ﾑわ adv. 僕から 「副詞句」
comme ça, ｺﾑ･ｻ adv. こんな風に 「副詞句」
dans l'herbe. ﾄﾞﾝ･ﾚﾙﾌﾞ adv. 草の中に 「副詞句」

ぼくは、横目できみをこっそり見る。きみは何も言ってはいけないよ。
Je te regarderai du coin de l'oeil et tu ne diras rien.
「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」et「主語」「動詞句」「目的語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
te ﾄｩ pron 君を 「目的語」
regarderai ﾙｷﾞｬﾙﾄﾞﾚ 1 単未 (regarder)v.t 見るだろう 「動詞」
du coin ｼﾞｭ･ｸわﾝ adv. 端っこから 「副詞句」
de l'oeil ﾄﾞｩ･ﾙｲﾕ adj. 目の 「形容詞句」
et ｴ conj. そして、そしたら
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
ne diras ﾇ･ﾃﾞｨﾗ 2 単未･推奨･否定(dire)v.t 言わないのが良いだろう 「動詞句」
rien. ﾘｬﾝ pron 何も 「目的語」

言葉というものは、誤解のもとなんだ。
Le langage est source de malentendus. 「主語」「動詞」「補語」
Le langage ﾙ･ﾛﾝｶﾞｰｼﾞｭ n.m 言葉というものは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
source ｽﾙｽ n.f 源、もと 「補語」
de malentendus. ﾄﾞｩ･ﾏﾛﾝﾄﾝﾃﾞｭ adj. 誤解の 「形容詞句」

XXI

だけど、毎日、少しずつだんだん近くに腰をおろすことができるようになる...」

Mais, chaque jour, tu pourras t'asseoir un peu plus près ...》

Mais「副詞句」,「主語」「動詞句」「副詞句」》

Mais, ﾒ conj. しかし

chaque jour, ｼｬｯｸ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 毎日 「副詞句」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

pourras t'asseoir ﾌﾟﾗ･ﾀｽｱｰﾙ 2 単未･可能(pouvoir+不定詞)

v.pr 座れるようになるだろう 「動詞句」

un peu plus près ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾌﾟﾘｭ･ﾌﾟﾚ adv. 少しずつ近くに 「副詞句」

翌日、王子様がまたやって来た。

Le lendemain revint le petit prince. 「副詞句」「動詞」「主語」

Le lendemain ﾙ･ﾛﾝﾄﾞｩﾓﾝ n.m 翌日 「副詞句」

revint ﾙｳﾞｧﾝ 3 単過(revenir)v.i 再びやって来た 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様が 「主語」

「昨日と同じ時刻に来たほうがよかったね」と狐が言った。

《Il eût mieux valu revenir à la même heure, dit le renard.

《「動詞句」「主語」》,「動詞」「主語」,

Il ｲﾙ pron 非人称主語

eût mieux valu ｲ･ﾐｭ･ｳﾞｧﾘｭ 接・3 単半･完了形（条件法過去第 II 型）(valoir+ mieux)

v.i もっと価値があっただろう 「動詞句」

revenir ﾙｳﾞﾆｰﾙ 不定詞 v.i やってくる事が 「主語」

à la même heure, ｱ･ﾗ･ﾒｰﾑ･ｳｰﾙ adv. 同じ時刻に 「副詞句」

「同じ時刻にやって来たとしたら」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」

「例えば、きみが午後四時に来るとすると、ぼくは三時になるともう嬉しくなり始める。」

Si tu viens, par exemple, à quatre heure de l'après-midi, dès trois heures je commencerai d'être heureux. 《「副詞節」,「副詞句」「主語」「動詞句」「補語」》

Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

viens, ﾋﾞｬﾝ 2 単現(venir)v.i やって来る 「動詞」

par exemple, ﾊﾟｰ･ﾚｸﾞｻﾞﾝﾌﾟﾙ adv. 例えば 「副詞句」

à quatre heure de l'après-midi, ｱ･ｸｧﾄ･ﾚｰﾙﾄﾞｩ･ﾗﾌﾟﾚ･ﾐﾃﾞｨ

XXI

adv. 午後の 4 時に 「副詞句」
dès trois heures デ・トゥルわ・ズール adv. 3 時から 「副詞句」
je ジュ pron 僕は 「主語」
commencerai d'être コモンスレ・デートル 1 単未・開始(commencer de+不定詞)
v.i ～になり始める 「動詞句」
heureux. ウル adj. うれしい 「補語」

「そして、時間がたつにつれて、幸福感が増してくる。
Plus l'heure avancera, plus je me sentirai heureux.
《「副詞節」,「副詞」「主語」「動詞句」「補語」
Plus プリュ prep ～するほど 「副詞節」
l'heure レール n.f 時が 「主語」
avancera, アヴォンスラ 3 単未(aavancer)v.i 進む 「動詞」
plus プリュ prep ますます～する 「副詞」
je ジュ pron 僕は 「主語」
me sentirai ム・ソンティレ 1 単未(se sentir)
v.pr 自分を～だと感じるようになるだろう 「動詞句」
heureux. ウル adj. 幸せ 「補語」

四時には、もうそわそわして、気をもんでしまう：
À quatre heures, déjà, je m'agiterai et m'inquiéterai：
「副詞句」,「主語」「動詞句」et「動詞句」:
À quatre heures, ア・キャト・レール adv. 4 時には 「副詞句」
déjà, デジャ adv. もう 「副詞」
je ジュ pron 僕は 「主語」
m'agiterai マジトゥレ 1 単未(s'agiter)
v.pr（そろそろ来る頃だと思って）そわそわするだろう 「動詞句」
et エ conj. そして
m'inquiéterai：マンキエトゥレ 1 単未(s'inquiéter)
v.pr（来ないかもしれないと）心配するだろう 「動詞句」

ぼくは幸福の代価に気づくことになるだろうな！
je découvrirai le prix du bonheur! 「主語」「動詞」「目的語」
je ジュ pron 僕は 「主語」
découvrirai デクヴリレ 1 単未(découvrir)v.t 気付くだろう 「動詞」
le prix ル・プリ n.m 代償、代価 「目的語」

XXI

du bonheur! ｼﾞｭ･ﾎﾞﾈｰﾙ adj. 幸福の 「形容詞句」

けれども、いつと決めずにきみがやって来ると、何時に心の準備をしたらよいか、さっぱりわからないことになる。

Mais si tu viens n'importe quand, je ne saurai jamais à quelle heure m'habiller le coeur ...

Mais「副詞節」,「主語」「動詞句」「目的語」

Mais ﾒ conj. しかし

si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

viens ﾋﾞﾔﾝ 2 単現(venir)v.i やって来る 「動詞」

n'importe quand, ﾅﾝﾎﾟﾙﾄ･ｺﾝ adv. いつでも、時間を決めずに 「副詞句」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ne saurai jamais ﾇ･ｿﾚ･ｼﾞｬﾒ 1 単未･否定(savoir)v.t 全く分からないだろう 「動詞句」

à quelle heure ｱ･ｹ･ﾚｰﾙ adv. 何時に～するかと言う事を 「目的語」

m'habiller ﾏﾋﾞｴ 不定詞(habiller+me)v.t 自分の～に服を着せる 「動詞句」

le coeur ﾙ･ｹｰﾙ n.m 心に 「目的語」

「心の準備をする」

節目というものが必要なんだ」

Il faut des rite. 「動詞句」「主語」》

Il faut ｲ･ﾌｫ 3 単現(falloir)v.h（非人称）～が必要だ 「動詞句」

des rite. ﾃﾞ･ﾘｯﾄ n.m 儀式、習慣、節目 「主語」

「節目って、何？」と王子様が言った。

---- Qu'est-ce qu'un rite? dit le petit prince.

《「補語」「動詞」「主語」》,「動詞」「主語」

Qu' ｸ pron 何？ 「補語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

ce qu'un rite? ｽ･ｶﾝ･ﾘｯﾄ n.m 「節目」は 「主語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

XXI

「これも、みんなが忘れすぎている何かだよ」と狐が言った。

---- C'est aussi quelque chose de trop oublié, dit le renard.

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

aussi quelque chose ｵｼ･ｹﾙｸ･ｼｮｰｽﾞ pron もまた何か 「補語」

de trop oublié, ﾄﾞｩ･ﾄﾛ･ｳﾌﾞﾘｴ 過去分詞(oublier)adj. 忘れられ過ぎている「形容詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

「ある一日をほかの日と違うものにするものだよ。ある時間をほかの時間と違うものにするものだよ。」

C'est ce qui fait qu'un jour est différent des autres jours, une heure, des autres heures.

《「主語」「動詞」「補語」》

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

ce ｽ pron もの 「補語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.t する 「動詞」

qu' ｸ conj. ～ということ 「目的語」

un jour ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ n.m ある一日が 「主語」

XXI

est エ 3 単現(être)v.i ～になる 「動詞」
différent ﾃﾞｨﾌｪﾛﾝ adj. 異なる 「補語」
des autres jours, ﾃﾞ･ｿﾞｰﾄﾙ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 他の日とは 「副詞句」
une heure, ｭ･ﾇｰﾙ n.f ある時間が 「主語」
des autres heures. ﾃﾞ･ｿﾞｰﾄﾙ･ｽﾞｰﾙ adj. 他の時間とは異なる 「補語」
différent が省略されている

「たとえば、狩人たちのところには、一つの節目がある。
Il y a un rite, par exemple, chez mes chasseurs. 《「動詞句」「主語」「副詞句」
Il y a ｲ･ﾘ･ﾔ 3 単現(avoir)v.t ある 「動詞句」
un rite, ｱﾝ･ﾘﾄ n.m 節目が 「主語」
par exemple, ﾊﾟ･ﾚｸﾞｿﾞﾝﾌﾟﾙ adv. 例えば 「副詞句」
chez mes chasseurs. ｼｪ･ﾒ･ｼｬｾｰﾙ adv. 狩人たちのところには 「副詞句」

彼らは村の娘たちと、木曜日にダンスをする。すると、木曜日は素敵な日となるのさ！
Ils dansent le jeudi avec les filles du village. Alors le jeudi est jour merveilleux!
「主語」「動詞」「副詞句」 | 「副詞」「主語」「動詞」「補語」
Ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」
dansent ﾄﾞﾝｽ 3 複現(danser)v.i 踊る 「動詞」
le jeudi ﾙ･ｼﾞｭﾃﾞｨ n.m 木曜日には 「副詞句」
avec les filles ｱｳﾞｪｯｷ･ﾚ･ﾌｨｰﾕ adv. 娘たちと 「副詞句」
du village. ｼﾞｭ･ｳﾞｨﾗｰｼﾞｭ adj. 村の 「形容詞句」
Alors ｱﾛｰ adv. それで、だから 「副詞」
le jeudi ﾙ･ｼﾞｭﾃﾞｨ n.m 木曜日は 「主語」
est エ 3 単現(être)v.i ～になる 「動詞」
jour ｼﾞｭｰﾙ n.m 一日 「補語」
merveilleux! ﾒﾙｳﾞｪｲﾕ adj. 素晴らしい 「形容詞」

ぼくは葡萄畑まで散歩に行く。
Je vais me promener jusqu'à la vigne. 「主語」「動詞句」「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
vais +不定詞 ｳﾞｪ 1 単現(aller+不定詞)v. ～しに行く 「動詞句」
me promener ﾑ･ﾌﾟﾛﾑﾈ 不定詞(se promener)v.pr 散歩する 「動詞句」
jusqu'à ｼﾞｭｽｶ adv. ～まで 「副詞句」
la vigne. ﾗ･ｳﾞｨｰﾆｭ n.f ブドウ畑 「目的語」

XXI

もし狩人たちが日を決めないでダンスをすると、毎日が変わりばえしないし、ぼくには全然ヴァカンスがなくなってしまう」

Si les chasseurs dansaient n'importe quand, les jours se ressembleraient tous, et je n'aurais point de vacances.》

「副詞節」,「主語」「動詞句」「副詞」et「主語」「動詞句」「目的語」》

Si シ conj. もし〜ならば 「副詞節」

les chasseurs レ・シャセール pl.n.f 狩人たちが 「主語」

dansaient ドンセ 3 複半(danser)v.i 踊っていた 「動詞」

n'importe quand, ナンポ ルト・コン adv. いつでも 「副詞句」

les jours レ・ジュール pl.n.m 毎日は 「主語」

se ressembleraient ス・ルソンブ ルレ 条・3 複現(se ressembler)

v.pr 互いに似ているだろう 「動詞句」

tous, トス adv. 全く 「副詞」

et エ conj. そして

je ジュ pron 僕は 「主語」

n'aurais ノーレ 条・1 単現・否定(avoir)v.t ないだろう 「動詞句」

point de vacances. プ わン・ドゥ・ヴァコンス pl.n.f 全く休暇が（ない） 「目的語」

XXI

こうして、王子様は狐を飼いならした。そして、旅立ちのときが近づくと、狐が言った：

Ainsi, le petit prince apprivoisa le renard. Et quand l'heure du départ fut proche：

「副詞」「主語」「動詞」 | Et「副詞節」

Ainsi, ｱﾝｼ adv. このようにして 「副詞」

le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

apprivoisa ｱﾌﾟﾘｳﾞｧｻﾞ 3 単過(apprivoisser)v.t 飼いならした 「動詞」

le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネを 「目的語」

Et ｴ conj. そして

quand ｺﾝ conj. ～すると、～する時 「副詞節」

l'heure du départ ﾚｰﾙ･ｼﾞｭ･ﾃﾞﾊﾟｰﾙ n.f 出発の時が 「主語」

fut ﾌｭ 3 単過(être)v.i ～になった 「動詞」

proche：ﾌﾟﾛｼｭ adj. 近い 「補語」

「ああ、泣けてくるなあ...」

《Ah! dit le renard ... Je pleurerai. 《「感嘆」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」》

Ah! ｱｰ int. ああ 「感嘆」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le renard ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネが 「主語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

pleurerai. ﾌﾟﾙｰﾙﾚ 1 単未(pleurer)v.i 泣き出しそうだ 「動詞」

「ぼくのせいじゃないよ」と王子様は言った。

---- C'est ta faute, dit le petit prince, 《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

ta faute, ﾀ･ﾌｫｰﾄ n.f 君自身の責任 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「きみに悪いようになどとは、全然願ってもいなかったんだからね。飼いならして欲しいと言ったのは、きみの方だよ...」

je ne te souhaitais point de mal, mais tu as voulu que je t'apprivoise ...

《「主語」「動詞句」「目的語」 mais「主語」「動詞句」「目的語」》

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ne te souhaitais ﾇ･ﾄｩ･ｽｴﾃ 1 単半･否定(souhaiter+te)

v.t 君に～を願わなかった 「動詞句」

XXI

point de mal, ﾌﾟｫﾝ･ﾄﾞｩ･ﾏﾙ n.m 少しも悪いことを（～ない） 「目的語」
mais ﾒ conj. しかし
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
as voulu ｱ･ｳﾞﾘｭ 2 単現･完了形(vouloir)v.t 望んだ 「動詞句」
que ｸ conj. ～といいうことを 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
t' ﾄｩ pron 君を 「目的語」
apprivoise ｱﾌﾟﾘｳﾞｫｽﾞ 1 単現(apprivoiser)v.t 飼いならす 「動詞」

「まったく、そのとおりさ」と狐が言った。
----Bien sûr, dit le renard. 《「応答」》,「動詞」「主語」
Bien sûr, ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adj. 全く正しい、本当にその通りだ 「応答」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

「だけど、きみは今にも泣けてくるんだろう！」と王子様は言った。
----Mais tu vas pleurer! dit le petit prince. 《Mais「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」
Mais ﾒ conj. しかし
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
vas pleurer! ｳﾞｧ･ﾌﾟﾙﾚ 2 単現･近未来(aller+不定詞)v.i 泣き出しそうである 「動詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「まったく、そのとおりさ」と狐が言った。
----Bien sûr, dit le renard. 《「応答」》,「動詞」「主語」
Bien sûr, ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adj. 全く正しい、本当にその通りだ 「応答」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

「それじゃ、それによって何の得もしなかったね！」
----Alors tu n'y gagnes rien! 《「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」》
Alors ｱﾛｰ adv. じゃ、それじゃあ 「副詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
n'y gagnes ﾆ･ｶﾞﾆｭ 2 単現･否定(gagner+y)
v.t それによって得をしていない 「動詞句」
y 「王子様に飼いならしてもらったこと」をさす

XXI

rien! ﾘﾔﾝ pron 何も（～ない） 「目的語」

「得したさ」と狐は言った。「麦の色のおかげでね」

----J'y gagne, dit le renard, à cause de la couleur du blé.》

《「主語」「副詞」「動詞」》,「動詞」「主語」,《「副詞句」》

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

y ｲ adv. それによって 「副詞」

gagne, ｶﾞﾆｭ 1 単現(gagner)v.t 得をしている、得した 「動詞」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le renard, ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

à cause de ｱ･ｺｰｽﾞ･ﾄﾞｩ adv. ～のおかげで、～のせいで 「副詞句」

la couleur du blé. ﾗ･ｸﾚｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾌﾞﾚ n.f 麦の色「目的語」

それから、こう付け加えた：

Puis il ajouta： 「副詞」「主語」「動詞」:

Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」

il ｲﾙ pron キツネは 「主語」

ajouta：ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

Va revoir ｳﾞｧ･ﾙｳﾞｫﾜｰﾙ 命・2 単現(aller+不定詞)v.t もう一度見に行ってごらん「動詞句」

les roses. ﾚ･ﾛｰｽﾞ pl.n.f バラの花たちを 「目的語」

「薔薇の花たちのところに、また行ってごらん。

《Va revoir les roses. 《「動詞句」「目的語」

君の薔薇がこの世で唯一のものだということがわかるよ。

Tu comprendras que la tienne est unique au monde. 「主語」「動詞」「目的語」

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

comprendras ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾗ 2 単未(comprendre)v.t 分かるだろう 「動詞」

que ｸ conj. ～ということが 「目的語」

la tienne ﾗ･ﾃｨｴﾝﾇ n.f 君の薔薇の花が 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

unique au monde. ｲﾆｷ･ｵ･ﾓﾝﾄﾞ adj. この世で唯一の 「補語」

XXI

そして、さよならを言いに戻ってきてよ。そうしたら一つの秘密をきみにプレゼントしよう」

Tu reviendras me dire adieu, et je te ferai cadeau d'un secret.》

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」,et
「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
reviendras +不定詞 ﾙｳﾞｨﾔﾝﾄﾞﾗ 2 単未･命令(revenir+不定詞)
v. ～しに戻ってきなさい 「動詞句」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
dire ﾃﾞｨｰﾙ 不定詞 v.t 言う 「動詞句」
adieu, ｱﾃﾞｨｭｰ n.m さよならの言葉 「直接目的語」
et ｴ conj. そうしたら
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
te ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」
ferai ﾌﾚ 1 単未(faire)v.t するだろう 「動詞」
cadeau ｷｬﾄﾞ n.m プレゼントを 「直接目的語」
d'un secret.》ﾀﾞﾝ･ｽｸﾚ adj. 秘密の 「形容詞句」

王子様は、薔薇の花たちのところに、また行ってみた。

Le petit prince s'en fut revoir les roses： 「主語」「動詞句」「目的語」:
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
s'en fut revoir ｿﾝ･ﾌｭ･ﾙｳﾞｫｰﾙ 3 単過(s'en aller+不定詞)v.t また見に行った 「動詞句」
les roses：ﾚ･ﾛｰｽﾞ pl.n.f バラの花たちを 「目的語」

「君たちは、ぼくの薔薇の花に少しも似ていないね。まだ、何物でもないんだ」と言った。

《Vous n'êtes pas du tout semblables à ma rose, vous n'êtes rien encore, leur dit-il.

《「主語」「動詞句」「補語」,「主語」「動詞句」「補語」「副詞」》,
「間接目的語」「動詞」「主語」,

Vous ｳﾞ pron 君たちは 「主語」
n'êtes pas ﾈｯﾄ･ﾊﾟ 2 複現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
du tout semblables ｼﾞｭ･ﾄｩ･ｿﾝﾌﾞﾗｰﾌﾞﾙ adj. 全く似ていない 「補語」
à ma rose, ｱ･ﾏ･ﾛｰｽﾞ adj. 僕の薔薇の花に 「副詞句」
vous ｳﾞ pron 君たちは 「主語」
n'êtes ﾈｯﾄ 2 複現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
rien ﾘｬﾝ pron 何者でも（～ない） 「補語」
encore, ｵﾝｺｰﾙ adv. まだ 「副詞」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」

XXI

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il. ｲﾙ pron 彼は 「主語」

「君たちを飼いならした人は一人もいないし、君たちが飼いならした人も一人もいない。」
Personne ne vous a apprivoisées et vous n'avez apprivoisé personne.
《「主語」「動詞句」「目的語」et「主語」「動詞句」「目的語」》
Personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron 誰も（～ない） 「主語」
ne ...a apprivoisées ﾇ...ｱ･ｱﾌﾟﾘｳﾞｧｾﾞ 3 単現･完了形･否定.pl.f(apprivoiser)
v.t 飼いならさなかった 「動詞句」
vous が roses pl.n.f を表すので、apprivoisées となる
vous ｳﾞ pron 君たちを 「目的語」
et ｴ conj. そして
vous ｳﾞ pron 君たちは 「主語」
n'avez apprivoisé ﾅｳﾞｪ･ｱﾌﾟﾘｳﾞｧｾ 2 複現･完了形･否定(apprivoiser)
v.t 飼いならさなかった 「動詞句」
personne. ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron 誰も（～ない） 「目的語」

「きみたちは、かつてのあの狐みたいだ。
Vous êtes comme était mon renard. 《「主語」「動詞」「補語」
Vous ｳﾞ pron 君たちは 「主語」
êtes ｴｯﾄ 2 複現(être)v.i ～である 「動詞」
comme ｺﾑ adv. ～のような 「補語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
mon renard. ﾓﾝ･ﾙﾅｰﾙ n.m 僕のキツネ 「主語」
「僕のキツネがかつてそうだったような」

あれは最初はほかの十万匹の狐と変わらない一匹の狐にすぎなかった
Ce n'était qu'un renard semblable à cent mille autres. 「主語」「動詞句」「補語」
Ce ｽ pron あのキツネは 「主語」
n'était qu' ﾈﾃ･ｸ 3 単半･部分否定(être)v.i ～でしかなかった 「動詞句」
un renard ｱﾝ･ﾙﾅｰﾙ n.m 一匹のキツネ 「補語」
semblable ｿﾝﾌﾞﾗｰﾌﾞﾙ adj. 似ている 「形容詞」
à cent mille autres. ｱ･ｿﾝ･ﾐﾙ･ｵｰﾄﾙ adv. 他の 10 万匹に 「副詞句」

XXI

けど、ぼくは彼と友達になった。だからいまでは、彼はこの世で唯一の存在なのさ」

Mais j'en ai fait mon ami, et il est maintenant unique au monde.》

Mais「主語」「目的語」「動詞句」「補語」et「主語」「動詞」「副詞」「補語」》

Mais メ conj. しかし

j' ジュ pron 僕は 「主語」

en オン pron 彼を 「目的語」

ai fait エ・フェ 1 単現・完了形(faire)v.t ～にした 「動詞句」

mon ami, モ・ナミ n.m 友達に 「補語」

et エ conj. だから

il イル pron 彼は 「主語」

est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

maintenant マントゥノン adv. 今では 「副詞」

unique au monde.》 イニキ・オ・モンド adj. この世で唯一の 「補語」

薔薇の花たちは、たいへん気づまりな思いをした。

Et les roses étaient bien gênées. Et「主語」「動詞」「補語」

Et エ conj. それで

les roses レ・ローズ pl.n.f バラの花たちは 「主語」

étaient エテ 3 複半(être)v.i ～だった 「動詞」

bien gênées. ビヤン・ジェネ adj.pl.f 大変ばつの悪い思い 「補語」

「君たちは美しいけれど、意味がない」と王子様は花たちになおも言った。

《Vous êtes belles, mais vous êtes vides, leur dit-il encore.

《「主語」「動詞」「補語」mais「主語」「動詞」「補語」》

,「間接目的語」「動詞」「主語」「副詞」,

Vous ヴ pron 君たちは 「主語」

êtes エット 2 複現(être)v.i ～である 「動詞」

belles, ベル adj.pl.f 美しい 「補語」

mais メ conj. しかし

vous ヴ pron 君たちは 「主語」

êtes エット 2 複現(être)v.i ～である 「動詞」

vides, ヴィッド adj.pl.f 空っぽの、意味のない 「補語」

leur レール pron 彼らに 「間接目的語」

dit ディ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

il イル pron 彼は 「主語」

encore. オンコール adv. さらに 「副詞」

XXI

「君たちのためには、誰も死ぬことができない。

On ne peut pas mourir pour vous. 《「主語」「動詞句」「副詞句」

On ｵﾝ pron 人は、誰も 「主語」

ne peut pas mourir ﾇ･ﾌﾟ･ﾊﾟ･ﾑﾘｰﾙ 3 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)

v.i 死ぬことはできない 「動詞句」

pour vous. ﾌﾟｰﾙ･ｳﾞ adv. 君たちのために 「副詞句」

もちろん、僕のあの薔薇の花だって、普通の通りすがりの人が見たなら、きみたちと変わらないと思うだろうさ。

Bien sûr, ma rose à moi, un passant ordinaire croirait qu'elle vous ressemble.

「副詞句」,「主語」「動詞」「目的語」

Bien sûr, ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「副詞句」

ma rose à moi, ﾏ･ﾛｰｽﾞ･ｱ･ﾑわ n.f この僕の薔薇の花は 「主語」

un passant ｱﾝ･ﾊﾟｿﾝ n.m 通行人、通りすがりの人は 「主語」

ordinaire ｵﾙﾃﾞｨﾈｰﾙ adj. 普通の 「形容詞」

croirait ｸﾙわﾚ 条・3 単現(croire)v.t と思うだろう 「動詞」

qu'ｸ conj. ～ということを 「目的語」

elle ｴﾙ pron 僕の花が 「主語」

vous ｳﾞ pron 君たちに 「間接目的語」

ressemble. ﾙｿﾝﾌﾞﾙ 3 単現(ressembler)v.i 似ている 「動詞」

でも、あの花だけは、きみたちみんなよりも大切なんだ。だって、ぼくが水をかけてあげたのは、あの花なんだから。」

Mais à elle seule elle est plus importante que vous toutes, puisque c'est elle que j'ai arrosée. Mais「副詞句」「主語」「動詞」「補語」,「副詞節」》

Mais ﾒ conj. しかし

à elle seule ｱ･ｴﾙ･ｽﾙ adv. 彼女についてだけは 「副詞句」

elle ｴﾙ pron 彼女は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

plus importante ﾌﾟﾘｭ･ｻﾞﾝﾎﾟﾙﾄﾝﾄ adj. 一番大切な 「補語」

que vous toutes, ｸ･ｳﾞ･ﾄｩｯﾄ adv. 君たちみんなよりも 「副詞句」

puisque ﾋﾟｭｲｽｷ conj. なぜなら～なので 「副詞節」

c'ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

elle ｴﾙ pron あの花 「補語」

XXI

que ｸ pron ～する 「形容詞節」
j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
ai arrosée. ｴ･ｱﾛｾﾞ 1 単現･完了形(arroser)
v.t 水をかけてやった 「動詞句」

「だって、ぼくが覆いをかけてあげたのは、あの花なんだから。
Puisque c'est elle que j'ai mise sous globe. 《Puisque「動詞」「補語」「主語」
Puisque ﾋﾟｭｲｽｷ conj. なぜなら～なので
c' ｽ pron 仮の主語（真の主語は que 以降）
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
elle ｴﾙ pron あの花 「補語」
que ｸ conj. ～ということは 「主語」
j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
ai mise ｴ･ﾐｽﾞ 1 単現･完了形.f(mettre)v.t 置いた、かぶせた 「動詞句」
sous globe. ｽ･ｸﾞﾛｰﾌﾞ adv. 球形のガラスの蓋の下に 「副詞句」

だって、ぼくがついたてで風から護ってあげたのは、あの花なんだから。
Puisque c'est elle que j'ai abritée par le paravent. Puisque「動詞」「補語」「主語」
Puisque c'est elle あの花なんだから Puisque「動詞」「補語」
que j' 僕が～したのは 「主語」
ai abritée ｴ･ｱﾌﾞﾘﾃ 1 単現･完了形.f(abriter)v.t 保護した 「動詞句」
par le paravent. ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ﾊﾟﾗｳﾞｫﾝ adv. 衝立によって 「副詞句」

（蝶々になる二、三匹をのこして）ぼくが毛虫を除いてあげたのは、あの花なんだから。
Puisque c'est elle dont j'ai tué les chenilles (sauf les deux ou trois pour les papillons).
Puisque「動詞」「補語」「主語」
Puisque c'est elle あの花なんだから Puisque「動詞」「補語」
dont ﾄﾞﾝ adv.. だから、従って 「副詞」
j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
ai tué ｴ･ﾁｭｴ 1 単現･完了形(tuer)v.t 殺した 「動詞句」
les chenilles ﾚ･ｼｭﾆｰﾕ pl.n.f 毛虫を 「目的語」
(sauf ｿﾌ adv. ～は別として 「副詞句」
les deux ou trois ﾚ･ﾄﾞｩ･ｳ･ﾄｩﾙわ pl.n. 2, 3 匹 「目的語」
pour les papillons). ﾌﾟｰﾙ･ﾚ･ﾊﾟﾋﾟｮﾝ adv. 蝶々にするために 「副詞句」

XXI

ぼくが不平や空威張りや沈黙にさえも耳を傾けてあげたのは、あの花なんだから。

Puisque c'est elle que j'ai écoutée se plaindre, ou se vanter, ou même quelquefois se taire

Puisque「動詞」「補語」「主語」

Puisque c'est elle あの花なんだから Puisque「動詞」「補語」

que ｸ conj. 〜することは 「主語」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

ai écoutée ｴ･ｴｸﾃ 1 単現･完了形.f(écouter)v.t 聞いてやった 「動詞句」

elle が「直接目的語」なので écoutée になる

se plaindre, ｽ･ﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ 不定詞 v.pr 不平を言う 「補語」

ou ｳ conj. または

se vanter, ｽ･ｳﾞｫﾝﾃ 不定詞 v.pr ほらを吹く 「補語」

ou ｳ conj. または

même quelquefois ﾒｰﾑ･ｹﾙｸﾌｫ adv. 時には〜さえ 「副詞句」

se taire. ｽ･ﾃｰﾙ 不定詞 v.pr 沈黙する 「補語」

あれは僕の薔薇の花なんだから」

Puisque c'est ma rose.》 Puisque「主語」「動詞」「補語」》

Puisque ﾋﾟｭｲｽｷ conj. 〜なのだから

c' ｽ pron あれは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i 〜である 「動詞」

ma rose.》ﾏ･ﾛｰｽﾞ n.f 僕のバラ 「補語」

それから、王子様は狐の方に戻ってきた：

Et il revint vers le renard： Et「主語」「動詞句」「目的語」:

Et ｴ conj. それから

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

revint vers ﾙｳﾞｧﾝ･ｳﾞｪｰﾙ 3 単過(revenir +不定詞)v.t また会いに戻ってきた 「動詞句」

le renard：ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネに 「目的語」

「さようなら」と王子様が言った。

《Adieu, dit-il ... 《「間投」》,「動詞」「主語」

Adieu, ｱﾃﾞｨｭ int. さようなら 「間投」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

XXI

「さようなら」と狐が言った。「ほら、僕の秘密。これはいとも単純なものだよ。

---- Adieu, dit le renard. Voici mon secret. Il est très simple：

《「間投」》,「動詞」「主語」,《「動詞」「補語」 ┃ 「主語」「動詞」「補語」》:

Adieu, ｱﾃﾞｨｭ int. さようなら 「間投」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

Voici ｳﾞｧｼ v.i これが～だ 「動詞」

mon secret. ﾓﾝ･ｽｸﾚ n.m 僕の秘密 「補語」

Il ｲﾙ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

très simple：ﾄﾚ･ｻﾝﾌﾟﾙ adj. とても単純な 「補語」

心で見ない限り、ものごとはよく見えない。ものごとの本質は、目では見えない」

on ne voit bien qu'avec le coeur. L'essentiel est invisible pour les yeux.

《「動詞句」「副詞句」 ┃ 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

ne voit bien qu' ﾇ･ｳﾞｧ･ﾋﾞﾔﾝ･ｸ 3 単現･部分否定(voir)v.t しかよく見えない 「動詞句」

avec le coeur. ｱｳﾞｪｯｷ･ﾙ･ｹｰﾙ adv. 心によって 「副詞句」

L'essentiel ﾚｿﾝｼｴﾙ n.m 大事なことは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

invisible ｱﾝｳﾞｨｼﾞﾌﾞﾙ adj. 見えない 「補語」

pour les yeux. ﾌﾟｰﾙ･ﾚ･ｼﾞｭ adv. 目では 「副詞句」

「ものごとの本質は、目では見えない」と王子様はよく覚えておくために、繰り返した。

---- L'essentiel est invisible pour les yeux, répéta le petit prince, afin de se souvenir.

《「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》,「動詞」「主語」,「副詞句」

L'essentiel ﾚｿﾝｼｴﾙ n.m 大事なことは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

invisible ｱﾝｳﾞｨｼﾞﾌﾞﾙ adj. 見えない 「補語」

pour les yeux, ﾌﾟｰﾙ･ﾚ･ｼﾞｭ adv. 目では 「副詞句」

répéta ﾚﾍﾟﾀ 3 単過(répéter)v.t 繰り返した 「動詞」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

afin de +不定詞 ｱﾌｧﾝ･ﾄﾞｩ adv. ～するために 「副詞句」

se souvenir. ｽ･ｽｳﾞﾆｰﾙ 不定詞 v.pr 覚えておく 「動詞句」

XXI

「きみの薔薇の花がそんなにも大切なものになったのは、きみがその薔薇の花のために時間を費やしてしまったからなんだよ」

---- C'est le temps que tu as perdu pour ta rose qui fait ta rose si importante.

《「動詞」「補語」「主語」》

C' ｽ pron 仮の主語（真の主語は qui 節）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

le temps ﾙ･ﾄﾝ n.m 時間 「補語」

que ｸ pron ～する 「形容詞節」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

as perdu ｱ･ﾍﾟﾙﾃﾞｭ 2 単現･完了形(perdre)v.t 浪費した 「動詞句」

pour ta rose ﾌﾟｰﾙ･ﾀ･ﾛｰｽﾞ adv. 君の薔薇のために 「副詞句」

qui ｷ conj. それが～することは 「主語」

fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.t ～にしている 「動詞」

ta rose ﾀ･ﾛｰｽﾞ n.f 君の薔薇の花を 「目的語」

si importante. ｼ･ｱﾝﾎﾟﾙﾄﾝﾄ adj. それほど大切なものに 「補語」

「ぼくが僕の花のために時間を費やしてしまったから...」と王子様はよく覚えておくために、言った。

---- C'est le temps que j'ai perdu pour ma rose ..., fit le petit prince, afin de se souvenir.

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,「副詞句」

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

le temps que j'ai perdu pour ma rose ..., ﾙ･ﾄﾝ･ｸ･ｼﾞｪ･ﾍﾟﾙﾃﾞｭ･ﾌﾟｰﾙ･ﾏ･ﾛｰｽﾞ

n.m 僕が薔薇の花のために浪費した時間 「補語」

fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

afin de se souvenir. ｱﾌｧﾝ･ﾄﾞｩ･ｽ･ｽｳﾞﾆｰﾙ adv. 覚えておくために 「副詞句」

「人間たちはこの真理を忘れてしまったんだよ」と狐は言った。

----Les hommes ont oublié cette vérité, dit le renard.

《「主語」「動詞句」「目的語」》,「動詞」「主語」,

----Les hommes ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人間たちは 「主語」

ont oublié ｵﾝ･ﾄｩﾌﾞﾘｴ 3 複現･完了形(oublier)v.t 忘れてしまった 「動詞句」

cette vérité, ｾｯﾄ･ｳﾞｪﾘﾃ n.f この真理を 「目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le renard. ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネは 「主語」

XXI

「でも、君はこの真理を忘れちゃいけないよ。君は、君の薔薇の花に責任があるんだよ...

Mais tu ne dois pas l'oublier. Tu es responsable de ta rose ...

《Mais「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Mais メ conj. しかし

tu チュ pron 君は 「主語」

ne dois pas l'oublier. ヌ・ドゥワ・パ・ルブリエ 2 単現・義務・否定(devoir+不定詞+la)

v.t それを忘れてはならない 「動詞句」

Tu チュ pron 君は 「主語」

es エ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」

responsable レスポンサーブル adj.（de に関して）責任がある 「補語」

de ta rose ドゥ・タ・ローズ adv. 君の薔薇の花に 「副詞句」

きみは、君が飼いならしたものに対して、永久に責任があるんだ。」

Tu deviens responsable pour toujours de ce que tu as apprivoisé.

「主語」「動詞」「補語」「副詞句」「間接目的語」》

Tu チュ pron 君は 「主語」

deviens ドゥヴィヤン 2 単現(devenir)v.i ～になる 「動詞」

responsable レスポンサブル adj.（de に関して）責任がある 「補語」

pour toujours プール・トゥジュール adv. 永遠に 「副詞句」

de ce ド・ス adv. それに 「間接目的語」

que ク pron ～する 「形容詞節」

tu チュ pron 君が 「主語」

as apprivoisé. ア・アプリヴォゼ 2 単現・完了形(apprivoiser)

v.t 飼いならした 「動詞句」

「僕は、ぼくの薔薇の花に責任がある...」と王子様はよく覚えておくために、繰り返した。

----Je suis responsable de ma rose ...》, répéta le petit prince, afin de se souvenir.

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」「副詞句」

Je ジュ pron 僕は 「主語」

suis シュイ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」

responsable de ma rose ...》レスポンサーブル・ドゥ・マ・ローズ

adj. 僕は僕の花に責任がある 「補語」

répéta レペタ 3 単過(répéter)v.t 繰り返した 「動詞」

le petit prince, ル・プティ・プランス n.m 王子様は 「主語」

afin de +不定詞 アファン・ドゥ adv. ～するために 「副詞句」

XXII

se souvenir. ｽ･ｽｳﾞﾆｰﾙ 不定詞 v.pr 覚えておく 「動詞句」
afin que+接続法 ～するために（どちらも文章語、日常語では pour, pour que を用いる）

XXII

「こんにちは」と王子様は言った。
《Bonjour, dit le petit prince. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ n.m おはよう 「挨拶」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「こんにちは」と転轍手は言った。
---- Bonjour, dit l'aiguilleur. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」
Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ n.m おはよう 「挨拶」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
l'aiguilleur. ﾚｷﾞｭｲｪｰﾙ n.m（鉄道の）転轍手が 「主語」

「ここで何をしてるの」と王子様は言った。
---- Que fais-tu ici? dit le petit prince. 《「目的語」「動詞」「主語」「副詞」》,「動詞」「主語」
Que ｸ pron 何を 「目的語」
fais ﾌｪ 2 単現(faire)v.t している 「動詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
ici? ｲｼ adv. ここで 「副詞」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「旅行者たちを、千人ずつパックにして、入れ替えているんだよ」と転轍手が言った。
---- Je trie les voyageurs, par paquets de mille, dit l'aiguilleur.
《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》,「動詞」「主語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
trie ﾄﾘ 1 単現(trier)v.t 整理している 「動詞」
les voyageurs, ﾚ･ｳﾞｫﾔｼﾞｭｰﾙ pl.n.m 旅行者たちを 「目的語」
par paquets de mille, ﾊﾟｰﾙ･ﾊﾟｹ･ﾄﾞｩ･ﾐﾙ adv. 1000 人づつパックにして 「副詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
l'aiguilleur. ﾚｷﾞｭｲｪｰﾙ n.m（鉄道の）転轍手が 「主語」

XXII

「旅行者たちを運ぶ列車を、右の方へ送ったり、左の方へ送ったりしているのさ」

J'expédie les trains qui les emportent, tantôt vers la droite, tantôt vers la gauche.》

《「主語」「動詞」「目的語」,「副詞句」》

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

expédie ｴｸｽﾍﾟﾃﾞｨ 1 単現(expédier)v.t 送っている 「動詞」

les trains ﾚ･ﾄﾗﾝ pl.n.m 列車を 「目的語」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

les ﾚ pl.pron 旅行者たちを 「目的語」

emportent, ｵﾝﾎﾟﾙﾄｩ 3 複現(emporter)v.t 運ぶ 「動詞」

tantôt ﾄﾝﾄ adv. ある時は 「副詞句」

vers la droite, ｳﾞｪｰﾙ･ﾗ･ﾄﾞﾙわ adv. 右の方へ 「副詞句」

tantôt vers la gauche.》ﾄﾝﾄ･ｳﾞｪｰﾙ･ﾗ･ｺﾞｰｼｭ adv. ある時は左の方へ 「副詞句」

すると、明かりのついた特急列車が、雷のような轟音をあげながら、転轍手のキャビンをゆらして通過した。

Et un rapide illuminé, grondant comme le tonnerre, fit trembler la cabine d'aiguillage.

Et「主語」「副詞句」「動詞句」「目的語」

Et ｴ conj. すると

un rapide ｱﾝ･ﾗﾋﾟﾄﾞ n.m 特急列車が 「主語」

illuminé, ｲﾘｭﾐﾈ adj. 明かりのついた 「形容詞」

grondant ｸﾞﾛﾝﾄﾞﾝ 現在分詞(gronder)v.i 轟音をあげながら 「副詞句」

comme ｺﾑ conj. ～のように 「副詞句」

le tonnerre, ﾙ･ﾄﾈｰﾙ n.m 雷鳴 「目的語」

fit trembler ﾌｨ･ﾄﾛﾝﾌﾞﾚ 3 単過･使役(faire+不定詞)v.t 揺らした 「動詞句」

la cabine ﾗ･ｷｬﾋﾞｰﾇ n.f 操縦席を 「目的語」

d'aiguillage. ﾃﾞｷﾞｭｲﾔｰｼﾞｭ adj. 転轍器の 「形容詞句」

「彼らはとても急いでいるんだね。何を探してるの」と王子様は言った。

《Ils sont bien pressés, dit le petit prince. Que cherchent-ils?

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,《「目的語」「動詞」「主語」》

Ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

bien pressés, ﾋﾞｬﾝ･ﾌﾟﾚｾ adj.pl とても急いでいる 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

Que ｸ pron 何を 「目的語」

XXII

cherchent ｼｪﾙｼｭ 3 複現(chercher)v.t 探している 「動詞」
ils? ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

「機関士自身、それを知らないんだよ」と転轍手は言った。
----L'homme de la locomotive l'ignore lui-même》, dit l'aiguilleur.
《「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」》,「動詞」「主語」
L'homme ﾛﾑ n.m 男は 「主語」
de la locomotive ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾛｺﾓﾃｨｳﾞ adj. 機関車の 「形容詞句」
→ 機関士は
l' ﾙ pron それを 「目的語」
ignore ｲﾆｮﾙ 3 単現(ignorer)v.t 知らない 「動詞」
lui-même》, ﾘｭｲ･ﾒｰﾑ adv. 彼自身も 「副詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
l'aiguilleur. ﾚｷﾞｭｲｪｰﾙ n.m（鉄道の）転轍手が 「主語」

すると、明かりのついた二番目の特急列車が、反対の方向へ、轟音をあげながら通過していった。
Et gronda, en sens inverse, un second rapide illuminé. Et「動詞」「副詞句」「主語」
Et ｴ conj. すると
gronda, ｸﾞﾛﾝﾀﾞ 3 単過(gronder) v.i 轟音をあげた 「動詞」
en sens inverse, ｵﾝ･ｿﾝｽ･ｱﾝｳﾞｪﾙｽ adv. 反対方向へ 「副詞句」
sens ｿﾝｽ n.m 方向 inverse ｱﾝｳﾞｪﾙｽ adj. 反対の
un second rapide illuminé. ｱﾝ･ｽｺﾞﾝ･ﾗﾋﾟｰﾄﾞ･ｲﾘｭﾐﾈ
n.m 明かりのついた 2 番目の特急列車が 「主語」

「もう、戻ってきたの？」と王子様は訊いた...
《Ils reviennent déja? demanda le petit prince ...
《「主語」「動詞」「副詞」》,「動詞」「主語」
Ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」
reviennent ﾙｳﾞｨｴﾝﾇ 3 複現(revenir)v.i 戻ってきた 「動詞」
déja? ﾃﾞｼﾞｬ adv. もう 「副詞」
demanda ﾄﾞｩﾓﾝﾀﾞ 3 単過(demander)v.t 尋ねた 「動詞」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

XXII

「あれは同じ旅客じゃないんだよ。すれ違ったんだよ」と転轍手は言った。

---- Ce ne sont pas les mêmes, dit l'aiguilleur. C'est un échange.

《「主語」「動詞句」「補語」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」》

Ce ｽ pron あれは 「主語」

ne sont pas ﾇ･ｿﾝ･ﾊﾟ 3 複現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

les mêmes, ﾚ･ﾒｰﾑ adj. 同じ旅客 「補語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

l'aiguilleur. ﾚｷﾞｭｲｴｰﾙ n.m（鉄道の）転轍手が 「主語」

C' ｽ pron あれは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

un échange. ｱﾝ･ｴｼｮﾝｼﾞｭ n.m 入れ替え 「補語」

「彼らがいた場所が気に入らなかったのかな」

---- Ils n'étaient pas contents, là où ils étaient? 「主語」「動詞句」「補語」

Ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

n'étaient pas ﾈﾃ･ﾊﾟ 3 複半･否定(être)v.i ～でなかった 「動詞句」

contents, ｺﾝﾄﾝ adj.pl 満足した、気に入った 「補語」

là ﾗ adv. 場所に 「副詞句」

où ils étaient? ｳ･ｲﾙ･ｾﾞﾃ adj. 彼らが居た 「形容詞句」

「誰だって自分のいるところには決して満足しないよ」と転轍手は言った。

---- On n'est jamais content là où l'on est》, dit l'aiguilleur.

《「主語」「動詞句」「補語」》,「動詞」「主語」

On ｵﾝ pron 人は 「主語」

n'est jamais ﾈ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(être)v.i 決して～でない 「動詞句」

content ｺﾝﾄﾝ adj. 満足した 「補語」

là où l'on est》, ﾗ･ｳ･ﾛ･ﾈ adv. 自分がいる場所には 「副詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

l'aiguilleur. ﾚｷﾞｭｲｴｰﾙ n.m（鉄道の）転轍手が 「主語」

すると、明かりのついた三番目の特急列車が、轟音をあげながら通って行った。

Et gronda le tonnerre d'un troisième rapide illuminé. Et「動詞」「主語」

Et ｴ conj. すると

gronda ｸﾞﾛﾝﾀﾞ 3 単過(gronder) v.i 轟音をあげた 「動詞」

le tonnerre ﾙ･ﾄﾈｰﾙ n.m 雷鳴が 「主語」

d'un troisième rapide illuminé. ﾀﾞﾝ･ﾄﾙわｼﾞｴｰﾑ･ﾗﾋﾟｰﾄﾞ･ｲﾘｭﾐﾈ

XXII

adj. 明かりのついた 3 番目の特急列車の 「形容詞句」

「最初の旅行者たちを追いかけてるんだろうか」と王子様は訊いた。

《Ils poursuivent les premiers voyageurs? demanda le petit prince.

《「主語」「動詞」「目的語」》,「動詞」「主語」

Ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」

poursuivent ﾌﾟｰﾙｼｭｰｳﾞ 3 複現(poursuivre)v.t 追いかけている 「動詞」

les premiers voyageurs? ﾚ･ﾌﾟﾙﾐｴ･ｳﾞｫﾔｼﾞｪｰﾙ pl.n.m 最初の旅行者たちを 「目的語」

demanda ﾄﾞｩﾓﾝﾀﾞ 3 単過(demander)v.t 訊いた 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「なんにも追いかけてなんかいないね」と、転轍手は言った。

----Ils ne poursuivent rien du tout, dit l'aiguilleur.

《「主語」「動詞句」「目的語」》,「動詞」「主語」,

----Ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」

ne poursuivent ﾇ･ﾌﾟｰﾙｼｭｰｳﾞ 3 複現･否定(poursuivre)v.t 追いかけていない 「動詞句」

rien du tout, ﾘﾔﾝ･ｼﾞｭ･ﾄｩ pron 全く何も（～ない） 「目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

l'aiguilleur. ﾚｷﾞｭｲｪｰﾙ n.m（鉄道の）転轍手が 「主語」

「みんな車中で眠ってるんだ。さもなければ、あくびをしている。

Ils dorment là-dedans, ou bien ils bâillent.

《「主語」「動詞」「副詞句」, ou bien「主語」「動詞」

Ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」

dorment ﾄﾞﾙﾑ 3 複現(dormir)v.i 眠っている 「動詞」

là-dedans, ﾗ･ﾄﾞｩﾄﾞﾝ adv. その中で 「副詞句」

ou bien ｳ･ﾋﾞﾔﾝ conj.（強調）あるいは、さもなければ

ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」

bâillent. ﾊﾞｲﾕ 3 複現(bâiller)v.i あくびをしている 「動詞」

子供たちだけが窓ガラスに鼻をおしつけて、外を見ている」

Les enfants seuls écrasent leur nez contre les vitres.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」》

Les enfants seuls ﾚ･ｿﾞﾝﾌｫﾝ･ｽﾙ pl.n.f 子供たちだけが 「主語」

écrasent ｴｸﾗｽﾞ 3 複現(écraser)v.t 押し付けている 「動詞」

leur nez ﾚｰﾙ･ﾈ n.m 鼻を 「目的語」

XXII

contre les vitres. ｺﾝﾄﾙ･ﾚ･ｳﾞｨｰﾄﾙ adv. 窓ガラスにぴったりくっつけて 「副詞句」

「子供たちだけが、何を求めているか知ってるんだね」と王子様は言った。

----Les enfants seuls savent ce qu'ils cherchent, fit le petit prince.

《「主語」「動詞」「目的語」》,「動詞」「主語」,

Les enfants seuls ﾚ･ｿﾞﾝﾌｫﾝ･ｽﾙ pl.n.f 子供たちだけが 「主語」

savent ｻｰｳﾞ 3 複現(savoir)v.t 知っている 「動詞」

ce ｽ pron それを 「目的語」

qu' ｸ pron ～する 「形容詞節」

ils ｲﾙ pron 彼らが 「主語」

cherchent, ｼｪﾙｼｭ 3 複現(chercher)v.t 探している 「動詞」

fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「子供たちは、ぼろきれ人形に時間を費やすから、その人形がとても大切になるんだ。

Ils perdent du temps pour une poupée de chiffons, et elle devient très importante,

《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」et「主語」「動詞」「補語」

Ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」

perdent ﾍﾟﾙﾄﾞｩ 3 複現(perdre)v.t 浪費する、費やしている 「動詞」

du temps ｼﾞｭ･ﾄﾝ n.m 時間を 「目的語」

pour une poupée ﾌﾟｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾌﾟﾍﾟ adv. 人形のために 「副詞句」

de chiffons, ﾄﾞｩ･ｼﾌｫﾝ adj.pl ぼろきれの 「形容詞句」

et ｴ conj. それで

elle ｴﾙ pron その人形は 「主語」

devient ﾄﾞｩｳﾞｨﾔﾝ 3 単現(devenir)v.i ～になる 「動詞」

très importante, ﾄﾚ･ｻﾞﾝﾎﾟﾙﾄﾝﾄ adj. とても大切な 「補語」

だから、人形を取り上げられると、泣けてくるんだ...」

et si on la leur enléve, ils pleurent ... et「副詞節」,「主語」「動詞」》

et ｴ conj. だから

si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

on ｵﾝ pron 人が 「主語」

la ﾗ pron それを 「直接目的語」

leur ﾚｰﾙ pron 彼らから 「間接目的語」

enléve, ｵﾝﾚｰｳﾞ 接・3 単現(enlever)v.t 取り上げる 「動詞」

ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」

XXIII

pleurent ﾌﾟﾙｰﾙ 接・3 複現(pleurer)v.i 泣くだろう 「動詞」

「子供たちは、幸運だよ」と転轍手は言った。

----Ils ont de la chance》, dit l'aiguilleur. 《「主語」「動詞」「目的語」》,「動詞」「主語」

Ils ｲﾙ pl.pron 彼らは 「主語」

ont ｵﾝ 3 複現(avoir)v.t ある、持っている 「動詞」

de la chance》, ﾄﾞｩ･ﾗ･ｼｮﾝｽ n.f 運を 「目的語」

運がいい、ついている、幸運だ

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

l'aiguilleur. ﾚｷﾞｭｲｪｰﾙ n.m（鉄道の）転轍手が 「主語」

XXIII

「こんにちは」と王子様が言った。

《Bonjour, dit le petit prince. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」

Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ n.m おはよう 「挨拶」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「こんにちは」と商人は言った。

---- Bonjour》, dit le marchand. 《「挨拶」》,「動詞」「主語」

Bonjour, ﾎﾞﾝｼﾞｭｰﾙ n.m おはよう 「挨拶」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le marchand. ﾙ･ﾏﾙｼｮﾝ n.m 商人は 「主語」

それは、のどの渇きを癒す改良された丸薬の商人だった。

C'était un marchand de pilules perfectionnées qui apaisent la soif.

「主語」「動詞」「補語」

C' ｽ pron それは 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

un marchand ｱﾝ･ﾏﾙｼｮﾝ n.m 商人 「補語」

de pilules ﾄﾞｩ･ﾋﾟﾘｭﾙ adj.pl.f 丸薬の 「形容詞句」

perfectionnées ﾍﾟﾙﾌｪｸｼｮﾈ adj.pl.f 改良された 「形容詞」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節」

apaisent ｱﾍﾟｽﾞ 3 複現(apaiser)v.t 鎮める、和らげる 「動詞」

la soif. ﾗ･ｽﾜﾌ n.f 喉の渇きを 「目的語」

XXIII

一週間につき一錠飲むと、もう水を飲みたいとは思わなくなる。

On en avale une par semaine et l'on n'éprouve plus le besoin de boire.

「主語」「副詞」「動詞」「目的語」「副詞句」et「主語」「動詞句」「目的語」

On ｵﾝ pron 人は 「主語」

en ｵﾝ adv. 丸薬のうちの 「副詞」

avale ｱｳﾞｧﾙ 3 単現(avaler)v.t 飲み込む、飲む 「動詞」

une ﾕﾝﾇ pron 1 錠を 「目的語」

par semaine ﾊﾟｰﾙ･ｽﾒｰﾇ adv. 1 週間につき 「副詞句」

et ｴ conj. そうすれば

l'on ﾛﾝ pron 人は 「主語」

et, ou, que, si の後ろでは on の代わりに l'on を使う

n'éprouve plus ﾈﾌﾟﾙｳﾞ･ﾌﾟﾘｭ 3 単現･否定(éprouver)v.t もう感じない 「動詞句」

le besoin ﾙ･ﾌﾞｽﾞﾜﾝ n.m 必要を 「目的語」

de boire. ﾄﾞｩ･ﾌﾞわｰﾙ adj. 水を飲む 「形容詞句」

「なぜ、そんなものを売るの」と王子様は訊いた。

《Pourquoi vends-tu ça? dit le petit prince.

《「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》,「動詞」「主語」

Pourquoi ﾌﾟﾙｸわ adv. どうして 「副詞」

vends ｳﾞｫﾝ 2 単現(vendre)v.t 売っている 「動詞」

tu ﾁｭ pron あなたは 「主語」

ça? ｻ pron そういうものを、そんなものを 「目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince. ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「これは、すごい時間の節約だよ」と商人は言った。

----C'est une grosse économie de temps, dit le marchand.

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

une grosse économie ﾕﾝﾇ･ｸﾞﾛｽ･ｴｺﾉﾐｰ n.f すごい節約 「補語」

de temps, ﾄﾞｩ･ﾄﾝ adj. 時間の 「形容詞句」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le marchand. ﾙ･ﾏﾙｼｮﾝ n.m 商人は 「主語」

XXIII

「専門家が計算したんだ。一週間に五十三分の節約になる」

Les experts ont fait des calculs. On épargne cinquante-trois minutes par semaine.

《「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

Les experts ﾚ･ｾﾞｸｽﾍﾟｰﾙ pl.n. 専門家たちが 「主語」

ont fait ｵﾝ･ﾌｪ 3 複現･完了形(faire)v.t ～をした 「動詞句」

des calculs. ﾃﾞ･ｶﾙｷｭﾙ pl.n.m 計算を 「目的語」

On ｵﾝ pron 人は 「主語」

épargne ｴﾊﾟﾙﾆｭ 3 単現(épargner)v.t 節約する、節約できる 「動詞」

cinquante-trois minutes ｻﾝｺｰﾝﾄ･ﾄﾙｵﾜ･ﾐﾆｭｯﾄ pl.nf 53 分を 「目的語」

par semaine. ﾊﾟｰﾙ･ｽﾒｰﾇ adv. 1 週間につき 「副詞句」

「では、その五十三分をどうするの」

---- Et que fait-on de ces cinquante-trois minutes?

Et「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」

Et ｴ conj. それで

que ｸ pron 何を 「目的語」

fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.t する 「動詞」

on ｵﾝ pron 人は 「主語」

de ces cinquante-trois minutes? ﾄﾞｩ･ｾ･ｻﾝｺﾝﾄ･ﾄﾙｵﾜ･ﾐﾆｭｯﾄ

adv. その 53 分によって、その 53 分を使って 「副詞句」

XXIV

「したいことをするのさ...」

---- On en fait ce que l'on veut ...》 「主語」「副詞」「動詞」「目的語」

On ｵﾝ pron 人は 「主語」

en ｵﾝ adv. それで（53 分で） 「副詞」

fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.t する 「動詞」

ce ｽ pron ことを 「目的語」

que ｸ pron ～する 「形容詞節」

l'on ﾛﾝ pron 人が 「主語」

veut ...》ｳﾞ 3 単現(vouloir)v.t 望む 「動詞」

《ぼくなら》と王子様は思った。

《Moi, se dit le petit prince, 《「主語」》,「動詞句」「主語」,

Moi, ﾑｫﾜ pron 僕は、僕ならば 「主語」

se dit ｽ･ﾃﾞｨ 3 単過(se dire)v.pr 思った、心のうちで言った 「動詞句」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

《もし余分に使える五十三分があったら、泉の方へゆっくり歩いて行くのにな...》

si j'avais cinquante-trois minutes à dépenser, je marcherais tout doucement vers une fontaine ...》 《「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞句」》

si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

avais ｱｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t あった、持っていた 「動詞」

cinquante-trois minutes ｻﾝｺﾝﾄ･ﾄﾙｫﾜ･ﾐﾆｭｯﾄ pl.n.f 53 分を 「目的語」

à dépenser, ｱ･ﾃﾞﾎﾟﾝｾ adj. 使うべき、余分な 「形容詞句」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

marcherais ﾏﾙｼｭﾚ 条・1 単現(marcher)v.i 歩いて行きたいものだ 「動詞」

tout doucement ﾄｩ･ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. とてもゆっくりと 「副詞句」

vers une fontaine ...》ｳﾞｪｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾌｫﾝﾃｰﾇ adv. 泉の方へ 「副詞句」

XXIV

砂漠でのぼくの飛行機の故障から、一週間目になっていた。

Nous en étions au huitième jour de ma panne dans le désert,

「主語」「動詞句」「副詞句」

Nous ﾇ pron 私たちは 「主語」

en étions ｵﾝ･ｴﾁｮﾝ 1 複半(en être a)v.i ～に至っていた 「動詞句」

XXIV

au huitième jour ｵ･ﾕｨﾁｴｰﾑ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 1 週間目に 「副詞句」
de ma panne ﾄﾞｩ･ﾏ･ﾊﾟﾝﾇ adv.（飛行機の）故障から 「副詞句」
dans le désert, ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ adv. 砂漠の中で 「副詞句」

水の貯えの最後の一滴を飲みながら、ぼくは丸薬売りの話に耳を傾けていた：

et j'avais écouté l'histoire du marchand en buvant la dernière goutte de ma provision d'eau： et「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」：
et ｴ conj. そして
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
avais écouté ｱﾍﾞ･ｴｸﾃ 1 単半･完了形(écouter)v.t 耳を傾けていた 「動詞句」
l'histoire du marchand ﾘｽﾄﾜｰﾙ･ｼﾞｭ･ﾏﾙｼｮﾝ n.f 商人の話に 「目的語」
en buvant ｵﾝ･ﾋﾞｭﾎﾞﾝ ジェロンディフ(boire)adv. 飲みながら 「副詞句」
la dernière goutte ﾗ･ﾃﾞﾙﾆｴｰﾙ･ｸﾞｯﾄ n.f 最後の水滴を 「目的語」
de ma provision d'eau：ﾄﾞ･ﾏ･ﾌﾟﾛｳﾞｨｼﾞｮﾝ･ﾄﾞ adj. 水の貯えの「形容詞句」
provision ﾌﾟﾛｳﾞｨｼﾞｮﾝ n.f 蓄え

「ああ」と、僕は王子様に言った。

《Ah! dis-je au petit prince, 《「感嘆」》,「動詞」「主語」「間接目的語」,
Ah! ｱ int. ああ 「感嘆」
dis ﾃﾞｨ 1 単過(dire)v.i 言った 「動詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は（飛行士は） 「主語」
au petit prince, ｵ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adv. 王子様に 「間接目的語」

実にすてきだね、君の思い出は！

ils sont bien jolis, tes souvenirs, 《「動詞」「補語」「主語」
ils ｲﾙ pron 仮の主語（真の主語は tes souvenirs）
sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
bien jolis, ﾋﾞｬﾝ･ｼﾞｮﾘ adj.pl とても素敵な 「補語」
tes souvenirs, ﾃ･ｽｳﾞﾆｰﾙ pl.n.m 君の思い出は 「主語」

でも、ぼくは飛行機をまだ修理してないし、飲み水がもう一滴もない。

mais je n'ai pas encore réparé mon avion, je n'ai plus rien à boire,
mais「主語」「動詞句」「目的語」,「主語」「動詞」「目的語」
mais ﾒ conj. だけど
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'ai pas encore réparé ﾈ･ﾊﾟ･ｿﾞﾝｺｰﾙ･ﾚﾊﾟﾚ 1 単現･完了形･否定(réparer)

XXIV

v.t まだ修理していない 「動詞句」
mon avion, ﾓ･ﾅｳﾞｨｮﾝ n.m 僕の飛行機を 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'ai plus ﾈ･ﾌﾟﾘｭ 1 単現･否定(avoir)v.t もうない 「動詞句」
rien à boire, ﾘｱﾝ・ﾅ･ﾌﾞｫｰﾙ pron 飲み水が何も（～ない） 「目的語」
à boire 飲むべき「形容詞句」

だからぼくもまた、泉の方へゆっくり歩いていくことができたら、どんなにいいだろう！」
et je serais heureux, moi aussi, si je pouvais marcher tout doucement vers une fontaine!
et「主語」「動詞」「補語」「副詞句」「副詞節」》
et ｴ conj. それで
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
serais ｽﾚ 条・1 単現(être)v.i ～だろう 「動詞」
heureux, ｳﾙ adj. 幸せな 「補語」
moi aussi, ﾑｫｰ･ｵｼ adv. 僕自身も 「副詞句」
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
pouvais marcher ﾌﾟｳﾞｪ･ﾏﾙｼｪ 1 単半･可能(pouvoir+不定詞)
v.i 歩いて行けたら 「動詞句」
tout doucement ﾄｩ･ﾄﾞｫｳｰｽﾓﾝ adv. とてもゆっくり 「副詞節」
vers une fontaine! ｳﾞｪｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾌｫﾝﾃｰﾇ adv. 泉の方へ 「副詞句」

「ぼくの友達の狐がね...」と彼はぼくに言った。
----Mon ami le renard, me dit-il ... 《「言いよどみ」》,「間接目的語」「動詞」「主語」
Mon ami le renard, ﾓ･ﾅﾐ･ﾙ･ﾙﾅｰﾙ n.m 僕の友達のキツネが... 「言いよどみ」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.i 言った 「動詞」
il ｲﾙ pron 彼が（王子様が） 「主語」

「ねえ、坊や、もう狐どころではないよ！」
----Mon petit bonhomme, il ne s'agit plus du renard! 《「呼びかけ」,「動詞句」「主語」》
Mon petit bonhomme, ﾓﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ n.m ねえ坊や 「呼びかけ」
il ｲﾙ pron 仮の主語（真の主語は du renard）
ne s'agit plus ﾇ･ｻｼﾞ･ﾌﾟﾘｭ 3 単現･否定(s'agir de) ～はもう問題ではない 「動詞句」
「～を考えている余裕はない」
du renard! ｼﾞｭ･ﾚﾅｰﾙ n.m（de le renard）キツネの事は 「主語」

XXIV

「どうして？」

----Pourquoi? 《「副詞」》

Pourquoi? ﾌﾟﾙｸｫ adv. なぜ、どうして 「副詞」

「のどが渇けば、もう死んでしまうんだよ...」

----Parce qu'on va mourir de soif ...》 《Parce qu'「主語」「動詞句」「目的語」》

Parce qu' ﾊﾟﾙｽ･ｸ conj. なぜなら、～だから

on ｵﾝ pron（三人称単数扱い）僕たちは 「主語」

va mourir ｳﾞｧ･ﾑﾘｰﾙ 3 単現･近接未来(aller+不定詞)v.i 死にそうだ 「動詞句」

de soif ...》ﾄﾞｩ･ｽｫﾌ adv. 喉の渇きのために 「副詞句」

彼はぼくの言っていることが理解できず、ぼくにこう答えた。

Il ne comprit pas mon raisonnement, il me répondit：

《「主語」「動詞句」「目的語」》,「主語」「間接目的語」「動詞」:

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ne comprit pas ﾇ･ｺﾝﾌﾟﾘ･ﾊﾟ 3 単過･否定(comprendre)v.t 理解できなかった 「動詞句」

mon raisonnement, ﾓﾝ･ﾚｿﾞﾝﾇﾓﾝ n.m 僕の言っている理屈が 「目的語」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」

répondit：ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

「たとえこれから死んでいくとしても、友達を得たということはいいことだね。

《C'est bien d'avoir eu un ami, même si l'on va mourir. 《「動詞」「補語」「主語」

C' ｽ pron 仮の主語（真の主語は d'avoir 以降）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

bien ﾋﾞﾔﾝ adj. 良い 「補語」

d'avoir eu ﾀﾞｳﾞｫｰﾙ･ｲ 不定詞･完了形(avoir)v.t ～を持った事は 「主語」

un ami, ｱ･ﾅﾐ n.m 友達を 「目的語」

même si ﾒｰﾑ･ｼ conj. たとえ～であっても 「副詞節」

l'on ﾛﾝ pron 僕たちが 「主語」

va mourir. ｳﾞｧ･ﾑﾘｰﾙ 3 単現･近接未来(aller+不定詞)

v.i もうすぐ死んでいく 「動詞句」

ぼくはどうかというと、ぼくは狐という友達を得て、本当に満足している...」

Moi, je suis bien content d'avoir eu un ami renard ...》「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》

XXIV

Moi, je ﾑｫﾜ･ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
bien content ﾋﾞｬﾝ･ｺﾝﾄﾝ adj. とても満足な 「補語」
d'+不定詞完了形 ﾄﾞｩ adv.（理由・原因）～したので、～したことに 「副詞句」
avoir eu ｱｳﾞｫﾜｰﾙ･ｲ 不定詞・完了形(avoir)v.t 持った 「動詞句」
un ami renard ...》ｱ･ﾅﾐ･ﾙﾅｰﾙ n.m キツネという友達を 「目的語」

《彼には、危険を推し量ることができないんだ》とぼくは思った。
《Il ne mesure pas le danger, me dis-je.《「主語」「動詞句」「目的語」》,「動詞句」「主語」,
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
ne mesure pas ﾇ･ﾑｼﾞｭﾙ･ﾊﾟ 3 単現･否定(mesurer)v.t 測れない、判断できない「動詞句」
le danger, ﾙ･ﾄﾞﾝｼﾞｪ n.m 危険を 「目的語」
me dis ﾑ･ﾃﾞｨ 1 単過(se dire)v.pr 思った 「動詞句」
je. ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

《飢えも渇きも決して知らないんだ。少しの日光で充分なんだ...》
Il n'a jamais ni faim ni soif. Un peu de soleil lui suffit ...》
《「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「間接目的語」「動詞」》
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
n'a jamais ﾅ･ｼﾞｬﾒ 3 単現･否定(avoir)v.t 決して～がない 「動詞句」
ni faim ni soif. ﾆ･ﾌｧﾑ･ﾆ･ｽﾜﾌ pl.n.f 空腹も喉の渇きも 「目的語」
Un peu de soleil ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾄﾞｩ･ｿﾚｲﾕ n.m 少しの日光は 「主語」
lui ﾘｭｲ pron 彼にとって 「間接目的語」
suffit ...》ｼﾌｨ 3 単現(suffire)v.i 十分である 「動詞」

しかし、彼は僕をじっと見つめ、それから僕の思っていることに対してこう答えた：
Mais il me regarda et répondit à ma pensée：
Mais「主語」「目的語」「動詞」et「動詞」「間接目的語」:
Mais ﾒ conj. しかし
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕を 「目的語」
regarda ﾙｷﾞｬﾙﾀﾞ 3 単過(regarder)v.t じっと見つめた 「動詞」
et ｴ conj. そして
répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
à ma pensée：ｱ･ﾏ･ﾎﾟﾝｾ adv. 僕の思っていることに 「間接目的語」

XXIV

「ぼくも、のどが渇いた... 井戸を探そう...」

《J'ai soif aussi ... cherchons un puits ...》

《「主語」「動詞」「目的語」副詞 | 「動詞」「目的語」》

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai ｴ 1 単現(avoir)v.t ある 「動詞」

soif ｽわﾌ n.f 喉の渇きが 「目的語」

aussi ... ｵｼ adv. ～もまた 「副詞」

cherchons ｼｪﾙｼｮﾝ 命・1 複現･勧誘(chercher)v.t 探そう 「動詞」

un puits ...》ｱﾝ･ﾋﾟｭｲ n.m 井戸を 「目的語」

ぼくはうんざりの身振りをした。

J'eus un geste de lassitude： 「主語」「動詞」「目的語」：

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

eus ｲ 1 単過(avoir)v.t（行為を）した 「動詞」

un geste ｱﾝ･ｼﾞｪｽﾄ n.m 身振りを、ジェスチャーを 「目的語」

de lassitude：ﾄﾞｩ･ﾗｼﾁｭｰﾄﾞ adj. うんざりの 「形容詞句」

広大な砂漠の中を、当てもなく、井戸を探すなんて、ばかげている。

il est absurde de chercher un puits, au hasard, dans l'immensité du désert.

「動詞」「補語」「主語」

il ｲﾙ pron 仮の主語（真の主語は de 以降）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

absurde ｱﾌﾟｼｭﾙﾄﾞ adj. 馬鹿げている 「補語」

de +不定詞 ﾄﾞｩ 不定詞 n. ～することは 「主語」

chercher ｼｪﾙｼｪ 不定詞 v.t 探す 「動詞」

un puits, ｱﾝ･ﾋﾟｭｲ n.m 井戸を 「目的語」

au hasard, ｵ･ｱｻﾞｰﾙ adv. 行き当たりばったりに、あてもなく 「副詞句」

dans l'immensité du désert. ﾄﾞﾝ･ﾘﾓﾝｼﾃ･ｼﾞｭ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ

adv. 広大な砂漠の中で 「副詞句」

それでも、ぼくたちは歩き始めた。

Cependant nous nous mîmes en marche. Cependant「主語」「動詞句」「副詞句」

Cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. しかしながら

nous ﾇ pron 僕たちは 「主語」

nous mîmes ﾇ･ﾐｰﾑ 1 複過(se mettre en+無冠詞名詞)v.pr ～し始めた 「動詞句」

en marche. ｵﾝ･ﾏﾙｼｭ adv. 歩くことを 「副詞句」

XXIV

何時間も黙って歩いていると、日が暮れて、星が瞬き始めた。

Quand nous eûmes marché, des heures, en silence, la nuit tomba, et les étoiles commencèrent de s'éclairer. 「副詞節」,「主語」「動詞」et「主語」「動詞句」

Quand ｺﾝ conj. ～すると 「副詞節」

nous ﾇ pron 私たちは 「主語」

eûmes marché, ｲﾑ･ﾏﾙｼｪ 1 複過･完了形(marcher)v.i 歩いていた 「動詞句」

des heures, ﾃﾞ･ｾﾞｰﾙ pl.n.f 何時間も 「副詞句」

en silence, ｵﾝ･ｼﾛﾝｽ adv. 黙って 「副詞句」

la nuit ﾗ･ﾆｭｲ n.f 夜が 「主語」

tomba, ﾄﾝﾊﾞ 3 単過(tomber)v.i（日が）暮れた 「動詞」

et ｴ conj. そして

les étoiles ﾚ･ｾﾞﾄｳｧｰﾙ pl.n.f 星が 「主語」

commencèrent de +不定詞 ｺﾓﾝｾｰﾙ･ﾄﾞｩ 3 単過･開始(commencer de+不定詞) v. ～し始めた 「動詞句」

s'éclairer. ｾｸﾚﾚ 不定詞 v.pr 明るくなる、輝く 「動詞句」

ぼくはのどの渇きが原因で少し熱が出て、まるで夢の中でのように、星たちを感知していた。

Je les apercevais comme en rêve, ayant un peu de fièvre, à cause de ma soif.
「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」, 「副詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

les ﾚ pron 星たちを 「目的語」

apercevais ｱﾍﾟﾙｽｳﾞｪ 1 単半(apercevoir)v.t 気付いていた 「動詞」

comme en rêve, ｺﾝ･ｵﾝ･ﾚｰｳﾞ adv. 夢のように 「副詞句」

ayant ｴﾖﾝ 現在分詞(avoir)v.t ～があったので 「副詞句」

un peu de fièvre, ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾄﾞｩ･ﾌｨｪｰｳﾞﾙ n.m 熱が少し 「目的語」

à cause de ｱ･ｺｰｽﾞ･ﾄﾞｩ adv. ～のせいで 「副詞句」

ma soif. ﾏ･ｽｯｨﾌｧ n.f 喉の渇き 「目的語」

王子様のあの言葉が、ぼくの記憶の中で踊っていた：

Les mots du petit prince dansaient dans ma mémoire： 「主語」「動詞」「副詞句」

Les mots ﾚ･ﾓ pl.n.m 言葉が 「主語」

du petit prince ｼﾞｭ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adj. 王子様の 「形容詞句」

dansaient ﾄﾞﾝｾ 3 複半(danser)v.i 踊っていた 「動詞」

dans ma mémoire：ﾄﾞﾝ･ﾏ･ﾒﾓｨｰﾙ adv. 僕の記憶の中で 「副詞句」

XXIV

「じゃあ、きみも、のどが渇いているんだね」とぼくは彼に訊いた。

《Tu as donc soif, toi aussi?》 lui demandai-je.

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」「副詞句」》,「間接目的語」「動詞」「主語」

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

as ｱ 2 単現(avoir)v.t ある 「動詞」

donc ﾄﾞﾝ adv. それじゃあ、じゃあ 「副詞」

soif, ｽわﾌ n.f 喉の渇き 「目的語」

toi aussi?》ﾄわ･ｵｼ adv. 君も 「副詞句」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

demandai ﾄﾞｩﾓﾝﾃﾞ 1 単過(demander)v.t 訊ねた 「動詞」

je. ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

しかし、彼は僕の問いには答えない。ただ簡単に、こう言った。

Mais il ne répondit pas à ma question. Il me dit simplement：

Mais「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞句」

Mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ne répondit pas ﾇ･ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ･ﾊﾟ 3 単過･否定(répondre)v.i 答えなかった 「動詞句」

à ma question. ｱ･ﾏ･ｹｽﾁｮﾝ adv. 僕の質問に 「間接目的語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

simplement：ｻﾝﾌﾟﾙﾓﾝ adv. 簡単に 「副詞」

「水は心にとっても、良いのかもしれない...」

《L'eau peut aussi être bonne pour le coeur ...》 《「主語」「動詞句」「補語」「副詞句」》

L'eau ﾛ n.f 水は 「主語」

peut aussi être ﾌﾟ･ﾄｼ･ｴｰﾄﾙ 3 単現･推量(pouvoir+不定詞+ aussi)

v.i ～でもあるかもしれない 「動詞句」

bonne ﾎﾞﾝﾇ adj.f 良い (L'eau に性･数一致) 「補語」

pour le coeur ...》ﾌﾟｰﾙ･ﾙ･ｹｰﾙ adv. 心のために 「副詞句」

ぼくには彼の答えの意味が理解できなかったが、ぼくは口を閉ざした....。

Je ne compris pas sa réponse mais je me tus ...

「主語」「動詞句」「目的語」 mais「主語」「動詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

XXIV

ne compris pas ヌ･ｺﾝﾌﾟﾘ･ﾊﾟ 1 単過･否定(comprendre)v.t 分からなかった 「動詞句」
sa réponse ｻ･ﾚﾎﾟﾝｽ n.f 彼の返事が 「目的語」
mais ﾒ conj. しかし
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me tus ... ﾑ･ﾁｭ 1 単過(se taire)v.pr 黙り込んだ 「動詞句」

彼に尋ねてはいけないということを、良く知っていたから。
Je savais bien qu'il ne fallait pas l'interroger. 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
savais ｻｳﾞｪ 1 単半(savoir)v.t 知っていた 「動詞」
bien ﾋﾞﾔﾝ adv. よく 「副詞」
qu' ｸ conj. ～ということを 「目的語」
il ｲﾙ pron 非人称主語
ne fallait pas ヌ･ﾌｧﾚ･ﾊﾟ 3 単半･必要･否定(falloir)
v.h ～をしてはいけない 「動詞句」
l' ﾙ pron 彼に 「目的語」
interroger. ｱﾝﾃﾛｼﾞｪ 不定詞 v.t 質問する 「主語」

彼は疲れていた。腰を下ろした。ぼくは彼のすぐそばに腰を下ろした。
Il était fatigué. Il s'assit. Je m'assis auprès de lui.
「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
fatigué. ﾌｧﾃｨｹﾞ adj. 疲れた 「補語」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
s'assit. ｻｼ 3 単過(s'asseoir)v.pr 座った 「動詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
m'assis ﾏｼ 1 単過(s'asseoir)v.pr 座った 「動詞句」
auprès de lui. ｵｰﾌﾟﾚ･ﾄﾞｩ･ﾘｭｲ adv. 彼の傍らに 「副詞句」

彼は、しばらく黙っていた後で、またこう言った：
Et, après un silence, il dit encore： Et「副詞句」「主語」「動詞」「副詞」：
Et, ｴ conj. そして
après un silence, ｱﾌﾟﾚ･ｻﾞﾝ･ｼﾛﾝｽ adv. 沈黙の後で 「副詞句」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(ditr)v.t 言った 「動詞」

XXIV

encore：ｵﾝｺｰﾙ adv. 再び、また 「副詞」

「星たちは美しいね、見えない一輪の花のおかげで...」

《Les étoiles sont belles, à cause d'une fleur que l'on ne voit pas ...》

《「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》

Les étoiles ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f 星たちは 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

belles, ﾍﾞﾙ adj.pl.f 美しい（Les étoiles に性･数一致） 「補語」

à cause d'une fleur ｱ･ｺｰｽﾞ･ﾃﾞｭﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ adv. 一輪の花のおかげで 「副詞句」

que ｸ pron ～する 「形容詞節」

l'on ﾛﾝ pron 人は 「主語」

ne voit pas ...》ﾇ･ｳﾞｫｱ･ﾊﾟ 3 単現･否定(voir)v.t 見えない 「動詞句」

「もちろん」とぼくは答えた。そして話すのを止めて、月光の下の砂のしわを眺めた。

Je répondis《bien sûr》et je regardai, sans parler, les plis du sable sous la lune.

「主語」「動詞」「応答」et「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」「副詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

répondis ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 1 単過(répondre)v.t 答えた 「動詞」

bien sûr》ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「応答」

et ｴ conj. そして

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

regardai, ﾙｷﾞｬﾙﾃﾞ 1 単過(regarder)v.t 見た 「動詞」

sans parler, ｿﾝ･ﾊﾟﾙﾚ adv. 話をせずに 「副詞句」

les plis ﾚ･ﾌﾟﾘ pl.n.m(pli) ひだ、折り目 「目的語」

du sable ｼﾞｭ･ｻｰﾌﾞﾙ adj. 砂の 「形容詞句」

sous la lune. ｽ･ﾗ･ﾘｭｰﾇ adv. 月明かりの下で 「副詞句」

「砂漠は美しいね...」と王子様は付け加えた。

《Le désert est beau》, ajouta-t-il ... 《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」

Le désert ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ n.m 砂漠は 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

beau》, ﾎﾞ adj.m 美しい 「補語」

ajouta ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

il ｲﾙ pron 王子様は 「主語」

XXIV

まさしくそれは本当だった。ぼくはずっと砂漠が好きだった。砂山の上に腰を下ろす。

Et c'était vrai. J'ai toujours aimé le désert. On s'assoit sur une dune de sable.

Et「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」

Et ｴ conj. そして

c' ｽ pron それは 「主語」

était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

vrai. ｳﾞﾚ adj. 本当の 「補語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai toujours aimé ｴ･ﾄｩｼﾞｭｰﾙ･ｾﾞﾒ 1 単現･完了形(aimer+ toujours)

v.t ずっと～が好きだった 「動詞句」

toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. いつも、ずっと

le désert. ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ n.m 砂漠を 「目的語」

On ｵﾝ pron 僕は 「主語」

s'assoit ｻｽｨ 3 単現(s'asseoir)v.pr（s'assied も使われる）座る 「動詞句」

sur une dune de sable. ｼｭｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾃﾞｭｰﾇ･ﾄﾞｩ･ｻｰﾌﾞﾙ

adv. 砂丘の上に 「副詞句」

何も見えない。何も聞こえない。それなのに、何かが、黙って光っている...

On ne voit rien. On n'entend rien. Et cependant quelque chose rayonne en silence ...

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Et cependant「主語」「動詞」「副詞句」

On ｵﾝ pron 僕は 「主語」

ne voit ﾇ･ｳﾞｨ 3 単現･否定(voir)v.t 見えない 「動詞句」

rien. ﾘｴﾝ pron 何も～ない 「目的語」

On ｵﾝ pron 僕は 「主語」

n'entend ﾉﾝﾄﾝ 3 単現･否定(entendre)v.t 聞こえない 「動詞句」

rien. ﾘｴﾝ pron 何も～ない 「目的語」

Et ｴ conj. そして

cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. にもかかわらず

quelque chose ｹﾙｸ･ｼｮｰｽﾞ n.f 何かが 「主語」

rayonne ﾚｲｮﾝﾇ 3 単現(rayonner)v.i 光を放っている 「動詞」

en silence ...ｵﾝ･ｼﾛﾝｽ adv. ひそかに、静かに 「副詞句」

XXIV

「砂漠を美しくしているもの、それは砂漠がどこかに井戸を隠しているということだよ...」と王子様が言った。

《Ce qui embellit le désert, dit le petit prince, c'est qu'il cache un puits quelque part ...》

《「主語」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」》

Ce ス pron そのものは 「主語」
qui キ pron ～する 「形容詞節」
embellit ｵﾝﾍﾞﾘ 3 単現(embellir)v.t 美しくしている 「動詞」
le désert, ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ n.m 砂漠を 「目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
qu' ｸ conj. ～ということ 「補語」
il ｲﾙ pron 砂漠が 「主語」
cache ｶｯｼｭ 3 単現(cacher)v.t 隠している 「動詞」
un puits ｱﾝ･ﾋﾟｭｲ n.m 井戸を 「目的語」
quelque part ...ｹﾙｸ･ﾊﾟｰﾙ adv. どこかに 「副詞句」

ぼくは、砂の放つあの神秘的な光の意味がふいにわかったので、びっくりした。

Je fus surpris de comprendre soudain ce mystérieux rayonnement du sable.

「主語」「動詞」「補語」「副詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
fus ﾌｭ 1 単過(être)v.i ～だった 「動詞」
surpris ｼｭﾙﾌﾟﾘ adj. 驚いた 「補語」
de +不定詞 ﾄﾞｩ adv.（原因）～したために 「副詞句」
comprendre ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ 不定詞 v.t わかる 「動詞」
soudain ｽﾀﾞﾝ adv. 突然、不意に 「副詞」
ce mystérieux rayonnement ｽ･ﾐｽﾃﾘｳ･ﾚｲｵﾝﾇﾓﾝ
n.m この神秘的な輝き 「目的語」
du sable. ｼﾞｭ･ｻｰﾌﾞﾙ adj. 砂の 「形容詞句」

小さいころ、ぼくは古い家に住んでいた。そして、言い伝えによると、ある宝物がその家に埋まっているということだった。

Lorsque j'étais petit garçon, j'habitais une maison ancienne, et la légende racontait qu'un trésor y était enfoui. 「副詞節」,「主語」「動詞」「目的語」et「主語」「動詞」「目的語」

Lorsque ﾛﾙｽｸ conj. ～の時に 「副詞節」

XXIV

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
étais ｴﾃ 1 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
petit garçon, ﾌﾟﾃｨ･ｷﾞｬﾙｿﾝ n.m 小さい子供 「補語」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
habitais ｱﾋﾞﾃ 1 単半(habiter)v.t 住んでいた 「動詞」
une maison ancienne, ｭﾝﾇ･ﾒｿﾞﾝ･ｱﾝｼｪﾝﾇ n.f 古い家に 「目的語」
et ｴ conj. そして
la légende ﾗ･ﾚｼﾞｮﾝﾄﾞ n.f 伝説は、言い伝えは 「主語」
racontait ﾗｺﾝﾃ 3 単半(raconter)v.t 語っている 「動詞」
qu' ｸ conj. ～ということを 「目的語」
un trésor ｱﾝ･ﾄﾚｿﾞｰﾙ n.m 宝物が 「主語」
y ｲ adv. そこに 「副詞」
était enfoui. ｴﾃ･ｵﾝﾌｲ 3 単半･受動(enfouir)v.t 埋められていた 「動詞句」

もちろん、誰もそれを見つけることができなかったし、それを探そうともしなかった。
Bien sûr, jamais personne n'a su le découvrir, ni peut-être même ne l'a cherché.
「副詞句」「主語」「動詞句」,「副詞句」「動詞句」
Bien sûr, ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「副詞句」
jamais ｼﾞｬﾒ adv. 決して～ない 「副詞」
personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron 誰も～ない 「主語」
n'a su le découvrir, ﾅ･ｽ･ﾙ･ﾃﾞｸｳﾞﾘｰﾙ 3 単現･完了形･可能･否定(savoir+不定詞+le)
v.t それを見つけることが出来なかった 「動詞句」
ni ﾆ adv. ～もない 「副詞句」
peut-être même ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ･ﾒｰﾑ adv. 多分～さえ 「副詞句」
ne l'a cherché. ﾇ･ﾗ･ｼｪﾙｼｪ 3 単現･完了形･否定(chercher+la)
v.t それを探した 「動詞句」
「誰も見つけることが出来なかったし、多分探そうともしなかった」

しかし、その宝物が家全体に魔法をかけていた。僕の家は、その核心部の奥に一つの秘密を隠していた...
Mais il enchantait toute cette maison. Ma maison cachait un secret au fond de son coeur ...
Mais「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Mais ﾒ conj. しかし
il ｲﾙ pron (un trésor) その宝物が 「主語」
enchantait ｵﾝｼｮﾝﾃ 3 単半(enchanter)v.t 魔法にかけていた 「動詞」
toute cette maison. ﾄｳｯﾄ･ｾｯﾄ･ﾒｿﾞﾝ n.f 家全体を 「目的語」

XXIV

Ma maison ﾏ･ﾒｿﾞﾝ n.f 僕の家は 「主語」
cachait ｶｼｪ 3 単半(cacher)v.t 隠していた 「動詞」
un secret ｱﾝ･ｽｸﾚ n.m 一つの秘密を 「目的語」
au fond de son coeur ...ｵ･ﾌｫﾝ･ﾄﾞｩｿﾝ･ｹｰﾙ adv. その核心部の奥に 「副詞句」

「そうなんだ。家でも星でも砂漠でも、その美しさを成り立たせているものは、目に見えないのさ！」とぼくは王子様に言った。

《Oui, dis-je au petit prince, qu'il s'agisse de la maison, des étoiles ou du désert, ce qui fait leur beauté est invisible!

《「肯定」》,「動詞」「主語」「間接目的語」,《「主語」「動詞」「補語」》

Oui, ｳｨ adv. そうだ 「肯定」
dis ﾃﾞｨ 1 単過(dire)v.i 言った 「動詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
au petit prince, ｵ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adv. 王子様に 「間接目的語」
qu' +接続法 ｸ conj. ～するようなことは 「主語」
il ｲﾙ pron それは（ce qui 節の先出し） 「主語」
s'agisse ｻｼﾞｽ 接・3 単現(s'agir)v.pr (de) に関わる 「動詞句」
de la maison, des étoiles ou du désert, ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾒｿﾞﾝ･ﾃﾞ･ｾﾞﾄわｰﾙ･ｳ･ｼﾞｭ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ
adv. 家や星や砂漠に 「間接目的語」
ce ｽ pron それは 「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
fait ﾌｪ 3 単現(faire)v.t ～にしている 「動詞」
leur ﾚｰﾙ pron それらを 「間接目的語」
beauté ﾎﾞﾃ n.f 美しいもの 「補語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
invisible! ｱﾝｳﾞｨｼﾞｰﾌﾞﾙ adj. 目に見えない 「補語」

「きみがぼくの狐と考え方が一致しているので、ぼくは嬉しいよ」と彼は言った。

----Je suis content, dit-il, que tu sois d'accord avec mon renard.》

《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」,《「副詞節」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
content, ｺﾝﾄﾝ adj. (de+接続法) ～して嬉しい 「補語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il, ｲﾙ pron 彼は（王子様は） 「主語」
que +接続法 ｸ conj. ～して 「副詞節」

XXIV

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
sois ｽわ 接・2 単現(être)v.i ～である 「動詞」
d'accord ﾀﾞｺｰﾙ adj. 同じ意見の 「補語」
avec mon renard.》ｱｳﾞｪｯｷ･ﾓﾝ･ﾙﾅｰﾙ adv. 僕のキツネと 「副詞句」

王子様が眠っていたので、両腕でかかえ、また歩き始めた。

Comme le petit prince s'endormait, je le pris dans mes bras, et me remis en route.
「副詞節」,「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」et「動詞句」

Comme ｺﾑ conj. ～なので 「副詞節」
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
s'endormait, ｿﾝﾄﾞﾙﾒ 3 単半(s'endormir)v.pr 眠っていた 「動詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
le ﾙ pron 彼を 「目的語」
pris ﾌﾟﾘ 1 単過(prendre)v.t 手に取った、抱えた 「動詞」
dans mes bras, ﾄﾞﾝ･ﾒ･ﾌﾞﾗ adv. 両腕で 「副詞句」
et ｴ conj. そして
me remis en route. ﾑ･ﾙﾐ･ｵﾝ･ﾙｰﾄ 1 単過(se remettre + en route)
v.pr 再び歩き始めた 「動詞句」

ぼくは感激で胸がいっぱいだった。ぼくには壊れやすい宝物を運んでいるように思われた。

J'était ému. Il me semblait porter un trésor fragile.
「主語」「動詞」「補語」 | 「間接目的語」「動詞」「主語」

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
était ｴﾃ 1 単半(être)v.i ～だった（状態） 「動詞」
ému. ｴﾐｭ adj. 感動した 「補語」
Il ｲﾙ pron 非人称（真の主語は porter 以降）
me ﾑ pron 私には 「間接目的語」
semblait ｿﾝﾌﾞﾚ 3 単半(sembler)v.i ～のように思われた 「動詞」
porter ﾎﾟﾙﾃ 不定詞 v.t 運ぶこと 「主語」
un trésor fragile. ｱﾝ･ﾄﾚｿﾞｰﾙ･ﾌﾗｼﾞｰﾙ n.m 壊れやすい宝物を 「目的語」

地球の上で、これ以上に壊れやすいものはないようにさえ思われた。

Il me semblait même qu'il n'y eût rien de plus fragile sur la Terre.
「間接目的語」「動詞」「副詞」「主語」

Il ｲﾙ pron 非人称（真の主語は même qu'以降）
me ﾑ pron 私には 「間接目的語」

XXIV

semblait ｿﾝﾌﾞﾚ 3 単半(sembler)v.i 〜のように思われた 「動詞」
même ﾒｰﾑ adv. 〜とさえ 「副詞」
qu’ｸ conj. 〜ということ 「主語」
il n’y eût ｲﾙ･ﾆ･ｲ 接・3 単半･否定(il y a)v.t なかっただろう 「動詞句」
rien 何も 「主語」
de plus fragile ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾘｭ･ﾌﾗｼﾞｰﾙ adj. これ以上に壊れやすい 「形容詞句」
sur la Terre. ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾃｰﾙ adv. 地球上に 「副詞句」

ぼくは月光をたよりに、王子様のあの青白い額、あの閉じた眼、風になびいているあの髪の房を見つめていた。そして心の中で思った。

Je regardais, à la lumière de la lune, ce front pâle, ces yeux clos, ces mèches de cheveux qui tremblaient au vent, et je me disais：

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」et「主語」「動詞句」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
regardais, ﾙｷﾞｬﾙﾃﾞ 1 単半(regarder)v.t 見つめていた 「動詞」
à la lumière de la lune, ｱ･ﾗ･ﾘｭﾐｴｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾘｭｰﾇ adv.（手段）月の光によって 「副詞句」
ce front pâle, ｽ･ﾌﾛﾝ･ﾊﾟｰﾙ n.m 王子様の青ざめた額を 「目的語」
ces yeux clos, ｾ･ｼﾞｭ･ｸﾛ pl.n.m 閉じた瞳 「目的語」
ces mèches de cheveux ｾ･ﾒｯｼｭ･ﾄﾞｩ･ｼｭｳﾞ pl.n.f 髪の房 「目的語」
qui ｷ pron 〜する 「形容詞節」
tremblaient ﾄﾛﾝﾌﾞﾚ 3 複半(trembler)v.i 揺れ動いていた 「動詞」
au vent, ｵ･ｳﾞｫﾝ adv. 風によって 「副詞句」
et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me disais：ﾑ･ﾃﾞｨｾﾞ 1 単半(se dire)v.pr 心の中で思った 「動詞句」

《いまここに見えているものは、外見に過ぎない。一番大切なものは、眼に見えないんだ...》と。

《Ce que je vois là n’est qu’une écorce. Le plus important est invisible ...》

《「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Ce ｽ pron それは 「主語」
que ｸ pron 〜する 「形容詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
vois ｳﾞｫ 1 単現(voir)v.t 見ている 「動詞」
là ﾗ adv. ここに 「副詞」
n’est qu’ﾈ･ｸ ﾈ･ｸ 3 単現(être+ne...que)v.i 〜でしかない 「動詞句」

XXIV

une écorce. ﾕﾝﾇ･ｴｺﾙｽ n.f 外見、見かけ 「補語」
Le plus important ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ｻﾞﾝﾎﾟﾙﾄﾝ n.m 最も大切なものは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
invisible ...》ｱﾝｳﾞｨｼﾞｰﾌﾞﾙ adj. 目に見えない 「補語」

王子様の半ば開いた唇から、ほんのりと微笑が洩れていたので、ぼくはまた、こう思った：

Comme ses lèvres entrouvertes ébauchaient un demi-sourire je me dis encore：
「副詞節」「主語」「動詞句」「副詞」

Comme ｺﾑ conj. ～なので 「副詞節」
ses lèvres ｾ･ﾚｰｳﾞﾙ pl.n.f 彼の唇は 「主語」
entrouvertes ｵﾝﾄﾙｳﾞｪﾙﾄ adj.f.pl. 半ば開いた 「形容詞」
ébauchaient ｴﾎﾞｼｪ 3 複半(ébaucher)v.t（動作を）し始めていた 「動詞」
un demi-sourire ｱﾝ･ﾄﾞｩﾐ･ｽﾘｰﾙ n.m 微笑 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me dis ﾑ･ﾃﾞｨ 1 単過(se dire)v.pr 心の中で思った 「動詞句」
encore：ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

《この眠っている王子様のことで、いちばん胸を打たれたのは、一輪の花に対する彼の誠実さなんだ。それは、眠っている時でさえ、彼の中で、ランプの焔のように光を放っている、薔薇の花の姿なんだ...》

《Ce qui m'émeut si fort de ce petit prince endormi, c'est sa fidélité pour une fleur, c'est l'image d'une rose qui rayonne en lui comme la flamme d'une lampe, même quand il dort ...》 《「主語」「動詞」「補語」,「主語」「動詞」「補語」》

Ce ｽ pron それは 「主語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
m' ﾑ pron 僕を 「目的語」
émeut ｴﾑ 3 単現(émouvoir)v.t 感動させる 「動詞」
si fort ｼ･ﾌｫｰﾙ adv. とても強く 「副詞句」
de ﾄﾞｩ adv.（手段）～によって 「副詞句」
ce petit prince ｽ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m この王子様 「目的語」
endormi, ｵﾝﾄﾞﾙﾐ 過去分詞(endormir)adj. 眠っている「形容詞」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
sa fidélité ｻ･ﾌｨﾃﾞﾘﾃ n.f 彼の誠実さ 「補語」
pour une fleur, ﾌﾟｰﾙ･ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ adv. 一輪の花に対する 「副詞句」
c' ｽ pron それは 「主語」

XXIV

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
l'image d'une rose ﾘﾏｰｼﾞｭ･ﾁﾞｭﾝﾇ･ﾛｰｽﾞ n.f バラの姿 「補語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
rayonne ﾚｲﾖﾝﾇ 3 単現(rayonner)v.i 光を放っている 「動詞」
en lui ｵﾝ･ﾘｭｲ adv. 彼の中で 「副詞句」
comme la flamme d'une lampe, ｺﾑ･ﾗ･ﾌﾗﾑ･ﾃﾞｭﾝﾇ･ﾛﾝﾌﾟ
adv. ランプの炎のように 「副詞句」
même quand ﾒｰﾑ･ｺﾝ conj. ～の時でさえ 「副詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
dort ...》 ﾄﾞｰﾙ 3 単現(dormir)v.i 眠っている 「動詞」

そして、彼がなおもいっそう壊れやすい、ということをぼくは見抜いた。
Et je le devinai plus fragile encore. Et「主語」「目的語」「動詞」「補語」
Et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
le ﾙ pron 彼を 「目的語」
devinai ﾄﾞｩｳﾞｨﾈ 1 単過(deviner)v.t 見抜いた 「動詞」
plus fragile encore. ﾌﾟﾘｭ･ﾌﾗｼﾞｰﾙ･ｵﾝｺｰﾙ adj. さらにもっと壊れやすいと 「補語」

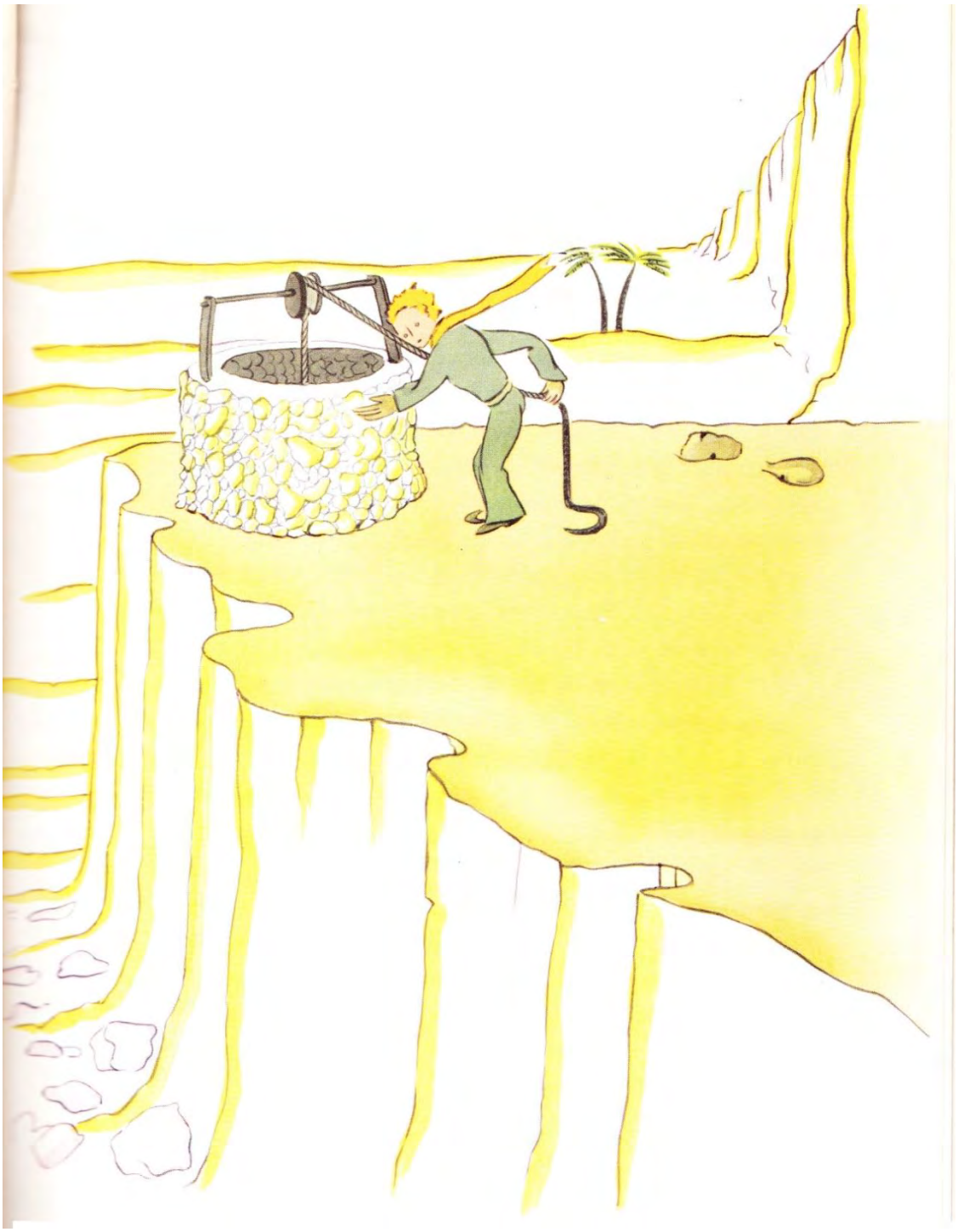
ランプは、大事に保護しなければいけない：
Il faut bien protéger les lampes： 「動詞句」「主語」：
Il faut ｲ･ﾌｫ 3 単現(+不定詞)v.h（非人称）～しなければいけない 「動詞句」
bien protéger ﾋﾞﾔﾝ･ﾌﾟﾛﾃｼﾞｪ 不定詞(+bien)v.t しっかり守る 「主語」
les lampes：ﾚ･ﾛﾝﾌﾟ pl.n.f ランプを 「目的語」

風のひとそよぎでも、ランプの灯は消えかねないのだ...
un coup de vent peut les éteindre ... 「主語」「動詞句」
un coup de vent ｱﾝ･ｸ･ﾄﾞｩ･ｳﾞｫﾝ n.m 風のひと吹きが 「主語」
peut les éteindre ...ﾌﾟ･ﾚ･ｴﾀﾝﾄﾞﾙ 3 単現･推測(pouvoir+不定詞+les)
v.t ランプの灯を消すかもしれない 「動詞句」

そして、このように歩いて行って、ぼくは夜明けにその井戸を見つけた。
Et, marchant ainsi, je découvris le puits au lever du jour.
Et「副詞句」,「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Et, ｴ conj. そして
marchant ﾏﾙｼｮﾝ 現在分詞(marcher)v.i 歩いて 「副詞句」

XXIV

ainsi, ｱﾝｼ adv. このように 「副詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
découvris ﾃﾞｸｳﾞﾘ 1 単過(découvrir)v.t 見つけた 「動詞」
le puits ﾙ･ﾋﾟｭｲ n.m 井戸を 「目的語」
au lever du jour. ｵ･ﾙｳﾞｪ･ｼﾞｭ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 夜明けに、日の出に 「副詞句」



XXV

「人々は」と王子様は言った。

《Les hommes, dit le petit prince, 《「主語」》,「動詞」「主語」,

Les hommes, ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人々は 「主語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「みんな特急列車に無理に乗り込むけれども、自分が何を求めているのか、もうわからないんだ。

ils s'enfournent dans les rapides, mais ils ne savent plus ce qu'ils cherchent.

《「主語」「動詞句」「副詞句」,mais「主語」「動詞句」「目的語」

ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

s'enfournent ｿﾝﾌﾙﾇ 3 複現(s'enfourner)v.pr 無理やり乗り込む 「動詞句」

dans les rapides, ﾄﾞﾝ･ﾚ･ﾗﾋﾟｯﾄﾞ adv. 特急列車に 「副詞句」

mais ﾒ conj. しかし

ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

ne savent plus ﾇ･ｻｰｳﾞ･ﾌﾟﾘｭ 3 複現(savoir+plus)v.t もう分からない 「動詞句」

ce ｽ pron ものを 「目的語」

qu' ｸ pron ～する 「形容詞節」

ils ｲﾙ pron 彼らが 「主語」

cherchent. ｼｪﾙｼｭ 3 複現(chercher)v.t 探している 「動詞」

そこで、動きまわったり、どうどう巡りをしたりするんだ...」

Alors ils s'agitent et tournent en rond ...》

「副詞句」「主語」「動詞句」et「動詞」「副詞句」》

Alors ｱﾛｰ adv. それで 「副詞句」

ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

s'agitent ｻｼﾞｯﾄ 3 複現(s'agiter)v.pr 動き回る 「動詞句」

et ｴ conj. そして

tournent ﾄｩﾙﾇ 3 複現(tourner)v.i 回る 「動詞」

en rond ...》 ｵﾝ･ﾛﾝﾄﾞｩ adv. ぐるぐると 「副詞句」

tourner en rond 堂々めぐりをする

XXV

そう言って、こう付け加えた。

Et il ajouta：　Et「主語」「動詞」

Et ｴ conj. そして

il ｲﾙ pron 彼は　「主語」

ajouta：ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた　「動詞」

「それには及ばないんだよね. . .」

《Ce n'est pas la peine ...》　《「主語」「動詞句」「補語」》

Ce ｽ pron それは（真の主語は la peine 以降に省略されている de+不定詞）　「主語」

n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない　「動詞句」

la peine ... ﾗ･ﾍﾟｰﾇ n.f 骨折り　「補語」

～することは骨折りでない → ～するには及ばない、それには及ばない

la peine の後ろに、前の文章より、de s'agiter ni de tourner en rond が省略されている

ぼくたちがたどりついた井戸は、サハラの井戸とは似ていなかった。

Le puits que nous avions atteint ne ressemblait pas aux puits sahariens.

「主語」「動詞句」「副詞句」

Le puits ﾙ･ﾋﾟｭｲ n.m 井戸は　「主語」

que ｸ pron ～する　「形容詞節」

nous ﾇ pron 僕らが　「主語」

avions atteint ｱｳﾞｨｮﾝ･ｱﾀﾝ 1 複半･完了形(atteindre)v.t たどり着いた「動詞句」

ne ressemblait pas ﾇ･ﾙｿﾝﾌﾞﾚ･ﾊﾟ 3 単半･否定(ressembler)v.i 似ていなかった　「動詞句」

aux puits sahariens. ｵ･ﾋﾟｭｲ･ｻｱﾘｬﾝ adv. サハラ砂漠の井戸に　「副詞句」

サハラ砂漠の井戸というのは、砂地に掘られた単なる穴にすぎない。

Les puits sahariens sont de simples trous creusés dans le sable.

「主語」「動詞」「補語」

Les puits sahariens ﾚ･ﾋﾟｭｲ･ｻｱﾘｬﾝ pl.n.m サハラ砂漠の井戸は　「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である　「動詞」

de simples trous ﾄﾞｩ･ｻﾝﾌﾟﾙ･ﾄﾛｳｰ adv. 単なる穴（からできた）　「補語」

creusés ｸﾙｾﾞ 過去分詞(creuser)adj.pl. 掘られた　「形容詞」

dans le sable. ﾀﾞﾝ･ﾗ･ｻｰﾌﾞﾙ adv. 砂地に　「副詞句」

僕たちの見つけた井戸は、村の井戸に似ていた。

Celui-là ressemblait à un puits de village.　「主語」「動詞」「間接目的語」

Celui-là ｽﾘｭｲ･ﾗ pron ここにある井戸は　「主語」

XXV

ressemblait ﾙｿﾝﾌﾞﾚ 3 単半(ressembler)v.i 似ていた 「動詞」
à un puits ｱ･ｱﾝ･ﾋﾟｭｲ adv. 井戸に 「間接目的語」
de village. ﾄﾞｩ･ｳﾞｨﾗｰｼﾞｭ adj. 村の 「形容詞句」

けれども、その辺りにはどんな村もなかった。だからぼくは夢を見ているように思った。
Mais il n'y avait là aucun village, et je croyais rêver.
Mais「動詞句」「副詞」「目的語」,et「主語」「動詞句」
Mais ﾒ conj. しかし
il n'y avait ｲﾙ･ﾆ･ｱｳﾞｪ 3 単半･否定(il y avoir)v.t なかった 「動詞句」
là ﾗ adv. そこらへんに 「副詞」
aucun village, ｵｰｶﾝ･ｳﾞｨﾗｰｼﾞｭ n.m どんな村も～ない 「目的語」
et ｴ conj. だから
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
croyais rêver. ｸﾙｫｲｴ･ﾚｳﾞｪ 1 単半･確信(croire+不定詞)
v.i 夢を見ていると思っていた 「動詞句」

「これは変だなあ」と僕は王子様に言った。
《C'est étrange, dis-je au petit prince,
《「主語」「動詞」「補語」》,「動詞」「主語」「間接目的語」,
C' ｽ pron これは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
étrange, ｴﾄﾛﾝｼﾞｭ adj. 奇妙な 「補語」
dis ﾃﾞｨ 1 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
au petit prince, ｵ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adv. 王子様に 「間接目的語」

「全部ととのっている。滑車も釣瓶も綱も...」
tout est prêt：la poulie, le seau et la corde ...》 《「主語」「動詞」「補語」:「主語」》
tout ﾄｩ pron すべてが 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
prêt：ﾌﾟﾚ adj. 準備が出来た、用意のできた 「補語」
la poulie, ﾗ･ﾌﾟﾘｰ n.f 滑車 「主語」
le seau ﾙ･ｿｰ n.m 手桶 「主語」
et ｴ conj. そして
la corde ... ﾗ･ｺﾙﾄﾞ n.f 綱 「主語」

XXV

彼は笑い、綱に触れ、滑車を動かした。

Il rit, toucha la corde, fit jouer la poulie.

「主語」「動詞」,「動詞」「目的語」,「動詞句」「目的語」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

rit, ﾘ 3 単過(rire)v.i 笑った 「動詞」

toucha ﾄｩｼｬ 3 単過(toucher)v.t 触った 「動詞」

la corde, ﾗ･ｺﾙﾄﾞ n.f 綱に 「目的語」

fit jouer ﾌｨ･ｼﾞｭｴ 3 単過･使役(faire+不定詞)v.t 動かした 「動詞句」

la poulie. ﾗ･ﾌﾟﾘｰ n.f 滑車を 「目的語」

すると、長い間風が眠っていた時に古い風見がきしむように、滑車がきしった。

Et la poulie gémit comme gémit une vieille girouette quand le vent a longtemps dormit.

Et「主語」「動詞」「副詞節」

Et ｴ conj. そして

la poulie ﾗ･ﾌﾟﾘｰ n.f 滑車は 「主語」

gémit ｼﾞｪﾐ 3 単過(gémir)v.i 悲鳴をあげた 「動詞」

comme ｺﾑ conj. ～のように 「副詞節」

gémit ｼﾞｪﾐ 3 単現(gémir)v.i 悲鳴をあげる 「動詞」

une vieille girouette ﾕﾝﾇ･ｳﾞｨｴｲﾕ･ｼﾞﾙｴｯﾄ n.f 古びた風見鶏が 「主語」

quand ｺﾝ conj. ～する時 「副詞節」

le vent ﾙ･ｳﾞｫﾝ n.m 風が 「主語」

a longtemps dormit. ｱ･ﾛﾝﾄﾝ･ﾄﾞﾙﾐ 3 単現･完了形(dormir)

v.i 長い間眠っていた 「動詞句」

「ほら、聞こえた？僕たちが目を覚まさせたので、井戸が歌っているんだ...」と王子様は言った。

《Tu entends, dit le petit prince, nous réveillons ce puits et il chante ...》

《「主語」「動詞」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「目的語」et「主語」「動詞」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

entends, ｵﾝﾄﾝ 2 単現(entendre)v.t 聞こえる 「動詞」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

nous ﾇ pron 僕たちが 「主語」

réveillons ﾚｳﾞｪｲﾖﾝ 1 複現(réveiller)v.t（眠りを）覚ました 「動詞」

ce puits ｽ･ﾋﾟｭｲ n.m この井戸を 「目的語」

et ｴ conj. それで

XXV

il ｲﾙ pron 井戸が 「主語」
chante ...》ｼｮﾝﾄ 3 単現(chanter)v.i 歌を歌っている 「動詞」

ぼくは、彼に骨折らせたくなかった：
Je ne voulais pas qu'il fît un effort： 「主語」「動詞句」「目的語」：
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne voulais pas ﾇ･ｳﾞﾚ･ﾊﾟ 1 単半･否定(vouloir)v.t 望まなかった 「動詞句」
qu' ｸ conj.（話者の考えなので接続法）～ということを 「目的語」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
fît ﾌｨ 接・3 単半(faire)v.t するだろう 「動詞」
un effort：ｱﾝ･ｴﾌｫｰﾙ n.m 骨折りを、努力を 「目的語」

「ぼくにやらせて欲しい。きみには重すぎるよ」とぼくは言った。
《Laisse-moi faire, lui dis-je, c'est trop lourd pour toi.》
《「動詞」「目的語」「補語」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「補語」》
Laisse ﾚｯｽ 命・2 単現･使役(laisser)v.t させなさい、させて頂戴 「動詞」
moi ﾑわ pron 僕に 「目的語」
faire, ﾌｪｰﾙ 不定詞 v.t する 「補語」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
dis ﾃﾞｨ 1 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
je, ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
trop lourd ﾄﾛ･ﾙｰﾙ adj. 重すぎる 「補語」
pour toi.》ﾌﾟｰﾙ･ﾄわ adv. 君にとっては 「副詞句」

ぼくは、ゆっくりと釣瓶を縁石にまで引き上げた。そしてそこにしっかりと据えた。
Lentement je hissai le seau jusqu'à la margelle. Je l'y installai bien d'aplomb.
「副詞」「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「目的語」「副詞」「動詞」「副詞句」
Lentement ﾛﾝﾄｩﾓﾝ adv. ゆっくりと 「副詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
hissai ｲｾ 1 単過(hisser)v.t（綱で）引き上げた 「動詞」
le seau ﾙ･ｿｰ n.m 手桶を、（井戸の釣瓶を） 「目的語」
jusqu'à la margelle. ｼﾞｭｽｶ･ﾗ･ﾏﾙｼﾞｪﾙ adv.（井戸の）縁石まで 「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
l' ｲﾙ pron それ（手桶、釣瓶）を 「目的語」

XXV

y イ adv. そこに 「副詞」
installai ｱﾝｽﾀﾚ 1 単過(installer)v.t 据え付けた 「動詞」
bien d'aplomb. ﾋﾞﾔﾝ･ﾀﾞﾌﾟﾛﾝ adv. とてもしっかりと 「副詞句」
d'aplomb ﾀﾞﾌﾟﾛﾝ adv. 垂直に、安定して、しっかりと

ぼくの耳の中では、滑車の歌が続いていた。なおもふるえている水の中に、太陽光線が打ち震えているのが見えた。

Dans mes oreilles durait le chant de la poulie et, dans l'eau qui tremblait encore, je voyais trembler le soleil.

「副詞句」「動詞」「主語」et「副詞句」「主語」「動詞」「補語」「目的語」

Dans mes oreilles ﾄﾞﾝ･ﾒ･ｿﾞﾚｲﾕ adv. 僕の耳の中には 「副詞句」
durait ﾃﾞｭﾚ 3 単半(durer)v.i 続いていた 「動詞」
le chant ﾙ･ｼｮﾝ n.m 歌が 「主語」
de la poulie ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾌﾟﾘｰ adj. 滑車の 「形容詞句」
et, ｴ conj. そして
dans l'eau ﾄﾞﾝ･ﾛ adv. 水の中には 「副詞句」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
tremblait ﾄﾛﾝﾌﾞﾚ 3 単半(trembler)v.i ふるえていた 「動詞」
encore, ｵﾝｺｰﾙ adv. まだ 「副詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
voyais ｳﾞｧｲｴ 1 単半(voir)v.t 見えた 「動詞」
trembler ﾄﾛﾝﾌﾞﾚ 不定詞 v.i ふるえている 「補語」
le soleil. ﾙ･ｿﾚｲﾕ n.m 太陽が 「目的語」
釣瓶の中の水がまだ震えていて、そこに映った太陽が震えているのが見えた

「その水こそ、ほんとに欲しかったんだ」と王子様は言った。「飲ませてよ...」

《J'ai soif de cette eau-là, dit le petit prince, donne-moi à boire ... 》

《「主語」「動詞」「目的語」》,「動詞」「主語」,《「動詞」「目的語」「補語」》

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t ～がある 「動詞」
soif ｽﾜﾌ n.f 渇望 「目的語」
de cette eau-là, ﾄﾞｩ･ｾｯﾄ･ｵ･ﾗ adj. この水に対する 「形容詞句」
avoir soif de+無冠詞名詞 「～に飢えている、～をすごく欲しい」
avoir soif 「のどが渇く、水を必要とする」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

XXV

donne ﾄﾞﾝﾇ 命・2 単現･使役(donner à qn à+不定詞)v.t 人に～させてちょうだい「動詞」
moi ﾑわ pron 僕に 「目的語」
à boire ｱ･ﾌﾞわｰﾙ 不定詞 v.t 飲む 「補語」

そこで初めて、ぼくは、彼が何を求めていたかがわかった！
Et je compris ce qu'il avait cherché! Et「主語」「動詞」「目的語」
Et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
compris ｺﾝﾌﾟﾘ 1 単過(comprendre)v.t 分かった 「動詞」
ce ｽ pron それが 「目的語」
qu' ｸ pron ～する 「形容詞節」
il ｲﾙ pron 彼が 「主語」
avait cherché! ｱｳﾞｪ･ﾁｪﾙｼｪ 3 単半･完了形(chercher)v.t 探していた 「動詞句」

ぼくは釣瓶を彼の唇のところまで持ち上げた。彼は目をつぶって、飲んだ。
Je soulevai le seau jusqu'à ses lèvres. Il but, les yeux fermés.
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
soulevai ｽﾙｳﾞｪ 1 単過(soulever)v.t 持ち上げた 「動詞」
le seau ﾙ･ｿｰ n.m 釣瓶を、手桶を 「目的語」
jusqu'à ｼﾞｭｽｶ prep ～まで 「副詞句」
ses lèvres. ｾ･ﾚｰｳﾞﾙ pl.n.f 唇 「目的語」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
but, ﾋﾞｭ 3 単過(boire)v.t 飲んだ 「動詞」
les yeux ﾚ･ｼﾞｭ pl.n.m 目をして 「副詞句」
fermés. ﾌｪﾙﾒ adj.pl 閉じた 「形容詞」

それは祭りのように嬉しい情景だった。その水は、食物とはまったくの別物だった。
C'était doux comme une fête. Cette eau était bien autre chose qu'un aliment.
「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「動詞句」「補語」
C' ｽ pron それは 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
doux ﾄﾞｩ adj. 楽しい、嬉しい 「補語」
comme une fête. ｺﾑ･ﾕﾝﾇ･ﾌｪｯﾄ adv. お祭りのように 「副詞句」
Cette eau ｾｯﾄ･ｵ n.f この水は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

XXV

bien autre chose ﾋﾞﾔﾝ･ｵｰﾄﾙ･ｼｮｰｽﾞ n.f 全く別の物 「補語」
qu’ｸ conj. ～よりも、～と比べて 「副詞句」
un aliment. ｱﾝ･ｱﾘﾓﾝ n.m 食べ物 「目的語」

その水は、星空の下の歩行から、滑車の歌から、ぼくの腕の力から湧き出たのだった。
Elle était née de la marche sous les étoiles, du chant de la poulie, de l’effort de mes bras.
「主語」「動詞句」「副詞句」
Elle ｴﾙ pron（Cette eau の代用）この水は 「主語」
était née ｴﾃ･ﾈ 3 単半･完了形.f(naître)v.i 生まれた、生じた 「動詞句」
de la marche ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾏﾙｼｭ adv. 歩行から 「副詞句」
sous les étoiles, ｽ･ﾚ･ｾﾞﾄわｰﾙ adv. 星の下の 「副詞句」
du chant de la poulie, ｼﾞｭ･ｼｮﾝ･ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾌﾟﾘｰ adv. 滑車の歌から 「副詞句」
de l’effort de mes bras. ﾄﾞｩ･ﾚﾌｫｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾒ･ﾌﾞﾗ adv. 僕の腕の力から 「副詞句」

その水は、プレゼントのように、心に良いものだった。
Elle était bonne pour le coeur, comme un cadeau. 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」
Elle ｴﾙ pron この水は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
bonne ﾎﾞﾝﾇ adj.f 良い 「補語」
pour le coeur, ﾌﾟｰﾙ･ﾙ･ｹｰﾙ adv. 心のために 「副詞句」
comme un cadeau. ｺﾑ･ｱﾝ･ｷｬﾄﾞ adv. プレゼントのように 「副詞句」

小さいころ、クリスマス・ツリーの明かりや深夜ミサの音楽や人々の優しい微笑が、同じように、ぼくがもらったクリスマス・プレゼントの輝きのすべてを作っていたんだ。
Lorsque j’étais petit garçon, la lumière de l’arbre de Noël, la musique de la messe de minuit, la douceur des sourires faisaient, ainsi, tout le rayonnement du cadeau de Noël que je recevais. 「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞」「目的語」
Lorsque ﾛﾙｽｸ conj. ～の時に 「副詞節」
j’ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
étais ｴﾃ 1 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
petit garçon, ﾌﾟﾃｨ･ｷﾞｬﾙｿﾝ n.m 小さな少年 「補語」
la lumière ﾗ･ﾘｭﾐｪｰﾙ n.f 明かりが 「主語」
de l’arbre de Noël, ﾄﾞｩ･ﾗﾙﾌﾞﾙ･ﾄﾞｩ･ﾉｴﾙ adj. クリスマスツリーの 「形容詞句」
la musique ﾗ･ﾐｼﾞｯｷ n.f 音楽が 「主語」
de la messe de minuit, ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾒｯｽ･ﾄﾞｩ･ﾐﾆｭｲ adj. 真夜中のミサの 「形容詞句」
la douceur ﾗ･ﾄﾞｩｾｰﾙ n.f 優しさが 「主語」

XXV

des sourires ﾃﾞ･ｽﾘｰﾙ adj.pl. 微笑の 「形容詞句」
faisaient, ﾌｾﾞ 3 複半(faire)v.t 作っていた 「動詞」
ainsi, ｱﾝｼ adv. こうして 「副詞」
tout le rayonnement ﾄｩ･ﾙ･ﾚｲｮﾝﾇﾓﾝ n.m 全ての輝きを 「目的語」
du cadeau de Noël ｼﾞｭ･ｷｬﾄﾞ･ﾄﾞｩ･ﾉｴﾙ adj. クリスマス・プレゼントの「形容詞句」
que ｸ pron ～する 「形容詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
recevais. ﾙｽｳﾞｪ 1 単半(recevoir)v.t もらっていた 「動詞」

「君のところの人たちは」と王子様は言った。
《Les hommes de chez toi, dit le petit prince, 《「主語」》,「動詞」「主語」,
Les hommes ﾚ･ｿﾞﾑ pl.n.m 人たちは 「主語」
de chez toi, ﾄﾞｩ･ｼｪ･ﾄわ adj. 君の所の 「形容詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

「一つの同じ庭園で、五千本ものバラの花を栽培しているけど...
cultivent cinq mille roses dans un même jardin ... 《「動詞」「目的語」「副詞句」
cultivent ｷｭﾙﾃｨｳﾞ 3 複現(cultiver)v.t 育てている 「動詞」
cinq mille roses ｻﾝｸ･ﾐﾙ･ﾛｰｽﾞ pl.n.f 5000 本のバラの花を 「目的語」
dans un même jardin ... ﾄﾞﾝ･ｻﾞﾝ･ﾒｰﾑ･ｼﾞｬﾙﾀﾞﾝ adv. 一つの同じ庭園で 「副詞句」

自分たちが求めているものが、見つからないんだね...」
et ils n'y trouvent pas ce qu'ils cherchent ... et「主語」「動詞句」「目的語」》
et ｴ conj. そして、だけど
ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」
n'y trouvent pas ﾆ･ﾄﾙｰｳﾞ･ﾊﾟ 3 複現･否定(trouver)v.t 見つからない 「動詞句」
y は un même jardin の代用
ce ｽ pron それを 「目的語」
qu' ｸ pron ～する 「形容詞節」
ils ｲﾙ pron 彼らが 「主語」
cherchent ... ｼｪﾙｼｭ 3 複現(chercher)v.t 探している 「動詞」

「見つからないんだね...」とぼくは答えた。
---- Ils ne le trouvent pas, répondis-je ... 《「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」
ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」

XXV

ne le trouvent pas, ヌ･ル･トルーヴ゛･パ゜ 3 複現･否定(trouver)v.t それが見つからない「動詞句」
le は ce qu'ils cherchent の代用
répondis ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 1 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
je ... ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

「でも、求めているものは、たった一本のバラの花とか、わずかな水の中にみつかるはずなのに...」
---- Et cependant ce qu'ils cherchent pourrait être trouvé dans une seule rose ou un peu d'eau ... Et cependant「主語」「動詞句」「副詞句」
Et ｴ conj. そして
cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. 〜にもかかわらず
ce qu'ils cherchent ｽ･ｷﾙ･ｼｪﾙｼｭ pron 彼らが探しているものは 「主語」
pourrait être trouvé ﾌﾟｰﾚ･ｴｰﾄﾙ･ﾄﾙｳﾞｪ 条・3 単現･受動･可能性
v.t 見つけられるだろう 「動詞句」
dans ﾄﾞﾝ prep 〜の中に 「副詞句」
une seule rose ﾕﾝﾇ･ｽﾙ･ﾛｰｽﾞ n.f 一本のバラの花 「目的語」
ou ｳ conj. または
un peu d'eau ... ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾄﾞ n.m 少しの水 「目的語」

「そのとおりだとも」とぼくは答えた。
---- Bien sûr》, répondis-je. 《「応答」》,「動詞」「主語」
Bien sûr》, ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろんだ、そのとおりだ 「応答」
répondis ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 1 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」
je. ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

すると、王子様は付け加えた。
Et le petit prince ajouta： Et「主語」「動詞」
Et ｴ conj. すると
le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
ajouta：ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

「だけど、眼というものは盲目なんだ。心で探し求めなければいけないんだよ」
《Mais les yeux sont aveugles. Il faut chercher avec le coeur.》
《Mais「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「主語」》
Mais ﾒ conj. しかし
les yeux ﾚ･ｼﾞｭｰ pl.n.m 目というものは 「主語」

XXV

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」
aveugles. ｱｳﾞｰｸﾞﾙ adj. 盲目の 「補語」
Il faut ｲﾌｫ 3 単現(falloir+不定詞)v.h ～しなければならない 「動詞句」
chercher ｼｪﾙｼｪ 不定詞 v.t 探し求める 「主語」
avec le coeur.》ｱｳﾞｪｯｷ･ﾙ･ｹｰﾙ adv. 心で 「副詞句」

ぼくは水を飲んで、ほっとしていた。砂は、夜明けには、蜜の色。

J'avais bu. Je respirais bien. Le sable, au lever du jour, est couleur de miel.
「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞」 | 「主語」「副詞句」「動詞」「補語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
avais bu. ｱｳﾞｪ･ﾋﾞｭ 1 単半･完了形(boire)v.t 飲んだ 「動詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
respirais ﾚｽﾋﾟﾚ 1 単半(respirer)v.i ほっとしていた 「動詞」
bien. ﾋﾞﾔﾝ adv. おおいに 「副詞」
Le sable, ﾙ･ｻｰﾌﾞﾙ n.m 砂は 「主語」
au lever du jour, ｵ･ﾙｳﾞｪ･ｼﾞｭ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 日の出には、夜明けには 「副詞句」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
couleur de miel. ｸﾚｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾐｴﾙ n.f 蜜の色 「補語」

その蜜の色によっても、ぼくは幸せだった。

J'étais heureux aussi de cette couleur de miel. 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
étais ｴﾃ 1 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
heureux ｳﾙｰ adj. 幸せな 「補語」
aussi de ｵｼ･ﾄﾞｩ adv. ～によっても 「副詞句」
cette couleur de miel. ｾｯﾄ･ｸﾚｰﾙ･ﾄﾞｩ･ﾐｴﾙ n.f この蜜の色 「目的語」

思い煩う必要など、どこにあろう...（、とぼくは思った）

Pourquoi fallait-il que j'eusse de la peine ... 「副詞」「動詞」「主語」
Pourquoi ﾌﾟﾙｸｫ adv. なぜ、どうして 「副詞」
fallait-il ﾌｧﾚ･ﾃｨﾙ 3 単半･疑問文(falloir)
v.h（時制の一致）～しなければならないのか？ 「動詞句」
que ｸ conj. ～ということを 「主語」
j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
eusse ｲｽ 接・1 単半(avoir)v.t もつ、～する 「動詞」
de la peine ... ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾍﾟｰﾇ n.f 苦労を 「目的語」

XXV

avoir de la peine 「心を痛める、思い煩う」
反語的に「何を思い煩う必要があろうか！」「思い煩う必要などない！」

「約束はちゃんと守ってくれなくちゃね」と王子様はぼくに静かに言った。
《Il faut que tu tiennes ta promesse, me dit doucement le petit prince,
《「動詞句」「主語」》,「間接目的語」「動詞」「副詞」「主語」,
Il faut ｲﾌｫ 3 単現(falloir+que)v.h ～しなければならない、～が必要だ 「動詞句」
que ｸ conj. ～ということを 「主語」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
tiennes ﾃｨｴﾝﾇ 接・2 単現(tenir)v.t（約束を）守るべきだ 「動詞」
ta promesse, ﾀ･ﾌﾟﾛﾒｽ n.f 君の約束を 「目的語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
doucement ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. 静かに 「副詞」
le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

彼はまた僕のそばに腰をおろしていた。
qui, de nouveau, s'était assis auprès de moi. 《「主語」「副詞句」「動詞句」「副詞句」》
qui, ｷ pron そして彼は 「主語」
de nouveau, ﾄﾞｩ･ﾇｳﾞｫ adv. また、再び 「副詞句」
s'était assis ｾﾃ･ﾀｼ 3 単現･完了形(s'asseoir)v.pr 座った 「動詞句」
auprès de moi. ｵﾌﾟﾚ･ﾄﾞｩ･ﾑわ adv. 僕の傍に 「副詞句」

「何の約束だっけ？」
Quelle promesse? 「応答」
Quelle promesse? ｹﾙ･ﾌﾟﾛﾒｽ n.f 何の約束だっけ？ 「応答」

「ほら... ぼくの羊用の口輪だよ... ぼくはあの花に責任があるんだ！」
---- Tu sais ... une muselière pour mon mouton ... je suis responsable de cette fleur!》
《「確認」---「補語」---「主語」「動詞」「補語」》
Tu sais ... ﾁｭ･ｾ int.（相手に念を押す）ね、ほら 「確認」
une muselière ﾕﾝﾇ･ﾐｭｽﾞﾘｪｰﾙ n.f 口輪だよ 「補語」
pour mon mouton ... ﾌﾟｰﾙ･ﾓﾝ･ﾑｰﾄﾝ adj. 僕の羊のための 「形容詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
responsable ﾚｽﾎﾟﾝｻｰﾌﾞﾙ adj. (de に関して) 責任がある 「補語」

XXV

de cette fleur!》ﾄﾞｩ･ｾｯﾄ･ﾌﾚｰﾙ adv. あの花に 「間接目的語」
ce, cette は指示形容詞で「この、あの」、ce は中性の指示代名詞で「これ、あれ」

ぼくはポケットから、デッサンのいろいろな下書きを取り出した。王子様はそれらを見て、笑いながら言った。

Je sortis de ma poche mes ébauches de dessin. Le petit prince les aperçut et dit en riant：
「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」 | 「主語」「目的語」「動詞」et「動詞」「副詞句」：

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
sortis 3 単過(sortir)v.t（de から）（物を）取り出した 「動詞」
de ma poche ﾄﾞｩ･ﾏ･ﾎﾟｯｼｭ adv. ポケットから 「副詞句」
mes ébauches ﾒ･ｾﾞﾎﾞｰｼｭ pl.n.f 下書きを 「目的語」
de dessin. ﾄﾞｩ･ﾃﾞｻﾝ adj. デッサンの 「形容詞句」
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
les ﾚ pron.pl それらを 「目的語」
aperçut ｱﾍﾟﾙｼｭ 3 単過(apercevoir)v.t 見た 「動詞」
et ｴ conj. そして
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
en riant：ｵﾝ･ﾘｮﾝ ジェロンディフ(rire)v.i 笑いながら 「副詞句」

ここの en+現在分詞は「ジェロンディフ」といって、同時進行の動作を表す

ジェロンディフの用法：

「時間・様態」を表し、「～するとき」とか「～しながら」
「手段・条件」を表し、「～することで」とか「～すれば」
「対立・譲歩」を表し、「～する一方」あるいは「～ではあるが」
ジェロンディフの意味上の主語は、文の主語と同一人物
ジェロンディフ自体は時を表さず、時制は文全体によって決まる

「きみのバオバブは、ちょっとキャベツみたいだね...」

《Tes baobabs, ils ressemblent un peu à des choux ...
《「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」》

Tes baobabs, ﾃ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ pl.n.m 君が描くバオバブは 「主語」
ils ｲﾙ pron それらは 「主語」
ressemblent ﾙｿﾝﾌﾞﾙ 3 複現(ressembler)v.i (à に) 似ている 「動詞」
un peu ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少し 「副詞句」
à des choux ...ｱ･ﾃﾞ･ｼｭｰ adv. キャベツに 「間接目的語」

XXV

「ああ、やれやれ！」

---- Oh!》 「感嘆」

Oh!》 ｵｰ int. おや、おや 「感嘆」

ぼくはバオバブの絵ではあんなに鼻が高かったのに!

Moi qui étais si fier des baobabs! 「副詞」「主語」「動詞」「補語」

Moi ﾑｫﾜ pron 僕としては 「副詞」

qui ｷ pron 僕は 「主語」

étais ｴﾃ 1 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

この半過去は「パイロットが自分の心情を読者に語って」おり、物語の情景ではない

si fier ｼ･ﾌｨｴ adj. (de に) とても誇らしい 「補語」

des baobabs! ﾃﾞ･ﾊﾞｵﾊﾞﾌﾞ adj. バオバブについては 「副詞句」

「きみのキツネ... 耳が... ちょっと角みたい... 長すぎるんだよ！」

《Ton renard ... ses oreilles ... elles ressemblent un peu à des cornes ... et elles sont trop longues!》 《「副詞句」---「主語」---「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」 et「主語」「動詞」「補語」》

Ton renard ... ﾄﾝ･ﾙﾅｰﾙ n.m 君のきつねについては 「副詞句」

ses oreilles ... ｾ･ｿﾞﾚｲﾕ pl.n.f 耳が 「主語」

elles ｴﾙ pron.pl. それは 「主語」

ressemblent ﾙｿﾝﾌﾞﾙ 3 複現(ressembler)v.i (à に) 似ている 「動詞」

un peu ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少し 「副詞句」

à des cornes ... ｱ･ﾃﾞ･ｺﾙﾇ adv. 角に 「間接目的語」

et ｴ conj. そして

elles ｴﾙ pron それは 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

trop longues!》 ﾄﾛ･ﾛｰﾝぐ adj. 長すぎる 「補語」

そう言って、彼はまた笑った。

Et il rit encore. Et「主語」「動詞」「副詞」

Et ｴ conj. そして

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

rit ﾘ 3 単過(rire)v.i 笑った 「動詞」

encore. ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

XXV

「きみは公正じゃないよ、坊や、ぼくは中の見えないボア大蛇と中の見えるボア大蛇のほかには、何も描くことができなかったんだから」

《Tu es injuste, petit bonhomme, je ne savais rien dessiner que les boas fermés et les boas ouverts.　《「主語」「動詞」「補語」「呼びかけ」,「主語」「動詞句」「目的語」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

es ｴ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」

injuste, ｱﾝｼﾞｭｽﾄ adj. 不公正な 「補語」

petit bonhomme, ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ n.m 坊や 「呼びかけ」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ne savais rien dessiner que ﾇｻｳﾞｪ･ﾘｬﾝ･ﾃﾞｼﾈ･ｸ 1 単半・可能(savoir+不定詞+ne...que)

v.t ～しか描くことが出来なかった 「動詞句」

les boas fermés ﾚ･ﾎﾞｱ･ﾌｪﾙﾒ pl.n.m 中の見えないボア大蛇 「目的語」

et ｴ conj. そして

les boas ouverts. ﾚ･ﾎﾞｱ･ｳｳﾞｪｰﾙ pl.n.m 中の見えるボア大蛇 「目的語」

「うん、まあいいよ。子供たちは知ってる」

---- Oh! ça ira, dit-il, les enfants savent.》

《「間投」「主語」「動詞」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」》

Oh! ｵｰ int. ああ 「間投」

ça ｻ pron それは 「主語」

ira, ｲﾗ 3 単未(aller)v.i（物事が）運ぶだろう 「動詞」

→ それでいいよ、そういうことにしておくよ

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

il, ｲﾙ pron 彼は 「主語」

les enfants ﾚ･ｿﾞﾝﾌｫﾝ pl.n.m 子供たちは 「主語」

savent.》ｻｰｳﾞ 3 複現(savoir)v.t 知っている 「動詞」

そこで、ぼくは口輪を鉛筆で描いた。そして、それを彼にあげるとき、胸が締め付けられる思いがした：

Je crayonnai donc une muselière. Et j'eus le coeur serré en la lui donnant：

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | Et「主語」「動詞」「目的語」「補語」「副詞句」:

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

crayonnai ｸﾚﾖﾈ 1 単過(crayonner)v.t（鉛筆で）デッサンした、描いた 「動詞」

donc ﾄﾞﾝ adv. それで 「副詞」

une muselière. ﾕﾝﾇ･ﾐｭｽﾞﾘｪｰﾙ n.f（動物の）口輪を 「目的語」

Et ｴ conj. そして

XXV

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
eus ｲ 1 単過(avoir)v.t (SVOC) O が C だと思った、感じた 「動詞」
le coeur ﾙ･ｹｰﾙ n.m 胸が 「目的語」
serré ｾﾚ adj. 締め付けられた 「補語」
en +現在分詞 ｵﾝ adv. ～する時に 「副詞句」
la ﾗ pron (une muselière の代用) それを 「直接目的語」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
donnant：ﾄﾞﾉﾝ 現在分詞(donner)v.t あげる 「動詞」
注意：
フランス語で「avoir O+形容詞／過去分詞」、スペイン語で「tener O+形容詞／過去分詞」、ドイツ語で「haben O+形容詞／過去分詞」、イタリア語で「avére O+形容詞／過去分詞」などが「O が C だと思う、感じる」という意味で使用される

「ぼくの知らない計画を持っているんだろう...」
《Tu as des projets que j'ignore ...》 《「主語」「動詞」「目的語」》
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
as ｱ 2 単現(avoir)v.t ある、持っている 「動詞」
des projets ﾃﾞ･ﾌﾟﾛｼﾞｪ pl.n.m 計画を 「目的語」
que ｸ pron ～する 「形容詞節」
j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
ignore ...》ｲﾆｮｰﾙ 1 単現(ignorer)v.t 知らない 「動詞」

けれども、彼はそれには答えず、こう言った。
Mais il ne me répondit pas. Il me dit：
Mais「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「主語」「間接目的語」「動詞」：
Mais ﾒ conj. しかし
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
ne ...répondit pas. ﾇ...ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ･ﾊﾟ 3 単過･否定(répondre)v.i 答えなかった 「動詞句」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
dit：ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

「ねえ、ぼくが地球に降り立って... 明日はその記念日なんだ...」
《Tu sais, ma chute sur la Terre ... c'en sera demain l'anniversaire ...》
《「主語」「動詞」「目的語」---「動詞句」「副詞句」「主語」》

XXV

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
sais, ｾ 2 単現(savoir)v.t 知っているだろう 「動詞」
ma chute ﾏ･ｼｭｯﾄ n.f ぼくの墜落 「目的語」
sur la Terre ... ｼｭｰﾙ･ﾗ･ﾃｰﾙ adv. 地上への 「副詞句」
c'en sera ｿﾝ･ｽﾗ 3 単未(être)v.i ～になる 「動詞句」
demain ﾄﾞｩﾏﾝ adv. 明日 「副詞句」
l'anniversaire ...》ﾗﾆｳﾞｪﾙｾｰﾙ n.m 記念日 「主語」

それから、ふと黙ったあとで、さらにこう言った。
Puis, après un silence il dit encore： 「副詞句」「主語」「動詞」「副詞」：
Puis, ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
après un silence ｱﾌﾟﾚ･ｱﾝ･ｼﾛﾝｽ adv. 少し黙ってから 「副詞句」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
encore：ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

「ここのすぐ近くに、ぼくは降り立ったんだ...」
《J'étais tombé tout près d'ici ...》 《「主語」「動詞句」「副詞句」》
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
étais tombé ｴﾃ･ﾄﾝﾍﾞ 1 単半･完了形(tomber)v.t 落ちた 「動詞句」
tout près d'ici ...》ﾄｩ･ﾌﾟﾚ･ﾃﾞｨｼ adv. ここからすぐ近くに 「副詞句」

そして、彼は顔を赤らめた。
Et il rougit. Et 「主語」「動詞」
Et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
rougit. ﾙｼﾞ 3 単過(rougir)v.t（顔を）赤らめた 「動詞」

そこでぼくは、なぜだかわからないまま、また奇妙な胸苦しさを感じた。
Et de nouveau, sans comprendre pourquoi, j'éprouvai un chagrin bizarre.
Et 「副詞句」,「主語」「動詞」「目的語」
Et ｴ conj. そして
de nouveau, ﾄﾞｩ･ﾇｳﾞｫ adv. 再び、また、もう一度 「副詞句」
sans +不定詞 ｿﾝ adv. ～せずに 「副詞句」
comprendre ｺﾝﾌﾟﾛﾝﾄﾞﾙ 不定詞 v.t 分かる、理解する 「動詞」
pourquoi, ﾌﾟﾙｸｫ adv. どうしてか 「副詞」

XXV

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
éprouvai ｴﾌﾟﾙｳﾞｪ 1 単過(éprouver)v.t 感じた 「動詞」
un chagrin ｱﾝ･ｼｬｸﾞﾗﾝ n.m 悩みを 「目的語」
bizarre. ﾋﾞｻﾞｰﾙ adj. 奇妙な 「形容詞」

けれども、一つの問いが思い浮かんだ。
Cependant une question me vint： Cependant「主語」「間接目的語」「動詞」
Cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. しかしながら、にもかかわらず
une question ﾕﾝﾇ･ｹｽﾁｮﾝ n.f 一つの疑問が 「主語」
me ﾑ pron 僕のところに 「間接目的語」
vint：ｳﾞｧﾝ 3 単過(venir)v.i やって来た 「動詞」
→ 頭に浮かんだ

「では、一週間前、ぼくがきみと知り合った朝、きみが人の住んでいる土地から千マイルも離れたところを、あのようにたったひとりで散歩していたのは、偶然ではなかったんだ！
《Alors ce n'est pas par hasard que, le matin où je t'ai connu, il y a huit jours, tu te promenais comme ça, tout seul, à mille milles de toutes les régions habitées!
《「副詞」「動詞句」「補語」「主語」》
Alors ｱﾛｰ adv. じゃあ 「副詞」
ce ｽ pron それは（que 以降が真の主語）
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
par hasard ﾊﾟｰﾙ･ｱｻﾞｰﾙ adv. 偶然に 「補語」
que, ｸ conj. ～ということは 「主語」
le matin ﾙ･ﾏﾀﾝ n.m その朝 「副詞」
où ｳ adv. ～する時 「形容詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
t' ﾄｩ pron 君に 「目的語」
ai connu, ｴ･ｺﾆｭ 1 単現･完了形(connaître)v.t 知り合った 「動詞句」
il y a huit jours, ｲﾘ･ｱ･ﾕｨｯﾄ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 1 週間前に 「副詞句」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
te promenais ﾄｩ･ﾌﾟﾛﾑﾈ 2 単半(se promener)v.pr 散歩していた 「動詞句」
comme ça, tout seul, ｺﾑ･ｻ･ﾄｩ･ｽﾙ adv. あんな風にたった一人で 「副詞句」
à mille milles de toutes les régions habitées! ｱ･ﾐﾙ･ﾐﾙ･ﾄﾞｩ･ﾄｯﾄ･ﾚ･ﾚｼﾞｮﾝ･ｱﾋﾞﾃ
adv. 人が住んでいる全ての土地から 1000 マイルも離れた所で 「副詞句」

XXV

きみは降り立った地点に戻るところだったんだね？」

Tu retournais vers le point de ta chute?》 《「主語」「動詞」「副詞句」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

retournais ﾙﾄｩﾙﾈ 2 単半・確認(retourner)v.i 戻ろうとしていたんだね？ 「動詞」

vers le point ｳﾞｪｰﾙ・ﾙ・ﾌﾟ ｗﾝ adv. その地点へ 「副詞句」

de ta chute?》 ﾄﾞｩ・ﾀ・ｼｭｯﾄ adj. 君が落ちた 「形容詞句」

王子様は、また顔を赤らめた。

Le petit prince rougit encore. 「主語」「動詞」「副詞」

Le petit prince ﾙ・ﾌﾟﾃｨ・ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

rougit ﾙｼﾞ 3 単過(roujir)v.t 顔を赤らめた 「動詞」

encore. ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

そこで、ぼくはためらいながら、付け加えた。

Et j'ajoutai, en hésitant： Et「主語」「動詞」「副詞句」

Et ｴ conj. そして

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ajoutai, ｱｼﾞｭﾃ 1 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

en hésitant：ｵﾝ・ｴｼﾞﾄﾝ ジェルンディオ(hésiter)v.i ためらいながら 「副詞句」

「たぶん... 記念日だからだろうね？」

《À cause, peut-être, de l'anniversaire?...》 《「副詞句」》

À cause, ｱ・ｺｰｽﾞ adv. (de の) ～のために 「副詞句」

peut-être, ﾌﾟ・ﾃｰﾄﾙ adv. たぶん、きっと 「副詞句」

de l'anniversaire?...》ﾄﾞｩ・ﾗﾆｳﾞｪﾙｾｰﾙ adj. 記念日の 「形容詞句」

王子様は、また顔を赤らめた。彼は質問には決して答えない。けれども、顔を赤らめるのは、「そうです」を意味するんだよね。

Le petit prince rougit de nouveau. Il ne répondait jamais aux questions, mais, quand on rougit, ça signifie《oui》, n'est-ce pas?

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」

mais「副詞節」,「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Le petit prince ﾙ・ﾌﾟﾃｨ・ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

rougit ﾙｼﾞ 3 単過(roujir)v.t 顔を赤らめた 「動詞」

de nouveau. ﾄﾞｩ・ﾇｳﾞｫ adv. また 「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

XXV

ne répondait jamais ヌ･ﾚﾎﾟﾝﾃﾞ･ﾊﾟ 3 単半･否定(répondre)v.i 答えなかった 「動詞句」
aux questions, ｵ･ｹｽﾁｮﾝ adv. 質問に 「間接目的語」
mais, ﾒ conj. しかし
quand ｺﾝ conj. ～する時 「副詞節」
on ｵﾝ pron 人が 「主語」
rougit, ﾙｼﾞ 3 単現(roujir)v.t 顔を赤らめる 「動詞」
ça ｻ pron それは 「主語」
signifie ｼﾆﾌｨ 3 単現(signifier)v.t 意味する 「動詞」
《oui》, ｳｨ adv. 「イエス」を 「目的語」
n'est-ce pas? ﾈ･ｽ･ﾊﾟ adv.（念押し）そうだよね？ 「副詞句」

「ああ！心配だよ...」とぼくは言った。
《Ah! lui dis-je, j'ai peur ...》
《「感嘆」》,「間接目的語」「動詞」「主語」,《「主語」「動詞」「目的語」》
Ah! ｱ int. ああ 「間投」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
dis ﾃﾞｨ 1 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
je, ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ai ｴ 1 単現(avoir)v.t ある 「動詞」
peur ...》ﾍﾟｰﾙ n.f 心配が 「目的語」

しかし、彼はぼくにこう言った。
Mais il me répondit： Mais「主語」「間接目的語」「動詞」
Mais ﾒ conj. しかし
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
répondit：ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

「さて、きみは仕事をしなくちゃあ。飛行機の所へまた戻らなくちゃね。ぼくはここで待ってる。あしたの夕方、ここに戻ってきてよ...」
《Tu dois maintenant travailler. Tu dois repartir vers ta machine. Je t'attends ici. Reviens demain soir ...》 《「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」
「主語」「目的語」「動詞」「副詞」 | 「動詞」「副詞句」》
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
dois maintenant travailler. ﾄﾞｩ･ﾏﾝﾄｩﾉﾝ･ﾄﾗｳﾞｧｲｴ 2 単現･必要(devoir+不定詞)

XXV

v.i さあ、君は仕事をしなくちゃいけない 「動詞句」
maintenant ﾏﾝﾄｩﾉﾝ adv. さて、さあ、ところで
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
dois repartir ﾄﾞｩわ･ﾙﾊﾟﾙﾃｨｰﾙ 2 単現･必要(devoir+不定詞)
v.i 戻らなくちゃいけない 「動詞句」
vers ta machine. ヴﾞｪｰﾙ･ﾀ･ﾏｼｰﾇ adv. 君の飛行機の所へ 「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
t' ﾄｩ pron 君を 「目的語」
attends ｱﾄﾝ 1 単現(attendre)v.t 待っている 「動詞」
ici. ｲｼ adv. ここで 「副詞」
Reviens ﾙｳﾞｨｱﾝ 命・2 単現(revenir)v.i 戻っておいで 「動詞」
demain soir ...》 ﾄﾞｩﾏﾝ･ｽわｰﾙ adv. 明日の夕方 「副詞句」

けれども、ぼくは気持ちが落ち着かなかった。ぼくはキツネのことを思い出した。飼いならされると、人はちょっぴり泣き出しかねない...

Mais je n'étais pas rassuré. Je me souvenais du renard. On risque de pleurer un peu si l'on s'est laissé apprivoiser ...

Mais「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」
「主語」「動詞句」「副詞句」「副詞節」

Mais ﾒ conj. しかし
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'étais pas ﾈﾃ･ﾊﾟ 1 単半･否定(être)v.i ～でなかった 「動詞句」
rassuré. ﾗｼｭﾚ 過去分詞(rassurer)adj. 安心した 「補語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me souvenais ﾑ･ｽｳﾞﾈ 1 単半(se souvenir)v.pr (de を) 思い出した 「動詞句」
du renard. ｼﾞｭ･ﾙﾅｰﾙ adv. キツネのことを 「間接目的語」
On ｵﾝ pron 人は 「主語」
risque de pleurer ﾘｽｷ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾙﾚ 3 単現･可能性(risquer de+不定詞)
v.i 泣き出す恐れがある 「動詞句」
un peu ｱﾝ･ﾌﾟ adv. ちょっと、少し 「副詞句」
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
l'on ﾛﾝ pron 人が 「主語」
s'est laissé apprivoiser ｾ･ﾚｯｾ･ｱﾌﾟﾘｳﾞわｾﾞ 3 単現･完了形(se laisser+不定詞)
v.t 飼いならされるままになった 「動詞句」
se laisser+不定詞「～されるがままになる」の複合過去（[助]は être）

XXVI

井戸のそばに、古い石の壁の残骸があった。

Il y avait, à côté du puits, une ruine de vieux mur de pierre.

「動詞句」「副詞句」「主語」

Il y avait, ｲ･ﾘ･ﾔｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.h ～があった 「動詞句」

à côté du puits, ｱ･ｺﾃ･ｼﾞｭ･ﾋﾟｭｲ adv. 井戸の脇に 「副詞句」

une ruine ﾕﾝﾇ･ﾘｭｲﾝﾇ n.f 瓦礫が 「主語」

de vieux mur de pierre. ﾄﾞｩ･ｳﾞｨｭ･ﾐｭﾙ･ﾄﾞｩ･ﾋﾟｴｰﾙ adj. 古い石壁の 「形容詞句」

翌日の夕方、ぼくが仕事から戻ると、わが王子様が壁の上に腰かけて、両足をたらしているのが、遠くから見えた。

Lorsque je reviens de mon travail, le lendemain soir, j'aperçus de loin mon petit prince assis là-haut, les jambes pendantes. 「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Lorsque ﾛﾙｽｷ conj. ～する時に 「副詞節」

je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

reviens ﾙｳﾞｨﾔﾝ 1 単現(revenir)v.i 帰って来る 「動詞」

de mon travail, ﾄﾞｩ･ﾓﾝ･ﾄﾗｳﾞｧｲﾕ adv. 仕事から 「副詞句」

le lendemain soir, ﾙ･ﾛﾝﾄﾞｩﾏﾝ･ｽｨｰﾙ adv. 翌日の朝 「副詞句」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

aperçus ｱﾍﾟﾙｼｭ 1 単過(apercevoir)v.t 見えた 「動詞」

de loin ﾄﾞｩ･ﾙｨﾜﾝ adv. 遠くから 「副詞句」

mon petit prince ﾓﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様が 「目的語」

assis ｱｼ 過去分詞(asseoir)adj. 座った 「形容詞句」

là-haut, ﾗ･ｵ adv. その壁の上に 「副詞句」

les jambes pendantes. ﾚ･ｼﾞｮﾝﾌﾞ･ﾎﾟﾝﾄﾞﾝﾄ adv. 脚を垂らして「副詞句」

pendantes ﾎﾟﾝﾄﾞﾝﾄ 現在分詞(pendre)adj.pl.f 垂らしながら

しかも、彼が話している声が聞こえた。

Et je l'entendis qui parlait： Et「主語」「目的語」「動詞」

Et ｴ conj. そして

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

l' ｲﾙ pron 彼を 「目的語」

entendis ｵﾝﾄﾝﾃﾞｨ 1 単過(entendre)v.t 聞いた 「動詞」

qui ｷ pron ～する 「形容詞節：l'」

parlait：ﾊﾟﾙﾚ 3 単半(parler)v.i 話している 「動詞」

XXVI

「では、覚えてないんだね？場所はここじゃ全然違うよ！」と彼は言った。

《Tu ne t'en souviens donc pas? disait-il. Ce n'est pas tout à fait ici!》

《「主語」「動詞句」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞句」「副詞句」「補語」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

ne t'en souviens donc pas? ﾇ･ﾄﾝ･ｽｳﾞｨｱﾝ･ﾄﾞﾝ･ﾊﾟ 2 単現･否定(se souvenir)

v.pr それじゃあその場所を覚えていない？ 「動詞句」

en は（特別の意味がある）場所を表している

disait ﾃﾞｨｾﾞ 3 単半(dire)v.t 言った 「動詞」

il. ｲﾙ pron 彼は 「主語」

Ce ｽ pron その場所は 「主語」

n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」

tout à fait ﾄｳ･ﾀ･ﾌｪ adv. まったく 「副詞句」

ici!》ｲｼ adv. ここ 「補語」

おそらく、別の声がそれに答えた。彼はまたこう言い返した。

Une autre voix lui répondit sans doute, puisqu'il répliqua：

「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞句」,「副詞節」

Une autre voix ﾕﾝﾇ･ｵｰﾄﾙ･ｳﾞｫ n.f 別の声が 「主語」

lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」

répondit ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過(répondre)v.i 答えた 「動詞」

sans doute, ｿﾝ･ﾄﾞｳｯﾄ adv. 恐らく 「副詞句」

puisqu' ﾋﾟｭｲｽｷ conj. ～だから 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼が 「主語」

répliqua：ﾚﾌﾟﾘｶ 3 単過(répliquer)v.i 言い返した 「動詞」

「そう！そう！たしかに日にちはそうだけど、場所はここじゃない...」

《Si! Si! c'est bien le jour, mais ce n'est pas ici l'endroit ...》

《「応答」┃「動詞」「補語」「主語」mais「動詞句」「補語」「主語」》

Si! Si! ｼ･ｼ adv. そう、そう! 「応答」

c' ｽ pron 仮の主語（真の主語は le jour）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

bien ﾋﾞｬﾝ adj. 正しい 「補語」

le jour, ﾙ･ｼﾞｭｰﾙ n.m 日付は 「主語」

mais ﾒ conj. しかし

ce ｽ pron 仮の主語（真の主語は l'endroit）

XXVI

n'est pas ネ･パ 3 単現･否定(être)v.i ～でない 「動詞句」
ici イシ adv. ここ 「補語」
l'endroit ...》ロンドゥルわ n.m 場所は 「主語」

僕は壁の方へ歩行を続けた。相変わらず誰一人見当たらないし、誰の声も聞こえなかった。
Je poursuivis ma marche vers le mur. Je ne voyais ni n'entendais toujours personne.
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」
Je ジュ pron 僕は 「主語」
poursuivis プールシュイヴィ 1 単過(poursuivre)v.t 続けた 「動詞」
ma marche マ･マルシュ n.f 歩みを 「目的語」
vers le mur. ヴェール･ル･ミュール adv. 壁の方に 「副詞句」
Je ジュ pron 僕は 「主語」
ne voyais ヌ･ヴわイエ 1 単半･否定(voir)v.t 見えなかった 「動詞句」
ni ニ conj. ～もない（動詞・名詞の並列否定）
n'entendais ノントンデ 1 単半･否定(entendre)v.t 聞こえなかった 「動詞句」
toujours トゥジュール adv. 相変わらず 「副詞」
personne. ペルソンヌ pron（否定文で）誰も～ない 「目的語」

けれども、王子様は、また言い返した。
Pourtant le petit prince répliqua de nouveau： 「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」
Pourtant プルトン adv. けれども、それでも 「副詞」
le petit prince ル･プティ･プランス n.m 王子様は 「主語」
répliqua レプリカ 3 単過(répliquer)v.i 言い返した 「動詞」
de nouveau：ドゥ･ヌヴォ adv. また 「副詞句」

「... そうだとも。砂の中のどこからぼくの足跡がはじまっているか、わかるよ。そこでぼくを待ちさえすればいい。今夜そこへ行く」
《... Bien sûr. Tu verras où commence ma trace dans le sable. Tu n'as qu'à m'y attendre. J'y serai cette nuit.》 《「応答」 | 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞」「副詞句」》
... Bien sûr. ビヤン･シュール adv. その通り、そうだとも 「応答」
Tu チュ pron 君は 「主語」
verras ヴェラ 2 単未(voir)v.t 分かるだろう 「動詞」
où ウ conj. どこで～するかということを 「目的語」
commence コモンス 3 単現(commencer)v.i 始まる 「動詞」
ma trace マ･トラス n.f 僕の足跡が 「主語」

XXVI

dans le sable. ﾄﾞﾝ･ﾙ･ｻﾌﾞﾙ adv. 砂の中で 「副詞句」
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
n'as qu'à m'y attendre. ﾅ･ｸｨ･ﾐ･ｱﾄﾝﾄﾞﾙ 2 単現･必要・否定(n'avoir qu'à+不定詞)
v.t そこで僕を待つだけでいい 「動詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
y ｲ adv. そこに 「副詞」
serai ｽﾚ 1 単未(être)v.i ～いるだろう、行くだろう 「動詞」
cette nuit.》ｾｯﾄ･ﾆｭｲ adv. 今夜 「副詞句」

ぼくは石の壁から二十メートルのところにいた。それなのに、やはり何も見えなかった。
J'étais à vingt mètres du mur et je ne voyais toujours rien.
「主語」「動詞」「副詞句」et「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
étais ｴﾃ 1 単半(être)v.i いた 「動詞」
à vingt mètres ｱ･ｳﾞｧﾝ･ﾒｰﾄﾙ adv. 20 メートルの所に 「副詞句」
du mur ｼﾞｭ･ﾐｭｰﾙ adv. 壁から 「副詞句」
et ｴ conj. けれど
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne voyais ﾇ･ｳﾞｧｲｴ 1 単半･否定(voir)v.t 見えなかった 「動詞句」
toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. 相変わらず、やはり 「副詞」
rien. ﾘｬﾝ pron（否定文で）何も～ない 「目的語」

王子様は、しばらく黙りこんだ後、なおもこう言った：
Le petit prince dit encore, après un silence：「主語」「動詞」「副詞句」：
Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
encore, ｵﾝｺｰﾙ adv. なお、さらに、また 「副詞」
après ｱﾌﾟﾚ prep ～の後に 「副詞句」
un silence：ｱﾝ･ｼﾛﾝｽ n.m 沈黙 「目的語」

「良い毒、持っているんだろう？長い間苦しめないって、確かだね？」
《Tu as du bon venin? Tu es sûr de ne pas me faire souffrir longtemps?》
《「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」》
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
as ｱ 2 単現(avoir)v.t（念押し）持っている、ある 「動詞」
du bon venin? ｼﾞｭ･ﾎﾞﾝ･ｳﾞｪﾅﾝ n.m 強い毒を 「目的語」

XXVI

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
es ｴ 2 単現(être)v.i ～である 「動詞」
sûr de +不定詞 ｼｭｰﾙ･ﾄﾞｩ adj. ～するのが確かな 「補語」
ne pas me faire souffrir ﾇ･ﾊﾟ･ﾑ･ﾌｪｰﾙ･ｽﾌﾘｰﾙ 不定詞･使役･否定(faire+人+不定詞)
v.t 僕を苦しませない 「動詞句」
longtemps?》ﾛﾝﾄﾝ adv. 長い間 「副詞」

ぼくは胸が締め付けられて、立ち止まったが、相変わらず何のことかわからなかった。
Je fis halte, le coeur serré, mais je ne comprenais toujours pas.
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,mais「主語」「動詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
fis ﾌｨ 1 単過(faire)v.t ～をした 「動詞」
halte, ｱﾙﾄ n.f 停止 「目的語」
le coeur ﾙ･ｹｰﾙ n.m 胸が 「副詞句」
serré, ｾﾚ 過去分詞･受動(serrer)v.t 締め付けられて 「動詞」
mais ﾒ conj. しかし
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne comprenais toujours pas. ﾇ･ｺﾝﾌﾟﾙﾈ･ﾊﾟ 1 単半･否定(comprendre)
v.t 相変わらず分からなかった 「動詞句」

「さあ、あっちへ行って... ぼくは降りたいんだよ！」
《Maintenant, va-t'en, dit-il ... Je veux redescendre!》
《「副詞」「動詞句」》,「動詞」「主語」,《「主語」「動詞句」》
Maintenant, ﾏﾝﾄｩﾉﾝ adv. さあ 「副詞」
va-t'en, ｳﾞｧ･ﾄﾝ 命・2 単現(s'en aller)v.pr 立ち去れ、行ってしまえ 「動詞句」
dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
il ... ｲﾙ pron 彼は 「主語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
veux redescendre!》ｳﾞ･ﾙﾃﾞｿﾝﾄﾞﾙ 1 単現･願望(vouloir+不定詞)v.i 降りたい 「動詞句」

そのとき、ぼくはぼくで、壁の足元の方へ視線をさげて、（驚きのあまり）飛び上がった！
Alors j'abaissai moi-même les yeux vers le pied du mur, et je fis un bond!
「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」「副詞句」et「主語」「動詞」「目的語」
Alors ｱﾛｰ adv. その時 「副詞」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
abaissai ｱﾍﾞｯｾ 1 単過(abaisser)v.t 下した、下げた 「動詞」

XXVI

moi-même ﾑｫ･ﾒｰﾑ adv. ぼくも 「副詞句」
　王子様が「降りたい」と言うので、ぼくも下を確認しようと思った
les yeux ﾚ･ｼﾞｭ pl.n.m 目を、視線を 「目的語」
vers ｳﾞｪｰﾙ prep ～の方へ 「副詞句」
le pied du mur, ﾙ･ﾋﾟｴ･ﾄﾞｩ･ﾐｭｰﾙ n.m 壁の下部 「目的語」
et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
fis ﾌｨ 1 単過(faire)v.t ～をした 「動詞」
un bond! ｱﾝ･ﾎﾞﾝ n.m 一跳び 「目的語」
　驚いて跳び上がった

そこにいたのだ、三十秒で人を処刑するあの黄色い蛇が一匹、王子様の方へまっすぐ起き上がって。

Il était là, dressé vers le petit prince, un de ces serpents jaunes qui vous exécutent en trente secondes. 「主語」「動詞」「副詞」,「副詞句」,「主語」
Il ｲﾙ pron それは（真の主語は un 以降） 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i いた 「動詞」
là, ﾗｰ adv. そこに 「副詞」
dressé ﾄﾞﾚｯｾ 過去分詞(se dresser)v.pr 起き上がって 「副詞句」
vers le petit prince, ｳﾞｪｰﾙ･ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adv. 王子様に向かって 「副詞句」
un ｱﾝ pron 一匹が 「主語」
de ces serpents jaunes ﾄﾞｩ･ｾ･ｾﾙﾊﾟﾝ･ｼﾞｮｰﾇ adj. 黄色い蛇の 「形容詞句」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
vous ｳﾞ pron 君たちを、人を 「目的語」
exécutent ｴｸﾞｾﾞｷｭﾄｩ 3 複現(exécuter)v.t 処刑する 「動詞」
en trente secondes. ｵﾝ･ﾄﾛﾝﾄ･ｽｺﾞﾝﾄﾞｩ adv. 30 秒で 「副詞句」

ポケットをひっくり返してピストルを取り出しながら、ぼくは駆け出した。

Tout en fouillant ma poche pour en tirer mon revolver, je pris le pas de course, 「副詞句」,「主語」「動詞」「目的語」
Tout en fouillant ﾄｳｯﾄ･ｵﾝ･ﾌｰｲﾖﾝ ジェロンディフ(fouiller)
　adv.（同時）くまなく探しながら 「副詞句」
　tout はジェロンディフを強調する副詞
ma poche ﾏ･ﾎﾟｯｼｭ n.f ポケットを 「目的語」
pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」
en ｵﾝ adv.(de ma poche) そこから 「副詞」

XXVI

tirer ﾃｨﾚ 不定詞 v.t 取り出す 「動詞」
mon revolver, ﾓﾝ･ﾚｳﾞｫﾙｳﾞｪｰﾙ n.m 連発拳銃を 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
pris ﾌﾟﾘ 1 単過(prendre)v.t（行動を）行った 「動詞」
le pas de course, ﾙ･ﾊﾟ･ﾄﾞｩ･ｸﾙｽ n.m 駆け足を 「目的語」
pas ﾊﾟ n.m 歩み course ｸﾙｽ n.f 走ること → 駆け足

しかし蛇は、僕のたてた足音で、まるで噴水が止まるように、静かに砂のなかへ滑り込んでいった。

mais, au bruit que je fis, le serpent se laissa doucement couler dans le sable, comme un jet d'eau qui meurt,
mais「副詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」
mais, ﾒ conj. しかし
au bruit ｵ･ﾌﾞﾘｭｲ adv. 物音によって 「副詞句」
que ｸ pron ～する 「形容詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
fis, ﾌｨ 1 単過(faire)v.t 作った、たてた 「動詞」
le serpent ﾙ･ｾﾙﾊﾟﾝ n.m 蛇は 「主語」
se laissa doucement couler ｽ･ﾚｻ･ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ･ｸｰﾚ 3 単過･使役(se couler)
v.pr 静かに潜り込んだ 「動詞句」
dans le sable, ﾄﾞﾝ･ﾙ･ｻｰﾌﾞﾙ adv. 砂の中に 「副詞句」
comme ｺﾑ conj. ～のように 「副詞句」
un jet d'eau ｱﾝ･ｼﾞｪ･ﾄﾞｫ n.m 噴水 「目的語」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
meurt, ﾒｰﾙ 3 単現(mourir)v.i 消える 「動詞」
噴水の蛇口を閉じる時に、水が噴き出し口に吸い込まれるように戻る感じで

そしてあまり急ぎもせず、金属性の軽い音をたてながら、石と石とのあいだへ巧みに入り込んでしまった。

et sans trop se presser, se faufila entre les pierres avec un léger bruit de métal.
et「副詞句」「動詞句」「副詞句」
et ｴ conj. そして
sans +不定詞 ｿﾝ adv. ～なしに 「副詞句」
trop ﾄﾛ adv. あまり 「副詞」
se presser, ｽ･ﾌﾟﾚｾ 不定詞 v.pr 急ぐ 「動詞句」
se faufila ｽ･ﾌｫﾌｨﾗ 3 単過(se faufiler)v.pr 潜り込んだ 「動詞句」
entre les pierres ｵﾝﾄﾙ･ﾚ･ﾋﾟｪｰﾙ adv. 石の間に 「副詞句」

XXVI

avec un léger bruit ｱｳﾞｪｯｶﾝ･ﾚｼﾞｪｰﾙ･ﾌﾞﾘｭｲ adv. 軽い音をたてて 「副詞句」
de métal. ﾄﾞｩ･ﾒﾀﾙ adj. 金属の 「形容詞句」

ちょうど石の壁に辿りついたとき、雪のように蒼ざめたわが王子様を、かろうじてぼくは両腕の中に受け止めることができた。

Je parvins au mur juste à temps pour y recevoir dans les bras mon petit bonhomme de prince, pâle comme la neige. 「主語」「動詞」「副詞句」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
parvins ﾊﾟﾙｳﾞｧﾝ 1 単過(parvenir)v.i たどり着いた 「動詞」
au mur ｵ･ﾐｭｰﾙ adv. 壁に 「副詞句」
juste à temps ｼﾞｭｽﾄ･ｱ･ﾄﾝ adv. ちょうどよい時に 「副詞句」
pour y recevoir ﾌﾟｰﾙ･ｲ･ﾙｽｳﾞｫｰﾙ adv. そこで受け止めるために 「副詞句」
結果として～できた
dans les bras ﾄﾞﾝ･ﾚ･ﾌﾞﾗ adv. 腕の中に 「副詞句」
mon petit bonhomme de prince, ﾓﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾗﾝｽ
n.m わが王子様を 「目的語」
pâle comme la neige. ﾊﾟｰﾙ･ｺﾑ･ﾗ･ﾈｰｼﾞｭ adj. 雪のように青ざめた 「形容詞句」

「これは、何ということかね！今度は蛇と話すとは！」

《Quelle est cette histoire-là! Tu parles maintenant avec les serpents!》
《「動詞」「補語」「主語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」》
Quelle ｹﾙ pron 何 「補語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
cette histoire-là! ｾｯﾄ･ｲｽﾄｫｰﾙ･ﾗ n.f この出来事は、この話は 「主語」
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
parles ﾊﾟﾙﾙ 2 単現(parler)v.i 話していた 「動詞」
maintenant ﾏﾝﾄｩﾉﾝ adv. 今は 「副詞」
avec les serpents!》 ｱｳﾞｪｯｷ･ﾚ･ｾﾙﾊﾟﾝ adv. 蛇と 「副詞句」

ぼくは王子様がいつも首に巻いていた黄金色のマフラーをほどいた。

J'avais défait son éternel cache-nez d'or. 「主語」「動詞句」「目的語」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
avais défait ｱｳﾞｪ･ﾃﾞﾌｪ 1 単半･完了形(défaire)v.t ほどいた 「動詞句」
son éternel cache-nez d'or. ｿﾝ･ｴﾃﾙﾈﾙ･ｶｼｭﾈ･ﾄﾞｰﾙ
n.m いつもしている金のマフラーを 「目的語」
éternel ｴﾃﾙﾈﾙ adj. いつもの cache-nez ｶｼｭﾈ n.m マフラー d'or ﾄﾞｰﾙ adj. 金の

XXVI

彼のこめかみを湿布し、水を飲ませた。

Je lui avais mouillé les tempes et l'avais fait boire.

「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」et「目的語」「動詞句」「補語」

Je ジュ pron 僕は 「主語」

lui リュイ pron 彼の 「間接目的語」

avais mouillé アヴェ・ムイェ 1 単半・完了形(mouiller)v.t 湿らせた、湿布した 「動詞句」

les tempes レ・トンプ pl.n.f こめかみを 「直接目的語」

et エ conj. そして

l' ル pron 彼に 「目的語」

avais fait アヴェ・フェ 1 単半・完了形・使役(faire+人+不定詞)v.t に～させた 「動詞句」

boire. ヴァール 不定詞 v.t 飲む 「補語」

そしていまでは、もう何も訊く気になれなかった。彼は深刻そうに僕を見つめ、それから両腕をぼくの首に巻きつけてきた。

Et maintenant je n'osais plus rien lui demander. Il me regarda gravement et m'entoura le cou de ses bras.

Et「副詞」「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」

「主語」「目的語」「動詞」「副詞」et「間接目的語」「動詞」「直接目的語」「副詞句」

Et エ conj. そして

maintenant マントゥノン adv. 今では 「副詞」

je ジュ pron 僕は 「主語」

n'osais plus +不定詞 ノゼ・プリュ 1 単半・否定(oser+不定詞+ plus)

v.t もう～しようと思わなかった 「動詞句」

rien リヤン pron 何も～ない 「直接目的語」

lui リュイ pron 彼に 「間接目的語」

demander. ドゥモンデ 不定詞 v.t 尋ねる 「動詞句」

Il イル pron 彼は 「主語」

me ム pron 僕を 「目的語」

regarda ルギャルダ 3 単過(regarder)v.t 見つめた 「動詞」

gravement グラーヴモン adv. 深刻そうに 「副詞」

et エ conj. そして

m' ム pron 僕の 「間接目的語」

entoura オントゥラ 3 単過(entourer)v.t 取り囲んだ、抱えた 「動詞」

le cou ル・クー n.m 首を 「直接目的語」

de ses bras. ドゥ・セ・ブラ adv. 彼の両腕で 「副詞句」

XXVI

彼の心臓が、カービン銃で撃たれて死んでいく小鳥のように、動悸をうっているのが感じられた。彼はぼくにこう言った：

Je sentais battre son coeur comme celui d'un oiseau qui meurt, quand on l'a tiré à la carabine. Il me dit：

「主語」「動詞」「補語」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「間接目的語」「動詞」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
sentais ｿﾝﾃ 1 単半(sentir)v.t (+不定詞+物)v.t . . . が～するのを感じた 「動詞」
battre ﾊﾞﾄﾙ 不定詞 v.i（心臓が）動悸を打つ 「補語」
son coeur ｿﾝ･ｹｰﾙ n.m 彼の心臓が 「目的語」
comme ｺﾑ conj. ～のように 「副詞句」
celui ｽﾘｭｲ pron そのもの（心臓） 「目的語」
d'un oiseau ﾀﾞﾝ･ﾜｿﾞ adj. 小鳥の 「形容詞句」
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
meurt, ﾑｰﾙ 3 単現(mourir)v.i 死んでいく 「動詞」
quand ｺﾝ conj. ～する時、～して 「副詞節」
on ｵﾝ pron 人が 「主語」
受動態に翻訳する
l' ﾙ pron その小鳥を 「目的語」
a tiré ｱ･ﾃｨﾚ 3 単現･完了形(tirer)v.t 撃った 「動詞句」
à la carabine. ｱ･ﾗ･ｶﾗﾋﾞﾇ adv.（手段）カービン銃で 「副詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
dit：ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

「きみの機械の欠陥が見つかって、ぼく嬉しいよ。いよいよ、きみのところへ戻ることができるね. . .」

《Je suis content que tu aies trouvé ce qui manquait à ta machine. Tu vas pouvoir rentrer chez toi ... 《「主語」「動詞」「補語」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」》

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
content ｺﾝﾄﾝ adj. 嬉しい 「補語」
que ｸ conj.（原因・理由）～して 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
aies trouvé ｴ･ﾄｩﾙｳﾞｪ 接・2 単現･完了形(trouver)
v.t 発見した（と思う） 「動詞句」

XXVI

ce ｽ pron それを 「目的語」
qui ｷ pron（主語）～する 「形容詞節」
manquait ﾓﾝｹ 3 単半(manquer)
　v.i 不足していた、動作しなかった 「動詞」
à ta machine. ｱ･ﾀ･ﾏｼｰﾇ adv. 君の機械で 「副詞句」
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
vas pouvoir rentrer ﾊﾞ･ﾌﾟｳﾞｧｰﾙ･ﾛﾝﾄﾚ 2 単現･近接未来･可能(aller+不定詞)
　v.i 戻れるようになる 「動詞句」
chez toi ... ｼｪ･ﾄｩﾜ adv. 君のところへ 「副詞句」

「どうして、わかったの！」
---- Comment sais-tu!》 《「副詞」「動詞」「主語」》
Comment ｺﾓﾝ adv. どうして、どうやって 「副詞」
sais ｾ 2 単現(savoir)v.t 知っている 「動詞」
tu!》ﾁｭ pron 君は 「主語」

ぼくは、奇跡的にもとうとう故障を直すことができた、ということを、ちょうど彼に知らせに来たところだった！
Je venais justement lui annoncer que, contre toute espérance, j'avais réussi mon travail!
「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
venais ｳﾞﾈ 1 単半(venir+不定詞)v.t ～しに来た 「動詞句」
justement ｼﾞｭｽﾄｩﾓﾝ adv. 丁度 「副詞」
lui ﾘｭｲ pron 彼に 「間接目的語」
annoncer ｱﾉﾝｾ 不定詞 v.t 知らせる 「動詞句」
que, ｸ conj. ～ということを 「直接目的語」
contre toute espérance, ｺﾝﾄﾙ･ﾄｩｯﾄ･ｴｽﾍﾟﾛﾝｽ
　adv. 奇跡的に、予期に反して 「副詞句」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
avais réussi ｱｳﾞｪ･ﾚｲｼ 1 単半･完了形(réussir)
　v.t を立派にやってのけた 「動詞句」
mon travail! ﾓﾝ･ﾄﾗｳﾞｧｲﾕ n.m 僕の仕事（故障を直すこと）を 「目的語」

XXVI

彼は僕の質問には何も答えず、こう付け加えた。

Il ne répondit rien à ma question, mais il ajouta：

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」mais「主語」「動詞」:

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ne répondit ﾇ･ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ 3 単過･否定(répondre)v.t 答えなかった 「動詞句」

rien ﾘｬﾝ pron 何も～ない 「目的語」

à ma question, ｱ･ﾏ･ｹｽﾁｮﾝ adv. ぼくの質問には 「副詞句」

mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

ajouta：ｱｼﾞｭﾀ 3 単過(ajouter)v.t 付け加えた 「動詞」

「ぼくも、今日、ぼくのところへ戻るんだよ...」

《Moi aussi, aujourd'hui, je rentre chez moi ...》

《「主語」「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」》

Moi aussi, ﾑｫﾜ･ｵｼ pron 僕も 「主語」

aujourd'hui, ｵｰｼﾞｭﾙﾃﾞｭｲ adv. 今日 「副詞」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

rentre ﾛﾝﾄﾙ 1 単現(rentrer)v.i 帰る 「動詞」

chez moi ...》ｼｪ･ﾑｫﾜ adv. 僕の所へ 「副詞句」

それから、沈んだ顔で、

Puis, mélancolique： 「副詞句」

Puis, ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」

mélancolique：ﾒﾛﾝｺﾘｷ adv.(mélancoliquement) 寂しげに 「副詞」

「きみのところよりはるかに遠いんだよ... はるかに困難なんだよ...」

《C'est bien plus loin ... c'est bien plus difficile ...》

《「主語」「動詞」「副詞句」...「主語」「動詞」「補語」》

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i（存在）ある 「動詞」

bien plus loin ... ﾋﾞｬﾝ･ﾌﾟﾘｭ･ﾙﾜﾝ

adv.（パイロットが帰るところ）よりずっと遠くに 「副詞句」

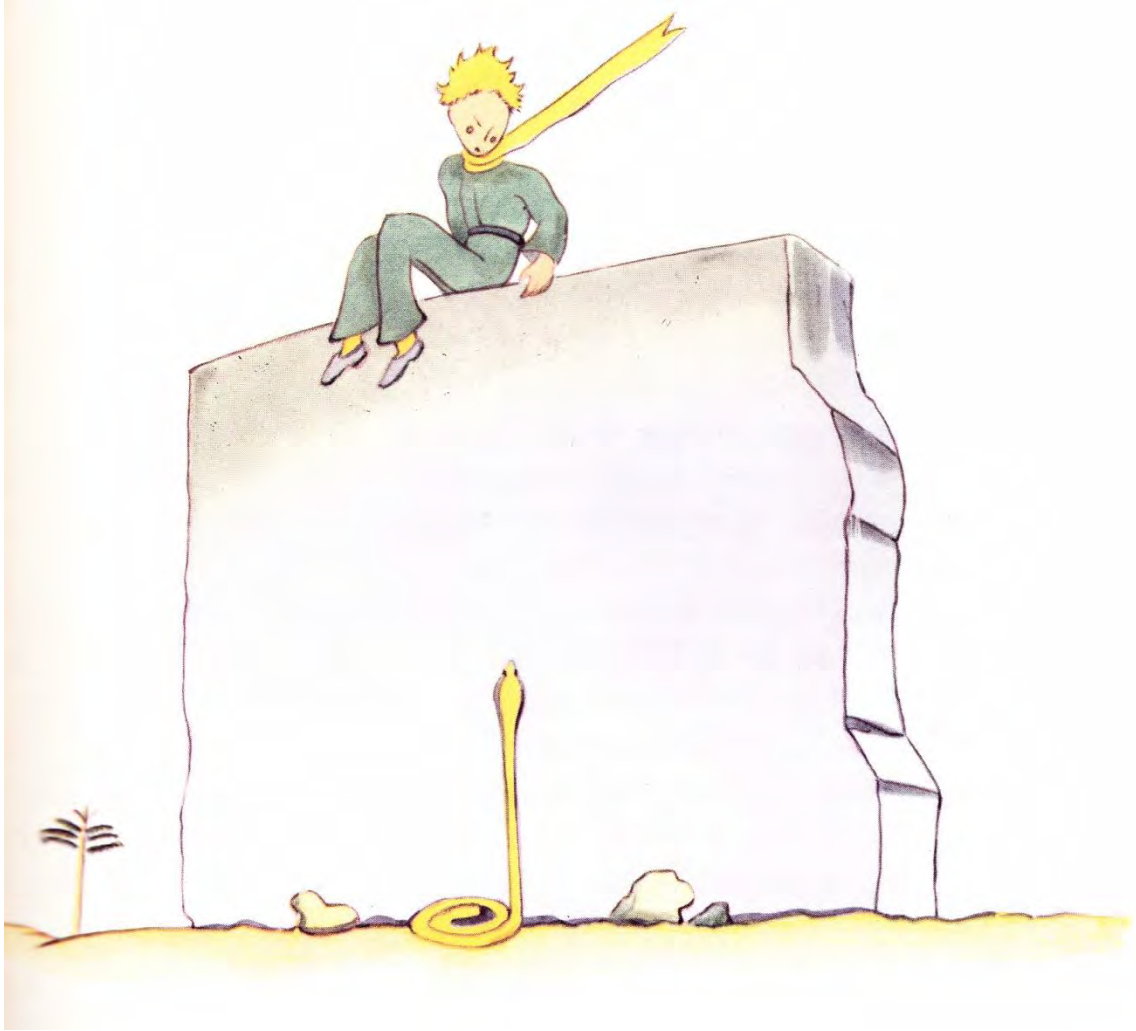
c' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

bien plus difficile ...》ﾋﾞｬﾝ･ﾌﾟﾘｭ･ﾃﾞｨﾌｨｼﾙ

adj.（パイロットが帰ることより）ずっと困難な 「補語」

XXVI



何かただならぬことが起こっているということが、よくわかった。

Je sentais bien qu'il se passait quelque chose d'extraordinnaire.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

sentais ｿﾝﾃ 1 単半(sentir)v.t 感じ取った、理解した、分かった 「動詞」

bien ﾋﾞﾔﾝ adv. よく 「副詞」

qu' ｸ conj. 〜ということを 「目的語」

il ｲﾙ pron 仮の主語（真の主語は quelque chose 以降）

se passait ｽ･ﾊﾟｾ 3 単半(se passer)v.pr（時制の一致）起こっている 「動詞句」

quelque chose ｹﾙｸ･ｼｮｰｽﾞ n.f 何かが 「主語」

d'extraordinnaire. ﾃﾞｸｽﾄﾗｵﾙﾃﾞｨﾈｰﾙ adj. 異常な、途方もない 「形容詞句」

XXVI

ぼくは幼児を抱くように、彼を抱きしめた。ところが、ぼくには引き止めるすべもなく、彼がまっさかさまに深い淵のなかへ落ちていくように思われた...

Je le serrais dans les bras comme un petit enfant, et cependant il me semblait qu'il coulait verticalement dans un abîme sans que je puisse rien pour le retenir ...

「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」et cependant「間接目的語」「動詞」「主語」

Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
le ﾙ pron 彼を 「目的語」
serrais ｽﾚ 1 単半(serrer)v.t 抱きしめた 「動詞」
dans les bras ﾄﾞﾝ･ﾚ･ﾌﾞﾗ adv. 腕の中に 「副詞句」
comme un petit enfant, ｺﾑ･ｱﾝ･ﾌﾟﾃｨ･ｵﾝﾌｫﾝ adv. 幼児のように 「副詞句」
et ｴ conj. そして
cependant ｽﾎﾟﾝﾄﾞﾝ conj. しかしながら
il ｲﾙ pron 形式主語（真の主語は que 節）
me ﾑ pron 私には 「間接目的語」
semblait ｿﾝﾌﾞﾚ 3 単半(sembler)v.i ～のように見えた 「動詞」
qu' ｸ conj. ～ということが 「主語」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
coulait ｸｰﾚ 3 単半(couler)v.i 沈んでいく 「動詞」
verticalement ｳﾞｪﾙﾁｶﾙﾓﾝ adv. 垂直に、真っ逆さまに 「副詞」
dans un abîme ﾄﾞﾝ･ｻﾞﾝ･ｱﾋﾞｰﾑ adv. 奈落の底に 「副詞句」
sans que +接続法 ｿﾝ･ｷ adv. ～することなしに 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
puisse ﾋﾟｭｲｽ 接・1 単現(pouvoir)v.t できる 「動詞」
rien ﾘｬﾝ pron 何も～ない 「目的語」
pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～をするために 「副詞句」
le ﾙ pron 彼を 「目的語」
retenir ... ﾙﾄｩﾆｰﾙ 不定詞 v.t 引き止める 「動詞」

かれの生真面目な視線は、きわめて遠いところに注がれていた。

Il avait le regard sérieux, perdu très loin： 「主語」「動詞」「目的語」：

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
avait ｱｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t あった 「動詞」
le regard sérieux, ﾙ･ﾙｷﾞｬｰﾙ･ｾﾘｭ n.m 真面目な視線を 「目的語」
perdu ﾍﾟﾙﾃﾞｭ adj. 失われた 「形容詞句」
très loin：ﾄﾚ･ﾙﾜﾝ adv. ずっと遠くで 「副詞句」
視線が消えた場所を見ていたことになる

XXVI

「君の羊、持ってるよ。羊用の箱も、持ってる。それに口輪も...」

《J'ai ton mouton. Et j'ai la caisse pour le mouton. Et j'ai la muselière ...》

《「主語」「動詞」「目的語」 | Et「主語」「動詞」「目的語」 | Et「主語」「動詞」「目的語」》

J' ジュ pron 僕は 「主語」

ai エ 1 単現(avoir)v.t 持っている 「動詞」

ton mouton. トン・ムトン n.m 君の羊を 「目的語」

Et エ conj. そして

j' ジュ pron 僕は 「主語」

ai エ 1 単現(avoir)v.t 持っている 「動詞」

la caisse ラ・ケース n.f 箱を 「目的語」

pour le mouton. プール・ル・ムトン adj. 羊用の 「形容詞句」

Et エ conj. そして

j' ジュ pron 僕は 「主語」

ai エ 1 単現(avoir)v.t 持っている 「動詞」

la muselière ...》ラ・ミュズリェール n.f 口輪を 「目的語」

そう言って、彼は憂鬱そうに、微笑んだ。

Et il sourit avec mélancolie. Et「主語」「動詞」「副詞句」

Et エ conj. そして

il イル pron 彼は 「主語」

sourit スリ 3 単過(sourir)v.i 微笑んだ 「動詞」

avec mélancolie. アヴェッキ・メロンコリー adv. 憂鬱そうに、わびしい気持ちで 「副詞句」

ぼくは、長いこと待っていた。彼が少しずつ元気を回復してくるのが感じられた：

J'attendis longtemps. Je sentais qu'il se réchauffait peu à peu：

「主語」「動詞」「副詞」 | 「主語」「動詞」「目的語」：

J' ジュ pron 僕は 「主語」

attendis アトンディ 1 単過(attendre)v.i 待った 「動詞」

longtemps. ロントン adv. 長い間 「副詞」

Je ジュ pron 僕は 「主語」

sentais ソンテ 1 単半(sentir)v.t 感じた 「動詞」

qu' ク conj. ～ということを 「目的語」

il イル pron 彼が 「主語」

se réchauffait ス・レショフェ 3 単半(se réchauffer)

v.pr（時制の一致）元気になってきている、身体が暖まってきている「動詞句」

XXVI

peu à peu：ﾌﾟ･ｱ･ﾌﾟ adv. 少しずつ 「副詞句」

「坊や、こわかったんだろう...」

《Petit bonhomme, tu as eu peur ...》 《「呼びかけ」「主語」「動詞句」「目的語」》

Petit bonhomme, ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ adv. 坊や 「呼びかけ」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

as eu ｱ･ｽﾞｨ 2 単現･完了形(avoir)v.t あった 「動詞句」

peur ...》ﾍﾟｰﾙ n.f 恐怖 「目的語」

もちろん、彼はこわかった！けれども、静かに笑った。

Il avait eu peur, bien sûr! Mais il rit doucement：

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」 | Mais「主語」「動詞」「副詞」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

avait eu ｱｳﾞｪ･ﾃｨ 3 単半･完了形(avoit)v.t あった 「動詞句」

peur, ﾍﾟｰﾙ n.f 恐怖 「目的語」

bien sûr! ﾋﾞﾔﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「副詞句」

Mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

rit ﾘ 3 単過(rire)v.i 笑った 「動詞」

doucement：ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. 静かに 「副詞」

「今夜は、もっともっとこわいだろうな...」

《J'aurai bien plus peur ce soir ...》 《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

aurai ｵｰﾚ 1 単未(avoir)v.t あるだろう 「動詞」

bien plus peur ﾋﾞﾔﾝ･ﾌﾟﾘｭ･ﾍﾟｰﾙ n.f もっと恐怖が 「目的語」

ce soir ...》ｽ･ｽｨｰﾙ adv. 今晩は、今夜は 「副詞句」

もう取り返しがつかないという気持ちから、ぼくはあらためて寒気を覚えた。

De nouveau je me sentis glacé par le sentiment de l'irréparable.

「副詞句」「主語」「動詞句」「補語」「副詞句」

De nouveau ﾄﾞｩ･ﾇｳﾞｫ adv. 再び、もう一度 「副詞句」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

me sentis ﾑ･ｿﾝﾃｨ 1 単過(se sentir)v.pr 自分を～だと感じた 「動詞句」

glacé ｸﾞﾗｰｽ n.f 氷 「補語」

→ 寒気を感じた

XXVI

par le sentiment ﾊﾟｰﾙ･ﾙ･ｿﾝﾃｨﾓﾝ adv.（動機）感情から 「副詞句」
de l'irréparable. ﾄﾞｩ･ﾘﾚﾊﾟﾗﾌﾞﾙ adj.（同格）取り返しがつかないという「形容詞句」

そして、王子様のあの笑い声をもう二度と聞けなくなると思うこと自体が耐えられない、とわかった。

Et je compris que je ne supportais pas l'idée de ne plus jamais entendre ce rire.

Et「主語」「動詞」「目的語」

Et ｴ conj. そして
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
compris ｺﾝﾌﾟﾘ 1 単過(comprendre)v.t 分かった、理解した 「動詞」
que ｸ conj. 〜ということを 「目的語」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne supportais pas ﾇ･ｼｭﾎﾟﾙﾃ･ﾊﾟ 1 単半･否定(supporter)
v.t 耐えられない 「動詞句」
l'idée ﾘﾃﾞ n.f 考えを 「目的語」
de +不定詞 ﾄﾞｩ adj.（同格）〜するという 「形容詞句」
ne plus jamais entendre ﾇ･ﾌﾟﾘｭ･ｼﾞｬﾒ･ｵﾝﾄﾝﾄﾞﾙ 不定詞･否定
v.t もう二度と聞けない 「動詞句」
ce rire. ｽ･ﾘｰﾙ n.m この笑い声を 「目的語」

王子様のあの笑い声は、ぼくにとっては、砂漠の中の泉のようなものだった。

C'était pour moi comme une fontaine dans le désert.

「主語」「動詞」「副詞句」「補語」

C' ｽ pron 王子様の笑い声は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i 〜だった 「動詞」
pour moi ﾌﾟｰﾙ･ﾑわ adv. 僕にとっては 「副詞句」
comme ｺﾑ pron 〜のようなもの 「補語」
une fontaine dans le désert. ﾕﾝﾇ･ﾌｫﾝﾃｰﾇ･ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ
n.f 砂漠の中の泉 「目的語」

「ぼうや、ぼくはきみの笑い声をもっと聞きたいよ...」

《Petit bonhomme, je veux encore t'entendre rire ...》

《「呼びかけ」「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「補語」》

Petit bonhomme, ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ adv. 坊や 「呼びかけ」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
veux encore t'entendre ｳﾞ･ｵﾝｺｰﾙ･ﾄﾝﾄﾝﾄﾞﾙ 1 単現･願望(vouloir+不定詞+te+encore)

XXVI

v.t もっと君が～するのを聞きたい 「動詞句」
te は「目的語」（知覚動詞+人+不定詞：人が～するのを聞く、見る）
rire ...》ﾘｰﾙ 不定詞 v.i 笑う 「補語」

けれども、彼はぼくにこう言った。
Mais il me dit： Mais「主語」「間接目的語」「動詞」：
Mais ﾒ conj. しかし
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
dit：ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

「今夜で、一年になる。僕の星は、去年ぼくが降り立った場所の、ちょうど真上にくるだろう...」
《Cette nuit, ça fera un an. Mon étoile se trouvra juste audessus de l'endroit où je suis tombé l'année derniére ... 《「副詞句」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」》
Cette nuit, ｾｯﾄ･ﾆｭｲ n.f 今夜 「副詞句」
ça ｻ pron 非人称主語
fera ﾌﾗ 3 単未(faire)v.h ～になる 「動詞」
un an. ｱ･ﾅﾝ n.m 1 年 「補語」
Mon étoile ﾓﾝ･ｴﾄｫｰﾙ n.m 僕の星は 「主語」
se trouvra ｽ･ﾄﾙｳﾞﾗ 3 単未(se trouver)v.pr あるだろう 「動詞句」
juste audessus ｼﾞｭｽﾄ･ｵﾄﾞｩｼｭ adv. 真上に 「副詞句」
de l'endroit ﾄﾞｩ･ﾛﾝﾄﾞﾛｫ adj. 場所の 「形容詞句」
où ｳ adv. ～する 「形容詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
suis tombé ｼｭｲ･ﾄﾝﾍﾞ 1 単現･完了形(tomber)v.i 落ちた 「動詞句」
l'année derniére ...ﾗﾈ･ﾃﾞﾙﾆｪｰﾙ adv. 1 年前に 「副詞句」

「坊や、蛇とか待ち合わせの場所とか星とかのあの話は、悪い夢なのじゃないのかね...」
---- Petit bonhomme, n'est-ce pas que c'est un mauvais rêve cette histoire de serpent et de rendez-vous et d'étoile ...》 《「呼びかけ」,「動詞句」「補語」》
Petit bonhomme, ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ n.m 坊や 「呼びかけ」
n'est-ce pas ﾈ･ｽ･ﾊﾟ 3 単現･否定・疑問文(être)v.i ～ではないのかい？ 「動詞句」
que ｸ conj. ～ということ 「補語」
c' ｽ pron 仮の主語（真の主語は cette histoire 以降）
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

XXVI

un mauvais rêve ｱﾝ･ﾓｳﾞｪ･ﾚｰｳﾞ n.m 悪い夢 「補語」
cette histoire ｾｯﾄ･ｲｽﾄﾜｰﾙ n.f この話は 「主語」
de serpent ﾄﾞｩ･ｾﾙﾎﾟﾝ adj. ヘビの 「形容詞句」
et ｴ conj. そして
de rendez-vous ﾄﾞｩ･ﾛﾝﾃﾞ･ｳﾞ adj. 待ち合わせ場所の 「形容詞句」
et ｴ conj. そして
d'étoile ...》ﾃﾞ･ﾄﾜｰﾙ adj. 星の 「形容詞句」

しかし、彼はぼくの質問には答えず、こう言った。
Mais il ne répondit pas à ma question. Il me dit：
Mais「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「主語」「間接目的語」「動詞」:
Mais ﾒ conj. しかし
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
ne répondit pas ﾇ･ﾚﾎﾟﾝﾃﾞｨ･ﾊﾟ 3 単過･否定(répondre)v.i 答えなかった 「動詞句」
à ma question. ｱ･ﾏ･ｹｽﾁｮﾝ adv. 僕の質問に 「間接目的語」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
dit：ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

「大切なこと、それは眼に見えないんだよ...」
《Ce qui est important, ça ne se voit pas ... 《「主語」「動詞句」》
Ce ｽ pron ものは 「主語」
qui ｷ pron（主語）～する 「形容詞節」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
important, ｱﾝﾎﾟﾙﾄﾝ adj. 重要な、大切な 「補語」
ça ｻ pron それは 「主語」
ne se voit pas ... ﾇ･ｽ･ｳﾞｫ･ﾊﾟ 3 単現･否定(se voir)v.pr 見えない 「動詞句」

「もちろんさ」
---- Bien sûr ... 《「応答」》
Bien sûr ... ﾋﾞﾔﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「応答」

XXVI

「それは、あの花についてと同じみたいだね。星にある花が好きになったら、夜、空を眺めることが楽しくなる。あらゆる星が、花盛りになる」

---- C'est comme pour la fleur. Si tu aimes une fleur qui se trouve dans une étoile, c'est doux, la nuit, de regarder le ciel. Toutes les étoiles sont fleuries.

「主語」「動詞」「補語」 | 「副詞節」,「動詞」「補語」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」

C' ｽ pron それは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

comme ｺﾑ conj. ～と同様の 「補語」

pour la fleur. ﾌﾟｰﾙ･ﾗ･ﾌﾚｰﾙ adv. あの花に対して 「副詞句」

Si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

tu ﾁｭ pron 君が 「主語」

aimes ｴﾑ 2 単現(aimer)v.t 好きになる 「動詞」

une fleur ﾕﾝﾇ･ﾌﾚｰﾙ n.f ある花を 「目的語」

qui ｷ pron（主語）～する 「形容詞節」

se trouve ｽ･ﾄﾙｰｳﾞ 3 単現(se trouver)v.pr ある 「動詞句」

dans une étoile, ﾄﾞﾝ･ｼﾞｭﾝﾝｳ･ｴﾄﾜｰﾙ adv. 星に 「副詞句」

c' ｽ pron 仮の主語（真の主語は la nuit 以降）

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である、～になる 「動詞」

doux, ﾄﾞｩ adj. 楽しい 「補語」

la nuit, ﾗ･ﾆｭｲ n.f 夜に 「副詞句」

de regarder ﾄﾞｩ･ﾙｷﾞｬﾙﾃﾞ 不定詞 v.t 眺めることが 「主語」

le ciel. ﾙ･ｼｴﾙ n.m 空を 「目的語」

Toutes les étoiles ﾄｩｯﾄ･ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f あらゆる星が 「主語」

sont ｿﾝ 3 単現(être)v.i ～である、～になる 「動詞」

fleuries. ﾌﾙﾘｰ adj.pl.f 花が咲いている、花ざかりの 「補語」

「もちろんさ」

---- Bien sûr ... 《「応答」》

Bien sûr ... ﾋﾞｬﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「応答」

XXVI

「それは、水についてと同じみたいだね。ぼくが飲ませてもらったあの水は、滑車の綱のおかげで音楽のようなものだった。. . . ほら、覚えているね. . . あの水は美味しかった」

---- C'est comme pour l'eau. Celle que tu m'as donnée à boire était comme une musique, à cause de la poulie et de la corde ... tu te rappelles ... elle était bonne.

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」「副詞句」
「主語」「動詞句」, 「主語」「動詞」「補語」》

C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
comme ｺﾑ conj. ～と同様の 「補語」
pour l'eau. ﾌﾟｰﾙ･ﾛｰ adv. 水に対して 「副詞句」
Celle ｾﾙ pron それ（水）は 「主語」
que ｸ pron（目的語）～する 「形容詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
m' ﾑ pron 僕に 「間接目的語」
as donnée à boire ｱ･ﾄﾞﾈ･ｱ･ﾎﾞｫｰﾙ 2 単現･完了形･使役.f(donner à+不定詞)
v.t 飲ませた 「動詞句」
目的語の Celle が女性形なので過去分詞が donnée になっている
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
comme une musique, ｺﾑ･ﾕﾝﾇ･ﾐｼﾞｯｷ adv. 音楽のような 「補語」
à cause ｱ･ｺｰｽﾞ adv.(de の) おかげで、せいで 「副詞句」
de la poulie ﾄﾞｩ･ﾗ･ﾌﾟﾘｰ adv. 滑車の 「目的語」
et ｴ conj. そして
de la corde ... ﾄﾞｩ･ﾗ･ｺﾙﾄﾞｩ adv. 綱の 「目的語」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
te rappelles ... ﾄｩ･ﾗﾍﾟﾙ 2 単現･確認(se rappeler)v.pr 覚えているだろう 「動詞句」
elle ｴﾙ pron あの水は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
bonne. ﾎﾞﾝﾇ adj. 美味しい 「補語」

「もちろんさ. . .」

---- Bien sûr ... 《「応答」》

Bien sûr ... ﾋﾞﾔﾝ･ｼｭｰﾙ adv. もちろん 「応答」

XXVI

「夜になったら、星を眺めてよ。ぼくのところは小さすぎて、どこに僕の星があるか教えられない。

---- Tu regarderas, la nuit, les étoiles. C'est trop petit chez moi pour que je te montre où se trouve la mienne.

《「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」 | 「動詞」「補語」「主語」「副詞節」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
regarderas, ﾙｷﾞｬﾙﾄﾞﾗ 2 単未･依頼(regarder)v.t 眺めてちょうだい 「動詞」
la nuit, ﾗ･ﾆｭｲ n.f 夜には 「副詞句」
les étoiles. ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f 星を 「目的語」
C' ｽ pron 仮の主語（真の主語は chez moi）
est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」
trop petit ﾄﾛ･ﾌﾟﾃｨ adj. 小さすぎる 「補語」
chez moi ｼｪ･ﾑｫ n.m 僕の所は 「主語」
pour que ﾌﾟｰﾙ･ｸ conj. ～するためには 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
te ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」
montre ﾓﾝﾄﾙ 1 単現(montrer)v.t 教える 「動詞」
où ｳ conj. どこに～するかということを 「直接目的語」
se trouve ｽ･ﾄﾙｰｳﾞ 3 単現(se trouver)v.pr ある 「動詞句」
la mienne. ﾗ･ﾐｴﾝﾇ n.f 僕の星が 「主語」
trop ... pour que+接続法 「. . . でありすぎて～できない、～するには. . . すぎる」

けれどもその方がいいんだ。僕の星が、星々のうちの一つとなるだろうからね。

C'est mieux comme ça. Mon étoile, ça sera pour toi une des étoiles.

《「動詞」「補語」「主語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」》

C' ｽ pron 仮の主語（真の主語は comme ça）
est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」
mieux ﾐｭｰ adj. より良い 「補語」
comme ça. ｺﾑ･ｻ pron そのようなのが（教えられない事） 「主語」
Mon étoile, ﾓﾝ･ｴﾄｫｰﾙ n.f 僕の星は 「主語」
étoile は母音で始まるので、ma の代わりに mon が使用される
ça ｻ pron それは（僕の星は） 「主語」
sera ｽｰﾗ 3 単未（être）v.i ～になるだろう 「動詞」
pour toi ﾌﾟｰﾙ･ﾄｩﾜ adv. 君にとっては 「副詞句」
une des étoiles. ﾕﾝﾇ･ﾃﾞ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pron 沢山の星の内の一つ 「補語」

XXVI

すると、あらゆる星を眺めるのが好きになるだろう... 星がみんな君の友達になるだろう。

Alors, toutes les étoiles, tu aimeras les regarder ... Elles seront toutes tes amies.

《「副詞」「目的語」「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Alors, ｱﾛｰ adv. そうすると 「副詞」

toutes les étoiles, ﾄｳｯﾄ･ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f あらゆる星を 「目的語」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

aimeras ...regarder ... ｴﾑﾗ...ﾙｷﾞｬﾙﾃﾞ 2 単未･愛好(aimer+不定詞)

v.i ～を眺めるのが好きになるだろう 「動詞句」

les ﾚ pron それらを 「目的語」

Elles ｴﾙ pron.pl それらが 「主語」

seront ｽﾛﾝ 3 複未（être）v.i ～になるだろう 「動詞」

toutes tes amies. ﾄｳｯﾄ･ﾃ･ｻﾞﾐ pl.n.f みんな君の友達 「補語」

それから、プレゼントを一つ、あげよう...」

Et puis je vais te faire un cadeau ... 》

《「副詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」》

Et puis ｴ･ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞句」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

vais ...faire ｳﾞｪ...ﾌｪｰﾙ 1 単現･意思(aller+不定詞)v.t ～をするつもりだ 「動詞句」

te ﾄｳ pron 君に 「間接目的語」

un cadeau ... 》ｱﾝ･ｷｬﾄﾞ n.m プレゼントを 「直接目的語」

かれはまた笑った。

Il rit encore. 「主語」「動詞」「副詞」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

rit ﾘ 3 単過(rire)v.i 笑った 「動詞」

encore. ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

「ああ、坊や、坊や、ぼくはその笑い声を聞くのが好きなんだよ！」

《Ah! petit bonhomme, petit bonhomme, j'aime entendre ce rire!

《「呼びかけ」「主語」「動詞句」「目的語」》

Ah! petit bonhomme, petit bonhomme, ｱ･ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ･ﾌﾟﾃｨ･ﾎﾞﾉﾑ

int. ああ、坊や、坊や 「呼びかけ」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

aime entendre ｴﾑ･ｵﾝﾄﾝﾄﾞﾙ 1 単現･愛好(aimer+不定詞)

v.i ～を聞くのが好きだ 「動詞句」

XXVI

ce rire! ｽ･ﾘｰﾙ n.m その笑い声を 「目的語」

「まさに、これがぼくのプレゼントなんだ... あの水みたいになるだろう...」

---- Justement ce sera mon cadeau ... ce sera comme pour l'eau ...

《「主語」「動詞」「補語」 ┃ 「主語」「動詞」「補語」》

Justement ce ｼﾞｭｽﾄｩﾓﾝ･ｽ pron まさにこれが 「主語」

sera ｽﾗ 3 単未（être）v.i ～になるだろう 「動詞」

mon cadeau ... ﾓﾝ･ｷｬﾄﾞ n.m 僕のプレゼント 「補語」

ce ｽ pron それは 「主語」

sera ｽﾗ 3 単未（être）v.i ～になるだろう 「動詞」

comme pour l'eau ... ｺﾑ･ﾌﾟｰﾙ･ﾛｰ adv. あの水に対するような 「補語」

「それ、どういう意味？」

---- Que veux-tu dire? 《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》

Que ｸ pron 何を 「目的語」

veux ...dire? ｳﾞ...ﾃﾞｨｰﾙ 2 単未･願望(vouloir+不定詞)v.t ～を言いたい 「動詞句」

tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

「何を言いたいの？」→ 「どういう意味なの？」

「人々はさまざまな星をもっているんだよ。ある旅行者にとっては、星はガイドだ。

---- Les gens ont des étoiles qui ne sont pas les mêmes. Pour les uns, qui voyagent, les étoiles sont des guides.

《「主語」「動詞」「目的語」 ┃ 「副詞句」,「主語」「動詞」「補語」》

Les gens ﾚ･ｼﾞｮﾝ pl.n.m 人々は 「主語」

ont ｵﾝ 3 複現(avoir)v.t ある、持っている 「動詞」

des étoiles ﾃﾞ･ｾﾞﾄｫﾜｰﾙ pl.n.f 星を 「目的語」

qui ｷ pron（主語）～する 「形容詞節」

ne sont pas ﾇ･ｿﾝ･ﾊﾟ 3 複現･否定（être）v.i ～でない 「動詞句」

les mêmes. ﾚ･ﾒｰﾑ pron.pl 同じ星 「補語」

Pour les uns, ﾌﾟｰﾙ･ﾚ･ｻﾞﾝ adv. ある人達にとって 「副詞句」

qui ｷ pron（主語）～する 「形容詞節」

voyagent, ｳﾞｫﾔｰｼﾞｭ 3 複現(voyager)v.i 旅行する 「動詞」

les étoiles ﾚ･ｾﾞﾄｫﾜｰﾙ pl.n.f 星は 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現（être）v.i ～である 「動詞」

des guides. ﾃﾞ･ｷﾞｯﾄﾞ pl.n.m ガイド 「補語」

XXVI

ほかの人たちにとっては、小さな光に過ぎない。

Pour d'autres elles ne sont rien que de petites lumières.

《「副詞句」「主語」「動詞句」「補語」》

Pour d'autres ﾌﾟｰﾙ･ﾄﾞｰﾄﾙ adv. 他の人々にとっては 「副詞句」

elles ｴﾙ pron.pl 星は 「主語」

ne sont ﾇ･ｿﾝ 3 複現･否定(être)v.i (ne ... que) ～でしかない 「動詞句」

rien que de petites lumières. ﾘｬﾝ･ｸ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾃｨｯﾄ･ﾘｭﾐｪｰﾙ

pron 小さな光でしか 「補語」

また別の学者たちにとっては、星は難問だ」

Pour d'autres, qui sont savants, elles sont des problèmes.

《「副詞句」,「主語」「動詞」「補語」》

Pour d'autres, ﾌﾟｰﾙ･ﾄﾞｰﾄﾙ adv. 他の人々にとっては 「副詞句」

qui ｷ pron（主語）～する 「形容詞節」

sont ｿﾝ 3 複現(être)v.i ～である 「動詞」

savants, ｻｳﾞｫﾝ pl.n 学者 「補語」

elles ｴﾙ pron.pl 星は 「主語」

sont ｿﾝ 3 複現（être）v.i ～である 「動詞」

des problèmes. ﾃﾞ･ﾌﾟﾛﾌﾞﾚｰﾑ pl.n.m 難題 「補語」

「あの事業家にとっては、黄金だった。けれども、どの星も、みんな口をきかないんだ。

Pour mon businessman elles étaient de l'or. Mais toutes ces étoiles-là se taisent.

《「副詞句」「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」》

Pour mon businessman ﾌﾟｰﾙ･ﾓﾝ･ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾝ adv. あの事業家にとっては 「副詞句」

elles ｴﾙ pron.pl 星は 「主語」

étaient ｴﾃ 3 複半(être)v.i ～だった 「動詞」

de l'or. ﾄﾞｩ･ﾛｰﾙ n.m 財産、財宝 「補語」

Mais ﾒ conj. だけど

toutes ces étoiles-là ﾄｩｯﾄ･ｾ･ｾﾞﾄｧｰﾙ pl.n.f どの星も 「主語」

se taisent. ｽ･ﾃｰｽﾞ 3 複現(se taire)v.pr 黙り込んでいる 「動詞句」

けれど、きみ、きみは誰も持たないような星を持つことになるんだ...」

Toi, tu auras des étoiles comme personne n'en a ... 《「主語」「動詞」「目的語」》

Toi, tu ﾄｩｧ･ﾁｭ pron 君は 「主語」

auras ｵﾗ 2 単未(avoir)v.t 持つだろう、持つことになる 「動詞」

XXVI

des étoiles ﾃﾞ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f 星を 「目的語」
comme ｺﾑ conj. 〜のような 「形容詞節」
personne ﾍﾟﾙｿﾝﾇ pron 誰も〜ない 「主語」
n'en a ... ﾉﾝ･ﾅ 3 単現･否定(avoir)v.t 持たない 「動詞句」
en は des étoiles を指す

「それ、どういう意味？」
---- Que veux-tu dire? 《「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》
Que ｸ pron 何を 「目的語」
veux ...dire? ｳﾞ...ﾃﾞｨｰﾙ 2 単未･願望(vouloir+不定詞)v.t 〜を言いたい 「動詞句」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
「何を言いたいの？」→ 「どういう意味なの？」

「ぼくは無数の星のうちの一つに住むことになり、無数の星のうちの一つで笑い続けているから、君が夜に空を見上げると、
---- Quand tu regarderas le ciel, la nuit, puisque j'habiterai dans l'une d'elles, puisque je rirai dans l'une d'elles, 「副詞節」,
Quand ｺﾝ conj. 〜する時 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
regarderas ﾙｷﾞｬﾙﾄﾞﾗ 2 単未(regarder)v.t 眺める 「動詞」
le ciel, ﾙ･ｼｴﾙ n.m 空を 「目的語」
la nuit, ﾗ･ﾆｭｲ n.f 夜に 「副詞句」
puisque ﾋﾟｭｲｽｷ conj. 〜なので 「副詞節」
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
habiterai ｱﾋﾞﾄｩﾚ 1 単未(habiter)v.i 住むことになる 「動詞」
dans l'une d'elles, ﾄﾞﾝ･ﾘｭﾝﾇ･ﾃﾞﾙ adv. 星の一つに 「副詞句」
puisque ﾋﾟｭｲｽｷ conj. 〜するならば 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」
rirai ﾘﾚ 1 単未(rire)v.i 笑う 「動詞」
dans l'une d'elles, ﾄﾞﾝ･ﾘｭﾝﾇ･ﾃﾞﾙ adv. 星の一つで 「副詞句」

だから、さながらあらゆる星が笑ってるみたいだろう。
alors ce sera pour toi comme si riaient toutes les étoiles.
「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」「補語」
alors ｱﾛｰ adv. その時は、そうしたら 「副詞」
ce ｽ pron それは 「主語」

XXVI

sera ｽﾗ 3 単未(être)v.i ～になるだろう 「動詞」
pour toi ﾌﾟｰﾙ･ﾄｫﾜ adv. 君にとって 「副詞句」
comme si ｺﾑ･ｼ conj. あたかも～のような 「補語」
riaient ｼ･ﾘｴ 3 複半(rire)v.i 笑った 「動詞」
toutes les étoiles. ﾄｳｯﾄ･ﾚ･ｾﾞﾄｫﾜｰﾙ pl.n.f あらゆる星が 「主語」

君は、笑うことのできる星を持つことになるんだ！」
Tu auras, toi, des étoiles qui savent rire!》 「主語」「動詞」「主語」「目的語」
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
auras, ｵｰﾗ 2 単未(avoir)v.t 持つことになるだろう 「動詞」
toi, ﾄｫﾜ pron 君は 「主語」
des étoiles ﾃﾞ･ｾﾞﾄｫﾜｰﾙ pl.n.f 星を 「目的語」
qui ｷ pron（主語）～する 「形容詞節」
savent rire!》 ｻｰｳﾞ･ﾘｰﾙ 3 複現･可能(savoir+不定詞)
v.i 笑うことが出来る 「動詞句」

そう言って、王子様はまた笑った。
Et Il rit encore. Et「主語」「動詞」「副詞」
Et ｴ conj. そして
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
rit ﾘ 3 単過(rire)v.i 笑った 「動詞」
encore. ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

「悲しみがやがて和らぐとき（和らがないなんてことはないよ)、ぼくと知り合ったことを嬉しく思うよ。
《Et quand tu seras consolé (on se console toujours) tu seras content de m'avoir connu.
《Et「副詞節」(「主語」「動詞句」「副詞」）,「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》
Et ｴ conj. そして
quand ｺﾝ conj. ～する時 「副詞節」
tu ﾁｭ pron 君が 「主語」
seras consolé ｽﾗ･ｺﾝｿﾚ 2 単未･受動(consoler)v.t やがて慰められる 「動詞句」
(on ｵﾝ pron 人は 「主語」
se console ｽ･ｺﾝｿｰﾙ 3 単現(se consoler)v.pr 慰められる「動詞句」
toujours) ﾄｳｼﾞｭｰﾙ adv. 必ず 「副詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
seras ｽﾗ 2 単未(être)v.i ～になるだろう 「動詞」

XXVI

content ｺﾝﾄﾝ adj. 嬉しい 「補語」
de +不定詞･完了形 ﾄﾞｩ adv.（原因）～したことを 「副詞句」
m’ﾑ pron 僕と 「目的語」
avoir connu. ｱｳﾞｨｰﾙ･ｺﾆｭ 不定詞･完了形(connaître)v.t 知り合った 「動詞句」

きみはいつでも僕の友達なんだ。きみはぼくといっしょに笑いたくなるよ」

Tu seras toujours mon ami. Tu auras envie de rire avec moi.

《「主語」「動詞」「副詞」「補語」 ┃ 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
seras ｽﾗ 2 単未(être)v.i（話者の願望）～である 「動詞」
toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. いつまでも 「副詞」
mon ami. ﾓ･ﾅﾐ n.m 僕の友達 「補語」
Tu ﾁｭ ｵﾗ pron 君は 「主語」
auras ｵﾗ 2 単未･推量(avoir envie de+不定詞)v.t ～したくなるだろう 「動詞」
envie de rire ｵﾝｳﾞｨｰ･ﾄﾞｩ･ﾘｰﾙ n.f 笑う欲望を 「目的語」
→ 笑いたくなるだろう
avec moi. ｱｳﾞｪｯｷ･ﾑｨ adv. 僕と一緒に 「副詞句」

「そして、ときにはこんなふうに気晴らしに窓を開けてよ...

Et tu ouvriras parfois ta fenêtre, comme ça, pour le plaisir ...

《Et「主語」「動詞」「副詞」「目的語」「副詞句」》

Et ｴ conj. そして
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
ouvriras ｳｳﾞﾘｰﾗ 2 単未･命令(ouvrire)v.t 開けてちょうだい 「動詞」
parfois ﾊﾟﾙﾌｨ adv. ときには 「副詞」
ta fenêtre, ﾀ･ﾌﾈｰﾄﾙ n.f 窓を 「目的語」
comme ça, ｺﾑ･ｻ adv. こんな風に 「副詞句」
pour le plaisir ... ﾌﾟｰﾙ･ﾙ･ﾌﾟﾚｼﾞｰﾙ adv. 気晴らしに 「副詞句」

すると君の友人たちは、きみが空を眺めて笑うのを見て、とてもびっくりするだろう。

Et tes amis seront bien étonnés de te voir rire en regardant le ciel.

《Et「主語」「動詞」「補語」「副詞句」》

Et ｴ conj. すると
tes amis ﾃ･ｻﾞﾐ pl.n 君の友達は 「主語」
seront ｽﾛﾝ 3 複未(être)v.i ～になるだろう 「動詞」
bien étonnés ﾋﾞｬﾝ･ｴﾄﾈ adj.pl. とても驚いた 「補語」

XXVI

de +不定詞 ﾄﾞｩ adv.（原因）～して 「副詞句」
te ﾄｩ pron（不定詞 rire と en regardant の主語）君が 「目的語」
voir ｳﾞｫｰﾙ 不定詞 v.t 見る 「動詞」
rire ﾘｰﾙ 不定詞 v.i （君が）笑う 「補語」
en regardant ｵﾝ･ﾙｷﾞｬﾙﾄﾞﾝ ジェロンディフ(regarder)
v.t（君が）眺めながら 「副詞句」
le ciel. ﾙ･ｼｴﾙ ﾙ･ｼｴﾙ n.m 空を 「目的語」
ジェロンディフの主語は文の主語ではなく関係する動詞の主語と一致する。ここではジェロンディフの関係する動詞 rire の主語が君 te である。

そのときには、《そうなんだ、星を見るといつも笑いたくなるんだよ！》と言うのさ。
Alors tu leur diras：“Oui, les étoiles, ça me fait toujours rire!”
《「副詞」「主語」「間接目的語」「動詞」：
“「応答」「主語」「目的語」「動詞」「副詞」「補語」”》
Alors ｱﾛｰ adv. そうしたら 「副詞」
tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」
diras：ﾃﾞｨﾗ 2 単未･推量(dire)v.t 言うだろう 「動詞」
Oui, ｳｨｰ adv. そうだよ 「応答」
les étoiles, ça ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ･ｻ pl.n.f 星は 「主語」
me ﾑ pron 僕を 「目的語」
fait ﾌｪ 3 単現･使役(faire)v.t ～させる 「動詞」
toujours ﾄｩｼﾞｭｰﾙ adv. いつも 「副詞」
rire!” ﾘｰﾙ 不定詞 v.i 笑う 「補語」

すると、友人たちはきみがおかしくなったと思うだろう。ぼくはきみに、ひどい悪戯をしたことになるだろうね...」
Et ils te croiront fou. Je t’aurai joué un bien vilain tour ...》
《Et「主語」「目的語」「動詞」「補語」 | 「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」》
Et ｴ conj. そして
ils ｲﾙ pron 彼らは 「主語」
te ﾄｩ pron 君を 「目的語」
croiront ｸﾙｫﾛﾝ 3 複未･推量(croire)v.t 思う 「動詞」
fou. ﾌ adj. 気の狂った 「補語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
t’ ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」

XXVI

aurai joué ｵｰﾚ･ｼﾞｭｴ 1 単未･完了形(jouer)v.t ～をしたことになるだろう 「動詞句」
un bien vilain tour ...》ｱﾝ･ﾋﾞﾔﾝ･ｳﾞｨﾗﾝ･ﾄｩｰﾙ n.m とても悪い成り行きを 「直接目的語」

そう言って、彼はまた笑った。
Et il rit encore. Et「主語」「動詞」「副詞」
Et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
rit ﾘ 3 単過(rire)v.i 笑った 「動詞」
encore. ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

「そうすると、ぼくは、星の代わりに、笑うことのできる小さな鈴をたくさんあげたようなものだね...」
《Ce sera comme si je t'avais donné, au lieu d'étoiles, des tas de petits grelots qui savent rire ...》 《「主語」「動詞」「補語」》
Ce ｽ pron これは 「主語」
sera ｽﾗ 3 単未･推量(être)v.i ～だろう 「動詞」
comme si ｺﾑ･ｼ conj. あたかも～であるかのような 「補語：副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
t' ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」
avais donné, ｱｳﾞｪ･ﾄﾞﾈ 1 単半･完了形(donner)v.t あげた 「動詞句」
au lieu d'étoiles, ｵ･ﾘｭ･ﾃﾞﾄｫｰﾙ adv. 星の代わりに 「副詞句」
au lieu de ... ～の代わりに
des tas de petits grelots ﾃﾞ･ﾀ･ﾄﾞｩ･ﾌﾟﾃｨ･ｸﾞﾙﾛ
pl.n.m 沢山の小さい鈴を 「直接目的語」
des tas de ... 沢山の～を
qui ｷ pron ～する 「形容詞節」
savent rire ...》ｻｰｳﾞ･ﾘｰﾙ 3 複現･可能(savoir+不定詞)
v.i 笑うことが出来る 「動詞句」

そう言って、彼はなおも笑った。それから、真顔に戻って、こう言った。
Et il rit encore. Puis il redevint sérieux. :
Et「主語」「動詞」「副詞」 | 「副詞」「主語」「動詞」「補語」
Et ｴ conj. そして
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
rit ﾘ 3 単過(rire)v.i 笑った 「動詞」
encore. ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

XXVI

Puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
redevint ﾙﾄﾞｳｳﾞｧﾝ 3 単過(redevenir)v.i また～になった 「動詞」
sérieux.：ｾﾘｭｰ adj. 真面目な、真剣な 「補語」

「今夜は... ね... 来ないでね...」
《Cette nuit ... tu sais ... ne viens pas. 《「副詞句」「確認」「動詞句」》
Cette nuit ... ｾｯﾄ･ﾆｭｲ n.f 今夜は 「副詞句」
tu sais ... ﾁｭ･ｾ adv.（相手に念を押す）ね、ほら 「確認」
ne viens pas. ﾇ･ｳﾞｨｬﾝ･ﾊﾟ 命・2 単現･否定(venir)v.i 来ないで！ 「動詞句」

「ぼくはきみから離れないよ」
---- Je ne te quitterai pas. 《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne ...quitterai pas. ﾇ...ｷﾄﾚ･ﾊﾟ 1 単未･意思(quitter)v.t 離れない 「動詞句」
te ﾄｩ pron 君から 「間接目的語」

「僕、病人みたいになるよ... ちょっと死んでいくみたいになるよ。こんなふうにね。見に来ないでね。それには及ばないよ...」
---- J'aurai l'air d'avoir mal ... J'aurai un peu l'air de mourir. C'est comme ça. Ne viens pas voir ça, ce n'est pas la peine ...
《「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」
「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「目的語」 | 「応答」》
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
aurai ｵｰﾚ 1 単未･推量･心身の状態(avoir)v.t なるだろう 「動詞」
l'air ﾚｰﾙ n.m 様子 「目的語」
d'avoir mal ... ﾀﾞｳﾞｧｰﾙ･ﾏﾙ adj. 病気の 「形容詞句」
J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
aurai ｵｰﾚ 1 単未･推量･心身の状態(avoir)v.t なるだろう 「動詞」
un peu l'air ｱﾝ･ﾌﾟ･ﾚｰﾙ n.m 少し～の様子 「目的語」
de mourir. ﾄﾞｩ･ﾑﾘｰﾙ adj. 死んいるような 「形容詞句」
C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
comme ça. ｺﾑ･ｻ adv. こんな風な 「補語」
Ne viens pas voir ﾇ･ｳﾞｨｬﾝ･ﾊﾟ･ｳﾞｧｰﾙ 命・2 単現･否定(venir+不定詞)
v.i 見に来ないでね 「動詞句」

XXVI

ça, ｻ pron それを 「目的語」
ce n'est pas la peine ... ｽ･ﾈ･ﾊﾟ･ﾗ･ﾍﾟｰﾇ adv. それには及ばないよ 「応答」

「ぼくはきみから離れないよ」
---- Je ne te quitterai pas.》 《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne ...quitterai pas. ﾇ...ｷﾄﾚ･ﾊﾟ 1 単未･意思(quitter)v.t 離れない 「動詞句」
te ﾄｩ pron 君から 「間接目的語」

そう言っても、彼は気がかりだった。
Mais il était soucieux. Mais「主語」「動詞」「補語」
Mais ﾒ conj. しかし
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
était ｴﾃ 3 単半(être)v.i ～だった 「動詞」
soucieux. ｽｼｭｰ adj. 心配そうな 「補語」

「こんなこと言うのは... 蛇が原因でもあるんだ。君が蛇に噛まれてはいけないのでね...
《Je te dis ça ... c'est à cause aussi du serpent. Il ne faut pas qu'il te morde
《「主語」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」
Il ne faut pas qu'「主語」「目的語」「動詞」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
te ﾄｩ pron 君に 「間接目的語」
dis ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」
ça ... ｻ pron そんなことを 「直接目的語」
c' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
à cause aussi du serpent. ｱ･ｺｰｽﾞ･ｵｼ･ｼﾞｭ･ｾﾙﾎﾟﾝ adv. 蛇が原因でもある 「補語」
Il ne faut pas qu'+接続法 ｲﾙ･ﾇ･ﾌｫ･ﾊﾟ･ｸ conj. ～してはならない
il ｲﾙ pron（serpent の代用）蛇が 「主語」
te ﾄｩ pron 君を 「目的語」
morde ... ﾓﾙﾄﾞ 接・3 単現(mordre)v.t 噛みつく 「動詞」

蛇というのは、たちが悪いんだよ。面白半分に噛むこともあるからさ...」
Les serpents, c'est méchant. Ça peut mordre pour le plaisir ...
《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」》
Les serpents, ﾚ･ｾﾙﾎﾟﾝ pl.n.m 蛇 「主語」

XXVI

c’ ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
méchant. ﾒｼｮﾝ adj. 有害な、悪意のある 「補語」
Ça ｻ pron それは 「主語」
peut mordre ﾌﾟ･ﾓﾙﾄﾞﾙ 3 単現･可能性(pouvoir+不定詞)v.t 噛むかもしれない 「動詞句」
pour le plaisir ... ﾌﾟｰﾙ･ﾙ･ﾌﾟﾚｼﾞｰﾙ adv. 気晴らしに 「副詞句」

「ぼくはきみから離れないよ」
---- Je ne te quitterai pas.》 《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne ...quitterai pas. ﾇ...ｷﾄﾚ･ﾊﾟ 1 単未･意思(quitter)v.t 離れない 「動詞句」
te ﾄｩ pron 君から 「間接目的語」

けれども、何かが、彼を安心させた：
Mais quelque chose le rassura： Mais「主語」「目的語」「動詞」：
Mais ﾒ conj. しかし
quelque chose ｹﾙｸ･ｼｮｰｽﾞ n.f 何かが 「主語」
le ﾙ pron 彼を 「目的語」
rassura：ﾗｼｭﾗ 3 単過(rassurer)v.t 安心させた 「動詞」

「そうだ、本当なんだ、二度目に噛みつくとき、蛇にはもう毒がないってことは...」
C’est vrai qu’ils n’ont plus de venin pour la seconde morsure ...》
《「動詞」「補語」「主語」》
C’ ｽ pron 仮の主語（真の主語は qu’節）
est ｴ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」
vrai ｳﾞﾚ adj. 本当の 「補語」
qu’ ｸ conj. ～ということは 「主語」
ils ｲﾙ pron.pl 蛇は 「主語」
n’ont plus ﾉﾝ･ﾌﾟﾘｭ 3 複現･否定(avoir)v.t もう～がない 「動詞句」
de venin ﾄﾞｩ･ｳﾞﾅﾝ n.m 毒が 「目的語」
pour la seconde morsure ...》 ﾌﾟｰﾙ･ﾗ･ｽｺﾞﾝﾄﾞ･ﾓﾙｼｭｰﾙ
adv. 2 回目に噛むときには 「副詞句」

XXVI

その夜、彼が出かけるのを、ぼくは見なかった。彼は、こっそり、抜け出したのだ。

Cette nuit-là je ne le vis pas se mettre en route. Il s'était évadé sans bruit.

「副詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」

Cette nuit-là ｾｯﾄ･ﾆｭｲ･ﾗ n.f その夜 「副詞句」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ne ...vis pas ﾇ...ｳﾞｨ･ﾊﾟ 1 単過･否定(voir)v.t 見なかった 「動詞句」

le ﾙ pron 彼が 「目的語」

se mettre ｽ･ﾒｯﾄﾙ 不定詞 v.pr (en+無冠詞名詞) ～し始める 「補語」

en route. ｵﾝ･ﾙｰﾄ adv. 進路に 「副詞句」

→ se mettre en route 出発する、出かける

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

s'était évadé ｾﾃ･ｴｳﾞｧﾃﾞ 3 単半･完了形(s' évader)v.pr 抜け出した 「動詞句」

sans bruit. ｿﾝ･ﾌﾞﾘｭｲ adv. そっと、音を立てずに 「副詞句」

彼に追いつくことができたとき、彼は肝を決めて、足早に歩いていた。そして、ただこう言った：

Quand je réussis à le joindre il marchait décidé, d'un pas rapide. Il me dit seulement：

「副詞節」,「主語」「動詞」「補語」「副詞句」 | 「主語」「間接目的語」「動詞」「副詞」：

Quand ｺﾝ conj. ～する時 「副詞節」

je ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

réussis à +不定詞 ﾚｳｼ･ｱ 1 単過･達成(réussir à +不定詞)

v.i うまく～出来た 「動詞句」

le ﾙ pron 彼に 「目的語」

joindre ｼﾞｭﾜﾝﾄﾞﾙ 不定詞 v.t に追いつく 「動詞句」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

marchait ﾏﾙｼｪ 3 単半(marcher)v.i 歩いていた 「動詞」

décidé, ﾃﾞｼﾃﾞ adj. 決心して、決然として 「補語」

d'un pas rapide. ﾀﾞﾝ･ﾊﾟ･ﾗﾋﾟｯﾄﾞ adv. 速足に 「副詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

seulement：ｽﾙﾓﾝ adv. ただこのように 「副詞」

XXVI

「ああ！ついてきたの...」

《Ah! tu es là...》 《「間投」 | 「主語」「動詞」「副詞」》

Ah! ア int. ああ 「間投」

tu チュ pron 君は 「主語」

es エ 2 単現（être）v.i いる 「動詞」

là...》ラ adv. そこに 「副詞」

王子様はぼくの手を取った。けれども、また苦しんだ。

Et il me prit par la main. Mais il se tourmenta encore：

Et「主語」「目的語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞」

Et エ conj. そして

il イル pron 彼は 「主語」

me ム pron 僕を 「目的語」

prit プリ 3 単過(prendre)v.t 掴んだ 「動詞」

par la main. パール・ラ・マン adv. 手によって 「副詞句」

Mais メ conj. しかし

il イル pron 彼は 「主語」

se tourmenta ス・トゥルモンタ 3 単過(se tourmonter)v.pr 苦しんだ 「動詞句」

encore：オンコール adv. また 「副詞」

「きみは間違えたね。つらい思いをするよ。ぼくは死んだようになるけど、それは本当じゃないんだよ...」

《Tu as eu tort. Tu auras de la peine. J'aurai l'air d'être mort et ce ne sera pas vrai ...》

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

「主語」「動詞」「目的語」 et「主語」「動詞句」「補語」

Tu チュ pron 君は 「主語」

as eu ア・ジ 2 単現・完了形(avoir)v.t（行為を）した 「動詞句」

tort. トール n.m 間違い 「目的語」

Tu チュ pron 君は 「主語」

auras オラ 2 単未(avoir)v.t（行為を）するだろう 「動詞」

de la peine. ドゥ・ラ・ペーヌ n.f（精神的な）苦しみ 「目的語」

J' ジュ pron 僕は 「主語」

aurai オラ 1 単未(avoir)v.t（心身の状態）～になるだろう 「動詞」

l'air レール n.m 様子 「目的語」

d'être mort デートル・モール adj. 死んでいるような 「形容詞句」

et エ conj. だけど

XXVI

ce ｽ pron それは 「主語」
ne sera pas ﾇ･ｽﾗ･ﾊﾟ 3 単未･否定(être)v.i ～ではない 「動詞句」
vrai ...》ｳﾞﾚ adj. 本当の 「補語」

ぼくは、黙っていた。
Moi je me taisais. 「主語」「動詞句」
Moi je ﾑわ･ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me taisais. ﾑ･ﾃｰｾﾞ 1 単半(se taire)v.pr 黙っていた 「動詞句」

「わかるね。遠すぎるんだ。ぼくはこの体を持ち運ぶことができない。重すぎるんだ」
《Tu comprends. C'est trop loin. Je ne peux pas emporter ce corps-là. C'est trop loud.》
《「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「補語」
「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」》
Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」
comprends. ｺﾝﾌﾟﾛﾝ 2 単現･確認(comprendre)v.t わかるだろう？ 「動詞」
C' ｽ pron 形式主語（距離） 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

XXVI

trop loin. ﾄﾛ･ﾙわﾝ adj. 遠すぎる 「補語」
Je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne peux pas emporter ﾇ･ﾌﾟ･ﾊﾟ･ｵﾝﾎﾟﾙﾃ 1 単現･可能･否定(pouvoir+不定詞)
v.t 運ぶことが出来ない 「動詞句」
ce corps-là. ｽ･ｺｰﾙ･ﾗ n.m この体を 「目的語」
C' ｽ pron 形式主語（重さ） 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
trop loud.》ﾄﾛ･ﾙｰﾙ adj. 重すぎる 「補語」

ぼくは、黙っていた。
Moi je me taisais. 「主語」「動詞句」
Moi je ﾑわ･ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me taisais. ﾑ･ﾃｰｾﾞ 1 単半(se taire)v.pr 黙っていた 「動詞句」

「でも、これは、見捨てられた古い皮のようなものになるんだ。古い皮なんて、悲しくもないよ...」
《Mais ce sera comme une vieille écorce abandonnée. Ce n'est pas triste les vieilles écorces ...》 《Mais「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「補語」「主語」》
Mais ﾒ conj. だけど
ce ｽ pron この体は 「主語」
sera ｽﾗ 3 単未(être)v.i ～になるだろう 「動詞」
comme ｺﾑ conj. ～のように 「補語」
une vieille écorce ﾕﾝﾇ･ｳﾞｨｴｲﾕ･ｴｺﾙｽ n.f 古びた皮 「目的語」
vieille ｳﾞｨｴｲﾕ adj.f(vieux ｳﾞｨﾕ) 古びた、年とった écorce ｴｺﾙｽ n.f 皮、樹皮
abandonnée. ｱﾎﾞﾝﾄﾞﾈ adj.f 見捨てられた、捨てられた 「形容詞」
Ce ｽ pron 仮の主語（真の主語は les vieilles écorces）
n'est pas ﾈ･ﾊﾟ 3 単現･否定（être）v.i ～でない 「動詞句」
仮の主語を使用すると、真の主語が複数形であっても、動詞は三人称単数で良い。
triste ﾄﾘｽﾄ adj. 悲しい 「補語」
les vieilles écorces ...》ﾚ･ｳﾞｨｴｲﾕ･ｾﾞｺﾙｽ pl.n.f 古びた皮なんて 「主語」

ぼくは、黙っていた。
Moi je me taisais. 「主語」「動詞句」
Moi je ﾑわ･ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me taisais. ﾑ･ﾃｰｾﾞ 1 単半(se taire)v.pr 黙っていた 「動詞句」

XXVI

彼はやや気落ちした。けれどもまた気をしっかり持とうとした：

Il se découragea un peu. Mais il fit encore un effort：

「主語」「動詞句」「目的語」 ┃Mais「主語」「動詞」「副詞」「目的語」:

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

se découragea ｽ･ﾃﾞｸﾗｼﾞｬ 3 単過(se décourager)v.pr 落胆した 「動詞句」

un peu. ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少し 「副詞句」

Mais ﾒ conj. しかし

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t（行為を）した 「動詞」

encore ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

un effort：ｱ･ﾈﾌｫｰﾙ n.m 努力、がんばり 「目的語」

「ね、すてきだろうな。ぼくも、星を眺める。

《Ce sera gentil, tu sais. Moi aussi, je regarderai les étoiles.

《「主語」「動詞」「補語」「確認」 ┃「主語」「動詞」「目的語」》

Ce ｽ pron それは 「主語」

sera ｽﾗ 3 単未（être）v.i ～だろう 「動詞」

gentil, ｼﾞｮﾝﾃｨ adj. 綺麗な 「補語」

tu sais. ﾁｭ･ｾ adv.（確認・念押し）ね、そうだろう 「確認」

Moi aussi, je ﾑｫﾜ･ｵｼ･ｼﾞｭ pron 僕も 「主語」

regarderai ﾙｷﾞｬﾙﾄﾞﾚ 1 単未･意思(regarder)v.t 眺める 「動詞」

les étoiles. ﾚ･ｾﾞﾄｫﾜｰﾙ pl.n.f 星を 「目的語」

すると、星という星が、さび付いた滑車のある井戸になるだろう。星という星が、ぼくに飲み水を注いでくれるだろう...」

Toutes les étoiles seront des puits avec une poulie rouillée. Toutes les étoiles me verseront à boire ...》

《「主語」「動詞」「補語」 ┃「主語」「間接目的語」「動詞」》

Toutes les étoiles ﾄｳｯﾄ･ﾚ･ｾﾞﾄｫﾜｰﾙ pl.n.f 星という星が 「主語」

seront ｽｰﾛﾝ 3 複未･推量（être）v.i ～になるだろう 「動詞」

des puits ﾃﾞ･ﾋﾟｭｲ pl.n.m 井戸 「補語」

avec une poulie rouillée. ｱｳﾞｪｯｷ･ﾕﾝﾇ･ﾌﾟﾘｰ･ﾙｲｴ adj. 錆びた滑車のついた「形容詞句」

poulie ﾌﾟﾘ n.f 滑車 rouillé ﾙｲｴ adj. 錆びた（rouillée は adj.f）

Toutes les étoiles ﾄｳｯﾄ･ﾚ･ｾﾞﾄｫﾜｰﾙ pl.n.f 星という星が 「主語」

me ﾑ pron 僕に 「間接目的語」

verseront à boire ...》ｳﾞｪﾙｽﾛﾝ･ｱ･ﾌﾞｫﾜｰﾙ 3 複未(verser à boire)

v.t 飲み物を注ぐだろう 「動詞句」

XXVI

ぼくは、黙っていた。

Moi je me taisais. 「主語」「動詞句」

Moi je ﾑｫﾜ･ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

me taisais. ﾑ･ﾃｰｾﾞ 1 単半(se taire)v.pr 黙っていた 「動詞句」

「すごく面白いだろうな！

《Ce sera tellement amusant! 《「主語」「動詞」「補語」》

Ce ｽ pron それは 「主語」

sera ｽﾗ 3 単未･推量（être）v.i ～だろう 「動詞」

tellement amusant! ﾃﾙﾓﾝ･ｱﾐｭｿﾞﾝ adj. すごく面白い 「補語」

きみが五億の鈴を持つことになり、ぼくが五億の泉を持つことになるなんて...」

Tu auras cinq cents millions de grelots, j'aurai cinq cents millions de fontaines ...》

《「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞」「目的語」》

Tu ﾁｭ pron 君は 「主語」

auras ｵｰﾗ 2 単未(avoir)v.t 持つことになる 「動詞」

cinq cents millions de grelots, ｻﾝｷ･ｿﾝ･ﾐﾘｵﾝ･ﾃﾞ･ｸﾞﾙﾛ pl.n.m 5 億個の鈴を 「目的語」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

aurai ｵｰﾚ 1 単未(avoir)v.t 持つことになる 「動詞」

cinq cents millions de fontaines ...》 ｻﾝｷ･ｿﾝ･ﾐﾘｵﾝ･ﾄﾞｩ･ﾌｫﾝﾃｰﾇ

pl.n.f 5 億個の泉を 「目的語」

そして、かれも口をつぐんだ。それというのは、泣いていたから...

Et il se tut aussi, parce qu'il pleurait ... Et「主語」「動詞句」「副詞」,「副詞節」

Et ｴ conj. そして

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

se tut ｽ･ﾁｭ 3 単過(se taire)v.pr 黙った 「動詞句」

aussi, ｵｼ adv. 同様に、～もまた 「副詞」

parce qu' ﾊﾟﾙｽｸ conj. ～なので 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

pleurait ... ﾌﾟﾙﾚ 3 単半(pleurer)v.i 泣いていた 「動詞」

XXVI

「ここだ。たったひとりで一歩踏み出させてね」

《C'est là. Laisse-moi faire un pas tout seul.》

《「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞」「目的語」「補語」》

C' ス pron それは 「主語」

est ェ 3 単現（être）v.i ～である 「動詞」

là. ラ adv. ここ 「補語」

Laisse ﾚｽ 命・2 単現･使役(laisser)v.t ～させなさい 「動詞」

moi ﾑわ pron 僕に 「目的語」

faire ﾌｪｰﾙ 不定詞 v.t ～する 「補語」

un pas ｱﾝ･ﾊﾟ n.m 一歩を 「目的語」

tout seul.》ﾄｩ･ｽﾙ adv. 一人で 「副詞句」

そう言いつつも、彼は腰を落としてしまった。なぜなら怖くなったから。彼はさらに、こう言った。

Et il s'assit parce qu'il avait peur. Il dit encore：

Et「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞」

Et ェ conj. そして

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

s'assit ｻｼ 3 単過(s'asseoir)v.pr 座った 「動詞句」

parce qu' ﾊﾟﾙｽｸ conj. ～だから 「副詞節」

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

avait ｱｳﾞｪ 3 単半(avoir)v.t あった 「動詞」

peur. ﾍﾟｰﾙ n.f 恐怖 「目的語」

→ 怖くなったから

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

dit ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」

encore：ｵﾝｺｰﾙ adv. また 「副詞」

「ねえ... 僕の花... ぼく、あの花に責任があるんだ！あの花、本当に弱いんだ！それに、本当に純朴なんだ。

《Tu sais ... ma fleur ... j'en suis responsable! Et elle est tellement faible! Et elle est tellement naïve.

《「確認」,「間接目的語」,「主語」「副詞」「動詞」「補語」

Et「主語」「動詞」「補語」 | Et「主語」「動詞」「補語」》

Tu sais ﾄｩ･ｾ adv.（確認）ねえ 「確認」

ma fleur ... ﾏ･ﾌﾚｰﾙ n.f 僕の花 「間接目的語」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

XXVI

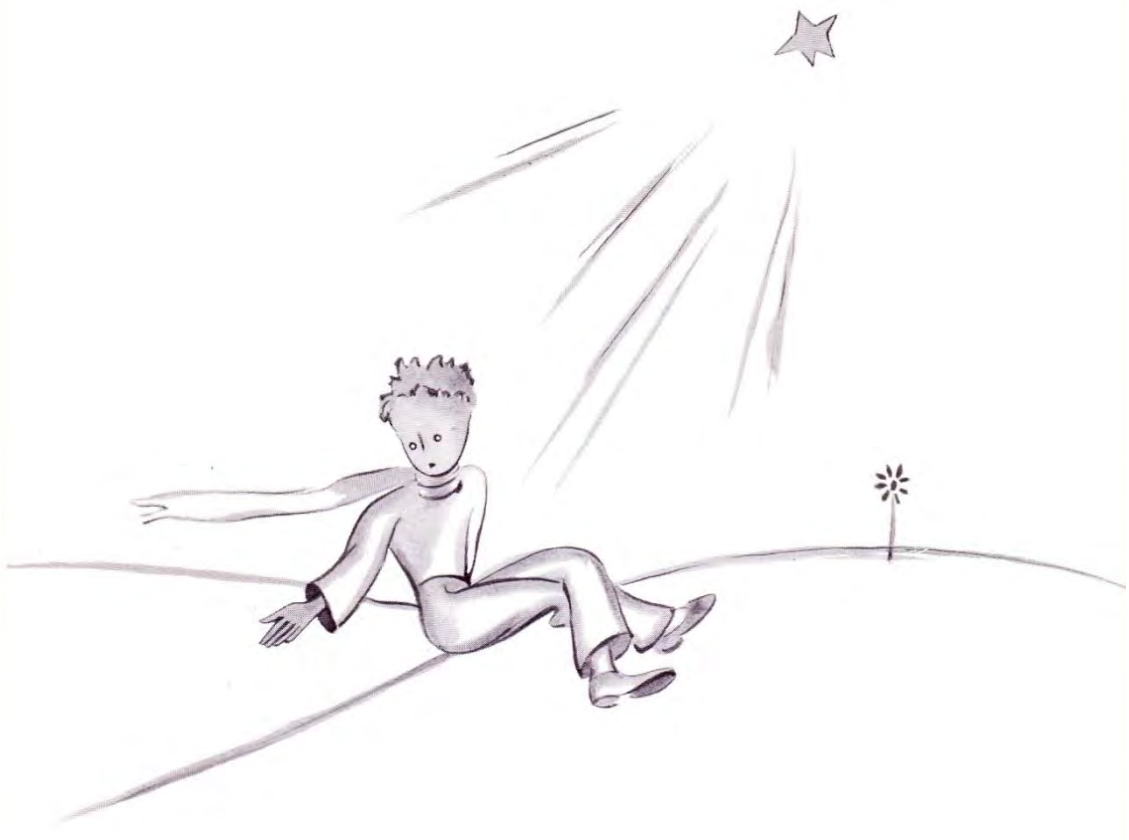
en ｵﾝ adv. (de ma feur) その花に 「副詞」
suis ｼｭｲ 1 単現(être)v.i ～である 「動詞」
responsable! ﾚｽﾎﾟﾝｻｰﾌﾞﾙ adj. (de に) 責任がある 「補語」
Et ｴ conj. そして
elle ｴﾙ pron その花は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
tellement faible! ﾃﾙﾓﾝ･ﾌｪｰﾌﾞﾙ adj. とても弱い 「補語」
Et ｴ conj. そして
elle ｴﾙ pron その花は 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
tellement naïve. ﾃﾙﾓﾝ･ﾅｲｰｳﾞ adj.f(adj.m は naïf) 本当に純朴な 「補語」

世間から身を護るのに、本当につまらない四つの棘があるだけなんだから...」
Elle a quatre épines de rien du tout pour la protéger contre le monde ...》
《「主語」「動詞」「目的語」「形容詞句」》
Elle ｴﾙ pron その花は 「主語」
a ｱ 3 単現(avoir)v.t ある 「動詞」
quatre épines ｸｧﾄﾙ･ｴﾋﾟｰﾇ pl.n.f 4 本の棘が 「目的語」
de rien du tout ﾄﾞｩ･ﾘｬﾝ･ｼﾞｭ･ﾄｩ adj. 取るに足らない 「形容詞句」
pour +不定詞 ﾌﾟｰﾙ adv. ～するために 「副詞句」
la ﾗ pron 自分を 「目的語」
protéger ﾌﾟﾛﾃｼﾞｪ 不定詞 v.t 保護する、守る 「動詞」
contre le monde ...》 ｺﾝﾄﾙ･ﾙ･ﾓﾝﾄﾞ adv. 世間から 「副詞句」

僕も腰を降ろした。もう立っていることができなかったから。彼は言った：
Moi je m'assis parce que je ne pouvais plus me tenir debout. Il dit：
「主語」「動詞句」「副詞節」 | 「主語」「動詞」：
Moi je ﾑｫｰ･ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
m'assis ﾏｼ 1 単過(s'asseoir)v.pr 座った 「動詞句」
parce que ﾊﾟﾙｽ･ｸ conj. ～なので 「副詞節」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
ne pouvais plus +不定詞 ﾇ･ﾌﾟｳﾞｪ･ﾌﾟﾘｭ 1 単半･可能･否定(pouvoir+不定詞)
v. もう～することができなかった 「動詞句」
me tenir ﾑ･ﾄｩﾆｰﾙ 不定詞(se tenir)v.pr（ある状態で）いる 「動詞句」
debout. ﾄﾞｩﾌﾞ adj. 立った 「補語」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

XXVI

dit：ﾃﾞｨ 3 単過(dire)v.t 言った 「動詞」



「さあ... もう言うことはない...」

《Voilà... C'est tout ...》 《「副詞」,「主語」「動詞」「補語」》

《Voilà... ｳﾞｫﾜﾗ adv. さあ 「副詞」

C'ｽ pron これが 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

tout ...》ﾄｳ adj. すべて 「補語」

彼はなおもちょっとためらった。それから起き上がり、一歩踏み出した。ぼくはといえば、動くこともできなかった。

Il hésita encore un peu, puis se releva. Il fit un pas. Moi je ne pouvais pas bouger.

「主語」「動詞」「副詞句」,「副詞」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」「主語」「動詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

hésita ｴｼﾞﾀ 3 単過(hésiter)v.i ためらった 「動詞」

encore un peu, ｵﾝｺｰﾙ･ｱﾝ･ﾌﾟ adv. また少し 「副詞句」

puis ﾋﾟｭｲ adv. それから 「副詞」

XXVI

se releva. ｽ･ﾙﾙｳﾞｧ 3 単過(se relever)v.pr 起き上がった 「動詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
fit ﾌｨ 3 単過(faire)v.t（動作を） した 「動詞」
un pas. ｱﾝ･ﾊﾟ n.m 一歩を 「目的語」
Moi je ﾑｫﾜ･ｼﾞｭ pron 僕はといえば 「主語」
ne pouvais pas bouger. ﾇ･ﾌﾟｳﾞｪ･ﾊﾟ･ﾌﾞｼﾞｪ 1 単半･可能･否定(pouvoir+不定詞)
v.i 身動きできなかった 「動詞句」

彼の踝の辺には、黄色い一条の光のほかには、何もなかった。彼は一瞬、身じろぎをしないでいた。

Il n'y eut rien qu'un éclair jaune près de sa cheville. Il demeura un instant immobile.
「動詞句」「目的語」「形容詞節」 ┃ 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」
Il n'y eut ｲﾙ･ﾆ･ｲ 3 単過･否定(Il n'y avoir)v.t なかった 「動詞句」
rien ﾘｬﾝ pron 何も～ない 「目的語」
qu' ｸ pron ～しか 「形容詞節」
un éclair jaune ｱﾝ･ｴｸﾚｰﾙ･ｼﾞｮｰﾇ n.m 黄色い光 「目的語」
près de sa cheville. ﾌﾟﾚ･ﾄﾞｩ･ｻ･ｼｭｳﾞｨｰﾕ
adv. 彼のくるぶしのあたりに 「副詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
demeura ﾄﾞｩﾑﾗ 3 単過(demeurer)v.i（同じ状態に） いた 「動詞」
un instant ｱﾝ･ｱﾝｽﾄﾝ n.m 一瞬 「副詞句」
immobile. ｲﾝﾓﾋﾞﾙ adj. 動かない 「補語」

大声もあげなかった。彼は一本の樹が倒れるように静かに倒れた。砂のために物音ひとつしなかった。

Il ne cria pas. Il tomba doucement comme tombe un arbre. Ça ne fit même pas de bruit, à cause du sable.
「主語」「動詞句」 ┃ 「主語」「動詞」「副詞句」 ┃ 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
ne cria pas. ﾇ･ｸﾘｱ･ｱﾊﾟ 3 単過･否定(crier)v.i 大声をあげなかった 「動詞句」
Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
tomba ﾄﾝﾊﾞ 3 単過(tomber)v.i 倒れた 「動詞」
doucement ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. 静かに 「副詞」
comme ｺﾑ conj. ～するように 「副詞節」
tombe ﾄﾝﾌﾞ 接・3 単現(tomber)v.i 倒れる 「動詞」
un arbre. ｱﾝ･ｱﾙﾌﾞﾙ n.m 一本の木が 「主語」

XXVII

Ça サ pron それは 「主語」
ne fit même pas ヌ･フィ･メーム･パ 3 単過･否定(faire)v.t（音を）出しもしなかった「動詞句」
de bruit, ドゥ･ブリュイ n.m 音を 「目的語」
à cause du sable. ア･コーズ･ジュ･サーブル adv. 砂のために 「副詞句」

XXVII

こうして、いまではもちろん、もう六年が経った... ぼくはまだこの話を、一度も語ったことがない。

Et maintenant bien sûr, ça fait six ans déjà ... Je n'ai jamais encore raconté cette histoire.
Et「副詞句」,「動詞」「主語」「副詞」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Et エ conj. そして
maintenant マントゥノン adv. 今では 「副詞」
bien sûr, ビヤン･シュール adv. もちろん 「副詞句」
ça サ pron 非人称主語（時間）
fait フェ 3 単現(faire)v.t（時間が）経つ、経った 「動詞」
six ans シ･ザン pl.n.m 6 年 「主語」
déjà ... デジャ adv. もう 「副詞」
Je ジュ pron 僕は 「主語」
n'ai jamais encore raconté ネ･ジャメ･オンコール･ラコンテ 1 単現･完了形･否定(raconter) v.t まだ一度も語ったことがない 「動詞句」
cette histoire. セット･イストわ-ル n.f この話を 「目的語」

ぼくに再会した同僚たちは、ぼくが生きているのを見て、大変喜んだ。

Les camarades qui m'ont revu ont été bien contents de me revoir vivant.
「主語」「動詞句」「補語」「副詞句」

Les camarades レ･キャマラッド pl.n.m 同僚たちは 「主語」
qui キ pron（主語）～する 「形容詞節」
m' ム pron 僕に 「目的語」
ont revu オン･ルヴュ 3 複現･完了形(revoir)v.t 再会した 「動詞句」
ont été オン･テテ 3 複現･完了形(être)v.i ～だった 「動詞句」
bien contents ビヤン･コントン adj. とても喜んだ 「補語」
de +不定詞 ドゥ adv.（理由）～して 「副詞句」
me ム pron 僕を 「目的語」
revoir ルヴわ-ル 不定詞 v.t 再び見る 「動詞」
vivant. ヴィヴォン adj. 生きている 「補語」

XXVII

ぼくは気落ちしていたが、「疲れのせいなんだ...」と彼らに言ったものだ。

J'étais triste mais je leur disais： 《C'est la fatigue ...》

「主語」「動詞」「補語」mais「主語」「間接目的語」「動詞」:《「主語」「動詞」「補語」》

J' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

étais ｴﾃ 1 単半(être)v.i ～だった 「動詞」

triste ﾄﾘｽﾄ adj. 悲しい 「補語」

mais ﾒ conj. しかし

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

leur ﾚｰﾙ pron 彼らに 「間接目的語」

disais：ﾃﾞｨｾﾞ 1 単半(dire)v.t 言った 「動詞」

《C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

la fatigue ...》ﾗ･ﾌｧﾃｨｹﾞ n.f 疲れ（のせい） 「補語」

いまでは、いくらか悲しみが和らいだ。

Maintenant je me suis un peu consolé. 「副詞」「主語」「動詞句」

Maintenant ﾏﾝﾄｩﾉﾝ adv. 今では 「副詞」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

me suis un peu consolé. ﾑ･ｼｭｲ･ｱﾝ･ﾌﾟ･ｺﾝｿﾚ 1 単現･完了形(se concoler)

v.pr 少し悲しみが和らいだ 「動詞句」

つまり... 完全には、和らいでいない。

C'est-à-dire ... pas tout à fait. 「副詞句」

C'est-à-dire ... ｾ･ﾀ･ﾃﾞｨｰﾙ adv. つまり、言うならば 「副詞句」

pas tout à fait. ﾊﾟ･ﾄｩ･ﾀ･ﾌｪ adv. 全てではない、完全ではない 「副詞句」

tout à fait ﾄｩ･ﾀ･ﾌｪ adv. すっかり、まったく

けれども、王子様が自分の惑星に帰ったということは、よく知っている。それというのも、夜が明けたとき、彼の体が見つからなかったから。

Mais je sais bien qu'il est revenu à sa planète, car, au lever du jour, je n'ai pas retrouvé son corps.

Mais「主語」「動詞」「副詞」「目的語」,car「副詞句」「主語」「動詞句」「目的語」

Mais ﾒ conj. しかし

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

sais ｾ 1 単現(savoir)v.t 知っている 「動詞」

XXVII

bien ﾋﾞﾔﾝ adv. よく 「副詞」
qu' ｸ conj. ～ということを 「目的語」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
est revenu ｴ･ﾙｳﾞﾆｭ 3 単現･完了形(revenir)v.i 帰った、戻った 「動詞句」
à sa planète, ｱ･ｻ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. 自分の惑星に 「副詞句」
car, ｶｰﾙ conj. なぜなら
au lever du jour, ｵ･ﾙｳﾞｪ･ｼﾞｭ･ｼﾞｭｰﾙ adv. 夜明けに、夜が明けたときに 「副詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
n'ai pas retrouvé ﾈ･ﾊﾟ･ﾙﾄﾙｳﾞｪ 1 単現･完了形･否定(retrouver)
v.t 見つからなかった 「動詞句」
son corps. ｿﾝ･ｺｰﾙ n.m 彼の体を 「目的語」

あれは、そんなに重い体ではなかったのだ...
Ce n'était pas un corps tellement lours ... 「主語」「動詞句」「補語」
Ce ｽ pron あれは 「主語」
n'était pas ﾈﾃ･ﾊﾟ 3 単半･否定(être)v.i ～でなかった 「動詞句」
un corps ｱﾝ･ｺｰﾙ n.m 身体 「補語」
tellement lours ... ﾃﾙﾓﾝ･ﾙｰﾙ adj. それほど重い 「形容詞句」

だから夜、僕は星たちに耳をすませるのが好きだ。
Et j'aime la nuit écouter les étoiles. Et「主語」「動詞句」「目的語」
Et ｴ conj. それで
j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
aime la nuit écouter ｴﾑ･ﾗ･ﾆｭｲ･ｴｸﾃ 1 単現(aimer+不定詞)
v.t 夜、耳を傾けるのが好きだ 「動詞句」
les étoiles. ﾚ･ｾﾞﾄｫｰﾙ pl.n.f 星たちに 「目的語」

星たちは、五億の鈴みたいに鳴っている...
C'est comme cinq cents millions de grelots ... 「主語」「動詞」「副詞句」
C' ｽ pron それは 「主語」
est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
comme cinq cents millions de grelots ... ｺﾑ･ｻﾝｸ･ｿﾝ･ﾐﾘｵﾝ･ﾄﾞｩ･ｸﾞﾙﾛ
adv. 5 億の鈴のような 「副詞句」

XXVII

ところが、ここでたいへんなことが発生した。

Mais voilà qu'il se passe quelque chose d'extraordinaire.

Mais「副詞句」「動詞句」「主語」

Mais ﾒ conj. しかし

voilà qu' ｳﾞｧﾗ･ｸ conj. 今や～だ、ほら～だ 「副詞句」

il ｲﾙ pron 仮の主語（真の主語は quelque chose d'extraordinaire）

se passe ｽ･ﾊﾟｽ 3 単現(se passer)v.pr（時間が）起きている 「動詞句」

quelque chose d'extraordinaire. ｹﾙｸ･ｼｮｰｽﾞ･ﾃﾞｸｽﾄﾗｵﾙﾃﾞｨﾈｰﾙ

n.f 何か途方もない事が 「主語」

ぼくが王子様のために描いたあの口輪に、革バンドをつけるのを忘れてしまったのだ！

La muselière que j'ai dessinée pour le petit prince, j'ai oublié d'y ajouter la courroie de cuir!

「間接目的語」,「主語」「動詞句」「副詞」「直接目的語」

La muselière ﾗ･ﾐｭｽﾞﾘｪｰﾙ n.f 口輪に 「間接目的語」

que ｸ pron（目的語）～する 「形容詞節」

j' ｼﾞｭ pron 僕が 「主語」

ai dessinée ｴ･ﾃﾞｼﾈ 1 単現･完了形(dessiner)v.t 描いた 「動詞句」

pour le petit prince, ﾌﾟｰﾙ･ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ adv. 王子様のために 「副詞句」

j' ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

ai oublié d'+不定詞 ｴ･ｳﾌﾞﾘｴ･ﾄﾞｩ 1 単現･完了形(oublier de+不定詞)

v.t ～するのを忘れてしまった 「動詞句」

y ｲ adv.（La muselière）その口輪に 「副詞」

ajouter ｱｼﾞｭﾃ 不定詞 v.t 付け加える 「動詞」

la courroie ﾗ･ｸﾙわ n.f ひもを 「直接目的語」

de cuir! ﾄﾞｩ･ｷｭｲｰﾙ adj. 皮の 「形容詞句」

王子様は、ヒツジに口輪をつけることが絶対できなかったであろう。そこでぼくは思う。

Il n'aura jamais pu l'attacher au mouton. Alors je me demande：

「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「副詞」「主語」「動詞句」

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

n'aura jamais pu l'attacher ﾉｰﾗ･ｼﾞｬﾒ･ﾋﾟｭ･ﾗ･ﾀｯｼｪ 3 単未･完了形(pouvoir+不定詞)

v.t 一度も口輪を付けることが出来なかっただろう 「動詞句」

l' は La muselière「直接目的語」を指す

au mouton. ｵ･ﾑﾄﾝ adv. 羊に 「間接目的語」

Alors ｱﾛｰ adv. それで 「副詞」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

XXVII

me demande：ﾑ･ﾄﾞｩﾓﾝﾄﾞｩ 1 単現(sse demander)v.pr 思う 「動詞句」

《王子様の惑星では、何が起こったんだろうか。

《Que s'est-il passé sur sa planète? 《「主語」「動詞句」「副詞句」

Que ｸ pron 何が 「主語」

s'est-il passé ｾ･ﾃｨﾙ･ﾊﾟｾ 3 単現･完了形(se passer)v.pr（疑問文）起こった 「動詞句」

sur sa planète? ｼｭｰﾙ･ｻ･ﾌﾟﾗﾈｯﾄ adv. 彼の惑星で 「副詞句」

ひょっとして、あのヒツジが花を食べてしまったのではなかろうか...》

Peut-être bien que le mouton a mangé la fleur ...》

Peut-être bien que「主語」「動詞句」「目的語」》

Peut-être bien que +直説法ﾌﾟ･ﾃｰﾄﾙ･ﾋﾞｬﾝ･ｸ conj. もしかして～

le mouton ﾙ･ﾑﾄﾝ n.m あの羊が 「主語」

a mangé ｱ･ﾓﾝｼﾞｪ 3 単現･完了形(manger)v.t 食べてしまった 「動詞句」

la fleur ...》ﾗ･ﾌﾚｰﾙ n.f あの花を 「目的語」

またあるときは、こうも思う：。

Tantôt je me dis： 「副詞」「主語」「動詞句」：

Tantôt ﾄﾝﾄ adv. またある時は 「副詞」

je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」

me dis：ﾑ･ﾃﾞｨ 1 単現(se dire)v.pr 思う 「動詞句」

《違うにきまってる！王子様は、毎晩、自分の花をガラスの覆いのなかに入れて、羊をよく見張っている...》

《Sûrement non! Le petit prince enferme sa fleur toutes les nuits sous son globe de verre, et il surveille bien son mouton ...》

《「間投」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」et「主語」「動詞」「副詞」「目的語」》

Sûrement non! ｼｭｰﾙﾓﾝ･ﾉﾝ adv. きっと違うはずだ！ 「間投」

Le petit prince ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様は 「主語」

enferme ｵﾝﾌｪﾙﾑ 3 単現(enfermer)v.t しまっている 「動詞」

sa fleur ｻ･ﾌﾚｰﾙ n.f 彼の花を 「目的語」

toutes les nuits ﾄｳｯﾄ･ﾚ･ﾆｭｲ adv. 毎晩 「副詞句」

sous son globe ｽ･ｿﾝ･ｸﾞﾛｰﾌﾞ adv. 覆いの下に 「副詞句」

de verre, ﾄﾞｩ･ﾍﾞｪｰﾙ adj.（材料）ガラスの（で出来た） 「形容詞句」

et ｴ conj. そして

il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

XXVII

surveille ｼｭﾙｳﾞｪｲﾕ 3 単現(surveiller)v.t 見張っている 「動詞」
bien ﾋﾞﾔﾝ adv. よく 「副詞」
son mouton ...》ｿﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊を 「目的語」

すると、ぼくは嬉しくなる。そして、星という星が静かに笑う。
Alors je suis heureux. Et toutes les étoiles rient doucement.
「副詞」「主語」「動詞」「補語」 | Et「主語」「動詞」「副詞」
Alors ｱﾛｰ adv. そうすると 「副詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
suis ｼｭｲ （être） v.i 〜になる 「動詞」
heureux. ｳﾙ adj. しあわせな、うれしい 「補語」
Et ｴ conj. そして
toutes les étoiles ﾄｳｯﾄ･ﾚ･ｾﾞﾄﾜｰﾙ pl.n.f 星という星が 「主語」
rient ﾘ 3 複現(rire)v.i 笑う 「動詞」
doucement. ﾄﾞｩｰｽﾓﾝ adv. 静かに 「副詞」

またあるときは、こうも思う：
Tantôt je me dis： 「副詞」「主語」「動詞句」：
Tantôt ﾄﾝﾄ adv. またある時は 「副詞」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
me dis：ﾑ･ﾃﾞｨ 1 単現(se dire)v.pr 思う 「動詞句」

《人は一度や二度はついうっかりするものだ。それでもう万事休すだ！
《On est distrait une fois ou l'autre, et ça suffit!
《「主語」「動詞」「補語」「副詞句」,et「主語」「動詞」
On ｵﾝ pron 人というものは 「主語」
est ｴ 3 単現（être） v.i 〜である 「動詞」
distrait ﾃﾞｨｽﾄﾚ adj. 不注意な、うっかりした 「補語」
une fois ou l'autre, ﾕﾝﾇ･ﾌｫ･ｳ･ﾛｰﾄﾙ adv. 一度や二度は 「副詞句」
et ｴ conj. そうすると
ça ｻ pron それで 「主語」
suffit! ｼﾌｨ 3 単現(suffire)v.i（羊が花を食べるには）十分である 「動詞」
→ 反語的に「もう終わりだ」「万事休すだ」

XXVII

王子様は、ある晩ガラスの覆いをかけ忘れたか、

Il a oublié, un soir, le globe de verre, 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」,

Il ｲﾙ pron 彼は 「主語」

a oublié, ｱ･ｳﾌﾞﾘｴ 3 単現･完了形(oublier)v.t 忘れてしまった 「動詞句」

un soir, ｱﾝ･ｽﾜｰﾙ adv. ある晩 「副詞句」

le globe de verre, ﾙ･ｸﾞﾛｰﾌﾞ･ﾄﾞｩ･ｳﾞｪｰﾙ n.m ガラスの覆いを 「目的語」

それとも羊が夜の間にそっと外へ抜け出してしまったか. . . 》。

ou bien le mouton est sorti sans bruit pendant la nuit ...》

ou bien「主語」「動詞句」「副詞句」》

ou bien ｳ･ﾋﾞｬﾝ conj.（ou の強調）あるいは

le mouton ﾙ･ﾑﾄﾝ n.m 羊が 「主語」

est sorti ｴ･ｿﾙﾃｨ 3 単現･完了形(sortir)v.i 外に出てしまった 「動詞句」

sans bruit ｿﾝ･ﾌﾞﾘｭｲ adv. そっと 「副詞句」

pendant la nuit ...》 ﾎﾟﾝﾄﾞﾝ･ﾗ･ﾆｭｲ adv. 夜の間に 「副詞句」

そう思うと、鈴がみんな涙に変わってしまう！

Alors les grelots se changent tous en larmes! ...

「副詞」「主語」「動詞句」「主語」「補語」

Alors ｱﾛｰ adv. すると 「副詞」

les grelots ﾚ･ｸﾞﾙﾛ pl.n.m 鈴が 「主語」

se changent ｽ･ｼｮﾝｼﾞｭ 3 複現(se changer)v.pr (en に）変わる 「動詞句」

tous ﾄｩ pron（男性複数形 les grelots が）みんな 「主語」

en larmes! ... ｵﾝ･ﾗﾙﾑ adv. 涙に 「補語」

そこに、実に大きな神秘がある。

C’est là un bien grand mystère. 「動詞句」「副詞」「主語」

C’est ｾ 3 単現（être）v.i（存在）～がある 「動詞句」

là ﾗ adv. そこに 「副詞」

un bien grand mystère. ｱﾝ･ﾋﾞｬﾝ･ｸﾞﾛﾝ･ﾐｽﾃｰﾙ n.m 本当に大きな神秘が 「主語」

XXVII

王子様を愛しているきみたちにとって、ぼくにとってと同じように、この宇宙では何一つ同じ状態ではなくなってしまう。もしかしてどこかわからないある場所で、ぼくたちの知らない羊が薔薇の花を食べてしまったかどうかによって...

Pour vous qui aimez aussi le petit prince, comme pour moi, rien de l'univers n'est semblable si quelque part, on ne sait où, un mouton que nous ne connaissons pas a, oui ou non, mangé une rose ... 「副詞句」,「主語」「動詞句」「補語」「副詞節」

Pour vous ﾌﾟｰﾙ･ｳﾞ adv. 君たちにとって 「副詞句」

qui ｷ pron（主語）～する 「形容詞節」

aimez ｴﾒ 2 複現(aimer)v.t 愛する 「動詞」

aussi ｵｼ adv. 同様に 「副詞」

le petit prince, ﾙ･ﾌﾟﾃｨ･ﾌﾟﾗﾝｽ n.m 王子様を 「目的語」

comme pour moi, ｺﾑ･ﾌﾟｰﾙ･ﾑわ adv. 僕にとってと同様に 「副詞句」

rien de l'univers ﾘｬﾝ･ﾄﾞｩ･ﾘｭﾆｳﾞｪｰﾙ pron. 宇宙の何一つとして 「主語」

n'est ﾈ 3 単現･否定（être）v.i ～でなくなる 「動詞句」

semblable ｿﾝﾌﾞﾗｰﾌﾞﾙ adj. 同じような 「補語」

si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」

quelque part, ｹﾙｸ･ﾊﾟｰﾙ adv. どこかで 「副詞句」

on ne sait où, ｵﾝ･ﾇ･ｾ･ｳ adj. どこか分からない 「形容詞節」

un mouton ｱﾝ･ﾑﾄﾝ n.m 羊が 「主語」

que ｸ pron（目的語）～する 「形容詞節」

nous ﾇ pron 僕たちが 「主語」

ne connaissons pas 1 複現･否定(connaître)v.t 知らない 「動詞句」

a, oui ou non, mangé ｱ･ｳｨ･ｳ･ﾉﾝ･ﾓﾝｼﾞｪ 3 単現･完了形(manger)
v.t 食べてしまったかどうか 「動詞句」

une rose ... ﾕﾝﾇ･ﾛｰｽﾞ n.f バラの花を 「目的語」

空をよく見て欲しい。自問してみて欲しい。

Regardez le ciel. Demandez-vous： 「動詞」「目的語」 | 「動詞句」

Regardez ﾙｷﾞｬﾙﾃﾞ 命・2 複現(regarder)v.t よく見てください 「動詞」

le ciel. ﾙ･ｼｴﾙ n.m 空を 「目的語」

Demandez-vous： ﾄﾞｩﾓﾝﾃﾞ･ｳﾞ 命・2 複現(se demander)
v.pr 自分に問いかけてください 「動詞句」

XXVII

《あの羊は、花を食べてしまったのだろうか、それとも食べなかったのだろうか》と。

《Le mouton oui ou non a-t-il mangé la fleur?》

《「主語」「副詞句」「動詞句」「目的語」》

Le mouton ル・ムトン n.m あの羊は 「主語」

oui ou non ウィ・ウ・ノン adv. ～したのかそれともしなかったのか 「副詞句」

a-t-il mangé ア・ティル・モンジェ 3 単現・完了形(manger)v.t（疑問文）食べた 「動詞句」

la fleur?》 ラ・フレール n.m あの花を 「目的語」

そうすれば、どんなに一切が変化することか、わかるはず...

Et vous verrez comme tout change ... Et「主語」「動詞」「目的語」

Et エ conj. そうすれば

vous ヴ pron 君たちは 「主語」

verrez ヴレ 2 複未(voir)v.t 分かるだろう 「動詞」

comme コム conj. どれほど～するかということを 「目的語」

tout トゥ pron 全てのものが 「主語」

change ... ションジュ 3 単現(changer)v.i 変わる 「動詞」

それなのに、おとなは誰一人として、それがこんなにも大切なことだということが、絶対わからないだろう！

Et aucune grande personne ne comprendra jamais que ça a tellement d'importance!

Et「主語」「動詞句」「目的語」

Et エ conj. しかし

aucune grande personne オキュンヌ・グロンド・ペルソンヌ n.f どんな大人の人も～ない「主語」

aucun オーカン pron どんな～もない（aucune は女性形）

ne comprendra jamais ヌ・コンプロンドラ・ジャメ 3 単未・否定(comprendre)

v.t 絶対にわからないだろう 「動詞句」

que ク conj. ～ということを 「目的語」

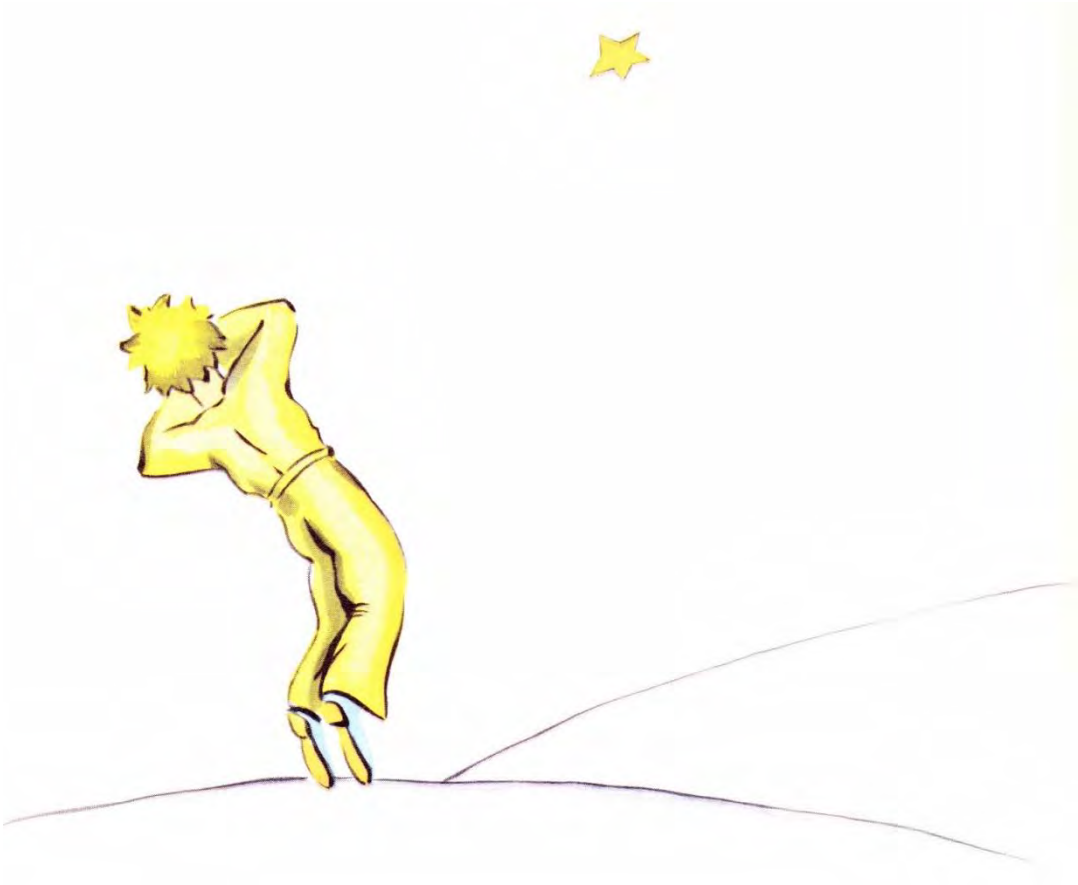
ça サ pron それが 「主語」

a tellement d'importance! ア・テルモン・ダンポルトンス 3 単現(avoir de l'importance)

v.t 重要である 「動詞句」

→ 直訳は「それは重要なものを含んでいる」d'importance は「目的語」

XXVII



XXVII

これは、ぼくにとってはこの世で一番美しい、そして一番悲しい景色。

Ça c'est, pour moi, le plus beau et le plus triste paysage du monde.

「主語」「動詞」「副詞句」「補語」

Ça c' ｻ･ｽ pron これは 「主語」

est, ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

pour moi, ﾌﾟｰﾙ･ﾑわ adv. 僕にとって 「副詞句」

le plus beau ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ﾎﾞ adj. 最も美しい 「形容詞句」

et ｴ conj. そして

le plus triste ﾙ･ﾌﾟﾘｭ･ﾄﾘｽﾄ adj. 最も悲しい 「形容詞句」

paysage ﾍﾟｲｻﾞｰｼﾞｭ n.m 景色 「補語」

du monde. ｼﾞｭ･ﾓﾝﾄﾞ adv. この世で 「副詞句」

前ページのと同じ景色です。しかしきみたちによく示すために、もう一度だけ描きました。

C'est le même paysage que celui de la page précédente, mais je l'ai dessiné une fois encore pour bien vous le montrer.

「主語」「動詞」「補語」mais「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」

C' ｽ pron これは 「主語」

est ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

XXVII

le même paysage ル・メーム・ペイザージュ n.m 同じ景色 「補語」
que celui de la page précédente, ク・スリュイ・ドゥ・ラ・パージュ・プレセドント
adv. 前のページの景色と 「副詞句」
mais メ conj. しかし
je ジュ pron 僕は 「主語」
l' ル pron それを 「目的語」
ai dessiné エ・デシネ 1 単現・完了形(dessiner)v.t 描いた 「動詞句」
une fois encore ユンヌ・フわ・オンコール adv. もう一度 「副詞句」
pour +不定詞 プール adv. ～するために 「副詞句」
bien ビヤン adv. 良く 「副詞」
vous ヴ pron 君に 「間接目的語」
le ル pron これを 「直接目的語」
montrer. モントレ 不定詞 v.t 見せる、示す 「動詞」

王子様が地上に現れ、それから消えたのは、ここです。
C'est ici que le petit prince a apparu sur terre, puis disparu. 「動詞」「副詞」「主語」
C' ス pron 仮の主語（真の主語は que 節）：強調構文
est エ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」
ici イシ adv. ここ 「副詞」
que ク conj. ～ということは 「主語」
le petit prince ル・プティ・プランス n.m 王子様が 「主語」
a apparu ア・アパリュ 3 単現・完了形(apparaître)v.i 現れた 「動詞句」
sur terre, シュール・テール adv. 地上に 「副詞句」
puis ピュイ adv. それから 「副詞」
disparu. ディスパリュ 3 単現・完了形(disparaître)v.i 消えた 「動詞句」

もしいつかアフリカの砂漠を旅行するような場合、たしかにここだとわかるように、この景色を注意深くごらんなさい。
Regardez attentivement ce paysage afin d'être sûrs de le reconnaître, si vous voyagez un jour en Afrique, dans le désert. 「動詞」「副詞」「目的語」「副詞句」,「副詞節」
Regardez ルギャルデ 命・2 複現・要望(regarder)v.t 見てください 「動詞」
attentivement アトンティヴモン adv. 注意深く 「副詞」
ce paysage ス・ペイザージュ n.m この景色を 「目的語」
afin d'+不定詞 アファン・ドゥ adv. ～するために 「副詞句」
être エートル 不定詞 v.i ～である、～になる 「動詞」
sûrs シュール adj.pl (de に) 確信した 「補語」

XXVII

être の主語は vous（君たち：複数）なので「補語」の sûr が sûrs になっている
de +不定詞 ﾄﾞｩ adv. ～するのに 「副詞句」
le ﾙ pron それを 「目的語」
reconnaître, ﾙｺﾈｰﾄﾙ 不定詞 v.t それとわかる 「動詞」
si ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
vous ｳﾞ pron 君たちが 「主語」
voyagez ｳﾞｫﾔｼﾞｪ 2 単現(voyager)v.i 旅をする 「動詞」
un jour ｱﾝ･ｼﾞｭｰﾙ n.m いつか 「副詞句」
en Afrique, ｵﾝ･ｱﾌﾘｷ adv. アフリカを 「副詞句」
dans le désert. ﾄﾞﾝ･ﾙ･ﾃﾞｾﾞｰﾙ adv. 砂漠を 「副詞句」

そして、たまたまここを通りかかるようなことがあれば、どうか急がないで、ちょうどこの星の下でちょっと待ってごらんなさい！

Et, s'il vous arrive de passer par là, je vous en supplie, ne vous pressez pas, attendez un peu juste sous l'étoile! Et「副詞節」,「主語」「間接目的語」「副詞句」「動詞」,「動詞句」、「動詞」「副詞句」

Et, ｪ conj. そして
s' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il vous arrive de +不定詞 ｲﾙ･ｳﾞ･ｻﾞﾘｳﾞ･ﾄﾞｩ 3 単現(il à qn arrive de+不定詞)
v. 君たちがたまたま～することがある 「動詞句」
il は非人称主語 vous は「間接目的語」君たちにとって（de+不定詞が「主語」）
il arrive que+接続法 「～ということがある」（il は非人称主語、que 節が「主語」）
passer ﾊﾟｾ 不定詞 v.i 通りかかる 「動詞」
par là, ﾊﾟｰﾙ･ﾗ adv. ここを 「副詞句」
je ｼﾞｭ pron 僕は 「主語」
vous ｳﾞ pron 君たちに 「間接目的語」
en ｵﾝ pron つぎのように 「副詞句」
en は ne vous pressez pas 以降のお願いの先出し
supplie, ｼｭﾌﾟﾘ 1 単現(supplier) v.t お願いします 「動詞」
ne vous pressez pas, ﾇ･ｳﾞ･ﾌﾟﾚｾ･ﾊﾟ 命・2 複現･否定(se presser)
v.pr 急がないでください 「動詞句」
attendez ｱﾄﾝﾃﾞ 命・2 複現(attendre)v.i 待ってください 「動詞」
un peu ｱﾝ･ﾌﾟ adv. 少しの間 「副詞句」
juste sous l'étoile! ｼﾞｭｽﾄ･ｽ･ﾚﾄｫｰﾙ adv. ちょうどこの星の下で 「副詞句」

XXVII

もしそのとき、一人の子供が君たちのところにきて、笑ったり、金髪をしていたり、質問には答えなかったりしたら、彼がだれであるかわかるでしょう。

Si alors un enfant vient à vous, s'il rit, s'il a des cheveux d'or, s'il ne répond pas quand on l'interroge, vous devinerez bien qui il est.

「副詞節」,「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Si シ conj. もし～ならば 「副詞節」
alors ｱﾛｰ adv. その時 「副詞」
un enfant ｱﾝ･ｵﾝﾌｫﾝ n.m 一人の子供が 「主語」
vient ｳﾞｨｬﾝ 3 単現(venir)v.i 来る 「動詞」
à vous, ｱ･ｳﾞ adv. 君たちの所に 「副詞句」
s' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il ｲﾙ pron その子供が 「主語」
rit, ﾘ 3 単現(rire)v.i 笑う 「動詞」
s' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il ｲﾙ pron その子供が 「主語」
a ｱ 3 単現(avoir)v.t（心身の状態）をしている、である 「動詞」
des cheveux d'or, ﾃﾞ･ｼｭｳﾞｰ･ﾄﾞｰﾙ pl.n.m 金髪 「目的語」
s' ｼ conj. もし～ならば 「副詞節」
il ｲﾙ pron その子供が 「主語」
ne répond pas ﾇ･ﾚﾎﾟﾝ･ﾊﾟ 3 単現･否定(répondre)v.t 答えない 「動詞句」
quand ｺﾝ conj. ～する時 「副詞節」
on ｵﾝ pron 君が 「主語」
l' ﾙ pron 彼に「目的語」
interroge, ｱﾝﾃﾛｼﾞｭ 3 単現(interroger)v.t 質問する 「動詞」
vous ｳﾞ pron 君たちは 「主語」
devinerez ﾄﾞｩｳﾞｨﾇﾚ 2 複未(deviner)v.t 分かるだろう 「動詞」
bien ﾋﾞｬﾝ adv. よく 「副詞」
qui ｷ pron（「補語」） 誰ということを 「目的語」
il ｲﾙ pron 彼は 「主語」
est. ｴ 3 単現(être)v.i ～である 「動詞」

Fin

そのときには、親切にしてください！ぼくをこんなに悲しんでいるままにしておかないでください。すぐさま、ぼくに便りをください、彼が戻ってきたよ、と...

Alors soyez gentils! Ne me laissez pas tellement triste：écrivez-moi vite qu'il est revenu ...

「副詞」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「目的語」「動詞句」「補語」:
「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Alors ｱﾛｰ adv. その時は 「副詞」
soyez ｽわｲｴ 命・2 複現(être)v.i ～でいてください 「動詞」
gentils! ｼﾞｮﾝﾃｨ adj.pl. 親切な 「補語」
Ne ...laissez pas ﾇ...ﾚｯｾ･ﾊﾟ 命・2 複現･否定(laisser qn 補語)
v.t （人）を～のままにしないでください 「動詞句」
me ﾑ pron 僕を 「目的語」
tellement triste：ﾃﾙﾓﾝ･ﾄﾘｽﾄ adj. こんなに悲しい 「補語」
écrivez ｴｸﾘｳﾞｪ 命・2 複現(écrire à qn que+直説法)
v.t（人に）手紙で知らせてください 「動詞」
moi ﾑわ pron 僕に 「間接目的語」
vite ｳﾞｨｯﾄ adv. すぐに 「副詞」
qu' ｸ conj. ～ということを 「直接目的語」
il ｲﾙ pron 王子様が 「主語」
est revenu ... ｴ･ﾙｳﾞﾆｭ 3 単現･完了形(revenir)v.i 戻ってきた 「動詞句」

Fin